

平成 14 年度

教育年報

2002



うつくしま、ふくしま。

福島県教育委員会

序



平成14年度は、完全学校週5日制の下で、子どもたちに「生きる力」を育成することをねらいとする新しい学習指導要領が小・中学校で実施されるとともに、地方分権改革推進会議等における義務教育費国庫負担制度等の改革の議論や、構造改革特区の導入、さらには教育基本法の見直しを含む中央教育審議会の報告の発表等、教育が大きな変わり目を迎えた1年でありました。

県教育委員会といたしましても、平成14年度からの4か年において集中的に教育改革を進めることを目指して「うつくしま教育改革推進プログラム～ふくしまの教育7つの約束～」を決定するとともに、そのプログラムの柱の一つとなる少人数教育について、「うつくしまっ子みらいプラン」として取りまとめ、30人学級編成を導入するなど、本県教育改革を本格的に始動いたしました。この教育改革推進プログラムでは、

- 1 「学力を身に付けさせます」～学力の向上～
- 2 「豊かな心を育てます」～人間性・社会性の育成～
- 3 「きめ細かな指導ができる体制を整備します」～少人数教育の推進等～
- 4 「『自ら学ぶ環境』を整備します」
- 5 「先生のパワーアップを支援します」
- 6 「開かれた学校づくりを支援します」
- 7 「家庭や地域を支援します」

以上、7つの柱に基づく重点的な施策の展開によって、県民総参加による「うつくしま教育改革」の実現を目指してまいります。

特に、昨年度は、学校が保護者や地域住民の信頼に応え、家庭や地域と連携して一体となって教育に取り組む環境づくりを行うための「開かれた学校」づくりの一環として、「学校へ行こう週間」を全県的に実施したところです。

さらに、この趣旨を踏まえた上で、教育に対する地域住民のニーズに的確に対応しながら、教育の質の改善を不断に進めていくための具体的対策の検討として、平成14年10月に県教育委員会の附属機関である福島県学校教育審議会に「開かれた学校づくりを推進する上での学校評価の在り方について」諮問いたしました。

諮問事項は、「学校の自己評価とその内容、方法、公表の在り方について」及び「学校の外部評価の在り方について」の2項目であり、この答申を受けて第5次福島県長期総合教育計画の基本目標実現に向けて努めてまいります。

最後になりますが、平成14年度に県教育委員会が推進した施策事業の概要を取りまとめた本誌が本県教育の今後の充実発展のために、多くの方々に有意義に活用されますようお願いいたします。

平成 15 年 10 月

福島県教育委員会

教育長 高城 俊 春

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

1 教育の情報化関係.....	2
2 生涯学習関係.....	2
3 義務教育関係.....	2
4 高等学校教育関係.....	2
5 養護教育関係.....	2
6 社会教育関係.....	3
7 文化関係.....	3
8 スポーツ健康関係.....	4
9 福利厚生関係.....	4

第2章 教育行政

第1節 平成14年度福島県教育委員会重点施策.....	5
第2節 教育委員会.....	6
1 教育委員会.....	6
2 審議事項.....	6
第3節 教育庁組織.....	8
第4節 企画調整.....	9
1 教職員現職教育計画の策定.....	9
2 調整事務.....	10
第5節 広報・広聴.....	10
1 広報担当者会.....	10
2 教育福島.....	11
3 教育委員会だより.....	11
4 教育年報.....	11
5 福島県の教育.....	11
6 うつくしま ふくしま 教育ニュース.....	12
7 教育庁各課・所・館の広報誌・紙.....	12
8 教育長記者会見.....	15
9 県政広報との連携並びに記者発表及び資料提供.....	15
10 教育広聴事業.....	15
11 知事を囲む教員との座談会.....	15
第6節 調査統計.....	15
1 学校統計要覧の刊行.....	15
2 地方教育費調査.....	15
3 進路状況等に関する調査.....	16
4 社会教育調査.....	16
第7節 教職員の給与、旅費.....	16
1 給料表の改正.....	16
2 給料の調整額.....	16
3 扶養手当.....	16
4 特例一時金.....	16
5 期末手当・勤勉手当.....	16
6 給与の減額関係（教育委員会に該当する部分）.....	16
第8節 附属機関等.....	17
1 福島県学校教育審議会.....	17
2 福島県スポーツ振興審議会.....	17

3	福島県生涯学習審議会	19
4	福島県社会教育委員の会議	20
5	福島県文化財保護審議会	21
第9節	市町村教育委員会	22
1	概 要	22
2	組 織	22
3	平成14年度市町村教育委員会援助指導の概要	23
第10節	職員団体との話し合い	24
第11節	不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件	25
1	不利益処分審査請求事件	25
2	損害賠償請求事件	25
第12節	公益法人の設立の許可及び監督並びに公益信託の引き受けの許可及び監督の状況	26
第13節	表彰及び叙勲	26
1	文化功労賞受賞者	26
2	教育・文化関係表彰	26
3	文部科学大臣表彰	27
4	春・秋生存者叙勲、死亡叙位叙勲	27
第14節	奨 学 育 英	29
1	福島県奨学資金	29
2	福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	29
3	日本育英会奨学金制度	30
4	財団法人福島県学生寮	30

第3章 教 育 財 政

第1節	平成14年度決算	31
1	歳 入	31
2	歳 出	31
第2節	学校教育施設	33
1	県立学校	33
2	幼稚園・小学校・中学校・養護学校（市町村立分）	35
第3節	産業教育振興法補助事業	36
	産業教育施設・設備の整備	36
第4節	理科教育振興法補助事業	37
1	理 科 設 備	37
2	数学特別設備	37
第5節	情報処理設備整備事業	37
1	県単補助事業	37
2	県単独事業	37

第4章 教育の情報化

第1節	概 要	39
第2節	情報化の進展	39
第3節	うつくしま教育ネットワーク	39
第4節	「うつくしま世界樹」と「うつくしま教育ネットワーク」	40
1	うつくしま世界樹	40
2	うつくしま教育ネットワーク	40

第5章 生 涯 学 習

第1節	概 要	41
第2節	生涯学習の推進体制	41
1	福島県生涯学習審議会の開催	41

2	福島県生涯学習推進本部	41
第3節	生涯学習情報提供及び啓発	41
1	生涯学習情報提供システム（ふくしまナビネット）の整備	41
2	広報紙「生涯学習ふくしま」の発行	41
3	学習相談	41
第4節	生涯学習ボランティア活動の推進	41
1	目的	41
2	内容	41
第5節	学校開放講座	42

第6章 義務教育

第1節	学校管理	43
1	児童生徒数・学級数と教職員定数	43
2	教職員人事・任用	45
3	教育職員の免許	45
4	学校の設置及び統廃合	46
5	学校防火	46
6	へき地対策	47
第2節	学校教育	48
1	概要	48
2	現職教育	50
3	教育課程	53
4	道徳教育	54
5	特別活動	54
6	生徒指導・進路指導	54
7	幼稚園教育	55
8	へき地教育	56
9	環境教育	56
10	教科用図書	57
11	教育研究団体	58
第3節	国際化・科学技術の進展等への対応	61
1	中学生・高校生の科学・技術研究論文 野口英世賞募集	61
2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文 朝河貫一賞募集	61
3	ニュージーランドとの教育交流	62

第7章 高等学校教育

第1節	学校管理	63
1	生徒数と教職員数	63
2	教職員人事・任用	67
3	学校の設置及び統廃合	69
第2節	学校教育	69
1	概要	69
2	現職教育計画	75
3	教育課程	76
4	学力向上対策等	78
5	生徒指導・進路指導	79
6	学校行事	79
7	産業教育	80
8	定時制・通信制教育	82
9	学校訪問	82
10	教科書採択事務説明会	82

11 教育研究団体.....	82
----------------	----

第8章 養護教育

第1節 学校管理.....	85
1 児童生徒数と教職員定数.....	85
2 盲・聾・養護学校及び特殊学級の実態.....	86
3 教職員人事・任用.....	88
第2節 学校教育.....	89
1 概 要.....	89
2 現職教育.....	91
3 教育課程.....	93
4 交流教育.....	93
5 訪問教育.....	94
6 研究指定校.....	94
7 生徒指導・進路指導.....	96
8 特別活動.....	97
9 学校訪問.....	97
10 障害児就学指導.....	98
11 ゆう・あいジョイントプラン「病院訪問学習支援ボランティア派遣事業」.....	99
12 教科用図書.....	99
13 教育研究団体.....	99

第9章 社会教育

第1節 社会教育一般.....	101
1 施策の概要.....	101
2 社会教育推進体制の充実.....	101
3 社会教育施設の整備充実.....	101
4 福島県市町村社会教育主事等研修会.....	102
5 福島県社会教育研究集会.....	102
6 社会教育指導員の設置.....	102
7 社会教育主事の市町村派遣.....	103
8 生涯学習・社会教育研修会.....	104
9 福島県公民館研究集会.....	104
10 公民館主事部会研修会.....	104
11 社会教育職員研修派遣.....	104
12 出版資料.....	105
第2節 青少年教育.....	105
1 概 要.....	105
2 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業.....	106
3 心を繋ぐ異世代間交流事業.....	106
4 体験活動・ボランティア推進センター事業.....	107
第3節 女性教育.....	108
1 概 要.....	108
2 男女共同参画アドバイザー養成研修会.....	108
3 女性団体後継者養成研修会.....	108
4 女性の生涯学習推進員の設置.....	108
5 女性教育事業.....	108
第4節 高齢者教育.....	108
1 概 要.....	108
2 粋・意気チャレンジ応援団.....	109
3 粋・意気生きがいしい暮らしセミナー.....	109

第5節 視聴覚教育	110
1 概要	110
2 福島県視聴覚ライブラリー教材目録の作成	110
第6節 コネスコ活動	110
1 概要	110
2 コネスコ協会設立状況	110
3 福島県コネスコ活動指導者研修会	110
第7節 人権教育促進事業「人権教育指導者研修会」	111
概要	111
第8節 家庭教育	111
1 概要	111
2 家庭教育トライアングル事業	111
3 家庭教育子育て支援事業	112
4 子育て学習県民講座（子育て学習の全国展開）	112
第9節 公民館等社会教育施設	113
1 概要	113
2 公民館を除く主な社会教育施設	113

第10章 文 化

第1節 概要	119
1 文化活動の振興	119
2 文化の伝承の充実	119
3 文化施設の整備充実	119
第2節 文化活動の振興	119
1 文化振興のための条件整備	119
2 芸術文化活動発表機会の充実	119
3 芸術鑑賞の機会の確保	124
4 文化振興基金の充実と活用	124
第3節 文化財の愛護と伝統文化の継承	125
1 文化財保護体制の充実	125
2 文化財保存調査の推進	126
3 埋蔵文化財の保護の充実	127
4 平成14年度文化財保存助成の充実	137
5 文化財の愛護と公開の推進	140
6 鉄砲刀剣類の登録状況	140

第11章 スポーツ・健康

第1節 概要	141
1 学校体育の充実	141
2 学校保健・学校安全の充実	142
3 学校給食の充実	142
4 生涯スポーツ・競技スポーツの振興	142
第2節 表彰	142
1 体育・スポーツ関係	142
2 学校保健・学校安全関係	147
3 学校給食関係	149
第3節 学校体育	149
1 学校体育関係各種講習会	149
2 各種研究指定校	151
3 福島県高等学校体育連盟	151
4 福島県中学校体育連盟	153

5	学校教育指導員	154
6	小学校運動競技奨励事業	155
第4節	学校保健・学校安全	155
1	学校保健・学校安全研修会等	155
2	児童・生徒の健康管理費補助	155
3	教職員の健康管理	156
4	福島県学校保健会	157
5	日本体育・学校健康センター	157
6	保健・安全に関する研究推進校の指定	158
第5節	学校給食	158
1	学校給食実施状況	158
2	学校給食に関する研修会	159
3	学校給食用パン品質調査	159
4	学校給食費	159
5	学校給食に関する研究指定地域	160
6	学校給食関係補助金の事業実績	160
第6節	生涯スポーツ・競技スポーツ	161
1	社会教育主事（スポーツ担当）の市町村派遣	161
2	スポーツ団体の状況	162
3	第55回福島県総合体育大会	166
4	第29回東北総合体育大会	170
5	国民体育大会	171
6	第15回全国スポーツ・レクリエーション祭	178
7	各種共催行事（スポーツグループ関係）	179
8	本県選手の海外派遣	180
第7節	体育・スポーツ施設	181
1	体育・スポーツ施設の管理及び利用状況	181
2	公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）事業	182

第12章 福利厚生

[福利厚生事業]	183
第1節 概要	183
第2節 保健・厚生事業	183
1 保健事業	183
2 厚生事業	184
第3節 貸付事業	186
1 共済組合	186
2 互助会	187
第4節 宿泊・保養施設	187
第5節 児童手当・特例給付・就学前特例給付	187
第6節 財産形成貯蓄制度	188
[福利給付事業]	188
第7節 概要	188
第8節 短期給付	188
1 共済組合	188
2 互助会	189
第9節 長期給付	190
1 恩給	190
2 退職手当	190
3 退職共済年金	191

第13章 福島県教育センター

第1節 概 要	193
1 調査・研究事業	193
2 研 修 事 業	193
3 情報教育事業	193
4 教育相談事業	193
5 教育図書・資料事業	193
第2節 調査・研究事業	194
1 教 育 調 査	194
2 研 究	194
第3節 研 修 事 業	195
1 研修講座の概要	195
2 研 修 講 座	195
第4節 情報教育事業	197
第5節 教 育 相 談	197
1 対 象 別	197
2 区 分 別	197
3 地区別来所相談件数	197
4 月別相談人数・回数	198
第6節 教育図書・資料事業	198
1 教育図書・教育資料の収集	198
2 教育資料の刊行	198

第14章 福島県養護教育センター

第1節 概 要	199
1 教育相談事業	199
2 教職員研修事業	199
3 教育調査・研究事業	199
4 教育図書・資料の収集・提供事業	199
5 広報・啓発事業	199
6 情報教育事業	199
第2節 障害児の教育相談事業	200
1 相 談 対 象	200
2 形 態	200
3 現 状 と 課 題	200
第3節 教職員研修事業	201
第4節 教育調査・研究事業	203
1 プロジェクト研究	203
2 長期研究員・研修員研究	203
第5節 教育図書・資料の収集・提供事業	203
1 教育図書・資料の収集・整理	203
2 教育関係定期刊行物の収集・整理	203
3 教育資料の収集・整理	203
第6節 広報・啓発事業	203
1 所報「養護教育」(55号)	203
2 研究紀要「第17号」	204
3 「就学相談の日」相談実施案内(ポスター、リーフレット)	204
第7節 情報教育事業	204
1 養護教育における情報教育の研究	204
2 情報機器活用推進	204

3 情報教育ネットワーク活用	204
4 情報教育普及	204

第15章 福島県立図書館

第1節 概 要	205
1 運 営 方 針	205
2 図 書 館 協 議 会	205
第2節 資料の収集・整理	205
1 一般資料の収集	205
2 地域資料の収集	206
3 視聴覚資料の収集	206
4 児童資料・研究資料の収集	206
5 逐次刊行物の収集と整備	206
第3節 館 内 奉 仕	206
1 調 査 相 談	206
2 館 内 奉 仕	206
3 館外個人貸出	206
4 特 別 貸 出	207
5 地 域 資 料	207
6 逐 次 刊 行 物	207
7 児 童 サ ー ビ ス	207
8 複 写 サ ー ビ ス	207
9 来館者用インターネットコーナー	207
10 展 示	207
第4節 館 外 奉 仕	208
1 移動図書館の巡回	208
2 親子読書文庫	208
3 市町村援助のための団体貸出	208
4 福島県立図書館資料の譲与	208
5 読書会用文庫	209
6 普 及 事 業	209
7 広報資料の発行	209
第5節 図 書 館 協 力	209
1 相 互 協 力	209
2 県内図書館職員研修会	210
3 図書館協力事業連絡会議	210
4 県内大学図書館間相互利用制度	210

第16章 福島県立美術館

第1節 概 要	211
1 美術館運営協議会	211
2 他館等との連携	211
第2節 美術品の収集・保存	211
1 収蔵作品点数一覧	211
2 収集評価委員会	211
3 平成14年度収蔵作品	212
4 収蔵資料の保存	212
5 美術品の貸出	212
第3節 展 示 事 業	218
1 常 設 展	218
2 移 動 美 術 館	218

3	企 画 展	218
4	平成14年度観覧者数一覧	219
第4節	調査研究事業	220
1	調査研究事項	220
2	重点調査研究事項	220
第5節	普及事業	220
1	講演会の開催	220
2	映画会の開催	220
3	実技講座の開催	220
4	美術鑑賞講座の開催	221
5	ギャラリートーク	221
6	サンデートーク	221
7	その他の企画展開連事業	221
8	館内解説	221
9	映像資料	221
10	図書資料	222
11	出版・発行	222
12	ホームページの設置について	222

第17章 福島県立博物館

第1節	概 要	223
1	運営の概要	223
2	運営協議会	223
第2節	調査研究事業（テーマ研究）	223
1	東北地方南部における初期農耕社会形成過程の研究	223
2	福島県の漆工品を中心とした工芸に関する調査	223
第3節	収集整理事業	223
1	収集展示委員会	223
2	資料調査員会議	223
3	資料収集	224
第4節	保存管理事業	224
1	収集資料数	224
2	資料整理	224
3	防虫作業等	224
4	保存処理作業	225
5	資料撮影	225
6	資料の貸与	225
第5節	展示企画事業	225
1	常設展示	225
2	企画展示	226
第6節	教育普及事業	226
1	講座等	226
2	出版物	230
3	福島県立博物館友の会	230
4	入館者	230

第18章 福島県自然の家

第1節	沿革及び所在地	231
1	沿 革	231
2	所 在 地	231
第2節	教育目標及び基本的視点	231

1 教育目標	231
2 基本的視点	231
第3節 財団法人福島県自然の家役員及び理事会の開催	232
1 (助)福島県自然の家役員	232
2 理事会の開催	232

福島県相馬海浜自然の家

第1節 概要	232
1 重点目標	232
2 運営委員会及び職員組織	233
3 平成14年度重点目標と成果	233
第2節 施設・設備の概要	234
1 所在地	234
2 宿泊定員	234
3 敷地面積	234
4 建物面積	234
5 運動広場面積	234
6 設備・備品	234
第3節 利用状況	235
1 月別利用状況	235
2 利用団体別・宿泊日数利用状況	236
3 研修活動の分類と実施団体数	237
第4節 主催事業	238
1 指導者事前研修会	238
2 第1回潮風に乗ってカヌーを楽しもう	238
3 第2回潮風に乗ってカヌーを楽しもう	238
4 磯部公民館学習発表会～自然の家ふれあい広場～	238
5 ウィークエンドわくわく体験事業	238
6 ハートウォームプラン「潮風に乗って、はつらつ海の体験」	238
7 相馬海浜自然の家IT講習会	239
8 財団事業「潮風に乗ってクルージング・福島の海体験事業」	239

福島県いわき海浜自然の家

第1節 概要	239
1 役員及び職員組織	239
2 平成14年度重点目標と成果	240
第2節 施設・設備の概要	240
1 所在地	240
2 宿泊定員	240
3 敷地面積	240
4 建物面積	240
5 野外活動施設面積	240
6 設備・備品等	240
第3節 利用状況	241
1 月別利用状況	241
2 利用団体別・宿泊日数利用状況	242
3 研修活動の分類と実施団体数	243
第4節 主催事業	244
1 リーダーのための研修	244
2 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業	
- ハートウォームプラン「心に翼・ふれあいキャンプ」-	244

3 豊かな自然体験活動推進事業	
- ウィークエンドわくわく体験 -	244

福島県郡山自然の家

第1節 概要	245
1 運営委員会及び職員組織	245
2 平成14年度重点目標と成果	245
第2節 施設・設備の概要	246
1 所在地	246
2 宿泊定員	246
3 敷地面積	246
4 建物面積	246
5 設備備品等	246
第3節 利用状況	247
1 月別利用状況	247
2 利用団体別・宿泊日数利用状況	248
3 研修活動の分類と実施団体数	249
第4節 主催事業	250
1 指導者の研修	250
2 少年のつどい	250
3 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業	
- ウィークエンドわくわく体験 -	251

福島県会津自然の家

第1節 概要	252
1 運営委員会及び職員組織	252
2 平成14年度重点目標と成果	252
第2節 施設・設備の概要	253
1 所在地	253
2 宿泊定員	253
3 敷地面積	253
4 建物面積	253
5 運動広場面積	253
6 設備備品等	253
第3節 利用状況	254
1 月別利用状況	254
2 利用団体別・宿泊日数利用状況	255
3 研修活動の分類と実施団体数	256
第4節 主催事業	257
1 指導者のための研修	257
2 自然に親しむ親子のつどい	257
3 自然に親しむ少年・少女のつどい	257
4 学校週5日制対応主催事業	258
5 青少年自然体験活動推進事業	
- ハートウォームプラン「チャレンジ生き生き親子のつどい」 -	258
6 その他の主催事業	259

第19章 ふくしま海洋科学館

第1節 施設の概要	261
1 本館施設	261
2 水生生物保全センター	261

3	海水取水・送水施設	261
4	展示生物の収集、畜養施設	261
第2節	各種事業	261
1	展示事業	261
2	学習支援事業	262
3	利活用促進事業	264
4	海洋文化学習振興基金会計による自主事業	264
第3節	月別入館者数	264
第4節	財団法人ふくしま海洋科学館の概要	264
1	財団法人の名称	264
2	基本財産等	264
3	組織	265
4	財団法人の事業	265

第20章 福島県文化センター

第1節	概要	267
1	業務内容	267
2	専門委員会	267
第2節	施設の概要	267
1	文化会館	267
2	歴史資料館	267
第3節	事業の実施状況	268
1	自主事業	268
2	委託事業	269
3	文化情報の提供	269
4	埋蔵文化財調査事業	270
第4節	施設の利用状況	272
1	文化会館	272
2	歴史資料館	272
第5節	財団法人福島県文化振興事業団	273
1	財団法人の名称	273
2	事業団の目的	273
3	事業団の事業	273
4	組織	273

第21章 福島県文化財センター白河館

第1節	白河館の運営状況	275
1	利用者数	275
2	利用者の内訳と傾向	275
3	団体利用者の内訳と傾向	275
4	情報発信事業の利用者	276
5	資料管理業務	276
6	研修事業の状況	276
7	体験学習事業の状況	277
8	常設展事業	278
9	企画展事業	278
10	ボランティア運営事業	278

第1章 教育行政の概観

平成14年度は、完全学校週5日制の下で、子どもたちに「生きる力」を育成することをねらいとする新しい学習指導要領が小・中学校で実施されるとともに、地方分権改革推進会議等における義務教育費国庫負担制度等の改革の議論や、学習指導要領によらない多様なカリキュラム編成、市町村負担による独自の教員の任用等を内容とする構造改革特区の導入、さらには、社会の変化に対応した教育の基本的な在り方についての国民的な議論を踏まえた教育基本法の見直しを含む中央教育審議会の報告の発表等、教育が大きな変わり目を迎えた1年であった。

県教育委員会としても、平成14年度からの4か年において集中的に教育改革を進めることを目指して「うつくしま教育改革推進プログラム～ふくしまの教育7つの約束～」を策定するとともに、そのプログラムの柱の一つとなる少人数教育について、「うつくしまっ子みらいプラン」として取りまとめ、30人学級編制を導入するなど、新たな時代に向けての教育改革の実現に努めた。

この間、平成14年10月25日付けで福島県教育委員会委員長には宮森泰弘氏が互選され、委員長職務代理者には深谷幸弘委員が選任された。

県教育行政において特記すべき事項としては、次の点を挙げることができる。

第一は、上述した「うつくしま教育改革推進プログラム～ふくしまの教育7つの約束～」を決定し、本県の戦後最大の教育改革が始動したこと。以下、概要をプログラムから抜粋して示す。

教育改革に対する基本的な考え方

これまでの教育改革は、国の教育制度改革を中心に専ら論議されてきましたが、戦後半世紀が過ぎた現在、社会が大きく変化し、教育制度のみならず教育そのものの在り方の見直しが必要となっています。このような中、本県においては、「教育は家庭を原点として地域や学校が一体となって社会全体で担うもの」という基本に立ち返り、学校教育に比重がかりすぎる傾向のあった従来の状況を踏まえ、家庭、地域、学校がそれぞれの役割分担のもとに連携協力し、県民総参加による「うつくしま教育改革」を進めることが必要と考えます。これは、学校中心主義的な発想に基づく行政主体のシステム改革から、「皆で教育を支える」という視点からの県民手作りの改革への転換を図ろうとするものであり、その意味において、戦後における最も大きな教育改革と言えるものです。

プログラムの趣旨等

このため、わたしたちは、自らが担うべき役割を学校教育の充実と家庭、地域、学校の連携協力のための環境整備としてとらえ、その上で、学力向上と人間性・社会性の育成のための主な施策を体系化しながら効率的かつ効果的にうつくしま教育改革を強力に推進するため、本プログラムを策定します。

期間及び運用

本プログラムは、第5次長期総合教育計画の前半期である平成14年度から平成17年度までの4か年を実行期間とし、年度ごとに政策評価を加えるとともに、実施過程で状況が変化した場合には、改訂等も含めて弾力的に運用することとします。

位置づけ

県民総参加のうつくしまの教育改革を目指す上で、本プログラムは、県が行う主な教育行政上の活動指針であると同時に、本プログラムの作成をきっかけとして、家庭や地域における教育改革や、市町村や各学校における主体的な教育改革が進められることを期待するものです。

ふくしまの教育7つの約束

- 「学力を身に付けさせます」～学力の向上～
- 「豊かな心を育てます」～人間性・社会性の育成～
- 「きめ細かな指導ができる体制を整備します」
～少人数教育の推進等～
- 「『自ら学ぶ環境』を整備します」
- 「先生のパワーアップを支援します」
- 「開かれた学校づくりを支援します」
- 「家庭や地域を支援します」

第二に、学校が保護者や地域住民の信頼に応え、家庭や地域と連携して一体となって教育に取り組む環境づくりを行うための「開かれた学校」づくりの基本方針が、学校教育や社会教育の関係者、学識経験者等による検討委員会で審議・決定されたこと。

この方針に基づき、全県的に学校開放を実施する期間を設定することによって、保護者や地域の方々の学校に対する理解と関心を深め、開かれた学校づくりを一層推進する「学校へ行こう週間」を実施するとともに、県民の方々の教育に対する理解を深め、本県の学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期する日として「ふくしま教育の日」を条例により制定した。

第三に、「開かれた学校」づくりの趣旨を踏まえた上で、教育に対する地域住民のニーズに的確に対応しながら、教育の質の改善を不断に進めていくための具体的施策の検討として、県教育委員会の附属機関である福島県学校教育審議会に「開かれた学校づくりを推進する上での学校評価の在り方について」諮問したこと。

諮問事項は、下記の2項目

- 1 学校の自己評価とその内容、方法、公表の在り方について
 - 2 学校の外部評価の在り方について
- 以上のほか、教育行政の主要な動きは次のとおりである。

1 教育の情報化関係

平成13年に発表された「e-Japan戦略」では、「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』を早期に達成し、ITを利用した教育を可能にする」ことが明記された。また、新しい学習指導要領には、各教科や総合的な学習の時間でコンピュータや情報通信ネットワーク等の活用を図ることが盛り込まれている。これらに対応すべく教育の情報化を推進するためには、基盤整備、人材の育成・活用、教育用コンテンツの充実の3つの観点から取り組むことが重要であるとの認識に立ち、事業を実施してきた。

情報通信技術を活用した教育に不可欠な“安定”かつ“安全”なネットワーク環境を、学校や教育関係機関などに提供するため、「うつくしま教育ネットワーク」の基盤整備を行ってきた。

また、インターネットを活用するなどして学習効果の向上を図るためには、コンピュータで指導できる教員の育成が急務であり、コンピュータを操作できる教員の育成に加えコンピュータで指導できる教員の育成を図る研修を新たに実施した。

さらに、県、各市町村などに集録、所蔵されている教育情報などについて、電子化し、インターネットから検索・閲覧可能な教育情報データベースを整備した。

2 生涯学習関係

- (1) 副知事を本部長とする生涯学習推進本部を中心に、全庁的な生涯学習の推進に努めるとともに、福島県生涯学習審議会においては福島県における生涯学習振興の在り方について審議した。
- (2) 平成12年1月にインターネット化した「ふくしまマナビネット」は、その後アクセス件数が増加し、生涯学習に関する情報源となっている。データベースの一層の充実のため、操作研修を充実させて、引き続き市町村にデータ整備の働きかけを行った。
- (3) 生涯学習によって得られた知識や技術をボランティア活動に生かしたいと考えている県民の活動を支援・促進するため、特に必要の高まっているボランティア・コーディネーターの養成に取り組むとともに、指導者の学習と交流の機会として研究大会を開催し、「生涯学習ボランティア」の推進に努めた。

3 義務教育関係

- (1) 県内の小・中学校児童生徒の基礎学力の向上を図るため、「ふくしまの教育ライジングプラン」[基礎学力向上推進支援事業]を実施した。個に応じた指導の充実を図るためのT・T(ティーチング・ティーチング)教員を配置するなど、各市町村教育委員会における基礎学力向上推進支援事業への支援をとおして、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、基礎学力向上に努めた。
- (2) 総合的な生徒支援施策「ハートウォームプラン」の一環として、各教育事務所に学校教育相談員を配置し、電話相談や学校等への訪問相談活動を実施した。また、中学校40校及び小学校10校に文部科学省及び県単独事業によるスクー

ルカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。さらに、カウンセリング研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員や教育相談専門員の資質の向上と関係機関相互の連携強化を図った。

- (3) 環境教育を行う学校に対して、環境教育に詳しい専門家を派遣し、指導助言を行う環境教育コーディネーター派遣事業を実施した。また、福島、群馬、新潟三県の児童生徒が参加する「尾瀬子どもサミット」を実施し、次世代を担う子どもの環境観の育成に努めた。

4 高等学校教育関係

- (1) 大学等進学及び就職等のために必要な学力の向上を期するとともに、本県生徒一人一人の個性を生かした進路希望の実現のために、すべての県立高等学校を対象にして「ふくしまの教育ライジングプラン事業」[進路希望実現推進事業]を実施した。

なお、事業は次の3つの柱としている。

- 各学校の主体性を生かした学力向上事業(進路講演会、集中学習会、大学教授の出席講座等) 教員の指導力の向上を図るための事業(作問を通しての学習指導の研究、中・高連携による学習指導の研究等) 学力向上を図るための家庭・地域の意欲啓発事業(公開フォーラム等)
- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を修得させるため、先端技術の研修等を実施した。
- (3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、学校教育相談推進事業として学校教育相談員を配置し、継続的な指導に努めた。さらに、生徒指導に関する各種研修会等を通して、教職員の実践的指導力の向上を図った。
- (4) 県立高校の施設整備事業関係では、福島高校、福島女子高校、安積高校、磐城桜が丘、相馬高校、相馬女子高校を対象に男女共学化推進事業を実施したほか、福島商業高校外17校を大規模改造事業で、福島北高校他1校を総合学科施設整備事業で、それぞれ整備した。

5 養護教育関係

- (1) ノーマライゼーションの理念に基づく「共に生きる社会づくり」の理解・啓発を促進し、ユニバーサルデザインのまちづくりの着実な実現に寄与するため、盲・聾・養護学校高等部生徒と高等学校生徒等8名をインクルージョン及び介護保険等に取り組んでいるドイツ連邦共和国ケルン市に派遣し、共通の体験を通して研修する福島県青少年等海外派遣事業「うつくしま県民の翼」共生社会への道支援研修コース『ふれあいウイング』を実施した。
- (2) 盲・聾・養護学校の児童生徒が学校から外へ出て、多くの人と出会い、ふれあいを深めたり、自然体験や社会体験を通して、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生きる力を育み、社会参加・自立を積極的に支援する「豊かな体験学習支援事業」を実施した。
- (3) 21世紀を展望した養護教育の課題の中で、特に重要な課題となる重度・重複障害児の医療的ケアについては、平養護学校、郡山養護学校、須賀川養護学校に看護師を配置し

医療器具等を整備するとともに、会津養護学校に看護師を委嘱する等、試行的に実施した。

- (4) 養護教育センターが、養護教育に関する情報発信基地としての機能の充実・強化と効果的な情報機器活用の研究に必要となるソフトウェアの整備をするため、情報教育研究事業を実施した。
- (5) 病弱養護学校及び病院内学級が設置されていない病院に入院している小・中学生に対して、学習支援ボランティアを派遣し、医療との連携の下、児童生徒の学習を支援するゆう・あいジョイントプラン「病院訪問学習支援ボランティア派遣事業」を実施し、入院に伴う学習空白や心理的不安の軽減を図った。
- (6) 盲・聾・養護学校施設整備事業として、養護教育充実プラン（石川養護学校のエレベーター設置、須賀川養護学校の自動ドア設置、水治訓練室の設計）を実施したほか、いわき養護学校高等部校舎増築事業、須賀川養護学校郡山分校移転新築事業を完了させると共に、平養護学校の校舎前面改築に向けて、基本設計を実施した。

6 社会教育関係

- (1) 県社会教育委員の会議では、任期満了に伴い、本年度より、初めて家庭教育に携わる者を公募により選定した（2名）。委員数は16名で、任期期間中は、全県に関わる社会教育の課題の絞り込み審議を深めた。

平成14年2月には、「家庭教育10の提案～今私たちが出来ること～」を提案した。

- (2) 家庭教育の充実を図り、親が家庭において子どもを安心して健やかに育てることが出来る環境づくりを推進するため、「家庭教育トライアングル事業」（「家庭教育インストラクター養成研修会」「家庭教育支援モデル事業」「家庭教育地域フォーラム」）を実施した。

また、家庭教育に関する電話相談「すくすくダイヤル」を県単事業として実施した。

さらに、より多くの親に働きかけ、家庭教育について考える機会を提供するため、「子育て学習県民講座」を実施した。

- (3) 青少年の創造性や可能性を伸長させ、「生きる力」の育成を図るためには、自然体験、交流体験等を意図的・計画的に実施する必要がある、「青少年アクションプラン『豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業』」を新規に立ち上げた。

『自然の家編』では、「ウィークエンドわくわく体験」、「ハートウォームプラン」事業を自然の家に委託して実施した。

『学校外活動編』では、地域ボランティア活動の実践を活性化させる環境づくりを積極的に支援する「うつくしまボランティア」事業をモデル的に実施した。

『家庭編』では、あらゆる体験活動の中で大人と子どもが共感したことをそれぞれペアで17音で表現する「17字のふれあい」を実施した。

また、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施し、体験活動・ボランティア活動の推進センターを県及び地域に設置したほか、各公立学校にも体験活動・ボラ

ンティア活動に関する推進体制の整備を図った。

さらに、その機能を生かし、地域教育力活性化に向けた総合的な取り組みのモデル事業「心を繋ぐ異世代間交流事業」を実施した。

- (4) 男女共同参画社会の形成をめざして、男女が社会のあらゆる分野へ平等に参画していくために、新たな学習プログラムや教材を開発する能力を養うとともに、男女平等の観点から家庭や地域、職場等において学習活動の指導と助言に携わる専門的な指導者を養成するため、「男女共同参画アドバイザー養成研修会」を実施した。

また、女性の学習活動を促進・支援するため、「女性の生涯学習推進員」の継続配置を行った。

- (5) 高齢者の社会参加活動を促進するため、地域ボランティアやNPOと連携し、「絆・意気人生促進事業」を開設した。

また、高齢者ラジオ放送講座「絆・意気生きがiiii暮らしセミナー」を実施し、高齢者の多様な学習要求に応えるよう努めた。

- (6) ユネスコ運動の拡大と発展を図るとともに、平和文化への理解と実現を図るため「ユネスコ活動指導者研修会」を開催し、ユネスコ活動の充実発展に努めた。
- (7) すべての人々の人権が真に尊重される社会の実現を目指し、人権問題に対する理解と認識を深め、人権問題の解決に資することができるよう「人権教育指導者研修会」を開催した。

7 文化関係

- (1) 県総合美術展覧会や県文学賞、21世紀うつくしまヤングアートフェスタ等の事業を実施するとともに、文化振興基金の利活用により、県民文化活動の促進と発表機会の充実に努めた。

- (2) 県民の芸術文化の振興を図るため、県立美術館での「東北の美展」や県立博物館での「雪村展」などの企画展を開催するとともに、県文化センター、県美術館、県立博物館施設の整備に努めた。

- (3) 只見町の「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」が平成15年2月20日付けで重要有形民俗文化財に指定され、いわき市の重要文化財「飯野八幡宮」が平成14年12月26日付けで楼門等6棟が追加指定された。また、県指定文化財として「南泉寺鐘楼門」ほか8件を新たに指定し、1件を追加指定して文化財の保護を図った。

- (4) 各種の開発から埋蔵文化財を保護するため、常磐自動車道など9事業について表面調査・試掘確認調査を実施した。

また、現状保存できない遺跡については、あぶくま南道路など10事業で記録保存のための発掘調査を実施し、報告書を刊行した。

- (5) 県が実施する発掘調査の過程を公開し、埋蔵文化財に対する県民の理解を深めるため、平成16年度から実施する「遺跡の案内人（ボランティア）」の登録前オリエンテーション事業を立ち上げた。

8 スポーツ健康関係

- (1) 地域スポーツの振興・充実を図るため、(財)福島県スポーツ振興基金事業として「ふくしまスポーツフェスタ」「生涯スポーツキャンペーン」や「総合型地域スポーツクラブ支援事業」等を実施した。
- (2) 「スポーツに強いふくしま」の定着を図るため、ピクトリーコーチ養成事業により指導者の養成・確保を図るとともに、中・高校指導者連絡強化会議、ジュニア育成強化指導練習会を新たに実施し、一貫指導体制の確立に努めた。

9 福利厚生関係

- (1) 高齢社会の進行や学校週5日制の完全実施など、教職員を取り巻く環境が急速に変化し、生涯生活設計の早期確立と実践の重要性が増していることから、既存計画に基づく実績・課題を整理し、第3期福島県教職員生涯生活設計推進計画を策定した。
- (2) 保健事業に対するニーズや社会状況の変化を踏まえ、その在り方について検討し、健診事業全体の整理と体系化・生活習慣病未然防止等を実施方向とする保健事業の見直しを行った。
- (3) 教職員の生活習慣病の早期発見・早期治療に資するため、人間ドック等の健診事業を、県、公立学校共済組合、教職員互助会等が連携を図りつつ実施した。

なお、次代を担う本県の児童生徒が様々な分野で活躍した。文化面では、第55回全日本合唱コンクール全国大会高等学校部門において、安積黎明高等学校が23年連続24回目の金賞を受賞、福島女子高等学校、安積高等学校も金賞を受賞した。安積黎明高等学校は大会第1席の文部科学大臣激励賞、福島女子高等学校が大会第2席の兵庫県知事賞をあわせて受賞した。同コンクール中学校部門においても、須賀川市立第一中学校、須賀川市立第二中学校、会津若松市立第二中学校の三校が金賞を受賞し、13年度に続いて高校、中学部門ともにトリプル受賞となった。

また、NHK全国音楽コンクールにおいて安積黎明高等学校合唱団が大会最高賞の金賞を、全国学校合奏コンクールにおいて郡山市立金透小学校が最優秀賞を受賞したほか、第48回全国高等学校演劇大会において小名浜高等学校演劇部が最優秀賞を受賞した。

スポーツ面では、全国高校大会ボクシング競技、自転車競技、カヌー競技において優勝したのをはじめ、高校生の各種全国大会で数多く入賞するなどの活躍が見られた。また、全国サッカー選手権大会において、福島東高校が県勢として19年ぶりのベスト8になる活躍が見られた。

第2章 教 育 行 政

第1節 平成14年度福島県教育委員会 重点施策

県教育委員会は「第5次福島県長期総合教育計画」に基づき、「人・地域・自然と共に個を磨く新世紀ふくしまの教育」を基本目標として、教育行政の推進に努めています。

県教育委員会は、長期総合教育計画の目標実現に向けて、平成14年度の「重点施策の視点」を設定し、当該年度において重点的に推進する施策及びその具体化の方向を示します。

重点施策の視点

- 人と共に
 - 人との共生の視点 -
- 地域・自然と共に
 - 家庭、地域社会、学校の一体化と豊かな自然との触れ合いの視点 -
- 新世紀と共に
 - 社会変化への柔軟な対応の視点 -
- 学びの環境づくり
 - 生涯学習社会の実現に向けた基盤整備の視点 -

重点施策を具体化する事業

人と共に

- 新規 少人数教育推進事業
 - ティームティーチング
 - 熟年度別等の学習集団編成
 - 30人学級編成
- 継続 ふくしまの教育ライジングプラン
 - 基礎学力向上推進支援事業
 - 進路希望実現推進事業
- 新規 スーパースクール事業
- 継続 小学校・中学校新教育過程説明会
- 継続 福島県高等学校教育過程講習会
- 継続 特殊教育新教育過程講習会
- 継続 家庭教育トライアングル大作戦
- 継続 家庭教育子育て支援推進事業
- 一部新 子育て学習県民講座
- 継続 21世紀うつくしまヤングアートフェスタ開催事業
- 継続 ハートウォームプラン
 - スクールカウンセラー、心の教室相談員、学校教育相談員の配置
 - 教育相談関係者連絡協議会の開催
- 継続 人権教育指導者研修会
- 継続 ふくしまの教育ライジングプラン
 - 養護教育推進サポート事業
- 新規 県立高等学校における技能向上支援事業
- 新規 高校生の職場体験推進事業

- 新規 総合的な学習の時間支援事業
- 新規 高齢者粋・意気人生促進事業
- 継続 思春期の児童生徒の悩みに関する支援事業
- 継続 学校給食施設訪問実施状況点検事業
- 継続 ヘルスプロモーション推進事業
- 継続 スポーツエキスパート活用事業
- 継続 共生社会への道支援研修コース「ふれあいウイング」事業
- 継続 「ふれあいウイング」ネットワークサポート事業
- 継続 養護教育における医療的ケア実施条件緊急整備事業
- 新規 ゆう・あいジョイントプラン
 - 病院訪問学習支援ボランティア派遣事業
- 新規 豊かな体験学習支援事業
- 継続 身体に障害のある児童生徒に対する入学後の支援事業
- 継続 ふくしまの養護教育充実プラン
- 継続 男女平等教育推進事業
 - 男女平等教育推進モデル事業
 - 体験的学習の推進事業
 - 少子化等に関する高等学校副読本策定事業
- 継続 男女共同参画アドバイザー養成研修会
- 継続 民俗芸能公開推進事業
- 新規 うつくしま広域スポーツセンター事業

地域・自然と共に

- 継続 学校評議員制度実施事業
- 新規 学校評価の在り方研究事業
- 新規 教育ボランティア制度モデル事業
- 新規 学校いきいきプラン推進事業
- 新規 心を繋ぐ異世代間交流事業
- 新規 体験活動・ボランティア推進センター事業
- 新規 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業
- 新規 ふくしまの子どもたちとの成長支援事業
 - 【チャレンジふくしま体験プラン】
- 継続 国民文化祭参加補助事業
- 継続 21世紀うつくしまヤングアートフェスタ開催事業（再掲）
- 継続 文化財保存助成事業
- 新規 無形の文化財（祭り行事）調査事業
- 継続 ビクトリー強化コーチ養成事業
- 継続 世界と結ぶ人づくりの推進
- 継続 競技別一般強化合宿事業
- 継続 競技別指定競技種目強化合宿事業
- 新規 競技力向上総合システムの構築
 - 中・高校指導者連絡強化会議
 - ジュニア育成強化指導練習会
- 新規 うつくしま広域スポーツセンター事業（再掲）
- 新規 放課後子どもスポーツ活動活性化モデル事業

新世紀と共に

- 継続 うつくしま教育ネットワーク強化事業
- 継続 図書館情報ネットワーク推進事業
- 継続 小・中学校校内LAN整備事業
- 継続 情報教育研究事業
- 継続 語学指導等を行う外国青年招致事業
- 継続 国際理解・国際交流論文募集事業（朝河貫一賞）
- 継続 環境教育支援事業
- 新規 心を繋ぐ異世代間交流事業（再掲）
- 継続 男女平等教育推進事業（再掲）
 - 男女平等教育推進モデル事業
 - 体験的学習の推進事業
 - 少子化等に関する高等学校副読本策定事業
- 継続 科学・技術研究論文募集事業（野口英世賞）

学びの環境づくり

- 一部新 県民カレッジ整備事業
- 継続 学習情報提供・学習相談事業
- 継続 生涯学習ボランティア活動推進事業
- 継続 自然の家施設整備事業
- 継続 ふくしま海洋科学館施設整備事業
- 継続 校舎改築等事業
- 継続 大規模改造事業
- 継続 県立学校校内LAN整備事業
- 継続 文化財センター整備業務
- 継続 文化財センター白河館管理運営
- 新規 遺跡発掘ボランティア事業
- 継続 県立博物館リニューアル事業
- 継続 県立博物館IT化事業
- 一部新 教員の資質向上研究事業
- 新規 教員評価の在り方研究事業
- 一部新 豊かな人間性と人づくりを目指す体験研修事業
- 継続 常勤講師資質向上事業
- 継続 教職員の福祉事業
- 継続 県立学校改革推進事業
- 新規 民間人の校長登用に伴う研修事業

第2節 教育委員会

1 教育委員会

平成14年10月17日の定例教育委員会において、委員長に宮森泰弘氏が互選され、委員長の職務代理者には、深谷幸弘委員が選出された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
委員長	宮森 泰弘	平成12年10月19日	会社社長	会津若松市
委員長職務代理者	深谷 幸弘	平成13年12月24日	会社社長	須賀川市
委員	里見 庫男	平成12年10月19日	会社社長	いわき市
委員	樽川 満	平成11年12月20日	会社役員	福島市
委員	須佐由紀子	平成14年10月19日 (小口潔子委員平成14年10月18日付けで退任)		郡山市
教育長	高城 俊春	平成12年4月1日		郡山市

2 審議事項

4月定例会（14.4.18）

1 審議事項

- 議案第1号 専決処理の報告及びその承認について
技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
- 議案第2号 専決処理の報告及びその承認について
福島県教育庁組織規則等の一部を改正する規則について
- 議案第3号 専決処理の報告及びその承認について
公立学校の助教諭等の進退及び懲戒処分に関する規則の廃止について
- 議案第4号 専決処理の報告及びその承認について
福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- 議案第5号 専決処理の報告及びその承認について
福島県市町村立小学校長の人事について
- 議案第6号 「教育の情報化推進プラン21」について
- 議案第7号 福島県市町村立公立学校長の懲戒処分について

2 教育長報告事項

- 報告第1号 福島県女性の生涯学習推進員の委嘱について
- 報告第2号 平成14年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
- 報告第3号 平成14年度福島県立盲学校・聾学校・養護学校高等部入学者選抜の結果について

5月定例会（14.5.9）

1 審議事項

- 議案第1号 福島県公立学校教員の懲戒処分について

- 2 教育長報告事項
報告第1号 平成13年度福島県立高等学校中途退学者の状況について
6月定例会(14.6.3)
- 1 審議事項
議案第1号 福島県立図書館協議会委員の任免について
議案第2号 福島県立博物館運営協議会委員の任免について
議案第3号 福島県スポーツ振興審議会委員の任免について
議案第4号 専決処理の報告及びその承認について
福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
議案第5号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- 2 教育長報告事項
報告第1号 「舎監業務職員の手当」の過支給について
報告第2号 「遺跡の案内人(ボランティア)」登録前オリエンテーションの参加者募集について
報告第3号 前・中期石器問題に係る対応について
7月定例会(14.7.11)
- 1 審議事項
議案第1号 福島県社会教育委員の任免について
議案第2号 福島県スポーツ振興審議会委員の任免について
議案第3号 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
議案第4号 専決処理の報告及びその承認について
福島県市町村公立小学校事務職員の懲戒処分について
福島県市町村公立学校長の懲戒処分について
福島県市町村公立学校長の懲戒処分について
議案第5号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
議案第6号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- 2 教育長報告事項
報告第1号 平成15年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験志願状況について
報告第2号 平成15年度福島県立高等学校長候補者採用選考試験志願状況について
8月定例会(14.8.21)
- 1 審議事項
議案第1号 専決処理の報告及びその承認について
福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
議案第2号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
議案第3号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
議案第4号 福島県市町村公立学校長の懲戒処分について
- 2 教育長報告事項
報告第1号 平成15年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験の実施状況について
9月定例会(14.9.12)
- 1 審議事項
議案第1号 平成15年度福島県立高等学校入学選抜について
議案第2号 平成15年度福島県立盲学校・聾学校・養護学校高等部入学選抜について
議案第3号 平成15年度県立学校使用教科用図書の採択について
議案第4号 学校教育法第107条の規定による平成15年度県立盲・聾・養護学校小学部・中学部使用教科用図書の採択について
議案第5号 平成14年度(第51回)福島県文化功労賞について
議案第6号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
議案第7号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
議案第8号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- 2 教育長報告事項
報告第1号 「開かれた学校づくり」の基本方針について
10月定例会(14.10.17)
- 1 選挙
委員長選挙について
- 2 審議事項
議案第1号 福島県学校教育審議会委員の任免について
議案第2号 平成15年度福島県立高等学校生徒募集定員について
議案第3号 平成15年度福島県立盲学校・聾学校・養護学校高等部生徒募集定員について
議案第4号 委員長職務代理者の指定について
議案第5号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- 3 教育長報告事項
報告第1号 「学校へ行こう週間」の街頭キャンペーンの実施について
11月定例会(14.11.15)
- 1 審議事項
議案第1号 福島県市町村公立学校長の人事について
議案第2号 福島県市町村公立学校長の人事について
議案第3号 平成14年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞受賞者について
議案第4号 平成14年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞受賞者について
議案第5号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
議案第6号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
議案第7号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
議案第8号 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- 2 教育長報告事項
報告第1号 平成14年度教職員研究論文の入賞者について

報告第2号 平成15年度福島県公立学校教員採用候補者試験について

12月定例会 (14.12.12)

1 審議事項

議案第1号 専決処分の報告及びその承認について
福島県教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第2号 専決処分の報告及びその承認について
福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第3号 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について

議案第4号 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について

議案第5号 福島県学校教育審議会委員の任免について

議案第6号 福島県立美術館運営協議会委員の任免について

議案第7号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

議案第8号 福島県市町村公立学校長の懲戒処分について

1月定例会 (15.1.9)

1 審議事項

議案第1号 福島県生涯学習審議会委員の任免について

議案第2号 平成14年度教育・文化関係表彰 特別功績者・児童生徒(団体)の部 について

議案第3号 福島県市町村公立学校長の懲戒処分について

議案第4号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

2月定例会 (15.2.13)

1 審議事項

議案第1号 福島県立博物館運営協議会委員の任免について

議案第2号 福島県市町村公立学校長の人事について

議案第3号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

議案第4号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

議案第5号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

議案第6号 福島県公立学校教員の懲戒処分について

議案第7号 福島県公立学校教員の懲戒処分について

2 教育長報告事項

報告第1号 平成15年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験について

報告第2号 平成15年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験について

3月定例会 (15.3.6)

1 審議事項

議案第1号 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について

議案第2号 福島県立高等学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について

議案第3号 平成14年度福島県指定文化財の指定について

議案第4号 福島県市町村公立学校長の懲戒処分について

議案第5号 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

3月臨時会 (15.3.20)

1 審議事項

議案第1号 福島県文化財保護審議会委員の委嘱について

議案第2号 福島県教育委員会会議規則の一部を改正する規則について

議案第3号 福島県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則について

議案第4号 ふくしま教育の日条例施行規則について

議案第5号 「うつくしま教育改革推進プログラム」(改訂版)について

議案第6号 共に学ぶ環境づくりプランについて

2 教育長報告事項

報告第1号 平成15年度福島県教育委員会重点施策について

第3節 教育庁組織

教育次長 村瀬久子
富田孝志

課名	職名	課長等氏名	グループ名
総務課	総務課長	茂里 毅	総務・人事グループ (総務管理チーム) (行政チーム) (給与チーム) 政策グループ
	政策調整副参事	遠藤 和夫	
	教育庁主幹兼課長補佐	斎藤 隆	
	副主幹	清水 勝夫	
	副主幹	佐藤 秀一	
生涯学習課	生涯学習課長	渋谷 均	振興グループ 生涯学習推進グループ 社会教育推進グループ
	主幹兼課長補佐	塚本 和弘	
	主幹	林 博行	
	主幹	佐々木孝司	
教育振興課	教育振興課長	清野 要	免許・学校財務グループ 人事・学校管理グループ (管理第一チーム) (管理第二チーム) (高校改革推進チーム) 施設整備グループ (市町村学校整備チーム) (施設建設チーム) (施設維持チーム)
	学校施設副参事	貝沼 幹夫	
	主幹兼課長補佐	雉子波信夫	
	主幹	小森新一郎	
	主幹	小野 義明	
教育指導課	教育庁参事兼教育指導課長	鈴木 弘文	奨学・助成グループ 指導グループ (心の教育推進チーム) (教育課程チーム) (学力向上推進チーム) (学校教育企画チーム)
	主幹兼課長補佐	齋藤 哲夫	
	主幹	佐治 和則	
	主幹	渡辺 博志	

課名	職名	課長等氏名	グループ名
養護教育課	養護教育課長 主幹兼課長補佐 主幹	鈴木 敏夫 大堀 満夫 阪路 裕	振興グループ 管理・指導グループ (管理チーム) (指導チーム)
文化課	文化課長 主幹兼課長補佐 主幹	小平 良男 今泉 幸一 大宮 光一	文化財グループ (文化財保護チーム) (遺跡チーム) 芸術文化グループ
スポーツ健康課	スポーツ健康課長 主幹兼課長補佐 主幹 主幹	花井 宣明 遠藤 義広 伊藤 隆司 菅野 正行	振興グループ 健康教育グループ (保健安全チーム) (学校給食チーム) スポーツグループ (競技スポーツチーム) (生涯スポーツチーム)
福利課	福利課長 主幹兼課長補佐 主幹	矢吹 祐一 紺野 哲夫 湯田 俊介	経理・福祉グループ (経理チーム) (福祉チーム) 給付グループ (短期給付チーム) (長期給付チーム)

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 根本 清夫 次長(総) 丹治 邦夫 次長(業) 大塚 博	総務(兼) 丹治 邦夫 生涯 斎藤セツ子 管理 室井 君夫 指導 渋谷 朗
県中	所長 佐藤 彦一 次長(総) 三本菅貞雄 次長(業) 大竹 明	総務(兼) 三本菅貞雄 生涯 永瀬 克己 管理 富岡 高春 指導 佐藤 健二
県南	所長 下山田和順 次長(総) 佐藤 哲郎 次長(業) 佐藤 正敏	総務・生涯(兼) 佐藤 哲郎 管理(兼) 佐藤 正敏 指導 會澤 洋文
会津	所長 峯島 和彦 次長(総) 藍原 孝文 次長(業) 栗村 謙一	総務(兼) 藍原 孝文 生涯 五十嵐長孝 管理 齋藤 秀一 指導 芳賀 忠夫
南会津	所長 木村 孝雄 次長(総) 室井 隆雄 次長(業) 齋藤 修一	総務・生涯(兼) 室井 隆雄 指導・管理(兼) 齋藤 修一
相双	所長 湯田 健一 次長(総) 相原 信夫 次長(業) 渋谷 常範	総務・生涯(兼) 相原 信夫 管理(兼) 渋谷 常範 指導 木幡 清明
いわき	所長 植田 守 次長(総) 熊井 成吉 次長(業) 猪狩 征弘	総務・生涯(兼) 熊井 成吉 管理 伊藤 孝俊 指導 佐藤 正

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	星 本文	次長(総務) 伊藤 幸雄 次長(業務) 新井田 大 次長(業務) 佐藤 俊市郎
福島県養護教育センター	真鍋 ヒロ子	主幹兼事務長 浅野 修
福島県立図書館	池田 長久	副館長 村山 照彦
福島県立美術館	酒井 哲朗	副館長 戸浪 正孝
福島県立博物館	高橋 富雄	副館長 長谷川 孝

第4節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

- (1) 教職員現職教育担当者会議を開催し、平成15年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

作成部数 2,100部

配布機関 教育委員、教育庁各課・所、教育事務所、県立学校、市町村教育委員会、公立小・中学校、県議会文教委員、その他関係機関

- (2) 策定経過は次のとおり

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	14. 6.21	西庁舎 教育委員室	平成15年度教職員現職教育計画作成日程について 平成15年度教職員現職教育計画作成に当たっての検討事項について
第2回	14.10. 4	自治会館 8階 802	教職員現職教育計画の充実のための意見交換 平成15年度に新設・変更・廃止する研修会及び講座について
第3回	14.12.26	自治会館 8階 802	教職員現職教育計画の充実のための意見交換 平成15年度教職員現職教育計画(第一次案)について

(3) 構 成 員

教 育 指 導 課	課長、主幹、主任指導主事、担当指導主事
総 務 課	政策調整副参事、主任管理主事
教 育 振 興 課	主幹、副主幹、主任管理主事、担当管理主事
養 護 教 育 課	主幹、主任指導主事、担当指導主事
ス ポ ー ツ 健 康 課	主幹、主任主査、担当栄養技師
教 育 セ ン タ ー	次長（業務担当）、教育経営部長、教育経営部主任指導主事、担当指導主事
養 護 教 育 セ ン タ ー	事業部長、研修・研究担当主任指導主事

2 調 整 事 務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 県教委重点施策設定に関する連絡調整
「平成15年度福島県教育委員会重点施策」の設定及び配布
- イ 政策評価に関する連絡調整
- ウ 県重点事業に関する連絡調整
- エ 政府予算対策に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 企画調整室関係
政策評価関係、平成15年度重点事業関係、政府予算対策活動 ほか
- イ 財政課関係
財政構造改革部会 ほか
- ウ 市町村課関係
広域行政推進連絡会議 ほか
- エ 県民環境室関係
「人間・人格・人権の尊重」推進庁内研究会 ほか
- オ 環境政策室関係
環境政策推進庁内連絡会議 ほか
- カ 保健福祉課関係
少子高齢社会対策推進本部会議 ほか
- キ 商工課関係
緊急経済・雇用対策会議ほか
- ク 産業振興課関係
科学技術振興庁内連絡調整会議ほか
- ケ 中小企業課関係
中心市街地活性化対策推進本部会議ほか
- コ 雇用労政課関係
雇用対策連絡会議、緊急雇用対策関係ほか
- サ その他
知事部局関係各課等

第5節 広報・広聴

1 広報担当者会

(1) 広報担当兼行事調整担当者名簿

	所 属	職 名	氏 名
会 長	総 務 課	政策調整副参事	遠藤 和夫
副会長	総 務 課	副 主 幹	佐藤 秀一
担当者	総 務 課	主任管理主事	白石田和彦
"	総 務 課	管 理 主 事	菅野真理子
"	生涯学習課	主任主査	伊藤 裕之
"	教育振興課	管 理 主 事 (指導主事)	藤田 充 (栗野睦子)
"	教育指導課	主任指導主事 (指導主事) (指導主事)	山田 賢一 (齋藤由美) (荒 昌利)
"	養護教育課	主任指導主事 (指導主事)	吉田 雄二 (井戸川恵理子)
"	文 化 課	主任主査	佐野 勇
"	スポーツ健康課	主任主査	薄 真幸
"	福 利 課	主任主査	蓮沼 彰
"	教育センター	主任指導主事	二本松義公
"	養護教育センター	事業部長	高坂 均
"	県立図書館	主任主査	宮沢 敏裕
"	県立美術館	主 査	浅野 公生
"	県立博物館	専門学芸員	藤原 妃敏

(2) 教育事務所広報担当者名簿

教 育 事 務 所	職 名	氏 名
県北教育事務所	指導主事	大友 誠
県中教育事務所	"	熊田 智仁
県南教育事務所	"	大越 憲峰
会津教育事務所	"	大場 健哉
南会津教育事務所	"	林 泰嗣
相双教育事務所	"	荒川 秀則
いわき教育事務所	"	吉田 兼光

2 教育福島

(1) 編集方針

県の教育行政施策及び実績、学校教育の資料及び活動状況等を広報し、教職員の教養を高め、学校教育の進展を図り、ひいては生涯学習について理解を深める。

(2) 内 容

特 集

- | | | |
|---------|---|--|
| 4・5月号 | 1 | 平成15年度福島県立高等学校入学者選抜の改善について |
| | 2 | 完全学校週5日制の実施方針
(概要) |
| | 3 | 育てようみんなでイキイキハツラツ
ふくしまっ子
(ヘルスプロモーション推進事業) |
| 6月号 | 1 | 平成14年度福島県立高等学校入学者選抜結果の概要 |
| | 2 | 豊かな心の育成 |
| | 3 | 青少年体験活動とボランティア活動 |
| 7・8月号 | 1 | 新しい教育課程の下での学習指導の
推進 |
| | 2 | 盲・聾・養護学校における教科指導 |
| | 3 | うつくしま広域スポーツセンター事業 |
| | 4 | 県立高等学校改革推進について |
| 9月号 | 1 | 「開かれた学校」づくりの考え方 |
| | 2 | 新しい教育課程の下での学習指導の
推進 |
| | 3 | ふくしまの教育ライジングプラン
「教員の自主的研究」について |
| | 4 | 平成13年度県立高等学校卒業生の進
路状況 |
| 10月号 | 1 | 新しい教育課程の下での学習指導の
推進 |
| 11・12月号 | 1 | 盲・聾・養護学校における教科指導 |
| 1月号 | 1 | 平成14年度教職員研究論文特選入賞
者論文 |
| 2・3月号 | 1 | 平成15年度福島県教育委員会重点施
策の概要 |
| | 2 | 障害のある子どものための教育相談
体系化推進事業 |

記 事

提言、特集、特別企画、フォトフラッシュ、随想、心に残る一冊の本、研究実践、教育センター情報「窓」、養護教育センター通信、生涯学習インフォメーション、教育事務所発、図書館コーナー、チャイム、お知らせのページ、美術館だより、博物館ノート、まほろんメル、アクアマリンニュース、ふるさと探訪、ふくしまの学校建築、表紙の写真、羅針盤

(3) 規格・ページ・部数

規 格 A4判
ページ数 4・5月号、6月号40ページ/
他20～30ページ

部 数 毎号2,090部

(4) 配布対象

教育庁各課・所・館、公立小・中・高・盲・聾・養護学校、市町村教育委員会・中央公民館・公立図書館、知事部局関係各課、県議会議員、文部科学省、北海道・東北各県教育委員会、報道機関等

3 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育行政の諸領域の中から広報（速報）を要する事項や全教職員に周知させる必要のある諸問題を選定し、それらを中心に編集して教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内 容

県教育委員会名簿、平成15年度の教育庁新陣容、教育庁の組織及び電話番号、教育庁各領域・各グループ配置図

(3) 規格・ページ数・部数

規 格 A4判
ページ数 8ページ
部 数 5,000部

(4) 配布対象

教育庁各課・所・館、公立小・中・高・盲・聾・養護学校、市町村教育委員会、私立学校、知事部局関係各課、県議会議員、文部科学省、北海道・東北各県教育委員会、その他関係教育機関、報道機関等

4 教育年報

(1) 編集方針

平成13年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内 容

平成13年度の県教育行政の実績

(3) 規格・ページ数・部数

規 格 B5判
ページ数 285ページ
部 数 1,200部

(4) 配布対象

教育庁各課・所・館、公立小・中・高・盲・聾・養護学校、市町村教育委員会、知事部局関係各課、県議会議員、北海道・東北各県教育委員会、その他関係教育機関等

5 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育界の実情と教育行政の要点を図式化して編集し、教育庁への来訪者や諸会議の出席者に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内 容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・ページ数・部数

規 格 A4判
ページ数 8ページ（観音開き横組み4色刷り）
部 数 2,000部

(4) 配布対象

県教育委員会への来訪者、研究大会等の諸会議、教育庁

各課・所館、市町村教育委員会、知事部局関係各課、文部科学省、北海道・東北各県教育委員会

6 うつくしま ふくしま 教育ニュース

(1) 編集方針

当面する教育諸問題に対する県教育委員会の考えを保護者を対象としてまとめ、適時に提供し、本県の教育に対する理解を図る。

(2) 内 容

「『開かれた学校』づくりの推進」「県立盲・聾・養護学校の高等部入試について」「平成15年度県立高校入試」「ゆう・あいジョイントプラン」「県立博物館収蔵資料品展(ふるさとの玩具たち)」「県立美術館企画展(ドイツ表現主義の芸術)」(第26号)

「平成15年度教育庁重点事項3つの視点」「体験学習・ボランティア推進センター事業」「会津自然の家最近の活動・活躍」「県教育委員会のF・F導入について」「『学校へ行こう週間』実施状況」「プロの芸術家に学ぼう」「まほろん春のてんじ(新編陸奥国風土記巻之二石背郡)」「県立美術館企画展(男も女も装身具展)」(第27号)

(3) 規格・ページ数・部数

規 格 B4判
ページ数 2ページ
部 数 335,000部

(4) 配布対象

教育庁各課・所・館、公立幼・小・中・高・盲・聾・養護学校の全保護者、市町村教育委員会、知事部局関係各課、県議会議員、文部科学省、北海道・東北各県教育委員会、その他関係教育機関、報道機関等

7 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	予 算 (千円)	配 布 対 象
総務課	教 育 福 島	教育行政、研究実践等の資料を掲載し学校教育等の進展に資する。	8	A 4	40	2,090	2,194.5	学校等
	教育委員会だより	県の教育行政施策・人的配置の広報	1	A 4	8	5,000	88	〃
	教 育 年 報	県教委の前年度の実績を記録・保存	1	B 5	275	1,200	1,764	〃
	福 島 県 の 教 育	県の教育の実情を図表を用いて集約	1	A 4	8	2,000	399	〃
	う つ く し ま ふ く し ま 教 育 ニ ュ ー ス	教育課題をわかりやすく保護者へ啓発	2	B 4	2	335,000	1,899.4	公立学校の全保護者
生涯学習課	生涯学習ふくしま	生涯学習に関する情報全般	3	A 4	8	各5,000	1,245	市町村、市町村教委他
	社 会 教 育	社会教育に関する情報全般	3	A 4	16	各2,400	498	市町村教委、公民館等
養護教育課	福島県の養護教育	パンフレット	1	A 4	6	3,500	349.125	学校等
	福島県立盲・聾・養護学校一覧	学校一覧	1	A 4	4	2,000	63.0	〃
	共生社会への道「ふれあいウイング」報告書	報告書	1	A 4	70	2,500	984.395	〃
文化課	福島県の文化行政	文化関係施策の概要及び関連資料の掲載	1	A 4	70	650	227	学校、文化関係等
スポーツ健康	ス ポ ー ツ と 健 康 教 育	県のスポーツ・健康教育行政の指針及び実績の簡潔なまとめ	1	A 4	90	1,500	646	市町村教育委員会各小・中・高校等
福利課	ふ く し ま 福 利 だ よ り	教職員の福利・厚生事業の紹介等	5	A 4	8	22,500	4,570	全教職員
	福利厚生のおしり	教職員の福利・厚生事業の紹介等	1	A 5	88	22,500	4,177	〃
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、事業内容を掲載	1	A 4	20	500	199	学校、関係機関

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	予 算 (千円)	配 布 対 象
教育センター	所報ふくしま「窓」	教育センターの研究成果、普及並びに広報を目的とし、本県の学校教育の向上に資する。	3	A 4	36	各1,500	897	学校、関係機関
	研 究 紀 要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A 4	80	1,300	800	〃
養護教育センター	センター案内リーフレット	事業の内容・啓発	1	A 4 三折		1,000	42	関係機関
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	8	600	195.3	〃
	所報「養護教育」	教育界の動向・今日的課題、事業の成果	1	A 4	16	1,800	292.9	〃
	研 究 紀 要	研究成果の発表	1	A 4	48	1,000	299.2	〃
図書館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	2	A 4	6	1,400	162	図書館・関係機関
	県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	14	450	126	〃
	県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書	県内図書館・公民館図書室の概況	1	A 4	25	180	80	〃
	地 域 資 料 情 報	地域資料関係の情報の提供	1	A 4	12	300	70	〃
美術館	館 案 内 リーフレット	館の概要紹介	1	A 4	1	20,000	450	利用者等
	美 術 館 要 覧	美術館事業・施設等の案内	1	B 5	19	1,000	162	関係機関
	美術館ニュース	企画展・普及事業等の案内	6	A 4	1	各12,000	756	関係教育機関
	ミュージアム カレンダー	年間事業紹介	1	A 4	1	40,000	599	利用者等
	美 術 館 年 報	美術館事業等の報告	1	B 5	110	650	683	関係教育機関
博物館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	60	600	513	関係機関
	県立博物館紀要	学芸員の調査・研究成果の報告	1	A 4	120	600	819	〃
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A 4	8	14,000	676	学校、関係機関
	児童生徒用 利用案内書	児童生徒向け博物館利用案内	1	A 4	8	30,000	661	入館した小・中学生
自然の家	財 団 要 覧	自然の家4施設の概要紹介	1	A 4	30	800	432	学校、関係機関
	主 催 事 業 案 内	自然の家4施設の主催事業概要	1	A 4	4	3,000	180	〃
	主催事業ポスター	自然の家4施設の主催事業概要	1	51× 72cm	1	3,000	147	〃

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	予 算 (千円)	配 布 対 象
自然の家	所報海青 (相馬)	主催事業などの紹介	1	A 4	4	2,000	170	学校、関係機関
	所報しおね (いわき)	主催事業などの紹介	1	A 4	6	2,000	170	"
	主催事業案内 (いわき)	主催事業内容、実施期日、 対象等	1	A 4	1	2,000	60	"
	所報こおりやま (郡山)	主催事業などの紹介	1	A 4	4	2,000	154.4	"
	主催事業案内 (郡山)	主催事業内容、実施期日、 対象等	1	A 4	1	4,000	78.5	"
	所報あいづ (会津)	主催事業などの紹介	1	A 4	4	2,000	97	"
	主催事業案内 (会津)	主催事業内容、実施期日、 対象等	1	A 4	2	1,000	90	"
ふくしま海洋科学館	機 関 誌	事業紹介、水族館情報	4	A 4	8	22,000	1,635	関係機関・団体、学校
	館内案内リーフレット (大人)	館内案内	1	A 4	2	300,000	882	一般来館者
	館内案内リーフレット (子供)	館内案内	1	A 4	2	250,000	787	"
	館内案内リーフレット (英語)	館内案内	1	A 4	2	0	0	"
	館内案内リーフレット (韓国)	館内案内	1	A 4	2	0	0	"
	館内案内リーフレット (中国)	館内案内	1	A 4	2	0	0	"
	広報用リーフレット	施設案内	1	変A 4	2	120,000	1,386	関係機関・団体
	イメージポスター	施設案内	1	B 1 他	1	2,000	924	"
文化センター	文 化 福 島	文化情報、イベント情報等	10	B 5	20	35,000	3,528	関係機関
	行 事 予 定 表	行事予定、企画展案内	12	B 5	4	12,000	309	"
	案 内 し お り	施設案内	1	A 4	6	2,000	215	"
歴史資料館	収 蔵 目 録	収蔵目録	1	B 5	100	550	578	"
	研 究 紀 要	学芸員の調査・研究成果の 報告	1	B 5	100	550	578	"
	史 料 情 報 誌	史料・行事の情報等	4	A 4	4	4,000	168	"
文化財センター白河館	館 案 内 リーフレット	館の施設案内	1	変A 3	5折	0 (前年度の残が40,000 部あったため)	0	"
	年 報	沿革、事業の概要、入館者 統計、予算等	1	A 4	46	600	504	"
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習 の案内等	4	A 4	4	各5,000	462	関係機関、利用者等

8 教育長記者会見

平成14年10月17日（木）16:00～

- ・内容 平成15年度福島県立高等学校募集定員及び盲・聾・養護学校生徒募集定員について
- ・場所 県政記者クラブ
平成15年1月6日（木）11:00～
- ・内容 平成15年教育長年頭記者会見
- ・場所 教育委員室
平成15年3月24日（月）9:30～
- ・内容 平成15年度公立学校教職員・教育庁職員人事異動について
- ・場所 教育委員室

9 県政広報との連携並びに記者発表及び資料提供

内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
記者発表	2	5	1	1	1	0	3	2	0	2	3	4	24
記者クラブ資料提供	24	30	33	45	37	28	40	38	29	21	29	54	408

10 教育広聴事業

平成15年度重点施策の推進に当たり、各視点ごとに座談会を開催して、有識者との意見交換をし、それらを今後の施策の参考にするとともに、その内容をまとめたものを活用し、平成15年度当初の広報活動を積極的に進めていくため、テーマ別座談会を開催した。

テーマ別座談会

(1) 視点Ⅰ

- ア 日時 平成15年3月19日（水）13:30～15:30
- イ 場所 福島市
- ウ 内容 「学びのくに - 高校の学力向上について」
- エ 出席者 福島県高等学校長協会会長 古市 孝雄
福島大学教育学部教授 高野 保夫
前PTA全国協議会評議員 栗原 昭子
学生（大学2年生） 高橋 昌弘
福島県教育庁指導課長（座長） 鈴木 弘文

(2) 視点Ⅱ

- ア 日時 平成15年3月20日（木）10:00～12:00
- イ 場所 福島市
- ウ 内容 「感性のくに - 子ども文化活動支援 -」
- エ 出席者 相馬絵画研究所主催 倉本 信之
福島市少年少女合唱団指導者 荒 晶子
川俣町 Folklore 指導者 長沼 康光
劇団「かもめ」 森 絵留美
福島県教育庁文化課長（座長） 小平 良男

(3) 視点Ⅲ

- ア 日時 平成15年3月20日（木）10:00～12:00
- イ 場所 福島市
- ウ 内容 「共生のくに - 共に学ぶ環境づくり -」
- エ 出席者 福島県養護学校PTA連合会長 佐藤 孝志
福島県立養護学校進路指導推進員 柳沼 文武
国立特殊教育総合研究所主任研究官 澤田 真弓
国際交流員 スコット・アルガード
福島県教育庁養護教育課長（座長） 鈴木 敏夫

11 知事を囲む教員との座談会

～新世紀の美しいふくしまを担う人づくりを語る～

(1) 目的

「人・地域・自然と共に個を磨く新世紀ふくしまの教育」をめざし、児童生徒の教育に直接携わっている活力ある教員の生の声を聴くことにより、「新世紀を担う人づくり」について多様な視点から考えるとともに、教育施策等に反映できるよう、知事の出席をいただき開催する。

(2) 日時

平成15年2月14日（金）13:05～15:30

(3) 場所

大玉村立大玉中学校

(4) 出席者

【県及び市町村】

県知事、県教育委員会委員長、県教育委員会教育長、
県教育庁教育次長、県北教育事務所長、大玉村教育長、
大玉中学校長

【教員】

義務教育関係5名、県立学校関係4名

(5) 内容

前半は「少人数教育」「教員の資質向上」「開かれた学校づくり」というテーマについて、各3人ずつ意見発表を行い、後半は現代の教育諸問題について、意見交換を行った。

第6節 調査統計

平成14年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧の刊行

平成14年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計第13号）の調査結果により、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項を収録した「学校統計要覧」を刊行した。

2 地方教育費調査（届出調査）

この調査は、平成13会計年度において、学校教育、社会教育及び教育行政のために、県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入の実態を明らかにし、教育行政等に関する諸施策の資料とすることを目的として文部科学省が実施したものである。

3 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

4 社会教育調査（指定統計第83号、承認統計調査、届出統計調査）

この調査は、社会教育に必要な社会教育に関する基本的事項を明らかにするとともに、生涯学習・社会教育の実態を把握することにより、今後の関連行政の推進のための基礎資料とすることを目的として、文部科学省が実施したものであり、次の指定統計、承認統計及び届出統計から構成される。

(1) 社会教育調査（指定統計第83号）

社会教育行政調査、公民館調査、図書館調査、博物館調査、青少年施設調査、女性教育施設調査、社会体育施設調査

(2) 生涯学習・社会教育施設等調査（承認統計調査）

博物館類似施設調査、民間体育施設調査、文化会館調査

(3) 生涯学習関連事業等調査（届出統計調査）

なお、2～4の調査結果については、「教育調査報告書」としてとりまとめ、同書を刊行した。

第7節 教職員の給与、旅費

平成14年度の教職員の給与改定については、平成14年10月9日の県人事委員会の給与勧告に基づき、平成14年12月定例県議会に給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布されたものであり、その概要は次のとおりである。

1 給料表の改正

各給料表に定める給料月額が2%程度引き下げられたこと。

(人事委員会勧告制度創設以来初の引き下げ勧告)

(平成15年1月1日適用)

2 給料の調整額

平成8年以降の給料の調整額に係る経過措置を改正し、新たな経過措置が定められたこと。

(平成15年1月1日適用)

3 扶養手当

当該手当の月額が、次のとおり改められたこと。

(1) 配偶者に係る額が、月額14,000円(改正前16,000円)に改められたこと。

(2) 配偶者以外の扶養親族のうち3人目以降の額が、1人につき月額5,000円(改正前3,000円)に改められたこと。

(平成15年1月1日適用)

4 特例一時金

特例一時金が廃止されたこと。

(平成15年1月1日適用)

5 期末手当・勤勉手当

(1) 期末・勤勉手当の支給割合が次のとおり改正されたこと。

なお、平成15年度以降の期末・勤勉手当の支給時期及び支給割合について、3月支給期の期末手当を廃止して、これを6月期及び12月期に配分するとともに、各支給期における期末手当と勤勉手当の割振りを定め直すこととしたこと。
(平成15年4月1日適用)

・期末手当

支給期	改正後	改正前
[14年度]		
6月	1.45月(1.25月)	1.45月(1.25月)
12月	1.55月(1.35月)	1.55月(1.35月)
3月	0.50月(0.50月)	0.55月(0.55月)
年間支給月数	3.50月(3.10月)	3.55月(3.15月)
[15年度]		
6月	1.55月(1.35月)	1.45月(1.25月)
12月	1.70月(1.50月)	1.55月(1.35月)
3月	廃止(廃止)	0.55月(0.55月)
年間支給月数	3.25月(2.85月)	3.55月(3.15月)

() 書きは、特定幹部職員

・勤勉手当

支給期	改正後	改正前
[15年度]		
6月	0.70月(0.90月)	0.60月(0.80月)
12月	0.70月(0.90月)	0.55月(0.75月)
年間支給月数	1.40月(1.80月)	1.15月(1.55月)

() 書きは、特定幹部職員

(2) 平成15年3月支給期の期末手当の支給額に係る特例
平成14年4月からの年間給与で実質的な均衡を図るため、平成15年3月支給期の期末手当で所要の調整措置を講じたこと。

6 給与の減額関係

(教育委員会に該当する部分)

(1) 知事等の特別職の職員等の給料月額の特例

教育長の給料月額は、平成14年4月1日から平成17年3月31日までの間において、当該給料月額に5/100を乗じて得た額を減じた額としているところ、特に平成15年4月1日から平成16年3月31日までの1年間については、7/100を乗じて得た額(100円未満の端数は切り捨て)を減じた額とすることに改められたこと。

なお、期末手当等の額の算出は、従前のとおり減額前の給料月額によること。

(2) 職員の給料の特別調整額等の特例

職員の給料の特別調整額又は管理職手当は、平成14年4月1日から平成17年3月31日までの間において、当該手当

の額に5/100を乗じて得た額を減じた額としているところ、特に平成15年4月1日から平成16年3月31日までの1年間については、7/100を乗じて得た額（1円未満の端数は切り捨て）を減じた額とすることに改められたこと。

なお、期末手当等の額の算出は、従前のとおり減額前の手当の額によること。

(平成15年4月1日適用)

福島県学校教育審議会 前役員

	氏名	役職名	備考
学識経験を有する者	荒海 健二	福島県中学校長会会長	

(2) 福島県学校教育審議会の審議・調査経過概要

諮問事項「開かれた学校づくりを推進する上での学校評価の在り方について」
 学校の自己評価とその内容、方法、公表の在り方について
 学校の外部評価の在り方について

第8節 附属機関等

1 福島県学校教育審議会

(1) 福島県学校教育審議会委員

(平成14年12月13日現在)

	氏名	役職名	備考
学識経験を有する者	菅野金四郎	福島県中学校長会会長代行	会長
	内池 浩	市町村教育委員会連絡協議会会長	
	荻路 貴司	福島大学教育学部教授	
	小田 修史	青年会議所福島ブロック協議会会長	
	加藤 征男	福島県小学校長会会長	
	菅野 建二	福島民友新聞社取締役編集局長	
	栗原 昭子	前PTA全国協議会評議員	
	佐藤 晴雄	福島民報社編集局長	
	辻 みどり	福島大学行政社会学部教授	
	中川 迪子	会津若松市教育委員長	
	永田 リセ	海洋科学館評議員	
	二瓶由美子	桜の聖母短期大学専任講師	
	早川 敬介	福島県PTA連合会会長	
	林 由美子	タカラ印刷常務取締役	
市町村長	広嶋 良助	連合福島副会長	副会長
	古市 孝雄	福島県高等学校校長協会会長	
	宗形 明子	ホテル飛天常務取締役	
	室井 英彦	田島町長	
	根本 尚美	二本松市長	

	月・日	学校教育審議会	内 容
平成14年度	10月21日	第1回	諮問事項の提示
	11月28日	(学校訪問)	(福島市立余目小学校、北信中学校)
	3月4日	第2回	諮問事項についての審議

2 福島県スポーツ振興審議会

根拠法 スポーツ振興法（昭和36年法律第141号）第18条及びスポーツ振興審議会条例（平成11年福島県条例第94号）

目的 教育委員会又は知事の諮問に応じて、スポーツの振興に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会又は知事に建議する。

(1) 平成12・13年度福島県スポーツ振興審議会委員

(任期：平成12年7月1日～平成14年6月30日)

領域	氏名	役職名	備考
学識経験者	柳 沼 幸 男	福島民友新聞社郡山総支社次長兼報道部長	
	二 瓶 盛 一	福島民報社編集局社会部長兼写真部長	
	岡 本 光 正	財団法人福島県都市公園協会理事長	
	堀 川 哲 男	公立藤田総合病院整形外科科長	スポーツドクター
	白 石 豊	福 島 大 学 教 授	
	菅 家 礼 子	福 島 大 学 教 授	
	水 戸 眞由子	福 島 新 体 操 ク ラ ブ 主 宰	
体育団体代表	猪 俣 昭 洲	財団法人福島県体育協会副会長	県ゴルフ連盟会長
	宗 形 守 敏	財団法人福島県体育協会常務理事	県ハンドボール協会会長

領 域	氏 名	役 職 名	備 考
体育団体代表	中 澤 謙	財団法人福島県体育協会医・科学委員	
	樋 口 裕 子	福島県レクリエーション協会理事	
	永 山 美智子	福島県体育指導委員連絡協議会副会長	
	斎 藤 恵美子	福島県スポーツ指導者協議会副会長	
	古 市 孝 雄	福島県高等学校体育連盟会長	県立福島高等学校校長
	松 本 真	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第三中学校長
市町村代表	岩 本 忠 夫	福島県町村会副会長	双葉町長
	平 原 武 男	福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長	白河市教育委員会教育長
	舘 美 文	福島県都市教育長協議会会長	須賀川市教育委員会教育長

(2) 平成14・15年度福島県スポーツ振興審議会委員

(任期：平成14年8月1日～平成16年7月31日)

領 域	氏 名	役 職 名	備 考
学識経験者	柳 沼 幸 男	福島民友新聞社郡山総支社次長兼報道部長	
	二 瓶 盛 一	福島民報社編集局社会部長兼写真部長	
	堀 川 哲 男	公立藤田総合病院整形外科科長	スポーツドクター
	白 石 豊	福島大学教授	
	水 戸 眞由子	福島新体操クラブ主宰	
	大 宮 剛 雄	(株)スポーツメイトウィン代表取締役	(公 募)
	栗 山 めぐみ	A 級 スポーツ指導員(水泳)	(公 募)
	増 子 恵 美	財団法人福島県障害者スポーツ協会事務局員	(公 募)
体育団体代表	猪 俣 昭 洲	財団法人福島県体育協会副会長	県ゴルフ連盟会長
	菊 池 辰 夫	財団法人福島県体育協会医・科学委員	
	川 本 和 久	福島陸上競技協会普及部長	
	樋 口 裕 子	福島県レクリエーション協会理事	
	永 山 美智子	福島県体育指導委員連絡協議会副会長	
	斎 藤 恵美子	福島県スポーツ指導者協議会副会長	
	古 市 孝 雄	福島県高等学校体育連盟会長	県立福島高等学校長
	松 本 真	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第三中学校長
市町村代表	岩 本 忠 夫	福島県町村会副会長	双葉町長
	砂子田 敦 博	福島県都市教育長協議会監事	いわき市教育委員会教育長

(3) 審 議

第1回審議会

期 日 平成14年6月21日(金)

会 場 福島県庁西庁舎8階801会議室

内 容 「体育・スポーツ振興計画について」
・うつくしまスポーツプラン2010について
・まとめ

第2回審議会

期 日 平成15年2月18日(火)

会 場 財団法人福島県建設技術センター6階
特別会議室

内 容 「うつくしまスポーツプラン2010の具体的
方策について」
・審議計画について
・本県スポーツ振興の現状について

3 福島県生涯学習審議会

根拠法 生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関する法律（平成2年6月29日法律第71号）第10条及び福島県生涯学習審議会条例（平成3年10月5日条例第65号）

目的 生涯学習の振興に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査・審議する。

(1) 福島県生涯学習審議会委員（第6期）
名簿のとおり

(2) 会議の開催

ア 第1回

(ア) 日時 平成14年12月2日（月）
(イ) 場所 杉妻会館「百合の間」
(ウ) 内容 会長選任
福島県における生涯学習振興の在り方について

イ 第2回

(ア) 日時 平成15年2月18日（火）
(イ) 場所 福島テルサ「あづま」
(ウ) 内容 福島県における生涯学習振興の在り方について

福島県生涯学習審議会委員名簿（第6期）

五十音順

任期：平成14年1月11日～平成16年1月10日

氏名	役職名	備考
池田洋子	桜の聖母短期大学ボランティアセンター室長、同短大講師	副会長
石井定	福島県社会福祉協議会副会長	
エディタ・サビツカ	福島学院短期大学講師	
江本節子	公認少年スポーツ上級指導員・公認スポーツプログラマー	
大竹コハル	只見町男女共同参画社会づくり実行委員長	
川瀬トキ子	ガールスカウト日本連盟福島県支部長	
菅野建二	福島民友新聞社編集局長	
日下部三枝	福島県婦人団体連合会三春町連合会長、三春町新町婦人会長	
斎藤美佐		(公募)
佐藤榮子	社団法人福島県看護協会会長	
佐藤真也		(公募)
佐藤芳徳	福島民報社編集局次長	(H14.1.11～H15.1.9)
鈴木幸子	(株)いわきや代表取締役社長	
筒井雄二	福島大学助教授・生涯学習教育研究センター長	
新妻威男	社会福祉法人恩賜財団済生会福島県支部業務担当理事	会長
根本尚美	福島県市長会・二本松市長	
浜津三千雄	福島民報社編集局次長	(H15.1.9～)
門馬正人	(財)いわき市産業振興公社専務理事	
室井英彦	福島県町村会副会長・田島町長	

4 福島県社会教育委員の会議

根拠法 社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに
福島県社会教育委員の定数及び任期に関する条例（昭
和24年福島県条例第56号）

目的 社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり、必要な研究調査を行い、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員
名簿のとおり

(2) 定例会の開催

ア 第1回定例会

- (ア) 日 時 平成14年9月25日（水）
- (イ) 場 所 福島県建設技術センター「特別会議室」
- (ウ) 内 容

a 報告事項

- ・平成14年度生涯学習課主要施策・事業実施状況について

b 審議事項

- ・今後の社会教育の在り方について

イ 第2回定例会

- (ア) 日 時 平成15年2月5日（水）
- (イ) 場 所 福島県建設技術センター「特別会議室」
- (ウ) 内 容

a 報告事項

- ・平成15年度生涯学習課主要施策・事業概要について

b 審議事項

- ・平成15年度社会教育関係団体への助成について
- ・今後の社会教育の在り方について

福島県社会教育委員名簿

任期：平成14年7月12日～平成16年7月11日

区 分	氏 名	役 職 名	備 考
学 校 の 代 表 者	白 田 眞 二 郎	福島県小学校長会副会長・伊達町立東小学校長	
	黒 澤 利 雄	福島県中学校長会副会長・郡山市立郡山第一中学校長	
	安 部 哲 夫	福島県立福島女子高等学校長	
社会教育関係団体の代表者	三 本 木 孝	福島県公民館連絡協議会副会長・福島市中央公民館長	
	高 橋 典 夫	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長	
	吉 田 恵 三	福島県連合青年会長	
	遠 藤 静 子	福島県PTA連合会理事	
	畠 腹 桂 子	福島県婦人団体連合会評議員	
学 識 経 験 者	渡 邊 専 一	二本松市教育委員会教育長	
	塚 本 繁	前福島学院短期大学教授	議 長
	中 田 ス ウ ラ	福島大学教授	副議長
	五十嵐 隆 子	福島県商工会連合会女性部副会長	
	遠 藤 君 子	福島県磐青の会県中地区会長	
	今 泉 玲 子	福島県専修学校各種学校連合会理事・今泉女子専門学校長	
公 募	原 田 和 信	獣 医	
	齋 藤 道 子	主 婦	

5 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期：平成13年4月1日～平成15年3月31日

氏名	所属等	担当分野
有賀祥隆	東北大学教授・文化審議会（文化財分科会）専門委員	絵画
岡田茂弘	東北歴史博物館長・日本考古学協会会員・国立歴史民俗博物館名誉教授	考古資料・史跡・埋蔵
櫻村利道	福島大学名誉教授・理学博士・福島県尾瀬保存指導会	天然記念物（植物）
草野和夫	東北工業大学名誉教授・工学博士・福島県尾瀬保護指導委員	建造物・伝統的建造物群
木村吉幸	福島大学教授・福島県森林審議会委員	天然記念物（動物）
小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授・前文化財保護審議会委員	無形民俗文化財（芸能）
小林清治	文学博士・福島大学名誉教授・（助）福島県文化振興事業団専門委員会委員	書跡・典籍・古文書・歴史資料
高瀬かづ子	若松城天守閣郷土博物館郷土文化財運営委員会委員	工芸品・無形文化財（工芸技術）
竹川重男	郡山女子大学教授・国指定名勝「会津松平氏庭園」整備指導会議座長	古文書（近世文書）
中村五郎	前福島県考古学会会長・日本考古学協会会員	考古資料・史跡・埋蔵
中村嘉男	奥羽大学教授・理学博士・福島県自然環境保全審議会委員	名勝
藤田定興	前（助）福島県文化センター歴史資料課課長	歴史資料・工芸品（宗教関係）
真鍋健一	福島大学教授・理学博士・日本地質学会会員	天然記念物（地質鉱物）

は会長、は副会長

(2) 会議

第1回審議会

ア 期日 平成14年6月6日

イ 場所 福島県建設技術センター会議室

ウ 内容

（ア）諮問

福島県教育委員会より、平成14年度指定文化財の指定について、諮問がなされた。

（イ）審議事項

平成14年度福島県指定候補文化財について

（ウ）報告事項

- ㊦ 平成13年度福島県指定文化財等について
- ㊧ 前・中期旧石器問題に関わる県内遺跡の取扱いについて
- ㊨ 福島県文化財センターについて
- ㊩ 「遺跡の案内人（ボランティア）」について
- ㊪ 福島県祭り・行事調査について
- ㊫ 平成13年度補助事業について
- ㊬ 国指定文化財について
- ㊭ 登録文化財について

第2回審議会

ア 期日 平成14年11月12日（火）～13日（水）

イ 場所 国民宿舎翁島荘（猪苗代町）

ウ 内容

（ア）平成14年度県指定候補文化財の審議

（イ）報告事項

㊮ 「万正寺の大カヤ」の追加指定について

㊯ 福島県文化財保護審議会専門部会の設置について

㊰ 県指定遺跡の現状変更について
・「中村城跡」の現状変更について

㊱ 専称寺調査事業について

㊲ 国指定重要文化財の追加指定について

㊳ 登録文化財について

エ 現地調査

旧高松宮翁島別邸（迎賓館）・湖南湖蝕地・東光寺・満福寺・千手院

第3回審議会

ア 期日 平成15年2月3日（月）

イ 場所 福島県自治会館802会議室

ウ 内容

（ア）平成14年度県指定候補文化財の審議

（イ）報告事項

㊴ 国指定史跡の指定についてほか

答 申

ア 期日 平成15年2月27日

イ 場所 教育長室

ウ 内容

福島県教育委員会に対し、平成14年度福島県指定重要文化財等10件の文化財について、指定する答申がなされた。

第9節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、平成14年5月1日現在、10市80町村2組合の計92である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

平成14年5月1日現在、県内16地区別各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

	市町村	委員長	教育長
福 島	福 島 市	内 池 浩	佐 藤 晃 暢
	飯 野 町	菅 野 晋 一	齋 藤 健 一
	川 俣 町	菅 野 信 一	片 寄 隆 臣
伊 達	桑 折 町	半 澤 敏 子	岩 谷 敬 恒
	伊 達 町	吉 田 敏 朗	田 中 雅 邦
	国 見 町	遊 佐 眞 紀 子	吉 田 孝 夫
	梁 川 町	小 野 勝 也	井 上 三 男
	国見町梁川町 大枝小学校組合	佐 藤 洋 一	井 上 三 男
	保 原 町	小 野 庄 三	齋 藤 良 眞
	霊 山 町	大 橋 哲 夫	菅 野 宏 敏
月 舘 町	伊 藤 久 雄	三 浦 哲 夫	
安 達	二 本 松 市	懸 田 弘 訓	渡 邊 専 一
	安 達 町	渡 辺 勇 治	松 本 正 一
	大 玉 村	渡 邊 榮 富	堀 田 惠 一
	本 宮 町	伊 藤 滋 敏	引 地 洲 夫
	白 沢 村	矢 島 寛 章	前 田 長 之
	岩 代 町	三 浦 五 郎	佐 藤 嘉 之
郡 山	東 和 町	諸 根 啓 介	鈴 木 正 宏
	郡 山 市	齊 藤 久 之 丞	遠 藤 久 夫
岩 瀬	須 賀 川 市	渡 辺 達 雄	舘 美 文
	長 沼 町	柏 村 裕 介	奥 河 敏 男
	鏡 石 町	吉 田 亀 雄	斎 田 一 男
	岩 瀬 村	須 田 諄	中 山 定 一
石 川	天 栄 村	山 口 毅	山 野 辺 庄 吉
	石 川 町	永 沼 弥 江 子	吾 妻 幹 廣
	玉 川 村	矢 部 美 枝 子	車 田 政 美
	平 田 村	関 根 綾 子	大 沼 茂 司
田 村	浅 川 町	須 藤 福 男	安 倍 治 男
	古 殿 町	大 楽 初 徳	水 野 純 一
	三 春 町	深 谷 信 吾	前 田 昌 徹
小 野 町	小 野 町	櫛 田 延 子	吉 田 勝 人
	滝 根 町	先 崎 達 雄	白 岩 正 信

	市町村	委員長	教育長
田 村	大 越 町	橋 本 喜 治	大 橋 重 信
	常 葉 町	渡 辺 徹	坪 井 一 郎
	船 引 町	高 橋 秀 紀	柳 沼 照 栄 一
	都 路 村	吉 田 壽 久	岩 沢 憲 一
西 白 河	白 河 市	平 原 武 男	鈴 木 忠 夫
	西 郷 村	荒 谷 幸 作	
	中 島 村	藤 田 吉 男	藤 田 廣 彦
	矢 吹 町	井 戸 沼 哲 夫	関 根 直 次
	表 郷 村	根 本 昌 典	武 藤 宏
	東 村	大 谷 吉 男	吉 田 隆 治
大 信 村	大 信 村	戸 田 和 男	佐 藤 博 治
	泉 崎 村	佐 々 木 一 恵	長 嶺 節
	棚 倉 町	佐 藤 弘 子	和 知 賢 示
東 白 川	塙 町	星 仁 子	郡 司 正 幸
	矢 祭 町	金 澤 寛	近 藤 作 多 子
	鮫 川 村	阿 久 津 文 男	根 本 忠 義
北 会 津	会 津 若 松 市	中 川 迪 子	高 石 寛 治
	北 会 津 村	加 藤 一 雄	中 山 雄 助
	河 東 町	鈴 木 幸 夫	加 藤 孝 雄
	磐 梯 町	物 江 秀 典	小 川 英 毅
耶 麻	猪 苗 代 町	菅 井 誠	大 坂 恭 一
	喜 多 方 市	佐 藤 洋 子	鈴 木 充 正
	熱 塩 加 納 村	田 部 吉 兵 衛	小 林 正 守
	北 塩 原 村	長 島 幹 雄	斎 藤 八 郎
	塩 川 町	武 藤 修 吉	物 江 清 光
	山 都 町	高 橋 忠 弘	平 田 二 郎
両 沼	高 郷 村	小 林 喜 代 春	小 林 幸 夫
	西 会 津 町	松 崎 好 延	峯 敬 輔
	会 津 坂 下 町	川 俣 雅 宥	高 久 庄 三
	湯 川 村	小 林 悦 子	鈴 木 昭 彦
	柳 津 町	原 忠 子	小 川 茂 正
	会 津 高 田 町	鈴 木 則 子	村 岡 幸 男
南 会 津	会 津 本 郷 町	千 代 洋 一 郎	佐 藤 敬 夫
	新 鶴 村	大 内 洋 一 夫	古 川 保 夫
	三 島 町	佐 藤 村 夫	星 孝 雄
	金 山 町	酒 井 健 一	星 徹 吉
	昭 和 村	五十嵐 吉 彦	栗 城 萬 吉
	田 島 町	桑 名 莞 爾	渡 部 雄 次
南 会 津	下 郷 町	五十嵐 謙 一 郎	湯 田 靖 夫
	舘 岩 村	阿 久 津 榮 平	野 弘 明
	伊 南 村	渡 部 静 子	
	檜 枝 岐 村	星 俊 次	星 護
	南 郷 村	大 塚 勝 友	岩 淵 国 男
	只 見 町	吉 津 直 人	松 井 栄 吉
相 馬	南 会 津 地 方 広 域 市 町 村 圏 組 合	湯 田 靖 夫	渡 部 雄 次
	新 地 町	目 黒 壽 恵	目 黒 美 津 英

	市町村	委員長	教育長
相馬	相馬市	岩本勝博	佐藤利郎
	鹿島町	郡芳一	青木紀男
	原町市	菊地清人	
	小高町	松本義治	荒川登
双葉町	飯館村	小山茂	神長敬治
	浪江町	鈴木守	遠原肇一
	葛尾村	菅野栄	松本正文
	双葉町	菅野茂	小川謙太郎
	大熊町	荒木耕子	矢内一男
	富岡町	高田久夫	坂本伸
	川内村	大山五郎	猪狩瑛一
いわき	楢葉町	松本ミサヲ	猪狩孝夫
	広野町	瀧本政弘	阿部真生
	いわき市	馬目順一	砂子田敦博

3 平成14年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会、予算担当課長会議等を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 平成14年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催
福島県教育委員会
- イ 期日
平成14年4月17日(水)
- ウ 会場
西庁舎12F 講堂
- エ 出席者
市町村教育委員会教育長 90名
- オ 内容
平成14年度教育庁各課(所・館)重点施策の説明

(2) 平成14年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催
福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会
- イ 期日
平成14年10月10日(木)
- ウ 会場
西庁舎12F 講堂
- エ 参加者
平成13年10月1日から平成14年9月30日の間に任命された委員51名
- オ 内容
講話
・演題「市町村教育委員会教育委員の役割」
講師 松本義治先生
(小高町教育委員会委員長)
講義
・演題「教育委員会の組織と運営について」

講師 福島県教育庁総務課管理主事
齋藤吉成

協議

・指導助言者

小高町教育委員会委員長 松本 義治
福島県教育庁政策調整副参事 遠藤 和夫
福島県教育庁総務課主任管理主事 田代 公啓

(3) 平成14年度福島県市町村教育委員会予算担当課長会議

- ア 主催
福島県教育委員会
- イ 期日
平成14年11月26日(火)
- ウ 会場
西庁舎12F 講堂
- エ 出席者
市町村教育委員会の教育次長又は予算担当課長90名
- オ 内容
平成15年度の市町村教育関係予算編成上、改善及び充実に要する事項等の説明

(4) 平成14年度地方連絡協議会長研修会

- ア 主催
福島県市町村教育委員会連絡協議会
- イ 期日
平成15年1月31日(金)
- ウ 会場
郡山市「ホテルラフィエネ郡山」
- エ 参加者
市町村教育委員会地方連絡協議会会長16支会16名
- オ 内容
県教育委員会との情報交換

(5) 平成14年度福島県市町村教育委員会委員研修会

- 福島県市町村教育委員会連絡協議会が主催して、県内5ブロックごとに下記のとおり行った。
なお、浜ブロックを除く4ブロックの研修会には、県教育委員会から、「教育行政上の諸問題」についての講話を行う講師が1名ずつ参加した。

ア 県北ブロック

期日 平成14年6月26日(水)
会場 福島市「市民会館」
講師 福島県教育庁総務課長 茂里 毅

イ 県中ブロック

期日 平成14年7月25日(金)
会場 郡山市「総合教育支援センター」
講師 福島県教育庁教育次長 富田 孝志

ウ 県南ブロック

期日 平成14年7月30日(火)
会場 白河市「サンフレッシュ白河」
講師 福島県教育庁政策調整副参事 遠藤 和夫

エ 会津ブロック

期日 平成14年7月25日(金)
会場 猪苗代町「国立磐梯青年の家」
講師 福島県教育庁総務課長 茂里 毅

オ 浜ブロック

期日 平成14年8月2日(金)

会場 小高町「浮舟文化会館」

講師 小高町教育委員会教育長 荒川 登

2 11月8日

- (1) 給与改定について
- (2) 教職員の賃金・諸手当の改善について
- (3) 多忙化解消、教職員のいのちと健康について
- (4) 再任用制度の改善について

3 11月19日

- (1) 給与改定について
- (2) 週休日の振替について
- (3) 妊娠障害休暇について

第10節 職員団体との話合い

平成14年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

福島県教職員組合

1 4月25日

- (1) 賃金の改定・改善について
- (2) ゆとりある学校づくりについて
- (3) 育児休業、介護休暇について
- (4) 再任用制度について
- (5) 旅費制度の改定について

2 11月7日

- (1) 給与改定について
- (2) 通勤・住居手当の改善について
- (3) ゆとりある学校づくりについて
- (4) 適正化プログラムについて
- (5) 教員の資質向上について

3 11月18日

- (1) 給与改定について
- (2) 週休日の振替について
- (3) 妊娠障害休暇について

福島県高等学校教職員組合

1 6月5日

- (1) 給与、手当について
- (2) 教員の資質向上について
- (3) 週休日の振替について
- (4) 研修について
- (5) 妊娠女性教職員の負担軽減措置について

2 11月8日

- (1) 給与改定について
- (2) 職員の給与等に関する報告及び勤告について
- (3) 新たな給与制度や手当の在り方について
- (4) 週休日の振替について
- (5) 研修の在り方について

3 11月19日

- (1) 給与改定について
- (2) 週休日の振替について
- (3) 妊娠障害休暇について

福島県立高等学校教職員組合

1 4月25日

- (1) 教職員の賃金改善について
- (2) 多忙化解消、働きやすい労働条件づくりについて
- (3) ゆきとどいた教育実現について

福島県学校事務労働組合

1 5月29日

- (1) 義務教育費国庫負担制度について
- (2) 超過勤務手当予算について
- (3) 育児休業、介護休暇について
- (4) 再任用制度について
- (5) 適正化プログラムについて

2 11月7日

- (1) 給与改定について
- (2) 義務教育費国庫負担制度について
- (3) 超過勤務手当予算について
- (4) 再任用制度について
- (5) 適正化プログラムについて

3 11月18日

- (1) 給与改定について
- (2) 妊娠障害休暇について

第11節 不利益処分審査請求事件及び 損害賠償請求事件

1 不利益処分審査請求事件

平成15年3月31日現在、県人事委員会に不利益処分審査請求事件として係属中のものは7件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請年 月日	請求の内容	請求者	備考
懲戒処分取消請求事件	昭48. 5.28	昭47. 5. 19の日教組統一行動に係る昭48. 3. 31付懲戒処分についてその取消を請求	県立学校職員 23名	準備手続中
同上	昭49. 3.30	昭48. 4. 27の日教組統一行動に係る昭49. 1. 24付懲戒処分についてその取消を請求	小・中学校職員 31名	同上
同上	昭50. 4.24	昭49. 4. 11、同 4. 13ストに係る昭50. 2. 22付懲戒処分についてその取消を請求	県立学校職員 97名	同上
同上	昭52. 5. 9	昭50.12.10、51. 3. 9、51. 4. 20ストに係る昭52. 3. 31付懲戒処分についてその取消を請求	小・中県立学校 職員 22名	同上
同上	昭57. 4.12	昭56.11.25のストに係る昭57. 3. 20付懲戒処分についてその取消を請求	小・中学校職員 34名	同上
同上	昭58. 7.28	昭57.12.16のストに係る昭58. 7. 20付懲戒処分についてその取消を請求	小・中学校職員 39名	同上
同上	昭60. 3.29	昭59.10.26のストに係る60. 3. 20付懲戒処分についてその取消を請求	小・中学校職員 58名	同上

2 損害賠償請求事件

平成15年3月31日現在、裁判所に係属中の事件は2件であり、その概要及び進行状況は下表のとおりである。

請求事件名	請年 月日	請求の内容	当事者	備考
損害賠償（その他） 請求事件 （福島地方裁判所 郡山支部平成14年 （ワ）第336号）	平14. 9.17	原告は、平成13年5月28日の授業中、教室内が騒がしくなったため、担当教諭から教室内を静かにさせるように指導を受けた際に体罰を受けたことについて、教育上の配慮を欠いた違法なものであり、その後の学校側の対応も十分ではなかったとして、同教諭が勤務する市及び同教諭の費用負担者として県も連帯して損害を賠償する責任があるとして200万円余の請求をしたもの。	原告 A 被告 B 市 福 島 県	弁論準備 手続中
入学不許可処分取 消等請求事件 （福島地方裁判所 平成14年（行ウ） 第13号）	平14. 9.30	原告は、平成14年度福島県立高等学校入学者選抜において、県立D高等学校への入学を希望し学力検査及び面接を受けたが不合格（入学不許可）となったことについて、志願者は定員割れの状態であり明確な学力検査の最低基準もなく、入学不許可処分は校長の裁量権を逸脱したものであるとして、校長に不許可処分の取消と、県に国家賠償上の責任から800万円の請求をしたもの。	原告 C 被告 県立D 高等学校長 福 島 県	口頭弁論中

第12節 公益法人の設立の許可及び監督並びに公益信託の引き受けの許可及び監督の状況

平成15年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する民法第34条に規定する公益法人は、財団法人83、社団法人7の計90である。各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

14年度に解散した法人及び新たに設立を許可した法人はない。

また、県教育委員会の所管に属する信託法第66条に規定する公益信託は3件である。

14年度に引き受けを許可した公益信託はない。

第13節 表彰及び叙勲

平成14年度福島県文化功労賞及び第55回福島県文学賞の授賞式は11月3日（日・文化の日）杉妻会館において、また、平成14年度教育・文化関係表彰式は11月20日（水）福島県文化センター小ホールにおいて、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は7月12日（金）虎ノ門ホールにおいて、また、教育者表彰式は11月27日（水）国立劇場（小劇場）において、それぞれ行われた。

1 文化功労賞受賞者（2名）

芸術部門（美術） 角田弘司
科学部門（自然科学） 粕川禮司

2 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者（4名）

梁川町教育委員会教育長 井上三男
（前）西郷村教育委員会教育長 佐々木四郎
（元）喜多方市教育委員会委員長 羽曾部 實
田島町教育委員会委員長 桑名 莞爾

(2) 学校教育功労者（15名）

桑折町立醸芳中学校長 菅野金四郎
郡山市立橘小学校長 半澤 續 喜
郡山市立郡山第一中学校長 黒澤利雄
石川町立石川中学校長 高原 栄 征
棚倉町立棚倉小学校長 奥 貫 洋
会津若松市立鶴城小学校長 齋藤就治
会津若松市立城西小学校長 遠藤英機
原町市立原町第一小学校長 高橋 清
小高町立小高中学校長 佐藤英男
福島県立福島高等学校長 古市孝雄
福島県立福島女子高等学校長 安部哲夫
福島県立福島工業高等学校長 大塚 孝
福島県立郡山東高等学校長 三瓶昌久
福島県立磐城高等学校長 村山正之
福島県立磐城桜が丘高等学校長 小野 孝雄

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者（3名）
（助）福島県婦人団体連合会事務局長 海野清瀬
（前）小島公民館長 菅野善左エ門
石川町母畑地区公民館長 菊地隆夫
イ 社会教育関係功績顕著な団体・施設（4団体・2施設）
河東町青年会
南郷村立南郷第二小学校父母と教師の会
大熊町立大熊中学校PTA
いわき市久之浜町婦人会
郡山市立大槻公民館
表郷村公民館

(4) 保健体育関係

ア 保健体育功労者（6名）
福島県ソフトテニス連盟副会長 猪俣哲彌
（元）福島県薬剤師会理事 佐藤和子
福島県テニス協会会長 高谷雄三
北会津村立公立学校医 羽金與平
（元）伊南村体育協会会長 馬場長成
福島県野球連盟会長 石井久雄
イ 保健体育関係功績顕著な団体・施設（2団体）
日曜ソフトテニスクラブ
伊南村立伊南小学校

(5) へき地教育関係

ア へき地教育功労者（1名）
檜枝岐村立檜枝岐小学校長 星 富子
イ へき地教育関係功績顕著な団体・施設（2団体）
霊山町立石田小学校
会津高田町立東尾岐小学校

(6) 養護教育関係

ア 養護教育功労者（2名）
福島県学校教育相談員 鈴木愛子
相馬市立中村第一小学校長 遠藤功一

(7) 文化関係

ア 芸術・文化財保護功労者（2名）
梁川ざっと昔の会会長 横山幸子
原町市文化財保護審議会委員・会長 寶玉義信
イ 文化関係功績顕著な団体・施設（1団体）
郡山市民オーケストラ

(8) 永年勤続表彰受賞者

職名	校種等					計
	小学校	中学校	県立学校	教育庁等		
校長	29	11	5	0	45	
教頭	9	3	9	0	21	
教諭(養護教諭を含む)	46	17	76	0	139	
実習教諭等	0	0	15	1	16	
事務職員	11	3			14	
栄養職員	1	5	0	0	6	
用務員等	0	0	4	0	4	
その他	0	0	4	18	22	
計	96	39	113	19	267	

(注) 市立養護学校職員は、中学校に含む。

(9) 第55回福島県文学賞受賞者 () 本名

小説・ノンフィクション部門 (7名)

準賞 「ミラハブ アイス - 家族五人のアメリカ旅行 -」 齋藤道子

準賞 「斬ればよかった」 岡田峰幸

奨励賞 「あだたら 火山ガス遭難・私考」 小荒井実

青少年奨励賞 「ストロボ」 古市隆志

青少年奨励賞 「曾祖母のこと」 桑原優子

青少年奨励賞 「夏の葬列」 沓澤佳純

青少年奨励賞 「無花果」 小林綿

詩部門 (5名)

準賞 「すべての玩具を夜に流して」 齋藤多美子

奨励賞 「恋の記憶・外十四編」 須藤成恭

奨励賞 「坂道」 高木道浩

青少年奨励賞 「カラッポの日々」 鈴木圭祐

青少年奨励賞 「夏虫が見上げる」 相模音夢

短歌部門 (6名)

準賞 「揺れるクロッカス」 五十嵐徳昌

準賞 「無影灯」 今野金哉

奨励賞 「ふたりの夕餉」 三瓶弘次

奨励賞 「検品室」 奥山隆

奨励賞 「風と砂と」 山家和子

青少年奨励賞 「あの空の青さ」 渡邊実紀

俳句部門 (6名)

文学賞 「風と日と」 佐藤昌市

準賞 「万有引力」 永瀬十悟

奨励賞 「秋の蝶」 益永孝元

青少年奨励賞 「鬼やんま」 眞田隆法

青少年奨励賞 「ピンクを好む春」 会沢未奈子

青少年奨励賞 「夜半集」 蒼空星夜

(10) 特別功績者

児童・生徒(団体)の部(6団体)

ア 郡山市立金透小学校特設音楽部

イ 郡山市立御館中学校

ウ 会津若松市立第二中学校ディベート部

エ 福島県立福島女子高等学校合唱団

オ 福島県立安積黎明高等学校合唱団

カ 福島県立小名浜高等学校演劇部

3 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(4名)

(前) 郡山市教育委員会教育長 丹治 勇

(前) 保原町教育委員会教育長 渡邊 昭

(前) 本宮町教育委員会教育長 安田 清吾

(前) 船引町教育委員会教育長 佐藤 雄一

(2) 教育者表彰(2名)

会津若松市立鶴城小学校長 齋藤 就治

石川町立石川中学校長 高原 栄征

4 春・秋生存者叙勲、死亡叙位叙勲

(1) 平成14年春の叙勲受賞者(10名)

ア 勲四等瑞宝章

荒 武治(元福島県立相馬女子高等学校長)

佐久間貞良(元福島県立相馬高等学校長)

鈴木 啓(元福島県立二本松工業高等学校長)

松浦 淳一(元福島県立福島南高等学校長)

イ 勲五等双光旭日章

荒川 修治(元棚倉町立棚倉小学校長)

ウ 勲五等瑞宝章

遠藤 崇(元いわき市立平第一中学校長)

佐藤 徳重(元いわき市立平第三小学校長)

添田 喜道(県立学校及び郡山市立公立学校等歯科医)

戸田 満夫(元福島市立福島第一小学校長)

星 大昭(元館岩村教育委員会委員長)

(2) 平成14年秋の叙勲受賞者(10名)

ア 勲四等瑞宝章

柿沼 良訓(元福島県立磐城女子高等学校長)

齋藤 久(元福島県立福島商業高等学校長)

菅野 康二(元福島県立白河高等学校長)

安原 滋(元福島県立安積高等学校長)

イ 勲五等瑞宝章

押部 源清(元会津高田町立第一中学校長)

金成 宗明(元福島市立福島第二小学校長)

今野 末治(元浪江町立浪江中学校長)

穴戸 俊哉(元福島県立福島高等学校教頭)

樁 薫(元福島市立福島第四小学校長)

ウ 勲六等瑞宝章

馬場 勇伍(昭和村文化財保護審議会委員長)

(3) 高齢者叙勲章者(平成15年3月31日現在)

ア 勲五等双光旭日章

加藤 文富(元三春町立岩江小学校長)

星 喜平(元田島町立田島中学校長)

松井 孟始(元福島市立大鳥中学校長)

塙 章(元矢祭町立矢祭中学校長)

イ 勲五等瑞宝章

上遠野 裕(元いわき市立湯本第三小学校長)

菅野 三郎(元福島市立庭塚小学校長)

朝内 俊雄(元保原町立上保原小学校長)

戸井田 猛夫(元郡山市立郡山第四中学校長)

円谷 泰秋(元矢吹町立矢吹中学校長)

小林 三郎(元会津若松市立永和中学校長)

須田 操(元新地町立駒ヶ嶺小学校長)

佐藤 正夫(元塩川町立姥堂小学校長)

今井 直行(元表郷村立表郷中学校長)

大橋 恭也(元梁川町立梁川小学校長)

鈴木 彦衛(元福島市立森合小学校長)

半澤 武美(元福島市立荒井小学校長)

(4) 死亡叙位・叙勲

《平成14年度》
従五位

磯上 昌弘(元いわき市立小名
浜第一中学校長)

従五位	松本 繁 (元檜葉町立檜葉北小学校長)	従五位	高橋藤吉郎 (元福島市立北信中学校長)
従五位勲五等双光旭日章	理崎 三郎 (元矢吹町立矢吹中学校長)	従五位勲五等瑞宝章	外山 太郎 (元喜多方市立上三宮小学校長)
従六位勲五等瑞宝章	水口 榮 (元会津高田町学校歯科医)	正六位勲五等瑞宝章	引地 正光 (元伊達町立伊達小学校長)
従五位勲五等瑞宝章	吉田 徳治 (元いわき市立高坂小学校長)	従五位勲五等双光旭日章	箭内 正光 (元須賀川市立第二中学校長)
従六位	原 堅 (元郡山市立郡山第一中学校長)	従五位勲五等瑞宝章	小林 達 (元会津坂下町立第一中学校長)
従五位勲五等双光旭日章	内藤 順 (元福島市立瀬上小学校長)	従五位勲五等双光旭日章	菅野 五郎 (元三春町立中妻中学校長)
従五位	清野 潔 (元福島市立大笹生小学校長)	従六位勲五等瑞宝章	佐藤 正一 (元現郡山市立小原田小学校長)
従六位勲五等瑞宝章	佐藤 芳巳 (元湯川村立勝常小学校長)	正六位勲五等瑞宝章	武藤 健 (元福島市立清水中学校長)
従六位勲五等瑞宝章	名倉 弘二 (元いわき市立菊田小学校長)	従五位勲五等双光旭日章	東條 節夫 (元会津若松市立永和小学校長)
正七位	新田 良一 (元三和村立中三坂小学校長)	従五位勲五等双光旭日章	渡邊 眞樹 (元郡山市立三丁目小学校長)
従五位	中路 七郎 (元須賀川市立西袋第一小学校長)	正六位	佐久間 悠 (元滝根町立滝根小学校長)
従五位	半澤 正義 (元磐梯町立磐梯第一小学校長)	従五位	西山 正 (元原町市立原町第一中学校長)
従五位	小野 鶴雄 (元国見町立県北中学校長)	従五位勲五等瑞宝章	吉田 亀吉 (元いわき市立四倉中学校長)
従六位勲五等瑞宝章	佐藤 賢一 (元田島町立長野小学校長)	従五位	駒田 秀雄 (元本宮町立五百川小学校長)
従五位	鈴木 貞雄 (元会津若松市立行仁小学校長)	従五位	高久 英夫 (元福島県立会津女子高等学校長)
従六位勲五等瑞宝章	原竹 竹十 (元郡山市立第四中学校長)	従五位	五十嵐秀夫 (元桑折町立釀芳小学校長)
正五位	大原 博 (元福島県立東白川農商高等学校長)	従五位	塙 保貞 (元福島市立福島第一小学校長)
従五位	鈴木 勝富 (元塙町立笹原小学校長)	従五位	渡邊 俊夫 (元三春町船引町学校組合立要田小学校長)
従五位	花摘 雄治 (元会津若松市神指小学校長)	従五位勲五等瑞宝章	松本 敬止 (元山都町立山都第一中学校長)
従五位勲五等双光旭日章	玉川 晃 (元原町市立原町第二中学校長)	従六位	佐藤 忠亮 (元船引町立門沢小学校長)
正六位勲五等瑞宝章	松本 廣美 (元大熊町立熊町小学校長)	正七位勲六等双光旭日章	小室 忠夫 (元現白河市立五箇中学校長)
従五位	橋本 正雄 (元石川町立石川中学校長)	従五位	西牧彦一郎 (元須賀川市立西袋第二小学校長)
従五位	面川 春信 (元福島県立会津工業高等学校長)	正六位勲五等瑞宝章	後藤 茂吉 (元福島市立平野中学校長)
正六位	鈴木 忠徳 (元相馬市立中村第一小学校長)	正五位	慶徳 健 (元福島県立須賀川高等学校長)
正六位勲五等瑞宝章	廣井利三郎 (元いわき市立小玉小学校長)	従五位勲五等瑞宝章	赤沼 正義 (元福島市立平田小学校長)
従六位勲五等瑞宝章	佐久間文子 (元福島市立岡山小学校長)	従五位勲五等瑞宝章	須藤 茂治 (元鮫川村立鮫川小学校長)

従五位	大槻 進 (元福島県立福島東高等学校長)
正六位勲五等瑞宝章	八代喜久子 (元東村立小野田小学校長)
従六位勲五等瑞宝章	本田新一郎 (元金山町立中川中学校長)
正七位勲五等瑞宝章	近江 健 (元岩瀬村立白方小学校長)
正六位勲五等瑞宝章	佐藤 直彦 (元小高町立金房小学校長)
従六位	石井 金七 (元川内村立川内中学校長)
従五位勲五等瑞宝章	半谷 晋一 (元富岡町立富岡第一小学校長)
従五位	堀 新三郎 (元塩川町立塩川中学校長)
従六位	櫻井直一郎 (元福島県野球連盟会長)
従五位勲五等双光旭日章	齋藤 松吉 (元梁川町立梁川小学校長)
正六位勲五等瑞宝章	五十島榮伍 (元会津坂下町立第二中学校長)
従五位勲五等双光旭日章	先崎 正隆 (元須賀川市立第一中学校長)
従五位	石貝 久 (元二本松市立南小学校長)
従六位	石井 廣中 (元三春町立三春小学校長)
従五位勲五等双光旭日章	山下 正一 (元東村立東中学校長)
従五位勲四等瑞宝章	吉田伊勢吉 (元福島県立湯本高等学校長)
従五位勲五等瑞宝章	大平 幸男 (元いわき市立小名浜第一中学校長)
従五位勲五等瑞宝章	安田 正吉 (元福島市立杉妻小学校長)
従五位	小林 善次 (元須賀川市立稲田小学校長)
従五位	齋藤 喜二 (元大玉村立大山中学校長)
正七位	光野夕千子 (元福島市立東湯野小学校長)
従六位勲五等瑞宝章	影山 由夫 (元郡山市立大成小学校長)
従五位勲五等双光旭日章	會田 一二 (元須賀川市立稲田小学校長)

第14節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与月額

区 分	平成9～10年度 採 用 者	平成11～12年度 採 用 者	平成13～14年度 採 用 者
高 等 学 校	国公立 14,000円	国公立 15,000円	国公立 16,000円
高等専門学校	私 立 18,000円	私 立 19,000円	私 立 20,000円
大 学	国公立 33,000円 私 立 38,000円	国公立 34,000円 私 立 39,000円	国公立 35,000円 私 立 40,000円

(2) 平成14年度の貸与状況

募集期間

平成14年 入学以降～6月30日

奨学生決定

平成14年7月25日(木)

貸与状況

区 分	継続貸与	新 規 貸 与		計
		応募者数	貸与者数	
高 等 学 校 高等専門学校	17人	4人	4人	21人
大 学	230	180	125	355
計	247	184	129	376

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1 学年 14,000円

2～3 学年 13,000円

4 学年 12,000円

通信制課程

1 学年 14,000円

2～3 学年 13,000円

4 学年 12,000円

(2) 平成14年度の貸与状況

学 年 別	定 時 制	通 信 制	計
1 年 生	2人		2人
2 年 生	7		7
3 年 生	1		1
4 年 生	6		6
計	16	0	16

3 日本育英会奨学金制度

14年度の採用状況

- (1) 高等学校奨学生（在学採用）
- 募集対象 高等学校に在学する生徒
 募集時期 定期採用 4月
 緊急採用 年間を通じて随時
 採用人員 381人（うち緊急採用37人）
 奨学金月額 別表1参照
- (2) 高等学校・高等専門学校奨学生（予約採用）
- 募集対象 中学校第3学年に在学する生徒で、平成15年4月に高等学校、高等専門学校又は専修学校高等課程へ進学を希望している者
 募集時期 9月
 採用人員 196人
 奨学金月額 別表1参照
- (3) 大学奨学生（予約採用）
- 募集対象 高等学校最高学年に在学又は卒業後1年以内の者で、平成15年4月に大学等へ進学を希望している者
 募集期日 無利子貸与 5月
 有利子貸与 5月と9月
 採用人員 無利子貸与 620人
 有利子貸与 1,474人
 奨学金月額 無利子貸与 別表1参照
 有利子貸与 3万円、5万円、8万円、10万円から選択

(別表1) 奨学金貸与月額表

区分	公立校		私立	
	自宅	自宅外	自宅	自宅外
高校	18,000円	23,000円	30,000円	35,000円
高専	21,000	22,500	32,000	35,000
短大	44,000	50,000	52,000	59,000
大学	44,000	50,000	53,000	63,000

4 財団法人福島県学生寮

- (1) 男子寮の概要
- 所在地 千葉県松戸市松戸638の4
 施設 鉄筋コンクリート造り3階建
 収容定員 95名
 所要経費
 入寮寄付金 35,000円（入寮時のみ）
 寮費月額 19,500円
 食費、共通経費月額 24,200円程度
 入寮時期 2年間（更新を認める）
- (2) 女子寮の概要
- 所在地 東京都渋谷区幡ヶ谷3丁目72番9号
 施設 鉄筋コンクリート造り3階建
 収容定員 50名

所要経費

入寮寄付金 35,000円（入寮時のみ）
 寮費月額 18,000円
 食費、共通経費月額 23,000円程度
 入寮時期 2年間（更新を認める）

- (3) 平成14年度入寮状況
- 申込受付時期 平成13年12月13日～平成14年1月25日
 入寮者選考 平成14年2月中旬
 入寮者決定 平成14年2月下旬

区分	男子寮	女子寮
募集人員	40人	27人
応募者数	53	62
入寮者	38	26

第3章 教 育 財 政

第1節 平成14年度決算

1 歳 入

(単位：千円)

款	項	決 算 額	%
分 担 金 及 び 負 担 金		0	0.0
使 用 料 及 び 手 数 料	負 担 金		0.0
	使 用 料	6,765,818	8.8
	手 数 料	6,587,576	8.5
国 庫 支 出 金		178,242	0.2
	国 庫 負 担 金	61,012,993	79.1
	国 庫 補 助 金	59,020,877	76.5
	委 託 金	1,891,959	2.5
財 産 収 入		100,157	0.1
	財 産 運 用 収 入	257,241	0.3
	財 産 売 払 収 入	53,862	0.1
寄 付 金		203,379	0.3
	寄 付 金	0	0.0
繰 入 金		0	0.0
	特 別 会 計 繰 入 金	1,820,987	2.4
	基 金 繰 入 金	1,820,987	2.4
諸 収 入		763,060	1.0
	預 金 利 子		0.0
	貸 付 金 元 利 収 入	143,839	0.2
	受 託 事 業 収 入	248,649	0.3
	収 益 事 業 収 入	27,638	0.0
	雑 収 入	342,934	0.4
県 債		6,443,000	8.4
	県 債	6,443,000	8.4
計		77,063,099	100.0

2 歳 出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区 分	当 初 予 算 額	%	最 終 予 算 額	%	決 算 額	%
県 予 算	1,001,282,543	100.0	1,024,861,210	100.0	990,104,940	100.0
教 育 費	251,603,152	25.1	245,111,315	24.5	243,808,800	24.3
教 育 委 員 会 所 管 分	226,160,660	22.6	220,433,900	22.0	219,223,460	21.9
知 事 部 局 所 管 分	25,442,492	2.5	24,677,415	2.5	24,585,340	2.5
教 育 委 員 会 所 管 分 民 生 費	1,592	0.0	1,592	0.0	1,365	0.0
教 育 委 員 会 所 管 分 労 働 費	578,547	0.1	563,968	0.1	557,355	0.1
教 育 委 員 会 所 管 分 災 害 復 旧	10,000	0.0	0	0.0	0	0.0

(繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区 (款・項・目)	分	当初予算額	構成費 %	最終予算額	%	決算額	構成費 %
民	生	1,592	0.0	1,592	0.0	1,365	0.0
社	会	1,592	0.0	1,592	0.0	1,365	0.0
社	会	1,592	0.0	1,592	0.0	1,365	0.0
勞	働	578,547	0.3	563,968	0.2	557,355	0.2
雇	用	578,547	0.3	563,968	0.2	557,355	0.2
緊	急	578,547	0.3	563,968	0.2	557,355	0.2
教	育	226,160,660	99.7	220,433,900	99.8	219,223,460	99.8
教	育	7,976,052	3.5	7,209,681	3.2	7,127,209	3.1
教	育	14,704	0.0	14,190	0.0	13,992	0.0
事	務	4,768,755	2.1	4,185,578	1.8	4,133,426	1.8
財	務	342,787	0.2	337,388	0.1	325,258	0.1
義	務	416,101	0.2	334,380	0.1	322,246	0.1
教	職	193,025	0.1	191,870	0.1	191,433	0.1
育	英	196,466	0.1	193,993	0.1	193,201	0.1
恩	給	1,054,074	0.5	1,029,626	0.5	1,026,127	0.5
教	育	969,388	0.4	902,200	0.4	901,391	0.4
養	護	20,752	0.0	20,456	0.0	20,135	0.0
小	学	82,279,431	36.1	80,974,751	38.4	80,747,719	38.8
教	職	82,279,431	36.3	80,974,751	35.7	80,747,719	35.6
中	学	49,558,634	21.9	48,347,468	21.3	48,161,810	21.2
教	職	49,558,634	21.9	48,347,468	21.3	48,161,810	21.2
高	等	67,236,561	29.7	65,757,821	29.0	65,305,206	28.8
教	職	51,234,998	22.6	50,383,662	22.2	50,310,528	22.2
高	等	305,033	0.1	299,071	0.1	292,336	0.1
高	等	6,269,944	2.8	6,044,276	2.7	6,025,329	2.7
施	設	2,685,045	1.2	2,506,814	1.1	2,499,028	1.1
通	信	13,228	0.0	12,703	0.0	12,619	0.0
農	業	150,223	0.1	159,717	0.1	158,786	0.1
水	産	184,909	0.1	184,261	0.1	184,790	0.1
～	福島女子高等学校校舎等改築費	1,534,289	0.7	1,381,826	0.6	1,379,946	0.6
～	相馬高等学校校舎等改築費	1,787,267	0.8	1,746,175	0.8	1,738,404	0.8
～	相馬女子高等学校敷地造成費	226,598	0.1	194,289	0.1	194,124	0.1
～	いわき光洋高等学校全日新築費	1,375,052	0.6	1,375,052	0.6	1,175,095	0.5
～	相馬女子高等学校校舎等移転改築費	1,469,975	0.6	1,469,975	0.6	1,334,221	0.6
特	殊	13,754,772	6.1	13,259,453	5.8	13,136,558	5.8
盲	ろ	1,895,303	0.8	1,881,675	0.8	1,843,074	0.8
養	護	11,201,942	4.9	10,839,175	4.8	10,756,555	4.7
～	いわき養護学校校舎増築事業費	350,444	0.2	282,015	0.1	280,441	0.1
須	賀	370,083	0.1	256,588	0.1	256,488	0.1
社	会	4,029,317	1.8	3,643,321	1.6	3,538,760	1.6
社	会	123,373	0.1	103,348	0.0	98,122	0.0
函	書	151,272	0.1	150,684	0.1	150,131	0.1
自	然	672,437	0.3	663,264	0.3	654,275	0.3
文	化	36,854	0.0	36,632	0.0	35,698	0.0
文	化	755,979	0.3	521,568	0.2	517,686	0.2
文	化	448,338	0.2	431,866	0.2	430,747	0.2
美	術	331,658	0.1	297,881	0.1	297,128	0.1
博	物	299,719	0.1	278,002	0.1	273,791	0.1
ふ	く	930,103	0.4	895,584	0.4	819,032	0.4
文	化	279,584	0.1	264,492	0.1	262,150	0.1
保	健	1,325,893	0.6	1,241,405	0.5	1,206,198	0.5
保	健	178,090	0.1	170,782	0.1	169,269	0.1
学	校	413,029	0.2	381,718	0.2	351,661	0.2
体	育	615,250	0.3	571,088	0.3	567,583	0.3
体	育	119,524	0.1	117,817	0.1	117,685	0.1
災	害	10,000	0.0	0	0.0	0	0.0
文	教	10,000	0.0	0	0.0	0	0.0
公	立	10,000	0.0	0	0.0	0	0.0
計		226,750,799	100.0	220,999,460	100.0	219,782,180	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

平成15年5月1日現在の県立学校の現状は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると鉄筋コンクリート造が71.8%、鉄筋造が26.1%と非木造が97.9%を占めており、木造建物が2.1%となった。

別表 県立学校建物の現況

(15.5.1現在)

区 分		高 等 学 校		盲・ろう学校		養 護 学 校		計	
		面 積	構成費	面 積	構成費	面 積	構成費	面 積	構成費
		m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%
校 舎	R	679,602	84.9	10,721	75.5	60,366	95.8	750,689	85.5
	S	101,823	12.7	1,454	10.2	2,294	3.6	105,571	12.0
	W	19,430	2.4	2,031	14.3	358	0.6	21,819	2.5
	計	800,855	100.0	14,206	100.0	63,018	100.0	878,079	100.0
体 育 館	R	11,746	6.4	0	0	3,932	50.0	15,678	8.1
	S	171,178	93.1	2,240	100.0	3,936	50.0	177,354	91.5
	W	838	0.5	0	0	0	0	838	0.4
	計	183,762	100.0	2,240	100.0	7,868	100.0	193,870	100.0
寄 宿 舎	R	10,753	93.9	2,433	94.2	2,050	100.0	15,236	94.7
	S	703	6.1	92	3.6	0	0	795	4.9
	W	0	0	57	2.2	0	0	57	0.4
	計	11,456	100.0	2,582	100.0	2,050	100.0	16,088	100.0
計	R	702,101	70.5	13,154	69.1	66,348	91.0	781,603	71.8
	S	273,704	27.5	3,786	19.9	6,230	8.5	283,720	26.1
	W	20,268	2.0	2,088	11.0	358	0.5	22,714	2.1
	計	996,073	100.0	19,028	100.0	72,936	100.0	1,088,037	100.0

R 鉄筋造、S 鉄骨その他造、W 木造

(2) 平成14年度事業実績

ア 高等学校一般施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費	財 源 内 訳		
				国 庫	そ の 他	県 費
男女共学化推進事業	6	福島、福島女子、安積、磐城桜が丘、相馬、相馬女子	千円 5,101,772	千円 526,939	千円 30,676	千円 4,544,157
大規模改造事業	18	福島商業、福島明成、福島工業、福島北、保原、安積黎明、須賀川、光南、小野、会津、葵、若松商業、喜多方東、田島、磐城桜が丘、平商業、湯本、四倉	1,853,904			1,853,904
第2体育館新築事業	2	福島南、小名浜	215,329			215,329
統合学科施設整備事業	2	福島市北、内郷	128,694			128,694
全日制校舎移転新築事業	1	いわき光洋	977,447	800,000		177,447
教育環境整備事業	4	白河実業、東白川農商、坂下、好間	42,237			42,237
下水道接続事業	2	喜多方商業、小高工業	42,675			42,675
学校用地取得事業	2	安達東、坂下	17,383			17,383
水泳プール整備事業	1	双葉	265			265
プール改修事業	2	安積、喜多方	41,669			41,669
その他工事		一般補修、諸施設整備等	922,402			922,402
合	計		9,343,777	1,326,939	30,676	7,986,162

イ 特殊学校施設整備事業（一般施設）

事 項 学校種別	学 校 名 及 び 工 事 名	事 業 費	財 源 内 訳		
			国 庫	そ の 他	県 費
盲 ・ ろ う	一般施設整備等	千円 12,384	千円	千円	千円 12,384
	計	12,384	0	0	12,384
養 護	ふくしま養護教育充実プラン（石川・須賀川）	35,412	8,372		27,040
	高等部校舎増築（いわき養護）	233,379	92,441		140,938
	西郷養護学校給食施設整備	16,065			16,065
	須賀川養護バリアフリー	1,138			1,138
	須賀川養護郡山分校移転新築	267,123	73,038		194,085
	平養護全面改築	82,874			82,874
	一般施設整備等	43,857			43,857
合	計	692,232	173,851	0	505,997
合	計	692,232	173,851	0	518,381

2 幼稚園・小学校・中学校・養護学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

(単位：㎡)

区 分		小 学 校		中 学 校		小・中学校計		養 護 学 校		幼 稚 園	
		面 積	%	面 積	%	面 積	%	面 積	%	面 積	%
校 舎	R	1,542,082	94	916,060	95	2,458,142	94	61,288	95	38,460	34
	S	42,051	3	29,189	3	71,240	3	3,366	4	58,810	53
	W	53,387	3	23,133	2	76,520	3	135	1	14,400	13
	計	1,637,520	100	968,382	100	2,605,902	100	64,789	100	111,670	100
屋 内 運 動 場	R	138,002	33	112,931	43	250,933	37	4,323	52		
	S	260,770	63	145,766	56	406,536	60	3,962	48		
	W	15,755	4	2,943	1	18,698	3	0	0		
	計	414,527	100	261,640	100	676,167	100	8,285	100	0	0
寄 宿 舎	R	430	100	4,377	65	4,807	67	2,050	100		
	S	0	0	1,116	17	1,116	16	0	0		
	W	0	0	1,208	18	1,208	17	0	0		
	計	430	100	6,701	100	7,131	100	2,050	100	0	0
計	R	1,680,514	82	1,033,368	84	2,713,882	82	67,661	90	38,460	34
	S	302,821	15	176,071	14	478,892	15	7,328	9	58,810	53
	W	69,142	3	27,284	2	96,426	3	135	1	14,400	13
	計	2,052,477	100	1,236,723	100	3,289,200	100	75,124	100	111,670	100

(2) 公立学校施設整備事業 (市町村分交付決定額)

平成14年度

区 分	単 位 度			国庫債務負担行為 (14～15)		
	学校数	補助 面積	補助金	学校数	補助 面積	補助金
公立小学校 校舎の 新 増 築	1	480	67,775	1	4,572	484,819
公立中学校 校舎の 新 増 築				2	2,097	209,230
公立小学校 屋内運動場 の 新 増 築	4	2,917	330,717			
公立中学校 屋内運動場 の 新 増 築	4	1,874	224,346			
公立小・中 学校の統合				1	3,104	375,546
公立小・中 学校危険 建物の改築	3	3,721	501,773	1	4,947	322,938
公立小・中 学校不適格 建物の改築	7	4,442	368,439	2	3,634	229,526
屋 外 環 境 整 備	2		21,827			
地域学校連 携施設整備	1	(200)	18,013	1	(214)	13,417
大規模改造	24		522,418			
公立幼稚園 園舎の 新 増 築	2	416	34,564			
公立学校 (幼稚園) 不適格建物 改 築	1	277	19,788			
木の研修 交流施設	3		6,634			
へき地 教員宿舎	1	160	16,507			
地震補強	12		599,507			
計	(実数) 40	(200) 14,287	2,732,308	(実数) 4	(214) 18,354	1,635,476
災害復旧	3		27,284			

第3節 産業教育振興法補助事業

産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備の整備促進を図った。

14年度における実施状況は次のとおりである。

設 備

(1) 国庫補助事業
基準設備

学 科 名	学 校 名
農 業	耶麻農業
工 業	勿来工業、会津工業
総 合	内郷

設 備 費 13,139千円

特別装置

学 科 名	学 校 名
工 業	二本松市工業、郡山北工業、平工業
農 業	福島明成

設 備 費 57,960千円

設備更新

学 科 名	学 校 名
農 業	福島明成
総 合	小野

設 備 費 3,129千円

(2) 県単独事業

基準設備の整備	16,535千円
老朽設備の整備	70,562千円
普通科家庭科	8,600千円
学科改編等	31,836千円

第4節 理科教育振興法補助事業

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

区分 規模別	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校	82	7,250,768,000	872,776,939	12.0
高校	9	1,591,632,000	118,924,729	7.5
小計	91	8,842,400,000	991,701,668	11.2
盲学校	1	112,960,000	4,837,800	4.3
聾学校	4	94,710,000	9,801,430	10.3
養護学校	15	918,313,000	29,819,551	3.2
小計	20	1,125,983,000	44,458,781	3.9

2 数学特別設備

学校規模別設備現有状況

区分 規模別	学校数	基準金額	現有金額	現有率
	校	円	円	%
高校	82	1,540,944,000	71,428,600	4.6
高校	9	338,256,000	9,329,500	2.8
小計	91	1,879,200,000	80,758,100	4.3
盲学校	1	12,464,000	42,400	0.3
聾学校	4	10,461,000	528,400	5.1
養護学校	15	126,397,000	3,573,938	2.8
小計	20	149,322,000	4,144,738	2.8

第5節 情報処理設備整備事業

1 県単補助事業

- ・小・中学校校内LAN整備支援事業
11校（八幡小 他）8,816千円

2 県単独事業

- (1) パーソナルコンピュータの整備
26校（白河旭 他）54,002千円
語学演習(LL)装置
1校（湯本）25,000千円

第4章 教育の情報化

第1節 概要

うつくしま教育ネットワークは、学校及び教育事務所等が教育ネットワーク及びインターネットを利用できる環境整備を目的としており、学校等におけるインターネットの利活用等の支援を行うため整備を進めた。

ダイヤルアップ等による接続から世界樹回線への変更
48校

これにより、平成11年度から行っている整備により、県立学校112校の安全で高速なインターネット環境が整った。

第2節 情報化の進展

近年の著しい情報通信技術の発達に伴い、社会のあらゆる分野で情報化が急速に進む中、人間の知的・創造的活動に飛躍的な広がりをもたらすものとの期待から、教育や学習の世界においてもこのような情報化のメリットを活かせるような環境づくりを積極的に行うことが期待されている。

1999年のケルンサミットで採択された「ケルン憲章」においても、「読み・書き・算数・情報通信技術の十分な能力の達成を可能とする教育が不可欠」である旨の合意がなされるなど、教育における情報化推進の流れは、世界的なものとなっている。

このため、国においては、次世代を担う子どもが早い段階からインターネットに慣れ親しみ、これを活用する能力を身につけるとともに、インターネットを学習の道具として活かしていくため、教育の情報化を国における最重要課題として位置づけ、「バーチャル・エージェンシー『教育の情報化プロジェクト』」を取りまとめ、各種施策への積極的な取り組みがなされている。

平成14年度及び15年度から始まる新しい学習指導要領には、各教科や総合的な学習の時間でコンピュータや情報通信ネットワーク等の活用を図ることが明記されており、「自ら学び、自ら考える」力を育成する学習環境の整備が進められている。

なお、平成13年1月に発表された「e-Japan戦略」において情報化は今後の国家戦略として位置づけられ、その中で教育の情報化について、「ミレニアム・プロジェクト『教育の情報化』を早期に達成し、小中高等学校のインターネット接続環境を整備し、ITを利用した教育を可能にする」ことが明記された。その推進目標は次のとおりである。

平成13年度までに、全ての公立小中高等学校等がインターネットに接続でき、全ての公立学校教員がコンピュータの活用能力を身につけられるようにする。さらに、平成14年度には、我が国の教育の情報化の進展状況を、国際的な水準の視点から総合的に点検するとともに、その成果の国民への周知を図るため、国内外の子どもたちの幅広い参加による、インターネットを活用したフェスティバルを開催する。

平成17年度を目標に、全ての小中高等学校等からインターネットに高速回線でアクセスでき、全ての学級のあらゆる授業において教員及び生徒がコンピュータを活用できる環境を整備することとされている。

県教育委員会としては、教育における情報化の推進のためには、基盤整備（コンピュータなどの機器の整備、総合的なネットワークの構築）、人材の育成・活用（コンピュータを活用できる教職員の育成など）、教育用コンテンツの充実（教育関係情報の質的向上）の3つの観点から取り組むことが重要であるとの認識に立ち、まずは、平成11年度から5か年計画で「うつくしま教育ネットワーク強化事業」（県教育センターを拠点として県内全ての教育関係機関にネットワーク回線を整備し、教育情報の提供・検索などのサービスを可能とするもの）により学校教育における基盤整備と回線の高速化を図るとともに、平成11年度において「福島県生涯学習情報提供システム（ふくしまマナビネット）」の拡充を行ってきた。また、学校のコンピュータや校内LANの整備に取り組むとともに、社会教育施設では、「IT基礎技能講習会」を実施するための学習活動支援設備整備事業によりコンピュータ機器の整備を行ってきたところである。

第3節 うつくしま教育ネットワーク

うつくしま教育ネットワーク強化事業

- うつくしま教育ネットワークについて
うつくしま教育ネットワークは、学校及び教育事務所等が教育ネットワーク及びインターネットを利用できる環境整備を目的とした事業である。また、学校等におけるインターネットの利活用等の支援を行うために、教育ネットワークの拠点を教育センター、副拠点を養護教育センターに整備している。保護を必要とするネットワークであることから、「教育に閉じられた専用ネットワーク」（教育イントラネット）と「社会に開かれた公開ネットワーク」の両面を併せ持つシステムである。
- うつくしま教育ネットワークのサービス
うつくしま教育ネットワークの主なサービスは次のとおりである。
 - ホームページの利用環境
学校や教育関係機関等のホームページを設置できるスペースを提供し、取り組みや研究成果などを広く共有する場を提供する。
 - 電子メールサービス
電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。
 - 不適切情報のフィルタリング
児童生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。

- ・セキュリティやウィルス等への対策
- ・教育情報データベース・検索サービス
- ・インターネット放送システム
- ・コミュニケーション環境（掲示板、メーリングリスト）
- ・ヘルプデスクによるネットワークサービスの相談受付

(3) うつくしま教育ネットワークの整備

ネットワーク環境整備は、平成11年度に県立学校38校、7教育事務所を整備し、平成12年度には県立学校39校の整備を行った。平成13年度には県立学校35校を整備し、県立学校のうつくしま教育ネットワークへの接続が完了した。

また、平成12年度から平成16年度までに、すべての県立学校に校内LANを整備する事業を行っており、各教室等から校内外における情報の収集や校内外への情報の伝達が可能となる。現在進めている校内LANの整備は、国の整備基準により普通教室に2台（当面は1台）と特別教室に1校あたり6台のコンピュータ及び複数台のプロジェクトと移動式スクリーン等を配備している。

(4) 研 修

平成11年12月に示された国の教員の指導力の指針では、「平成13年度までに全ての教員がコンピュータを操作でき、半数がコンピュータを用いて指導できるようにする」とされている。

平成15年3月31日現在、コンピュータを操作できる教員の割合が86.3%（全国38位 全国平均87.6%）コンピュータで指導できる教員の割合が53.9%（全国15位 全国平均52.8%）となっている。

普通教室等における授業にインターネットを通してリアルタイムな情報をコンピュータに取り込み、教材として活用することにより、学習効果の向上を図るためには、コンピュータで指導できる教員の育成が急務であり、教育センターでは、平成14年度からの情報教育に係る研修において、コンピュータを操作できる教員の育成に加えコンピュータで指導できる教員の育成を図る研修を新たに実施している。

(5) 教育用コンテンツ

「ふくしま教育総合ネットワーク」内にふくしま教育情報データベースを充実させ、県及び各市町村教育委員会、学校、教育センターに集録、所蔵されている教育情報について、電子化し、「うつくしま教育ネットワーク」とインターネットから検索・閲覧できるサービスを提供している。

合同庁舎を接続点とし、全市町村の接続を受け入れる。

これにより、平成13年度末までに本庁、基幹合同庁舎がネットワーク接続され、イントラネットシステムの利用が可能になるとともにインターネットと常時接続された。

2 うつくしま教育ネットワーク

「うつくしま教育ネットワーク」はこの市町村レベルまで接続された「うつくしま世界樹」回線を相互利用することによって、これまでの「うつくしま教育ネットワーク」のサービスを提供するものである。

「うつくしま教育ネットワーク」の接続対象は県立、市町村立、国立、私立など教育ネットワークに接続を希望する県内全ての小学校・中学校、高等学校、盲・聾・養護学校と教育関係機関及び教育ネットワーク等（教育委員会が特に認められた教育関係組織を含む）である。

うつくしま教育ネットワークを高規格・高速ネットワークである、「うつくしま世界樹」と接続連携することによって、高速な接続環境の獲得、高度なネットワークの活用が実現する。

平成14年度には、県立学校48校を「うつくしま世界樹」回線へ接続変更したことにより広帯域化を実現し、全ての県立学校が広帯域回線となった。

[整備スケジュール]

年 度	世界樹接続	校内LAN整備	うつくしま教育NW
H11	-	-	38校
H12	-	48校	39校
H13	52校	25校	35校
H14	48校	15校	-
H15	13校	7校	-
H16	-	18校	-

第4節 「うつくしま世界樹」と「うつくしま教育ネットワーク」

1 うつくしま世界樹

電子県庁の実現による大量のデータ通信や画像情報等大容量データを用いる高度な情報通信システムに対応するとともに、国が進める総合行政ネットワークや住民基本台帳ネットワークに対応した本県における広帯域基幹ネットワークを「うつくしま世界樹」という。

「うつくしま世界樹」は、本庁及び基幹合同庁舎を結ぶ広帯域基幹ネットワークを構築するものである。さらに、基幹

第5章 生涯学習

第1節 概要

いつでもだれでもどこでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会、すなわち生涯学習社会を目指し、全庁的に生涯学習の推進を図った。

生涯学習審議会では、福島県における生涯学習振興の在り方について審議を行った。また、生涯学習推進本部においては、「福島県生涯学習関連事業推進要領」を制定し、福島県の各部局等で実施されている生涯学習関連事業の対象範囲の明確化と事業内容に応じた体系化を行った。

また、生涯学習情報提供については、「ふくしまマナビネット」の利用拡大に努めたほか、広報紙「生涯学習ふくしま」を発行し、生涯学習の啓発に努めた。

さらに、「生涯学習ボランティア」の活動を推進するため、ボランティアコーディネーター養成講座、ボランティア活動指導者研究大会を開催した。

第2節 生涯学習の推進体制

1 福島県生涯学習審議会の開催

「付属機関等」に記載のとおり。

2 福島県生涯学習推進本部（本部長：副知事）

- ・本部会議の開催：平成14年6月10日（月）
- ・「福島県生涯学習関連事業推進要領」の制定

第3節 生涯学習情報提供及び啓発

1 生涯学習情報提供システム（ふくしまマナビネット）の整備

県民の学習活動支援のため、生涯学習に関する情報を県と各市町村が参加したコンピュータネットワークにより提供する。[参加市町村60（H15年2月現在）]

(1) 提供した情報

- ・県立郡山萌世高等学校平成15年度科目履修生募集案内（15.3.6まで）
- ・特別情報 県民カレッジ整備について（提言）概要版／全文
- ・お役立ちリンク 県外及び県内各市町村の生涯学習関連ホームページ
- ・従来からの情報
施設 講座・イベント
サークル 視聴覚教材
指導者 問い合わせ先
民間団体 資格

(2) アクセス状況

- ・平成14年度 19,326件 月平均 1,611件

(3) システムへの情報提供操作研修会

- ・各市町村教育委員会等の生涯学習担当者が、それぞれの市町村独自の生涯学習情報を発信できる体制づくりを目的とする。
- ・平成14年6月3日～4日 清水学習センター（福島市）
- ・平成14年6月6日～7日 白河市情報センター（白河市）
- ・平成14年6月10日～11日 いわき市生涯学習プラザ（いわき市）

(4) ふくしまマナビネット及び生涯学習ガイダンスCD作成及び配布

- ・名刺サイズのCDにマナビネットの操作、接続方法、現在の活動状況（抜粋）等を集録し配布。

2 広報紙「生涯学習ふくしま」の発行

- ・発行回数 3回（各5,000部）
- ・配布先 市町村、市町村教育委員会、公民館、図書館、関係機関、団体など

3 学習相談

- ・学習相談員の設置1名（生涯学習課内）

第4節 生涯学習ボランティア活動の推進

1 目的

生涯学習によって得られた知識や技術をボランティア活動に生かしたいと考えている県民の活動を支援・促進するとともに、ボランティア活動に興味・関心のある県民のために情報提供を行うなど、生涯学習ボランティア推進のための諸条件の整備に努めた。

2 内容

- (1) ボランティア・コーディネーター養成講座
ボランティア・コーディネーターとして必要な知識・技術の習得を目指し、講座を開催した。
 - ・前期 平成14年6月28日（金）～30日（日）
 - ・後期 平成14年10月25日（金）～27日（日）
前後期とも宿泊無しの三日間で実施
 - ・場所：サンフレッシュ郡山
 - ・対象：ボランティアの実践者、受け入れ施設等の関係者、市町村教育委員会の職員、学校関係職員
 - ・内容：講演、講義、研究協議、グループワークなど
 - ・修了：45名
- (2) ボランティア活動指導者研究大会
ボランティア活動の指導者や実践者、リーダー養成講座等の修了者などを対象に、学習と情報交換の機会を提供するため、研究大会を開催した。

- ・期日：平成14年9月21日（土）
- ・場所：いわき明星大学
- ・対象：ボランティア養成講座などの参加者・修了者、学校教育のボランティア担当者など
- ・内容

基調講演

「ボランティア活動推進がめざすこと」

講師 独立行政法人国立自然の家理事長

松下 俱子 氏

実践発表

いわき介護支援弥生の会

育児ボランティア天使の輪

フォーラムパワーアップいわき

しらかわ市民活動支援会

パネルディスカッション

「地域ボランティア活動活性化のためには」

コーディネーター

いわき明星大学助教授

鎌田真理子 氏

パネラー

いわき介護支援弥生の会会長 滝 弘子 氏

育児ボランティア天使の輪会員

稲田 雅子 氏

フォーラムパワーアップいわき代表

遠藤 浩 氏

しらかわ市民活動支援会会長

和知 延 氏

- ・出席者：521名

第5節 学校開放講座

県民の学習機会の充実を図るため、学校の教育機能を活用して、県立学校14校において講座を開催した。

講座開設校及び内容

受講者合計426人

人学校名	講座内容	開講期間	受講者
保原高等学校	教養講座「保原高校サタディアラカルト」	7/27～8/10 3回	35人
盲学校	健康増進と指圧	9/7、9/14 2回	51人
安積高等学校	教養講座「学ぶ、作る、考える」古典、コースター作り、映画史	9/21～11/16 7回	32人
須賀川高等学校	絵画 - 卓上の秋を描く - 絵画基礎、講演等	9/1～12/1 5回	33人
田村高等学校	陸上競技ストレッチ、ランニング	11/9 1回	30人
光南高等学校	パソコン講座 マックでアニメ制作	8/22 1回	13人
東白川農商高等学校	食と健康講座 手作り豆腐 ランのバイオ栽培	10/19～11/9 4回	39人
会津工業高等学校	陶芸教室 デザイン、成形、施釉	7/8～7/19 10回	14人
坂下高等学校	絵手紙教室	8/9 1回	17人
田島高等学校	ガーデニング講座 ハーブ栽培	6/15～8/31 5回	45人
富岡高等学校	絵本づくり講座	9/14～10/12 2回	21人
相馬農業高等学校	趣味と教養を高める講座 パン・ジャムづくり、手芸、クリスマスリース等	6/15～12/7 7回	40人
勿来高等学校	油絵&コーラス 絵画制作 読譜、合唱練習	9/7～9/21 3回	33人
いわき養護学校	工芸&木工 キーケース作り フラワーポット作り	8/3～8/10 3回	23人

第6章 義務教育

第1節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
本校	554	555	552	551	550	550	548	548	547	546
分室	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
分校	40	38	35	31	31	27	25	24	24	22
計	595	591	587	582	581	577	573	572	571	568
前差	0	4	4	5	1	4	4	1	1	3

(2) 平成14年度の学級数別学校数（小学校）

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	84	283	113	54	12	546
分室	-	-	-	-	-	-
分校	22	-	-	-	-	22
計	106	283	113	54	12	568
構成比	19	50	20	9	2	100

(3) 中学校

年度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
本校	243	243	242	244	244	244	244	245	245	242
分室	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
分校	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-
計	244	244	243	245	245	245	245	246	246	242
前差	0	0	1	2	0	0	0	1	0	4

(4) 平成14年度の学級数別学校数（中学校）

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	63	89	61	24	5	242
分室	-	-	-	-	-	-
分校	-	-	-	-	-	-
計	63	89	61	24	5	242
構成比	26	37	25	10	2	100

(5) 公立幼稚園の設置状況

年度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
園数	236	237	237	238	238	237	237	237	237	233
園児数	13,730	13,221	12,578	12,508	12,474	12,040	11,860	11,923	11,917	11,691
園児指数	280.8	270.4	257.1	255.9	255.2	246.3	242.6	243.9	243.7	239.1

(6) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年 度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
単 式	5,680	5,610	5,533	5,416	5,264	5,164	5,026	4,939	4,855	4,948
複 式	192	186	177	160	170	169	171	179	192	194
特 殊	198	182	179	172	175	175	187	198	217	252

年	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
児 童	167,640	164,388	160,603	155,312	149,971	145,759	141,258	137,796	134,878	132,229
指 数	62.8	61.6	60.2	58.2	56.2	54.7	52.9	51.6	50.6	49.6
学 級	6,070	5,978	5,889	5,748	5,609	5,508	5,384	5,316	5,264	5,394
指 数	80.2	79	77.9	76	74.1	728	71.1	70.2	69.5	71.2

(7) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和37年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和56年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和63年度より再び減少傾向にある。

年 度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
単 式	2,563	2,518	2,483	2,498	2,491	2,457	2,404	2,329	2,255	2,358
複 式	5	5	5	4	3	3	5	5	6	6
特 殊	99	94	86	89	86	85	90	97	105	115

年	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
生 徒	89,302	87,536	85,888	85,742	85,309	83,877	81,774	78,740	76,315	73,115
指 数	53.4	52.3	51.4	51.3	51.1	50.2	48.9	47.1	45.7	43.8
学 級	2,667	2,617	2,574	2,591	2,580	2,545	2,499	2,431	2,366	2,479
指 数	66.9	65.6	64.5	65	64.7	63.8	62.6	60.9	59.3	62.1

(8) 小・中・養護学校条例定数の推移

年 度		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小 学 校	教 員	8,633	8,540	8,414	8,294	8,160	8,031	7,977	7,905	7,858	7,816
	事 務 職 員	560	558	559	556	549	548	547	546	542	538
	充 指 導 主 事	37	36	36	37	36	36	30	31	25	26
	補 充 教 職 員	321	345	355	397	381	380	374	378	365	355
	県単独負担教員	46	45	44	65	61	55	40	37	200	362
	学校栄養職員	149	150	152	151	147	147	146	148	148	149
中 学 校	教 員	5,133	5,049	5,085	5,154	5,086	5,000	4,908	4,829	4,967	4,633
	事 務 職 員	247	242	244	246	250	248	248	245	240	238
	充 指 導 主 事	41	41	42	43	43	43	49	53	55	55
	補 充 教 職 員	128	138	120	119	132	135	146	171	157	155
	県単独負担教員	66	67	67	55	52	52	42	27	269	246
	学校栄養職員	56	55	58	61	62	62	61	63	65	64
養 護 学 校	教 員	66	63	60	83	86	81	87	90	96	92
	事 務 職 員	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6
	補 充 教 職 員	4	3	5	5	5	5	5	4	5	5
	県単独負担教員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	学校栄養職員	2	-	2	2	2	2	2	2	2	2

2 教職員人事・任用

平成14年度人事に関する方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、本県教育の一層の充実と向上発展を期するためには、各学校の教育職員組織及び教育庁職員組織の充実・強化と士気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現を図るため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県の視野にたち、適材を適所に配置し、教育効果並びに行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、教育庁機構改革の趣旨を踏まえ、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正公平な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の士気の高揚を図る。

II 重点

1 市町村立学校関係

- (1) 教育の充実に努めるため、有能適格な教職員の採用と新進有為な人材の登用を図る。
- (2) 教職員組織の充実と均衡に努めるため、計画的な交流の推進を図る。
- (3) 養護教育及びへき地教育の振興を図るため、適任者を配置するとともに、適正な交流を行う。
- (4) 管理監督の立場となる職への登用にあたっては、その職責の重要性にかんがみ、適任者を厳選し適所に配置する。

平成14年度公立小・中学校人事（平成14年3月末公表）

(1) 異動件数

異動件数2,991件（前年度2,940件）51件の増。異動件数が前年度に比べて増加したのは、教諭等の採用転補及び事務職員等の転補が増加したことによるものである。

(2) 採用について（教諭、養護教諭、事務職員等の区分ごとの数）

教職員としての資質、能力、人物、適性、健康等について判断し選考した。

採用者は、小学校教諭79名、中学校教諭50名、養護教諭5名、学校事務職員3名、学校栄養職員2名である。

採用者は小学校教員、中学校教員とも前年度が過去最低数であったが、今年度は47名の増と好転した。

教職経験者については、平成5年度採用予定者より受験資格年齢を引き上げた結果40歳以上45歳未満の者が15名志願したが、名簿登載者はなかった。

一定期間教職経験を積んだ後、へき地校勤務とさせることを意図し、都市、へき地への配置を多くした。特に小・中学校とも、初任者研修のため、大・中規模校への配置を多くした。

(3) 交流について

都市・平地、へき地各地域の実態に応じた計画的な交流を進めるとともに、短期間勤務者の転補を抑制す

ることにより、教育活動に専念できるよう配慮した。

(4) 昇任について

管理職への昇任は校長79名（小学校61名、中学校18名、前年度比14名減）、教頭90名（小学校60名、中学校30名、前年度比16名減）、計169名で前年度に比べ30名の減となった。

女子教員の管理職登用に意を用いた。

小学校長8名、中学校長0名、小学校教頭11名、中学校教頭3名を登用した。

教頭の昇任は受考者896名に対し、90名で昇任率は10.0%となっている。

(5) 退職について

平成14年度末の退職者件数は288名で前年度に比べ16件の減である。

退職者の内訳は定年退職者167名、勸奨による退職者86名、普通退職者35名となっている。

退職者中、校長は78名（小学校56名、中学校22名、市立養護学校0名）、教頭は2名となっている。

3 教育職員の免許

(1) 教育職員免許状の授与状況

平成14年度中に本県で授与した教育教員免許状は、総数で2,549件あり前年度より14件減となっている。

普通免許状は、前年度より23件減って2,442件、臨時免許状は37件増で107件となっている。

普通免許状のうち平成14年度大学卒業者の占める割合は、約80%で、1,965件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	19件
同 一種免許状	265件
同 二種免許状	73件
中学校教諭専修免許状	63件
同 一種免許状	491件
同 二種免許状	52件
高等学校教諭専修免許状	74件
同 一種免許状	721件
幼稚園教諭専修免許状	3件
同 一種免許状	29件
同 二種免許状	531件
盲学校教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	0件
同 二種免許状	5件
聾学校教諭一種免許状	0件
同 二種免許状	24件
養護学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	31件
同 二種免許状	18件
養護教諭専修免許状	1件
養護教諭一種免許状	24件
同 二種免許状	14件
小学校助教諭免許状	74件
中学校助教諭免許状	3件
高等学校助教諭免許状	16件

幼稚園助教諭免許状	3件
盲学校助教諭免許状	1件
聾学校助教諭免許状	1件
養護学校助教諭免許状	5件
養護助教諭免許状	4件

(2) 免許法認定講習の実施状況

対象者	開催地	時期	開設 単位数	受講者 数	付与 単位数
小学校教員	福島市	14年 7・8月	10	618	618
中学校教員			9	132	130
養護教員			3	114	114
高等学校教員			1	13	13
養護学校等教員			1	170	169
幼稚園教員			1	40	9
聾学校教員			1	109	109
盲学校教員			1	66	66
計					27

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立・中学校の設置・廃止

	廃止 (平成15.3.31)	設置 (平成15.4.1)
小学校	船引町立移小学校 塙町立那倉小学校 鮫川村立渡瀬小学校 鮫川村立富田小学校 鮫川村立西野小学校 鮫川村立西山小学校 いわき市立小川小学校戸渡分校	船引町立緑小学校 会津若松市立小金井小学校
中学校	岩代町立新殿中学校 岩代町立旭中学校	岩代町立岩代中学校

5 学校防火

学校防火は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え、学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県の教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・学校防火計画並びに防火診断の内容と方法の改善
- ・木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・児童生徒並びに教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練

の強化

平成14年度に学校火災が5件発生したことは誠に残念であり、今後は学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火または放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の整備状況を見ると、その多くが機械整備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

平成14年度の学校防火査察の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 平成14年度公立小・中・養護学校防火診断視察項目

- 防火体制について
- 警備員、代行員の勤務状況について
- 火気関係設備及び取り扱い状況について
- 電気設備について
- 消防用設備及びその管理について
- その他

- ・諸表簿の管理状況
- ・毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火査察の実施と指導

学校防火診断実施要項の趣旨を徹底させた。

防火・防犯上から休日・祝日及び夜間における宿日直代行員並びに機械警備等の設置の状況を把握した。

県教育庁教育振興課が中心となって、各地域の消防署の協力を得て、小学校22校、中学校10校を会場として、周辺校の防火管理者601人の参加により、防火診断を実施し防火診断方法についての理解を深め、各学校における防火診断の徹底と防火体制の強化を図った。

査察診断の結果に基づき、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会並びに各小・中・養護学校に指導した。

(3) 学校防火管理の状況

平成14年度における校舎建築構造及び管理の状況は、次のとおりである。

学校種別		小学校	中学校	計
建築構造	耐火構造	525	234	759
	木造	43	10	53
警備の状況	宿日直代行	2	1	3
	巡回	3	0	3
	機械警備	542	236	778
	無人化	21	7	28

市立養護学校は中学校に含む。
休校中の分校は含めない。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

へき地学校

教育事務所	級地	4 級		3 級		2 級		1 級		準 1 級		特 地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小 学 校	県 北							3	1	4		2		16		25	1
	県 中					2	2	14	6	9	1	11		19		55	9
	県 南			1	1	2		5		3		2		5		18	1
	会 津					5		7	1	4		2		9		27	1
	南 会 津			1		6	2	4	3	1	1	4		2		18	6
	相 双					3		6						4		13	0
	い わ き					4	2	7	1	1		1		8	1	21	4
	計	0	0	2	1	22	6	46	12	22	2	22	0	63	1	177	22
中 学 校	県 北							3						5		8	0
	県 中					1		4		4		4		4		17	0
	県 南							1		1				2		4	0
	会 津					3		4		1				6		14	0
	南 会 津			1		5		1		1		2		1		11	0
	相 双					2		3						1		6	0
	い わ き					4		6		1				3		14	0
	計	0	0	1	0	15	0	22	0	8	0	6	0	22	0	74	0
総 計	0	0	3	1	37	6	68	12	30	2	28	0	85	1	251	22	
		0		4		43		80		32		28		86		273	

特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数

小中別 項	小 学 校												中 学 校												合 計														
	学校数			児童数			学級数			教員数			学校数			生徒数			学級数			教員数			学校数			児童生徒数			学級数			教員数					
	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計	本	分	計			
4 級 地																																							
3 級 地	2	1	3	71	6	77	8	2	10	15	2	17	1	1	2	13	13	2	2	6	6	3	1	4	84	6	90	10	2	12	21	2	23						
2 級 地	22	5	28	1,120	55	1,175	94	13	107	169	14	183	15	15	30	595	595	44	44	129	129	37	6	43	1,715	55	1,770	138	13	151	298	14	312						
1 級 地	46	12	58	2,807	121	2,928	227	22	249	399	24	423	22	22	44	1,784	1,784	89	89	230	230	68	12	80	4,591	121	4,712	316	22	338	629	24	653						
準 1 級 地	22	2	24	1,615	29	1,644	121	4	125	206	4	210	8	8	16	643	643	29	29	78	78	30	2	32	2,258	29	2,287	150	4	154	284	4	288						
特 地	22		22	2,071		2,071	133		133	233		233	6	6	12	1,048	1,048	40	40	86	86	28		28	3,119		3,119	173		173	319		319						
教育事務所指定	63	1	64	6,145	18	6,163	365	2	367	617	3	620	22	22	44	4,336	4,336	161	161	343	343	85	1	86	10,481	18	10,499	526	2	528	960	3	963						
合 計	177	22	199	13,829	229	14,058	948	43	991	1,639	47	1,686	74	74	148	8,419	8,419	365	365	872	872	251	22	273	22,248	229	22,477	1,313	43	1,356	2,511	47	2,558						

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、かつ分校も多いため複式学級が多い。従って教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

へき地教育の人事行政

「平成14年度人事異動方針」の2において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本としてかけ、これを受けて平成14年度小・中・養護学校教職員人事実施要項2の1において「交流のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」こととし、へき地と各地域との計画的な交流の推進を図った。

また、へき地派遣制度によるへき地派遣、へき地学校

勤務で優秀な実績をあげた者の管理職への抜てきなどの施策もあわせて実施した。

ア へき地交流

ア) 地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

- 特A地域 旧4市（福島、郡山、会津若松、平）の学校
- A地域 市、主要町村の学校
- B地域 特A、A及びC地域以外の学校
- C地域 へき地の学校（人事委員会、教育事務所の各指定学校）

イ) 交流基準

- ㊦ へき地学校勤務については次の基準による。教員については、その在職期間中に別表1による期間勤務する。ただし、会津ブロック外出身

者の会津ブロックへき地学校勤務年数は、別表2による。

昭和28年以降採用者のうちで、へき地学校勤務の経験のない者については、計画的にへき地学校へ転出させる。ただし、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、採用年度にかかわらず計画的にへき地学校に転出させる。すでにへき地経験を有する者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については、優先的に考慮する。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地				
		特地準1級地	1級地	2級地	3級地	4級地
勤続年数	4年以上	3年以上		2年以上		

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数(新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特地、準1級地 1級地以上
	3年以上	2年以上

① へき地派遣制度

へき地校勤務満了教員で、都市又は平地の学校に勤務する教員のうちから、成績優秀な中堅教員を厳選して計画的にへき地学校に派遣し、その教育実践をとおしてへき地教育振興に役立てるとともに、当該教員が相当期間勤務し、その勤務成績が良好な場合は、抜てき人事等の優遇措置を講ずることとした。相当期間とは3年以上である。

昭和59年度末からは特に東白川地区、南会津地区を重点地区に設定し、教育組織の充実強化を図った。

へき地学校教職員の経済的優遇策

ア へき地手当等の支給

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

へき地手当

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて次のとおり支給される。

級地	手 当 額	支給割合
5 級 地	(給料の月額 + 教職調整額 + 扶養手当) × 支給割合	25 / 100
4 級 地		20 / 100
3 級 地		16 / 100
2 級 地		12 / 100
1 級 地		8 / 100
準 1 級 地		4 / 100

(注) 給料の月額 = 給料の月額 + 給料の調整額

へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

- ・異動日から5年間 (給料の月額 + 教職調整額 + 扶養手当) × 4 %
- ・5年を経過した後 (給料の月額 + 教職調整額 + 扶養手当) × 2 %

イ へき地学校勤務職員の昇給期間短縮

へき地学校等に次の期間を勤務した教職員に対して適用される。

勤務年数 級別区分	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上
5級・4級	6月短縮	12月短縮	-	-
3級・2級	3月短縮	9月短縮	12月短縮	-
1級・準1級	3月短縮	6月短縮	9月短縮	12月短縮

へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

へき地学校の教職員配置の改善を図ること。

へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。

また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。

都市・平地とへき地との人事交流を推進すること。

へき地勤務未経験者を解消するため、これまで計画的に平地、へき地の交流を推進してきた。今後いっそう計画的、広域的な交流を推進する必要がある。

第2節 学校教育

1 概 要

(1) 指導行政の基本方針

今年度は、平成22年度を目標年度とする10年間の長期的な展望によって策定された「第5次福島県長期総合教育計画 - 新世紀ふくしまの学び・2010 -」の2年目に当たる。「人・地域・自然と共に個を磨く新世紀ふくしまの教育」を基本目標に、「児童生徒の夢がかなうふくしまの教育」の実現を目指す

人と共に 地域・自然と共に
新世紀と共に 学びの環境づくり

の4つの視点のもと、本県学校教育の推進を図ってきた。

具体的には、今年度から始まった完全学校週5日制の下

新しい教育課程を考慮し、「基礎・基本の定着と学力向上」、「生徒指導の充実」、「個に応じた進路指導の改善・充実」、「豊かな自然と触れ合う機会の充実」、「環境教育の推進」等の観点から施策を展開した。

(2) 指導組織

教育指導課長を中心に、担当主幹、主任指導主事ほか12名の指導主事等と各教育事務所指導課長、指導主事、各市町村各教育指導主事及び教育委員会委嘱学校教育指導委員(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (指導課長を含む)	8	9	7	9	5	7	8	53
市・町村教育委員会 指導主事等数	12	26	3	7	0	3	15	66
教科等指導委員数 (養護教育を含む)	7	7	8	7	10	8	7	54
生徒指導委員数	3	4	2	3	1	2	2	17
学校体育指導委員数	2	2	1	2	1	1	1	10
学校保健指導委員数	1	1	1	1	1	1	1	7

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、新しい学力観に基づく教育活動を推進するとともに、本年度も、基礎学力の向上、不登校の減少を図るべく、教育課程の改善及び学習指導、生徒指導の充実に努めた。

教育内容・方法の改善・充実に努める。

ア 広報誌「教育福島」で学校教育指導の重点や具体的課題を明確にし、改善に役立つ実践例等を掲載した。

子供の夢がかなう福島教育

子どもの夢がかなう福島教育の推進

(4・5月号)

子どもの夢がかなう福島教育の推進 (6月号)

子どもの夢がかなう福島教育の推進 (9月号)

子どもの夢がかなう福島教育の推進

(11・12月号)

イ 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、教員の指導力の向上と学習指導要領の趣旨の実現を図った。

対象者 - 校長・教頭及び教諭

ウ 福島県小・中学校教育研究会との共催で教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

エ 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

教育課程研究指定校(小学校各1校)

生徒指導総合連携推進事業(1町)

幼稚園における道徳性を培う活動等の充実にに関する調査研究(2町)

幼稚園における子育て支援活動の総合推進事業

(1市)

人権教育に関する学習教材等の状況調査

学校におけるボランティア等活用推進実践研究

(1小学校、5中学校区)

道徳的実践活動学習教材の研究開発

オ 道徳的実践活動推進事業、道徳教育体験活動推進事業を指定し、道徳教育の改善充実に努めた。

道徳的実践活動支援事業(1地区)

道徳教育体験活動推進事業

(小学校1校、中学校1校)

カ 指導担当者の資質向上のため研究の充実に努めた。

指導担当者研究協議会(2回)

指導課長会議(2回)

教職員の資質と指導力の向上に努めた。

ア 小学校、中学校初任者研修の実施

イ 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施

ウ 授業改善研修会の実施

エ 中央研修講座への派遣

オ 英語教育指導者講座への派遣

カ 教員海外派遣の実施

キ 長期研修生(内地留学)の派遣

ク 教育研究団体に対する援助と指導

ケ 教職員研究論文の募集

へき地教育担当教員、免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

ア へき地教育担当教員研修会

イ へき地小規模学校教育研究大会

ウ 中学校免許外教科担任教員研修会

幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

ア 幼稚園等新規採用教員研修

イ 幼稚園教育課程理解推進事業中央協議会

ウ 幼稚園教育課程研究協議会

エ 保育技術協議会

オ 幼稚園実技講習会

カ 園長等運営管理協議会

生徒指導の充実に努めた。

ア 各種研修会を実施し、生徒指導の充実に努めた。

生徒指導担当指導主事研究協議会(2回)

イ 研究地域を指定し、生徒指導の充実・改善に努めた。

生徒指導総合連携推進事業(1市)

ウ ハートウォームプラン事業を実施した。

いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

教育相談体制の充実

・学校教育相談員の設置(各教育事務所に配置)

・フリーダイヤル電話相談(ダイヤルSOSの設置)

学校の取組みに対する支援

・ハートウォーム出前講座

・スクールカウンセラーの配置

・「心の教室相談員」調査研究発表

・スクーリングサポートプログラム(SSP)

・マルチメディアを活用した補充指導についての調

査研究

教職員の資質向上

- ・カウンセリング研修会の実施（県内7会場3日）
 - ・新任生徒指導担当教員研修会（2班各2日）
- 教育相談専門研修並びに関係機関との連携強化
- ・教育相談関係者連絡協議会（1日）
 - ・心の教室相談員連絡協議会（県内7会場1日）

社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

ア 情報化社会への対応

- 学校におけるコンピュータ等の整備（地教委）
- 情報化対応学校支援事業の実施

イ 国際化への対応

- 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施
- 120名の外国JET青年の受入れ（96名を市町村教育委員会が配置）

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修講座

趣 旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

主 催 文部科学省

会 場 独立行政法人教員研修センター

期間及び参加者

校長・教頭等研修講座

第1回 6月18日(火)～7月9日(火)

- 福島県立喜多方商業高等学校校長 湊 耕一郎
- 福島県立磐城農業高等学校教頭 小澤 義喜

第2回 7月16日(火)～8月6日(火)

- 三春町立桜中学校校長 滝田 文夫
- 原町市立原町第一中学校教頭 井上 恭一
- いわき市教育委員会指導主事 阿部 友紀

第3回 1月8日(水)～1月29日(水)

- 東和町立木幡第二小学校校長 久賀 孝子
- 会津坂下町立片門小学校教頭 神田 優子
- 福島県教育庁教育指導課指導主事 目黒 憲

第4回 2月12日(水)～3月5日(水)

- 二本松市立二本松南小学校教頭 小林 淑人
- 福島県教育庁教育指導課指導主事 田中 靖則
- 福島県教育センター指導主事 皆川 正信

中堅教員研修講座

第1回 5月7日(火)～6月7日(金)

- 郡山市立富田東小学校教諭 金澤 秀樹
- 猪苗代町立吾妻小学校教諭 菅井 明人
- 福島市立福島第四中学校教諭 佐久間和彦
- 棚倉町立棚倉中学校教諭 高橋 顕
- 福島県立双葉翔陽高等学校教諭 松村 茂郎

第2回 8月20日(火)～9月20日(金)

- 福島県立安積高等学校教諭 太田 孝
- 福島県立福島女子高等学校教諭 安倍真一郎
- 福島県立石川高等学校教諭 鈴木 仁

第3回 10月1日(火)～11月1日(金)

- 南郷村立南郷第一小学校教諭 増島 哲也
- 鹿島町立鹿島小学校教諭 村田 権一
- 須賀川市立第三中学校教諭 春山 晃祥
- いわき市立中央台南中学校教諭 小泉 俊夫

第4回 11月19日(火)～12月20日(金)

- いわき市立平第一小学校教諭 林 和樹

(2) 教員海外派遣

主 催 独立行政法人教員研修センター
派遣種別

ア 英語担当教員海外研修

研修内容

語学及び諸外国の教育、文化・社会等の諸事情
参加者及び主な視察国

ア 英語担当教員海外研修

氏名	所 属	職名	派遣先	期間
熊坂吉徳	東和町立東和中学校	教諭	ニュージーランド	6か月
高瀬永志	飯館村立飯館中学校	教諭	アメリカ	6か月
箭内博貴	県立郡山高等学校	教諭	カナダ	6か月
鈴木 聡	県立磐城高等学校	教諭	アメリカ	6か月

(3) 各種研修会

福島県公立学校長研修会全体研修会（公立小・中学校長、県立学校長）

ア 主 催 福島県教育委員会

イ 会 場 県文化センター

ウ 期日・参加人数 計880名

5月14日(火)

- 小学校 544名
- 中学校 238名
- 私立養護学校 2名
- 県立学校 96名

福島県公立学校長研修会地区別研修会（公立小・中学校長、県立学校長）

ア 主 催 福島県教育委員会

イ 管内・期日・会場・参加人数【参加891名】

県	期日	会場	参加人数
北	6月24日(月)	【自治会館】	183名
中	7月15日(月)	【ユラックス熱海】	234名
南	7月15日(月)	【白河地域職業訓練センター】	77名
会津	7月2日(火)	【県立会津大学】	144名
南会津	7月15日(月)	【田島町中央公民館】	32名
相双	6月17日(月)	【原町市福祉会館】	88名
いわき	7月1日(月)	【県いわき合同庁舎】	133名

公立小・中・養護学校新任校長研修会
 ア 主催 福島県教育委員会
 イ 会場 福島県教育センター
 ウ 期間・参加人数
 6月3日(月)～6月5日(水) 小学校 65名
 中学校 26名
 工 講師
 日本銀行福島支店長 森川英治

公立小・中・養護学校新任教頭研修会
 ア 主催 福島県教育委員会
 イ 会場 福島県教育センター
 ウ 期間・参加人数
 5月20日(月)～5月22日(水) 小学校 61名
 中学校 30名
 工 講師
 元福島第四小学校長 斎藤良真

市町村公立小・中・養護学校教頭研修会
 ア 主催 福島県教育委員会
 イ 会場 福島県教育センター
 ウ 期間・参加人数
 7月11日(木)～7月12日(金) 小学校 51名
 中学校 31名
 工 講師
 福島大学附属教育実践総合センター
 助教授 宮前 貢

公立小・中・養護学校新任教務主任研修会
 ア 主催 福島県教育委員会
 イ 期間・会場
 第1回 5月(1日) 各教育事務所
 第2回 11月(1日) 各教育事務所
 ウ 参加人数 第1回:114名
 (小学校72名、中学校42名)
 第2回:114名
 (小学校72名、中学校42名)

公立小・中学校経験者研修(、)
 ア 経験者研修
 主催 福島県教育委員会
 期間・会場
 ㊦ 4月～11月 教育事務所
 ㊧ 5月～10月 勤務校
 ㊨ 6月～11月 教育センター
 (小) 10月15日(火)～16日(水) 10月21日(月)～22日(火)
 (中) 9月9日(月)～10日(火)
 9月30日(月)～10月1日(火)
 10月7日(月)～8日(火)
 参加人数 (小学校116名、中学校151名)
 講師
 各教育事務所依頼の外部講師

イ 経験者研修
 主催 福島県教育委員会
 期間・会場
 ㊦ 4月～11月 教育事務所
 ㊧ 5月～10月 勤務校

㊨ 7月～2月 教育センター
 (小) 6月17日(月)～18日(火) 6月24日(月)～25日(火)
 7月1日(月)～2日(火)
 (中) 10月28日(月)～29日(火) 11月18日(月)～19日(火)
 11月25日(月)～26日(火) 12月2日(月)～3日(火)

参加人数 (小学校274名、中学校173名)
 講師
 各教育事務所依頼の外部講師

公立小・中学校初任者研修
 ア 校内における研修 60日間
 各学校で年間を通じて計画し、実施する。

イ 校外における研修 30日間
 ㊦ グループ研修 A
 (10日、各教育事務所の計画による)

- ・一般研修 1日間 学年始休業中
- ・授業研修 3日間 1～2学期中
- ・授業研修 1日間 協力校により1～2学期中
- ・へき地校研修 1日間 2学期中
- ・カウンセリング研修 3日間 2学期中

・養護学校研修 1日間 3学期中
 ㊧ グループ研修 B
 (14日、各市町村教育委員会の計画による)

- ・一般研修 1日間 1学期中
- ・研究発表集会等研修 7日間 1～2学期中
- ・ボランティア活動研修 3日間 1～3学期中

- ・地場産業、公共施設等研修 2日間 2～3学期中
- ・他校種園参観研修 1日間 3学期中

㊨ 宿泊研修
 (6日、県教育委員会、教育センターの計画による)
 ・国立磐梯青年の家 3日間 6月

- ・教育センター 3日間 1～2月中

ウ 参加者数
 ㊦ 小学校 75名
 ㊧ 中学校 50名

工 講師
 大原病院附属清水病院臨床心理士 酒井芳子
 公立小・中・養護学校新採用事務職員研修会

ア 主催 福島県教育委員会
 イ 期 日 4月24日～4月26日
 ウ 会場 県教育センター
 工 参加人数 3名 (小学校1名、中学校2名)
 ・平成14年度公立小・中・養護学校に採用された事務職員

事務職員研修会
 ア 主催 福島県教育委員会
 イ 期 日 5月7日～5月9日
 ウ 会場 県教育センター
 工 参加人数 5名 (小学校2名、中学校3名)

- ・平成9年度採用事務職員及び平成8年度以前に採用された事務職員で、これまで本研修会に参加していない者

事務職員研修会

- ア 主 催 福島県教育委員会
- イ 期 日 7月3日～7月5日
- ウ 会 場 県教育センター
- エ 参加人数 43名 (小学校33名、中学校10名)
- ・昭和56年度採用事務職員及び昭和57年度採用で、前年度本研修会を受講しなかった事務職員

学校教育指導委員研修会

- ア 主 催 福島県教育委員会
- イ 期 日 5月8日(1日)
- ウ 会 場 各教育事務所の指定する会場
- エ 参加人数 372名

(4) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

筑波大学

- ア 後 期 平成14年10月1日～平成15年3月31日
- 矢吹町立善郷小学校教諭 清野 孝
- 会津若松市立第二中学校教諭 兼松 満朗

上越教育大学

- ア 平成14年4月1日～平成16年3月31日
- 郡山市立郡山第二中学校教諭 渡邊 真魚
- 葛尾村立葛尾中学校教諭 長階 哲哉
- イ 平成13年4月1日～平成15年3月31日
- 郡山市立明健小学校教諭 佐藤 収一
- いわき市立中央台南小学校教諭 梅原 広

福島大学

- ア 平成14年4月1日～平成15年3月31日
- 福島市立金谷川小学校教諭 佐藤 雅彦
- 同 後藤 一則
- 同 新美賢一郎
- 同 結城 克典
- 同 伊藤 健一
- 同 横田 安広
- 福島市立松陵中学校教諭 小針美由紀
- 同 丑木 香織
- 同 田中 淳一
- イ 平成13年4月1日～平成15年3月31日
- 福島市立金谷川小学校教諭 堀江 茂樹
- 同 佐久間 誠
- 同 湯田 昌樹
- 同 宮田 雄介
- 福島市立松陵中学校教諭 佐藤 智晃
- 同 柏倉 弘人
- 同 秋山 了

(5) 教員体験研修

- 主 催 福島県教育委員会
- 期 間 6か月又は4か月
- 派遣者及び派遣先

学 校 名	職	氏 名	派 遣 先
福島市立福島第一中学校	教諭	菊池和加子	福島県社会福祉協議会
福島市立西信中学校	教諭	島 貫 健	福島市社会福祉協議会
川俣町立富田小学校	教諭	後藤 健一	県国際交流協会
国見町立小坂小学校	教諭	高野 孝男	(株)辰巳屋
郡山市立郡山第二中学校	教諭	中山 弘	(株)ホテルハマツ
須賀川市立第三中学校	教諭	須藤 瑞穂	ホテルラフィエーネ郡山
大越町立下大越小学校	教諭	田 栗 良久	(株)ホテルハマツ
泉崎村立泉崎小学校	教諭	大塚 雄一	(株)ホテルサンルート白河
猪苗代町立猪苗代小学校	教諭	若林 勉	(株)リオンドール
会津高田町立第一中学校	教諭	角田 一昭	(株)会津天宝醸造
南郷村立南郷第二小学校	教諭	塩生 文子	JA会津みなみ
原町町立原町第二小学校	教諭	佐藤 伸洋	JAそうま
小高町立小高中学校	教諭	遠藤 茂樹	(株)Jヴィレッジ
いわき市立江名中学校	教諭	山際 裕之	(株)いわや
いわき市立鹿島小学校	教諭	野口 浩文	(株)いわや

(6) 教育研究奨励

主 催 福島県教育委員会

応募資格

福島県公立幼稚園・小・中・盲・聾・養護学校(高等部を除く)の教職員

審査委員

福島大学教育学部教授

森 知 高

同

浜 島 京 子

福島学院短期大学非常勤講師

近 藤 博 之

元福島市立清明小学校長

鈴 木 康 平

入 賞 者

ア 特 選

氏 名	所 属
会津若松市立一箕小学校	団 体
遠 藤 幸 栄	福島市立蓬萊中学校
稲 毛 光 司	月館町立小手小学校
郡山市立郡山第二中学校	団 体

イ 入 選

氏 名	所 属
塙 町 立 塙 小 学 校	団 体
いわき市立平第二小学校	団 体
本 多 環・神尾孝枝	川俣町立川俣南小学校
小 野 真 教	福島市立御山小学校
物 井 民 子	郡山市立御館小学校駒板分校
南 館 千 一	郡山市立日和田小学校
田 島 裕 司	いわき市立田人第一小学校
逸 見 健 二	保原町立保原小学校

ウ 奨励賞

氏名	所属
児玉 健治	いわき市立泉小学校
今野 昌樹	相馬市立中村第二小学校
橘 成美	田島町立針生小学校
柳 哲雄	棚倉町立棚倉中学校

県中管内 9月25日(水)
 県南管内 9月24日(火)
 会津管内 9月9日(月)
 南会津管内 9月5日(木)
 相双管内 9月4日(水)
 いわき管内 9月4日(水)

実施教科等
 教育課程一般、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、
 図画工作、家庭、体育、道徳、特別活動、総合的な学習
 の時間

参加者数 568名

<平成14年度福島県中学校教育課程研究協議会>

主催
 福島県教育委員会
 実施期間

県北管内 9月26日(木)
 県中管内 10月22日(火)
 県南管内 9月6日(金)
 会津管内 9月12日(木)
 南会津管内 9月18日(水)
 相双管内 9月5日(木)
 いわき管内 9月11日(水)

実施教科等

教育課程一般、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、
 保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、特別活動、総合
 的な学習の時間

参加者数 261名

3 教育課程

(1) 平成14年度小学校教育課程研究協議会

主催 文部科学省
 期日 1班：平成14年11月25日・26日
 2班：平成14年11月28日・29日
 会場 虎ノ門ホール他
 本県からの参加者 13名

(2) 平成14年度中学校教育課程研究協議会

主催 文部科学省
 期日 1班：平成14年12月5日・6日
 2班：平成14年12月10日・11日
 会場 虎ノ門ホール他
 本県からの参加者 12名

(3) 平成14年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

<平成14年度福島県小学校教育課程研究協議会>

主催
 福島県教育委員会
 実施期間
 県北管内 9月17日(火)

(4) 各種研究学校の指定

教育課程研究指定校

管内	学校名	校長名	研究主題	備考
県北 ㊦	福島市立 福島第三小学校	高村正壽	やわらかな感性で、しなやかに学び合う子 供の育成～確かな学力の形成を目指した、 教科と総合的な学習の連携～	指定期間 平成14年度

幼稚園における道徳性を培う活動等の充実に関する調査研究

管内	市町村名	園長名	研究主題	備考
県南 ㊦	棚倉町		幼児期における道徳性の芽生えを培うため の指導や援助の在り方はどうあればよいか	指定期間 平成13年～ 14年度
県北 ㊦	本宮町		障害のある幼児・児童との交流を通して、 道徳性の芽生えを培う	指定期間 平成14年～ 15年度

4 道徳教育

(1) 道徳教育

道徳教育連携・推進講座

- (ア) 主 催 文部科学省・独立行政法人教員研修センター
- (イ) 会 場 独立行政法人教員研修センター
- (ウ) 期 日
第 1 回 平成14年 9月24日(火)～27日(金)
第 2 回 平成14年11月 5日(火)～ 8日(金)

第1回受講者

氏 名	勤 務 先	職 名
高 羽 博 樹	いわき市立湯本第二中学校	校 長
箭 内 清 和	白河市立白河中央中学校	教 頭
大 友 誠	県 北 教 育 事 務 所	指 導 主 事

第2回受講者

氏 名	勤 務 先	職 名
武 藤 佳 男	三 春 町 立 岩 江 小 学 校	校 長
星 尚 子	田 島 町 立 針 生 小 学 校	教 頭
荒 昌 利	教 育 指 導 課	指 導 主 事

道徳教育連携・推進講座（地区別研修講座）

- (ア) 主 催 文部科学省、独立行政法人教員研修センター、福島県教育委員会
- (イ) 会 場
各管内ごとに設定（8会場……県中2会場）
- (ウ) 期 日
各管内ごとに3日を設定
（始期6月13日、終期11月25日）
- (エ) 参加者数
小学校 252名 中学校 125名 計 377名
小学校教育研究会道徳部会
- (ア) 研究主題
「心豊かでよりよく生きることを求め実践できる子供を育む道徳の指導はどうあればよいか」
- (イ) 主 催
福島県教育委員会、福島県小中学校研究会
関係市町村教育委員会
- (ウ) 会場・期日
地 区 各地区ごとに設定（16会場）7月～10月
中学校教育研究会道徳部会
- (ア) 研究主題
「道徳的価値の自覚を深め、生徒一人一人によりよく生きるための実践的な力を育む道徳教育はどうあればよいか」
- (イ) 主 催
福島県教育委員会、福島県中学校教育研究会
関係市町村教育委員会
- (ウ) 会場・期日
地 区 各地区ごとに設定（16会場）7月～10月

(2) 児童生徒の心に響く道徳教育推進事業

趣 旨

各学校や地域の実態に応じ、地域人材の活用や体験活動等を生かした多様な取組の工夫等、各学校や教育委員会の創意工夫を生かした児童生徒の心に響く道徳教育を推進するための実践研究を行い、もって道徳教育の充実に資する。

推進地域名：本宮町立本宮第一中学校区

推進学校名：本宮第一中学校、本宮小学校、本宮まゆみ小学校

研究課題：「地域の人材を活用した道徳教育の充実」

研究期間：平成14年度、15年度

推進地域名：矢祭町（東館小学校区および矢祭中学校区）

推進学校名：東館小学校、矢祭中学校

研究課題：「体験活動等を生かした道徳教育の充実」

研究期間：平成14年度、15年度

5 特別活動

主な研修及び行事

県小学校教育研究会特別活動部会

(ア) 主 催

県教育委員会、県小学校研究協議会、開催市町村教育委員会

(イ) 研究主題

望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、豊かな人間性や社会性を育てる特別活動の指導の在り方。

(ウ) 県研究協議会

期 日 平成14年度10月22日(火)

会 場 二本松市男女共生センター

県中学校教育研究会特別活動部会

(ア) 主 催

県教育委員会、県中学校教育研究会、開催市町村教育委員会

(イ) 研究主題

望ましい集団活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、たくましく生きる力を育む特訓活動の指導はどうあればよいか。

～互いに認め合い、個が生きる学級活動の指導の指導～

(ウ) 県研究協議会

期 日 平成14年10月17日(木)

会 場 塩川町立塩川中学校

6 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

指定地域による研究推進

喜多市

指 定 文部科学省、生徒指導総合連携推進事業
平成14～15年度

生徒指導に関する研修会（カウンセリング研修会）

期 日 各教育事務所ごとに9月～10月中旬に3日間実施

対 象 公立小・中学校の教員392名（初任者含む）
生徒指導推進会議

文部科学省主催

期 日 平成14年11月11日(月)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者 県教育庁教育指導課指導主事 山内 正吉
県教育センター教育相談チーム指導主事

水野 晴夫

会津教育事務所指導主事 佐藤 玄

福島市立吾妻中学校長 西岡 茂

喜多方市教育委員会指導主事 齋藤 文泰

新任生徒指導担当教員研修会

期 日 平成14年4月24日(水)～4月25日(木)〔1班〕

平成14年4月25日(木)～4月26日(金)〔2班〕

会 場 福島県教育センター

参加者 計140名

生徒指導総合研修講座

期 日 平成14年7月22日(月)～8月9日(金)

会 場 独立行政法人教員研修センター

参加者 いわき市立中央台南小学校教諭

大沼 廣記

新地町立尚英中学校教諭 反畑 増生

勿来工業高等学校教諭 江尻 雅彦

(2) 進路指導

進路指導講座（中央講座）

(ア) 主 催 文部科学省・独立行政法人教員研修センター

(イ) 会 場 筑波大学

(ウ) 期 間 平成14年6月24日(月)～6月28日(金)

(エ) 参加者 伊南村立伊南中学校教諭 小林 伸明

双葉町立双葉中学校教諭 渡邊 守

いわき市立中央台南中学校教諭

角田 健司

中・高進路指導研修会

(ア) 主 催 福島県教育委員会

(イ) 会 場 福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

9月2日(月)～9月3日(火) 中学校 30名

高等学校 20名

(エ) 講 師 千葉商科大学助教授 鹿嶋研之助

7 幼稚園教育

本年度公立幼稚園数233園であった。学級数は8学級減少し、幼児数の減少から少人数保育になっているところが多い。県全体の平均学級園児数は、20.0人である。5歳児の就園率は、73.3%で（全国平均59.9%）東北第2位、全国でも4位となっている。幼稚園未設市町村の解消や就園率の地域格差是正、3年保育、その他混合保育、預かり保育など課題も多い。

兼任園長等を対象とした「園長等運営管理協議会」をはじめとして、「保育技術協議会」、「実技講習会」、「新規採用教員研修会」などの経験や職能に応じた研修により教員の資質の向上を図った。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育

委員会、福島県公立幼稚園教育研究会並びに福島県全私立幼稚園協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程理解推進事業都道府県協議会

主 催

福島県教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会

期 日

平成14年10月4日～10月18日のうち1日

会 場 (県内6ブロック)

県北、県中、県南、会津（南会津）、相双、いわき

研修主題

統一協議主題

幼稚園において、教師が、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしていくためには、どのようなかわりが必要か。

分科会協議主題

A 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとするようになるためには、どのような教師の関わりが必要か。

B 身近な物や遊具に興味をもち、考えたり、試したりして工夫して遊ぶようになるためには、どのような教師のかかわりが必要か。

C 絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせるようになるためには、どのような教師のかかわりが必要か。

D 高齢者をはじめ地域の人々など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみの気持ちをもつようになるためには、どのような教師のかかわりが必要か。

参加者数 1,107名（6地区合計）

(2) 幼稚園教育課程理解推進事業中央研修会

主 催 文部科学省

期 日 平成14年12月11日～12日

会 場 虎ノ門ホール

本県からの参加者 11名

(3) 保育技術協議会

主 催 文部科学省、福島県教育委員会

期 日 平成14年7月31日～8月2日

会 場 福島県教育センター

受講者 39名

内 容 講義、研究協議、実技、演習

(4) 幼稚園実技講習

主 催 福島県教育委員会

期 日 平成14年8月19日～8月22日

会 場 福島大学教育学部附属幼稚園

受講者 30名

内 容 実技、演習

(5) 園長等運営管理協議会

主 催 文部科学省、福島県教育委員会

期 日 平成14年7月15日～16日

会 場 福島県教育センター

受講者 50名

内 容 講義、演習、研究協議、映像による協議

- (6) 福島県幼稚園等新規採用教員研修
- 主催 文部科学省、福島県教育委員会
会場 各教育事務所が定めた場所
勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校
- 日数 園外保育（教育指導課の計画）3泊4日
"（教育事務所の計画）3日間
"（幼稚園・保育園、小学校参観）2日間
園内保育（勤務園）10日間
- 参加者 研修対象者
公立23名、私立129名 計152名
- 内容 講義.....教師の役割、幼稚園教育の現状
演習.....自然の中での遊び
協議.....諸問題、教師のかかわり
実技.....絵本のイメージと遊び、みんなで楽しむ歌やゲーム
参観.....生活科、保育実習
実習.....保育実習
講演.....幼児理解と援助など

8 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校210校で、38.2%、中学校74校で30.3%を占め、小・中学校総数に対して35.8%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

- (1) へき地教育担当教員研修会
- 主催 福島県教育委員会
期日 平成14年4月22日(月)、23日(火)
会場 福島県教育センター
講師 北塩原村立大塩小学校教諭 五十嵐由美
参加者数 58名
- (2) 中学校免許外教科担当教員研修会
- 主催 福島県教育委員会
期日 平成14年5月8日(水)～5月10日(金)
平成14年5月13日(月)～5月15日(水)
会場 福島県教育センター
講師 中学校教諭他
実施教科 音楽、美術、技術、家庭
参加者数 音楽1名、美術12名、技術23名、家庭37名

- (3) 全国へき地教育研究大会
第49回全国へき地教育研究大会滋賀大会
- 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟、滋賀県教育委員会
期日 平成14年10月10日(木)～11日(金)
会場 全体会 滋賀県立体育館
分科会 県内13会場
- 研究主題
全国主題
「ふるさとに立ち、たくましく生きる力をもつ、心豊かな子どもの育成」

派遣者氏名

氏名	職名	勤務先
市川一成	教諭	東和町立小幡第一小学校
三戸久司	教諭	いわき市立石住中学校
高橋重義	校長	福島市立佐倉小学校
松田貞夫	校長	福島市立水原小学校
和光幸男	校長	福島市立水保小学校
渡邊勝則	校長	福島市立大波小学校
荒木藤夫	校長	福島市立中野小学校
青木隆雄	校長	福島市立土湯小学校
熊田正臣	校長	福島市立大笹生小学校
高橋寛信	校長	福島市立茂庭小学校
吉田尚	指導主事	県教育庁教育指導課

- (4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会
- 組織及び財政の状況
会長 高橋重義（福島市立佐倉小学校）
会員数 1,504名
平成14年度決算額 1,617,505円
主な事業
県研究大会
・研究主題
「ふるさとを見つめ、自ら創造的に生きる、心豊かな子どもの育成」
・期日 平成14年10月3日(木)
・会場 浪江町立津島小学校
浪江町立津島中学校
・参加者数 344名

9 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

この環境教育を充実させるため、下記の事業を実施した。

- (1) 環境教育コーディネーター派遣事業
- 目的
環境教育を総合的な学習の時間に取り上げる、または取り上げようと計画している学校に対して環境教育コーディネーターを派遣し、教職員には児童生徒の課題意識の持たせ方やカリキュラムの構成、地域との連携の持ち方、児童生徒には環境問題等について、環境教育コーディネーターによる助言指導を行うことによって、環境教育の発展・充実を図る。
- 対象
県内の公立小学校、中学校20校程度
- 講師
大学教授、教育センター指導主事等
- (2) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流
- 主催 福島県教育委員会
群馬県・群馬県教育委員会
新潟県教育委員会

期 日 平成14年7月30日(火)～8月2日(金)
 会 場 福島県南会津郡檜枝岐村「尾瀬沼ヒュッテ」
 参加者数 福島県 県内小・中学生 20名
 群馬県 県内小・中学生 20名
 新潟県 県内小・中学生 20名
 活動内容 ・尾瀬レクチャー ・フィールド活動
 ・意見交換会
 知事報告会 平成14年8月8日(木) 県庁

(3) 第5回全国環境学習フェア
 主 催 文部科学省、石川県、石川県教育委員会
 期 日 平成14年10月9日(水)～11日(金)
 会 場 金沢市文化ホール
 派遣者氏名及び参加者部会等

氏名	職名	勤務先	分散会
紺野真一	教諭	二本松市立安達太良小学校	第A部会 第2分科会
熊田俊彦	教諭	船引町立船引南中学校	第B部会 第1分科会
金成智子	指導主事	福島県教育センター	第C部会 第1分科会

10 教科用図書

(1) 平成15年度使用教科用図書の採択
 公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科書、中学校用教科書ともに継続採択であった。

教科用図書選定審議会

ア 委員 16名

イ 任期 平成14年4月1日～平成14年8月15日

ウ 開催期日 平成14年5月1日

エ 会場 自治会館303会議室

教科書展示会

平成14年6月21日から14日間、県内16教科書センターで開催した。展示会場及び来会者は下記のとおりである。

	採択地区名	展示教科書(該当に印)			展示会場設置場所(該当に印)			来会者 総数
		小・中・高	小・中	高	教科書 センター	分館	その他	
福島教科書センター	信夫、伊達安達地区							105
保原教科書センター	〃							83
二本松教科書センター	〃							63
郡山教科書センター	郡山地区							135
郡山教科書センター福良分館	〃							16
三春教科書センター	田村地区							137
三春教科書センター常葉分館	〃							35
須賀川教科書センター	岩瀬地区							89
須賀川教科書センター長沼分館	〃							26
須賀川教科書センター広戸分館	〃							10
石川教科書センター	石川地区							94
西白河教科書センター	西白河、東白川地区							130
棚倉教科書センター	〃							121
会津若松教科書センター	会津地区							42
喜多方教科書センター	〃							51
会津坂下教科書センター	〃							22
田島教科書センター	〃							55
田島教科書センター南郷分館	〃							38
相馬教科書センター	相馬地区							193
双葉教科書センター	双葉地区							199
いわき教科書センター	いわき地区							101
いわき教科書センター植田分館	〃							69
合 計	(展示会場22箇所) (採択地区10地区)	9	13		16	6		1,814

平成15年度使用小学校教科書採択一覧（採択2年目）

種目 採択地区	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工 作	家庭	保健
信夫・伊達・安達	東 書	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 芸	開隆堂	開隆堂	東 書
郡	山	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	光 村	教 芸	開隆堂	東 書
田	村	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	大日本	東 書	教 芸	日 文	開隆堂
岩	瀬	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 出	教 出	日 文	東 書
石	川	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 出	日 文	開隆堂
西白河・東白川	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	東 書	教 出	日 文	開隆堂
会	津	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 芸	開隆堂	開隆堂
相	馬	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 芸	開隆堂	東 書
双	葉	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 芸	開隆堂	東 書
い	わ	き	光 村	光 村	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 芸	開隆堂	開隆堂

平成15年度使用中学校教科書採択一覧（採択2年目）

種目 採択地区	国語	書写	社会 (地理的 分野)	社会 (歴史的 分野)	社会 (公民的 分野)	地図	数 学	理 科 (第一 分野)	理 科 (第二 分野)	音 楽 (一般)	音 楽 (楽器 合奏)	美 術	保 健 育	技術・ 家庭 (技術)	技術・ 家庭 (家庭)	英 語
信夫・伊達・安達	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 出	教 出	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書
郡	山	光 村	光 村	帝 国	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 芸	教 芸	日 文	学 研	東 書	東 書	東 書
田	村	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	大日本	大日本	教 出	教 出	日 文	東 書	東 書	東 書
岩	瀬	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 芸	教 芸	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書
石	川	東 書	光 村	教 出	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 芸	教 芸	日 文	東 書	開隆堂	開隆堂	東 書
西白河・東白川	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 出	教 出	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書
会	津	東 書	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	東 書	教 出	教 出	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書
相	馬	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 芸	教 芸	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書
双	葉	光 村	光 村	東 書	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 芸	教 芸	日 文	東 書	東 書	東 書	東 書
い	わ	き	教 出	光 村	東 書	東 書	帝 国	東 書	東 書	教 出	教 出	日 文	学 研	東 書	東 書	東 書

(2) 教科用図書無償給与

平成14年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。

また、平成15年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適性かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参 集 範 囲
平成15年2月5日	白河合同庁舎	県 南
平成15年2月6日	原町合同庁舎	相双・いわき
平成15年2月12日	自治会館	県 北
平成15年2月13日	郡山市労働福祉会館	県 中
平成15年2月19日	田島町中央公民館	南 会 津
平成15年2月20日	会津坂下町中央公民館	会 津

11 教育研究団体

(1) 福島県公立幼稚園教育研究会

組織及び財政の状況

会 長 込 堂 啓 子

会 員 数 1,017名

平成14年度決算額 1,937,748円

上記のうち補助金 250,000円

事業の概要

幼稚園教育課程研究協議会

・ 県北地区 10月16日(木) 291名
福島市立飯坂幼稚園
福島市立平野幼稚園
福島市立湯野幼稚園
福島市立大笹生幼稚園

・ 県中地区 10月9日(水) 172名
郡山市立喜久田幼稚園

・ 県南地区 10月11日(金) 166名
鮫川村立鮫川幼稚園

・ 会津地区 10月4日(金) 165名
会津坂下町市立川西幼稚園
会津坂下町市立広瀬幼稚園

・ 相双地区 10月18日(金) 175名
大熊町立熊町幼稚園

・ いわき地区 10月10日(木) 138名
いわき市立すずかけ幼稚園

参加者数 国公立幼稚園長・教諭
私立幼稚園教諭、保育所保母など
1,107人

(2) 福島県小学校教育研究会

基本主題 (平成13年度～平成15年度)

ア 「子供の豊かな学びと生きる力をはぐくむ学習指導」
各研究部研究主題

部	研究主題
国語	伝え合う力を育てるために、「話すこと・聞くこと」の指導と「読むこと」「書くこと」との関連を図る指導はどうあればよいか。
社会	児童一人一人が観察・調査・表現など具体的な活動を通して、社会的事象の意味や働きを考える社会科の授業はどうあればよいか。
算数	数理的に処理するよさを味わう学習を通して、自ら、生きて働く基礎的な知識と技能を身に付けるにはどうすればよいか。
理科	自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習。
生活科・総合	人・社会・自然に進んでかかわり、ふれあいを深め、自分にとって価値ある課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する子供を育成するにはどうすればよいか。
音楽	多様な音楽活動を通して、音楽の楽しさや喜びを味わい、主体的に活動する子供の育成。
図画工作	一人一人の思いや願いを大切に、自らが豊かな感性をはぐくみ、造形的な創造活動の喜びや楽しさが味わえる指導はどうあればよいか。
家庭	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力が育つ家庭科学習はどうあればよいか。 ……家庭や地域の人々との豊かなかかわりを大切にしながら、よりよい生活を創り出す子供をめざして……
体育	運動の特性に触れる楽しさを知り、めあての達成を目指して主体的に取り組む子供を育てるにはどうしたらよいか。
道徳	心豊かでよりよく生きることを求め、実践できる子供を育む道徳の指導はどうあればよいか。
特別活動	望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、豊かな人間性や社会性を育てる特別活動の指導の在り方。

組織及び財政の状況

会長 西舘与四孝 (郡山市立芳賀小学校)

会員数 6,892名

平成14年度決算額 12,686,813円

主な事業

研究協議会

ア 主催 福島県小学校研究協議会

イ 共催 福島県教育委員会

ウ 期日・会場

(ア) 地区研究協議会 各地区

各地区の計画による

(イ) 研究協議会

10月17日(木)～10月24日(木)

県内15会場 1～2日間

エ 指導助言者

指導主事、学校教育指導委員、校長、教頭、教諭

(3) 福島県中学校教育研究会

研究主題

ア 基本主題

「21世紀を、主体的に学び心豊かに生きる生徒の育成」

イ 各部研究主題

部会	研究主題・平成14年度(第1年次) 研究副主題
国語	伝え合う力を高めるとともに「生きる力」として働く国語力を育てる指導はどうあればよいか。 「話すこと・聞くこと」の領域における指導の工夫
社会	自ら学び続ける生徒を育成するための社会科の授業はどうあればよいか。 身近な素材を活かした授業の工夫
数学	数学的活動の楽しさを味わう学習を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図るための指導はどうあればよいか。 教材の選定・開発と課題設定の工夫
理科	目的意識を持って自然を探究し、学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる授業はどうあればよいか。 学ぶ必要性を見出し、課題追究への意欲が高まる学習活動の工夫
音楽	生涯にわたって音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う学習活動はどうあればよいか。 音楽活動の楽しさを味わいながら、基礎的な能力を高める学習活動の工夫
美術	生徒の特性を生かした創造活動を通して、美術を愛好する心情を育む美術教育はどうあればよいか。 主題性(テーマ性)と題材

部 会	研究主題・平成14年度（第1年次） 研 究 副 主 題
保 健 体 育	生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送るための資質や能力を培う指導と評価はどうあればよいか。 「積極的に運動に親しみ資質や能力の育成を図る指導の工夫と評価」 - 体育分野 -
技 術・家 庭	自らの学びを振り返り、生活の自立を図る学習はどうあればよいか。 基礎基本の定着を図る題材の工夫と評価計画の作成
英 語	英語に慣れ親しみ、実践的コミュニケーション能力の基礎を育む指導はどうあればよいか。 指導計画の整備と評価の工夫
道 徳	道徳的価値の自覚を深め、生徒一人一人によりよく生きるための実践的な力を育む道徳教育はどうあればよいか。 生徒一人一人の心に響く道徳の指導の在り方
特 別 活 動	望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての自覚を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の指導はどうあればよいか。 互いに認め合い、個が生きる学級活動の指導 主にAの(1)、(2)

組織及び財政の状況

会 長 倉島 洋司 (福島市立福島第二中学校)

会 員 数 4,019名

平成14年度の決算額 10,447,846円

主な事業

研究協議会

ア 主 催 福島県中学校教育研究会

イ 共 催 福島県教育委員会

ウ 期日・会場

(ア) 支部研究協議会 各支部

(イ) 県研究協議会 10月16日(水)・17日(木)
会津地区13会場

エ 指導助言者

指導主事、学校教育指導委員、校長、教頭、教諭

(4) 福島県小学校長会

組織及び財政の状況

会 長 加藤 征男

会 員 数 547名

平成14年度の決算額 16,169,000円

上記のうち研究助成金 201,000円

主な事業

第31回福島県小学校長研究協議会郡山大会

研究主題 「新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成を目指す

小学校教育の推進」

開催期日 7月4日(木)・5日(金)

会 場 ユラックス熱海

参加人数 1,789名

(5) 福島県中学校長会

組織及び財政の状況

会 長 熱海 健二

会 員 数 246名

平成14年度の決算額 9,938,503円

上記のうち研究助成金 126,000円

主な事業

平成14年度福島県中学校長会総会

開催期日 4月24日(水)

会 場 県文化センター

(6) 福島県公立小中学校教頭会

組織及び財政の状況.

会 長 林出 政治 (福島市立松川小学校)

会 員 数 793名

平成14年度の決算額 11,895,302円

上記のうち県補助金額 168,000円

主な事業

研究主題 「生きる力を育む開かれた学校づくりの推進と教頭の在り方」
——子ども・地域・教職員のよさをいかした活力ある学校づくり——

各地区研究協議会

(7) 福島県学校図書館協議会

組織及び財政の状況

会 長 根本 佳子 (郡山市立富田小学校)

加 盟 校 883校

平成14年度決算額のうち

県研究委託金額 105,000円

主な事業

第53回福島県学校図書館研究大会

研究主題 「想像を広げ、課題を追求できる学校図書館のあり方」

開催期日 平成14年10月17日(木)

会 場 梁川町立堰本小学校

梁川町立梁川中学校

参加人数 500名

(8) 福島県公立小・中・養護学校事務研究協議会

組織及び財政の状況

会 長 川崎 忠彦

会 員 数 769名

平成14年度の決算額 5,107,062円

主な事業

第25回福島県公立小中学校事務研究大会相馬大会

・大会テーマ 「望ましい学校事務の未来像を求めて」

・開催期日 平成14年10月23日(水)・24日(木)

・会 場 相馬市民会館他

・参加人数 715名

第3節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖のぐち」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成14年9月17日(火)～平成14年9月24日(火)

(3) 応募数

中学校 28点 (17校)

高等学校 11点 (8校)

(4) 審査会

平成14年11月6日(水) 福島県庁

(審査員長)

岩手県立大学長 西澤潤一

(審査員)

福島大学教授 木村吉幸

福島大学教授 小沢喜仁

福島大学教授 中馬教充

日本大学教授 鈴鹿敢

いわき明星大学教授 河合英俊

福島民報社編集局次長 浜津三千雄

福島民友新聞社論説委員 小林正明

県中学校教育研究会理科部長 面川征洋

県私立中学高等学校協会理事 平山昇

県高等学校教育研究会理科部長 小野孝雄

(5) 表彰式・知事懇談会

平成14年11月28日(木) 杉妻会館

(受賞者)

【中学校科学・技術研究の部】

・個人研究の部

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	いわき市立中央台南中学校	1年	田村 亘
優秀賞	梁川町立梁川中学校	2年	三田村 朝道
	福島大学教育学部附属中学校	3年	大瀧 敦子

・共同研究の部

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	矢吹町立矢吹中学校	1年	大竹太郎 大杉悠人
優秀賞	原町市立原町第三中学校	2年	選択理科エネルギー班
			藤本 嵩 大和田敬
	いわき市立好間中学校	3年	平子拓馬 大平恭介 中村宏史

【高等学校科学・技術研究の部】

・個人研究の部

賞	学校名	学年	氏名
優秀賞	福島高等学校	2年	横山 紘樹

・共同研究の部

賞	学校名	共同研究団体名	代表者氏名
最優秀賞	福島明成高等学校	生物生産科 大家畜専攻班	齋藤貴史 6名
優秀賞	福島明成高等学校	生物生産科 野菜専攻班	吉田寛爾 8名
	岩瀬農業高等学校	生物工学科 微生物研究班	横田和哉 8名
	福島明成高等学校	生物生産科 小家畜専攻班	東方栄司 8名

(6) 野口英世賞優秀論文集(朝河貫一賞と合本)の作成、配布

1,200部

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成14年9月17日(火)～平成14年9月24日(火)

(3) 応募数

中学校 101点 (29校)

高等学校 90点 (18校)

(4) 審査会

平成14年11月5日(火)

(審査員長)

桜の聖母短期大学名誉教授 富良謝 純

(審査員)

郡山女子大学教授 J・ティルトマン

福島学院短期大学非常勤講師 玄永 牧子

福島民報社取締役論説委員長 渡辺 義男

福島民友新聞社編集局報道部長 皆川 猛

二本松青年海外協力隊訓練所長 花田 真人

福島県中学校長会副会長 横山 大太郎

福島県高等学校長協会会長 古市 孝雄

(5) 表彰式・知事懇談会

平成14年11月28日(木) 杉妻会館

(受賞者)

【中学校の部】

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	福島市立福島第三中学校	3年	山口侑紀
	二本松市立二本松第三中学校	3年	大津円香
優秀賞	二本松市立二本松第三中学校	3年	佐藤美萌
	猪苗代町立猪苗代中学校	2年	小檜山綾那
	原町市立原町第一中学校	3年	吉岡茉里子
	郡山ザベリオ学園中学校	3年	人見有紀

【高等学校の部】

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	岩瀬農業高等学校	1年	深谷奈緒美
	福島女子高等学校	3年	小柳花綾
優秀賞	福島女子高等学校	2年	富田茉莉子
	福島明成高等学校	3年	谷千佳
	安積高等学校	3年	坂屋優穂
	会津高等学校	1年	渡部明穂

- (6) 朝河貫一賞優秀論文集(野口英世賞との合本)の作成、
配布 1,200部

3 ニュージーランドとの教育交流

- (1) ラグビーフットボール指導者の招致
スポーツ国際交流員 1名
平成13年8月19日～平成14年8月18日
- (2) 陸上競技選手の派遣
期間 平成15年3月15日～平成15年3月27日
派遣先 オークランド市
派遣者 中・長距離の高校生ランナー 13名
引率者 2名 計15名
研修内容 現地の選手との合同練習、トレーニング理論の研修、ホームステイ

第7章 高等学校教育

第1節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度										
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
全 日 制	本 校	84	84	84	85	85	85	85	85	85	85	85
	校 校	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
定 時 制	独 立	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	4
	併 置	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	3
	計	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7	7
	分 校	2	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0

(注) 募集基準として学校数を算定した(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

区分		年度											
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
卒 業 者 数 (A)		31,851	31,960	31,336	30,548	30,648	29,186	28,840	28,936	28,988	28,448	27,482	26,868
進 学 志 願 者 数 (B)		30,392	30,770	30,109	29,487	29,596	28,176	27,795	27,915	27,995	27,545	26,622	26,068
進 学 者 数 (C)		29,763	30,123	29,509	28,951	29,102	27,759	27,539	27,542	27,717	27,382	26,395	25,947
進 学 志 願 率 (B/A)		95.4	96.3	96.1	96.5	96.6	96.5	96.4	96.5	96.6	96.8	96.9	97.0
進 学 率 (C/A)		93.4	94.3	94.2	94.8	95.0	95.1	95.5	95.2	95.6	96.3	96.0	96.6
入 学 率 (C/B)		97.9	97.9	98.0	98.2	98.3	98.5	99.1	98.7	99.0	99.4	99.1	99.5

(注) 進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び盲・聾・養護学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。

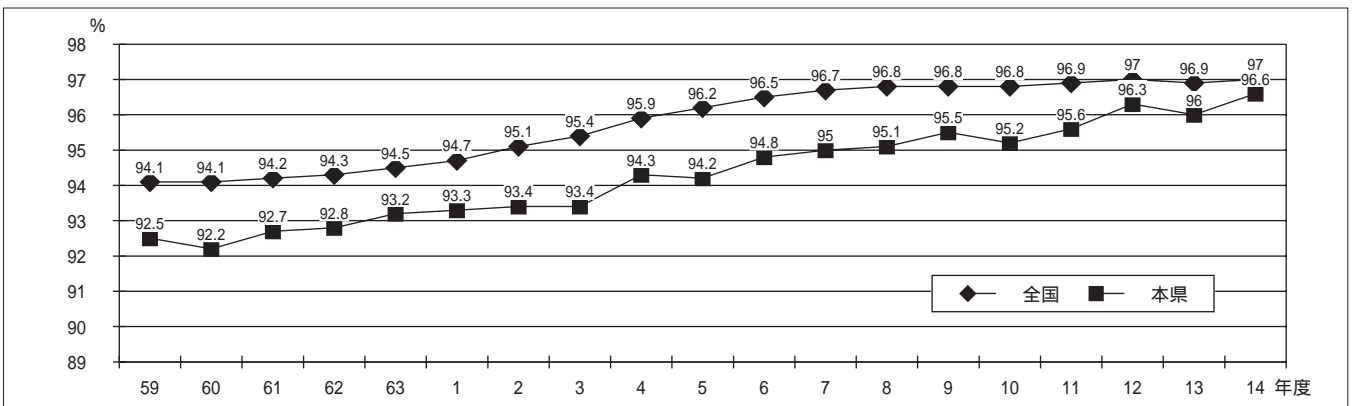
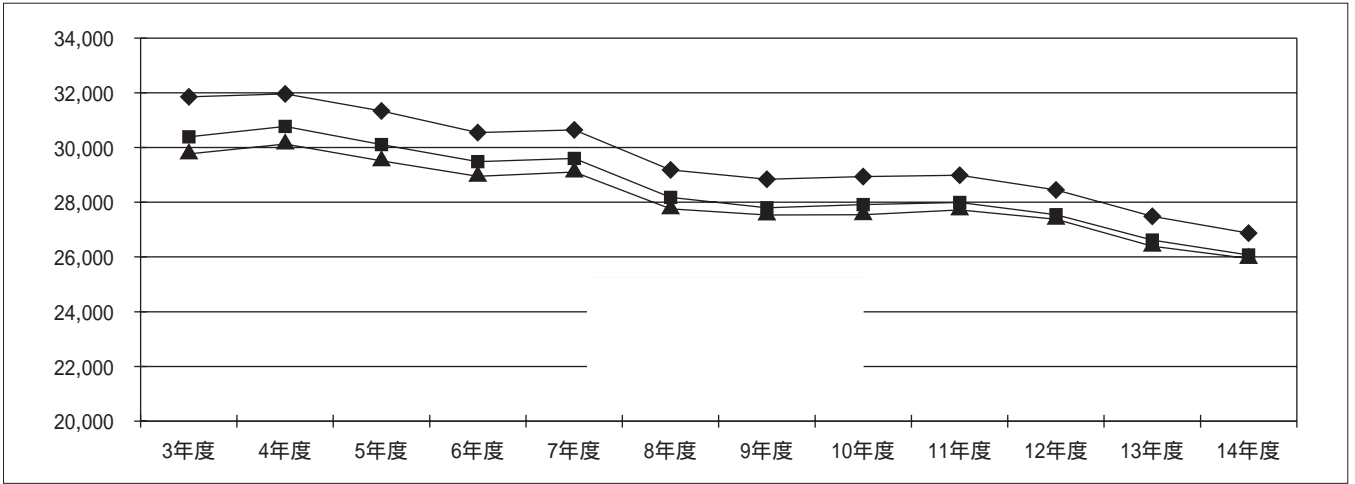
進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より614名減少し、進学率は0.6ポイントアップし、入学率も0.4ポイントアップした。

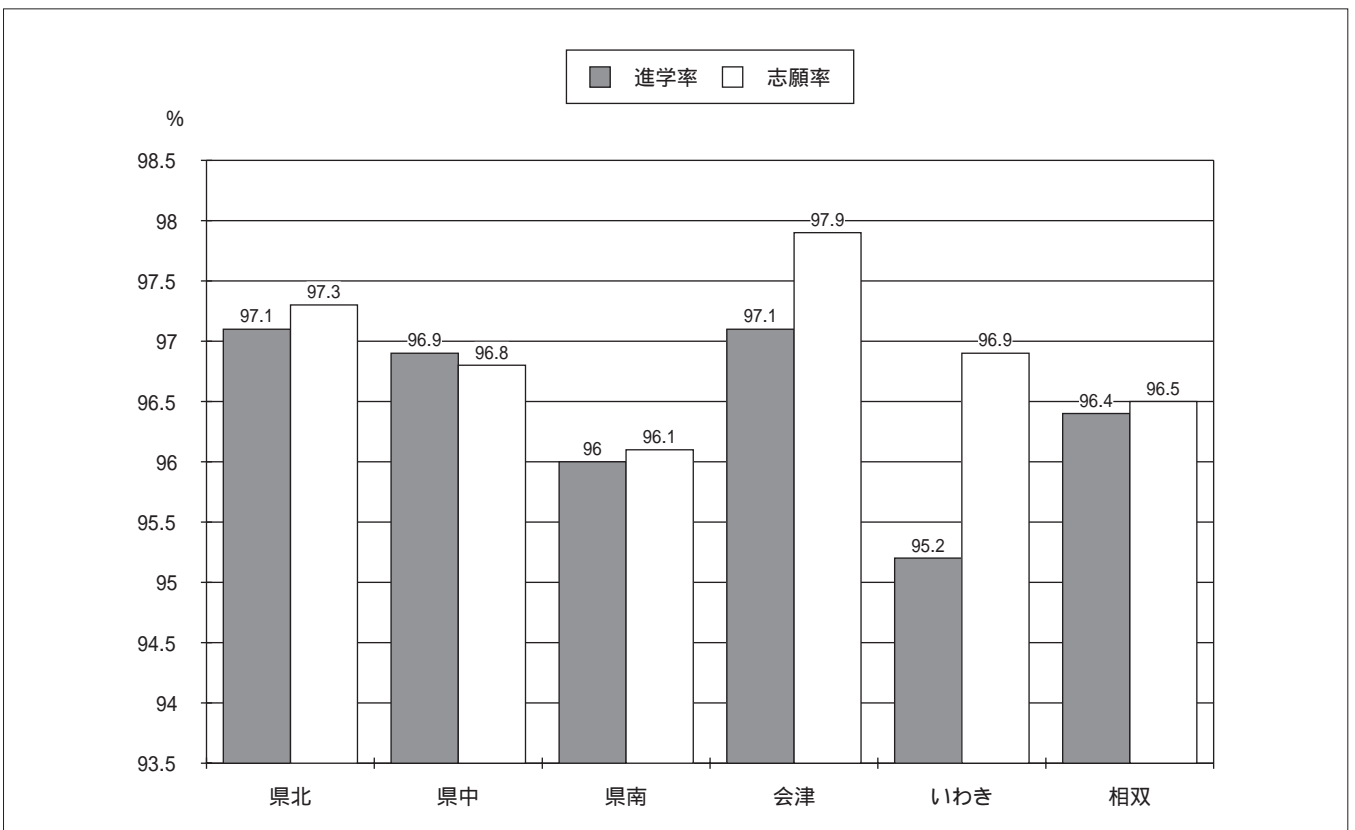
14年度の進学者の内訳は次の通りである。

高等学校全日制	25,015名 (96.4%)	高等専門学校	249名 (1.0%)
高等学校定時制	304名 (1.2%)	盲・聾・養護学校高等部	88名 (0.3%)
高等学校通信制	291名 (1.1%)		

中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移

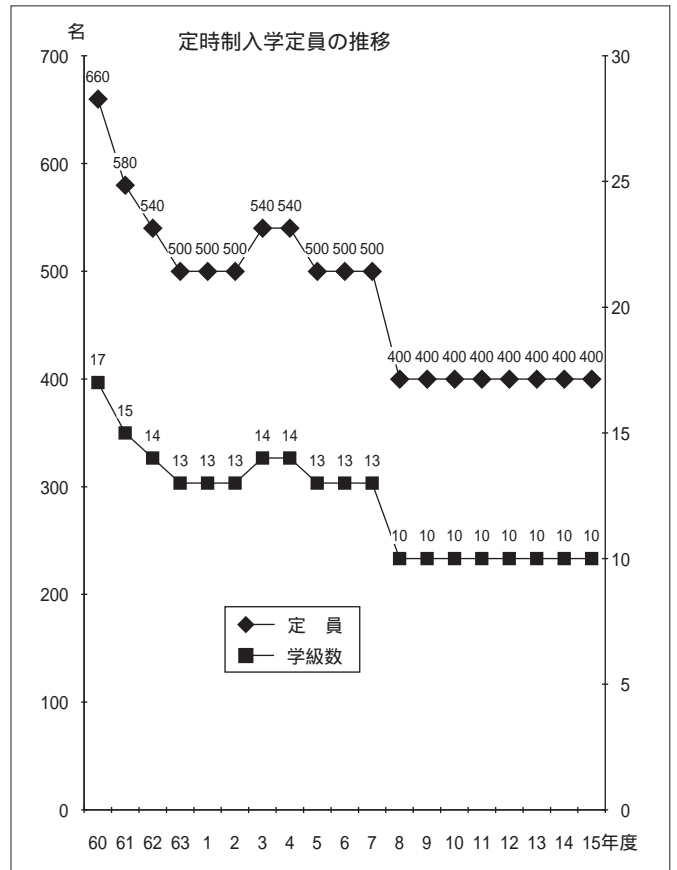
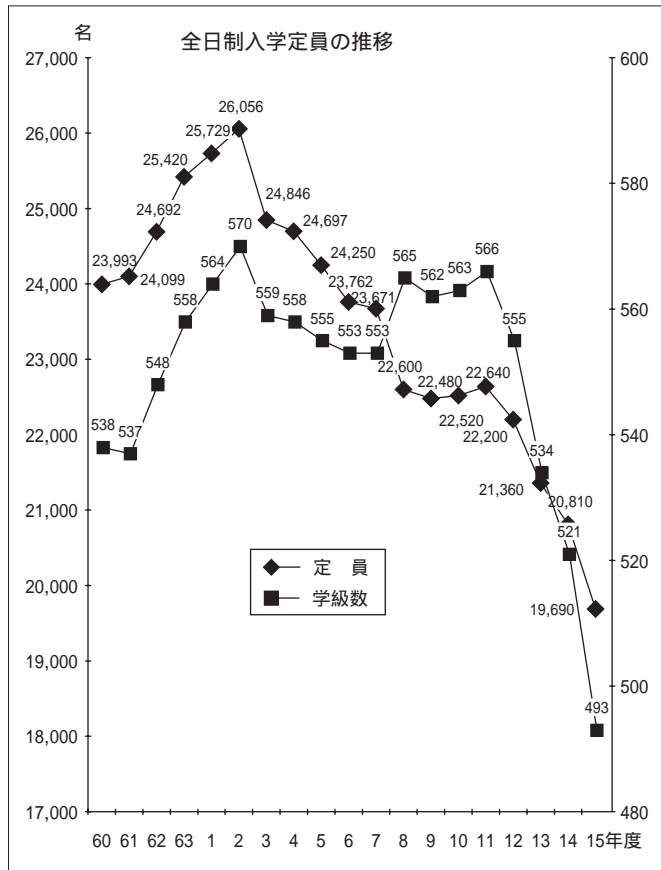


地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



学級編制基準

	全日制		定時制	
	定員	学級数	定員	学級数
普通科	35、40	40	40	-
農業科	40	-	-	-
工業科	40	40	-	-
商業科	40	-	-	-
家庭科	40	-	-	-
水産科	40	-	-	-
理数科	40	-	-	-
文理科	40	-	40	-
国際文化科	40	-	-	-
英語科	40	-	-	-
体育科	40	-	-	-
美術科	40	-	-	-
国際科学	40	-	-	-
総合学科	40	-	-	-

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数 A	入学定員		入学志願者数		志願倍率	入学者数	
		定員 B	$\frac{B}{A}$ %	志願者数 C	$\frac{C}{A}$ %	$\frac{C}{B}$ %	入学者数 D	$\frac{D}{C}$ %
5	31,336	24,250	77.4	27,027	86.2	111	23,821	88.1
6	30,548	23,762	77.8	25,986	85.1	109	23,286	89.6
7	30,648	23,671	77.2	25,870	84.4	109	23,193	89.7
8	29,186	22,600	77.4	24,598	84.3	109	22,092	89.8
9	28,840	22,480	77.9	24,374	84.5	108	21,797	89.4
10	28,936	22,520	77.8	24,829	85.8	110	21,884	88.2
11	28,988	22,640	78.1	24,948	86.1	110	22,002	88.2
12	28,448	22,200	78.0	24,768	87.1	112	21,586	87.2
13	27,482	21,360	77.7	23,771	86.5	111	20,712	87.1
14	26,868	20,810	77.5	23,458	87.3	113	20,246	86.3

(5) 県立高等学校生徒数 (14. 5. 1現在)

学科	課程	全 日 制	定 時 制			専 攻 科	合 計	通 信 制
			学 年 制	単 位 制	計			
普 通	男	16,317	223	333	556		16,873	1,758
	女	18,346	172	274	446		18,792	1,295
	計	34,663	395	607	1,002		35,665	3,053
農 業	男	2,037					2,037	
	女	1,254					1,254	
	計	3,291					3,291	
工 業	男	7,836	102		102		7,938	
	女	781	1		1		782	
	計	8,617	103		103		8,720	
商 業	男	2,388					2,388	
	女	4,592					4,592	
	計	6,980					6,980	
家 庭	男	7					7	
	女	814					814	
	計	821					821	
水 産	男	296				17	313	
	女	56				1	57	
	計	352				18	370	
理 数	男	300					300	
	女	176					176	
	計	476					476	
文 理	男	272					272	
	女	359					359	
	計	631					631	
国 際 文 化	男	43					43	
	女	203					203	
	計	246					246	
国 際 科 学	男	184					184	
	女	536					536	
	計	720					720	
英 語	男	172					172	
	女	542					542	
	計	714					714	
体 育	男	80					80	
	女	35					35	
	計	115					115	
美 術	男	15					15	
	女	101					101	
	計	116					116	
総 合 学 科	男	1,311					1,311	
	女	2,033					2,033	
	計	3,344					3,344	
合 計	男	31,258	325	333	658	17	31,916	1,758
	女	29,828	173	274	447	1	30,275	1,295
	計	61,086	498	607	1,105	18	62,191	3,053

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年度										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
入 学 者	安積第二高校	133	146	106	136	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	202	165	244	238	262	-	-
	郡山萌世高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	297	269
	計	133	146	106	136	202	165	244	238	262	297	269
卒 業 者	安積第二高校	139	156	156	163	165	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	171	175	182	165	192	-
	郡山萌世高校											243
	計	139	156	156	163	165	171	175	182	165	192	243

(7) 県立学校教職員数の推移

区 分	種別 課程 職種 年度	高 等 学 校																			
		全 日 制 ・ 定 時 制										通 信 制									
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
教 員	校 長	85	85	85	85	85	85	85	85	86	86										
	教 諭 等	4,204	4,225	4,238	4,273	4,315	4,324	4,309	4,286	4,242	4,213	27	27	27	28	30	32	34	35	37	37
	養 護 教 員	93	96	97	101	104	103	104	104	102	110										
	補 充 教 員	85	102	110	62	145	170	200	182	184	176					1	1	1	1	1	1
	講 師																				
	寄 宿 舎 指 導 員	4	5	5	6	6	6	6	6	6	5										
	実 習 助 手	408	412	413	414	418	423	412	406	400	395										
計	4,879	4,925	4,948	4,941	5,073	5,111	5,116	5,069	5,020	4,985	27	27	27	28	31	33	35	36	38	38	
事 務 職 員	304	302	302	302	301	301	300	301	298	293	4	4	4	4	5	5	5	5	6	6	
雇 用 人	技 能 員	8	3	7	5	3	1	1	1	1											
	学 校 司 書	58	60	63	67	71	72	71	72	72											
	用 務 員	118	114	109	102	92	81	76	75	72	69	1	1	1	1						
	ボ イ ラ ー 技 師	25	23	23	22	22	18	19	17	18	18										
	栄 養 士	9	9	9	9	9	9	9	8	8	5										
	調 理 給 食 員	9	9	9	8	7	8	7	7	6	6										
計	227	218	220	213	204	189	184	180	177	171	1	1	1	1							
練 習 船	技 能 職 員	9	9	9	9	9	9	9	9	9											
	そ の 他 の 職 員	15	15	15	15	15	15	13	13	13											
	計	24	24	24	24	24	24	22	22	22											
合 計	5,434	5,469	5,494	5,480	5,602	5,625	5,622	5,572	5,517	5,471	32	32	32	33	36	38	40	41	44	44	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成14年度の高等学校教職員定数は、前年度比46人減の5,471人となった。このうち、教諭等は、前年度比29人減の4,213人である。また、養護教育については、前年度比35人増の1,339人となった。

このうち、教諭等は、前年度比22人増の1,045人となった。

新採用について

県立高等学校の新採用志願者数は、前年度比29名減の1,265名であったが、一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は85名であり、そのうち辞退者を除き83名の教諭採用をみた。

校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から19名、教育庁関係から現場復帰による6名の登用をみた。

これらの管理職は、できる限り自分の専門性を生かせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

交流について

本年度も昨年同様の方針ののっとり、本庁・地区担当管理主事及び校長会との密接な連絡のもとに、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて699名の教諭等の交流が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制及び盲・聾・養護学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成14年度県立学校教員交流基準

一般基準

ア 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当されるように努める。

イ 高等学校と盲・聾・養護学校との交流を図る。

ウ 全日制と定時制・通信制との交流を図る。

エ 優秀な人材の定時制（夜間）・通信制・分校並びにへき地校への転入を図るとともに、その者が担当年数（3年以上）勤務した場合の転出については、特に考慮する。

オ 同一校には原則として、最低3年は勤務するものとする。

カ 2親等以内の者は、原則として、同一校勤務をさける。

勤続年数による基準

次の基準に該当する者は交流の対象とする。

ア 採用後ひきつづき同一校に3年以上勤務した者

イ 同一校に8年以上勤務した者

学校群による基準

教職員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、各地区ごとに所在する学校を地理的特殊性を考慮して、A・B・C3群に分類し交流を促進する。

A・B・C各群の学校は別表のとおりとする。

ア 会津地区の4校(川口・田島・南会津・只見)、県南地区の5校(湖南・塙工・棚倉・東白川農商・東白川農商鮫川)は、それぞれ1地区とみなす。

イ 群の取り扱いの変更は、次表の適用年度以降の人事異動該当者について適用する。

ウ 昭和44年度以降採用者は、原則として、次の条件を満たすよう勤務させるものとする。

採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

A・B2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

エ B・C群の学校に採用された者は、原則としてA群の学校に勤務するものとする。

オ 同一校群内または学校群間の交流については、次の諸点に留意する。

A群については、原則として、へき地間、分校間の交流は行わない。

B群については、原則として、同一市内間の交流は行わない。ただし、いわきは除く。

C群については、同一市内間の交流は行わない。

カ 職業に関する学科の教員で、同一校勤続8年以上の者については、全県的視野から地区間で相互に交流することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、もとの地区内へ転出させることができる。

寮母・技能員については、原則として1、2、3に準ずる。

過員解消のための交流は、全県的な立場で優先的に取り扱う。

別表 地区・群別学校分類表

地区	群	A	B	C	盲・聾・養護 (A群校扱い)
県北		福工(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福商 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工	福島 福女 福工 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養 須賀川養(医大)
県南		安積(御館) 郡北工(定) 長沼 船引 小野 小野(平田) あさか開成(定・通) あさか開成(須賀川) 白二 石川 郡山萌世	本宮 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩農 白河実業 田村 光南	安積 安積黎明 郡山東 郡商 郡北工 郡山 白河 白河旭 あさか開成	聾 郡山養 あぶくま養 あぶくま養(安積) 須賀川養 須賀川養(郡山) 西郷養 石川養
		湖南 塙工 棚倉 東白川農商 東白川農商(鮫川)			
会津		猪苗代 耶麻農 西会津 会二	喜多方 喜東 喜商 喜工 大沼 坂下 会農	会津 葵 会津学鳳 若商 会工	聾(会津) 会津養 会津養(竹田) 猪苗代養
		川口 田島 南会津 只見			
いわき		いわき海星 磐農 勿来 勿来工 遠野 いわき光洋(定)	内郷 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工 平商 いわき光洋	聾(平) いわき養 平養
相双		浪江(津島) 富岡(川内) 双葉翔陽 相農(飯館) 新地	双葉 浪江 富岡 相農 小高商 小高工	相馬 相女 原町	富岡養

別表

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	52	猪苗代	A	58	勿来	A	平成8
福島明成	B	56	白河実業	B	61	相馬農業	B	〃
福島北	B	〃	川俣	A	平成2	棚倉	A	平成9
いわき海星	A	〃	福島商業	B	〃	東白川農商	A	〃
磐城農業	A	〃	梁川	A	平成8	あさか開成	C	平成11
勿来工業	A	〃	船引	A	〃	光南	B	〃
双葉翔陽	A	〃	いわき光洋	C	〃	石川	A	〃

(3) 教頭複数制実施校（平成14年度実績）

福島	福島女子	福島西	福島北
川俣	保原	安積	安積黎明
郡山東	郡山北工	郡山	須賀川
岩瀬農業	光南	白河	白河旭
白河実業	田村	船引	葵
会津学鳳	会津工業	磐城	磐城桜が丘
平工業	平商業	内郷	湯本
勿来工業	原町	郡山萌世	
盲	聾	郡山養護	あぶくま養護
須賀川養護	会津養護	平養護	いわき養護

3 学校の設置及び統廃合

- 公立高等学校の設置・廃止等（平成15年度） -

(1) 学校の新設

なし

(2) 募集停止

課程	学校名	内 容
全日制	川 俣	電気科1学級
全日制	二本松工業	電気科1学級
全日制	須賀川	ビジネス会計科1学級
全日制	埴工業	電気科1学級
全日制	双葉	英語科1学級

(3) 課程廃止

なし

(4) 学科転換・学科改編

課程	学校名	内 容
全日制	岩瀬農業	農業科8学級 農業科6学級 (生物工学、生物生産、園芸科学、 環境工学、食品科学、生産情報)
全日制	西会津	商業科1学級 普通科1学級
全日制	相馬女子 (相馬東)	普通科6学級 総合学科6学級

(5) 学科名変更

課程	学校名	内 容
全日制	喜多方商業	商業科2学級 ビジネス実務科2学級、 情報会計科2学級 情報システム 科1学級
全日制	会津農林	農業科1学級、 園芸科1学級 農業園芸科1学級

(6) 男女共学化

福島高校、福島女子高校、
相馬女子高校、相馬高校（普通科）

(7) 校名変更

福島女子高校 橘高校
相馬女子高校 相馬東高校

第2節 学校教育

1 概 要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

指導内容の精選と構造化に努め、ティームティーチングや習熟度別学習指導などを通じて生徒一人一人の個を生かす指導方法の改善・工夫が図られるよう指導・援助する。

生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び生徒非行・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

教職員の資質と指導力の向上に努める。

勤労にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報処理教育の推進を図る。

(2) 指導組織

教育指導課長を中心に、次の人員が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

主 幹	1名
主任指導主事	1名
指導主事	12名

また、県立高校教諭38名を学校教育指導委員に指名し、各教科の指導活動の充実強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 新高等学校学習指導要領について、その趣旨の説明及び、必要な研究協議を行うことにより趣旨の徹底を図った。

(イ) 文部科学省指定研究校（研究開発学校）における研究実践の推進を図り、その成果の普及に努めた。

a) 教科・科目の目標を明確にとらえ、指導内容を重点化して基礎学力の充実を図ること。

b) 個性の伸長を図るために、一人一人の生徒の個性の理解に努めるとともに、指導の改善を図るなど学習指導の個別化・個性化に努めること。

c) 学習効果を高めるための評価の方法について研究し、改善を図ること。

d) 分かりやすく、かつ質の高い授業の構築を目指して、授業の改善を図ること。

生徒指導の充実を図る。

- (ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。
- (イ) 生徒指導・特別活動担当者研究会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。
- (ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実に努めた。
- (エ) 学校教育相談推進事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する学校教育相談員を配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。
- 進路指導の充実に努める。
- 各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。
- (ア) 低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。
- (イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。
- (ウ) 進路指導や諸問題・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。
- (エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。
- (オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。
- (カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。
- (キ) きめ細かい就職指導の充実・徹底に努めること。
- 産業教育の充実に努める。
- 産業教育の改善・充実に努めるため、施設・設備の充実並びに情報教育の推進に努める。
- (ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。
- (イ) 専門高校・学科の理解を促進するため、ポスター「産業教育関係高等学校PRポスター」を作成配布した。
- (ウ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。
- (エ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。
- 学力向上を図る。
- ふくしまの教育ライジングプランとして、各学校の主体性を生かした学力向上事業、学習の個別化を図る事業、教員の指導力の向上を図るための事業、学力向上を図るための家庭・地域の意識啓発事業等の実施を通して、大学等進学及び就職等のために必要な学力の向上を期するとともに、本県生徒一人一人の個性を生かした進路希望の実現を図る。
- (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実
- 現職教育の充実
- (ア) 校内における研修体制の改善・充実に努めた。
- (イ) 研修会、講習会等への積極参加を促進し、指導力の向上を図った。
- (ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。
- (エ) 経験者研修 ・ の一環として、指導主事による学校訪問を行い、教科指導員の向上を図った。
- 学校管理運営の適正化
- (ア) 学校運営の努力目標を定め、その到達度を客観的に評価できるように努めた。
- (イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。
- (ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。
- (エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。
- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。
- 勤務体制の確立
- (ア) 教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。
- (イ) 最終退勤者と宿直代行員は、出退勤時に学校管理状況の引継ぎを確実にを行うよう指導した。
- 使命感の高揚
- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚し、いっそう事務防止に努め、社会的信用を失墜することのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。
- (5) 教育環境の整備充実
- 学習環境の整備充実
- (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実に努めた。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。
- 学校事項防止の徹底
- (ア) 安全教育の計画的実施と、事項防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実に努めるため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。
- (6) 県立高等学校入学者選抜
- 基本方針
- 平成15年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針
- ア 期選抜
- 期選抜は、従来の中学校長の推薦による推薦選抜にかえ、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法とあわせて明示し、受験生は、それに従って自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。
- 選抜に当たっては、受験生の個性や学が意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。
- 1 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の成績、面接の結果を資料とする。
- なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学

科の特性に応じて、小論文（作文を含む）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

2 期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

3 期選抜の定員枠については、各高等学校により募集定員の10%～40%の範囲の中で設定するものとする。

イ 期選抜

期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。

選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の成績を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とをあわせて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

1 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。

2 学力検査問題の配点については、各問ごとの標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

3 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

4 期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図る観点から必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとし、その場合には学力検査と調査書の成績のいずれか一方を1.5倍又は2倍にする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

(1) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

(2) 学力検査と調査書の成績の比重を变する場合

学力検査と調査書成績のいずれか一方を1.5倍又は2倍にして、両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、上記(2)により実施する場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

5 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

ウ 期選抜

期選抜は、期選抜と期選抜により定員を充足しない高等学校において実施するものとし、期選抜及び期選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜にあたっては、調査書の成績、面接の結果及び小論文（作文を含む）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、期選抜と期選抜に合格した者は出願できないものとする。

1 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（作文を含む）の結果を十分に精査する。

2 期選抜における学力検査の成績は、期選抜の資料とはしないものとする

3 期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

入学者選抜関係日程

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| 6月7日 | 県立高等学校入学者選抜事務調整会議（第1回） |
| 7月23日 | 同上（第2回） |
| 8月29日 | 同上（第3回） |
| 8月29日 | 県立高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出 |
| 10月1日～10月2日 | 県北・県中・県南・会津・いわき・相双の6地区で入学者選抜実施要綱説明会実施 |
| 10月24日 | 平成15年度入学者募集定員決定 |

(ア) 期選抜関係日程

- | | |
|-------------|-----------|
| 1月15日～1月20日 | 出願書類受付 |
| 1月28日（29日） | 面接等 |
| 1月31日 | 合格内定通知 |
| 2月6日 | 入学確約書提出締切 |
| 3月14日 | 合格者発表 |

(イ) 期選抜関係日程

- | | |
|-------------|--------|
| 2月7日～2月14日 | 出願書類受付 |
| 2月18日～2月20日 | 出願先変更 |
| 2月24日～2月26日 | 調査書提出 |
| 3月10日 | 学力検査 |
| 3月14日 | 合格者発表 |

(ウ) 期選抜関係日程

- | | |
|-------------|--------|
| 3月17日～3月18日 | 出願書類受付 |
| 3月19日 | 出願先変更 |

- 3月24日 面接等
 3月26日 合格者発表
 (エ) 通信制の課程選抜日程
 2月7日～3月28日 出願書類受付
 4月12日まで 合格者発表(個人宛通知)
 志願者数・合格者数
 (ア) 期選抜の志願者・合格者数は、平成15年2月6日

現在の調査による。

- (イ) 期選抜の志願者数は平成15年2月20日現在の調査による。
 (ウ) 期選抜の合格者数は平成15年3月14日現在の調査による。
 (エ) 期選抜の合格者数は平成15年3月26日現在の調査による。

I期選抜・II期選抜実施後の集計

(1) 期選抜

《全日制》

学 科	入学定員	期選抜定員	志 願 者 数			志願倍率	合 格 者 数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	11,690	2,763	3,229	4,465	7,694	2.78	1,014	1,897	2,911
農 業	1,040	328	363	320	683	2.08	178	177	355
水 産	160	48	74	15	89	1.85	33	14	47
工 業	2,640	980	1,981	223	2,204	2.25	947	111	1,058
商 業	2,120	742	555	1,297	1,852	2.50	192	602	794
家 庭	240	72	0	156	156	2.17	0	82	82
総 合	1,800	598	507	1,108	1,615	2.70	175	457	632
計	19,690 (20,810)	5,531 (5,451)	6,709 (2,567)	7,584 (3,471)	14,293 (6,038)	2.58 (1.11)	2,539 (1,967)	3,340 (2,858)	5,879 (4,825)

《定時制》

学 科	入学定員	期選抜定員	志 願 者 数			志願倍率	合 格 者 数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	360	98	111	128	239	2.44	35	62	97
工 業	40	8	4	0	4	0.50	3	0	3
計	400 (400)	106 (84)	115 (40)	128 (60)	243 (100)	2.29 (1.19)	38 (17)	62 (46)	100 (63)

(2) 期選抜

《全日制》

学 科	入学定員	期選抜合格内定者を除いた定員	志 願 者 数			志願倍率	合 格 者 数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	11,690	8,779	5,091	4,891	9,982	1.14	4,099	4,060	8,159
農 業	1,040	685	570	258	828	1.21	446	206	652
水 産	160	113	70	7	77	0.68	56	7	63
工 業	2,640	1,582	1,743	133	1,876	1.19	1,415	108	1,523
商 業	2,120	1,326	597	918	1,515	1.14	506	741	1,247
家 庭	240	158	2	165	167	1.06	2	132	134
総 合	1,800	1,168	590	801	1,391	1.19	494	652	1,146
計	19,690 (20,810)	13,811 (15,985)	8,663 (9,891)	7,173 (8,140)	15,836 (18,031)	1.15 (1.13)	7,018 (8,137)	5,906 (6,692)	12,924 (14,829)

《定 時 制》

学 科	入学定員	期 選 抜 合格内定者を 除いた定員	志 願 者 数			志願倍率	合 格 者 数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	360	263	174	169	343	1.30	93	102	195
工 業	40	37	10	0	10	0.27	10	0	0
計	400 (400)	300 (337)	184 (245)	169 (177)	353 (422)	1.18 (1.25)	103 (135)	102 (122)	205 (257)

(3) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学 校 名	学 科 名	定 員	志 願 者 数			志願倍率	合 格 者 数		
			男	女	計		男	女	計
福 島 南	国際文化	若 干 名	3	1	4		3	1	4
あさか開成	国際科学	若 干 名	3	1	4		3	1	4
会津学鳳	総 合	若 干 名	1	0	1		1	0	1
湯 本	英 語	若 干 名	1	2	3		1	2	3
相 馬 東	総 合	若 干 名	1	0	1		1	0	1

(4) 期選抜

《全 日 制》

学 科	入学定員	志 願 者 数			合 格 者 数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	620	303	164	467	211	126	337
農 業	33	11	3	14	10	3	13
水 産	50	15	6	21	10	4	14
工 業	59	39	6	45	29	4	33
商 業	79	34	39	73	21	29	50
家 庭	24	2	10	12	2	7	9
総 合	22	12	6	18	9	6	15
計	887 (1,156)	416 (523)	234 (279)	650 (802)	292 (375)	179 (224)	471 (599)

《定 時 制》

学 科	入学定員	志 願 者 数			合 格 者 数		
		男	女	計	男	女	計
普 通	68	37	18	55	19	15	34
工 業	27	21	2	23	18	1	19
計	95 (80)	58 (46)	20 (25)	78 (71)	37 (26)	16 (15)	53 (41)

期選抜実施後の最終集計

《全 日 制》

学 科	入学定員	期 選 抜 合格内定者数	期 選 抜 合格者数	期 選 抜 合格者数	合 格 者 総 数		
					男	女	計
普通科等	11,690	2,911	8,159	337	5,324	6,083	11,407
農 業	1,040	355	652	13	634	386	1,020
水 産	160	47	63	14	99	25	124
工 業	2,640	1,058	1,523	33	2,391	223	2,614
商 業	2,120	794	1,247	50	719	1,372	2,091
家 庭	240	82	134	9	4	221	225
総 合	1,800	632	1,146	15	678	1,115	1,793
計	19,690 (20,810)	5,879 (4,825)	12,924 (14,829)	471 (599)	9,849 (10,479)	9,425 (9,774)	19,274 (20,253)

(注) 「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成14年度入試のもの。

《定 時 制》

学 科	入学定員	期 選 抜 合格内定者数	期 選 抜 合格者数	期 選 抜 合格者数	合 格 者 数		
					男	女	計
普 通	360	97	195	34	147	179	326
工 業	40	3	10	19	31	1	32
計	400 (400)	100 (63)	205 (257)	53 (41)	178 (178)	180 (183)	358 (361)

2 現職教育計画

各種研修並びに講習会

名 称	期 日	期 間	会 場	参 加 者
校長研修会	5. 9～ 5.11	3日	教育センター	新任県立学校 長 20名
教頭研修会	5.16～ 5.16	3日	教育センター	新任県立学校 長 28名
教職経験者 研修 (中 堅職員研修)	12.16～ 12.19	4日	教育センター	教務主任、学 年主任等の中 堅教員 (学校 運営上、主要 な職にある者) 57名
初任者研修 (宿泊研修) (第1次)	6. 5～ 6. 4	3日	教育センター	14年度高等学 校初任者研修 対象教員 84名
(第2次)	2.12～ 2.14	3日	教育センター	83名
教育センター 等研修 (教 科別研修)	(1班) 9. 2～ 9. 4	3日	・理 科 (原 町)	84名
	(2班) 9.18～ 9.20	3日	・国 語 (棚 倉) ・数 学 (双 葉) ・英 語 (郡 山) ・地歴・公民 (川 俣) ・保健体育 (船 引) ・商 業 (福 島 商 業) ・工 業 (平工業) ・農 業 (東白川農商) ・家庭・看護 (川口・坂下)	
(基礎研修)	(3班) 9.25～ 9.27	3日	・芸 術 (湯本・内郷)	
(基礎研修)	4. 3～ 4. 4	2日	教育センター	84名
地区別研修	4月～ 12月	19日	各 地 区 施 設 学 校 等	84名

名 称	期 日	期 間	会 場	参 加 者
各所属校に おける研修	4月～ 3月	60日	各 所 属 校	84名
経験者研修 (第一次) 前 期	(1班) 9. 9～ 9.10	2日	教育センター	県立学校教職 経験5年を経 過した者 119名
	(2班) 9.30～ 10. 1			
「いじめ問 題に関する 研修」 後 期	(3班) 10. 7～ 10. 8	3日	教育センター	前期に同じ 118名
	(1班) 11. 5			
各所属校に おける研修 (第2次)	(2班) 11. 7	1日	教育センター	前期に同じ 118名
	(1班) 11. 7			
各所属校に おける研修 (第2次)	4月～ 1月	7日	各 所 属 校	第1次に同じ
経験者研修 (第一次) 前 期	(1班) 10.28～ 10.29	2日	教育センター	県立学校教職 経験10年を経 過した者 183名
	(2班) 11.18～ 11.19			
各所属校に おける研修 (第2次)	(3班) 11.25～ 11.26	5日	各 所 属 校	第1次に同じ
	(4班) 12. 2～ 12.03			
社会貢献活 動体験 (第3次)	4月～ 1月	3日	各 所 施 設 等	第1次に同じ
教務主任研 修会	5.27～ 5.29	3日	教育センター	県立高等学校 の教務主任 (新任教務主 任を含む) 100名
(4地区) 新任教務 主任研修会	8.22～ 8.23	2日	県庁東分庁舎 安積高校 会津高校 磐城高校	新任教務主任 のみ 26名

3 教育課程

(1) 高等学校新教育課程説明会

目 的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨の説明及び必要な研究協議を行い、もって高等学校教育の改善及び充実を図ることを目的とする。

主 催

文部科学省及び福島県教育委員会

期日及び開催地

普通教育関係

平成14年6月20日(木)～21日(金)

職業教育関係

平成14年7月11日(木)～12日(金)

東京都

参 加 者

部会・分科会	氏 名	所 属	氏 名	所 属
総 則	山ノ内壽太郎	教育指導課		
特別活動	横山通夫	県南教育事務所		
国 語	丹藤 茂	教育指導課	佐竹正徳	会 津
地理歴史	阿部正春	教育指導課	佐藤友則	福 島 北
公 民	遠藤雄二郎	教育センター	高橋雅彦	安 達
数 学	小浜宗一郎	教育指導課	松村茂郎	双葉翔陽
理 科	本間 稔	教育指導課	猪股一教	会 津
保健体育	目黒 憲	教育指導課	鈴木公一	郡山商業
芸 術	音 楽	石川千穂	教育センター	
	美 術	菅野哲哉	教育指導課	
	書 道	鹿山 俊	浪 江 (津島)	
外国語	渡辺 昇	教育指導課	鈴木睦治	喜多方東
家 庭	齋藤由美	教育指導課	石川浩美	相馬農業
情 報	山内秀治	教育指導課	内田貞俊	教育センター
総合的な 学習の時間	目黒 憲	教育指導課	山内秀治	教育指導課
農 業	大和田範雄	教育指導課	高橋昭久	安 達 東
工 業	松本明倫	教育指導課	富樫 実	会津工業
	佐藤浩正	郡山北工業		
商 業	菅家昌人	教育指導課	林 聖一	田 島
水 産	安藤 信	いわき海星		
看 護	水野恵子	白 河		
福 祉	柳田省吾	光 南		

(2) 福島県高等学校新教育課程講習会

目 的

新高等学校指導要領について、その趣旨の説明及び必要な研究協議を行い、もって高等学校教育の改善充実を図る。

主 催

文部科学省及び福島県教育委員会

期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参加者数
県 北	8月1日	福 島 南 高 校	144
県中・県南	8月5日	清 陵 情 報 高 校	286
会 津	8月6日	会 津 工 業 高 校	95
浜 通 り	8月2日	富 岡 高 校	186
合 計			711

部会の参加者数

設置部会及び参加者数は次のとおりである。

部 会	国 語	地 理 史	公 民	数 学	理 科	保 健 育	芸 術		外国語	家 庭	農 業	工 業	商 業	水 産	特 活 別 動	計
							音 楽	美 術								
参加者数	96	76	21	68	54	65	40	13	127	13	0	52	42	0	44	711

(3) 高等学校学習指導要領研究会議

目 的	平成11年3月に告示された学習指導要領の実施に向けて、高等学校学習指導要領について研究し、各学校が教育課程を編成・実施するための指導資料を作成する。
研究期間	平成11・12・13・14年
委 員	県立高校長、教頭及び教諭
日程・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議 平成14年6月28日(金) 指導資料の構成について検討 質疑応答の項目及びその内容について検討 ・第2回会議 平成14年9月5日(木) 質疑応答項目及びその内容について検討 ・第3回会議 平成14年10月22日(火) 全体的な最終検討

情報処理関係学科の設置状況

工 業	情報処理	郡山北工業、平工業、会津工業
	情報電子	清陵情報、福島工業
	電子機械	清陵情報、平工業
商 業	情報処理	福島商業、郡山商業、清陵情報、小高商業、東白川農商
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報、喜多方商業、あさか開成
	情報ビジネス	白河実業、若松商業
	情報システム	平商業
水 産	情報通信	いわき海星

(4) 情報教育の充実
設備の整備

設 置 名	設置校数	設置台数	総 数	備 考
パーソナルコンピュータ	0校	0台	190校 3,374台	スタンドアローン型
パソコンネットワークシステム	22校	23式	73校 107式	パソコン台数 累計 3,870台
汎用式コンピュータ(ミニコン含む)	4校	4式	16校 16式	パソコン端末装置 累計 656台

情報教育研修

- ア 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照
- イ 一般研修 県教委主催の各種研修28講座に情報処理に関する演習等の導入

(5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

- ア 招致人数 18名
- イ 配 置 県内5地区の13の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導
福島南高校、郡山高校、葵高校、湯本高校及び双葉高校に5名配置、専任教における指導

(6) 外部講師活用事業

各分野における豊かな経験と優れた識見を有する講師を招聘し、学習への興味・関心を高め、高等学校教育の活性化を図る。

事業の対象

県立高等学校における各学科

実施年度

昭和63年4月1日から施行

実施実績

- ・職業学科の122学科において年2回程度計218回実施
- ・普通科、総合学科の19校において年2回程度55回実施

(7) 少子化に関する高等学校副読本策定事業

少子化に伴う子育て支援体制の整備、並びに男女共同参画社会の形成等の社会環境の変化に対応した高等学校教育の新たな必要性に鑑み、高校生に配付する副読本を作成することを目的とする。

事業内容

- ・副読本「少子化ってなあに？」の改訂版作成
印刷部数 20,000部
- ・配付対象
本 県 県立高校1年生全員、教員及び関係機関

(8) 高校生保育等体験学習推進事業

急速な少子高齢社会への移行や、男女共同参画社会の形成の促進などを踏まえ、高校生の段階で保育所等で男女が協力し子育ての体験を行うことを通して豊かな心を育み、社会性を養い、人間としての在り方や生き方について考えさせることを目的とする。

- 実績調査研究校 ・梁川高等学校
(6校) ・湖南高等学校
・棚倉高等学校
・会津学鳳高等学校
・遠野高等学校
・相馬農業高等学校飯館分校

(9) 男女平等教育推進モデル校事業

21世紀の少子・高齢社会、男女共同参画社会に生きる人材を育成する本県の学校教育の課題に鑑み、高等学校における男女平等教育の推進を図る。

- 実施研究校 ・須賀川高等学校
・喜多方東高等学校

(10) 専門高校と小・中学校との連携推進事業

専門高校と小・中学校との連携による農林水産業体験やものづくりなどに関する教育を推進するとともに専門高校の活性化を図る。

- 推進地域名
会津坂下町
推進校
会津農林高等学校
会津坂下町立坂下小学校
会津坂下町立第一中学校
会津坂下町立第二中学校

4 学力向上対策等

(1) 平成14年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
スーパーサイエンスハイスクール	安 積	14～16	自然科学の基礎を培い、科学的資質・能力を開発する理数系教育の研究
先進的教育用ネットワークモデル地域事業	福島明成 福島南 郡山北工業	11～15	地域教育ネットワークを活用した学校間交流のあり方に係わる研究
専門学校と小・中学校との連携推進事業		12～13	二輪車に関する交通安全の意識の高揚を図る学校・家庭・地域の連携について

(2) ふくしまの教育ライジングプラン事業

[進路希望実現推進事業]

事業のねらい

各学校の主体性を生かした学力向上事業、学習の個別化を図る事業、教員の指導力の向上を図るための事業、学力向上を図るための家庭・地域の意識啓発事業の実施向上を期するとともに、本県生徒一人一人の個性を生かした進路希望の実現を図る。

事業の概要

ア 各学校の主体性を生かした進路希望実現のための事業

各学校及び生徒の実態に応じて、学校の創意工夫及び主体性を生かした進路希望の実現に資する学力向上のための取組みを実施する。対象校は、全日制91校、定時制7校の98校。

なお、7月2日に事業担当者連絡協議会を実施し、事業の趣旨と効果的な運用について協議を行った。

内容については、次の3つの柱とする。

生徒の学力向上支援を中心とする事業

- ・基礎学力向上のための学習合宿
- ・強化学習合宿
- ・資格取得支援
- ・つなぎ教材の作成等

生徒の進路意識啓発を中心とする事業

- ・進路講演会
- ・保護者を含めた講演会
- ・大学及び企業見学会等

その他各学校の創意工夫に基づいた学力向上のための事業

- ・大学教授による出前講座
- ・オープンスクール
- ・インターンシップ等

イ ティーム・ティーチングによる学習の個別化を図る事業

ティーム・ティーチングのための講師を学校に配置し、英語、数学、国語等の指導の個別化を図ることにより、学習内容の理解と定着を図り、生徒一人一人の進路希望の実現に必要な学力の向上を目指す。

配置校：全日制91校

講師の配置

- ・常勤講師47名(47校)
- ・月手当非常勤講師44名(43校)
- ・時間講師544時間(31人分)

ウ 教員の指導力の向上を図るための事業

教員の指導力の向上を図るモデル研究

- ・A方式(作問を通しての学習指導の研究)

事務局校：福島西高校、相馬女子高校・双葉高校

- ・B方式(中・高連携による学習指導の研究)

数学：県中地区：郡山高校、郡山東高校

英語：県中地区：須賀川高校、須賀川桐陽高校

会津地区：喜多方高校、喜多方東高校

いわき地区：湯本高校、いわき光洋高校

教員の自主的研究に対する支援

- ・個人またはグループによる学習指導に関する自主的・実践的研究を支援する。
- ・3グループ(1グループ30万円以内)
- ・研究対象
 - 小高工業高校：化学システム技術のIT分野の活用(TCP/IPを用いた化学系実習における教材研究)
 - 郡山北工業高校：向日葵式ソーラー発電の研究
 - 勿来工業高校：生分解性プラスチックの合成に関する研究

教員の研修交流

- ・中高研修交流教員の発表の場を確保し、研究成果の周知を図る。

Ⅰ 学力向上を図るための家庭・地域の意識啓発事業 公開フォーラムの開催

- ・タイトル：「見つけよう、学ぶ楽しさ・学ぶ喜び」
 - ・期 日：平成14年9月6日
 - ・会 場：相馬市民会館
 - ・基調講演者 ピーター・フランクル(数学者)
 - ・中・高・大学生によるパネルディスカッション
 - ・参加者 約1,100名
- 学力向上施策等推進システムの活用

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内6地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

地区内の高等学校の訪問指導(計画・随時)

地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

関係諸機関、諸団体との連携

生徒指導関係の情報と資料の収集

生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) 生徒指導関係の諸研修会における指導

名称	期日	期間	会場	参加者
生徒指導・特別活動担当者研修会	6.10(月)～6.12(水)	3日	教育センター	生徒指導主事等 115名

(3) スクールカウンセラーの配置

スクールカウンセラー配置校(12校)

- ・福島女子高等学校
- ・福島工業高等学校
- ・福島南高等学校
- ・川俣高等学校
- ・長沼高等学校
- ・船引高等学校
- ・須賀川高等学校
- ・会津工業高等学校
- ・会津農林高等学校
- ・遠野高等学校
- ・磐城農業高等学校
- ・相馬農業高等学校

6 学校行事

(1) 卒業式

県立高等学校卒業生数

課程	性別		計
	男	女	
全 日 制	10,232	9,966	20,198
定 時 制	168	81	249
通 信 制	75	133	208
計	10,475	10,180	20,655

卒業式実施期日

月日	種別			計
	全日制	定時制	通信制	
3月1日(土)	90	5	0	95
3月2日(日)	1	0	1	2
3月3日(月)	0	1	0	1
3月4日(火)	0	1	0	1
計	91	7	1	99

県知事、県議会議長、県教育庁臨席校

県知事臨席校 3月1日 光南高等学校

" 白河高等学校

県議会議長臨席校 3月1日 郡山北工業高等学校

県議会副議長臨席校 3月1日 勿来高等学校

県教育庁臨席校 3月1日 坂下高等学校

" 西会津高等学校

(2) 修学旅行

県立高等学校()は前年度

参加生徒総数 19,707人(20,368人)

参加率 91.6%(96.8%)

行 先

行先	奈良 京都	中国 近畿	近畿 四国	九州	北海道	沖縄	海外
校数	47 (35)	7 (14)	2 (0)	7 (17)	5 (5)	20 (18)	7 (6)

航空機利用 60校

北海道方面 5校

大阪方面 21校

九州方面 7校

沖縄方面 20校

海 外 7校

泊 日 数

1泊2日 0校(0校)

2泊3日 4校(3校)

3泊4日 54校(60校)

4泊5日 37校(34校)

必 要 経 費

生徒一人当りの最高額 115,865円(112,800円)

最低額 68,592円 (69,599円)

平均額 87,106円 (87,750円)

引率責任者

校長 44校 (42校)

教頭 51校 (55校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

「第2回福島県産業教育フェア」

(第1回は平成11年度に開催)

期日：平成14年9月28、29日

会場：福島県産業交流館「ビッグパレットふくしま」

参加校：48校

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

平成14年度新産業技術等指導者養成講習

ア 新産業技術講習

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	高橋 豊治	教諭	東白川農商高等学校	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校	8月19日～8月23日
農業	安部 有志	教諭	岩瀬農業高等学校	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校	8月19日～8月23日
工業	鈴木 康隆	教諭	平工業高等学校	東京工業大学	7月22日～7月26日
工業	池田 光治	教諭	勿来工業高等学校	東京工業大学	7月22日～7月26日
商業	藤田 紀子	教諭	平商業高等学校	千葉商科大学	7月22日～7月26日
商業	高橋 喜一郎	教諭	(私)帝京安積高等学校	千葉商科大学	7月22日～7月26日
商業	佐竹 建城	教諭	勿来高等学校	一橋大学	8月5日～8月9日
商業	菊池 美喜子	教諭	平商業高等学校	一橋大学	8月5日～8月9日
家庭	坂田 了	教諭	いわき海星高等学校	茨城県立海洋高等学校	8月26日～8月30日
家庭	石塚 孝子	教諭	耶麻農業高等学校	文京社会福祉専門学校	8月1日～8月9日
家庭	柳沼 さおり	教諭	長沼高等学校	(助)内田洋行教育システム事業部	8月1日～8月9日
看護	齋藤 香代	助教諭	(私)仁愛高等学校	愛国高等学校	8月5日～8月13日

イ 情報技術コース

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
工業	根本 純夫	教諭	平工業高等学校	(助)内田洋行教育システム事業部	8月19日～8月30日

ウ 先端技術プログラムコース

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
工業	原田 智	教諭	二本松工業高等学校	宇宙開発事業団筑波宇宙センター	8月19日～8月22日
工業	荒 峰雄	実習講師	小高工業高等学校	宇宙開発事業団筑波宇宙センター	8月19日～8月22日

平成14年度産業教育内地留学及び高等学校教員先端技術等研修

教科	氏名	学校名	研修先	研修期間	備考
農業	伊藤 仁	福島明成高等学校	岩手大学農学部	H14年4月1日～H15年3月31日	内地留学
農業	竹田 貴充	岩瀬農業高等学校	東京農業大学	H14年10月1日～H15年3月31日	
農業	西田 治	相馬農業高等学校	独立行政法人食品総合研究所	H14年10月1日～H14年12月27日	
工業	星 輝光	平工業高等学校	東京工業大学	H14年4月1日～H15年3月31日	内地留学
工業	寺島 弘幸	福島工業高等学校	(株)エンジニア・サイエンス	H14年10月1日～H15年3月31日	
工業	高橋 進一	小高工業高等学校	会津大学	H14年10月1日～H15年3月31日	
家庭	高橋 広子	本宮高等学校	千葉大学	H14年5月1日～H14年7月31日	
商業	船橋 勇一	若松商業高等学校	大原簿記学校	H14年6月3日～H14年8月30日	
商業	上野 文	福島南高等学校	神田外語学院	H14年10月1日～H15年3月12日	

平成14年度高等学校産業教育実習助手講習

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	今野俊一	実習助手	岩瀬農業高等学校	東京農業大学	7月30日～8月9日
農業	木戸祐一	実習助手	耶麻農業高等学校	東京農業大学	7月30日～8月9日

平成14年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	急式正裕	教諭	小野高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月24日～7月26日
農業	長南哲也	教諭	会津農林高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月24日～7月26日
家庭	梅田ゆかり	教諭	相馬農業高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月22日～7月24日
家庭	遠藤美香	教諭	相馬農業高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月22日～7月24日

平成14年度教育情報化推進指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
国語	佐藤秀美	教諭	相馬高等学校	東北電子専門学校	9月9日～9月13日
数学	松浦芳朋	教諭	福島女子高等学校	東京都教職員研修センター	9月10日～10月4日
英語	小貫大吉	教諭	あさか開成高等学校	玉川大学	8月19日～8月23日

(3) 県主催の研修講座と内容

名称	期間	会場	参加者数
情報教育研修	前期 6月17日～6月18日	福島県教育センター	小学校 7名
	中期 9月10日～9月12日		中学校 7名
	後期 10月30日～10月31日		高等学校 5名
			計 19名

(4) 平成14年度産業教育担当教員研修派遣

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
工業	大柳正三	教諭	二本松工業高等学校	国土建設学院	8月5日～8月8日
工業	小野寺敏和	実習教諭	喜多方工業高等学校	国土建設学院	8月5日～8月8日
工業	田村幸雄	主任実講	平工業高等学校	国土建設学院	8月5日～8月8日
農業	鴨勝徳	実習助手	福島明成高等学校	国土建設学院	8月5日～8月8日
商業	添田幹	教諭	平商業高等学校	仙台大原簿記公務員専門学校	7月29日～8月1日
商業	大内久美子	教諭	郡山商業高等学校	仙台大原簿記公務員専門学校	7月29日～8月1日
商業	山崎次郎	教諭	若松商業高等学校	仙台大原簿記公務員専門学校	7月29日～8月1日
商業	森合淑江	教諭	喜多方商業高等学校	仙台大原簿記公務員専門学校	7月29日～8月1日
家庭	荒由利子	教諭	双葉高等学校	東京都立桐ヶ丘高等学校	8月1日～8月2日
水産	能戸俊輔	教諭	いわき海星高等学校	二チモウ株式会社四国営業所	8月6日～8月10日
水産	澤尻京二	教諭	いわき海星高等学校	(株)マリンワークジャパン	8月5日～8月9日
工業	新関幸太郎	教諭	小高工業高等学校	(株)奥相アクセス	8月7日～8月9日

8 定時制・通信制教育

定時制・通信制教育修学指導事業

実施状況

対象学年

1年生から4年生まで

参加校及び参加生徒数

定時制7校 731校 (参加率78.8%)

通信制1校 85校 (参加率 6.8%)

研修日数

1日から2泊3日程度

研修場

アクアマリンふくしま等

勿来高等学校 商業
 勿来工業高等学校 保健体育
 四倉高等学校 国語
 相馬高等学校 英語
 相馬農業高等学校 農業・水産
 小高工業高等学校 工業
 新地高等学校 家庭
 以上36校

9 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が各県立高等学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行い、学習指導の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修、又は経験者研修の該当者のいる学校から数校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

福島東高等学校	美術	
梁川高等学校	理科	
保原高等学校	定通(英語)	
安達高等学校	英語	
本宮高等学校	数学	
安積高等学校御館分校	理科	
湖南高等学校	理科	
郡山東高等学校	保健体育	
郡山商業高等学校	商業	
あさか開成高等学校	国語	
湖南高等学校	保健体育	
須賀川高等学校	理科	
清陵情報高等学校	工業	
岩瀬農業高等学校	数学	
光南高等学校	地歴・公民	保健体育
白河旭高等学校	保健体育	
白河実業高等学校	家庭	
石川高等学校	地歴・公民	
小野高等学校	理科	
会津高等学校	地歴・公民	数 学
会津学鳳高等学校	英語	
喜多方東高等学校	美術	
喜多方工業高等学校	工業	
猪苗代高等学校	国語	商 業
会津農林高等学校	農業・水産	
南会津高等学校	国語	
磐城高等学校	数 学	
いわき光洋高等学校	地歴・公民	
いわき海星高等学校	農業・水産	
磐城農業高等学校	家 庭	

10 教科書採択事務説明会

開催の地区・期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参加者数
県 北	6月4日	福島女子高等学校	24名
県中・県南	6月6日	安積黎明高等学校	42名
会 津	6月6日	葵 高 等 学 校	23名
い わ き	6月7日	磐城桜が丘高等学校	23名
相 双	6月7日	相馬農業高等学校	15名

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組 織

平成14年度福島県高等学校長協会役員名簿

役 職 名	氏 名
会 長	古 市 孝 雄 (福 島)
副 会 長	三 瓶 昌 久 (郡 東)
副 会 長	堀 幸 一 郎 (会 津)
副 会 長	村 山 正 之 (磐 城)
副 会 長	日 下 部 健 一 (原 町)
監 査	佐 藤 典 夫 (福 南)
監 査	佐 藤 正 敬 (郡 商)
事 務 局 長	齋 藤 洋 一 (福 東)

支 部	支 部 長	副 支 部 長
県 北	古市 孝雄 (福 島)	安部 哲夫 (福 女) 大塚 孝 (福 工)
県 南	三瓶 昌久 (郡 東)	菅野 暁 (安 黎) 服部 悦夫 (岩 農)
会 津	堀 幸 一 郎 (会 津)	柳橋 幸生 (葵) 山田 和彦 (喜多方)
い わ き	村山 正之 (磐 城)	小野 孝雄 (磐 桜) 新谷 孝明 (平 商)

支 部	支 部 長	副 支 部 長
相 双	日下部 健一 (原 町)	金丸 知正 (相 農) 片平 俊夫 (相 女)
幹 事	齋藤 義人 (福 商)	富田 良夫 (安 達)
	内田 吉春 (明 成)	秋山 功一 (松 工)
	遠藤 教之 (福 西)	七島 藤雄 (安 東)
	星 憲隆 (福 北)	弓田 篤 (盲)
	菅野 和昶 (川 俣)	穴澤 由美 (大笹生養)
	片寄 竹男 (梁 川)	田中 四郎 (保 原)

印 委員長 印 副委員長

専 門 委 員 会	氏 名	氏 名	
行 政 委 員 会	古市 孝雄 (福 島)	秋葉 史裕 (郡 北)	
	安部 哲夫 (福 女)	栗林 秀樹 (光 南)	
	齋藤 義人 (福 商)	荒 正文 (あ 養)	
	内田 吉春 (明 成)	堀 幸一郎 (会 津)	
	大塚 孝 (福 工)	山田耕一郎 (会津学鳳)	
	齋藤 洋一 (福 東)	村山 正之 (磐 城)	
	佐藤 典夫 (福 南)	小野 孝雄 (磐 桜)	
	弓田 篤 (盲)	片平 俊夫 (相 女)	
	廣瀬 涉 (安 積)	日下部健一 (原 町)	
	三瓶 昌久 (郡 東)		
財 政 与 委 員 会	遠藤 教之 (福 西)	高山紀代子 (会 養)	
	弓田 篤 (盲)	蓬田 健郎 (猪 養)	
	穴澤 由美 (大笹生養)	大越 洋 (平 工)	
	堀川 肇子 (あ 開)	目黒 壽一 (磐 農)	
	関根 啓次 (埴 工)	笹川 二郎 (い 養)	
	生方 和廣 (東白農商)	筧崎 勝信 (浪 江)	
	大和田秀晴 (石 養)	鈴木 暉夫 (小 商)	
	市川 淳一 (猪苗代)		
	生 徒 指 導 委 員 会	菅野 和昶 (川 俣)	志賀 由直 (川 口)
		片寄 竹男 (梁 川)	大石 力弥 (坂 下)
田仲 敏晃 (本 宮)		星 和久 (小名浜)	
齋藤 真策 (湖 南)		濱口 保夫 (い 海)	
菱沼 孝 (石 川)		齋藤 隆弘 (遠 野)	
原 秀司 (船 引)		古宇田栄増 (双葉翔陽)	
伏見 幸雄 (須 養)		櫻井 幸男 (新 地)	
尾形 秀重 (耶 農)			

専 門 委 員 会	氏 名	氏 名
教 育 課 程 委 員 会	星 憲隆 (福 北)	深澤 陽一 (喜 東)
	富田 良夫 (安 達)	井本 昌夫 (大 沼)
	本田 裕 (郡 工)	大谷 明 (湯 本)
	小澤 節雄 (清陵情報)	青木 嵩郎 (勿 来)
	吉田 和衛 (棚 倉)	柴崎 茂 (富 岡)
	古関 隆史 (小 野)	佐藤 碩彦 (富 養)
	八巻 茂雄 (会 工)	
	高校入試検討委員会	内田 吉晴 (明 成)
大 学 入 試 対 策 委 員 会	佐藤 典夫 (福 南)	藤田 和夫 (南 会)
	三瓶 昌久 (郡 東)	木村 秀 (只 見)
	佐々木克己 (須賀川)	稲垣 博司 (勿 工)
	畠山熙一郎 (白 旭)	中野 純一 (好 間)
	三好 祥夫 (萌 世)	筧崎 勝信 (浪 江)
	西間木 薫 (西 養)	金丸 知正 (相 農)
	齋藤 洋一 (福 東)	柳橋 幸生 (葵)
	田中 四郎 (保 原)	清信 悦孝 (若 商)
就 職 指 導 対 策 委 員 会	菅野 暁 (安 黎)	山田 和彦 (喜多方)
	我妻 由規 (須 桐)	関 博之 (内 郷)
	君島 整 (白 河)	坂上 正美 (い 光)
	阿部 紘和 (田 村)	橋本祐一郎 (双 葉)
	小柳津 滋 (聾)	佐藤 忠夫 (相 馬)
	齋藤 義人 (福 商)	三瓶 清 (喜 工)
	秋山 功一 (松 工)	飯間 康則 (西 会)
	七島 藤雄 (安 東)	石川 恪治 (会 農)
	佐藤 正敬 (郡 商)	新谷 孝明 (平 商)
	大森 孝夫 (長 沼)	白瀬美智男 (四 倉)
服部 悦夫 (岩 農)	中村 雅彦 (平 養)	
山口 啓輔 (白 実)	金丸 知正 (相 農)	
齋藤 久男 (郡 養)	栗村 知 (小 工)	
湊 耕一郎 (喜 商)		

部 会 長

部 会	氏 名
普通部会	安部 哲夫 (福女)
商業部会	齋藤 義人 (福商)
農業部会	内田 吉春 (明成)
工業部会	大塚 孝 (福工)
水産部会	濱口 保夫 (い海)
家庭部会	堀川 肇子 (あ開)
定通部会	佐藤 典夫 (福南)
養護部会	弓田 篤 (盲)
理数部会	佐藤 忠夫 (相馬)
英語部会	佐藤 典夫 (福南)
体育部会	阿部 紘和 (田村)
総合学科部会	栗林 秀樹 (光南)

全国校長会

部 会	氏 名
理事	古市 孝雄 (福島)
理事	大塚 孝 (福工)
理事	村山 正之 (磐城)
教育制度	山田 耕一郎 (会津学鳳)
教育財政	関根 啓次 (塙工)
管理運営	廣瀬 渉 (安積)
生徒指導	菅野 和昶 (川俣)
教育課程	大谷 明 (湯本)
大学入試	菅野 暁 (安黎)
就職対策	佐藤 正敬 (郡商)
同和教育	菅野 和昶 (川俣)

(2) 福島県高等学校教育研究会

財政及び組織の状況

ア 本 部

平成14年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏 名	所 属 校 ・ 職 名
会 長	齋藤 洋一	福島県立福島東高等学校長
副会長	安部 哲夫	福島女子高等学校長
"	小野 孝雄	磐城桜が丘高等学校長
委 員	古市 孝雄	福島高等学校長
"	七島 藤雄	安達東高等学校長
"	小野 孝雄	磐城桜が丘高等学校長
"	安部 哲夫	福島女子高等学校長
"	柳橋 幸生	葵高等学校長
"	内田 吉春	福島明成高等学校長
"	大塚 孝	福島工業高等学校長
"	齋藤 義人	福島商業高等学校長
"	三好 祥夫	郡山萌世高等学校長
"	湯山 洋行	いわき光洋高等学校教諭
"	本田 裕	郡山高等学校長
"	安部 哲夫	福島女子高等学校長
"	原 秀司	船引高等学校長
監 査	内田 吉春	福島明成高等学校長
"	三好 祥夫	郡山萌世高等学校長
幹 事	栗原 孝明	福島東高等学校教頭
"	菅野 公晴	福島東高等学校教諭
"	伊藤 正人	福島東高等学校教諭

イ 部 会

部会名	氏 名	所 属 校 ・ 職 名	会員数
養護教諭	古市 孝雄	福島高等学校長	125
保健体育	七島 藤雄	安達東高等学校長	500
理 科	小野 孝雄	磐城桜が丘高等学校長	583
視 聴 覚	柳橋 幸生	葵高等学校長	304
音 楽	安部 哲夫	福島女子高等学校長	103
農 業	内田 吉春	福島明成高等学校長	258
工 業	大塚 孝	福島工業高等学校長	566
商 業	齋藤 義人	福島商業高等学校長	411
定 通	三好 祥夫	郡山萌世高等学校長	137
英 語	湯山 洋行	いわき光洋高等学校教諭	672
数 学	本田 裕	郡山高等学校長	570
家 庭	安部 哲夫	福島女子高等学校長	268
美術工芸	原 秀司	船引高等学校長	80

会 員 数 4,577名

平成14年度予算 8,132,729名

第8章 養 護 教 育

第1節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

(H14. 5.1 学校基本調査、含む訪問学級)

種 別	部	年度									
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
盲 学 校	小 学 部	11	11	10	10	13	15	15	13	17	16
	中 学 部	7	9	10	12	11	6	3	5	9	14
	高 等 部	40	39	35	33	34	35	32	32	31	32
	計	58	59	55	55	58	56	50	50	57	62
聾 学 校	幼 稚 部	20	18	26	24	21	23	21	20	13	23
	小 学 部	47	46	34	36	42	47	49	46	55	52
	中 学 部	21	20	30	28	23	13	17	23	25	23
	高 等 部	19	27	24	24	21	31	29	24	14	21
	計	107	111	114	112	107	114	116	113	104	119
知的障害 養護学校	小 学 部	411	434	435	428	428	448	426	437	437	435
	中 学 部	280	300	284	304	293	304	290	302	288	277
	高 等 部	139	189	193	205	225	251	305	372	393	450
	計	830	923	912	937	946	1,003	1,021	1,111	1,118	1,162
肢体不自由 養護学校	小 学 部	189	184	175	167	162	165	143	147	143	135
	中 学 部	80	94	97	110	99	85	86	87	87	81
	高 等 部	81	69	76	78	88	100	119	117	106	97
	計	350	347	348	355	349	350	348	351	336	313
病弱養護学校	小 学 部	48	42	58	41	44	45	49	51	49	43
	中 学 部	32	42	44	62	58	68	59	56	51	52
	高 等 部	20	21	23	30	41	43	57	63	62	48
	計	100	105	125	133	143	156	165	170	162	143
計		1,445	1,545	1,554	1,592	1,603	1,679	1,700	1,795	1,780	1,799

1 知的障害養護学校は市立養護学校を含む。

2 盲学校高等部は専攻科を含む。

(2) 平成14年度児童生徒数

(H14. 5.1 学校基本調査、含む訪問学級)

種別	部・学年 性別	幼 稚 部	小 学 校							中 学 校					高 等 部				専 攻 科	合 計	総 計
			1 2 3 4 5 6 計							1 2 3 計					1 2 3 計						
			1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計				
盲 学 校	男	1	2	0	0	1	1	5	3	2	2	7	4	6	6	16	9	25	37		
	女	1	4	1	1	1	3	11	3	2	2	7	2	0	4	6	1	7	25		
	計	2	6	1	1	2	4	16	6	4	4	14	6	6	10	22	10	32	62		
聾 学 校	男	7	5	7	4	5	7	7	35	2	2	6	10	6	2	2	10		10	62	
	女	16	1	3	1	6	2	4	17	5	2	6	13	6	2	3	11		11	57	
	計	23	6	10	5	11	9	11	52	7	4	12	23	12	4	5	21		21	119	
知的障害 養護学校	男	53	57	45	43	59	52	309	65	67	62	194	123	90	86	299		299	802		
	女	22	25	22	19	29	23	140	35	24	35	94	56	57	65	178		178	412		
	計	75	82	67	62	88	75	449	100	91	97	288	179	147	151	477		477	1,214		
肢体不自由 養護学校	男	9	13	15	13	16	13	79	17	23	18	58	22	22	20	64		64	201		
	女	10	8	9	9	13	7	56	8	5	10	23	15	8	10	33		33	112		
	計	19	21	24	22	29	20	135	25	28	28	81	37	30	30	97		97	313		
病弱養護 学 校	男	0	4	7	8	1	4	24	4	10	5	19	12	9	11	32		32	75		
	女	2	3	3	2	3	6	19	6	17	10	33	3	6	7	16		16	68		
	計	2	7	10	10	4	10	43	10	27	15	52	15	15	18	48		48	143		
計	男	7	68	83	71	69	84	77	452	91	104	93	288	167	129	125	421	9	430	1,177	
	女	16	36	43	36	37	48	43	243	57	50	63	170	82	73	89	244	1	245	674	
	計	23	104	126	107	106	132	120	695	148	154	156	458	249	202	214	665	10	675	1,851	

市立養護学校、福島大学教育学部附属養護学校を含む。

(3) 県立盲・聾・養護学校教職員定数の推移

区分	種別	盲・聾学校														養護学校														計														
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14													
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13		
	教頭・教諭	121	124	123	126	124	119	115	115	119	123	552	579	576	612	659	668	718	718	745	776	673	703	699	738	783	787	833	833	864	899													
	養護教諭	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	11	12	13	14	16	16	18	18	17	17	14	15	16	17	19	19	21	21	20	20													
	兼任主事																																											
	補充教員	3	4	4	9	3	6	8	8	7	8	29	22	29	42	42	58	71	71	94	71	32	26	33	51	45	64	79	79	101	79													
	講師																																											
	寄宿舎指導員	19	20	20	26	26	27	26	26	21	26	30	29	27	29	29	31	30	30	27	28	49	49	47	55	55	58	56	56	48	54													
	実習助手	7	7	7	8	9	8	8	8	8	8	8	9	9	10	13	14	19	19	22	22	15	16	16	18	22	22	27	27	30	30													
	計	155	160	159	174	167	165	162	162	160	170	640	662	665	718	770	798	867	867	916	925	795	822	824	892	937	963	1,029	1,029	1,076	1,095													
	事務職員	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	33	36	36	37	38	39	43	43	43	44	44	47	47	48	49	50	54	54	54	55													
雇用人	技能労務員																																											
	学校司書																																											
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10	11	11	11	10	10	9	9	9	8	12	13	13	13	12	12	11	11	11	10													
	ボイラー技師	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	5	6	5	3	3	2	1	1	1	1	8	9	8	6	5	4	3	3	3	3													
	栄養士										2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3			
	調理給食員											3	3	3	3	2	0	0	0	0	0	3	3	3	3	2	0	0	0	0	0	0												
	技能訓練士																																											
	マッサージ師																																											
	運転手	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	5	5	5	4	4	4	3	3	2	2													
	計	7	7	7	7	6	6	6	6	5	7	22	24	23	20	18	15	12	12	12	11	29	31	30	27	24	21	18	18	17	18													
合計	173	178	177	192	184	182	179	179	176	188	695	722	724	775	826	852	922	922	971	980	868	900	901	967	1,010	1,034	1,101	1,101	1,147	1,168														

2 盲・聾・養護学校及び特殊学級の実態

(1) 盲・聾・養護学校 (学部別学級・児童生徒数)

障害種別	種別 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計		
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	本科		専攻科		学級数	児童生徒数	
								学級数	生徒数	学級数	生徒数			
盲	県立盲学校			7	16	4	14	5	22	3	10	19	62	
	小計			7	16	4	14	5	22	3	10	19	62	
聾	県立聾学校	5	12	10	32	7	23	5	21			27	88	
	県立聾学校福島分校	1	3	3	6							4	9	
	県立聾学校会津分校	2	5	1	4							3	9	
	県立聾学校平分校	1	3	4	10							5	13	
	小計	9	23	18	52	7	23	5	21	0	0	39	119	
知的障害	県立大笹生養護学校			13	47	8	32	11	36			32	115	
	県立あぶくま養護学校			22	86	13	58	15	87			50	231	
	県立あぶくま養護学校安積分校			5	20	2	10					7	30	
	県立西郷養護学校			8	24	6	23	8	32			22	79	
	県立石川養護学校			8	24	6	16	7	34			21	74	
	県立会津養護学校			16	57	12	41	9	66			37	164	
	県立猪苗代養護学校			5	14	3	7	3	14			11	35	
	県立いわき養護学校			19	68	10	33	15	68			44	169	
	県立富岡養護学校			9	28	7	24	9	39			25	91	
	福島市立福島養護学校			13	55	4	15	9	50			26	120	
相馬市立養護学校			3	12	3	18	5	24			11	54		
小計			0	0	121	435	74	277	91	450	0	0	286	1,162

障害種別	種別 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計		
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	本科		専攻科		学級数	児童生徒数	
								学級数	生徒数	学級数	生徒数			
肢体不自由	県立郡山養護学校			31	85	15	42	18	55			64	182	
	県立平養護学校			19	50	14	39	15	42			48	131	
	小計	0	0	50	135	29	81	33	97	0	0	112	313	
病弱	県立須賀川養護学校			8	17	10	28	12	48			30	93	
	県立須賀川養護学校医大分校			3	11	3	8					6	19	
	県立須賀川養護学校郡山分校			1	3	3	7					4	10	
	県立会津養護学校竹田分校			3	12	2	9					5	21	
小計	0	0	15	43	18	52	12	48	0	0	45	143		
合計			9	23	211	681	132	447	146	638	3	10	501	1,799

(2) 特殊学級（障害別・児童生徒数）

管内	学校別 種別 内容	小学校							中学校							計		
		弱視	難聴	知的障害	病弱 虚弱	肢 体 不 自 由	言語 障害	情緒 障害	小計	弱視	難聴	知的障害	病弱 虚弱	肢 体 不 自 由	言語 障害		情緒 障害	小計
県北	学校数	1	1	42		1		10	55			28		1		8	37	92
	学級数	1	1	45		1		10	58			30		1		8	39	97
	児童生徒数	1	3	142		8		35	189			93		2		22	117	306
県中	学校数	1		51	1			21	74			26	1		2	29	103	
	学級数	1		51	1			21	74			27	1		2	30	104	
	児童生徒数	1		128	1			62	192			75	4		3	82	274	
県南	学校数		3	22		1		4	30			10				10	40	
	学級数		3	22		1		4	30			10				10	40	
	児童生徒数		4	54		1		9	68			27				27	95	
会津	学校数			20				3	23			7			1	8	31	
	学級数			20				3	23			8			1	9	32	
	児童生徒数			62				14	76			24			2	26	102	
南会津	学校数			6					6			3				3	9	
	学級数			6					6			3				3	9	
	児童生徒数			9					9			7				7	16	
相双	学校数	1	1	24				6	32			11				11	43	
	学級数	1	1	26				6	34			12				12	46	
	児童生徒数	1	1	86				13	101			38				38	139	
いわき	学校数			20				3	23			11				11	34	
	学級数			24				3	27			12				12	39	
	児童生徒数			101				10	111			42				42	153	
計	学校数	3	5	185	1	2	0	47	243			96	1	1	11	109	352	
	学級数	3	5	194	1	2	0	47	252			102	1	1	11	115	367	
	児童生徒数	3	8	582	1	9	0	143	746			306	4	2	27	339	1,085	

(3) 通級による指導（障害別・児童生徒数）

管内	学校別 種別 内容	小 学 校						中 学 校						計
		弱 視	難 聴	病 弱 虚 弱	言 語 障 害	情 緒 障 害	小 計	弱 視	難 聴	病 弱 虚 弱	言 語 障 害	情 緒 障 害	小 計	
北 県	学 校 数				3		3							3
	教 室 数				8		8							8
	児 童 生 徒 数				128		128							128
中 県	学 校 数		1		2		3							3
	教 室 数		1		2		3							3
	児 童 生 徒 数		9		23		32							32
南 県	学 校 数													
	教 室 数													
	児 童 生 徒 数													
津 会	学 校 数		1		1		2							2
	教 室 数		1		2		3							3
	児 童 生 徒 数		5		19		24							24
津 南 会	学 校 数													
	教 室 数													
	児 童 生 徒 数													
双 相	学 校 数				3		3							3
	教 室 数				6		6							6
	児 童 生 徒 数				77		77							77
い わ き	学 校 数				2		2				1		1	3
	教 室 数				5		5				1		1	6
	児 童 生 徒 数				63		63				9		9	72
計	学 校 数		2		11		13				1		1	14
	教 室 数		2		23		25				1		1	26
	児 童 生 徒 数		14		310		324				9		9	333

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
対象児童 生 徒 数	109	112	104	92	95	76	80	77	75	89	69	90	80	69
担 当 教 員 数	34	37	41	41	35	33	35	33	36	41	36	45	36	41

(5) 障害による就学義務の猶予・免除者の推移

	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
猶予者数	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1
免除者数	5	3	8	7	4	4	5	7	5	3	3	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成14年度の盲・聾・養護学校教職員の定数は、前年比22人増の1,174人となった。このうち、教諭等は、前年比35人増の899人である。

新採用について

盲・聾・養護学校の新採用志願者数は、前年比34人増の223人であったが、一次及び二次選考試験の結果、名簿搭載者数は37人であり、そのうち辞退者を除き33人の教諭採用をみた。

交流について

同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め98人の教諭等の交流が実現した。

また、小・中学校・市立養護学校及び福島大学教育学部附属養護学校との交流（転入）は29人で、高等学校との交流（転入）は7人であり教育効果の向上が期待される。

- (2) 平成14年度県立盲・聾・養護学校教員交流基準
一般基準
- ア 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるようにつとめる。
- イ 高等学校および市町村立小・中・養護学校と盲・聾・養護学校との交流をはかる。
- ウ 高等学校との交流は、県立高等学校職員人事異動実施要項による。
- エ 市町村立小・中・養護学校との交流は、市町村立小・中・養護学校教職員人事異動実施要項による。
- オ 優秀な人材の転入をはかるとともに、その者が相当年数（3年以上）勤務した場合の転出については特に考慮する。
- カ 同一校には原則として最低3年は勤務するものとする。
- キ 二親等以内の者は原則として同一校勤務をさける。
勤務年数による基準
次の基準に該当する者は、原則として交流の対象とする。
- ア 採用後ひきつづき同一校に3年以上勤務した者
- イ 同一校に8年以上勤務した者
地区及び障害別の学校分類による基準
- ア 県立盲・聾・養護学校の地区別、障害別の分類は別表1によるものとする。
- イ 昭和52年度以降、特殊教育諸学校教員として掲載され採用された者は、原則として15年以内に2地区および2障害以上の学校にいずれも勤務させるものとする。
- ウ 上記のイの2障害の経験については、原則として別表2によるものとする。

別表1 県立盲・聾・養護学校地区別・障害別学校分類

地区	障害		養 護		
	盲	聾	知的障害	肢体不自由	病 弱
県 北	・盲学校	・聾学校 福島分校	・大笹生 養護学校		・須賀川 養護学校 医大分校
県 南		・聾学校	・あぶく ま養護 学校 ・あぶく ま養護 学校安 積分校 ・西郷養 護学校 ・石川養 護学校	・郡山養 護学校	・須賀川 養護学 校 ・須賀川 養護学 校郡山 分校
会 津		・聾学校 会津分 校	・会津養 護学校 ・猪苗代 養護学 校		・会津養 護学校 竹田分 校
いわき		・聾学校 平分校	・いわき 養護学 校	・平養護 学校	
相 双			・富岡養 護学校		

別表2 県立盲・聾・養護学校障害別経験群分類

群名	群		群		
群分類	・原則として15年以内に勤務経験を必須とする障害種別の学校		・群以外の障害種別の学校		
群内の学校	・知的障害養護学校	・盲学校	・聾学校	・肢体不自由養護学校	・病弱養護学校

- 注1 群内の障害種別の学校のみを経験を有する者は、群の学校に勤務することを必須とする。
- 注2 群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、2障害の経験を有していない者は、群内のいずれかの障害種別の学校での勤務をするものとする。
- 注3 ただし、平成7年度までに2地区及び2障害の勤務経験を終了しているものはこの限りではなく、これまで2地区及び2障害の勤務経験を有していない者、及び平成8年度以降採用教員については、注1、注2の勤務経験を者要とする。

第2節 学校教育

1 概 要

(1) 指導行政の基本方針

「人・地域・自然と共に個を磨く新世紀ふくしまの教育」を基本目標に、「他」との深い関わりの中で主体的・積極的に自己を高めることができる環境づくりを目指し、「人と共に」「地域・自然と共に」「新世紀と共に」「学びの環境づくり」の4つの視点を設定して、「養護教育の充実」を図るために、次の観点から施策を展開し、その充実に努めた。

- ・ 生き方を考えさせる個に応じた進路指導の改善・充実
- ・ 適正就学の推進と教育機会の拡充
- ・ 障害の重度・重複化、多様化に対応した教育の充実
- ・ 教育と保健・医療・福祉等の機関との連携の一層の充実
- ・ 情報教育の充実
- ・ 情報環境の整備・充実
- ・ 教職員研修の充実
- ・ 教職員の人材確保と適正配置の推進
- ・ 盲・聾・養護学校の施設・設備の整備充実

特に、ふくしまの教育ライジングプラン「養護教育進路サポート事業」の中で、就労サポート連絡協議会の開催や進路指導推進員の配置等、進路指導の充実に努めた結果、労働・福祉関係との連携が図られ、産業現場等における実習先の開拓が一層強化された。また、事業所、関係団体等への養護学校や障害者に対する理解、雇用に関わる助成等

の制度面の理解が広く図られるようになった。

(2) 指導組織

課長、主幹兼課長補佐、主幹、主任主査、主任管理主事、管理主事、主任指導主事各1名、指導主事4名、副主任主査3名、各教育事務所養護教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱養護教育担当学校教育指導委員7名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

前記の1基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育内容・方法の改善充実

(ア) 児童生徒の障害の状態等に応じた適切な教育を行うために盲・聾・養護学校、特殊学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。

(イ) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

(ウ) 訪問教育においては、週3回の訪問を実施するとともに、そのうち1回は登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の児童生徒と交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、スクーリング（登校学習）を実施した。また、高等部における訪問教育の充実に努めた。

(エ) 教育委員会広報誌「教育福島」で学校教育指導の重点や具体的課題を明確にし、教育内容・方法の改善充実に参考となる実践事例等を紹介した。

盲・聾・養護学校における教科指導

(7・8月号)

盲・聾・養護学校における教科指導

(11・12月号)

地域の特殊教育センターとしての盲・聾・養護学校の役割

(9月号)

障害のある子どもの教育相談体系化推進事業

(2・3月号)

学習障害児が通常学級で楽しく生き生きと学習に参加できる支援のあり方

(2・3月号)

イ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障害の状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

ウ 進路指導の充実

児童生徒が主体的に進路を選択し、自らの将来のよりよい生き方を実現するために、個に応じた進路指導計画の作成や福祉・労働・医療機関との連携を図り、進路指導体制の整備に努めた。特に、障害のある児童生徒が、地域において社会参加・自立することができるように、一人一人の実態に応じた進路決定の在り方と進路実現のため、事業所や福祉関係機関等への理解啓発に努めた。

知的障害養護学校（県立）8校において、ふくしまの教育ライジングプラン「養護教育進路サポート事業」を

実施し、進路指導の充実に努めた。

エ 軽度障害児の指導の充実

障害の多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、新しい学習指導要領の趣旨を生かした特殊学級経営の充実に努めた。また、通常の学級に在籍する軽度の障害児や学習障害児、注意欠陥/多動性障害（ADHD）児等の理解や指導の在り方についてセミナーを開催し、担当教員の指導力の向上に努めた。

オ 交流教育の推進

「豊かな体験学習支援事業」（「学校から地域へ」）を実施し、盲・聾・養護学校と小・中・高等学校及び地域との交流を行ったり、自然や文化とふれあったりして、体験を深める中で、養護教育及び障害に対する正しい理解と認識を深めることに努めた。

また、平成10年度から「共生社会への道支援事業『ふれあいウイング』」（「地域から世界へ」）を実施し、盲・聾・養護学校高等部生徒と高等学校生徒等を合同で、ノーマライゼーションの理念に基づく社会づくりとユニバーサルデザインのまちづくりを進めているドイツ連邦共和国ケルン市に派遣した。

カ 情報教育の充実

幼児児童生徒の障害に基づく困難を改善克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4) 教職員の資質と指導力の向上

ア 養護教育担当指導主事会議の開催

養護教育に関する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の養護教育の理解及び円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

養護教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 盲・聾・養護学校初任者研修、経験者研修の実施

盲・聾・養護学校の初任者に対して、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、中・高合同教科研修、コンピューターに関する研修、社会貢献活動体験研修等を行った。

エ 養護教育担当教員長期・短期研修

養護教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員7名を国立特殊教育総合研究所の長期及び短期研修へ派遣した。

(5) 適正就学の推進

障害児の適正な就学を図るため、市町村教育委員会及び小・中学校校長・教頭・教務主任を対象に就学指導講習会を開催した。また、市町村における就学指導を補完するため、県障害児就学指導委員会を開催し、障害児の適正な就学指導の推進に努めた。

(6) 21世紀を展望した養護教育

ア 養護教育における医療的ケア調査研究事業

平成13年～14年度まで文部科学省から「特殊教育における福祉・医療等との連携に関する実践研究」の委嘱を受け、教育・医療・福祉等関係者からなる「養護教育における医療的ケア調査研究会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究を行った。また、平養護学校を実践研究校として指定し、医療機関が併設されている養護学校における教員を中心とした医療的ケアの在り方について実践研究を行った。また、医療機関が併設されていない養護学校における看護師を中心とした医療的ケアの在り方について実践研究を行なうため、会津養護学校を実践研究校として指定した。

平成14年度は、これら2校の実践を踏まえて、郡山養護学校、須賀川養護学校にも看護師も配置し、医療的ケアを実施した。

イ 学習障害児（LD）に対する指導体制の充実事業

平成13年・14年度文部科学省の委嘱を受け、小・中学校の通常の学級に在籍している学習障害児（LD）が、その特性に応じた指導が受けられるよう、その指導体制に関する研究を行うこととした。

ウ 障害のある子どものための教育相談体系化推進事業

平成13年・14年度文部科学省の委嘱を受け、教育と保健・医療・福祉等が一体となって乳幼児期から学校卒業後まで、障害のある子どもやその保護者等に対して相談及び支援体制の充実を図るための研究を行うこととした。

エ 地域の特殊教育センターとしての盲・聾・養護学校の役割とその機能の充実

盲・聾・養護学校は、学習指導要領等において、地域の特殊教育センターとしての役割が明確に規定された。これまでも聾学校などにおいては、早期からの教育的対応を行ってきたが、今後、市町村教育委員会等と連携を図り、地域の特殊教育センターとしてその機能を充実させ、地域に開かれた学校づくりが求められている。このようなことから、平成14年度は、相談機能の充実を図るため県立盲学校と県立聾学校に教育相談補充教員を各1名配置した。

2 現職教育

(1) 教職員の研修

研修会、講習会については、下表のとおり実施し、教職員の資質向上に努めた。

名 称	期 日	期間	会 場	人数	対 象
養護教育教務主任研修会	9月30日(月)	1日	福島県養護教育センター	22	盲・聾・養護学校教員
特殊教育新任担当教員研修会	6月5日(水)～7日(金)	3日	福島県養護教育センター	79	養護教育新任担当教員
盲・聾・養護学校養護教諭研修会	7月23日(火)	1日	福島県養護教育センター	27	盲・聾・養護学校教諭
盲・聾・養護学校実習助手研修会	8月1日(木)	1日	福島県養護教育センター	23	盲・聾・養護学校実習助手
経験者研修	5月29日(水)～5月31日(金)	3日	福島県養護教育センター	42	盲・聾・養護学校教員
教職基本研修 いじめ研修 (1班)	11月5日(火)	1日	福島県養護教育センター	23	盲・聾・養護学校教員
	(2班)	11月7日(木)			
経験者研修	9月3日(火)～5日(木)	3日	福島県養護教育センター	38	盲・聾・養護学校教員
教職基本研修 コンピュータに関する研修 (1班)	10月16日(水)	1日	福島県養護教育センター	20	盲・聾・養護学校教員
	(2班)	10月17日(木)			

盲・聾・養護学校初任者研修

名 称	期 日	期間	会 場	
宿泊研修	一次研修	7月29日(月) ～31日(水)	3日	二本松青年海外協力 隊訓練所
	二次研修	1月28日(火) ～30日(木)	3日	県養護教育センター
養護教育センター研修	基本研修	4月17日(水) ～18日(木)	1日	県養護教育センター
	カウンセ リング 研 修	5月15日(水) ～16日(木)	2日	県養護教育センター
	情報教育 研 修	1班 8月19日(月) 2班 8月20日(火)	1日	県養護教育センター
地区別研修	課題研修	A・Bブロック 6月19日(水) 10月2日(水) 2月19日(水)	3日	Aブロック 聾学校 Bブロック いわき養護学校
	講習会研 修会等参 加研修会	各校ごとに実施	2日	
	他校参観 研 修	各校ごとに実施	5日	各地区内の該当学校
	企業等体 験 研 修	各校ごとに実施	4日	各地区内の該当学校
	社会奉仕 体験活動 研 修	各校ごとに実施	2日	各地区内の該当学校
	自然体験 研 修	各校ごとに実施	1日	各地区内の文化財史 跡等
学部別研修	小学部11月6日(水) 中学部11月6日(水) 高等部11月6日(水)	1日	石川養護学校 須賀川養護学校 あぶくま養護学校	
障害種別研修	A 9月11日(水) B 9月18日(水) C 9月11日(水)	1日	聾学校 あぶくま養護学校 郡山養護学校	
所属校研修		60日	各所属校	

(2) 養護教育担当教員長期・短期研修

ア 福島県養護教育センター

(ア) 長期研修1年

氏 名	職名	学 校 名	期 間
大槻 孝昭	教諭	あぶくま養護学校	H14年4月1日 ～H15年3月31日
橋本 淳一	教諭	聾 学 校	
柳 沼 哲	教諭	郡山養護学校	
佐藤 由弘	教諭	郡山市立富田小学校	

(イ) 国立特殊教育総合研究所

a 長期研修

氏 名	職名	学 校 名	コ ー ス 等	期 間
加藤 和宏	教諭	平養護学校	肢体不自由 教育研究部	4月9日～ 3月20日

b 短期研修3か月

氏 名	職名	学 校 名	コ ー ス 等	期 間
猪俣 康彦	教諭	盲 学 校	視覚障害研究 コ ー ス	5月7日～ 7月3日
加藤 賢一	教諭	猪苗代養護 学 校	重度・重複障害 コ ー ス	1月14日～ 3月14日
船ヶ山 雄二	教諭	西郷養護 学 校	重度・重複障害 コ ー ス	1月14日～ 3月14日
曾川 清恵	教諭	いわき養護 学 校	知的障害教育 コ ー ス	9月2日～ 11月1日
後藤 美穂	教諭	矢祭町立下 関河内小学校	視覚障害研究 コ ー ス	5月7日～ 7月3日
二瓶 美佳	教諭	只見町立 朝日中学校	視覚障害研究 コ ー ス	9月2日～ 11月1日

(3) 特別支援教育のための指導法セミナー

小・中学校の通常の学級で、特別な教育的支援を必要とする児童生徒を指導している教員を対象に児童生徒の理解と援助の方法について研修を行い、指導力の向上を図るとともに、盲・聾・養護学校の教育についての理解と啓発に努めた。

地 区	会 場	期 日	受講者数
県 北	大笹生養護学校	9月2日(金)	41
県 中	須賀川養護学校	9月12日(木)	41
県 南	西郷養護学校	9月10日(火)	29
会津・南会津	会津養護学校	9月6日(金)	44
相 双	富岡養護学校	9月4日(水)	29
い わ き	平 養 護 学 校	9月5日(木)	35

3 教育課程

特殊教育新教育課程講習会

平成11年3月に告示された盲・聾・養護学校指導要領について、その内容の説明を行うことにより新教育課程の趣旨の徹底を図るようにした。

地区	期 日	会 場	人数	参加対象
県内	8月2日(金)	郡山養護学校	192人	盲・聾・養護学校の教頭及び教諭

4 交流教育

(1) 福島県青少年等海外派遣事業「うつくしま県民の翼」

共生社会への道支援研修コース

「ふれあいウイング」

ア 趣 旨

(ア) 県内各地の盲・聾・養護学校高等部生徒、高等学校生徒等を含む団員を合同でドイツ連邦共和国へ派遣し、ノーマライゼーションの理念を現実に見聞し、体験し、「共に生きる社会づくり」の着実な実現に寄与する。

(イ) 派遣に伴う自身の変容及び社会自立への実践を通して地域社会への啓蒙・啓発を図る。

(ウ) 障害者自身の自立の実態と自立を可能にする支援体制、社会制度、教育制度、まちづくり等を現地での交流、体験等を通じ習得させ、地域及び県域レベルの障害者福祉に関するリーダーたる人材の育成、モデルたる自立生活の実践者の育成を図る。

イ 実施状況

(ア) 派遣者

	氏 名	学 校 名	備 考
1	本多 友美	大 笹 生 養 護 学 校	高等部2年
2	林部 友紀	会 津 養 護 学 校	高等部3年
3	長澤 真治	郡 山 養 護 学 校	高等部3年
4	酒井 愛美	平 養 護 学 校	高等部3年
5	石井 千晶	須 賀 川 養 護 学 校	高等部3年
6	上遠野智絵	遠 野 高 等 学 校	3年
7	熊田 歩実	船 引 高 等 学 校	3年
8	竹内 恵	福 島 西 高 等 学 校	3年
引 率	江見 浩二	会津養護学校竹田分校	教諭
引 率	草野 香織	聾 学 校 平 分 校	養護教諭
引率・事務局	芳賀 孝美	養 護 教 育 課	指導主事

(イ) 派遣国 ドイツ連邦共和国ケルン市

(ウ) 派遣期間 平成14年10月17日～10月26日(10日間)

(エ) 研修内容

日本と同様な福祉・教育制度をもち、近年インクルージョン(包含教育)やグループホームを取り入れ始めたドイツ連邦共和国ケルン市を訪問し、主に次の研修を行った。

a ドイツ・日本合同シンポジウムの開催

団員、ケルン大学関係者、福祉機関関係者等が一堂に会し、「みんなのための社会」をテーマに、シンポジウムを開催し、意見の交換を行った。

b 街並み探索、交通機関体験

ケルン大学特殊教育学部学生と一緒にケルン市の公共交通機関等を体験し、ユニバーサルデザインのまちづくりの現状について研修した。

c ケルン大学における研修

EUから委託を受け「障害者の学校卒業後の自立」の研究を行っているケルン大学で「障害のある人の進路(自立)への取り組み」について研修を行った。

d 老人ホーム、障害者の働く工場における研修

施設見学や入所者、障害のある人との交流を通し、各施設の現状や課題等について研修を行った。

e 乗馬療法の体験学習

障害児に対して、アニマルセラピーの一つである乗馬療法を取り入れ運動的、精神的及び、社会的能力の育成に効果を上げている乗馬療法センターで取り組みの現状等について研修を行った。

f 介護保険制度についての研修

ドイツの介護保険制度の概要の把握やドイツと日本の介護保険制度の比較等を通し介護保険制度の現状と課題について研修した。

g 提言集の発行を行った。(平成14年3月)

h 「ふれあいウイング」ネットワークサポート事業「ふれあいウイング友の会」交流会 11月23日

(2) 豊かな体験学習支援事業

ア 趣 旨

新学習指導要領においては、各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を行うことが求められている。その教育効果を上げるためには、学校単独ではなく、地域と一体となった教育が不可欠なものとなってくる。

そこで、総合的な学習の時間等において地域の各種専門家の人材活用を積極的に行うことや盲・聾・養護学校の児童生徒が学校から地域に出て、積極的に人や自然、社会とふれあい、共に学び合う交流の機会を設けることにより、児童生徒の経験を広め、社会性を養い、「生きる力」を育み、自立と社会参加を支援するため、本事業を実施した。

イ 実施校

県立盲・聾・養護学校(分校を含む)全20校

ウ 実施状況

次のような活動を各校で計画し実施した。

(ア) 学びあい体験学習

a 外部講師招聘による学習

- b 自然の家等を利用しての自然体験学習
- c 見学学習等の社会体験学習
- d 交流活動
 - ・ 地域社会の人々との交流活動
 - ・ 盲・聾・養護学校間での交流活動
 - ・ 盲・聾・養護学校と小・中・高等学校との交流活動

5 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング（登校学習）を実施した。

さらに、大笹生養護学校、郡山養護学校、石川養護学校、平養護学校、富岡養護学校では高等部の訪問教育を実施した。実施状況は次のとおりである。

学級数・児童生徒数 校名	学 級 数				児 童 生 徒 数				スクーリング参加児童生徒数			
	小学部	中学部	高等部	計	小学部	中学部	高等部	計	小学部	中学部	高等部	計
大笹生養護学校	1	1	4	6	3	3	10	16	2	1	5	8
郡山養護学校	4	2	2	8	11	4	4	19	8	2	1	11
須賀川養護学校	1			1	2			2	1			1
須賀川養護学校 郡山分校	1 (1)	1 (1)		2 (2)	2 (2)	2 (2)		4 (4)				
西郷養護学校		1		1		2		2		2		2
石川養護学校	1	1	1	3	2	2	1	5	1	1		2
会津養護学校	1	1		2	1	1		2	1	1		2
平養護学校	2 (1)	2 (1)	4 (3)	8 (5)	4 (3)	3 (1)	10 (7)	17 (11)		1	2	3
富岡養護学校	1		1	2	1		1	2	1		1	2
合 計	12 (2)	9 (2)	12 (3)	33 (7)	26 (5)	17 (3)	26 (7)	69 (15)	14	8	9	31

() 内は、病院訪問教育で内数、スクーリング参加児童生徒は再掲

6 研究指定校

(1) 県教育委員会指定

ア 医療的ケア実施条件緊急整備事業

(ア) 趣 旨

医療的ケアを必要とする児童生徒の学習条件を整備するため、医療的ケアの在り方を指導する医師を委嘱するとともに看護師を配置し必要な医療器具を整備して、養護学校における医療的バックアップ体制を確立し、医療的ケア実施体制の整備を図る。

(イ) 実践研究校

平養護学校
須賀川養護学校
郡山養護学校

(ウ) 事業内容

- a 看護師の配置
- b 医療器具の整備
- c 指導医の委嘱
- d 医療的ケアサポート地域連絡調整会議
- e その他

【医療的ケアサポート地域連絡調整会議の開催】

医療的ケアサポート地域連絡調整会議・委員

氏 名	委 嘱 時 の 職 名
湊 治 郎	社会福祉法人いわき福音協会理事長
小 林 真 弓	いわき市立常磐病院嘱託医
柳 沢 俊 郎	社会福祉法人いわき福音協会福島肢体療護園副園長
山 際 一 浩	やまぎわ子どもクリニック
渡 邊 信 雄	いわき市立総合磐城共立病院診療局部長
志 賀 吉 臣	いわき市保健福祉部障害福祉課長
酒 井 裕 枝	いわき市保健所保健指導課母子保健係長
會 田 富美江	福島県立平養護学校保護者
鈴 木 志保子	福島県立平養護学校医療看護指導員 (看護師)
中 村 雅 彦	福島県立平養護学校校長

(委員長 副委員長)

【会議における検討事項】

- 実施校における医療的ケアの教育的効果
- 実施校における緊急時の個別の対応マニュアルの評価・検討
- 実施校における医療的ケア個別マニュアルの評価・検討

【会議】

- 平成14年7月9日(火)
- 平成15年1月23日(木)

(2) 文部科学省委嘱事業

ア 特殊教育における福祉・医療等との連携に関する実践研究

(ア) 趣 旨

本県における教育と医療・福祉の関係機関相互による協議を進め、それぞれの機能を効果的に果たす相互の連携体制を確立する方策について実践的な研究を行い、盲・聾・養護学校における医療的バックアップ体制の条件整備を図る。

(イ) 実践研究校

- 会津養護学校
- 平養護学校

(ウ) 実施状況

- a 医療的ケア実施検討会議の開催
- b 医療的ケア実施検討会議各部会の開催
保健管理部会、医療的ケア検討部会、地域サポート部会

【会議の委員】

医療的ケア実施検討委員会名簿 (13名)

氏 名	委 嘱 時 の 職 名
阿 部 孝 一	郡山市保健所長
藤 木 伴 男	財団法人竹田総合病院小児科長
飯 塚 敦 夫	いいづかファミリークリニック院長
鈴 木 節 子	財団法人竹田総合病院看護部部長
一ノ瀬 千加子	財団法人白楡会会津中央訪問看護ステーション主任
高 橋 千代子	福島県会津保健福祉事務所健康企画課地域保健係主任保健技師
内 山 宏	会津若松消防署救急主任 (救急救命士)
円 谷 浩 美	福島県心身障害児総合療育センター主任医療技師 (作業療法士)
小 松 紘	医療法人明精会会津西病院長
中 村 雅 彦	福島県立平養護学校長
高 山 紀代子	福島県立会津養護学校長
眞 部 知 子	福島県立会津養護学校教諭
石 田 智 子	福島県立会津養護学校養護教諭

(委員長 副委員長)

【会議における検討事項】

- 医療機関が併設されていない養護学校における看護師を中心とした医療的ケアの在り方
- 実施校における緊急時の個別の対応マニュアルの評価・検討
- 実施校における医療的ケア個別マニュアルの評価・検討

【会議の経過】

- 平成14年7月24日(木)
- 平成15年1月16日(木)

イ 学習障害児 (LD) に対する指導体制の充実事業

(ア) 趣 旨

通常学級に在籍する学習障害児等に対する指導の在り方を検討すること及び、指導体制を整備するため、学習障害児に関する専門的知識・経験を有する相談員が、学校に対して、巡回相談を行うことにより、具体的方策に関する実践研究を行う。

(イ) モデル指定校

福島市立鎌田小学校

(ウ) 事業内容

- a 学習障害児調査研究運営会議の開催
- b 学習障害児調査研究運営会議専門家チーム会議の開催
- c 校内委員会の開催
- d 巡回相談員による巡回相談

【学習障害児調査研究運営会議の開催】

学習障害児調査研究運営会議委員

氏 名	委 嘱 時 の 職 名
中 田 洋二郎	福島大学大学院教育研究科教授
武 田 義 信	福島市立鎌田小学校長
伊 藤 雄 二	福島市教育委員会学校教育課主幹
阪 路 裕	福島県教育庁養護教育課主幹
工 藤 博	福島県教育庁教育指導課指導主事
眞 鍋 ヒロ子	福島県養護教育センター所長

(座長)

検討事項

【第1回】

- ・ 学習障害児 (LD) に対する指導体制の充実事業中間報告について
- ・ 専門家チームからの報告
事例に関わる判断及び支援計画の検討
事例に関わる関係機関との連携

【第2回】

- ・ 学習障害児 (LD) に対する指導体制の充実事業の成果及び課題について
- ・ 今後の学習障害児に対する指導の在り方について

開催日

- ・ 平成14年5月21日(火)
- ・ 平成15年2月5日(水)

【学習障害児調査研究運営会議専門家チーム会議の開催】
学習障害児調査研究運営会議専門家委員

氏名	委嘱時の職名
栗城 智也	福島市立福島第四小学校
木村 浩	福島市立松川小学校
熊代 新	針生ヶ丘病院医務課長
添田 和子	福島市教育委員会指導主事
高橋 健一	福島市立福島第二小学校
山本 佳子	福島県立医科大学助手
菊地 恵美子	福島県教育庁養護教育課指導主事
高坂 均	福島県養護教育センター事業部長
山崎 壽克	福島県養護教育センター主任指導主事

(座長)

検討事項

【第1回】

- ・ 学習障害児（LD）に対する指導体制の充実事業中間報告
- ・ 事例検討

【第2回】

- ・ 学習障害児（LD）に対する指導体制の充実事業の成果及び課題について
- ・ 今後の学習障害児に対する指導の在り方について

開催日

- ・ 平成14年5月10日(金)
- ・ 平成15年2月5日(木)

ウ 障害のある子どもの教育相談体系化事業

(ア) 趣旨

教育・福祉・保健・医療等が一体となった障害のある子どもに対する教育相談支援体制の整備を図ること及び子どもや保護者、障害児を担当する教員等に対して、相談委員が巡回相談を実施することにより、教育相談のシステム化のための研究事業を実施する。

(イ) モデル指定地域

福島市（福島市教育委員会）

(ウ) 事業内容

- 教育相談体系化検討運営会議の開催
- 教育相談体系化検討運営会議巡回相談チーム委員連絡会議の開催
- 巡回相談チーム委員による巡回相談

氏名	委嘱時の職名
松崎 博文	福島大教育学部教授
大久保 淳子	福島市保健福祉センター主任保健師
渡辺 保明	地域生活支援事業コーディネーター
兼子 芳文	中央児童相談所相談課長
穴澤 由美	福島県立大笹生養護学校長

氏名	委嘱時の職名
泉 清	福島市立福島養護学校長
渡邊 直美	福島わかば保育園長
三宅 俊達	福島市私立幼稚園協会理事長
伊藤 雄二	福島市教育委員会学校教育課主幹
高坂 均	福島県養護教育センター事業部長

(座長)

【教育相談体系化検討運営会議】

検討事項

- ・ モデル地域における教育相談支援体制の整備のあり方
- ・ 教育相談ファイルの活用の在り方

開催日

- 平成14年5月30日(金)
- 平成15年2月3日(月)

氏名	委嘱時の職名
庄子 紀子	福島県立盲学校教諭
深澤 省三	福島県立聾学校福島分校教諭
山崎 康子	福島県立大笹生養護学校教諭
須田 悦子	福島市立福島養護学校教諭

【教育相談体系化検討運営会議巡回相談チーム委員連絡会議】

開催日

- 平成14年5月30日(金)
- 平成15年2月3日(月)
- 巡回相談員研修会
- 平成14年8月22日(木)

【巡回相談実施目的】

保育所（園）、小・中学校に在籍する障害のある乳幼児・児童生徒やその保護者及び担当教員等に対し、巡回相談を実施し、障害児に対する養育のあり方や指導方法、指導内容等の充実を図る。

7 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障害のある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障害の状態や発達段階・特性等に応じた指導が十分にできるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導援助に努めた。

(2) 進路指導

ア ふくしまの教育ライジングプラン「養護教育進路サポート事業」

(ア) 事業の趣旨

障害のある人々にとって働く喜びや生きがいを感じながら、「自分らしい生き方」ができる社会の実現を目指すため、養護学校の生徒一人一人の能力、適性、

興味・関心等に応じた適切な進路選択が可能となるよう支援する。

(イ) 実施校

県立養護学校(知的障害)本校 8校

(ウ) 実施状況

a 高等部生徒等の進路実現支援(各学校において実施)

- ・就労サポート連絡協議会の設置・運営
- ・企業・福祉施設等見学会の開催
- ・体験発表会の開催
- ・就労に関するセミナーの開催

b 進路実現のための理解・啓発(各学校において実施)

- ・理解・啓発資料の作成、配布
- ・作業成果作品展示会のポスター等作成、配布

c 「進路指導推進員」による進路支援

進路指導推進員2名をあぶくま養護学校、富岡養護学校に配置し、あぶくま・西郷・石川養護学校、富岡・いわき養護学校を対象として、各校の教職員(特に進路指導主事)との連携の下、主として次の事業を行なった。

- ・産業現場等における実習先及び就労先等の開拓に関すること
- ・職場定着指導に関すること
- ・進路相談の支援に関すること
- ・進路に関する情報収集・提供に関すること等

8 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立盲・聾・養護学校卒業生数

学部 障害	幼稚部	小学部	中学部	高等部 専攻科	合計
盲		4	4	12	20
聾	8	11	12	5	36
知的障害		61	81	114	256
肢体不自由		20	28	30	78
病弱		11	16	18	45
計	8	107	141	179	435

イ 県立盲・聾・養護学校卒業式学部別開催日(校数)

開催日	3月5日(水)	3月6日(木)	3月7日(金)	3月12日(水)	3月13日(木)	3月17日(月)	3月18日(火)	3月19日(水)
学部								
幼稚部				1		1	1	1
小学部				2	2	2	11	2
中学部				2	2	1	11	1
高等部	1	1	1	1			8	1

(2) 修学旅行

行き先 日数 人数	行き先					日数					人 数	
	県内	東北	関東	関西	九州・沖縄	北海道	日帰り	一泊二日	二泊三日	三泊四日		四泊五日
学部												
小学部	2	5	3				4	6				87
中学部		1	14				1		14			124
高等部			3	7	3	1	1		2	11		186

9 学校訪問

(1) 県立盲・聾・養護学校

ア 要請訪問

学校の要請により、学校訪問を実施した。

	訪問日	学校名
1	6月20日(木)	あぶくま養護学校
2	11月12日(火)	
3	1月17日(金)	盲学校

イ 経験者研修

経験研修 該当者の研究授業日に、学校訪問を実施した。

	訪問日	学校名
1	9月19日(木)	平養護学校
2	9月19日(木)	須賀川養護学校医大分校
3	10月1日(火)	あぶくま養護学校安積分校
4	11月12日(火)	聾学校福島分校
5	11月19日(火)	須賀川養護学校

ウ 情報教育

学校を訪問し、校内LANの整備状況等を調査するとともに、活用に伴う諸問題について担当者と協議した。

	訪問日	学校名	
1	1月20日(月)	盲学校	聾学校福島分校
2	1月22日(水)	郡山養護学校	あぶくま養護学校
3	1月27日(月)	西郷養護学校	石川養護学校
4	1月29日(水)	会津養護学校	聾学校会津分校
5	2月24日(月)	富岡養護学校	いわき養護学校

- (2) 市立養護学校及び特殊学級設置小・中学校
下記の7校を対象として学校訪問を実施した。

管内	訪問日	学校名
県北	7月4日(木)	岩代町立新殿中学校
県中	6月26日(水)	三春町立岩江小学校
県南	7月1日(月)	西郷村立西郷第一中学校
会津	10月9日(水)	会津若松市立城北小学校
南会津	10月1日(火)	下郷町立檜原小学校
相双	10月2日(水)	相馬市立中村第二小学校
いわき	9月10日(火)	いわき市立高坂小学校

10 障害児就学指導

- (1) 福島県障害児就学指導委員会

ア 福島県障害児就学指導委員会委員

氏名	職名
浅野 テル子	福島市立西根中学校長
穴澤 由美	県立大笹生養護学校長
大谷 巖	県立医科大学耳鼻咽喉科教授
珠玖 淑子	会津児童相談所所長
高橋 正美	船引町立美山小学校長
武井 健一	中央児童相談所所長
千葉 敏子	福島県看護協会常務理事
昼田 源四郎	福島大学教育学部教授
眞部 知子	県立会津養護学校教諭
三島 博	大原総合病院副院長
村田 博幸	相馬市立養護学校長
吉田 大二	日本てんかん協会福島県支部代表
富樫 薫	県心身障害児総合療育センター所長
富田 孝志	県教育庁教育次長
眞鍋 ヒロ子	県養護教育センター所長

イ 期日及び会場

期日	会場	出席者数
平成14年7月18日(水)	自治会館	14

- (2) 障害児就学指導講習会

ア 期日及び会場

地区	期日	会場	参加者数
県北	6月13日(木)	自治会館	60
県中	5月28日(火)	養護教育センター	32
県南	5月20日(月)	白河合同庁舎	65
会津 南会津	5月24日(金)	新鶴村公民館	57
相双	6月10日(月)	原町合同庁舎	55
いわき	6月4日(火)	いわき合同庁舎	60

イ 参加者

- ・各市町村教育委員会就学指導関係者
- ・各市町村就学指導審議会の委員・調査員
- ・小・中学校長、教頭または教務主任

ウ 講義と協議

- (ア) 講義 「障害児の理解と就学指導の進め方」
(イ) 演習 (対象：市町村教育委員会担当者)
「教育委員会における就学指導の進め方」
(ウ) 演習 (対象：小・中学校長、教頭または教務主任)
「学校における就学指導の進め方」

- (3) 第20回福島県障害児社会参加と自立・就学啓発推進会議

ア 主催

全国特殊教育推進連盟、福島県養護教育学校長会

イ 共催

福島県教育委員会、福島県養護教育振興会、福島県養護教育学校PTA連合会 他

ウ 参加対象

- (ア) 養護教育諸学校、小・中・高等学校の保護者、教職員
(イ) 就学を予定される障害児の保護者及び保育所・幼稚園職員
(ウ) 市町村心身障害児就学指導審議会関係者
(エ) 市町村社会福祉・保健・医療等関係職員
(オ) 障害者雇用企業関係者

期日	日数	会場	参加人数
10月4日	1日	会津大学・会津養護学校	462

11 ゆう・あいジョイントプラン「病院訪問 学習支援ボランティア派遣事業」

(1) 目的

病院等に入院している児童生徒に対して、学習支援ボランティアを派遣し、医療との連携の下、児童生徒の学習を支援するとともに、入院に伴う心理的不安の軽減等を図る。

(2) 対象児童生徒

病弱養護学校及び病院内学級が設置されていない病院に入院している小・中学校の児童生徒で、主治医により学習を行うことが可能と判断され、かつ、保護者がボランティアの派遣を希望するものを支援の対象とする。

(3) ボランティアの派遣

ア 派遣回数等

対象者1人に対して、1週につき2から3回程度とし、1回につき1時間から2時間程度とする。

イ 学習支援を行う教科等

(ア) 小学生については、主として「国語」及び「算数」の学習を支援する。

(イ) 中学生については、主として「数学」及び「英語」の学習を支援する。

(4) ボランティア登録人数と派遣実績

地区		実人数	延べ回数	ボランティア実人数	訪問病院実数	備考	登録ボランティア
県北	小学生	8	98	7	3	大原綜合病院、二本松病院、藤田綜合病院	20
	中学生	3	28	4			
県中	小学生	3	20	3	4	公立岩瀬病院、星綜合病院、泉堂綜合病院、総合南東北病院	13
	中学生	2	10	1			
県南	小学生	2	18	2	1	白河厚生病院	10
	中学生	2	42	2			
会津	小学生	0	0	0	1	会津中央病院	11
	中学生	1	17	2			
南会津	小学生	1	21	1	1	県立南会津病院	3
	中学生	0	0	0			
いわき	小学生	3	49	2	1	磐城共立病院	13
	中学生	3	40	2			
相双	小学生	0	0	0	0		7
	中学生	0	0	0			
合計		28	343	26	11		77

12 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

ア 開催期日 平成14年6月

イ 会場 自治会館

ウ 参加者 盲・聾・養護学校の教科用図書事務担当者

(2) 学校教育法第107条による一般図書の展示期日及び会場

- ・6月12日(水)～6月13日(木) 盲学校
- ・6月14日(金)～6月17日(月) 福島市立福島養護学校
- ・6月20日(木)～6月21日(金) 相馬市立養護学校
- ・6月24日(月)～6月25日(火) 富岡養護学校
- ・6月26日(水)～6月28日(金) いわき養護学校
- ・7月1日(月)～7月3日(水) あぶくま養護学校
- ・7月4日(木)～7月5日(金) 西郷養護学校
- ・7月8日(月)～7月10日(水) 会津養護学校
- ・7月11日(木)～7月12日(金) 田島教科書センター南郷分館
- ・7月15日(月)～7月18日(木) 養護教育センター(一般公開)

13 教育研究団体

(1) 平成14年度福島県養護教育学校長会役員

役職名	氏名	所属校
会長	弓田 篤	県立盲学校
副会長	中村 雅彦	県立平養護学校
副会長	村田 博幸	相馬市立養護学校

(2) 平成14年度福島県盲・聾・養護学校教頭会役員

役職名	氏名	所属校
会長	小原 和幸	須賀川養護学校
副会長	折笠 順子	会津養護学校
副会長	鈴木 房雄	郡山養護学校

(3) 福島県養護教育研究会

ア 組織

役職名	氏名	所属校
会長	泉 清	福島市立福島養護学校
副会長	弓田 篤	県立盲学校
副会長	樽川 正規	郡山市立片平小学校

イ 事業の概要

事業名	期日	会場	概要
理事会	5月15日(水)	福島県ハイテクプラザ	年間事業計画、予算決算の審議、役員選出、養護教育研修主題について

(4) 福島県養護教育振興会

ア 役員

役職名	氏名	所属
会長	太田 緑子	財団法人太田総合病院名誉理事長
副会長	辺見 正治	福島学院短期大学名誉教授
〃	桜井 和明	元福島県PTA連合会長
監事	遠藤 久夫	郡山市教育委員会教育長
〃	真鍋 ヒロ子	養護教育センター所長
理事	中丸 良彦	元福島市立福島養護学校長
〃	鬼 満 雅	寿泉堂香久山病院
〃	鈴木 忠夫	白河市教育委員会教育長
〃	小松 忠夫	会津大学講師
〃	鈴木 市郎	医療法人双葉病院理事長
〃	小野 哲司	東日本国際大学いわき短期大学事務長

イ 事務局

(ア) 本部

事務局長 県立聾学校 校長 小柳津 滋
 幹事 〃 教頭 畠 惠 治
 〃 〃 教頭 佐藤 和 紀
 〃 〃 教諭 渡 邊 眞佐子

(イ) 支部

支部	事務局校	支部	事務局校
県北	県立盲学校	会津	県立会津養護学校
県中	県立郡山養護学校	相双	相馬市立養護学校
県南	県立西郷養護学校	いわき	県立いわき養護学校

第9章 社会教育

第1節 社会教育一般

1 施策の概要

(1) 社会教育活動の充実

ア 家庭教育

教育の原点は家庭にあるとの観点から、子どもの基本的な生活習慣の確立や望ましい価値観の育成、またそのために必要な明るく健康的な家族関係の在り方などについて学習し、意見を交換する機会の提供に努めた。

イ 青少年教育

(ア) 青少年の様々な体験活動の機会の充実に資するため、「青少年アクションプラン『豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業』」を実施したほか、「新子どもプラン」・「子どもゆめ基金助成事業」及び学校週5日制対応事業を中心に、地域、学校、家庭の連携を図り、学校外活動の一層の充実に努めた。

(イ) 体験活動・ボランティア推進センターの整備

県に本部センター、7つの生活圏(各教育事務所)に地域センターを設置し、コーディネーター(社会教育主事・指導主事2名をペアで)の配置を図り、情報提供やボランティア活動等のコーディネートを行った。

(ウ) 体験活動等推進委員会の設置

公立小・中学校、県立学校に「体験活動推進委員会」を設置し、主任に教頭又は社会教育主事資格を持つ教諭をあてた。

ウ 女性教育

男女共同参画社会の形成をめざした魅力ある学級・講座の開設や女性の多様化、高度化した学習要求に応える事業の開発、学習内容、方法、形態の工夫などにより、女性教育事業の充実に努めた。

エ 高齢者教育

変化する社会情勢を踏まえ、高齢者が生きがいをもって学習できる事業の実施や学習プログラムの開発等に努めるとともに、高齢者の人材活用や社会参加、世代間交流を促進した。

オ ユネスコ活動

ユネスコ憲章に基づく教育・科学・文化活動をとおり、ユネスコ活動への理解を広く県民に普及させるよう努めた。

カ 人権教育

すべての人々の人権が真に尊重される社会の実現を目指し、人権問題に対する理解と認識を深め、人権問題の解決に資することができるよう努めた。

2 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育主事・司書等専門職員の設置

ア 市町村における社会教育活動の充実を図るため、社会教育主事・司書等専門職員の設置に努めた。

イ 市町村の専任社会教育主事の自主設置を促進した。

ウ 住民への図書館活動の一層の向上を図るため、専任図書館長・専任司書の設置促進に努めた。

(2) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質の向上に努めた。

イ 市町村社会教育主事を対象とした実務に関する研修会の充実や大学及び国の社会教育研修所で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(3) 民間・各種団体指導者の確保と活用

ア 県民の学習活動を促進するに当たっては、民間指導者の果たす役割が大いに期待されることから、民間・各種団体の指導者の確保やその活用に努めた。

イ 民間・各種団体やまちづくりなどに取り組み指導者、各種学級・講座等の修了者の資質の向上が図られるよう組織的な活動の在り方や組織の運営、活動プログラムの企画等に関する指導者の確保に努めた。

ウ 民間・各種団体指導者の広域的、効果的な活用を促進するため、関係機関・団体との連携を密にしながら、指導者の組織活動を支援するとともに、指導者名簿の作成や必要な情報・資料の提供に努めた。

3 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、平成11年度本稼働した、「県立図書館情報ネットワーク推進事業」を中心に公共図書館、学校図書館との連携強化に努めた。

イ 財団法人福島県自然の家施設の整備充実

自然の中での集団宿泊生活を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための社会教育施設として多様化した学習需要に的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の整備を指導した。

イ 市町村立図書館の整備促進

地域住民の要望に対応すべく、図書館活動の充実が図られるよう市町村に対し研修事業等を催した。

ウ 市町村視聴覚ライブラリーの整備促進

地域の視聴覚教育の拠点として、広域市町村圏単位の視聴覚ライブラリーの設置に努めるよう市町村の指導に当たった。

4 福島県市町村社会教育主事等研修会

(1) 期日・会場等

ア 期 日 平成14年8月28日(水)～30日(金) (2泊3日)
 イ 会 場 福島市飯坂町「あづま荘」
 ウ 参加人数 51人

(2) 講 師

文部科学省スポーツ・青少年局青少年課事業係長
 池田 尚氏
 前郡山女子大学短期大学部教授 国馬 善郎氏
 県北教育事務所社会教育主事 (岩代町派遣)
 吾妻 仁氏
 シンクタンクふくしま副所長 佐藤 栄氏

(3) 参加対象者

市町村社会教育主事、公民館主事、社会教育指導員
 社会教育関係行政職員等

5 福島県社会教育研究集会

(1) 主 催

福島県教育委員会、楡葉町教育委員会
 福島県市町村社会教育委員連絡協議会
 双葉地区社会教育委員連絡協議会

(2) 期日・会場等

ア 期 日 平成14年9月19日(木)～20日(金) (1泊2日)
 イ 会 場 楡葉町コミュニティセンターJ - ビレッジ
 ウ 参加人員 320人

(3) 講 師

福島学院短期大学教授 (メンタルヘルスセンター所長)
 星野 仁彦氏

(4) 参加対象者

市町村社会教育委員、市町村社会教育行政担当者
 社会教育関係職員、社会教育関係団体会員等

6 社会教育指導員の設置

(1) 設 置 数

域 内	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
人 数	54	26	16	44	10	25	6	181

(2) 社会教育指導員

市町村	氏 名	市町村	氏 名
福 島 市	丹 治 庸 一	福 島 市	阿 部 隆
"	黒 澤 明	"	菊 池 道 雄
"	小 野 正 夫	"	中 村 由 紀
"	沓 澤 宏	飯 野 町	林 功
"	菅 野 武 雄	"	山 下 信
"	槌 谷 幸 一	"	伊 藤 美 千 代
"	佐 藤 忠 三	川 俣 町	佐 藤 捷 善

市町村	氏 名	市町村	氏 名
川 俣 町	遠 藤 貴 美 子	郡 山 市	円 谷 博
桑 折 町	齋 藤 一 哉	"	安 田 悠 子
"	平 野 哲 哉	"	渡 辺 嗣 雄
"	小 澤 富 雄	"	阿 部 信 幸
"	佐 々 木 徳 芳	"	渡 邊 孝 夫
伊 達 町	佐 藤 恭 子	須 賀 川 市	武 田 國 男
"	渡 辺 由 美 子	"	中 澤 玲 子
"	佐 藤 康 子	"	伊 藤 博 行
国 見 町	伊 勢 史 朗	"	伊 藤 久 雄
"	五十嵐 力	"	阿 部 徳 男
"	羽 根 田 ヒ サ	"	大 橋 幸 雄
梁 川 町	田 中 薫	"	渡 邊 碩 男
保 原 町	安 倍 幸 夫	"	中 野 洋 子
"	三 瓶 良 一	長 沼 町	大 河 原 正 一 郎
"	木 戸 純 子	鏡 石 町	鈴 木 強
"	赤 井 久 子	"	清 水 文 子
"	松 浦 吉 江	天 栄 村	渡 邊 幸 弘
"	西 戸 かつ子	石 川 町	田 中 孝 平
霊 山 町	佐 藤 隆 昭	玉 川 村	川 田 正 裕
"	佐 々 木 二 郎	平 田 村	橋 本 貴 美
月 舘 町	佐 藤 仁 子	浅 川 町	田 子 栄 子
"	斎 藤 幸 子	古 殿 町	有 賀 達 男
二 本 松 市	矢 吹 充 子	三 春 町	大 谷 明 弘
"	菊 地 紀 子	小 野 町	吉 田 貴 美 子
"	菅 野 幸 子	滝 根 町	會 田 亜 希 子
"	門 馬 久 子	大 越 町	大 橋 れい子
"	安 斎 惇 平	白 河 市	佐 藤 善 昭
"	倉 島 紀 昭	"	福 田 悦 子
"	日 野 眞 弓	"	渡 辺 むつ子
"	加 藤 亜 希 子	西 郷 村	小 野 勝 衛
"	添 田 和 良	表 郷 村	郷 征 弘
"	佐 藤 八 正	東 村	齋 藤 優 子
"	天 野 昭	中 島 村	人 見 道 雄
"	伊 藤 正	"	福 田 喜 和
"	半 澤 順 子	矢 吹 町	渡 辺 和 三
安 達 町	渡 辺 貞 雄	"	遠 藤 秀 子
大 玉 村	牧 野 敏 雄	大 信 村	小 森 勇
本 宮 町	藤 原 智 恵	棚 倉 町	奥 貫 イツ子
岩 代 町	鈴 木 勉	"	関 根 陽 子
東 和 町	今 江 忠 治	塙 町	車 田 政 江

市町村	氏名	市町村	氏名
埴 町	戸井田 礼子	会津本郷町	森 川 文子
矢 祭 町	小 松 淳子	三 島 町	五十嵐 乃里枝
会津若松市	二 瓶 顯	金 山 町	星 正 弥
"	坂 内 實	"	佐々木 悦子
"	渡 辺 英夫	"	奥 庄 一
"	佐 藤 紀子	昭 和 村	須 藤 裕美子
北会津村	北 澤 弘一	田 島 町	渡 部 文夫
"	小 池 悦子	"	梅 宮 眞藏
河 東 町	五十嵐 子	"	渡 部 珠江
"	渡 部 利美	"	熊ヶ谷 頼子
磐 梯 町	加 藤 伸夫	下 郷 町	松 永 憲明
"	大 沼 文	南 郷 村	五十嵐 由貴
猪苗代町	堀 眞知	只 見 町	五十嵐 一美
"	楠 美枝子	"	鈴 木 小枝子
喜多方市	瓜 生 良子	"	吉 村 眞希
"	齋 藤 理恵	南会津地方	渡 部 誠
"	上 野 博伸	新 地 町	森 祥 子
"	夏 井 マリ	相 馬 市	丹 野 鐵生
"	京 野 やよい	"	西 郷 徹夫
"	川 口 共子	鹿 島 町	加賀谷 恵子
"	曾 山 由美子	原 町 市	門 馬 修一郎
"	渡 部 祐子	"	櫻 田 隆夫
"	佐 藤 美喜子	"	菅 野 正勝
"	赤 城 佳代子	"	井 上 耀子
熱塩加納村	棚 木 ミツイ	"	志 賀 禎子
北塩原村	中 川 千香子	"	松 本 望
塩 川 町	加 藤 雅子	"	香 野 英信
"	古 田 絹恵	小 高 町	林 靖
"	佐々木 千鶴子	浪 江 町	松 尾 弘美
山 都 町	高 橋 明子	"	七 條 弘子
西会津町	新 田 栄司	双 葉 町	倉 田 均
"	佐 藤 信英	"	志 賀 良子
会津坂下町	片 山 慎一郎	大 熊 町	市 川 一
"	佐 藤 房枝	"	庄 子 ユウ子
湯 川 村	山 本 福子	富 岡 町	高 木 紀夫
"	滝 沢 洋之	"	佐 藤 晴美
柳 津 町	笠 間 明弘	川 内 村	石 井 宏
"	渡 部 松男	檜 葉 町	小 林 幸喜
会津高田町	湯 田 厚	"	吉 田 ちひろ
"	前 田 くに江	広 野 町	井戸川 則隆

市町村	氏名	市町村	氏名
広 野 町	佐 藤 安子	いわき市	菅 野 隆雄
いわき市	佐久間 静子	"	佐 藤 暁美
"	佐 藤 三郎	"	大和田 俊六
"	佐 藤 正躬		

(3) 福島県市町村社会教育指導員研修会 (年2回)

第1回

ア 期 日 平成14年5月13日(月)
 イ 会 場 郡山市視聴覚センター
 ウ 参加人員 155人
 エ 講 師 生涯学習課主幹

第2回

ア 期 日 平成14年10月17日(木)~18日(金) (1泊2日)
 イ 会 場 福島市飯坂町「あづま荘」
 ウ 参加人員 126人
 エ 講 師 独立行政法人国立少年自然の家
 国立那須甲子少年自然の家所長

本木 光史氏

7 社会教育主事の市町村派遣

域 内	氏 名	派遣市町村名	派遣活動
県 北 (5 町)	佐 藤 亮 治	桑 折 町	12
	長 澤 昭 仁	伊 達 町	12
	菅 藤 文 彦	月 舘 町	13
	吾 妻 仁(ス)	岩 代 町	12
	伊 藤 勝 彦(ス)	東 和 町	13
県 中 (3 町村)	桑 名 秀 和	石 川 町	13
	菅 野 卓 弥(ス)	玉 川 村	12
	渡 邊 周 二	天 栄 村	13
県 南 (3 市村)	浅 賀 正 典	白 河 市	13
	深 谷 昇 司	表 郷 村	13
	渡 邊 康 一(ス)	大 信 村	12
会 津 (6 町村)	湯 田 眞佐利	北 塩 原 村	13
	黒 川 誠(ス)	熱塩加納村	12
	武 藤 幸 意	山 都 町	12
	高 久 賢 一	西 会 津 町	12
	熊 谷 ひとみ	高 郷 村	13
南 会 津	斎 藤 浩 幸(ス)	三 島 町	13
	宗 田 昌 史(ス)	田 島 町	13
	佐 藤 信 一(ス)	新 地 町	12
	高 橋 勝 美(ス)	葛 尾 村	12
	相 双 (6 町村)	草 野 収	大 熊 町
芦 野 孝 彦(ス)		富 岡 町	13
波 立 真 一		檜 葉 町	12
高 橋 澄 子		飯 舘 村	13
合 計	24名 (内ス10)	24市町村	

(ス) はスポーツ担当者派遣社会教育主事

8 生涯学習・社会教育研修会

(1) 内 容

市町村職員及び社会教育委員等研修（広域的なものも含む）事業として希望市町村の計画に基づき行う。

(2) 期日・実施市町村

域 内	期 日	実施市町村	参加者数	担 当
県 北	7月4日(木)	二本松市	16	吉 津
県 中	6月12日(木)	須賀川市	29	佐 藤
県 南	5月14日(火)	中 島 村	27	菊 池
	5月17日(金)	西 郷 村	27	佐 藤
	9月12日(木)	矢 祭 町	31	佐 藤
南 会 津	8月29日(水)	只 見 町	20	菊 池
	8月30日(木)	田 島 町	30	菊 池
相 双	6月17日(月)	大 熊 町	47	瀬 谷
い わ き	5月17日(金)	い わ き 市	15	古 川

公民館職員（初任者）研修会

域 内	期 日	会 場	参加者数	備 考
県 北	5月23日(木)	国見町観月台文化センター	34	
県 中	6月12日(木)	須賀川市大東公民館	29	
県 南	5月24日(金)	白河合同庁舎	8	
会 津	5月22日(水)	下郷町公民館	21	
南 会 津				
相 双	5月23日(木)	大熊町文化センター	22	
い わ き	5月17日(金)	いわき市生涯学習プラザ	15	

9 福島県公民館研究集会

(1) 期 日

平成14年9月26日(木)～27日(金)(金)

(2) 会 場

棚倉町文化センター・ルネサンス棚倉

(3) 参加人数 183人

(4) 参加対象者

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

講 師 前福島学院短期大学教授 塚本 繁氏

10 公民館主事部会研修会

(1) 期 日

平成14年6月27日(木)～28日(金)

(2) 会 場

郡山市熱海町「ホテル華の湯」

(3) 参加人数 152人

(4) 参加対象者

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

講 師 メディアマーケット代表取締役 宮本 倫明氏

11 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主 催 東北大学教育学部

イ 期 日 平成14年6月27日(木)～8月6日(火)

ウ 受講者数 49人

エ 修了者名

域 内	氏 名	勤 務 先
県 北 (7)	佐 藤 晶 子	福島市教育委員会生涯学習課
	小 泉 勝 信	東和町教育委員会
	二 瓶 勉	福島市立北信中学校
	穴 戸 克 典	二本松市立岳下小学校
	梅 津 道 夫	福島市立大波小学校
	佐 藤 純 之	本宮町立本宮第一中学校
	泉 光	福島市立渡利小学校
県 中 (14)	有 松 正 人	石川町中央公民館
	本 郷 正 信	古殿町公民館
	道 山 彰	郡山市立富田公民館
	白 岩 孝 志	常葉町公民館
	佐久間 善 次	郡山市立小山田小学校
	佐 藤 忠 男	郡山市立行健中学校
	宗 形 誠	須賀川市立第一小学校
	中 村 伸 太 郎	郡山市立行健小学校
	平 野 美 和	玉川村立須釜小学校
	鈴 木 喜 克	郡山市立日和田小学校
	遠 藤 寿 美 子	天栄村立広戸小学校
	高 木 祐	郡山市立安子島小学校
	國 分 一 子	鏡石町立第一小学校
	橋 本 学	石川町立中谷第二小学校
県 南 (3)	山 縣 栄 寿	白河市立五箇中学校
	江 原 京 子	白河市立白河第三小学校
	吉 田 衛	白河市立白河第一小学校
会 津 (5)	木 村 武	会津本郷町公民館
	小 林 稔	河東町立河東中学校
	齋 藤 修	会津若松市立湊中学校
	笠 原 聡	会津若松市立門田小学校
	武 藤 盛 男	塩川町立駒形小学校
南 会 津 (3)	星 一 伸	舘岩村教育委員会
	我 妻 雄 比 古	田島町立田島中学校
	稲 本 泰 彦	南郷村立南郷第二小学校

域内	氏名	勤務先
相 双 (5)	高橋 政彦	いいたて在宅介護支援センター
	持館 潤子	相馬市立飯豊小学校
	佐藤 秀敬	葛尾村立葛尾中学校
	小林 初夫	小高町立小高小学校
	小元 栄一	鹿島町立八沢小学校
いわき (5)	佐々木 功	いわき市立小川小学校
	高崎 康行	いわき市立渡辺小学校
	神谷 毅	いわき市立好間第二小学校
	緑川 幸則	いわき市立錦東小学校
	鈴木 一也	いわき市立小玉小学校
県 立 (7)	鮎澤 亨	福島県立聾学校
	竹田 正彦	福島県立福島西高等学校
	鈴木 雅広	福島県立川俣高等学校
	畠 腹まゆみ	福島県立盲学校
	山寺 清司	福島県立会津工業高等学校
	星 香里	浜通り広域スポーツセンター
	馬場 正文	福島県立若松商業高等学校

(2) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
社会教育主事講習

- ア 主催 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- イ 期 日 A講習 平成14年9月2日(月)～10月10日(木)
B講習 平成15年1月20日(月)～2月27日(木)
- ウ 受講者数 計3名 A講習1名
B講習2名
- エ 修了者名

講習名	氏名	勤務先
A講習	塩谷 慎介	西郷村教育委員会
B講習	荒 博史	福島県相馬海浜自然の家
	古川 仁	福島市もちずり公民館

(3) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
専門講座等

講座名	期 間	受講者数
全国「社会教育主事」研究協議会	14. 5.30～ 5.31	5名
社会教育主事専門講座	14. 6.19～ 6.21	2名
公民館職員専門講座	14. 7. 1～ 7. 5	2名
情報化に関する研究セミナー	14.10.21～10.25	2名
学習プログラム研究セミナー	14.12. 2～12. 6	2名
全国体験活動ボランティア活動推進研究セミナー	14.10.28～11. 1	1名

12 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	発行部数
県社会教育統計要覧	行 政	A 4	97	808
広報誌「生涯学習ふくしま」年3回	生涯学習	A 4	8	5,000
機関紙「社会教育」年3回	社会教育	A 4	14	2,400
家庭・地域社会の教育力の活性化をめざして	家庭教育	A 4	60	500
男女がいきいきと生きる社会づくりのために	女性教育	A 4	69	300
「粋・意気チャレンジ応援団」市町村モデル事業報告書	高 齢 者 教 育	A 4	28	500
ラジオ生涯学習講座「粋・意気プラザ」報告書		A 4	30	500
人権教育指導者研修会報告書	人権教育促進事業	A 4		500

第2節 青少年教育

1 概 要

社会全体が歴史的な転換期にある中、少子化、情報化、国際化、地域社会の変容等青少年を取り巻く環境も大きく変化し、青少年をめぐる諸問題は社会全体の課題となっている。

21世紀の社会を担う人材の育成方策として、青少年の社会性、主体性等をはぐくむ上で、ボランティア活動などの社会参加活動や職業体験、自然体験、スポーツ・文化活動等の体験活動を推進することは、極めて重要な意義を有するものである。

平成13年7月11日の「学校教育法」「社会教育法」の一部改正や平成14年度の文教施策「学校内外を通じた奉仕活動・体験活動推進事業」の趣旨を踏まえ、ボランティア活動をはじめとする多様な地域活動の振興、学校教育や社会教育における体験活動の充実等を通じ、青少年が主体的に活動できる場を充実していくとともに、指導者の養成・確保等も含めた体験活動の推進体制の整備などの広範な施策を総合的かつ計画的に推進してきた。

完全学校週5日制が実施され、各自然の家や公民館等の社会教育施設における学校週5日制対応事業や異世代間交流事業等を中心に、市町村における学校外活動の充実・普及と奨励に努めてきた。また、体験活動の振り返りによる大人と子どもの交流をねらった事業等、青少年教育の充実・推進に努めてきた。

2 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業

(1) ウィークエンドわくわく体験

ア 目的

完全学校週5日制に伴い、自然体験活動、交流活動の拡充に努めてきた。さらに地域の人材・高校生等、ボランティアの活動の場を提供するモデル事業として推進し、体験活動等の一層の充実を図った。

イ 実施事業 合計 1,208名参加

- (ア) 相馬海浜自然の家 年5回 399名参加
- (イ) いわき海浜自然の家 年4回 268名参加
- (ウ) 郡山自然の家 年3回 320名参加
- (エ) 会津自然の家 年3回 221名参加

(2) ハートウォームプラン

ア 目的

不登校の児童生徒や保護者及び障害をもった青少年や保護者に対して、自然体験活動や交流体験活動の場を提供し、円滑な対人関係や自立心の形成を図るための支援を行うことにより、協調性・自立性・社会性を伸ばすことを目的として実施した。また、その活性化を図るために、福祉等を学んでいる学生リーダーのサポートを加味し、活動の充実を図った。

イ 実施事業 合計 355名参加

- (ア) 相馬海浜自然の家 年3回 4泊7日 90名参加
- (イ) いわき海浜自然の家 年1回 2泊3日 105名参加
- (ウ) 郡山自然の家 年3回 4泊7日 109名参加
- (エ) 会津自然の家 年3回 3泊6日 51名参加

(3) うつくしまボランティア 子どもも大人も思いやり

ア 目的

ボランティア活動の必要性・重要性が益々高まるにつれて具体的な推進にあたっての活動の場が求められている。地域と学校の連携・融合を推進して、地域ボランティア活動の実践を活性化し、環境づくりを積極的に支援し、他地域のモデルとなるよう実施した。

イ 実施時期 6月～2月

ウ 実施地域 (県内3地域)

中通り(西郷村)、会津(下郷町)、浜通り(いわき市)

エ 実施内容

地域の人材を活用したり、学校と各団体等との連携を図ったりしながら、その地域の特性を活かしたボランティア活動を行った。(年間延べ数)

	実施回数	指導者数	参加者数
西郷村	7回	10名	292名
下郷町	33回	41名	500名
いわき市	14回	25名	383名

(4) 17字のふれあい ～世代を越えてハーモニー～

ア 目的

いつでもどこでも、自ら学び体験したことを、自らのことばで考え表現する楽しさや喜びを味わう習慣を身につける。また、創作することで言語感覚を磨くとともに、自然や事象に感動する豊かな感性を醸成する。

日常生活、文化・スポーツ行事等あらゆる体験活動の中で、大人と子どもがペアになり共感したことや感動したことを、それぞれに17音で表現し、世代を越えてふれあうことの喜びを体験する趣旨で実施した。

イ 内容

- (ア) 応募期間 7月～9月末
- (イ) 応募方法 各学校教育施設、社会教育施設、教育事務所、教育庁生涯学習課に備え付けの応募用紙に記入の上、各箇所へ応募
- (ウ) 応募総数 10,092組
- (エ) 審査会 10月22日～23日
審査員 坂本忠雄氏、津村 栄氏、塚本 繁氏
- (オ) 表彰式 11月28日 福島テルサ
- (カ) 入賞 最優秀賞 3組、優秀賞 6組、佳作 10組、特別賞 10組

ウ 広報・普及活動

- (ア) 募集・広報 教育委員会広報紙、県広報紙、ふくしまマナビネット等に掲載した。
- (イ) 入賞作品集を作成し、各学校教育施設・社会教育施設へ配布した。

3 心を繋ぐ異世代間交流事業

「町をつなごう・人をつなごうハートtoハート」

(1) 目的

本年度から完全学校週5日制が実施された。地域に子どもたちを返し、地域の教育力によって生きる力を育てることがねらいである。よって、地域で子どもを育てる環境を整備充実させるため地域の教育力を高める方策が必要である。

そこで、様々な地域資源を活用し、放課後や週末等における子どもの活動や高齢者等との幅広い異世代間交流を含めた活動をとおして、豊かな体験を積み重ね、「生きる力」を総合的に育むことを目的とし、地域教育力活性化に向けた総合的な取り組みをモデル的に実施した。

(2) 内容

ア 地域教育力・体験活動推進協議会の設置(年2回開催) 事業全体の実施方法・内容等の基本方針を策定するとともに、指導助言・連絡調整をする。

「体験活動・ボランティア推進センター事業」の協議会と合わせて実施した。(7月9日・2月6日)

イ 地域教育力活性化・体験活動推進モデル事業

(ア) 地域教育力活性化・体験活動推進地域を指定し、モデル事業を展開した。

a 実施期間 6月～2月

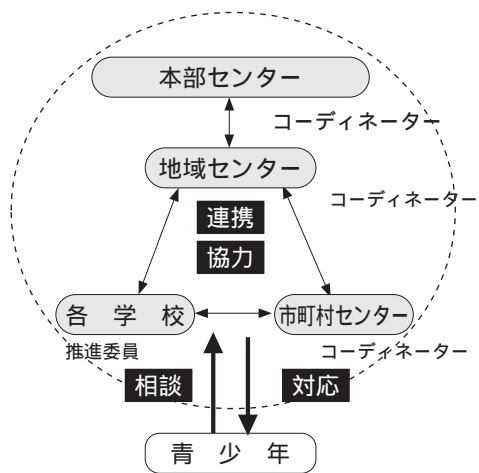
- b 実施地域 岩代町、天栄村、田島町、浪江町、いわき市
- c 実施内容
地域の教育力を高め、子どもの体験活動を推進する会議の開催（年2回）
地域教育力活性化・体験活動推進モデル事業の実施
・放課後や週末、余裕教室や公民館での体験活動
・異世代間交流、昔遊び、自然体験、ボランティア活動他
- (イ) 放課後子どもスポーツ活動活性化モデル事業を地域を指定して展開した。（スポーツ健康課主管）
- (ウ) 事業報告書の作成
1,500部（公民館、学校等へ配布）

4 体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育てるため、学校内外を通じた奉仕活動・体験活動の機会の充実を図ることを目的として、体験活動・ボランティア活動の情報提供やコーディネート等を行う推進センター機能を県及び地域に創設し、また各学校にも「体験活動等推進委員会」を年度当初より設置するなど、奉仕活動・体験活動に関する推進体制を整備する。

体験活動・ボランティア推進センター事業



団体・保護者・社会教育施設等

(2) 内容

- ア 県における推進体制の整備（生涯学習課）
- (ア) 福島県体験活動・ボランティア推進センターの設置
本庁生涯学習課に設置
- (イ) 福島県体験活動・ボランティア推進協議会の設置
年2回開催（7月9日・2月6日）
協議会委員 17名

	委員名	役職等
1	塚本 繁 (委員長)	社会教育委員の会議議長 元文部省青少年担当
2	渡辺 勝紀	福島県公民館連絡協議会長
3	手島 まり子	福島県PTA連合会理事
4	芳賀 裕	福島県司法書士会長
5	高橋 光子	福島県体育指導員連絡協議会理事
6	加藤 征男	福島県小学校長会長
7	古市 孝雄	福島県高等学校長協会会長
8	松井 香保利 (副委員長)	元福島県女性の生涯学習推進員 須賀川市手話サークルあゆみ副会長
9	進士 徹	あぶくま自然大学主宰
10	山田 賢一	福島県教育庁教育指導課主任指導主事
		各地域センター長 7名

- (ウ) 学校と地域を結ぶコーディネーター研修会開催
・年1回開催（10月16日）
・演題 「青少年の体験活動・ボランティア活動推進のねらいと学社連携・融合」
・講師 高杉良知氏（文部科学省社会教育官）
・参加者 95名
- (エ) コーディネーターの配置
社会教育主事1名・指導主事1名
- (オ) 体験活動・ボランティア活動推進アドバイザー設置
1名
- イ 地域における推進体制の整備（各教育事務所）
- (ア) 地域体験活動・ボランティア地域推進センター（地域センター）の設置
- (イ) 地域体験活動・ボランティア推進協議会（地域センター協議会）の設置
各地域センターの計画により年2回開催
- (ウ) 学校と地域を結ぶコーディネーター学習会開催
各地域センターの計画により年1回開催
- (エ) コーディネーターの配置
社会教育主事1名・指導主事1名
- (オ) 学習ボランティア制度の整備事業
ボランティアの人材登録を実施（年1回）
登録人数 382名
- ウ 市町村における推進体制の整備（17市町村）
- (ア) 地域奉仕活動・体験活動推進協議会の設置
各市町村の計画により年2回程度開催
- (イ) 体験活動・ボランティア活動支援センター設置
支援センターに、コーディネーターを設置
- エ 学校における推進体制の整備（全小・中・県立学校）
- (ア) 体験活動等推進委員会の設置
- (イ) 推進委員主任（教頭または社会教育主事）の設置

第3節 女性教育

1 概要

男女共同参画社会の形成に向け、女性の社会参加活動を促進するため、「女性の生涯学習推進員」を設置するとともに、リーダー養成や高度な学習機会の提供など、総合的な事業を展開した。

2 男女共同参画アドバイザー養成研修会

男女共同参画社会の形成をめざして、男女が社会のあらゆる分野へ対等に参画していくために、男女共同参画社会の実現に向けた新たな学習プログラムや教材を開発する能力を養うとともに、男女平等の観点から家庭や地域、職場等において学習活動の指導と助言に携わる専門的な指導者を養成した。

(1) 期 日

[期] A : 平成14年7月27日(土)～28日(日)

B : 平成14年8月1日(木)～2日(金)

[期] AB : 平成14年9月22日(日)

[期] A : 平成14年10月19日(土)～20日(日)

B : 平成14年10月24日(木)～25日(金)

(2) 会 場 福島県男女共生センター

(3) 内 容

ア 女性をとりまく各種課題の理解と女性問題の分析
(人権・性・能力開発・政策決定・就労・家事・育児・介護等)

イ 男女共同参画推進のプログラム作成のための演習(基礎理論と作成方法の理解・プログラム作成の演習等)

ウ 団体の育成・組織化や運営に関する課題等の理解

エ 指導・助言にかかわる実践的な能力の習得

(4) 対 象

社会教育関係行政職員・社会教育関係団体の役員・教職員

(5) 修了者数 71名

3 女性団体後継者養成研修会

(1) 期日・会場

平成14年9月27日(金)

表郷村多目的研修センター

(2) 対象・参加者

女性団体後継者 207名

(3) 内 容

ア 講 演 「21世紀を支える女性の生き方」

講師：東京都老人総合研究所看護・ヘルスケア部門研究員 大竹登志子氏

イ 事例発表

表郷村読書連絡会、埴町ふれあいネットサークル

ウ 研究協議(3分散会)

「地域におけるこれからの女性団体のあり方、役割」

エ 全体会

4 女性の生涯学習推進員の設置

生涯学習を通じ、男女共同参画社会の形成や、女性の社会参加活動を促進するため、各教育事務所に女性の生涯学習推進員を置く。

[平成14年度女性の生涯学習推進員名簿]

域 内	担当地区	氏 名	備 考
県 北	福 島	遠 藤 貴美子	副代表
	伊 達	林 王 直 美	
	安 達	穴 戸 喜代子	
県 中	郡 山	安 部 洋 子	
	岩 瀬	渡 辺 多知子	
	石 川	緑 川 公 子	
	田 村	宗 像 基 子	
県 南	西 白 河	鈴 木 きよ子	
	東 白 川	深 谷 和 子	
会 津	北 会 津	橋 本 博 子	
	耶 麻	佐 藤 美代子	
	両 沼	三 瓶 桂 子	
南 会 津	南 会 津	瀬 田 弘 子	
相 双	相 馬	稲 村 光 子	
	双 葉	坂 本 光 子	
い わ き	北 部	蘆 野 潤 子	代 表
	南 部	坂 本 節 子	

5 女性教育事業

(1) 第54回福島県女性大会

ア 期 日 平成14年10月10日(金)

イ 会 場 富岡町総合体育館

ウ 参加者数 1,300名

(2) 平成14年度女性講座

ア 期 日 平成14年12月1日(日)～2日(月)

イ 会 場 あづま荘

ウ 参加者数 64名

第4節 高齢者教育

1 概要

高齢者を取り巻く生活環境の変化とともに高齢者自身の意識にも変化が生じている。こうした要求に応えるため、地域ボランティア団体やNPO等との連携を図りながら、高齢者の社会参加活動を支援するための学習機会を提供した。

高齢者粹・意気人生促進事業

2 粹・意気チャレンジ応援団

- (1) 目的
地域ボランティア団体やNPO等との連携のもと、高齢者グループの創意ある交流活動や社会参加促進を図ることを目的に実施した。
- (2) 内容
ア 粹・意気チャレンジ応援団協議会の設置
事業全体の実施方法・基本方針の策定とNPOとの連携のあり方についてセミナーを開催
ア 回数 年2回
イ 協議会の構成
市町村担当者、高齢者グループの代表、NPO等グループの代表、各教育事務所担当者
イ 市町村モデル事業
ア 対象 白沢村、三春町、矢祭町、西会津町、南郷村、原平市
イ 内容 NPO等との連携のもと、社会参加活動や交流活動に取り組むことができるよう、補助金を交付した。

3 粹・意気生きがいしい暮らしセミナー

- (1) ラジオ生涯学習講座「粹・意気プラザ」の開設
ア 時期・回数
平成14年9月7日～平成15年2月22日 (25回)
イ 放送時間
毎週土曜日午前6時30分～7時(30分間)
(再放送：翌日曜日午後6時30分～7時)
ウ 対象
県内の高齢者・県民一般(うち受講登録者529名)
エ 内容
趣味と健康、生きがいと人生、リーダーとまちづくり等
(2) スクーリングの実施
ア 時期・回数 平成14年10月～平成15年2月

地域	開催日	開催地	参加者数
中通り	11月7日	天栄村山村開発センター	83名
	1月16日	同上	122名
会津	11月7日	西会津町公民館	102名
	11月22日	会津高田町中央公民館	86名
浜通り	10月25日	原平市ひばり生涯学習センター	36名
	1月22日	大熊町文化センター	218名
計			647名

- イ 対象
ラジオ生涯学習講座の受講生、関心のある県民一般高齢者
ウ 内容講演会等の学習会、交流会、人材登録会

福島県ラジオ生涯学習講座

回数	月日	タイトル・内容概要・講師
第1回	9/7(土)	開講にあたって 高城俊春県教育長 パーソナリティー紹介.....森和美のラ イフワーク「昔話」が伝えるもの
第2回	9/14(土)	プレ県民カレッジ事業「うつくしま学 びのトークライブ」から ビッグパレットでの取材(9月5日)
第3回	9/21(土)	森和美のふるさとレポート ～「母か ら子への手紙コンクール」(猪苗代町) から
第4回	9/28(土)	大山のぶ代の「次世代に残したい」(1) 「言葉と心」
第5回	10/5(土)	うつくしまねりんピック2002まもなく 開幕！ねりんピック推進室・キャン ペーンスタッフ・参加者
第6回	10/12(土)	谷啓の「元気に行こうよ！ガチョーン とね」
第7回	10/19(土)	谷啓の「大人のための音楽入門講座」
第8回	10/26(土)	大山のぶ代の「次世代に残したい」(2) 「知恵と工夫」
第9回	11/2(土)	森和美のふるさとレポート ～プレ県 民カレッジ事業～1023大熊町親子体験 交流会～」から
第10回	11/9(土)	生誕120年野口雨情の世界in岩代町～ アコーディオン漫談(近藤志げる)
第11回	11/16(土)	童謡・唱歌で生き生きと 岩代童謡唱 歌を歌う会with近藤志げる
第12回	11/23(土)	バカモン！波平日本を叱る！ 声優(永井一郎)
第13回	11/30(土)	家族の役割～サザエさんの茶の間から 声優(永井一郎)
第14回	12/7(土)	人生は勉強～足で学んだ福島の民俗学 民俗研究家(懸田弘訓)
第15回	12/14(土)	コーチと選手の科学～スランプからの ステップアップ(1)～白石豊氏・萩原美 樹子氏
第16回	12/21(土)	コーチと選手の科学～スランプからの ステップアップ(2)～白石豊氏・萩原美 樹子氏
第17回	12/28(土)	生きること・愛すること～エッセイ スト大石邦子の2002年
第18回	1/4(土)	ふるさとへの年賀状～佐藤B作氏(飯 坂町出身)
第19回	1/11(土)	素晴らしき少年時代～佐藤B作氏(飯 坂町出身)
第20回	1/18(土)	森和美のふるさとレポート 「フォル クローレの街～川俣を訪ねて」

回数	月 日	タイトル・内容概要・講師
第21回	1 / 25(土)	福島の宝物～自然との共生を考える～ 福島県自然保護協会（星一彰氏）
第22回	2 / 1(土)	ハリーポッターとの出会いから～翻訳家、原町市出身（松岡佑子氏）
第23回	2 / 8(土)	翻訳家という仕事～私たちが伝えるもの～翻訳家、原町市出身（松岡佑子氏）
第24回	2 / 15(土)	家族という名のチーム～フィギュアスケート本田武史選手の家庭から
第25回	2 / 22(土)	森和美のふるさとレポート ～「今子どもたちは～青い窓をたずねて」対談（佐藤浩氏）

第5節 視聴覚教育

1 概 要

県民の多様化・個別化している学習需要に対応し、かつ、県民が興味深く学習活動を展開して学習効果を高めるため、時代の流れに即応した視聴覚教育への改善・充実を目指し、以下の取組みを行った。

2 福島県視聴覚ライブラリー教材目録の作成

これまで収集・保管している視聴覚教材について目録を作成し、それらを各市町村関係機関に送付するとともに県生涯学習情報提供システム（「ふくしまナビネット」）にも掲載し、県民の幅広い活用に応じた。

作成部数：500部

配布先：各市町村教育委員会、公民館、図書館、各市町村立視聴覚ライブラリー等

第6節 ユネスコ活動

1 概 要

ユネスコ活動は、教育・科学・文化の分野における交流や協力、開発や保存など、国際平和と人類の福祉に貢献することを目的として、民間でも様々な展開が見られる。

法律においては、「ユネスコに関すること」が教育委員会の任務として位置づけられており、県及び市町村教育委員会は、積極的に精神の普及啓発と民間ユネスコ運動の支援並びに活動者の養成に努めた。

2 ユネスコ協会設立状況

協会名	会長名	事務局	事務局長	設 立 月 日
須賀川地方ユネスコ協会	高橋 康夫	市教委生涯学習課内 須賀川市八幡町135	武田 國男	46 .9.13
いわきユネスコ協会	白土 信美	市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	松本 恒雄	51.10.23
郡山ユネスコ協会	佐藤 信	学校法人尚志学園高 等学校内 郡山市大槻町担ノ腰2	平野 正人	53. 1.24
白河ユネスコ協会	片岡 英信	市教委生涯学習課内 白河市八幡小路7-1	根本 紀光	53.11.19
福島ユネスコ協会	新妻 威男	福島市中央公民館内 福島市松木町1-7	境野 啓二	55. 7.19
会津ユネスコ協会	佐藤 勝夫	市教委生涯学習課内 会津若松市北滝沢1-6-30	白岩 勇	55.11.16
相馬ユネスコ協会	大谷 彰	市教委生涯学習課内 相馬市坪田字八幡前 173	櫻岡 光子	63. 7.15
いいたてユネスコ協会	佐藤 幸夫	飯館村役場内 飯館村伊丹字伊丹 沢580-1	佐藤 俊雄	H 4. 3. 7
郡山青年ユネスコ協会	佐久間泰王	学校法人佐久間学園 法人本部総務局 郡山市図景2-9-3	大本 研二	H 8.11.30
福島県ユネスコ連絡協議会	佐藤 信	福島市笹谷字道場 29-9 境野啓二宅	境野 啓二	56.12. 5

3 福島県ユネスコ活動指導者研修会

- (1) 期 日 平成14年9月3日(火)
 - (2) 会 場 いわき明星大学
 - (3) 参加者 社会教育関係者、社会教育関係団体関係者、学校教育関係者、社会教育施設関係者、ユネスコ活動関係者、ユネスコ活動に関心のある方 214名
 - (4) 内 容
 - 基調講演 「アフガニスタンの教育復興の現状から」
講師 (社)日本ユネスコ協会連盟
教育文化事業部副部長 坂巻 豊子氏
 - 分科会 第1分科会「学校教育とユネスコ活動」
発表者いわき市立小名浜西小学校教諭
桃崎恵美子氏
 - 第2分科会「地域活動に見るボランティア」
発表者須賀川地方ユネスコ協会会長
高橋 康夫氏
 - 第3分科会「国際理解と今できること」
発表者白河ユネスコ協会会長
長田 嘉郎氏
- 全 体 会 分科会の報告

第7節 人権教育促進事業 「人権教育指導者研修会」

概要

「人権の世紀」である21世紀を迎え、子どもを取り巻く環境が変化し、人間性や社会性の育成が大きな課題になっている。県では、新たな長期総合計画「うつくしま21」により、「人間、人格、人権の尊重」という理念を掲げ、新世紀を担う人づくりを主要課題の一つをとって取り組んできたのを受け、県教育委員会では平成13年度から第5次長期総合計画の4つの視点の一つに「人と共に」を掲げ、人権教育の重要性を説くとともに教育・研修会の機会を設けてきた。

【人権教育指導者研修会】

1 目的

すべての人々が人権が真に尊重される社会の実現を目指し、広く人々の人権に対する理解と認識を深め、人権尊重の精神を高めるとともに、人権に関わる問題の解決に資することを目的とし研修会を行った。

2 期 日 平成14年10月31日～11月1日（1泊2日）

3 会 場 福島県男女共生センター

4 参加者 市町村教育委員会の管理職（教育長、教育課長等） 公民館等社会教育関係のリーダー及び指導者（公民館長等） 54名

5 内 容

- 第1日目 (1) 基調講演「人権・人権教育・人権救済」
～「共生社会」に向けた「人権教育」の課題～
講師 新潟大学法学部教授 山崎 公士氏
(2) 講義 「子どもと人権」
～子どもの虐待に関する心の痛手～
講師 福島県児童相談所判定課長 大宮 廣幸氏
(3) 講義 「女性と人権」
～男女共同参画社会の現状と課題～
講師 桜の聖母短期大学講師 二瓶由美子氏
(4) 講義 「管理職に望むこと」
講師 県教育庁生涯学習課主幹 佐々木孝司氏

第2日目 シンポジウム

- A 民間企業における人権
講師 東邦銀行人事部副部長兼人事課長 鈴木 廣明氏
B 学校における人権
講師 東日本国際大学学生課長 伊藤 行和氏
C 障害者と人権
講師 福島県盲人協会会長 柏谷 勲氏

第8節 家庭教育

1 概要

家庭教育は、もとより家庭の責任に委ねられ、家庭それぞれの価値観やスタイルに基づいて行われるべきものである。しかし、社会の急激な変化に伴い、核家族化や少子化をはじめ子どもを取り巻く環境が大きく変化している。このような中で家庭教育に関する課題も増加・深刻化しており、家庭教育力の低下が指摘されている。

このため、子育てに関する身近な問題から家庭の在り方に関する課題に至るまでを視野に入れ、親個人や地域に対して家庭教育に関する知識・技術・態度等を習得するための学習・相談・交流の機会を提供するとともに、地域における子育て「共同化」へ向けたネットワークづくりの推進などにより、家庭教育の充実を支援してきた。

2 家庭教育トライアングル事業

- (1) 家庭教育インストラクター養成研修会
期 7/13～14 国立磐梯青年の家
期 9/7～8 国立磐梯青年の家
期 11/9～11/10 国立磐梯青年の家
111名修了（H12～14の修了者189名）
修了者による自主的な学習団体の学習会の開催や地域フォーラム等での指導助言等活用が図られてきた。
- (2) 家庭教育地域（中央）フォーラム
主 題 「家庭・地域社会の教育力の活性化をめざして」
（中央フォーラム）
ア 基調講演 講師 東京大学大学院教授 汐見稔幸氏
イ シンポジウム
コーディネーター 桜の聖母短期大学助教授 西内みなみ氏
シンポスト 会津本郷町立本郷幼稚園・保育所保護者会前会長 弓田修司氏
明日飛学園長 家庭教育インストラクター 清水国明氏
福島学院短期大学講師 メンタルヘルスセンター臨床心理士 大島典子氏
ウ 実践発表 「おおっ！とうちゃんの会」の実際から 仙台市立西中田小学校「おおっ！とうちゃんの会」

期日・開催地・会場・参加者数

回	期日	会場	参加人数
1	6月22日(土)	いわき市生涯学習プラザ	340名
2	7月6日(土)	埴町公民館	357名
3	7月6日(土)	会津若松市文化福祉センター	330名
4	7月13日(土)	新地町公民館	224名
5	9月14日(土)	南郷村開発センター	195名
6	10月5日(土)	サンフレッシュ郡山	269名
7	11月30日(土)	(中央) 福島県文化センター	473名
合 計			2,188名

(3) 家庭教育支援モデル事業

ア 家庭教育推進員の配置

イ 親子のふれあい交流事業の実施

ウ 委託先子どもセンター

「二本松市子どもセンター協議会」「しらかわ子どもセンター推進協議会」「会津若松市子どもセンター協議会」「田島・下郷町子どもセンター推進協議会」「はらまち子どもにこにこセンター協議会」「いわき市子どもの体験活動推進委員会」

3 家庭教育子育て支援事業

(1) 家庭教育電話相談「すくすくダイヤル」

ア 相談日 毎週月～金曜日

イ 時間 午前10時から午後4時まで

ウ 電話番号 0120-81-7867 024-545-4108

エ 電話相談員

氏名	備考
新家 淳子	家庭教育アドバイザー
成田 由美子	心理判定員
林 千枝子	家庭教育アドバイザー
島 貫ノブ	家庭教育ふれあいネットワークカー
佐藤 典子	保健師
渡辺 明美	元養護教諭
樋口 和史	元教員青少年育成アドバイザー
小泉 幸雄	元教員
佐々木 十志春	元教員
境野 啓二	元教員
三津間 安宏	元教員

オ 相談状況 相談件数750件(4月～3月)

カ 相談内容 1位 育児・保育 2位 性格行動
3位 対人交友 4位 家族関係

4 子育て学習県民講座
(子育て学習の全国展開)

子育てやしつけなどの家庭教育の在り方を見つめ直してもらうため、家庭教育に関心の少ない親なども含め、より多くの親に働きかけ、家庭教育について考える機会を提供することにより、家庭の教育力の再生を図ることを目的として、事業を実施した。

(1) 家庭教育力活性化支援協議会

家庭教育上の諸問題の原因等を分析し、家庭教育充実支援事業の企画・推進のための全般的な助言・評価等を行うほか、家庭教育に関する具体的な方策の研究にあたった。
[家庭教育力活性化支援協議会委員]

委員名	役職名	備考
大宮 勇雄	福島大学教育学部教授	委員長
星野 仁彦	福島学院短期大学教授 メンタルヘルスセンター所長	
西内 みなみ	桜の聖母短期大学助教授	副委員長
神戸 信行	児童養護施設青葉学園長	
新家 淳子	県家庭教育電話相談員	
藤田 華子	福島県全私立幼稚園協会代表	
山田 和江	県PTA連合会母親代表	
阿部 次雄	旭測地株式会社代表取締役	
箭内 哲男	児童家庭課主査	
渡部 久雄	県教育センター主任指導主事	
二谷 京子	県教育庁教育指導課指導主事	

(2) 思春期子育て講座の開設(市町村事業)

ア 目的

深刻化する最近の青少年の問題に対応するため、思春期の子どもの問題行動等について、悩みや不安を持つ親に対して、その対処方法などの子育て講座を、厚生労働省やPTAと連携して、モデル的に実施した。

イ 機会

中学校入学説明会や保護者会の機会

ウ 実施市町村・講座数

36市町村・78講座

(3) 就学時検診等を活用した子育て講座(市町村事業)

ア 目的

小学校入学前の子どもを持つすべての親が参加する就学時検診や母子保健活動の機会を活用した子育て講座を開設した。

イ 機会

(ア) 母子保健法による健康診断等の機会

(イ) 学校保健法による小学校入学前の児童に対する就学時健康診断

(ウ) 対象となる親の大部分が集まる機会

ウ 実施市町村・講座数

54市町村 301講座

(4) 妊娠期子育て講座

ア 目 的

育児不安や無責任な放任、児童虐待等の未然防止を図るため、家庭教育のあり方について保健福祉部との連携を図りながら学習の機会を提供した。

イ 機 会

両親学級、母親学級等の機会

ウ 実施市町村・講座数

16市町村・24講座

第9節 公民館等社会教育施設

1 概 要

生涯学習の振興のためには、住民の学習活動の核となる公民館等社会教育施設の整備・充実を図る必要があり、その計画的な整備及び運営の効率化を図るよう努めた。

2 公民館を除く主な社会教育施設

(1) 図書館の設置状況

	名 称	所在地・電話番号	設置者	
県立	福島県立図書館	福島市森合字西養山1 024 - 535 - 3218	福島県	
	福島市立図書館	福島市松木町1 - 1 024 - 531 - 6551	福島市	
市	伊達町立図書館	伊達町大字箱崎字川端7 024 - 551 - 2132	伊達町	
	二本松市立図書館	二本松市本町1丁目102 0243 - 23 - 5082	二本松市	
	しらさわ夢図書館	白沢村白岩字堤崎500 0243 - 44 - 2112	白沢村	
	岩代町図書館	岩代町小浜字藤町242 0243 - 55 - 3255	岩代町	
	郡山市中央図書館	郡山市麓山1丁目5 - 25 024 - 923 - 6601	郡山市	
	郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘1 - 5 024 - 961 - 1600	郡山市	
	郡山市安積図書館	郡山市安積1丁目38 024 - 946 - 8850	郡山市	
	郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎181 - 1 024 - 921 - 0030	郡山市	
	村	須賀川市図書館	須賀川市八幡町134 0248 - 75 - 3309	須賀川市
		長沼町図書館	長沼町大字長沼字金町85 0248 - 67 - 2138	長沼町
立	鏡石町図書館	鏡石町旭町440 - 6 0248 - 62 - 1288	鏡石町	
	岩瀬村図書館	岩瀬村大字柱田字中地前22 0248 - 65 - 3549	岩瀬村	
	古殿町図書館	古殿町大字松川字横川235 0247 - 53 - 2305	古殿町	
	三春町民図書館	三春町字大町12 - 1 0247 - 62 - 3375	三春町	
	小野町ふるさと文化の館	小野町大字小野新町字中通2 0247 - 72 - 2120	小野町	

	名 称	所在地・電話番号	設置者
市	船引町図書館	船引町大字船引字扇田19 0247 - 82 - 1001	船引町
	白河市立図書館	白河市字手代町22 - 1 0248 - 23 - 3250	白河市
	東村図書館	東村大字釜字字狐内47 0248 - 34 - 1130	東村
	矢吹町図書館	矢吹町小松481 0248 - 44 - 3595	矢吹町
	中山義秀記念文学館	大信村大字町屋字沢田25 0248 - 46 - 3614	大信村
	棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字城跡乙26 - 2 0247 - 33 - 4342	棚倉町
	塙町立図書館	塙町大字塙字栄町68 - 6 0247 - 43 - 0808	塙町
	会津若松市立会津図書館	会津若松市城東町2 - 3 0242 - 27 - 1784	会津若松市
	喜多方市立図書館	喜多方市字柳原7503 - 1 0241 - 22 - 1855	喜多方市
	相馬市図書館	相馬市中村字北町55 - 1 0244 - 37 - 2199	相馬市
町	原町市立原町図書館	原町市三島町2丁目45 0244 - 22 - 4352	原町市
	新地町図書館	新地町谷地小屋字榎掛田40 - 1 0244 - 62 - 5031	新地町
	浪江町図書館	浪江町大字権現堂字矢沢町6 - 1 0240 - 34 - 5024	浪江町
	双葉町図書館	双葉町大字長塚字鬼木1 0240 - 33 - 4214	双葉町
	大熊町図書館	大熊町大字下野上字大野669 - 3 0240 - 32 - 3011	大熊町
	いわき市立中央図書館	いわき市平字堂根町1 - 4 0246 - 22 - 5431	いわき市
	いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下40 - 1 0246 - 45 - 1030	いわき市
	いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上7 - 2 0246 - 54 - 9257	いわき市
	いわき市立常磐図書館	いわき市常磐開船町作田1 0246 - 44 - 6218	いわき市
	いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町1丁目2 - 2 0246 - 62 - 7431	いわき市
私立	いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東1丁目50 0246 - 32 - 5980	いわき市
	(財)金森和心会クローバー子供図書館	郡山市開成4丁目14 - 12 024 - 932 - 2118	法人

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名 称	所在地・電話番号	設置者	種 別 (登録・指定年月日)
登 録 博 物 館	福島県 歴史資料館	福島市春日町5-54 024-534-9193	福島県 歴史博物館 (57.10.5)
	福島県立 美術館	福島市森合字西養山1 024-531-5511	福島県 美術博物館 (59.7.16)
	福島県立 博物館	会津若松市城東町 1-25 0242-28-6000	福島県 総合博物館 (61.11.28)
	須賀川市立 博物館	須賀川市池上町6 0248-75-3239	須賀川市 歴史博物館 (46.7.10)
	いわき市立 美術館	いわき市平字堂根町 4-4 0246-25-1111	いわき市 美術博物館 (59.9.3)
	郡山市立 美術館	郡山市安原町字大谷 地130-2 024-956-2200	郡山市 美術博物館 (平5.1.20)
	野馬追の里 原町市立 博物館	原町市牛来字出口194 0244-23-6421	原町市 総合博物館 (平8.5.9)
	野口英世 記念館	猪苗代町大字三ツ和 字前田81 0242-65-2319	(財)野口英 世記念会 歴史博物館 (29.10.21)
	藤田記念 博物館	白河市市五郎窪37-1 0248-24-1780	(財)藤田教 育振興会 美術博物館 (54.9.1)
	会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和 字前田33-1 0242-65-2600	(財)会津 民俗館 歴史博物館 (55.10.3)
	白虎隊 記念館	会津若松市一箕町八 幡字弁天下33 0242-24-9170	(財)白虎隊 記念館 歴史博物館 (63.6.30)
	諸橋近代 美術館	北塩原村松原字剣ヶ 峰1093-23 0241-37-1088	(財)諸橋近 代美術館 美術博物館 (平11.8.17)
	相 当 施 設	やないづ 町立齋藤清 美術館	柳津町柳津字下平乙187 0241-42-3630
龍が城美術 館		いわき市平字旧城跡27 0246-22-1601	(財)白龍会 美術博物館 (30.3.8)
会津武家屋 敷会津歴史 資料館		会津若松市東山町大 字石山字院内1 0242-28-2525	(株)会津武 家屋敷 歴史博物館 (56.11.25)
安積歴史博 物館		郡山市開成5丁目25-63 024-938-0778	(財)安積歴 史博物館 歴史博物館 (61.3.17)
磐梯山噴火 記念館		北塩原村松原字剣ヶ 峰1093-36 0241-32-2888	(株)ゴール ドハウス 目黒 自然史系 博物館 (平5.7.1)
会津藩校 日新館	河東町南高野字高塚 山10 0242-75-2525	(株)会津武 家屋敷 歴史博物館 (平12.11.28)	

イ 類似施設

名 称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま 海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町50 0246-73-2525	福島県
文化財センタ- 白河館	白河市白坂字一里塚86 0248-21-0700	福島県
福島市 資料展示室	福島市上町5-1 024-521-5318	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 024-593-5249	福島市
福島市 古関裕而記念館	福島市入江町1-1 024-531-3012	福島市
かわまた おりもの展示館	川俣町大字鶴沢字東13-4 024-565-4889	川俣町
梁川町民美術館	梁川町字中町10 024-527-2656	梁川町
保原町 歴史文化資料館	保原町大字大泉字宮脇25 024-575-1615	保原町
学びと遊びの ミュージアム	霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	霊山町
二本松市 歴史資料館	二本松市本町1-102 0243-23-3910	二本松市
安達町 智恵子記念館	安達町油井字漆原町36 0243-22-6151	安達町
あだたら ふるさとホール	大玉村玉井字西庵183 0243-48-2569	大玉村
本宮町立 歴史民俗資料館	本宮町字南町裡130 0243-33-2546	本宮町
白沢村ふれあい 文化ホール	白沢村白岩字堤崎494-44 0243-44-3185	白沢村
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7 024-923-2157	郡山市
郡山市中央図書館 附属歴史資料館	郡山市麓山1-8-3 024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま 文学の森資料館	郡山市豊田町3-5 024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい 科学館	郡山市駅前2-11-1ピックアイ 20F~24F 024-936-0201	郡山市
須賀川牡丹園	須賀川市牡丹園 0248-73-2422	須賀川市
須賀川市 歴史民俗資料館	須賀川市池上町6 0248-63-2156	須賀川市
長沼町 歴史民俗資料館	長沼町長沼字門口186 0248-67-2030	長沼町
岩瀬村 民俗資料館	岩瀬村柱田字中地前19 0248-65-2100	岩瀬村
天栄村ふるさと 文化伝承館	天栄村大里字八石1-2 0248-81-1030	天栄村
石川町 歴史民俗資料館	石川町字高田200-2 0247-26-3768	石川町
浅川町 歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地144-6 0247-36-2297	浅川町

名 称	所在地・電話番号	設置者
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下287 0247 - 36 - 4129	浅川町
古殿町郷土文化 保存伝習施設	古殿町松川字横川235 0247 - 53 - 2305	古殿町
三 春 町 歴史民俗資料館	三春町字桜谷5 0247 - 62 - 5263	三春町
三 春 町 郷土人形館	三春町字大町30 - 1 0247 - 62 - 7053	三春町
小野町ふるさと 文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通2 0247 - 72 - 2120	小野町
常 葉 町 民俗資料館	常葉町大字常葉字中町1 0247 - 77 - 2111	常葉町
船 引 町 歴史民俗資料館	船引町船引字四城内前296 0247 - 82 - 0370	船引町
白 河 市 歴史民俗資料館	白河市字中田7 - 1 0248 - 27 - 2310	白河市
白河集古苑	白河市郭内1 - 73 0248 - 24 - 5050	白河市
西 郷 村 民俗資料館	西郷村大字小田倉字上野原463 0248 - 25 - 0959	西郷村
表 郷 村 民俗資料館	表郷村大字番沢字桜下23 0248 - 32 - 2526	表郷村
中 山 義 秀 記念文学館	大信村大字町屋字沢田25 0248 - 46 - 3614	大信村
ふるさと 文化伝承館	大信村大字町屋字沢田25 0248 - 46 - 3614	大信村
泉 崎 資 料 館	泉崎村泉崎字館24 - 9 0248 - 53 - 4777	泉崎村
矢 祭 町 民俗資料室	矢祭町大字東館字石田25 0247 - 46 - 2202	矢祭町
鮫 川 村 歴史民俗資料館	鮫川村赤坂中野字巡ヶ作126 - 1 0247 - 49 - 3106	鮫川村
会津若松市御薬園 (会津松平氏庭園)	会津若松市花春町8 - 1 0242 - 27 - 2472	会津若松市
若松城天守閣 郷土博物館	会津若松市追手町1 - 1 0242 - 27 - 4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町2 - 8 - 8 0242 - 22 - 8686	会津若松市
茶 室 麟 閣	会津若松市追手町1 - 1 0242 - 27 - 4005	会津若松市
河 東 町 民 俗 館	河東町大字郡山字中子山51 0242 - 75 - 2127	河東町
磐 梯 山 慧 日 寺 資 料 館	磐梯町大字磐梯字寺西38 0242 - 73 - 3000	磐梯町
い な わ し ろ 淡 水 魚 館	猪苗代町長田字東中丸344 - 4 0242 - 65 - 2841	猪苗代町
喜 多 方 市 郷土民俗館	喜多方市柳原7503 - 1 0241 - 22 - 4154	喜多方市
喜多方市蔵の里	喜多方市押切2 - 109 0241 - 22 - 6592	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市字押切2 - 2 0241 - 23 - 0404	喜多方市

名 称	所在地・電話番号	設置者
高 郷 村 郷土資料館	高郷村大字上郷字天神後戊417 0241 - 44 - 2765	高郷村
柳津町芸術文化 資 料 室	柳津町柳津字諏訪町甲59 0241 - 42 - 3511	柳津町
会 津 本 郷 焼 資 料 館	会津本郷町字瀬戸町3208 0242 - 56 - 4637	会津本郷町
新 鶴 村 民俗資料館	新鶴村大字米田字堂ノ後甲149 0242 - 78 - 2007	新鶴村
三 島 町 交 流 セ ン タ - 山 び こ	三島町名人字諏訪ノ上418 0241 - 52 - 2165	三島町
金 山 町 歴史民俗資料館	金山町大字中川字上居平949 - 1 0241 - 55 - 3334	金山町
か ら む し 工 芸 博 物 館	昭和村佐倉字上ノ原 0241 - 58 - 1677	昭和村
旧南会津郡役所	田島町大字田島丸山甲4681 - 1 0241 - 62 - 3848	田島町
奥 会 津 地 方 歴史民俗資料館	田島町大字系沢字西沢山3692 - 20 0241 - 66 - 3077	田島町
大 内 宿 町並み展示館	下郷町大字大内字山本8 0241 - 68 - 2657	下郷町
前 沢 曲 屋 資 料 館	館岩村前沢337(館岩村農業公社) 0241 - 78 - 2795	館岩村
檜 枝 岐 村 歴史民俗資料館	檜枝岐村下の原887 - 2 0241 - 75 - 2432	檜枝岐村
奥 会 津 南 郷 民 俗 館	南郷村大字界字川久保552 0241 - 73 - 2829	南郷村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田33 0241 - 86 - 2175	只見町
河 井 継 之 助 記 念 館	只見町塩沢字上ノ台850 - 5 0241 - 82 - 2870	只見町
相馬市教育文化 センター博物館	相馬市中村字大手先13 0244 - 37 - 2191	相馬市
鹿 島 町 歴史民俗資料館	鹿島町横手字八郎内289 0244 - 46 - 4281	鹿島町
埴 谷 ・ 島 尾 記 念 文 学 資 料 館	小高町本町2 - 89 - 1 0244 - 44 - 3049	小高町
葛 尾 村 郷 土 文化保存伝習館	葛尾村大字落合字落合11 0240 - 29 - 2008	葛尾村
双 葉 町 歴史民俗資料館	双葉町大字新山字本町27 - 1 0240 - 33 - 4763	双葉町
大 熊 町 民俗伝承館	大熊町大字下野上字大野669 - 3 0240 - 32 - 3011	大熊町
阿 武 隈 民 芸 館	川内村上川内字早渡513 0240 - 38 - 2076	川内村
檜 葉 町 歴 史 資 料 館	檜葉町大字北田字鐘突堂5 - 4 0240 - 25 - 2492	檜葉町
い わ き 市 石 炭 ・ 化 石 館	いわき市常磐湯本町向田3 - 1 0246 - 42 - 3155	いわき市
いわき市勿来関 文 学 歴 史 館	いわき市勿来町関田長沢6 - 1 0246 - 65 - 6166	いわき市
いわき市アンモ ナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房147 - 2 0246 - 82 - 4561	いわき市

名 称	所在地・電話番号	設置者
いわき市考古資料館	いわき市常磐藤原町手道50 - 1 0246 - 43 - 0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文化館	いわき市小川町高萩字下夕道1 - 39 0246 - 83 - 0005	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野14 - 16 0246 - 29 - 2230	いわき市
(有)大桑原つつじ園	須賀川市大字大桑原字竹ノ花13 0248 - 76 - 5857	有限会社
会津酒造博物館	会津若松市材木町1 - 8 - 1 0242 - 28 - 0150	株式会社
東北サファリパーク	二本松市沢松倉1 0243 - 24 - 2336	株式会社
(社)福島県伝統産業会館	会津若松市大町1 - 7 - 3 0242 - 24 - 5757	社団法人
会津酒造歴史館	会津若松市東栄町8 - 7 0242 - 26 - 0031	株式会社
(助)桑折町文化記念館(種徳美術館)	桑折町字陣屋12 024 - 582 - 5507	財団法人
御蔵入細井家資料館	田島町静川字風下甲175 0241 - 62 - 0906	私 人
会津うるし美術博物館	喜多方市東町4095 0241 - 24 - 4151	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内41 024 - 971 - 3900	私 人
南湖神社宝物館	白河市菅生館2 0248 - 23 - 3015	私 人
蔵のまち美術館	喜多方市字一本木下7813 0241 - 25 - 7170	私 人
会州一蔵品館	会津若松市相生町7 - 17 0242 - 25 - 0055	私 人
木の博物館	塙町伊香字松原160 - 13 0247 - 43 - 1480	有限会社
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹7294 - 4 0241 - 24 - 3576	私 人
(助)太田良平記念館	福島市佐原字竹ノ森20 024 - 593 - 0501	私 人
白河フラワーワールド	白河市南湖公園隣 0248 - 23 - 2100	私 人
大和川酒蔵北方風土館	喜多方市字寺町4761 0241 - 22 - 2233	私 人
会津葵シルクロード文明館	会津若松市追手町4 - 6 0242 - 27 - 1001	私 人
三春ファームガーデン	三春町大字斉藤字仁位道126 024 - 942 - 7939	有限会社
リカちゃんキャッスル	小野町小野新町中通51 - 3 0247 - 72 - 6364	株式会社
桐の博物館	喜多方市字押切南2 - 12 0241 - 22 - 1911	私 人
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚3 - 183 024 - 593 - 0639	財団法人
ふくしまの森の科学体験センター	須賀川市大栗字夫婦石30 0248 - 89 - 1120	財団法人

名 称	所在地・電話番号	設置者
ふるさとの館	矢吹町大池243 - 2 0248 - 42 - 4506	矢 吹 町
CCCA 現代グラフィックアート館	須賀川市大字塩田字宮田1 0248 - 79 - 4811	株式会社
山 都 町民俗資料館	山都町字上ノ原道西907 - 1 0241 - 38 - 2497	山 都 町
飯豊とそばの里センター	山都町字沢田3077 - 1 0241 - 38 - 3000	山 都 町
熱塩加納村民具収蔵館	熱塩加納村熱塩字西勝原丙44 0241 - 36 - 2221	熱塩加納村
井村君江妖精美術館	金山町大栗山狐穴2765 0241 - 55 - 3180	金 山 町

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県設置	福島県相馬海浜自然の家	相馬市磯部字大洲38 - 3 0244 - 33 - 5224	福島県
	福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山53 0246 - 32 - 7700	福島県
	福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山46 024 - 957 - 2111	福島県
教育施設	福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山4495 - 1 0242 - 83 - 2480	福島県
	国立那須甲子少年自然の家	西郷村大字真船字村火 0248 - 36 - 2331	独立行政法人
施設	国立磐梯青年の家	猪苗代町字五輪原7136 - 1 0242 - 62 - 2530	独立行政法人
	市町村(条例)設置	46施設 (別掲)	
施設	他県設置等	15施設 (別掲)	

市町村(条例)設置(47施設)

名 称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋53-5 024-546-8311	福島県
福島市社会教育館「こぶし荘」	福島市町庭坂字砥石山40-13 024-591-3366	福島市
福島市社会教育館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作1 024-597-2951	福島市
福島市児童文化センター	福島市桜木町8-13 024-534-5754	福島市
福島市勤労青少年ホーム	福島市入江町1-1 024-531-6221	福島市
二本松市の家	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市勤労青少年ホーム	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
安達町勤労青少年ホーム	安達町油井字澁石3-1 0243-23-3721	安達町
本宮町勤労青少年ホーム	本宮町字矢来39-1 0243-33-4488	本宮町
白沢村B&G海洋センター	白沢村白岩字堤崎318-1 0243-44-3318	白沢村
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒82 024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西112 024-982-2115	郡山市
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山1丁目8-4 024-932-3027	郡山市
須賀川市の森	須賀川市大字塩田字音森20 0248-79-2187	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市大字和田字柏崎44 0248-63-2154	須賀川市
須賀川市ふれあいセンター	須賀川市大字長祿町79 0248-72-0200	須賀川市
鏡石町勤労青少年ホーム	鏡石町大字笠石字中央59 0248-62-6019	鏡石町
船引町児童館	船引町大字船引字石田151 0247-82-0690	船引町
都路の郷ふれあいセンター	都路村大字古道字遠下前80 0247-75-3121	都路村
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2126	小野町
小野町B&G海洋センター	小野町大字小野新町字美売65-1 0247-72-3691	小野町
滝根町B&G海洋センター	滝根町大字神俣字河原100 0247-78-2001	滝根町
石川町勤労青少年ホーム	石川町当町418-1 0247-26-0475	石川町
石川町B&G海洋センター	石川町大字母畑字梅木入71-8 0247-26-3986	石川町
矢吹町ふるさとの森芸術村	矢吹町大池243-2 0248-42-4506	矢吹町

名 称	所在地・電話番号	設置者
聖ヶ岩ふるさとの森グリーンスポーツハウス	大信村大字隈戸国有林57林班 0248-46-2471	大信村
塙町B&G海洋センター	塙町大字台宿字下川原28 0247-43-3192	塙町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町14-52 0242-26-6661	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町15-62 0242-26-4313	会津若松市
青少年研修センター(わらび園)	熱塩加納村加納字村前乙549 0241-36-2002	熱塩加納村
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市字舞台田3119-1 0241-22-1403	喜多方市
塩川町青少年研修センター	塩川町大字四奈川字前田2166 0241-27-2362	塩川町
びわ沢原森林公園	猪苗代町琵琶沢原7095 0242-61-3292	猪苗代町
柳津町B&G海洋センター	柳津町大字柳津字金谷沢乙1795 0241-42-2246	柳津町
三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ	三島町西方字上原3580 0241-48-5577	三島町
御蔵入りの里山村道場	会津田島町大字糸沢字西沢山3692-2 0241-66-2108	田島町
田島町針生青少年旅行村	田島町針生字昼滝山857-25 0241-64-2133	田島町
原町市勤労青少年ホーム	原町市三島町2-45 0244-22-2047	原町市
鹿島町B&G海洋センター	鹿島町横手字川原186-1 0244-46-5116	鹿島町
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里15-1 0244-62-3106	新地町
双葉町青少年婦人会館	双葉町長塚字谷沢町56 0240-33-2083	双葉町
野外活動センター(グリーンフィールド富岡)	富岡町小浜304 0240-22-5566	富岡町
富岡町合宿センター	富岡町小浜343 0240-22-7000	富岡町
榎葉町サイクリングターミナル	榎葉町北田字上ノ原27-29 0240-25-3113	榎葉町
いわき市勿来勤労青少年ホーム	いわき市金山字朝日台1 0246-63-2879	いわき市
いわき市生涯学習プラザ	いわき市平1丁目1 ティーワンビル内 0246-37-8888	いわき市

他県設置等 (14施設)

名 称	所在地・電話番号	設置者
鏡石町ふれあいの森公園	鏡石町小栗山71 0248 - 62 - 2118	鏡石町
湯本青少年旅行村	天栄村羽鳥字芝草2 - 4 0248 - 85 - 2033	天栄村
矢祭町友情の森野外キャンプ場	矢祭町山下字下河原1 - 1 0247 - 46 - 2162	矢祭町
只見町青少年旅行村	只見町大字只見字向山2832 - 2 0241 - 82 - 2432	只見町
南郷村高清水自然公園	南郷村界字長地沢口4298 - 12 0241 - 73 - 2115	南郷村
小野田自然塾	埴町片貝字長久木364 (東京事務所) 03 - 3545 - 2051 (期間中) 0247 - 42 - 2311	財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243 - 24 - 2561	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243 - 24 - 2859	羽生市
葛飾区立あだたら高原学園	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243 - 24 - 2206	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	常葉町山根字鯉5 - 29 0247 - 77 - 2098	中野区
朝霞市立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町赤井字戸の口53 - 1 0242 - 94 - 2434	朝霞市
豊島区猪苗代青少年センター	猪苗代町字見弥山1 - 128 0242 - 63 - 1616	豊島区
さいたま市立館岩少年自然の家	館岩村宮里字向山2847 - 1 0241 - 78 - 2311	さいたま市
さいたま市立南郷キャンプ場	南郷村界字上ノ山4308 - 69 0241 - 73 - 2701	さいたま市
ばんだいふれあいぴあ	北塩原村松原南黄連沢山1157 - 192 0241 - 33 - 2335	財団法人

第1節 概要

近年、生活水準の向上、自由時間の増大及び生涯学習の進展を背景として、心の豊かさや潤いのある生活の実現を求める県民意識が高まりをみせており、新たな文化を創造、発展させることが求められている。

このため、県教育委員会では、県民の自主性と創造性を尊重しながら、“地域文化を創造し伝承する”を目標に、また、「文化活動の振興」、「文化財の愛護と伝統文化の継承」、「文化施設の整備充実」を施策の3本の柱として、文化活動をさらに活発にするための条件整備を積極的に展開しているが、その成果は次のとおりである。

1 文化活動の振興

(1) 芸術文化活動発表の機会の充実

県総合美術展覧会、県文学賞の内容を充実し、作品の応募の奨励を図るとともに、高校生の文化活動の発表の場として21世紀うつくしまヤングアートフェスタを開催した。また、文化団体が主体となり運営している県芸術祭の充実並びに県高等学校文化連盟の育成・援助に努めた。

(2) 芸術鑑賞の機会の確保

本物の舞台芸術体験事業、家庭劇場等を実施し、優れた芸術鑑賞の機会の確保に努めた。

(3) 文化振興基金の充実と活用

文化団体の育成と県民の自主的な文化活動の活発化を図るため、(財)福島県文化振興基金の充実と活用を促進した。

2 文化の伝承の充実

(1) 文化財保護体制の充実

文化財保護体制を確保するため、文化財保護行政組織の充実を図り、特に、埋蔵文化財体制の強化に努めた。

また、文化財保存管理の万全を期するため、文化財パトロールの充実に努めた。

(2) 文化財保存調査

文化財の指定・保存のため、文化財保存調査を実施したほか、文化財に関する資料の整備と記録保存を行った。

(3) 埋蔵文化財の保存の充実

開発事業に対して、事前の表面調査と試掘調査を実施するとともに、事業者側と協議を行い、可能な限り埋蔵文化財の現状保存に努めながら、記録の作成のための発掘調査を行った。

(4) 文化財防災設備等の整備促進

文化財防災設備、保存施設等の整備を促進するとともに、所有者又は管理団体等に対し日常的管理の強化を図るよう指導に当たった。

(5) 文化財保存助成の充実

国・県指定文化財の保存修理及び埋蔵文化財保存調査に対し、国庫及び県費の助成を行った。

(6) 文化財の愛護と公開の推進

文化財に対する県民の理解と愛護精神の高揚を図るため各種事業を実施したほか、伝統芸能公開事業（県民俗芸能大会）を開催するなど、公開の機会に努めた。

3 文化施設の整備充実

(1) 県文化センターの整備充実

県文化センターの施設・設備を整備し充実させるとともに、文化情報の収集・提供などの機能の充実に努めた。

(2) 県立美術館の整備充実

常設展、企画展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、また空調改修工事及び展示室改修工事を実施するなど、本県美術振興の中心施設として機能の充実に努めた。

(3) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県立博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

新たに立ち上げたホームページも好評を博している。

(4) 県文化財センター白河館の開館

文化財の収集と公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図る施設として、平成13年7月15日に開館した。

第2節 文化活動の振興

1 文化振興のための条件整備

文化行政の推進

県教育事務所文化行政担当者会議

ア 日 時 平成14年4月18日

イ 会 場 福島県自治会館

ウ 参加者 7名

2 芸術文化活動発表機会の充実

(1) 第55回福島県文学賞

趣 旨

県民から作品を公募して優秀作品を顕彰し、地方文化の進展と本県文学の振興を図る。

応 募 数

小説・ノンフィクション65点、詩59点、短歌56点、俳句119点、計299点

受賞者数種別

部門	種別	受賞者数				計
		文学賞	準賞	奨励賞	青少年奨励賞	
小説		0	1	0	3	4
ノンフィクション		0	1	1	1	3
詩		0	1	2	2	5
短歌		0	2	3	1	6
俳句		1	1	1	3	6
計		1	6	7	10	24

審査委員

室井光広、田村嘉勝、齋藤冬海、星 亮一、菅野俊之、
菊地貞三、蛸原由起夫、鈴木八重子、森岡貞香、
波汐國芳、鈴木武、金子兜太、伊藤松風、森川光郎
企画委員
太田憲孝、齋藤久夫、酒井義勝、高橋静葩、村上良一、
小平良男

(2) 第56回福島県総合美術展覧会

趣 旨

県内及び県出身者から作品を募集して展覧し、本県美術文化の振興を図る。

会 期

前期 (洋画・彫塑)

平成14年6月7日～6月13日

後期 (日本画・工芸美術・書)

平成14年6月18日～6月23日

会 場

福島県文化センター

運営委員

網代澄亭、安部孫一、大石 尚、神野忠和、小平良男、
齋藤勝正、佐久間信、佐藤典雄、柴田俊彰、杉原陸夫、
関谷浩二、西村榮悟、早川博明、三坂 制、村上皓南、
渡部憲司

審 査 員

(日 本 画) 安堵蒼樹、今井珠泉、黒沢吉蔵

(洋 画) 酒井昌之、佐藤美智子、高杉和久、
三浦哲往、渡部 武

(彫 塑) 石田光男、佐藤静司、橋本堅太郎

(工芸美術) 佐藤達夫、佐藤富士子、角田弘司、
丸山高志、宗像亮一、渡辺雅旺

(書) 佐々木折柴、丹治思郷、皆川雅舟

(各部五十音順)

出 品 表

区分	招待等			公 募				合 計	前年度 出品数	増 減	本年度公募陳列数				本年度 総陳列 数	前年度 総陳列 数
	招待	依頼	計	無鑑査	一 般	青少年	計				無鑑査	一 般	青少年	計		
日本画	14	8	22	1	75	0	76	98	108	10	1	57	0	58	80	82
洋 画	52	16	68	1	217	108	326	394	362	32	1	131	41	173	241	235
彫 塑	26	5	31	1	31	6	38	69	59	10	1	22	4	27	58	54
工 芸 美 術	29	8	37	0	61	6	67	104	116	12	0	49	2	51	88	89
書	26	24	50	2	330	16	348	398	414	16	2	228	10	240	290	290
計	147	61	208	5	714	136	855	1,063	1,059	4	5	487	57	549	757	750
前年度 出品数	169	59	228	7	732	92	831	1,059								
増 減	22	2	22	2	18	44	24	4								

受賞者数

区分	県立美術館 賞	県美術大賞	県 美 術 大 賞	福 島 県 美 術 賞	福 島 県 美 術 奨 励 賞	佳 作	青少年美術 奨 励 賞	計
日 本 画	1			1	2	4	0	8
洋 画	1	1		2	8	11	11	34
彫 塑	1		1	1	2	2	1	8
工 芸 美 術	1			1	3	2	1	8
書	1			2	8	10	2	23
計	5	1	1	7	23	29	15	81

(3) 福島県高等学校文化連盟への助成

高等学校における文化活動の普及と向上を図り、心豊かな人間性の涵養に役立てるため、県高等学校文化連盟の育成、援助に努めた。

平成14年度福島県高等学校文化連盟

役 員

役職名	氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
会長	安部哲夫	校長	福島女子高等学校	幹事	益永涼子	教諭	船引高等学校
副会長(私立)	山崎 勲	校長	磐城第一高等学校	幹事	小原節子	教諭	福島女子高等学校
副会長(県北)	安部哲夫	校長	福島女子高等学校	幹事	松浦芳朋	教諭	福島女子高等学校
副会長(県南)	畠山 熙一郎	校長	白河旭高等学校	幹事	堀内 芳幸	教諭	福島女子高等学校
副会長(会津)	柳橋幸生	校長	葵高等学校	顧問	檜村五郎		元会長
副会長(いわき)	中野純一	校長	好間高等学校	顧問	橋本今祐		元会長
副会長(相双)	鈴木暉夫	校長	小高商業高等学校	顧問	佐川六郎		元会長
理事長	光家孝一	教諭	福島女子高等学校	顧問	三浦賢一		元会長
監事	佐藤正敬	校長	郡山商業高等学校	顧問	片岡義和		元会長
監事	佐藤真紀	教諭	白河旭高等学校	顧問	成田 努		元会長
幹事	杉田 勇	教諭	安積高等学校	顧問	斎藤和也		元会長
幹事	小林 薫	教諭	須賀川高等学校	顧問	渡部久弘		前会長
幹事	大内利康	教諭	清陵情報高等学校	顧問	小平良男	課長	文化課

専門部会長・専門部委員長

専門部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
演劇	村山正之	校長	磐城	猪狩恭博	教諭	磐城
高音連	尾形秀重	校長	耶麻農業	福井 均	教諭	安達
合唱	菅野 暁	校長	安積黎明	星 英一	教諭	安積黎明
吹奏楽	斎藤洋一	校長	福島東	佐藤恵一	教諭	福島東
器楽管弦楽	佐藤正敬	校長	郡山商業	栗原 潔	教諭	郡山商業
美術・工芸	田中四郎	校長	保原	青木良仁	教諭	二本松工業
書道	吉田和衛	校長	棚倉	菊地良尚	教諭	棚倉
写真	日下部健一	校長	原町	玉野憲治	教諭	原町
放送文化	関口富左	校長	郡山女子大附属	高橋利通	教諭	郡山女子大附属
囲碁	古市孝雄	校長	福島	加藤知道	教諭	福島
将棋	古市孝雄	校長	福島	齋藤嘉浩	教諭	福島
農業	石川恪治	校長	会津農林	佐藤文男	教諭	会津農林
工業	大塚 孝	校長	福島工業	山口真二	教諭	福島工業
商業	斎藤義人	校長	福島商業	鈴木政直	教諭	福島商業
家庭	金丸知正	校長	相馬農業	高取暢子	教諭	相馬農業
科学	小野孝雄	校長	磐城桜が丘	滝沢 全	教諭	若松商業
定通	坂上正美	校長	いわき光洋	村田富美恵	教諭	いわき光洋
養護教育	穴澤由美	校長	大笹生養護	赤城章夫	教諭	大笹生養護
国際教育	我妻由規	校長	須賀川桐陽	坂路忠信	教諭	須賀川桐陽
J R C	弓田 篤	校長	盲	松本仁子	教諭	盲
郷土芸能	金丸知正	校長	相馬農業	中野幹夫	教諭	相馬農業

第21回福島県高等学校総合文化祭
県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的
として、県北地区を中心に、全県内において、平成14年

5月から平成15年2月まで、専門部の行事を開催すると
ともに、平成14年11月8日に福島市において総合発表会
を開催した。

部 門	期 日	場 所	内 容	参加校・参加者数
総合発表会	11月8日(金)	福島県文化センター	優秀団体、優秀指導者等の表彰を含む 式典、県北支部生徒によるアトラクシ ョン、20専門部の代表生徒による発表、 展示等。	計2,058名 発表者 365名 観覧者 1,623名 実行委員 70名
将 棋	5月25日(土)	郡山市中央公民館	第38回全国高等学校将棋選手権大会福 島県大会	14校 78名
放送文化	6月10日(月) ～14日(金)	福島県文化センター・ 桜の聖母学院高等学校	第49回全国高校放送コンテスト福島県 大会	25校 96名
合唱・吹奏楽・ 器楽管弦楽	6月12日(水) ～13日(木)	福島県文化センター・ 福島市音楽堂	第52回福島県高等学校音楽学習発表会	音楽3部門 105団体 3,468名
農 業	6月20日(木) ～21日(金)	岩瀬農業高等学校	福島県学校農業クラブ連盟技術競技大 会	7校 46名
	7月10日(水) ～11日(木)	東白川農商高等学校		12校 126名
	7月15日(月) ～16日(火)	小野高等学校・ 県畜産試験場		22校 84名
	7月22日(月) ～23日(火)	磐城農業高等学校		13校 144名
囲 碁	6月22日(土)	福島高等学校梅苑会館	第26回全国高等学校囲碁選手権大会福 島県大会	11校 57名
商 業	6月22日(土)	いわき明星大学	第18回全国高等学校簿記コンクール福 島県大会	15校 73名
工 業	9月6日(金)	福島工業高等学校	福島県高等学校第9回ロボット競技大 会	12校 223名
国際教育	10月3日(木)	須賀川市文化センター	第15回国際理解のための弁論大会	5校 9名
定 通	10月9日(水)	郡山萌世高等学校	第50回福島県高等学校定時制通信制生 徒生活体験発表大会	7校 11名 聴取生 120名
家 庭	11月6日(水) ～7日(木)	サンライフ原町	第50回福島県高等学校家庭クラブ連盟 研究発表大会	36校 270名
美術・工芸	11月7日(木) ～10日(日)	福島県文化センター	第29回福島県高等学校美術展	543名 出品 434点
写 真	11月7日(木) ～10日(日)	福島県文化センター	第21回福島県高等学校総合文化祭写真 展	26校 201名
養護教育	11月7日(木) ～10日(日)	福島県文化センター	養護教育諸学校作品展	13校 463名
書 道	11月7日(木) ～12日(火)	福島県文化センター	第21回福島県高等学校総合文化祭書道 展	32校 258名
科 学	11月14日(木) ～15日(金)	福島県文化センター	第15回福島県高等学校生徒理科研究発 表会・作品展示会	22校 184名
J R C	11月14日(木) ～15日(金)	磐梯青年の家	第35回福島県高等学校青少年赤十字県 大会	39校 81名
演 劇	11月22日(金) ～24日(日)	福島県文化センター	第56回福島県高等学校演劇コンクール	14校 180名
郷土芸能	2月9日(日)	サンライフ原町	第3回郷土芸能発表大会	1校 40名

第26回全国高等学校総合文化祭への派遣
8月7日から8月11日まで、神奈川県で開催された文
化祭に154名を派遣した。

[参加部門及び参加生徒数]
演劇20名、吹奏楽65名、美術・工芸3名、書道4名、
写真8名、放送文化17名、囲碁5名、将棋5名、
理科10名、ボランティア13名、文芸3名、県代表1名

(4) 県芸術祭

県芸術文化団体連合会が主体となって9月から12月までの4か月間を開催期間として実施された。主催行事は県北地区を中心に23行事が、また、参加行事は、全県内において50行事が実施された。

平成14年度福島県芸術祭主催行事実施状況

主催行事

区分	行事名	開催月日	開催場所	参加者数	観覧者数
開幕行事	平成14年度福島県芸術祭開幕式典	9月1日	福島県文化センター	615名	860名
全 県 組 織 文 化 団 体 行 事	第70回記念福島県美術協会展	11月16日～11月24日	福島県文化センター	292名	2,432名
	福島県彫刻会展(第40回記念展)	11月16日～11月24日	福島県文化センター	70名	1,586名
	第30回福島県写真展	12月4日～12月8日	福島県文化センター	341名	2,755名
	第56回福島県合唱コンクール	8月30日～9月1日	須賀川市文化センター外	4,132名	312名
	第40回福島県吹奏楽コンクール	8月2日～8月5日	いわき市市民会館	5,000名	5,343名
	福島県三曲演奏会	10月27日	福島県文化センター	210名	400名
	「現代吟詠のつどい」第19回吟詠大会並びに「真伝白虎隊詩第15回県大会」	10月20日	福島県文化センター	260名	75名
	福島県吟剣詩舞道第36回大会	10月6日	福島県文化センター	110名	150名
	福島県俳句大会	9月29日	福島市 杉妻会館	3,110名	350名
	第50回福島県短歌祭	10月13日	福島県男女共生センター	326名	270名
	詩祭・講演と朗読のつどい	10月6日	福島市 杉妻会館	25名	85名
	第41回県芸術祭川柳大会	10月6日	福島市市民会館	3,120名	130名
	第38回福島県おかあさん合唱祭	10月13日	喜多方プラザ	810名	900名
	ふくしま民謡のつどい2002	11月10日	伊達町ふるさと会館	63名	510名
	福島県書作家連盟第21回展	10月10日～10月13日	福島県文化センター	84名	1,134名
	第42回福島県書道協会展	11月29日～12月1日	福島県文化センター	920名	1,500名
	第30回福島県謡曲大会	11月17日	福島県文化センター	290名	340名
	第19回福島県声楽協会演奏会	11月22日	郡山市民文化センター	10名	400名
	2002福島県洋舞の祭典	9月15日	福島県文化センター	330名	900名
	第26回福島県書道連盟選抜展	9月5日～9月8日	福島県文化センター	503名	2,300名
第28回福島県日本画協会展	9月26日～9月29日	福島県文化センター	223名	564名	
第4回オペラ ガラコンサート	11月9日	福島県文化センター	17名	330名	
計	23 行事				23,626名

参加行事

部門	区分	行事数	参加者(点)数	観覧者数
音	楽	10	4,743	5,995
美	術	19	3,548	26,204
舞	踊	11	964	10,543
そ	の	10	5,929	33,960
計		50	15,184	76,702

(5) 21世紀うつくしまヤングアートフェスタ

高校生の文化活動について、多くの県民がその成果を鑑賞し理解を深める機会とするとともに、中学生を中心とした次期活動世代の文化活動への動機付けをはかることにより、継続的な芸術文化活動の環境整備・充実とこれによる文化の振興を目指して開催した。

主 催

福島県教育委員会、財団法人会津若松文化振興財団、財団法人福島県文化振興事業団

開催日時

平成14年12月15日(日) 13:00～16:45

会 場
會津風雅堂
出 演 者

内郷高等学校演劇部、郡山女子大学附属高等学校マーチングバンド、会津学鳳高等学校なぎなた部、安積黎明高等学校合唱団、福島女子高等学校合唱団、磐城高等学校吹奏楽部、柏村綾香（大沼高等学校・民謡）、鈴木園佳（同）、寺井結子（福島女子高等学校・箏曲）、瓶子真弓（同）、藤井美樹（葵高等学校・司会）、渡部諭（会津学鳳高等学校・司会）

入 場 者
約1,300名

3 芸術鑑賞の機会の確保

家庭劇場

本格的な文化施設を有しない地域の県民のために、優れた舞台芸術を巡回講演して、家族ぐるみで芸術を鑑賞することを奨励し、豊かな家庭づくりを進めるとともに、地域文化の振興に役立てる目的で19か所で開催した。

主 催

福島県教育委員会、(財)福島県文化センター、開催地教育委員会、(財)日本青少年文化センター、(社)日本児童演劇協会

公演内容

古典芸能・舞踊公演

タイトル 日本伝統演劇の笑い「狂言」

公演団体 大蔵流（山本会）山本東次郎・則直・則俊ほか

入場者数 1,295名（4公演）

音楽公演

タイトル アクワバコンサート
～ガーナの熱い鼓動～

公演団体 アクワバ、深井真理

入場者数 2,432名（5公演）

児童劇団公演

タイトル ミュージカル『とべないホテル』

公演団体 劇団ポプラ

入場者数 4,253名（10公演）

4 文化振興基金の充実と活用

県民の文化活動の活発化に伴い、県民一人ひとりが自主的に文化を楽しみ創りだす動きを助長し、県民の間に文化活動が根づくよう文化活動に対する支援を行った。

また、文化活動に関し、優れた成績を収め、本県文化の普及・向上・保存及び伝承に貢献した個人及び団体を表彰した。

(1) 助成状況

種 別	件 数	金 額
成 果 発 表 事 業	87件	8,436千円
発表会等への参加事業	7	1,140
文化団体への事業費	6	7,710
特 認 事 業	2	441
文 化 財 保 護 事 業	1	88
計	103件	17,815千円

(2) 顕彰者

部 門	氏 名
総 合	高 橋 忠 一
美 術	鈴 木 重 男
音 楽	山 崎 信 子
文 学	千 葉 親 之
”	若 松 丈 太 郎

第3節 文化財の愛護と伝統文化の継承

1 文化財保護体制の充実

(1) 指定文化財保護体制の充実（文化財パトロール）

文化財保護の万全を期すため、民間の有識者21名を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その実態把握に努めた。また、この巡視結果に基づいて、市町村教育委員会の協力を得ながら文化財の所有者等に対し指導・助言を行うとともに、文化財保護の啓発普及に努めた。

文化財保護指導委員

教育事務局	担当地区	氏名	所属・職業等
県北	福島	石井宏幸	福島市立岳陽中学校教諭
	伊達	高橋圭次	川俣町文化財保護審議会委員
	安達	阿部正行	福島県立福島東高等学校教諭
県中	郡山	伊藤堯信	郡山地方史研究会会員
	岩瀬	橋本公夫	岩瀬村公民館
	石川	芳賀満	石川町文化財保護審議会委員
	田村	山口晋	三春町歴史民俗資料館学芸員
県南	西白河	溝井力男	福島県県政相談員
	東白川	遠藤仁人	白河市少年センター所長
会津	北会津	長尾修	会津若松ザベリオ学園高等学校教諭
	両沼	五十嵐稔	三島町文化財専門委員
	耶麻西部	佐藤光義	日本考古学協会員
南会津	耶麻北部	山中實	喜多方市文化財保護審議会委員
	耶麻東部	伊藤泰雄	会津史学会理事
南会津	南会東部	佐藤守男	下郷町文化財保護審議会委員
	南会西部	堀金保男	只見町文化財調査委員
相双	相双北部	石原敬彦	相馬市文化財保護審議会委員
	相双中部	門間真一郎	原平市文化財専門委員
	相双南部	山田廣	富岡町文化財専門調査員
いわき	いわき北	中山雅弘	(財)いわき市教育文化事業団
	いわき南	小野佳秀	(財)いわき市教育文化事業団

平成14年度パトロール実施件数

教育事務局	地区	市町村数	パトロール対象箇所数	管内計	パトロール実施件数(年2回)
県北	福島	1	25	73	146
	伊達	9	24		
	安達	7	24		
県中	郡山	1	26	102	204
	岩瀬	5	27		
	石川	7	25		
	田村	5	24		
県南	西白河	7	30	56	112
	東白川	5	26		
会津	北会津	4	23	120	240
	両沼	5	21		
	耶麻西部	4	24		
	耶麻北部	4	28		
南会津	耶麻東部	4	24	36	72
	南会西部	3	18		
相双	相双北部	4	22	68	136
	相双中部	3	24		
	相双南部	7	22		
いわき	いわき北部	1	27	50	100
	いわき南部		23		
計	21	90	505	505	1,010

(2) 文化財保護指導者講習会

趣 旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てる。

期日及び場所

平成14年7月25日(木)～26日(金)

下郷町

内 容

ア 講義内容及び講師

(ア) 「歴史の道について～下野街道を中心に」

郡山女子大学教授 竹川重男

(イ) 「中山風穴地特殊植物群落について」

福島大学名誉教授 櫻村利通

- イ 現地研修
 - 国指定史跡 「下野街道」
 - 国指定天然記念物 「中山風穴地特殊植物群落」
 - 「塔の弟」他

(3) 文化行政担当者会議

趣 旨

県内市町村の文化行政担当者を対象として、職務遂行上必要な事項に関する講習会を実施し、文化財保護等に関する知識を高め、もって文化行政の円滑な推進を図る。

期日及び場所

ア 平成14年5月9日(木)～10日(金)

イ 福島県庁西庁舎12階「講堂」

内 容

- ア 文化財の保存と活用について
- イ 埋蔵文化財関係事務の解説と手続きについて
- ウ 文化財保存事業補助制度について
- エ 福島県文化振興基金について
- オ 文化財登録制度について

2 文化財保存調査の推進

(1) 特別天然記念物カモシカ調査

特別天然記念物カモシカの安定的維持、繁殖のため、その保護地域内において、生息状況、生息環境状況等を調査した。

調査地域

通常調査 越後・日光・三国山系保護地域(只見町、檜枝岐村)

特別調査 朝日・飯豊山系保護地域(福島市、猪苗代町、北塩原村、喜多方市、熱塩加納村、山都町、西会津町)

(2) 文化財指定調査

歴史上、芸術上又は学術上価値の高い文化財の中から重要なものを選定し、指定のための調査を行った。

なお、県文化財保護審議会の答申に基づき、平成14年3月29日付けをもって、次の文化財を県指定重要文化財等として指定した。

平成14年度福島県指定文化財の指定

種 別	名 称	員 数	所 在 の 場 所	所 有 者		
重 要 文 化 財	建 造 物	南泉寺鐘楼門	1棟	南会津郡田島町静川 字西の沢口乙14番地	宗教法人 南泉寺	
	美 術	彫 刻	木造虚空蔵菩薩坐像	1軀	いわき市平下高久字志農田13番地	虚空蔵堂奉賛会
		工 芸 品	鉾形祭具	3本	東白川郡棚倉町大字棚倉 字馬場39番地都々古別神社	宗教法人 都々古別神社
		典 籍	家世実記 附目録 収納箱	277冊 1冊 5合	会津若松市城東町1番25号 福島県立博物館	福島県
	工 芸 財	古 文 書	紺野家文書	1巻 15通	二本松市金色416番15号	紺野健二
		考 古 資 料	大安場古墳出土品 附古墳築造前後の時期の 出土品	一括 一括	郡山市本町一丁目20番22号 郡山市教育委員会 出土遺物収蔵庫	郡山市
	考 古 資 料		流麩寺跡出土 金銀象嵌鉄剣	一口	会津若松市城東1番25号 福島県立博物館	棚倉町
無 形 民 俗 文 化 財	会津大念仏撰取講		喜多方市熊倉町新合 字辻道下581番地 安養寺 耶麻郡塩川町大字三吉 字中ノ目甲56番地 中眼寺 河沼郡湯川村大字勝常 字代舞1764番地 勝常寺	会津大念仏撰取講 保存会		
有 形 民 俗 文 化 財	会津の染型紙と関係資料	一括	喜多方市字柳原7503番地1 喜多方市郷土民俗館	喜多方市		

福島県指定天然記念物の追加指定

種 別	名 称	員 数	所 在 の 場 所	所 有 者
天 然 記 念 物	米沢の千歳ザクラ		大沼郡新鶴村大字米田 字池南43番2	新鶴村

新 指 定 9件 (重要文化財7件、重要無形民俗文化財1件、重要有形民俗文化財1件)

追 加 指 定 1件 (天然記念物1件)

3 埋蔵文化財の保護の充実

(1) 埋蔵文化財保護体制

県土の開発に伴い開発側との事前協議の重要性が高まっている。また、遺跡の保護に対する県民の関心も増加しており、埋蔵文化財保護対策を支える発掘調査体制の充実を図ってきた。県では、(財)福島県文化振興事業団遺跡調査課の体制強化を進めてきており、現在、財団職員36名、派遣職員3名、計39名体制で調査にあっている。

(財)福島県文化振興事業団遺跡調査課職員定数

年度	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2
人員	9	15	20	23	26	26	30	40	44	47	47	55	60
年度	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
人員	60	62	62	62	62	62	62	68	68	76	61	39	

(2) 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」の結果により、事業者と遺跡の保護策を「保存協議」し、現状保存できない場合は、「発掘調査」により調査報告書を作成し「記録保存」することで対応している。

分布調査

開発地内の詳細な分布調査を行い、遺跡の保存協議の資料とするもので、表面調査と試掘調査が行われる。表面調査は阿武隈東道路60ha、一般国道289号南倉沢バイパス路線内1箇所において、試掘調査は、あぶくま南道路線内3箇所、こまちダム内11箇所、常磐自動車路線内22箇所、一般国道6号相馬バイパス路線内4箇所、県営かんがい排水事業相馬第二地区内3箇所、会津縦貫北道路線内1箇所について実施した

保存協議

前年度からの継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を実施した。

阿武隈川右岸築堤、あぶくま南道路、常磐自動車道、一般国道6号相馬バイパス、会津縦貫北道路、こまちダム、県営かんがい排水相馬第二地区、広域農道相馬2期地区、一般国道289号南倉沢バイパスの関係機関、国道・県道の工事事務所等。

発掘調査

県教育委員会では、開発に伴う発掘調査を(財)福島県文化振興事業団に委託し、下記の遺跡につき実施した。

常磐道：後作A遺跡他2遺跡(8,200㎡)、あぶくま南道路：中根館跡他1遺跡(24,100㎡)、一般国道6号相馬バイパス：山中B遺跡(2,200㎡)及び会津縦貫北道路：荒屋敷遺跡(2,100㎡)、一般国道289号南倉沢バイパス：南倉沢遺跡他1遺跡(9,800㎡)である。

また、県内の各市町村における開発事業関連の発掘調査は、市町村教育委員会が実施しているが、遺跡の重要性や調査体制を考慮し、必要に応じ県が指導している。

主なものは、以下である。

	市町村名	遺跡名		市町村名	遺跡名	
県	福島市	宮畑遺跡	会	河東町	金屋・郡山遺跡	
	"	竹ノ森遺跡		猪苗代町	猪苗代城跡	
	飯野町	和台遺跡		喜多方市	山崎横穴群	
	川俣町	川股城跡		"	新宮城跡	
	"	中宮寺跡		塩川町	中屋敷遺跡	
	国見町	奥州道中国見峠長坂跡		会津坂下	陣ヶ峯城跡	
	梁川町	梁川城跡		"	薬王寺跡	
	二本松市	二本松城跡		湯川村	佐野館跡	
	"	箕輪宮坂遺跡			浜崎城跡	
	"	原七笠張遺跡		会津高田	油田遺跡	
北	安達町	一斗内松葉山遺跡	会津本郷	向羽黒山城跡		
	白沢村	太師塚古墳	田島町	行司遺跡		
	郡山市	守山城跡		鴨山城跡		
	須賀川市	矢ノ目遺跡	下郷町	栗林遺跡		
	長沼町	長沼城跡	"	湯野上遺跡		
	船引町	前田遺跡		倉新田遺跡		
	県	白河市	下総塚古墳	相	原町市	泉廃寺跡
		西郷村	大平遺跡		小高町	浦尻貝塚
		表郷村	深江戸東遺跡		浪江町	植畑遺跡
		東村	上野出島遺跡		楢葉町	代遺跡
南		棚倉町	流廃寺跡		いわき	いわき市
	矢祭町	岡野田遺跡				

(3) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

福島県文化財センター白河館文化財研修

平成12年度まで、計28回にわたり、「福島県埋蔵文化財発掘技術者研修会」を実施してきたが、平成13年度からは、財団法人福島県文化振興事業団に委託し、福島県文化財センター白河館文化財研修として実施している。

独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘技術者等研修

研修名称	期日	氏名	所属
木製品調査課程	12月3日～12月11日	遠藤千映美	(財)福島県文化振興事業団
報告書作成過程	1月15日～1月24日	石井洋光	白河市教育委員会
陶磁器調査課程	2月20日～2月26日	笠井崇吉	(財)福島県文化振興事業団
		富田真衛	(財)福島市振興公社

(4) 埋蔵文化財保護普及活動		福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告	14～16
埋蔵文化財調査報告書の刊行		一般国道289号南倉沢バイパス遺跡発掘調査報告	1
福島県内遺跡分布調査報告	9	こまちダム関連遺跡発掘調査報告	1
常磐自動車道遺跡調査報告	34～36	広域農道整備事業相馬2期地区・県営かんがい排水事業	
阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告	2～3	相馬第二地区遺跡発掘調査報告	宿仙木A遺跡
一般国道6号相馬バイパス遺跡発掘調査報告			
会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告	1～2		

平成14年度開発事業に伴う記録作成のための発掘調査件数

(平成14年4月～15年3月)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
農業関係(国・県・団体)	0	3	0	5	0	2	0	10
都市計画等	0	3	0	0	0	0	0	3
道路建設	8	6	2	4	2	11	3	36
河川・ダム・空港	1	2	0	0	0	0	0	3
宅地造成等	0	0	0	0	0	0	0	0
学校建設	1	0	0	0	0	0	0	1
その他の建物	5	3	0	0	0	0	0	8
河川・ダム・空港・港湾・鉄道	0	0	0	0	0	0	0	0
ゴルフ場・土取り	0	0	0	0	0	0	0	0
公園建設等	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	1	0	0	0	3
史跡整備等	0	1	1	2	0	0	0	4
学術調査 (保存目的の調査を含む)	1	2	0	2	0	1	1	7
計	16	21	4	14	2	14	4	75

発掘調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したものの12件、市町村教育委員会が実施したものの63件です。開発に伴う事前協議のための試掘調査は含まれておりません。

(5) 県内の発掘調査等の状況

発掘調査の原因別・地区別の通知等の件数は別表のとおりである。

原因では、道路建設・その他建築物の建設に伴うものが多くを占め、農業関係・都市計画によるものが続く。

埋蔵文化財の発掘調査は、件数・面積とも増加の一途をたどってきたが、全国的に見ると平成9年を境に減少傾向を見せている。県内の調査もここ数年、年度によって差はあるものの同様の傾向を見せている。

また、最近の傾向として開発事業に対応する調査ばかりでなく、遺跡の保存を目的とする事前の調査が行われていることが特徴である。

なお、平成9年から、開発に伴う事前協議のための試掘確認調査件数は集計から除外しているが、全地区で多くの試掘確認調査が行われている。

(6) 平成14年度試掘確認調査及び発掘調査一覧
平成14年度試掘確認調査一覧

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積m ²	時代	種別	調査原因
1	大石団居平遺跡	三島町大石田字居平	三島町	6月17日～6月28日	21	縄文	散布地	道路拡幅
2	向羽黒山城跡	会津本郷町字船場	会津本郷町	11月26日～12月27日	300	中世	城館跡	保存目的
3	中田遺跡	高郷村大字太田字中田	高郷村	10月1日～10月1日	100	奈良・平安	散布地	村道建設
4	佐野館跡	湯川村佐野目字館ノ内	湯川村	7月22日～7月22日	11	中世	城館跡	個人住宅
5	浜崎城跡	湯川村浜崎字北根町	湯川村	11月5日～11月29日	25,800	近世	城館跡	水路改修
6	上田郷遺跡	広野町大字上北ノ字上田郷	廣野町	10月23日～10月25日	388	縄文	散布地	道路建設
7	水ノ木遺跡	滝根町大字神俣字大平	滝根町	11月6日～11月20日	600	縄文	散布地	その他の建物
8	搦手館跡	須賀川市北町	須賀川市	4月22日～4月26日	191	中世	城館跡	道路
9	栄町遺跡	須賀川市栄町	須賀川市	7月12日～7月17日	70	奈良・平安	官衙跡	土地区画整理
10	姥壊遺跡	須賀川市東作	須賀川市	7月9日～7月9日	70	奈良・平安	散布地	店舗
11	仲の町遺跡	須賀川市仲の町	須賀川市	11月25日～11月28日	315	奈良・平安	散布地	店舗
12	猿池遺跡	須賀川町大字仁井田字毘沙	須賀川市	12月17日～12月26日	595	奈良・平安	散布地	農業基盤整備
13	谷地田遺跡	岩代町田沢字谷地田	岩代町	10月22日～11月1日	180	縄文	散布地	道路
14	杉ノ内遺跡	福島市鳥谷野字岩田	福島市	4月8日～4月18日	80	平安	集落跡	店舗
15	腰浜遺跡	福島市腰浜町	福島市	4月25日～5月1日	97	平安	集落跡	道路
16	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市	5月10日～5月28日	132	平安・中世・近世	集落跡	住宅
17	井戸沢遺跡	福島市渡利字吹上	福島市	6月3日～7月3日	211	縄文	集落跡	道路
18	腰浜遺跡	福島市腰浜町	福島市	7月5日～8月28日	685	平安	集落跡	その他の開発
19	猿内館跡	福島市西中央三丁目88-5	福島市	9月27日～10月4日	20	中世	城館跡	個人住宅
20	猿内館跡	福島市西中央三丁目88-4	福島市	9月27日～10月4日	18	中世	城館跡	個人住宅
21	明神山D遺跡	福島市松川町水原字明神山	福島市	10月28日～11月14日	21	奈良	集落跡	その他の開発
22	八乙女A遺跡	福島市松川町水原字八乙女	福島市	10月28日～11月14日	83	奈良	集落跡	その他の開発
23	ニッ石遺跡	福島市鳥谷野字ニッ石	福島市	11月27日～12月2日	38	平安	集落跡	住宅造成
24	大鳥城跡	福島市飯坂町字大門	福島市	1月20日～1月27日	81	中世	城館跡	その他の開発
25	宮代館跡	福島市宮代字日影	福島市	2月24日～3月12日	105	中世	城館跡	住宅造成
26	腰浜遺跡	福島市腰浜町	福島市	3月12日～3月24日	28	奈良・平安	集落跡	個人住宅
27	鹿島神社三重塔遺跡	白河市大字大字鹿島	白河市	7月5日～7月8日	56	近世	社寺跡	その他の建物
28	細倉遺跡	白河市大字借宿字鶴ヶ丘、字鳥居戸、字前田	白河市	7月23日～7月26日	97	縄文・古墳～平安	散布地	道路

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
29	境の明神遺跡	白河市大字白坂字明神、字八竜神	白河市	10月8日～11月22日	142	古代～近世	関跡？	道路
30	萩平遺跡	常葉町大字山根字萩平	常葉町	4月22日～5月2日	127	縄文	散布地	個人住宅
31	大寺城跡	玉川村大字須釜字館坂	玉川村	7月29日	21	中世	城館跡	その他の建物
32	湯野上遺跡	下郷町湯野上字橋詰	下郷町	7月15日～7月17日	211	縄文	散布地	道路
33	栗林遺跡	下郷町中妻字和田前	下郷町	7月17日	106	縄文・弥生	散布地	道路
34	倉新田遺跡	下郷町落合字倉新田	下郷町	7月18日～7月19日	688	縄文	散布地	道路
35	湯野上遺跡	下郷町湯野上字橋詰	下郷町	12月16日～12月18日	142	縄文	散布地	その他の建物
36	笹山原 1遺跡	会津若松市港町大字赤井字笹山原	会津若松市	9月2日～9月13日	72	縄文	散布地	その他の開発
37	笹山原 5遺跡	会津若松市港町大字赤井字笹山原	会津若松市	9月17日～10月11日	60	縄文	散布地	その他の開発
38	名称会津松平氏庭園	会津若松市千石町	会津若松市	9月26日～11月6日	158	近世	庭園	遺跡整備
39	赤井遺跡	会津若松市湊町大字赤井字赤井	会津若松市	10月15日～11月8日	880	平安・中世	散布地	ほ場整備
40	青山館跡	会津若松市湊町大字赤井字赤井	会津若松市	11月11日～11月15日	300	中世	城館跡	ほ場整備
41	向城遺跡	会津若松市湊町大字赤井字赤井	会津若松市	11月18日～11月22日	300	縄文	散布地	ほ場整備
42	若松城郭内武家屋敷跡	会津若松市城前	会津若松市	11月12日～11月15日	122	近世	散布地	その他の建物
43	星内遺跡	大玉村玉井字星内	大玉村	11月26日	19	縄文・奈良	散布地	駐在所建設
44	二子塚遺跡	大玉村大山字二子塚	大玉村	12月18日	12	古墳	散布地	駐車場
45	行屋遺跡	大玉村大山字中ノ沢	大玉村	1月16日	37	弥生・古墳・奈良	散布地	農業用施設建設
46	中村城跡	相馬市中村字北町	相馬市	1月28日～2月26日	100	中世～近	城館跡	社務所兼住宅増築
47	新宮城跡	喜多方市慶徳町新宮字館内	喜多方市	11月19日～3月14日	357	中世	城館跡	保存目的
48	山崎横穴古墳群	喜多方市慶徳町山科字墓東	喜多方市	9月24日～3月19日	10	古墳	横穴	防災保存
49	深渡戸東遺跡	表郷村大字深渡戸字東、字久保	表郷村	11月18日～11月22日	110	弥生～古墳	散布地	農業基盤整備
50	長沼城跡	長沼町大字長沼字日高貝山	長沼町	7月1日～3月31日	300	中世	城館跡	その他の開発
51	根室遺跡	いわき市荷路夫字根室	いわき市	6月18日～7月22日	560	縄文	散布地	道路
52	鬼越遺跡	いわき市好間町下好間字鬼越	いわき市	7月4日	26	古墳～平安	散布地	住宅
53	泉・渡辺町条理制跡	いわき市渡辺町洞字関田	いわき市	7月26日～8月2日	132	中世	散布地	道路
54	小名田遺跡	いわき市植田小名田	いわき市	8月6日～8月20日	84	古墳	散布地	学校建設
55	竹ノ内遺跡	いわき市好間町北好間字上野地	いわき市	10月8日	8	縄文～古墳	散布地	個人住宅
56	牛転古墳	いわき市下高久字牛転	いわき市	10月29日	10	古墳	散布地	個人住宅
57	赤坂遺跡	いわき市小川町上小川字細石赤坂	いわき市	10月28日～10月30日	87	縄文	散布地	その他の開発

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
58	大高江栗条里制跡	いわき市勿来町窪田十条	いわき市	11月1日	34	中世	散布地	工場
59	桂進遺跡	いわき市平中平窪字桂進	いわき市	11月12日	6	中世	散布地	個人住宅
60	井上遺跡	いわき市山田町字井上	いわき市	12月17日	60	弥生～平安	散布地	個人住宅
61	酒井堀ノ内遺跡	いわき市勿来町酒井堀ノ内	いわき市	12月17日	60	縄文～古墳・平安	散布地	個人住宅
62	連郷遺跡	いわき市久ノ浜町久ノ浜字連郷	いわき市	12月26日	20	縄文・弥生	散布地	道路
63	薄磯貝塚	いわき市平薄磯字北街	いわき市	2月5日～2月14日	120	縄文・弥生	貝塚	道路
64	三春城跡	三春町字大町	三春町	4月10日～7月31日	10	中世・近世	城館跡	遺跡整備
65	行司A遺跡	田島町大字行司	田島町	5月13日～5月14日	75	縄文・弥生	散布地	土地区画整理
66	行司B遺跡	田島町大字行司	田島町	11月25日～11月26日	34	縄文・弥生	散布地	土地区画整理
67	鳴山城跡	田島町大字田島字新町	田島町	1月7日～1月15日	272	中世	城館跡	砂防ダム
68	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字堂東	磐梯町	6月6日～6月14日	180	平安～近世	寺院跡	その他の開発
69	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字堂東	磐梯町	8月19日～9月4日	30	縄文・平安～近世	散布地・寺院跡	その他の開発
70	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字元寺上	磐梯町	9月4日～9月6日	48	平安～近世	寺院跡	ガス配管
71	荒神前遺跡	小高町片草字荒神前	小高町	7月5日	80	弥生～平安	散布地	道路
72	浦尻貝塚	小高町浦尻字小上ほか	小高町	3月14日～3月31日	20	縄文～近世	集落・貝塚	保存目的
73	藤倉遺跡	河東町大字倉橋字藤倉	河東町	1月21日～1月21日	225	奈良・平安・中世	散布地	その他の開発
74	泉廃寺跡(18次)	原町市泉字宮前・寺家前	原町市	5月27日～3月31日	1,370	弥生・奈良・平安	官衙跡	保存整備
75	北山古墳群(2次)	原町市下北高平字北山	原町市	5月29日～9月4日	2,353	古墳	古墳	工業団地造成
76	米々沢館跡	原町市米々沢字戸ノ内	原町市	11月20日～12月6日	500	中世	城館跡	県営ほ場整備
77	江井田神塚	原町市江井字九斗蒔	原町市	12月2日～12月4日	60	中世	塚	県営ほ場整備
78	田村館跡	原町市堤谷字根田	原町市	11月25日～2月14日	500	縄文・弥生・平安・中世	城館跡	県営ほ場整備
79	奥州道中国見峠長坂峠	国見町大字大木戸字長坂	国見町	12月9日～2月14日	184	古墳～近世	道跡	農道建設
80	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山中、国見耶麻下	国見町	12月9日～2月14日	50	中世	防塁跡	農道建設
81	南谷地前古墳群	岩瀬村大字柱田字南谷地前	岩瀬村	7月1日～7月31日	436	古墳・奈良	古墳	学校建設
82	昭光寺遺跡	岩瀬村大字柱田字切屋敷	岩瀬村	1月20日～1月25日	30	奈良・平安	散布地	その他の開発
83	谷津遺跡	石川町大字佐双里字谷津	石川町	4月11日～4月30日	500	縄文～中世	散布地	道路
84	三芦城跡	石川町字下泉	石川町	10月29日	25	中世	城館跡	その他の建物
85	亀田遺跡	郡山市下亀田	郡山市	4月9日	80	縄文・古墳・平安	散布地	宅地造成
86	成山館跡	郡山市安積町長久保	郡山市	4月10日	525	中世	城館跡	宅地造成

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
87	西ノ山遺跡	郡山市大槻町字北洞	郡山市	4月23日	14	古墳・平安	散布地	個人住宅
88	大槻城跡	郡山市大槻町字宮ノ前	郡山市	4月24日	11	中世	城館跡	個人住宅
89	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市	4月25日	17	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
90	古垣遺跡	郡山市富久山町久保田字古垣	郡山市	4月26日	9	古墳	散布地	無線基地
91	荒井猫田遺跡	郡山市安積町荒井字南久保	郡山市	5月13日	65	中世	散布地	区画整理
92	向河原遺跡	郡山市向河原町	郡山市	5月14日～6月7日	2,577	縄文・古墳・平安	散布地	商業施設
93	清水台遺跡	郡山市虎丸町	郡山市	5月21日	9	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
94	太郎殿前遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市	5月30日	25	古墳・平安	散布地	商業施設
95	荒井猫田遺跡	郡山市字川向	郡山市	6月21日	47	中世	散布地	区画整理
96	西原遺跡	郡山市富田町墨染	郡山市	7月4日	123	古墳・平安	散布地	宅地造成
97	大根畑遺跡	郡山市名倉	郡山市	7月12日	22	古墳・平安	散布地	宅地造成
98	水上遺跡・跡館	郡山市田村町金屋字宝蔵	郡山市	7月19日～8月7日	29	平安・中世	散布地(城館跡)	個人住宅
99	清水台遺跡	郡山市清水台一丁目	郡山市	9月5日	5	奈良・平安	官衙跡	幼稚園園舎建設
100	雷堂古墳	郡山市安積町笹川字経垣	郡山市	10月4日	26	古墳	古墳	共同住宅
101	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市	11月1日	24	奈良・平安	官衙跡	共同住宅
102	細田遺跡	郡山市富田町字田向	郡山市	11月6日	44	平安	散布地	国有地売却
103	古町・南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市	11月7日	172	古墳・平安	散布地	国有地売却
104	熱海遺跡	郡山市熱海町熱海三丁目	郡山市	11月8日	14	旧石器・縄文	散布地	国有地売却
105	明神町遺跡	郡山市明神町	郡山市	11月13日	26	奈良・平安	散布地	国有地売却
106	安原遺跡	郡山市安原町字谷津	郡山市	11月14日	171	古墳・平安	散布地	特養老人ホーム
107	寺池B遺跡	郡山市日和田町字寺池	郡山市	12月5日	6	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
108	亀田遺跡	郡山市下亀田	郡山市	12月20日	29	縄文・古墳・平安	散布地	個人住宅
109	新屋敷遺跡	郡山市富田町狐塚	郡山市	12月25日	11	奈良・平安	散布地	個人住宅
110	西原遺跡	郡山市富田町字墨染	郡山市	2月25日	112	古墳・平安	散布地	宅地造成
111	大師前遺跡	郡山市富久山町福原字戸屋	郡山市	3月4日	7	平安	散布地	携帯電話基地建設
112	向館跡	郡山市富田町字館南	郡山市	3月11日	50	中世	城館跡	宅地造成
113	館下遺跡	郡山市阿久津町字館下	郡山市	3月12日	28	平安	散布地	阿武隈川築堤関連
114	谷地内遺跡	郡山市大槻町字谷地	郡山市	3月14日	11	弥生	散布地	国有地売却
115	猪苗代城跡	猪苗代町字古城跡	猪苗代町	4月22日～5月27日	39	近世	城館跡	その他の開発

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
116	長坂遺跡	猪苗代町字谷地堀西	猪苗代町	10月21日～11月1日	234	縄文	散布地	農業基盤整備
117	小幡遺跡	本宮町字小幡	本宮町	12月2日	139	奈良・平安	散布地	住宅造成
118	青田館跡	本宮町大字青田字館	本宮町	3月3日	48	中世	城館跡	住宅造成
119	和台遺跡	飯野町大字明治字南和台・北和台・北向・東滝袋	飯野町	10月21日～12月26日	1,132	縄文	集落跡	保存目的
120	男壇遺跡	会津坂下町大字青津字館ノ腰	会津坂下町	4月8日～4月26日	95	古墳・平安	散布地	農道建設
121	薬王寺遺跡	会津坂下町大字船杉字南杉乙	会津坂下町	7月12日～8月27日	66	中世	社寺跡	農道建設
122	陣が峰遺跡	会津坂下町大字字内字五目甲	会津坂下町	9月5日～12月5日	900	中世	城館跡	保存目的
123	神宮寺跡	川俣町字宮前	川俣町	月4日11～4月25日	258	平安～近世	社寺跡	学校建設
124	植畑遺跡	浪江町大字北幾世橋字植畑	浪江町	9月17日～9月19日	48	縄文～平安	散布地	住宅造成
125	代東遺跡	榎葉町大字山田浜字代東	榎葉町	2月18日～3月15日	1,310	縄文～近世	散布地	道路改良
126	薬師堂遺跡	泉崎村北平山字薬師堂	泉崎村	11月8日～11月26日	70	奈良・平安	散布地	農業関係
127	関和久官衙遺跡	泉崎村関和久字明地	泉崎村	1月20日～1月30日	30	奈良・平安	官衙跡	農業関係
128	庭渡神社遺跡	泉崎村関和久字庭渡神社	泉崎村	2月24日～3月7日	20	縄文	散布地	その他の開発
129	関和久官衙遺跡	泉崎村関和久字住吉	泉崎村	2月24日～3月7日	30	奈良・平安	官衙跡・集落跡	保存目的
130	梁川城跡	梁川町字鶴ヶ岡	梁川町	4月8日～4月23日	423	中世～近世	城館跡	学校建設
131	荒屋敷遺跡	塩川町大字遠田字荒屋敷・灰塚・館ノ腰	塩川町	5月16日～5月20日	93	平安・中世	集落跡	農業基盤整備
132	田地ヶ岡館跡	二本松市塩沢一丁目	二本松市	5月20日～5月22日	43	中世	城館跡	個人住宅
133	馬場平遺跡	二本松市塩馬場平	二本松市	8月20日～8月21日	60	縄文・古墳	散布地	個人住宅
134	原遺跡	二本松市館野原	二本松市	1月14日～1月15日	60	奈良～平安	散布地	個人住宅

平成14年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積m ²	時代	種別	調査原因
1	後作 A 遺跡	富岡町大字上手岡字後作	富岡町教委	6月3日～7月30日	1,312	縄文	集落跡	県道建設
2	貝塚西遺跡	新地町小川字貝塚西	新地町教委	6月10日～10月4日	1,560	古墳・奈良・平安	散布地	道路建設
3	油田遺跡	会津高田町油田・沼の上	会津高田町教委	5月13日～12月17日	5,000	縄文～中世	集落跡	農業基盤整備事業
4	沼ノ上遺跡	会津高田町沼の上	会津高田町教委	11月20日～12月4日	500	縄文	集落跡	農業基盤整備事業
5	矢ノ目 A 遺跡	須賀川市大字仁井田字矢ノ目	須賀川市教委	5月23日～8月6日 1月8日～3月20日	5,700	奈良・平安	集落跡	農業基盤整備事業
6	栄町遺跡	須賀川市栄町	須賀川市教委	8月7日～9月20日	950	奈良・平安	官衙跡	土地区画整備
7	矢ノ目 B 遺跡	須賀川市大字仁井田字官田	須賀川市教委	10月15日～11月22日	1,100	奈良・平安	集落跡	農業基盤整備事業
8	太子塚古墳	白沢村糠沢字高松	白沢村教委	6月18日～7月14日	119	平安・中世	墓・寺院跡	道路建設
9	東原 A 遺跡	双葉町大字郡山字東原	双葉町教委	10月24日～12月27日	860	奈良・平安	住居跡	道路建設
10	東西郷内群 横穴墓	双葉町大字山田字東西郷内	双葉町教委	2月4日～3月31日	135	古墳・奈良・平安	横穴	道路建設
11	浜井場古墳群	福島市浜井場	福島市教委	4月8日～6月6日	1,438	縄文・弥生・古墳・平安	古墳	店舗建設
12	二ツ石遺跡	福島市浜井場	福島市教委	4月8日～6月6日	1,438	縄文・弥生・古墳・平安	古墳	店舗建設
13	浜井場遺跡	福島市浜井場	福島市教委	4月8日～6月6日	1,438	縄文・弥生・古墳・平安	古墳	店舗建設
14	腰浜遺跡	福島市腰浜町	福島市教委	4月8日～4月25日	109	平安	集落跡	住宅
15	西ノ向 D 遺跡	福島市飯坂町茂庭字西ノ向	福島市教委	4月15日～11月1日	6,485	縄文	集落跡	ダム建設
16	腰浜遺跡	福島市腰浜町	福島市教委	6月6日～7月30日	212	平安	集落跡	道路建設
17	西川子坂遺跡	福島市大笹生字西川子坂	福島市教委	9月10日～10月30日	542	縄文	集落跡	道路建設
18	鎧塚遺跡	福島市仁井田字上台、下鎌	福島市教委	11月6日～1月17日	952	古墳	集落跡	道路建設
19	下総塚古墳	白河市大字船田字中道	白河市教委	5月29日～1月22日	3,255	古墳	古墳	遺跡整備
20	史跡若松城跡	会津若松市西栄町	会津若松市教委	5月20日～6月18日	239	近世	城館跡	道路整備
21	若松城郭内 武屋敷跡	会津若松市米代一丁目	会津若松市教委	7月15日～8月30日	600	近世	散布地	道路拡幅
22	笹山原 16遺跡	会津若松市湊町大字赤井字笹山原	郡山女子短期大学考古学研究室	8月31日～9月10日	50	旧石器	散布地	学術調査
23	笹山原 27遺跡	会津若松市湊町大字赤井字山合	郡山女子短期大学考古学研究室	9月1日～9月11日	50	旧石器	散布地	学術調査
24	地ノ内遺跡	相馬市日下石字地ノ内	相馬市教委	5月21日～9月13日	2,400	縄文・奈良・平安	集落跡	道路建設
25	舟橋遺跡	保原町大字大泉字舟橋	保原町教委	5月27日～1月21日	3,370	縄文・古墳	散布地	その他の建物
26	舟橋遺跡	保原町大字大泉字舟橋	保原町教委	4月1日～10月31日	1,350	縄文・古墳	散布地	道路建設
27	宮下遺跡	保原町大字城之内	保原町教委	4月1日～12月6日	230	平安	散布地	道路建設
28	大地内 A 遺跡	保原町大字大泉字大地内	保原町教委	4月8日～2月25日	650	古墳	散布地	道路建設

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
29	鉾衝館跡	長沼町大字鉾衝字古館	長沼町教委	2月18日～3月31日	918	中世	城館跡	道路建設
30	入藪B遺跡	いわき市三和町合戸字入藪	いわき市教委	6月24日～9月13日	1,700	縄文	散布地	道路建設
31	根室遺跡	いわき市田人町荷路夫根室	いわき市教委	10月21日～3月20日	3,220	縄文	散布地	道路建設
32	夏井廃寺跡	いわき市平下大越字石田	いわき市教委	10月28日～2月2日	1,030	奈良	寺院跡	保存目的
33	荒田目条里制跡	いわき市平荒田目字大内、菅波字明星	いわき市教委	10月28日～12月27日	1,040	縄文～近世	散布地	道路建設
34	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字戒壇ほか	磐梯町教委	5月20日～12月15日	1,000	縄文・平安～近世	散布地・寺院跡	遺跡整備
35	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字古町	棚倉町教委	1月31日～2月20日	131	近世	城館跡	その他の開発
36	浦尻貝塚	小高町浦尻字西向ほか	小高町教委	5月27日～12月27日	550	縄文～近世	集落跡・貝塚	保存目的
37	荒神前遺跡	小高町片草字荒神前・一里段	小高町教委	9月30日～10月8日	100	弥生・古墳	散布地	道路建設
38	金屋・郡山遺跡	河東町大字郡山字村北	河東町教委	4月1日～3月31日	3,260	奈良～近世	散布地	農業基盤整備
39	郡山遺跡	河東町大字郡山字村北	河東町教委	3月3日～3月31日	299	奈良～近世	散布地	道路拡幅
40	岡野田遺跡	矢祭町大字宝坂字岡野田	矢祭町教委	4月21日～12月13日	1,624	縄文・奈良～平安	集落跡	道路建設
41	下平遺跡	矢祭町大字宝坂字下平	矢祭町教委	4月21日～6月21日	1,500	縄文・奈良～平安	集落跡	道路建設
42	葉王寺遺跡	会津坂下町大字船形字南杉乙	会津坂下町教委	5月13日～8月29日	1,013	中世	社寺跡	道路建設
43	南山ノ下遺跡	会津坂下町大字勝大字南山ノ下・水上・前平	会津坂下町教委	6月17日～9月6日	267	縄文	散布地	農業基盤整備
44	川股城跡	川俣町字池ノ入・新宮	川俣町教委	5月22日～11月21日	3,059	中世・近世	城館跡	道路建設
45	神宮寺跡	川俣町字宮前	川俣町教委	10月2日～10月18日	393	平安～近世	社寺跡	学校建設
46	代遺跡	檜葉町大字井出字代	檜葉町教委	5月21日～7月25日	500	縄文	散布地	道路建設
47	内屋敷遺跡	塩川町大字会知字内屋敷甲、堀込甲	塩川町教委	4月23日～11月1日	8,730	縄文～中世	集落跡	農業基盤整備
48	二本松城跡	二本松市郭内四丁目	二本松市教委	6月5日～8月8日	610	中世～近世	城館跡	保存目的
49	前田遺跡	船引町大字北鹿又字平畑	船引町教委	9月25日～12月6日	1,000	縄文	散布地	保存目的
50	三芦城跡	石川町字当町	石川町教委	10月28日～11月18日	150	中世	城館跡	その他の開発
51	大安場古墳	郡山市田村町大善寺字大安場	郡山市教委	8月9日～2月5日	500	古墳	古墳	保存目的
52	守山城跡	郡山市田村町守山字三の丸	郡山市教委	6月3日～10月31日	2,000	中世	城館跡	保存目的
53	柳橋遺跡	郡山市中田町柳橋字町地内	郡山市教委	4月10日～5月10日	400	縄文	散布地	道路建設
54	荒井猫田遺跡	郡山市字川向	郡山市教委	4月15日～9月13日	5,000	中世	散布地	区画整理
55	大鐮館跡	郡山市富久山町福原字古館	郡山市教委	6月3日～12月20日	7,000	中世	城館跡	道路建設
56	大鐮館跡(2次)	郡山市富久山町福原字古館	郡山市教委	1月14日～3月20日	3,500	中世	城館跡	道路建設
57	八丁目館跡	郡山市日和田町八丁目字小仲島	郡山市教委	10月30日～12月20日	800	中世	城館跡	農業基盤整備

	遺跡名	所在地	調査主体者	試掘確認調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
58	阿良久遺跡	郡山市大槻町字東阿良久	郡山市教委	2月3日～3月28日	1,500	古墳・平安	散布地	区画整理
59	清水台遺跡(23次)	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	4月3日～4月30日	110	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
60	咲田遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	6月3日～7月19日	400	古墳・平安	散布地	個人住宅
61	清水台遺跡(23次)	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	2月25日～3月28日	170	奈良・平安	官衙跡	個人住宅
62	上の町遺跡	原町市上太田字前田・内堀子	郡山市教委	8月23日～11月15日	1,100	縄文	集落跡	県営ほ場整
63	雨沼遺跡	猪苗代町大字磐根字高森	猪苗代町教委	5月7日～9月6日	2,780	縄文	散布地(狩猟)	観光開発
64	後作A遺跡	富岡町上手岡字後作	県教委	4月23日～6月20日	2,500	縄文	散布地	道路建設
65	道平遺跡	大熊町大川原字西平	県教委	9月2日～12月4日	2,400	縄文・平安	集落跡	道路建設
66	上平A遺跡	大熊町大川原字南平	県教委	7月29日～12月24日	3,300	縄文・近世	集落跡	道路建設
67	宿仙木A遺跡	相馬市大字黒木字宿仙木	県教委	5月20日～8月2日	1,004	縄文・弥生・平安・近世	集落跡	農業基盤整備・農道建設
68	南倉沢遺跡	下郷町大字南倉沢字玉家・稲干場	県教委	4月22日～8月2日	3,100	縄文・平安	集落跡	道路建設
69	稲干場遺跡	下郷町大字南倉沢字上風ヶ窪	県教委	5月13日～9月6日	6,700	縄文・弥生	散布地	道路建設
70	仁井殿遺跡	小野町大字雁股田字仁井殿	県教委	4月9日～5月31日	3,000	縄文・平安	集落跡	道路建設
71	中根館跡	平田村大字上蓬田字中根	県教委	5月7日～11月8日	21,100	縄文～近世		道路建設
72	沢目木遺跡	小野町大字雁股字沢目木	県教委	5月27日～7月12日	1,600	縄文・弥生	散布地	ダム建設
73	西田H遺跡	小野町大字菖蒲谷字西田	県教委	6月26日～12月20日	2,700	縄文・弥生	集落跡	ダム建設
74	山中B遺跡	新地町駒ヶ嶺座中山	県教委	7月22日～12月20日 1月14日～3月7日	2,000	近世	生産跡	道路建設
75	荒屋敷遺跡	塩川町大字遠田字荒屋敷	県教委	7月1日～10月31日	2,100	縄文・弥生	集落跡	道路建設

(7) 文化財センター整備事業

平成13年度に策定した「福島県文化財センター安達館(仮称)福島県文化財センター白河館文化財保存研究施設(仮称)基本計画」に基づき、文化財センター安達館(仮称)整備のため協議を行った。

4 平成14年度文化財保存助成の充実

文化財の管理・修理・防災・史跡の公有化及び埋蔵文化財保存調査に対し、次のとおり助成を行った。

(1) 国指定等

(単位：円)

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額			
					総事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	(財)会津民俗館	旧馬場家住宅	重申文	屋根葺替	8,243,000	5,770,000	820,000	1,653,000
建造物保存修理	横山敏彦	旧滝沢本陣横山家住宅	重文	屋根部分修理、桁取替	4,200,000	2,940,000	420,000	840,000
建造物環境保全	(宗)熊野神社	熊野神社長床	重文	危険木の枝払い	1,701,590	1,269,000	140,000	292,590
美術工芸品保存修理	(宗)阿弥陀寺	刺繍阿弥陀名号掛幅	重文	掛幅修復	1,566,950	1,174,000	130,000	262,950
天然記念物緊急調査	田島町	駒止湿原	天然記念物	基礎調査	6,101,957	3,048,000	600,000	2,453,957
史跡等保存管理計画策定	新地町	新地貝塚 附手長明神社跡	史跡	図化調査、計画策定	2,025,768	1,000,000	200,000	825,768
記念物保存修理	(財)須賀川牡丹園保勝会	須賀川の牡丹園	名勝	土地改良、排水溝敷設	26,530,350	13,260,000	2,650,000	10,620,350
"	会津若松市	会津松平氏庭園	名勝	植栽整備	8,498,781	4,244,000	840,000	3,414,781
"	横山敏彦	旧滝沢本陣	史跡	屋根葺替、塀解体修理	8,307,000	5,814,000	490,000	2,003,000
"	磐梯町	慧日寺跡	史跡	発掘調査等	8,346,957	3,915,000	780,000	3,651,957
"	いわき市	白水阿弥陀堂境域	史跡	排水ポンプ改修	7,005,220	3,502,000	700,000	2,803,220
"	下郷町	中山風穴地 特殊植物群落	天然記念物	環境整備、防護柵設置等	13,601,079	6,796,000	1,350,000	5,455,079
"	郡山市	大安場古墳	史跡	発掘調査等	18,838,066	9,375,000	1,870,000	7,593,066
重伝建保存修理	下郷町	大内宿	重伝建	建造物修理、修景	26,193,112	13,087,000	4,000,000	9,106,112
史跡等購入	桑折町	桑折西山城跡	史跡	直接買上げ	77,846,476	62,276,000	3,110,000	12,460,476
"	塩川町	古屋敷遺跡	史跡	直接買上げ	21,360,240	17,088,000	850,000	3,422,240
"	磐梯町	慧日寺跡	史跡	直接買上げ	81,216,745	64,337,000	3,210,000	13,669,745
"	会津坂下町	亀ヶ森・鎮守森古墳	史跡	直接買上げ	8,212,800	6,552,000	320,000	1,340,800
"	いわき市	白水阿弥陀堂境域	史跡	直接買上げ	26,175,108	20,940,000	1,040,000	4,195,108
"	会津若松市	会津藩主松平家墓所	史跡	先行取得計画	6,249,018	4,999,000	250,000	1,000,018
民俗文化財調査	三島町	サイの神	民俗文化財	「サイの神」調査	3,848,846	1,843,000	610,000	1,395,846
国有文化財管理	いわき市	賢沼ウナギ生息地	天然記念物	見回り看視	124,800	99,000	0	25,800
"	新地町	新地貝塚 附手長明神社跡	史跡	見回り看視	136,500	108,000	0	28,500
"	昭和村	駒止湿原	天然記念物	見回り看視	124,800	99,000	0	25,800
指定文化財管理	福島県			防災施設等管理	6,179,137	1,506,000	1,507,000	3,166,137
小計	25件				372,634,300	255,041,000	25,887,000	91,706,300

(2) 指定文化財管理

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額			
					総事業費	国庫補助 (県で受入)	県費補助 (一般財源)	市町村等
指定文化財管理	延命寺	延命寺地藏堂	重文	防災設備保守点 検他	262,000	65,000	66,000	131,000
"	八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	重文	"	231,000	58,000	57,000	116,000
"	願成寺	白水阿弥陀堂	国宝	"	77,000	19,000	19,000	39,000
"	飯野八幡宮	飯野八幡宮本殿	重文	"	643,077	124,000	124,000	395,077
"	円満寺	円満寺観音堂	重文	"	1,294,400	323,000	324,000	647,400
"	熊野神社	熊野神社長床	重文	"	2,424,300	606,000	606,000	1,212,300
"	勝福寺	勝福寺観音堂	重文	"	1,247,360	311,000	311,000	625,360
小計	7件				6,179,137	1,506,000	1,507,000	3,166,137

(3) 埋蔵文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額			
					総事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
発掘調査等	福島市	市内遺跡		発掘調査等	26,793,755	13,396,000	2,000,000	11,397,755
"	飯野町	町内遺跡		発掘調査等	5,258,900	2,600,000	520,000	2,138,900
"	二本松市	市内遺跡		発掘調査等	8,861,875	4,430,000	880,000	3,551,875
"	郡山市	市内遺跡		発掘調査等	20,199,413	9,984,000	1,990,000	8,225,413
"	須賀川市	市内遺跡		発掘調査等	6,374,300	3,185,000	630,000	2,559,300
"	長沼町	町内遺跡		発掘調査等	3,300,608	1,650,000	330,000	1,320,608
"	石川町	町内遺跡		発掘調査等	3,082,783	1,541,000	300,000	1,241,783
"	船引町	町内遺跡		発掘調査等	8,024,875	4,000,000	800,000	3,224,875
"	白河市	市内遺跡		発掘調査等	11,300,063	5,650,000	1,130,000	4,520,063
"	泉崎村	村内遺跡		発掘調査等	1,002,559	500,000	100,000	402,559
"	会津若松市	市内遺跡		発掘調査等	4,815,424	2,400,000	480,000	1,935,424
"	河東町	町内遺跡		発掘調査等	5,414,452	2,700,000	540,000	2,174,452
"	猪苗代町	町内遺跡		発掘調査等	7,601,390	3,800,000	760,000	3,041,390
"	喜多方市	市内遺跡		発掘調査等	3,663,589	1,825,000	360,000	1,478,589
"	塩川町	町内遺跡		発掘調査等	8,002,126	4,000,000	800,000	3,202,126
"	西会津町	内遺跡		発掘調査等	9,440,527	4,535,000	900,000	4,005,527

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額			
					総事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
発掘調査等	会津坂下町	町内遺跡		発掘調査等	10,290,000	5,145,000	1,020,000	4,125,000
"	会津高田町	町内遺跡		発掘調査等	7,800,989	3,900,000	780,000	3,120,989
"	原町市	市内遺跡		発掘調査等	21,545,743	10,700,000	2,000,000	8,845,743
"	小高町	町内遺跡		発掘調査等	13,040,162	6,500,000	1,300,000	5,240,162
"	いわき市	市内遺跡		発掘調査等	18,395,009	9,000,000	1,800,000	7,595,009
"	会津本郷町	町内遺跡		発掘調査等	3,000,092	1,500,000	300,000	1,200,092
出土遺物 保存処	福島市	市内遺跡		上ノ平遺跡出土 遺物	2,000,000	1,000,000	200,000	800,000
小計	23件				209,208,634	103,941,000	19,920,000	85,347,634

(4) 県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額			
					総事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	(宗)八幡神社	涼ヶ岡八幡神社	重文	屋根葺替	8,123,075	0	5,410,000	2,713,075
"	福島市	旧阿部家住宅	重文	屋根葺替	9,135,000	0	4,000,000	5,135,000
美術工芸品 保存修理	(宗)白河ハリス トス正教会	白河ハリストス 正教会のイコン	重文	イコン修復	2,829,120	0	1,880,000	949,120
記念物保存修理	相馬市 教育委員会	中村城跡	史跡	説明板設置	1,470,000	0	730,000	740,000
"	田島町	嶋山城跡	史跡	空堀・井戸柵修繕	2,891,290	0	1,440,000	1,451,290
天然記念物 保護増殖	会津坂下町	天屋の束松	天然 記念物	保護増殖	1,819,780	0	900,000	919,780
"	猪苗代町	達沢大山祇神社 社叢	天然 記念物	保護増殖	1,856,393	0	920,000	936,393
民俗文化財 保存修理	芦沢・堀越 お人形様製 の習俗保存会	磐城街道沿いのオ ニンギョウサマ製 作の習俗	重無民	用具の修理、 伝承者養成等	1,774,875	0	1,180,000	594,875
"	川島弘	旧修験川島家所蔵 修験資料	重有民	神変大菩薩(役 者)像修繕	3,269,750	0	2,170,000	1,099,750
建造物保存修理	(宗)南湖神社	松風亭蘿月庵	重文	半解体修理 (報告書刊行)	802,500	0	530,000	272,500
"	(宗)如法寺	如法寺観音堂 附仁王門	重文	屋根葺替	4,712,700	0	3,140,000	1,572,700
民俗文化財 保存修理	広瀬熊野神社 御田植祭保存会	広瀬熊野神社の御 田植え	重無民	舞台改修	1,022,437	0	680,000	342,437
"	豊景神社太々 神楽保存会	豊景神社の太々神 楽	重無民	概要説明書刊行	903,000	0	560,000	343,000
建造物保存修理	(宗)薬王寺	薬王寺薬師堂	重文	階段手摺・羽目 板修繕	874,129	0	580,000	294,129
小計	9件				41,484,049	0	24,120,000	17,364,049

5 文化財の愛護と公開の推進

- (1) 第44回北海道東北ブロック民俗芸能大会
北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知させるとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

ア 期 日 平成14年11月16日(土) リハーサル
17日(日) 開会式
民俗芸能公開

イ 場 所 花巻市文化会館(岩手県花巻市)

ウ 派遣団体 飯樋町田植踊保存会
「飯樋町の田植踊」

- (2) 三県文化交流事業 - 新潟・福島・山形の民俗芸能まつり
新潟・福島・山形の三県は地勢・気候・歴史等から深い関連を有しており、それぞれの文化の交流を通じてその価値を広く一般に周知し、地域の伝統活動の継承活動を力づけるとともに、ひいては、地域の活性化を醸成し、地域の振興につなげる。

ア 期 日 平成14年10月27日(日)
リハーサル・ワークショップ・民俗芸能公開

イ 場 所 福島テルサ

ウ ワークショップ

テーマ1：三匹獅子舞の基礎知識

テーマ2：民俗芸能の構成と変遷

テーマ3：会津彼岸獅子と越後の獅子舞の比較

テーマ4：脇役の重要性

テーマ5：弓くぐりと火の輪くぐり

講 師：懸田弘訓・大友義助・近藤忠造

- (2) 登録審査会の実施状況

期 日	会 場	鑑 定 数	不 適 格 数	登 録 数	左 の 内 訳	
					刀 剣	銃 砲
5 月 17 日	いわき合同庁舎	52	2	50	50	0
6 月 14 日	郡山合同庁舎	44	3	41	41	0
9 月 6 日	会津若松合同庁舎	33	0	30	30	3
11 月 15 日	郡山合同庁舎	51	2	49	49	0
1 月 17 日	福島県庁合同庁舎	21	3	18	18	0
2 月 14 日	郡山合同庁	37	1	31	31	5
計		238	11	219	219	8

エ 公開演目

豊年獅子舞：小千谷豊年獅子舞保存会 (新潟県小千谷市)
渡戸の獅子舞：渡戸区宿組 (福島県いわき市)
小松豊年獅子舞：小松豊年獅子踊会 (山形県川西町)
小松の彼岸獅子舞：小松彼岸獅子保存会 (福島県北会津村)
箱崎の獅子舞：箱材愛宕神社獅子講中 (福島県伊達町)

- (3) 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間に県庁西庁舎の電光掲示板に表示するなど、県民に対し啓発を行った。

- (4) 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者、管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを作成、配布するなど啓発を行った。

また、各市町村教育委員会において、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

6 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次の通り実施した。

- (1) 登録審査委員

柳沼 盛、鈴木俊一、陣内直史、安堵 学

第11章 スポーツ・健康

第1節 概要

昨年度の本県のスポーツを振り返ってみると、全国高等学校総合体育大会及び第57回国民体育大会における佐藤滋選手（二本松工業高校）と遠藤広大選手（会津工業高校）の2大会制覇や全国高校サッカー選手権大会における福島東高校サッカー部のベスト8入り、アジアジュニア大会等の国際大会における高校生の活躍、さらには陸上競技女子400mHの吉田真希子選手が自ら持つ日本記録を1年間に3度も更新する快挙など、県民に大きな感動と夢や希望を与えてくれた。

さて、社会が急速に変化する中、心身ともに健康な生活を送るためには、正しい生活習慣の定着と豊かなスポーツライフの実現が重要であり、より一層のスポーツの振興とさらなる健康教育の充実が求められている。

スポーツの振興については、うつくしま広域スポーツセンターが設立され、地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成・定着が図られていることは特筆される。また、本県選手の競技力の維持・向上を図るために、ジュニア期から長期的に組織的・計画的な指導を行う「競技力向上総合システム」を構築し、一貫指導体制の確立を図っているところである。さらに、10年後を見据えて県民の誰もがスポーツに親しめる環境づくりや競技者が競技力の向上を目指してスポーツに打ち込むことができる新しいしくみづくりのために、福島県スポーツ振興計画「うつくしまスポーツプラン2010」を策定した。

一方、健康教育の充実・普及につきまちは、平成13年度より「ヘルスプロモーション推進事業」を展開し、「みんなで考えよう いきいき はつらつ ふくしまっこ」を合い言葉に、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んできた。平成15年度は、さらに児童生徒の実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、カルシウム不足や脂肪の過剰摂取などの偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、さらに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動の充実を図るため、体育担当者、運動部活動担当者を対象とした各種研修会や体育実技指導者講習会をはじめ、豊富な指導経験をもつ民間の優れた指導者を学校に派遣する指導協力者派遣事業等を通して指導者の資質の向上と児童生徒の体力及び技能の向上に努めた。

また、学校体育主任研修会を開催し、体力向上のための手立てや生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育

成する学習指導の在り方や評価規準の作成など、今日的な課題の解決法について広く普及に努めた。

さらに、本県児童生徒の体力・運動能力の実態を把握するため体力・運動能力調査を行い、その結果を分析し活用を図るとともに、体力づくりに積極的に取り組んでいる学校を紹介するなど、各学校の実態に応じた体力づくりの推進に努めた。

次に小学校運動競技奨励事業やスポーツエキスパート活用事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに体力・運動能力の向上と運動部活動の活性化に努めた。

生徒のスポーツに関する多様なニーズに応えるため、複数校合同による運動部活動や地域スポーツクラブ等との連携など、1校の枠を超え、地域のあらゆる資源を活用した地域社会との連携について、いわき市を運動部活動地域連携実践地域に指定し実践校を設け、実践研究を行った。

2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育を推進している。

「福島県ヘルスプロモーション推進事業」は、平成13年度より、プロジェクト委員会・健康教育指導者研修会・思春期の児童生徒の悩みに関する支援事業の3つの柱で連絡協議会の支援を受け展開した。プロジェクト委員会は、6つのチームに分かれ健康課題別に学校へ支援策を検討した。健康教育指導者研修会では、県内6箇所（会津・南会津管内は同時開催、参加者914名）で、各校の保健主または健康教育に携わる関係者がヘルスプロモーションの理念や保健主事の役割等について研修を深め、また学校保健委員会の意義や進め方について話し合いを持った。思春期の児童生徒の悩みに関する支援事業は、学校に専門家を派遣し、教員への助言や児童生徒に対し講演会を実施した。

指定校関係では、「歯・口の健康づくり推進指定校」（文部科学省委嘱、平成13年度～平成14年度）として檜葉町立檜葉南小学校、「健康教育総合推進モデル事業」（文部科学省指定、平成13年度～平成15年度）として東和町がそれぞれ研究推進に努めている。

また、日本体育・学校保健センターによる「学校安全に関する研究校」（平成14年度～平成15年度）に富岡町立富岡第二中学校が委嘱を受け、2年間にわたり、研究・実践に取り組んでいる。

さらに、「交通安全実施地域事業」（文部科学省指定、平成14年度～平成15年度）は県立小野高等学校が指定を受け、地域と連携した実践を行っている。

全国で青少年の薬物乱用が懸念されているなか、文部科学省より本県が薬物乱用防止教育支援体制整備活用モデル事業の指定（平成13年度～平成15年度）を受け、福島県薬物乱用防止教育推進連絡協議会を設置して、この普及・啓発や教材作成等を行っており、ヘルスプロモーション事業の実施とともに効果的な活動となってきている。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」と、日本体育・学校健康センター福島県支部の「学校安全優良学校表彰」を行うとともに、これらの顕彰事業の推進によって、自校の健康教育にかかわる課題的確な把握や学校保健・学校安全の推進母体である学校保健委員会の活性化が図られるよう努めた。

3 学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、完全給食は小学校で98.9%、中学校87.7%、ミルク給食は小学校1.1%、中学校で、12.3%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は小学校で2.97回、中学校2.85回、小・中学校計で2.93回の実施となっている。

学校給食費は、一食当たり小学校（中学年）251円90銭、中学校で291円84銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新採用・経験・専門研修会を開催した。

また、児童・生徒の望ましい食習慣を形成するため、食に関する指導の充実を図るとともに、ゆとりある楽しい学校給食とするため、学校食堂・ランチルームや食器具等、食事環境の整備に努めるよう働きかけた。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成9年4月1日付け文部省通知「学校給食衛生管理の基準」の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導のため、単独校調理場73校、共同調理場及び県立学校40施設について、学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

4 生涯スポーツ・競技スポーツの振興

(1) 生涯スポーツ

県民の誰もが、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢、興味・関心、目的等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを実現するため、推進体制の整備 関係団体の育成 指導者の養成・確保と活用 振興事業の拡充を柱として諸施策を推進した。

全国に先駆けて展開した文部科学省委嘱の「広域スポーツセンター育成モデル事業」（平成11年度～13年度）の成果を生かし、「うつくしま広域スポーツセンター事業」を開始し、総合型地域スポーツクラブの育成と定着の支援に努めている。

次に、「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業（県版）」終了市町村に継続支援として「総合型地域スポーツクラブ支援事業」を平成13年度より開始し、4市町村で育成に取り組んでいる。

また、「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業（文部科学省）」を双葉町、飯舘村で実施し、クラブの育成に努めている。

さらに、子どもたちがスポーツの楽しさ、爽快さ、達成感などを体感する機会を豊かにするため、「放課後子どもスポーツ活動活性化モデル事業（文部科学省）」を4市町村で実施し、生涯にわたりスポーツに親しむ基礎を培う場

の提供に努めている。

(2) 競技スポーツ

本県の競技選手が国際大会や各種全国大会において好成績を収めるため、(財)福島県体育協会をはじめ、関係市町村・競技団体等への助成をとおして、

組織の整備・充実

競技スポーツ振興事業の充実

一貫指導体制の確立

ア 競技力向上体制の整備

イ 指導者の養成、確保

ウ 選手の育成・強化

に関する各種事業の推進に努めた。

第2節 表彰

1 体育・スポーツ関係

(1) 文部科学大臣表彰

体育功労者

氏 名	役 職 名
石 田 昭 二 (郡 山 市)	福島県柔道連盟会長
山 本 和 子 (会 津 若 松 市)	福島県なぎなた連盟理事長

社会体育優良団体

スポーツクラブ以外の団体

団 体 名	代 表 者
鮫 川 村 体 育 協 会	藤 田 一 夫 (鮫川村)

スポーツクラブ

団 体 名	代 表 者
福島銀行女子バレーボール部	根 本 勝 司 (福島市)
(株)東邦銀行女子ソフトボール部	佐 藤 誠 一 (福島市)
若草トランポリンクラブ	菅 野 善 八 (福島市)

体育指導委員功労者

氏 名	役 職 名
齋 藤 元 (郡 山 市)	福島県体育指導委員連絡協議会 会長
根 本 重 勝 (表 郷 村)	元福島県体育指導委員連絡協議 会幹事

(2) 福島県教育委員会表彰

保健体育功労者

猪 股 哲 彌 (福島県ソフトテニス連盟副会長)

佐 藤 知 子 (元・福島県薬剤師会理事)

高 谷 雄 三 (福島県テニス協会会長)

羽 金 與 平 (北会津村立北会津中学校等校医)

馬 場 長 成 (元・伊南村体育協会会長)

石 井 久 雄 (福島県野球連盟会長)

功績顕著な団体・施設
日曜ソフトテニスクラブ
伊南村立伊南小学校

(3) 財団法人福島県体育協会表彰
優秀選手賞(個人)

競技名	氏名	所属
陸上競技	吉田 真希子	(財)福島県体育協会
"	松本 真理子	石川町立石川中学校
"	小林 史拓	順天堂大学1年
"	大橋 忠司	国土館大学1年
"	武者 由幸	日本大学1年
"	菅野 卓弥	順天堂大学大学院2年
"	今井 正人	原町高校3年
"	丹野 麻美	郡山東高校2年
"	菅沢 崇裕	聖光学院高校3年
"	内島 真由美	喜多方高校3年
"	三浦 茉莉	福島第三中学校1年
"	関根 真騎	松陽中学校3年
"	吉田 いずみ	平第二中学校3年
"	田嶋 和也	みさか小学校6年
"	山寄 麻子	筑波大学4年
"	松崎 彰徳	東洋大学3年
"	高橋 直之	日本大学東北高校
"	高橋 和也	順天堂大学4年
"	押山 由衣	日本大学東北高校1年
"	添川 隆博	喜多方市立第一中学校3年
"	紺野 可奈子	野田中学校3年
"	渡邊 彩香	船引中学校2年
"	根本 裕美	磐崎中学校3年
ソフトテニス	関根 裕行	天理大学4年
卓球	原 晃	福島第二原子力発電所
"	深谷 亮幸	喜多方東高校
"	岩本 爾郎	二本松第三中学校
"	堤 朱織	郡山東高校1年
"	深谷 由美	福島県卓球協会
"	深谷 純子	郡山ザベリオ学園
"	瓜生 恵美	学童保育園
剣道	田崎 智春	日本大学東北高校
ボート	福地 愛	喜多方商業高校3年
水泳	山口 雅文	会津工業高校3年
"	蛭田 尚宏	湯本第一中学校3年
"	山田 浩平	日立木小学校6年

競技名	氏名	所属
水泳	飯野 陽菜	高倉小学校5年
"	小松 健太	桑野小学校5年
"	穴戸 さつき	保原小学校5年
"	西川 友章	清陵情報高校
"	小林 和真	薫小学校5年
自転車競技	金澤 竜二	学法石川高校2年
"	熊谷 薫	岩瀬農業高校3年
"	圓谷 崇	日本大学4年
"	舟木 誠	東白川農商高校3年
"	小倉 知幸	東北学院大学1年
"	高橋 唯之	昌平高校3年
"	文山 良晃	福島県自転車競技連盟
"	小野 大介	平工業高校3年
ライフル射撃	押味 希生子	まつが丘保育所
バドミントン	斎藤 亘	広野中学校
"	齊藤 清人	小高工業高校
"	平野 泰宏	福島学院短期大学
アマチュアボクシング	遠藤 広大	会津工業高校3年
"	横山 翔大	相馬農業高校3年
"	佐藤 矩彰	福島明成高校3年
弓道	八木 淑絵	福島商業高校3年
体操	佐原 尚樹	会津工業高校3年
スキー	星 なる美	日本女子体育大学3年
馬術	菅野 仁	いわきホースパーク
ウエイトリフティング	黒江 雄治	川俣中学校3年
"	清野 裕司	福島明成高校
レスリング	諏訪間 幸平	クリナップ(株)
"	渡部 悠香	荒海中学校3年
"	渡部 沙織	荒海中学校1年
"	宮田 和幸	クリナップ(株)
フェンシング	草野 広美	中央台北中学校1年
"	今井 祐輔	川俣高校3年
"	今野 勝	専修大学1年
銃剣道	菅野 学	菅原学園専門学校
空手道	新山 恵里波	国土館大学1年
アーチェリー	服部 久美子	日本体育大学3年
なぎなた	田中 厚	一箕中学校3年
"	新田 葵	会津若松市立第二中学校1年
"	田川 三早希	会津若松市立第五中学校3年
ボウリング	伊藤 丈	(株)東北装美

競技名	氏名	所属
ボウリング	鈴木英子	トキコ(株)
カヌー	佐藤 滋	二本松工業高校3年
"	阿部 公貴	安達高校3年
"	大内 百合子	安達高校3年
"	梅原 愛里	安達高校3年
"	高橋 美奈	安達高校3年
"	和田 貴代	安達高校2年
"	嶋原 恵子	筑波大学3年
"	佐藤 絵美	筑波大学2年
"	佐藤 由美子	筑波大学1年

競技名	氏名	所属
カヌー	鉄地川原 歩	大正大学1年
"	吉田 英記	福島大学4年
"	久野 綾香	東和中学校3年
"	菅野 由紀	東和中学校3年
"	和田 藍加	スイミングスクール二本松校
トランポリン	飯塚 あやか	尚志高校2年
"	菅沢 奈緒美	尚志高校2年
車椅子バスケットボール	増子 恵美	障害者スポーツ協会
シッティングバレーボール	田村 正志	(有)オート・テクノ
自転車競技	水澤 耕一	あさか開成高校

優秀選手賞 (団体)

競技名	団体名	成績
陸上競技	田村 高校	男子第52回全国高校駅伝競走大会第4位
"	福島 大学	第71回日本学生陸上競技対校選手権大会女子4×100mR第1位
"	福島 県	第57回国民体育大会秋季大会陸上競技成年少年女子共通4×100mR第4位
"	福島 大学	第86回日本陸上競技選手権リレー競技大会女子4×100mR第1位
"	福島 大学	第86回日本陸上競技選手権リレー競技大会女子4×400mR第1位
"	福島 選抜	第33回ジュニアオリンピック陸上競技大会男子4×100mR第4位
軟式野球	常磐軟式野球スポーツ少年団	高円宮賜杯第22回全日本学童軟式野球大会第2位
"	いわき松風クラブ	第19回全日本少年軟式野球大会第2位
ソフトテニス	福島県女子選抜チーム	第13回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会第2位
卓球	福島 県	平成14年度全国教職員卓球選手権大会第1位
"	福島 県	平成14年度全国教職員卓球選手権大会第3位
"	富久山卓球クラブ	2002年第21回全日本クラブ卓球選手権大会女子5部(小・中の部)第3位
水泳	いわき市立湯本第一中学校	平成14年度全国中学校体育大会第42回全国中学校水泳競技大会男子400mリレー第2位
自転車競技	福島県自転車競技連盟	第37回全国都道府県対抗自転車競技大会4km団体追抜競走第3位
"	福島県自転車競技連盟	第71回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラックレース男子マディソン第3位
"	福島県自転車競技連盟	第71回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラックレース男子4km団体追抜競走第4位
バスケットボール	福島 教員	第32回女子全日本教員バスケットボール選手権大会第3位
バドミントン	福島県一般男子団体	第41回全日本教職員バドミントン選手権大会第2位
弓道	日本大学工学部弓道部	第13回全国大学弓道選抜大会第2位
"	若松女子高校弓道部	第20回全国高等学校弓道選抜大会女子団体第2位
"	福島工業高校弓道部	第20回全国高等学校弓道選抜大会男子団体第3位
体操	福島大学教育学部附属中学校	平成14年度全国中学校体育大会体操競技・新体操選手権大会新体操の部団体第4位
バレーボール	福島銀行女子バレーボール部	平成14年度全国9人制バレーボール実業団女子選手権大会第3位
"	福島 銀行	第57回国民体育大会秋季大会バレーボール競技成年女子9人制第3位
"	福島 選抜男子	JOCカップ第15回全国都道府県対抗中学バレーボール大会第3位
山岳	福島 県	第57回国民体育大会秋季大会山岳競技成年男子総合第1位 縦走第3位
銃剣道	福島県銃剣道連盟	第46回全日本銃剣道優勝大会都道府県連盟の部第1位

競技名	団体名	成績
銃剣道	須賀川支部 A	第33回全日本青少年銃剣道大会団体戦第1位
"	福島チーム	第14回全国高校生銃剣道大会団体戦第2位
"	福島県	第57回国民体育大会秋季大会銃剣道競技少年男子第4位
なぎなた	会津なぎなたスポーツ少年団A	JOCジュニアオリンピックカップ第10回全国中学生なぎなた大会第3位
トランポリン	尚志高等学校トランポリン部	第27回全国高等学校トランポリン競技選手権大会(男子)第2位
"	尚志高等学校トランポリン部	第27回全国高等学校トランポリン競技選手権大会(女子)第3位
綱引	Y P さすがアニキーズ	第4回全日本ジュニア綱引選手権大会男子ユースY1クラス第1位

優秀指導者層

競技名	氏名	所属
陸上競技	川本和久	福島大学教育学部助教授
"	佐藤修一	内郷高校教員
軟式野球	天井正之	いわき市平消防署
"	磯崎邦広	いわき市立泉中学校教員
ソフトテニス	半沢一寛	郡山第一中学校教員
バスケットボール	佐久間仁徳	要田中学校校長
弓道	松本代志博	福島工業高校教員
"	星野重洋	会津学鳳高校教員
体操	笠原聡美	福島大学教育学部附属中学校教員
バレーボール	根本勝司	福島銀行
"	西丸賢	永井中学校教員
山岳	佐藤幸次	福島自衛隊
銃剣道	佐藤亨	福島自衛隊
"	畑中孝平	須賀川支部
"	永井敏政	須賀川高校教員

スポーツ功労賞

所属団体	氏名	市町村名
ソフトテニス連盟	菊地清人	原町市
水泳連盟	大槻良太郎	白河市
バドミントン協会	星雄彦	郡山市
柔道連盟	木村三樹郎	いわき市
ラグビーフットボール	松下雅邦	郡山市
体操協会	伊藤忠芳	郡山市
ソフトボール協会	吉田岳夫	郡山市
県北地域連合	大内光雄	二本松市
会津地域連合	齋藤博	喜多方市
"	新井田六雄	柳津町
相双地域連合	齋藤治巳	原町市
"	石川幸道	原町市

社会体育優良団体賞

競技名	団体名	市町村名
トランポリン	ふえいむくらぶ	郡山市
レスリング	田島レスリングクラブ	田島町
スキー	福島不忘スキークラブ	福島市
柔道	会津若松柔道会	会津若松市

(4) 体育指導委員表彰

(社)全国体育指導委員連合功労者表彰

	支部名	市町村名	氏名
1	安達	二本松市	小林正彦
2	郡山	郡山市	相楽宗廣
3	岩瀬	須賀川市	斎藤節子
4	いわき	いわき市	高木伸勝
5	双葉	大熊町	志賀秀栄

(社)全国体育指導委員連合優良団体表彰

	支部名	市町村名	団体名
1	相馬	相馬市	相馬市体育指導委員会

(社)全国体育指導委員連合30年勤続表彰

	支部名	市町村名	氏名
1	伊達	梁川町	室井賢司
2			遠藤正行
3			幕田芳夫
4	郡山	郡山市	保原町 東城藤吉
5			霊山町 齋藤博幸
6	郡山	郡山市	永山美智子
7			相楽宗廣
8	西白河	白河市	難波平八郎
9	双葉	大熊町	大竹保

東北地区体育指導委員協議会功労者表彰

	支部名	市町村名	氏名
1	福島	飯野町	大内政二
2		川俣町	安田仙松
3	安達	二本松市	二瓶義行
4			菅野力雄
5	郡山	郡山市	青山昭
6	岩瀬	須賀川市	中山豊子
7	石川	石川町	橋本栄一
8	田村	常葉町	早坂光一
9	北会津	猪苗代町	渡部喜則
10	耶麻	喜多方市	深瀬桂子
11		西会津町	渡邊忠
12	両沼	湯川村	高倉好博
13	双葉	双葉町	佐々木清一
14	相馬	原町市	鳥原利美
15		鹿島町	山田喜一郎

福島県体育指導委員連絡協議会功労者表彰

	支部名	市町村名	氏名
1	福島	川俣町	齋藤力夫
2			黒澤敏雄
3			菅野敏
4			丹野正恭
5			高橋義勝
6			佐藤研策
7			作田義夫
8	伊達	国見町	佐藤利光
9		霊山町	斎藤利行
10	安達	岩代町	石川秀記
11			斎藤隆博
12	岩瀬	須賀川市	遠藤弘次
13			佐藤千枝
14			金子光也
15		鏡石町	鈴木常一
16		三春町	増子邦明
17			三瓶清友
18	田村	船引町	鈴木ハツミ
19		大越町	遠藤徳喜代
20		都路村	吉田一巳
21	西白河	西郷村	土屋みどり

	支部名	市町村名	氏名	
22	西白河	表郷村	橋本賢一	
23			渡辺和典	
24			鈴木茂伴	
25		大信村	池澤美子	
26	東白川	矢祭町	佐川昭夫	
27	北会津	会津若松市	猪瀬幹雄	
28			三星芳喜	
29			渡辺芳江	
30		磐梯町	吉田伸一	
31		河東町	大波敏昭	
32			山口博庸	
33	耶麻	喜多方市	安斎聖子	
34		二瓶利博		
35		高郷村	二瓶智子	
36		熱塩加納村	吉田善晴	
37	両沼	会津坂下町	樋剛	
38			平野光一	
39			安部年昭	
40			柳津町	田崎為浩
41			昭和村	菊地昭雄
42	相馬	相馬市	立谷品子	
43		鹿島町	小倉陽一	
44			堀千夏子	
45	双葉	富岡町	千葉梅子	
46		大熊町	渡邊留四郎	
47			藤森優	
48	いわき	いわき市	渡辺国一	

福島県体育指導委員連絡協議会感謝状贈呈

	支部名	市町村名	氏名
1	両沼	柳津町	塩田一恵
2	双葉	広野町	幸森正男

(5) 財団法人日本学校体育研究会連合会表彰
優良校

学校名	学校長名
飯館村立草野小学校	今野哲生
浪江町立苧野小学校	松崎英教

功 労 者

職名	氏 名	学 校 名
校 長	古 川 紘	喜多方市立第一中学校
"	高 野 庄 三	白河市立東北中学校
"	七 島 藤 雄	福島県立安達東高等学校
教 諭	佐 藤 勇	福島県立明成高等学校

(6) 福島県学校体育研究連合会表彰
優 良 校

学 校 名	学 校 長 名
安達町立油井小学校	高 島 現
白河市立みさか小学校	鈴 木 信 正

功 労 者

職名	氏 名	学 校 名
校 長	鷲 健 司	いわき市立高坂小学校
"	樽 川 正 規	郡山市立片平小学校
"	星 幹 男	会津高田町立第一中学校
"	草 野 啓 明	いわき市立江名中学校
"	七 島 藤 雄	福島県立安達東高等学校
教 諭	佐 藤 勇	福島県立明成高等学校
"	佐 川 公 一	福島県立郡山北工業高等学校

2 学校保健・学校安全関係

(1) 文部科学大臣表彰 (3名)

区 分	氏名・学校名	勤務校・校長名
学 校 医	前 田 耕 一	会津若松市立東山小学校
"	蛭 田 親	いわき市立小名浜東小学校
学 校	会津若松市立大戸小学校	山 浦 幸 一

(2) 福島県学校歯科保健優良校表彰 (第45回よい歯の学校表彰)

特別表彰 なし
栄 誉 賞 なし
最優秀賞 5校

校 種	管内	学 校 名	校 長 名
小学校	県中	郡山市立泉小学校	山 川 侑 男
"	"	古殿町立論田小学校	内 田 賢 壽
"	県南	棚倉町立山岡小学校	高 根 勇 次
"	会津	河東町立河東第三小学校	滝 沢 玲 子
"	相双	原町市立太田小学校	只 野 恒 雄

優 秀 賞 20校

小 学 校 (17校)

管 内	学 校 名
県 北	福 島 市 立 御 山 小 学 校
"	福 島 市 立 水 保 小 学 校
"	国 見 町 立 藤 田 小 学 校
"	国 見 町 立 森 江 野 小 学 校
"	月 舘 町 立 小 手 小 学 校
"	岩 代 町 立 百 目 木 小 学 校
"	岩 代 町 立 田 沢 小 学 校
県 中	小 野 町 立 飯 豊 小 学 校
県 南	大 信 村 立 信 夫 第 一 小 学 校
"	大 信 村 立 信 夫 第 二 小 学 校
"	棚 倉 町 立 高 野 小 学 校
"	鮫 川 村 立 西 野 小 学 校
会 津	山 都 町 立 山 都 第 二 小 学 校
"	三 島 町 立 三 島 小 学 校
相 双	原 町 市 立 原 町 第 二 小 学 校
"	浪 江 町 立 請 戸 小 学 校
"	双 葉 町 立 双 葉 北 小 学 校

中 学 校 (2校)

管 内	学 校 名
県 中	玉 川 村 立 須 釜 中 学 校
会 津	高 郷 村 立 高 郷 中 学 校

養 護 学 校 (1校)

管 内	学 校 名
県 中	郡 山 養 護 学 校 小 学 部

努 力 賞 37校

小 学 校 (31校)

管 内	学 校 名
県 北	福 島 市 立 清 水 小 学 校
"	福 島 市 立 鎌 田 小 学 校
"	国 見 町 立 小 坂 小 学 校
"	保 原 町 立 上 保 原 小 学 校
"	二 本 松 市 立 原 瀬 小 学 校
県 中	須 賀 川 市 立 柏 城 小 学 校
"	岩 瀬 村 立 白 方 小 学 校
"	天 栄 村 立 大 里 小 学 校
"	石 川 町 立 石 川 小 学 校

管内	学校名
県中	石川町立沢田小学校
"	石川町立中谷第一小学校
"	玉川村立玉川第一小学校
"	平田村立永田小学校
"	古殿町立田口小学校
"	滝根町立広瀬小学校
"	船引町立中山小学校
県南	棚倉町立社川小学校
会津	塩川町立塩川小学校
"	山都町立山都第一小学校
"	山都町立山都第三小学校
"	高郷村立高郷第一小学校
"	高郷村立高郷第二小学校
"	湯川村立勝常小学校
南会津	舘岩村立舘岩小学校
"	舘岩村立上郷小学校
"	只見町立明和小学校
相双	葛尾村立葛尾小学校
いわき	いわき市立平第三小学校
"	いわき市立郷ヶ丘小学校
"	いわき市立泉小学校
"	いわき市立渡辺小学校

中学校(5校)

管内	学校名
県北	岩代町立旭中学校
県中	須賀川市立稲田中学校
県南	白河市立白河中央中学校
"	白河市立東北中学校
いわき	いわき市立立川部中学校

養護学校(1校)

管内	学校名
県中	郡山養護学校中学部

(3) 平成14年度(第42回) 歯科衛生図画・ポスター・習字コンクール表彰
最優秀入賞者

図画の部

小学校1年	会津若松市立城南小学校	目黒未佳子
小学校2年	滝根町立滝根小学校	先崎 祐真
小学校3年	鹿島町立真野小学校	桑折奈々恵
小学校2年	会津養護学校竹田分校	坂本 江平

ポスターの部

小学校4年	郡山市立橋小学校	荒井 大樹
小学校5年	会津高田町立尾岐小学校	川島 佑太
小学校6年	河東町立河東第三小学校	鈴木 陽花
中学校1年	塙町立塙中学校	下重 香
中学校2年	鮫川村立鮫川中学校	矢吹 尚美
中学校3年	西郷村立西郷第二中学校	緑川亜沙美
小学校4年	会津養護学校竹田分校	吉原 大地

書写の部

小学校1年	白河市立白河第二小学校	下重 利奈
小学校2年	白河市立白河第二小学校	兼子 堯大
小学校3年	郡山市立小原田小学校	佐々木幸奈
小学校4年	二本松市立二本松南小学校	松本かすみ
小学校5年	白河市立五箇小学校	高橋 真未
小学校6年	会津若松市立謹教小学校	原 碧
中学全学年	郡山市立安積中学校	櫻村 理恵

標語の部

小学校6年	郡山市立小原田小学校	石井 歩
小学校2年	会津養護学校竹田分校	小椋 咲

(4) 福島県学校保健会表彰

学校保健優良学校(1校)

管内	学校名	校長名
県北	二本松市立原瀬小学校	笠井 宏

学校保健功労者(14名)

職種	氏名	勤務校
学校医	佐久間 正	二本松市立二本松第一中学校ほか
"	齋藤 淳	県立喜多方高等学校
"	高橋 照孝	田島町立荒海小学校ほか
"	佐久間 鳳陽	郡山市立高倉小学校ほか
"	齋藤 浩哉	東和町立下太田小学校ほか
"	菊池 源二	鏡石町立第一小学校ほか
"	山尾 昭二	いわき市立平第一中学校
学校歯科医	穴田 哲也	富岡町立富岡第二小学校ほか
学校薬剤師	二宮 隆	下郷町立檜原小学校ほか
"	鈴木 周則	高郷村立高郷中学校ほか
"	都筑 洋子	会津若松市立第四中学校ほか
養護教諭	吉田 ヨシ	福島市立清水中学校
"	白鳥 クニ子	県立福島工業高等学校
"	梅宮 とも子	会津高田町立旭小学校

学校保健会感謝状（6名）

職 種	氏 名	勤 務 校
学 校 医	入 澤 優 氏	前喜多方市立入田付小学校
"	比 佐 重 信	前いわき市立湯本第二中学校
学校薬剤師	植 田 ミ ツ	前須賀川市立柏城小学校
養護教諭	渡 辺 セ ン	前 県立四倉高等学校
"	真 壁 妙 子	前郡山市立守山小学校
評 議 員	櫻 井 勇 二	いわき市立錦小学校

(5) 学校安全優良学校表彰（日本体育・学校センター福島県支部）

管内	学 校 名	園長及び校長名
県 中	須賀川市立和田幼稚園	諸 橋 恒 夫
"	三春町立沢石小学校	堀 越 正 文
会 津	県立田島高等学校	鈴 木 久 重

3 学校給食関係

(1) 文部科学大臣表彰
学校給食優良学校等

学 校 及 び 共 同 調 理 場 名	校 長 名
只 見 町 立 朝 日 小 学 校	星 弥 生
大 熊 町 立 大 熊 中 学 校	鈴 木 恵 一

学校給食功労者

職 種	氏 名	勤 務 校
文部科学技官	早 川 幸 子	福島大学教育学部附属小学校

(2) 財団法人福島県学校給食会長・福島県学校給食研究会会長表彰

学校給食優良団体

団 体 名	校長(所長)名
郡 山 市 立 安 積 第 三 小 学 校	石 本 治
塙 町 立 常 豊 小 学 校	陣 野 英 壽
北会津村学校給食センター	加 藤 明 男

学校給食功労者

職 種	氏 名	勤 務 先
主任栄養技師	橋 本 恵美子	郡山市立安積第一小学校
"	野 中 憲 子	会津若松市立城西小学校
技 能 員	金 成 光 子	いわき市立川部小学校

第3節 学校体育

1 学校体育関係各種講習会

(1) 東部地区学校体育指導者中央講習会

企 画
文部科学省
実 施
独立行政法人教員研修センター、秋田県教育委員会、
秋田市教育委員会

期 日
平成14年5月21日(火)～24日(金)

会 場
秋田県児童会館劇場、秋田県立体育館他
参加都道県
北海道、東北、関東の15都道県

参加者数
本県より15名

(2) 東部地区学校体育指導者中央講習会福島県中央講習会

主 催
福島県教育委員会、福島市教育委員会
期 日

平成14年6月6日(木)

会 場
国体記念体育館、福島市武道館、福島体育館、信夫ヶ
丘競技場、福島市庭球場

参加者数
78名

(3) 小・中学校体育実技指導者講習会

主 催
福島県教育委員会

期 日
平成14年6月～9月までの1日～2日間

会 場
各教育事務所ごとに会場を設営

各教育事務所ごとの実施状況
平成14年度学校体育実技指導者講習会（派遣事業）実績報告

管内	種 目 (学校種)	期 日	会 場	参加者		講 師			
				小学校	中学校	教員	派遣	他	計
県北	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	8月19日(月)	福大附属小学校・福島体育館	123		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	8月19日(月)	福島体育館・福島市武道館・福大附属小学校		42	5			5
県中	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	9月5日(木)	郡山総合体育館・開成山陸上競技場	53		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	9月5日(木)	郡山総合体育館		49	5			5
県南	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	7月4日(月)	棚倉中学校	50		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	7月4日(月)	棚倉中学校・棚倉町体育館		17	5			5
会津	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	8月30日(金)	鶴ヶ城体育館・会津陸上競技場	84		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	9月2日(月)	あいづ総合体育館・あいづ総合体育館テニスコート		34	5			5
南会津	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	7月2日(火)	田島小学校	16		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	7月2日(火)	田島中学校		11	5			5
相双	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	8月23日(金)	原町市スポーツセンター	50		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	8月23日(金)	原町市勤労者体育センター・原町市スポーツセンター		38	5			5
いわき	(小) 基本の運動・体づくり運動・陸上運動・ボール運動	8月29日(木)	いわき市立総合体育館	57		4			4
	(中) 体づくり運動・バスケットボール・ソフトテニス・柔道・ダンス	8月29日(木)	いわき市立総合体育館		34	5			5

(4) 学校体育主任研修会

主 催

福島県教育委員会

期日、会場、参加者数

管内	期 日	会 場	参 加 者 数			
			小学校	中学校	高 校	合 計
県北	10月1日(火)	福島県自治会館	122	43	18	183
県中	10月10日(木)	須賀川市文化センター	83	35	24	142
県南	9月5日(木)	白河地域職業訓練センター	49	17	11	77
会津	10月15日(火)	新鶴村公民館	82	38	22	142
南会津	10月22日(火)	田島町中央公民館	17	11	0	28
相双	9月4日(水)	原町市福祉会館	51	24	15	90
いわき	9月3日(火)	県いわき合同庁舎・いわき建設会館他	73	44	18	135

(5) 女子体育実技指導者研究会 (ダンス)

主 催

福島県教育委員会、福島県女子体育連盟、福島市教育委員会

期 日

平成14年8月1日(木)、2日(金)

会 場

福島市国体記念体育館

参 加 者

幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学・一般	合 計
25	99	34	13	46	217

2 各種研究指定校

運動部活動地域連携実践事業 (文部科学省)

(1) 指 定 年 度

平成14年度～平成16年度

(2) 実 践 地 域

いわき市 (いわき市教育委員会)

(3) 研究テーマ

ア 複数校合同による、運動部活動の在り方・進め方

イ 学校の運動部活動と地域スポーツクラブ等との連携の在り方・進め方

ウ 学校体育・スポーツにおける武道指導の充実と進め方

(4) 実践中心校および実践協力校

校 種	実践中心校	校 長 名	実践協力校	校 長 名	研 究 テ ー マ
高 校	小 名 浜 高 校	星 和 久	いわき海星高校	浜 口 保 夫	研究テーマ、ア・イ・ウに関すること
中 学	三 和 中 学 校	草 野 正 徳	三 阪 中 学 校	白 井 健 雄	研究テーマ、イに関すること。 山間小規模中学校の運動部活動活性化のための地域との連携の在り方・進め方
			差 塩 中 学 校	丹 野 展 彦	
			永 井 中 学 校	林 要 治 朗	

3 福島県高等学校体育連盟

(1) 平成14年度福島県高等学校体育連盟役員

役 職 名	氏 名 (所 属 名)
顧 問	鈴木勝枝 (10 代会長) 飯島 護 (12 代会長)
	小松原 格 (14 代会長) 折笠常弘 (15 代会長)
	早川俊一 (16 代会長) 齋藤 久 (18 代会長)
	砂子田敦博 (19 代会長) 杉原睦雄 (20 代会長)
	高城俊春 (21 代会長) 斎藤和也 (22 代会長)
	花井宣明 (県スポーツ健康課長)
参 与 会 長	陸 勤 (7 代理事長) 鈴木正一 (8 代理事長)
	高橋充雄 (9 代理事長) 関川正道 (10 代理事長)
	浅尾晃左 (11 代理事長) 菅野一治 (12 代理事長)
副 会 長 (地区会長)	古市孝雄 (福島高校長)
	七島藤雄 (安達東高校長) 三瓶昌久 (郡山東高校長)
	山田耕一郎 (会津学鳳高校長) 小野孝雄 (磐城桜が丘高校長)
片平俊夫 (相馬女子高校長)	
理 事 長	渡辺正昭 (福 島)
副 理 事 長	田中寿彦 (福 島 明 成)
常 任 理 事	遠藤 均 (スポーツ健康課指導主事) 古川清春 (福 島 西)
	瀬田川広行 (川 俣) 渡辺郁子 (郡 山 萌 世)
理 事 県常任理事 地区理事長 地区副理事長 地区生徒理事	田中寿彦 (福 島 明 成) 小俣宏之 (福 島 女 子)
	北村啓一 (保 原) 相場正伸 (福 島 北)
	上野 覚 (聖 光 学 院) 須藤亜未 (福 島 西)
	星 保 男 (郡 山 北 工) 高橋千昭 (郡 山 東)

役 職 名		氏 名 (所 属 名)	
理事 県常任理事 地区理事長 地区副理事長 地区生徒理事	県南	千葉 信夫 (須賀川 桐陽) 大柿 直子 (須賀川 桐陽)	薄 貴 (白 河 旭)
	会津	矢部 則夫 (会津学鳳) 下村 保伸 (喜多方工業)	白岩 格 (会津工業) 田中 彰夫 (若松第一)
	いわき	英 勲 (磐城桜が丘) 遠藤 幸輝 (小名浜)	若松 功 (磐城) 後藤 由希子 (磐城桜が丘)
	相双	堀川 直人 (原 町) 山家 勝憲 (相 馬)	埴 賢二 (相馬女子) 嵐 裕一郎 (原 町)
監事	(2名)	目黒 壽一 (磐城農業高校長) 吉田 浩美 (原 町)	
会長指名理事	(1名)	遠藤 均 (県スポーツ健康課指導主事)	
幹事	(3名)	菊池 由喜男 (福島商業) 佐々木 勝宏 (福島北)	阿曾 一寛 (福島)
(財)福体協理事	(1名)	古市 孝雄 (福島高校長)	
同評議員	(5名)	渡辺 正昭 (福島) 矢部 則夫 (会津学鳳) 堀川 直人 (原 町)	星 保男 (郡山北工) 英 勲 (磐城桜が丘)
(財)全国高体連評議員	(2名)	古市 孝雄 (福島高校長) 渡辺 正昭 (福島)	

(2) 第48回福島県高等学校体育大会日程・会場

開催地区	種目名	日 程				会 場	参加人数
		6/1(土)	6/2(日)	6/3(月)			
県	1 陸上競技	5月24日(金)~27日(月)				信夫ヶ丘競技場	1,551
	2 バスケットボール			◇	あづま総合体育館 福島西高校 成蹊女子高校 福島東高校	928	
	3 相 撲				福島市営相撲場	30	
	4 柔 道			◇	福島体育館	460	
	5 ウェイトリフティング				福島明成高校	38	
	6 フェンシング				福島商業高校	32	
北	7 登 山	5月29日(水)~6月1日(土)				吾妻山系	234
	8 カヌー競技				東和町阿武隈漕艇場	28	
	9 水 泳 [競 泳]	6月22日(土)~24日(月)				福島市中央市民プール	432
県	10 バレーボール			◇	郡山総合体育館 帝京安積高校 郡山北工業高校 郡山高校	1,181	
	11 ソフトボール			◇	男：石川町 石川町民グラウンド 石川高校 女：東村 21世紀の森運動公園グラウンド	678	
	12 ハンドボール			◇	本宮町総合体育館 本宮体育館 白沢村総合体育館	490	
	13 自転車競技 [ロード]				西郷村小田倉台上の周回コース	67	
	14 ホ ッ ケ ー				ルネサンス棚倉ホッケー場	55	
南	15 ア ー チェリ ー				三春町貝山地区多目的広場	40	
	16 水 泳 [飛込み]	7月9日(火)~10日(水)				郡山市カルチャーパークプール	7
	17 ス ケ ー ト	スピード：12月7日(土)~8日(日) フィギュア：12月8日(日)				スピード：県郡山スケート場 フィギュア：磐梯熱海アイスアリーナ	14

開催地区	種目名	日程				会場	参加人数	
		6/1(土)	6/2(日)	6/3(月)				
会津	18	ソフトテニス			⊔	会津総合運動公園テニスコート	650	
	19	バドミントン			⊔	あいづ総合体育館	410	
	20	弓道			⊔	会津藩校日新館弓道場	517	
	21	空手道				会津工業高校	105	
	22	体操	体操競技			⊔	鶴ヶ城体育館	155
			新体操			⊔	男：鶴ヶ城体育館 女：会津学鳳高校	
	23	ボート				県営茨野漕艇場	82	
	24	レスリング				田島高校	41	
	25	なぎなた				葵高校	18	
26	スキー	15年1月13日(月)～15日(水)				アルペン：台鞍山スキー場 クロカン：公認七入距離コース ジャンプ：米沢市御成	99	
いわき	27	サッカー	5月25日(土)～27日(月)決勝:29日(水)			いわきグリーンフィールド・多目的広場 平工業高校 勿来工業高校 磐城高校	320	
	28	テニス			⊔	いわき市平庭球場	403	
	29	卓球			⊔	いわき市立総合体育館	561	
	30	ボクシング	5月31日(金)～6月2日(日)			磐城第二高校	27	
	31	自転車競技 [トラック]	6月5日(水)～6日(木)			いわき市平競輪場	67	
	32	ヨット				いわきサンマリーナ	21	
	33	軟式野球	7月22日(月)～24日(水)			小名浜野球場	114	
	34	ラグビーフットボール	11月2日(土)～4日(月)決勝:9日(土)			いわきグリーンフィールド	267	
相双	35	剣道			⊔	原町高校	480	
	36	馬術	5月25日(土)～26日(日)			原町市馬事公苑	67	
	37	駅伝競走	10月16日(水)			原町市雲雀ヶ原陸上競技場	610	
特殊専門部	定時制・通信制	6月8日(土)～9日(日)			郡山萌世高校 郡山総合体育館 郡山庭球場 ふるさとの森スポーツパーク体育館・野球場	457		

4 福島県中学校体育連盟

(1) 平成14年度福島県中学校体育連盟役員

役職名	氏名	所属名
会長	松本 真	郡山三中
副会長	丹治 光雄	二本松一中
"	染谷 安彦	若松一中
"	大楽 睦彦	白河二中
"	尾形 忠吉	郡山七中
"	吉野 純一	小名浜一中
"	佐藤 英男	小高 中
理事長	佐藤 信行	野田 中
理事	宗形 俊二	県スポーツ健康課
"	渡辺 洋司	北信 中
"	武田 光弘	若松 一中

役職名	氏名	所属名
理事	鏡 味厚志	白河二中
"	長 沼 政美	郡山一中
"	草野 史郎	小名浜一中
"	佐藤 禮司	原町三中
監事	浅野 テル子	西根 中
"	渡部 正彦	塩川 中
"	鈴木 常武	表郷 中
顧問	石田 富夫	前会長
事務局員	菅野 義広	東和 中

(2) 第45回福島県中学校体育大会

競技種目	競技場	期日	参加人数
陸上競技	開成山陸上競技場	7月9日～11日(火～木)	1,407
水泳競技	いわき市民プール	7月22日～24日(月～水)	4,902
飛込競技	郡山カルチャーパークプール	7月9日～10日(火・水)	
体操競技	押切川公園体育館	7月23日～24日(火・水)	
新体操	鶴ヶ城体育館	〃	
軟式野球	牡丹台球場、岩瀬グリーン球場、開成山球場、日和田球場	7月22日～24日(月～水)	
ソフトボール	双葉町総合グラウンド	7月23日～24日(火・水)	
バスケットボール	白河市中央体育館、泉崎中学校体育館	〃	
バレーボール	小野町町民体育館・三春町民体育館他	〃	
ソフトテニス	会津総合運動公園庭球場	〃	
卓球	大熊町総合体育館	〃	
バドミントン	あいづ総合体育館	〃	
サッカー	21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・多目的広場他	7月22日～24日(月～水)	
ハンドボール	福島市国体記念体育館、あづま総合体育館	7月23日～24日(火・水)	
相撲	安達町ふれあいスポーツの里相撲場	〃	
剣道	二本松市城山総合体育館	〃	
柔道	いわき市立総合体育館	〃	
駅伝競走	原町市馬事公苑周辺コース	10月8日～9日(火・水)	506
スキー	猪苗代スキー場他	1月15日～17日(水～金)	503
スケート	郡山スケート場	12月7日～8日(土・日)	13

5 学校教育指導員

委員

〈公立小・中学校〉

管内	教委名	氏名	職名	所属校
県北	福島市	丹治 秀樹	教諭	福島三小
〃	白沢村	宮崎 泰	教諭	白沢中
〃	二本松市	松浦 敏子	養護教	二本松二中
県中	三春町	作田 恭一	教諭	沢石中
〃	郡山市	鈴木ひろ子	養護教	郡山六中
県南	表郷村	加藤 正行	教諭	表郷小
〃	白河市	高橋 良子	養護教	白河中央中
会津	喜多方市	樋口 喜敬	教諭	喜多方一小
〃	北塩原村	菅沼 一正	教諭	裏磐梯中
〃	喜多方市	田中 淑子	養護教	喜多方二中
南会津	只見町	遠山 眞一	教諭	明和中
〃	館岩村	阿久津美紀子	養護教	館岩中
相双	鹿島町	伏見 康弘	教諭	真野小
〃	原町市	鶴崎はま子	養護教	石神二小

管内	教委名	氏名	職名	所属校
いわき	いわき市	平子 宗司	教諭	平四小
〃	いわき市	松本 和子	養護教	田人中

〈県立高等学校校〉

氏名	職名	所属校
鈴木 公一	教諭	郡山商業高等学校
浜津 信哉	教諭	郡山高等学校
山内 淳一	教諭	喜多方高等学校
土屋 勝	教諭	遠野高等学校
田邊 眞佐子	養護教	福島明成高等学校
久保田 なほみ	養護教	郡山高等学校
三橋 玲子	養護教	若松女子高等学校
佐藤 祐子	養護教	双葉高等学校
笹原 和子	養護教	磐城桜が丘高等学校
景山 祐子	養護教	郡山養護学校

6 小学校運動競技奨励事業

- (1) 対象
小学校 4・5・6年
- (2) 実施期間
14年6月～10月
- (3) 奨励種目
陸上競技会
50m走(4年)
100m走(5・6年)
走り幅跳び
走り高跳び
ボール投げ(ソフトボール1号)
4×100mリレー
水泳競技会
50m平泳ぎ
50mバタフライ
50m背泳ぎ
50m自由形
100m自由形
4×50mリレー
- (4) 実施の状況

項目	種目	陸上競技会	水泳競技会
	実施市町村		89市町村
参加児童数		26,537人	11,935人

第4節 学校保健・学校安全

1 学校保健・学校安全研修会等

事業名	期 日	会 場	参加人数
新規採用 養護教諭 研修	校外研修 ・グループ 研修A(6 日間) ・グループ 研修B(2 日間) 宿泊研修 前期 6月10日(月) ～12日(水)	各教育事務所の計 画による 各市町村教育委員 会の計画による 磐梯青年の家	11名
	後期 11月27日(月) ～29日(水)	教育センター	
養護教諭 経験者 研修	校外研修 (2日間) 宿泊研修 10月2日(水) ～4日(金)	各教育事務所の計 画による 教育センター	10名

事業名	期 日	会 場	参加人数
養護教諭 経験者 研修	校外研修 (2日間) 宿泊研修 10月30日(水) ～11月1日(金)	各教育事務所の計 画による 教育センター	46名
養護教諭 経験者 研修	9月4日(水) ～6日(金)	教育センター	16名
健康相談 活動支援 体制整備 事業「健康 相談活動指 導者研修会」	8月5日(月) ～6日(火)	飯坂町あづま荘	30名
ヘルスプロ モーション 推進事業 健康教育 指導者会 研修会	6月26日(水)	福島県自治会館	192名
	6月10日(月)	郡山ユラックス熱海	263名
	6月4日(火)	白河地域職業訓練 センター	89名
	6月3日(月)	会津大学	153名
	6月13日(水)	原町市福祉会館	82名
	6月5日(水)	いわき市庁舎	135名

2 児童・生徒の健康管理費補助

(1) 要保護・準要保護児童・生徒医療費補助

県立学校及び市町村立学校の当該児童生徒のうち、学校保健法施行令第7条に定める疾病に罹患しているものについて、下記のとおり治療費を補助した。

県立学校

当該校数	要保護	準要保護	疾病名	補助金
2校		2人	う歯	10,281円

市町村立学校

治療延べ数	所要医療総額	補助金
1,697人	12,687,424円	4,707,000円

- (2) 公立小・中学校児童・生徒健康増進特別事業費補助
児童生徒の健康増進に資するため、補助金を交付し、へき地学校心臓検診事業を実施した。
へき地学校心臓検診事業

市町村名	事業費	補助率	補助金
会津若松市	104,370円	1/3	27,000円
郡山市	138,180	1/3	37,000
いわき市	303,975	1/3	81,000
南郷村	82,320	1/3	22,000
只見町	154,350	1/3	41,000
金山町	60,270	1/3	16,000
鮫川村	148,680	1/3	39,000
川内村	85,260	1/3	23,000
葛尾村	54,390	1/3	14,000
飯舘村	233,730	1/3	63,000

3 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、教職員結核健康診断、教職員健康診断を実施した。

(1) 教職員結核健康診断結果

校種別	受診者数	要精検者数	要精検者率
県立学校 (教育庁を含む)	5,206	41	0.8

(2) 教職員健康診断結果

県立学校職員（盲・聾・養護学校、教育庁を含む）
健康診断実施状況の内訳

性別	区分	受診者数	要 注 意 者 数		要 精 密 検 査 者 数	
			人 数	%	人 数	%
35 歳 以 上	男 子	2,542	735	28.9	1,509	59.4
	女 子	1,004	276	27.5	532	53.0
	計	3,546	1,011	28.5	2,041	57.6
35 歳 未 満	男 子	1,133	410	36.2	263	23.2
	女 子	1,096	309	28.2	302	27.6
	計	2,229	719	32.3	565	25.3

要精密検査の内訳

検査項目	胃がん		血 圧		心 電 図		眼 底		血 中 脂 質		肝 機 能	
	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	0	3,032	2,218	3,526	0	3,488	0	3,441	2,215	3,507	2,215	3,507
要精密検査者数	0	320	26	414	0	142	0	102	96	520	144	474
%	0	10.6	1.2	11.7	0	4.1	0	3.0	4.3	14.8	6.5	13.5

検査項目	尿		腎 機 能		血 糖		貧 血		大 腸 が ん		聴 力	
	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	2,197	3,501	2,215	3,507	2,215	3,507	2,215	3,507	0	3,143	2,213	3,503
要精密検査者数	297	553	37	90	18	171	53	110	0	214	28	281
%	13.5	15.8	1.7	2.6	0.8	4.9	2.4	3.1	0	6.8	1.3	8.0

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

4 福島県学校保健会

(1) 会 員

県内小・中学校及び高等学校の児童生徒
学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(2) 財 政

平成14年度予算額 7,247,235円

(3) 事業概要

学校保健講習会の開催（県内21支部単位）
第27回福島県養護教諭研究大会の開催
学校保健優良学校・学校保健功労者表彰
各種研究大会、講習会等への派遣
刊行物の発行

ア 安全ガイドブック 小学校用 13,711部
中学校用 29,213部
イ 学校保健会報 第33号
ウ 健康教育の手引き

5 日本体育・学校健康センター

(1) 加入状況

平成14年度の加入児童生徒数は345,446人で、学校種別については下記のとおりで前年度に比べ6,981人減少した。
加入学校等は、私立の幼稚園に若干の未加入園があるが、小学校、中学校、高等学校、保育所及び公立の幼稚園は全て加入した。

児童生徒も、一部の長期欠席者等を除き全員加入している。

なお、学校健康センターに加入している全設置者が、「免責特約」を付け契約の更新を行っている。

(2) 災害共済給付状況

平成14年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、17,274件（H13年度17,426件）、給付金額では230,898,700円である。

給付件数では7,429件増加し、給付金額では2,350,943円増加した。

なお、災害共済給付状況の詳細は次表のとおりである。

(3) 平成14年度災害共済給付状況

区 分	加入者数 (除要保護者)	医 療 費 (負傷・疾病)				障 害 見 舞 金		死 亡 見 舞 金		供 花 料		合 計		13年度との比較 (増 減)		
		災害件数 給付件数	給付額	発生 率	平均 給付額	給付 件数	給付額	給付 件数	給付額	給付 件数	給付額	給付 件数	給付額	給付 件数	給付額	
小 学 校	人 134,664 134,112	件 6,339 9,244	円 60,681,107	% 4.73	円 9,575	件 5	円 9,655,000	件	円	件	円	件 9,249	円 70,348,107	件 317	円 32,439,709	
中 学 校	74,601 74,242	6,657 10,766	83,352,830	8.97	12,521	7	19,185,000	1	25,000,000			10,774	127,537,830	79	31,877,276	
高 等 学 校	全 日 制	75,623	3,330 6,331	77,857,544	4.40	23,381	7	11,500,000	1	25,000,000	2	340,000	6,341	114,697,544	184	23,301,955
	定 時 制	1,077	22 40	840,877	2.04	38,222						40	840,877	8	471,185	
	通 信 制	1,824	1 2	5,004	0.05	5,004							2	5,004	0	101,497
高等専門学校	1,016	22 61	923,186	2.17	41,963			1	25,000,000			62	25,923,186	1	25,514,148	
幼 稚 園	33,476	641 878	4,247,166	1.76	7,223							802	4,247,166	36	962,583	
保 育 所	23,165 23,022	262 378	2,978,986	1.14	11,370							378	2,978,986	30	552,192	
A 合 計	345,446 344,392	17,274 27,700	230,898,700	5.00	13,408	19	40,340,000	3	75,000,000	2	340,000	27,648	346,578,700	197	1,609,057	
B 13年度合計	352,427 351,438	17,426 20,271	233,249,643	4.96	13,385	12	61,550,000	3	50,000,000	1	170,000	20,287	344,969,643			
比較(A - B)	6,981 7,046	205 7,353	2,350,943	0.04	23	7	21,210,000	0	25,000,000	1	170,000	7,361	1,609,057			

- (備考) 1. 医療費の件数欄中上段の数字は、災害発生件数である。
2. 発生率 = 災害発生件数 ÷ 加入児童・生徒等の数 (要保護児童・生徒を除く) × 100
3. 平均給付額 = 給付額 ÷ 災害発生件数
4. 医療費には、へき地通院費を含む。

障害事故 (障害別)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	計
歯 牙 障 害	1	3	5	9
醜 状 障 害	2	2		4
視 力 障 害	1	2	1	4
神 経 の 障 害			1	1
聴 力 障 害	1			1
計	5	7	7	19

死亡事故 (死亡別)

区 分	突 然 死	事 故 死	疾 病
中 学 校			1
高 等 学 校		1	
高 等 専 門 学 校	1		
計	1	1	1

(4) 学校安全普及充実事業

学校安全優良学校の表彰（前掲）

学校安全研究学校の委嘱

富岡町立富岡第二中学校

刊行物の発刊

ア 支部機関誌「学校安全48号」

イ 新入学児童の保護者向け「災害共済給付のしおり」

各種研修会等への講師派遣

(2) 学校安全に関する研究校（日本体育・学校健康センター委嘱）

研究指定校 富岡町立富岡第二中学校

研究期間 平成14～15年度

研究主題 的確に判断し、安全な行動ができる生徒の育成

(3) 健康教育総合推進モデル事業（文部科学省）

研究指定校 東和町

研究期間 平成13～15年度

研究主題 児童生徒の健康的な生活習慣の形成

(4) 交通安全実践地域事業（文部科学省）

研究指定校 小野高校

研究期間 平成14～15年度

研究主題 地域と一体となった交通安全教育推進の在り方

6 保健・安全に関する研究推進校の指定

(1) 歯・口の健康づくり推進校の指定（文部科学省：日本学校歯科医師会委嘱）

研究指定校 榑葉町立榑葉南小学校

研究期間 平成13～14年度

研究主題 自分を見つめ、明るくたくましく生きる児童の育成

第5節 学校給食

1 学校給食実施状況

平成14年5月1日現在の学校給食の形態別実施状況は、次のとおりである。

(1) 学校数（児童生徒数）

学校種別	教 育 事務所別	学 校 数 (児童生徒数)	完 全		ミ ル ク		合 計	
			学 校 数	比 率 %	学 校 数	比 率 %	学 校 数	比 率 %
小 学 校	県 北	123 (30,617)	112 (29,218)	91.1 (95.4)	11 (1,399)	8.9 (4.6)	123 (30,617)	100.0 (100.0)
	県 中	156 (35,986)	156 (35,986)	100.0 (100.0)			156 (35,986)	100.0 (100.0)
	県 南	51 (10,215)	51 (10,215)	100.0 (100.0)			51 (10,215)	100.0 (100.0)
	会 津	86 (17,738)	85 (17,646)	98.8 (99.5)	1 (92)	1.2 (0.5)	86 (17,738)	100.0 (100.0)
	南 会 津	24 (2,018)	24 (2,018)	100.0 (100.0)			24 (2,018)	100.0 (100.0)
	相 双	51 (12,886)	51 (12,886)	100.0 (100.0)			51 (12,886)	100.0 (100.0)
	い わ き	77 (22,769)	77 (22,769)	100.0 (100.0)			77 (22,769)	100.0 (100.0)
	県 計	568 (132,229)	556 (130,738)	97.9 (98.9)	12 (1,491)	2.1 (1.1)	568 (132,229)	100.0 (100.0)
中 学 校	県 北	43 (16,838)	37 (14,681)	86.0 (87.2)	6 (2,157)	14.0 (12.8)	43 (16,838)	100.0 (100.0)
	県 中	64 (19,967)	57 (18,085)	89.1 (90.6)	7 (1,882)	10.9 (9.4)	64 (19,967)	100.0 (100.0)
	県 南	18 (5,733)	18 (5,733)	100.0 (100.0)			18 (5,733)	100.0 (100.0)
	会 津	38 (10,214)	28 (5,746)	73.7 (56.3)	10 (4,468)	26.3 (43.7)	38 (10,214)	100.0 (100.0)
	南 会 津	11 (1,100)	8 (632)	72.7 (57.5)	3 (468)	27.3 (42.5)	11 (1,100)	100.0 (100.0)
	相 双	24 (7,202)	24 (7,202)	100.0 (100.0)			24 (7,202)	100.0 (100.0)
	い わ き	44 (12,061)	44 (12,061)	100.0 (100.0)			44 (12,061)	100.0 (100.0)
	県 計	242 (73,115)	216 (64,140)	89.3 (87.7)	26 (8,975)	10.7 (12.3)	242 (73,115)	100.0 (100.0)

(2) 米飯給食の週当たり実施回数 (加重平均)

教育事務所	学 校 数			児 童 生 徒 数		
	小 学 校	中 学 校	小・中計	小 学 校	中 学 校	小・中計
	回	回	回	回	回	回
県 北	3.25	3.24	3.25	3.15	3.22	3.18
県 中	3.07	2.75	2.98	3.03	2.63	2.90
県 南	3.00	3.06	3.01	3.00	3.11	3.04
会 津	3.03	3.14	3.06	2.83	2.95	2.86
南 会 津	3.29	3.88	3.44	3.29	3.42	3.32
相 双	3.20	3.21	3.20	3.14	3.19	3.16
い わ き	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
平 均	2.97	2.85	2.93	2.86	2.79	2.84

(米飯給食は、昭和58年以降全ての完全給食実施校で実施されている。)

2 学校給食に関する研修会

名 称	開催月日	会 場	参加人員
学校給食担当者会議	5月20日	建設技術センター	118名
新規採用 学校栄養職員研修	校内 1～2学期 各15日	所 属 校 ・ 勤務共同調理場	2名
	校外 1～2学期 13日	管 内 校 ・ 勤務共同調理場他	
	宿泊 6月10日 ～12日	磐 梯 青 年 の 家	
	宿泊 7月8日 ～12日	県 教 育 セ ン タ ー	
学 校 栄 養 職 員 経 験 者 研 修	校外 各4日	先輩栄養職員在職校	9名
	宿泊 7月3日 ～4日	県 教 育 セ ン タ ー	
学 校 栄 養 職 員 専 門 研 修	宿泊 10月23日 ～24日	県 教 育 セ ン タ ー	18名
新任学校給食 主任研修会	5月27日	県 庁 東 分 庁 舎	36名
	5月28日	県いわき合同庁舎	50名
	5月30日	須賀川アリーナ	44名
	6月10日	ユースピアゆがわ	34名

3 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実に役立たせるため実施する。

教育事務所	調 査 件 数
県 北	10件
県 中	29件
県 南	9件
会 津	7件
南 会 津	3件
相 双	5件
い わ き	12件
合 計	75件

4 学校給食費

区 分	1人1食 単価 (円)	1人平均 月額 (円)	年間実施 回数	備 考
小 学 校 (低学年)	251.88	4,216	184	
小 学 校 (中学年)	251.90	4,224	184	
小 学 校 (高学年)	251.99	4,219	184	
中 学 校	291.84	4,808	181	

5 学校給食に関する研究指定地域

(1) 研究事項

効果的な衛生管理体制の在り方について実践的な調査研究とその成果の普及

(2) 研究期間

3年間

(3) 指定地域

管内	地域名	研究主題	指定年度	研究内容
県南	大信村	国	H12～14	効果的な衛生管理体制の在り方について実践的な研究を行う。

6 学校給食関係補助金の事業実績

(1) 公立学校施設整備費補助金（学校給食施設整備費）

学校給食法第7条第1項の規定に基づく補助金の交付状況は、次のとおりである。

ドライシステム化推進事業 単独校調理場施設

設置者名	学校又は共同調理場名	児童生徒数	公立学校施設整備費補助金				附帯施設	
			構造	事業費総額			事業費総額	
				面積	金額	国庫補助金額	金額	国庫補助金額
郡山市	芳賀小学校	732		m ²	円	円	円	円
郡山市	安積第三小学校	444					2,352,000	500,000
郡山市	日和田小学校	461					2,350,950	500,000
郡山市	富田東小学校	679					2,350,950	500,000
郡山市	朝日ヶ丘小学校	625					892,500	446,000
郡山市	柴宮小学校	810					892,500	446,000
郡山市	芳山小学校	304					2,310,000	500,000
須賀川市	小塩江小学校	100	R	96	21,463,584	3,077,000	1,362,900	250,000
計	8件				21,463,584	3,077,000	14,862,750	3,642,000

ドライシステム化推進事業 共同調理場施設

設置者名	学校又は共同調理場名	児童生徒数	公立学校施設整備費補助金				附帯施設	
			構造	事業費総額			事業費総額	
				面積	金額	国庫補助金額	金額	国庫補助金額
郡山市	中学校給食センター	5,460		m ²	円	円	円	円
会津若松市	小金井給食センター	1,201	R	483	129,916,857	64,958,000	48,666,282	8,722,000
浪江町	津島地区学校給食共同調理場	159					730,800	401,000
計	3件				129,916,857	64,958,000	57,534,582	10,123,000

ドライシステム化推進事業 学校給食施設更新（単独校）

設置者名	学校又は共同調理場名	児童生徒数	公立学校施設整備費補助金				附帯施設	
			構造	事業費総額			事業費総額	
				面積	金額	国庫補助金額	金額	国庫補助金額
須賀川市	小塩江小学校	100	R	m ²	円	円	円	円
相馬市	中村第一中学校	462					2,455,950	516,000
計	2件				15,203,372	4,982,000	5,604,900	856,000

衛生管理強化事業 単独校調理場

設置者名	学校又は 共同調理場名	児童 生徒数	公立学校施設整備費補助金			
			構造	事業費総額		
				面積	金額	国庫補助金額
郡山市	芳山小学校	304		7,193,550	2,333,000	
郡山市	御館中学校	107		6,958,350	2,319,000	
相馬市	中村第一中学校	462		8,850,450	2,333,000	
計	3件			23,002,350	6,985,000	

衛生管理強化事業 共同調理場

設置者名	学校又は 共同調理場名	児童 生徒数	公立学校施設整備費補助金			
			構造	事業費総額		
				面積	金額	国庫補助金額
郡山市	中学校給食センター	5,460		21,507,150	7,169,000	
富岡町	富岡町学校給食センター	1,659		14,502,600	4,834,000	
計	2件			36,009,750	12,003,000	

学校食堂施設

設置者名	学校又は 共同調理場名	児童 生徒数	公立学校施設整備費補助金			
			構造	事業費総額		
				面積	金額	国庫補助金額
川俣町	川俣小学校	264	S	94,850,700	19,831,000	
川俣町	川俣南小学校	205	S	105,067,200	22,707,000	
計	2件			199,917,900	42,538,000	

- (2) 要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金（学校給食費）
学校給食法第7条第2項第1号及び第2号の規定に基づく補助金の交付状況は、次のとおりである。

対象児童生徒数			設置者が 保護者に 援助した額	補助金 確定額
区分	小学校	中学校		
完給 全食	6,332	3,106		
ミルク 給食	22	358		
計	6,354	3,464	429,997,579	96,329,000

- (3) 高等学校定時制及び通信制教育振興奨励費補助金（夜食費）
「高等学校定時制及び通信制教育振興奨励費補助金交付要綱」第1条の規定に基づく補助金の交付状況は、次のとおりである。

学校数	生徒数(延べ)	国庫補助金額	備考
校	人	円	1人1食当たり
6	100,624	2,536,000	76円15銭

第6節 生涯スポーツ・競技スポーツ

1 社会教育主事（スポーツ担当）の市町村派遣

派遣社会教育主事（スポーツ担当）の制度は、昭和50年度から文部省（社会体育指導者派遣事業）と県が、市町村の求めに応じて派遣する社会教育主事のうち、地域社会における生涯スポーツの振興に関する事項を専門的に担当する者の給与等を補助し、市町村社会体育行政組織の整備充実を図り、生涯スポーツ行政及び指導体制の確立を促進しようとするものである。

なお、平成10年度より文部省の社会体育指導者派遣事業は廃止されたが、県は派遣を継続している。

平成9年度以降の派遣者は、次の通りである。

平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
中條雅彦 (国見町)	中條雅彦 (国見町)	佐藤幸英 (安達町)	吾妻仁 (岩代町)	吾妻仁 (岩代町)	吾妻仁 (岩代町)
佐藤幸英 (安達町)	佐藤幸英 (安達町)	柳沼徹 (常葉町)	永瀬功一 (長沼町)	伊藤勝彦 (東和町)	伊藤勝彦 (東和町)
福本隆 (白沢村)	永瀬功一 (長沼町)	永瀬功一 (長沼町)	宗形俊二 (小野町)	宗形俊二 (小野町)	菅野卓弥 (玉川村)
佐藤勝久 (浅川町)	佐藤勝久 (浅川町)	宗形俊二 (小野町)	菅野卓弥 (玉川村)	菅野卓弥 (玉川村)	渡邊康一 (大信村)
柳沼徹 (常葉町)	柳沼徹 (常葉町)	木村真一 (鮫川村)	坂内光太郎 (東島村)	荒井孝祐 (中島村)	黒川誠 (熱塩加納村)
国井裕一 (都路村)	坂内光太郎 (東島村)	坂内光太郎 (東島村)	荒井孝祐 (中島村)	渡邊康一 (大信村)	齋藤浩幸 (三島町)
東城正幸 (泉崎村)	東城正幸 (泉崎村)	荒井孝祐 (中島村)	渡邊康一 (大信村)	荒川洋樹 (北会津村)	宗田昌史 (田島町)
阿部幸雄 (矢祭町)	木村真一 (鮫川村)	小椋裕 (北塩原村)	黒川誠 (熱塩加納村)	黒川誠 (熱塩加納村)	芦野孝彦 (富岡町)
木村真一 (鮫川村)	小椋裕 (北塩原村)	鈴木力雄 (昭和村)	荒川洋樹 (北会津村)	齋藤浩幸 (三島町)	佐藤信一 (新地町)
小椋裕 (北塩原村)	高畑健一郎 (金山町)	荒川洋樹 (北会津村)	鈴木力雄 (昭和村)	宗田昌史 (田島町)	高橋勝美 (葛尾村)
栗城磐 (西会津町)	鈴木力雄 (昭和村)	樋口亨 (館岩村)	中山芳文 (檜枝岐村)	小杉誠 (双葉町)	
高畑健一郎 (金山町)	樋口亨 (館岩村)	中山芳文 (檜枝岐村)	佐藤信一 (新地町)	佐藤信一 (新地町)	
樋口亨 (館岩村)	中山芳文 (檜枝岐村)	武山弘 (飯館村)	高橋勝美 (葛尾村)	高橋勝美 (葛尾村)	
武山弘 (飯館村)	武山弘 (飯館村)	小杉誠 (双葉町)	小杉誠 (双葉町)	芦野孝彦 (富岡町)	
14人	14人	14人	14人	14人	10人

2 スポーツ団体の状況

(1) 財団法人福島県体育協会(平成13・14年度)役員一覧

役職名	氏名	備考	役職名	氏名	備考
会長	佐藤栄佐久	福島県知事	常務理事	白石豊	福島大学教育学部内
副会長	宮森栄介	花春酒造(株)	理事	瀬戸孝則	福島市役所内
"	猪俣昭洲	(株)会津磐梯CC	"	太田豊秋	太田豊秋後援会内
"	岩本忠夫	双葉町役場内	"	遠藤淑子	
"	古市孝雄	県立福島高校内	"	橘政弘	
"	望木昌彦	県議会議員	"	平石家治	須賀川市体育協会
専務理事	花井宣明	県教育庁スポーツ健康課	"	関根正男	医療法人関根医院
常務理事	本宿尚	公立藤田総合病院	"	林幸夫	林合名会社
"	大内進	(株)ホテル安達屋	"	五十嵐源一郎	
"	宗形守敏	(株)モリヨシ	"	佐藤昌志	
"	武藤敏治	東和町役場内	"	鈴木武男	県議会議員
"	結城勝夫		"	瓜生信一郎	県議会議員
"	菅野一治	県立福島工業高校内	監事	福島進	(社)県銀行協会
"	荒川信郎		"	宮崎登	(株)東北装美
"	松本真	郡山第三中学校内	"	宮内和夫	桑折町役場内

(2) 財団法人福島県体育協会加盟団体の登録状況

競技団体

団 体 名	登録人数	団 体 名	登録人数	団 体 名	登録人数
福島陸上競技協会	2,769	弓 道 連 盟	2,967	アイスホッケー連盟	168
野 球 連 盟	21,949	ラグビーフットボール協会	1,290	ボウリング連盟	225
ソフトテニス連盟	6,761	体 操 協 会	1,127	ゴ ル フ 連 盟	373
テ ニ ス 協 会	2,729	ス キ ー 連 盟	1,012	カ ヌ ー 協 会	88
サ ッ カ ー 協 会	11,949	ス ケ ー ト 連 盟	59	ゲ ー ト ボ ー ル 協 会	10,875
ハンドボール協会	1,155	馬 術 連 盟	105	少 林 寺 拳 法 連 盟	1,041
卓 球 協 会	9,587	ソフトボール協会	5,871	ト ラ ン ボ リ ン 協 会	71
剣 道 連 盟	9,629	バレーボール協会	14,933	オリエンテーリング協会	212
ボ ー ト 協 会	188	ウエイトリフティング協会	73	パワ ー リ フ テ ィ ン グ 協 会	12
水 泳 連 盟	1,481	レスリング協会	117	ダ ン ス ス ポ ー ツ 連 盟	874
自 転 車 連 盟	134	フェンシング協会	68	武 術 太 極 拳 連 盟	431
ホ ッ ケ ー 協 会	167	山 岳 連 盟	362	綱 引 連 盟	82
相 撲 連 盟	342	銃 剣 道 連 盟	971	ト ラ イ ア ス ロ ン 協 会	216
ライフル射撃協会	59	ク レ ー 射 撃 協 会	66	グ ラ ウ ン ド ゴ ル フ 協 会	4,088
バスケットボール協会	14,296	セ ー リ ン グ 連 盟	48	野 球 協 会	777
バドミントン協会	2,157	空 手 道 連 盟	1,480	テ コ ン ド ー 協 会	139
アマチュアボクシング連盟	105	ア ー チェリ ー 協 会	179	パ ウ ン ド テ ニ ス 協 会	527
柔 道 連 盟	4,703	な ぎ な た 連 盟	233	ハ ン グ グ ラ イ デ ィ ン グ 連 盟	145
				合 計	141,465

市町村体育協会

	市町村名	加盟状況	
		加盟団体数	加入者数
1	福島市	1,156	
11	二本松市	24	47,425
18	郡山市	584	2,302
19	須賀川市	201	14,526
36	白河市	193	4,111
55	会津若松市	355	3,050
60	喜多方市	194	5,440
76	いわき市	825	2,999
85	相馬市	182	11,583
86	原町市	170	5,029
2	飯野町	29	3,320
3	川俣町	62	627
4	桑折町	69	1,293
5	国見町	46	1,281
6	梁川町	46	667
7	保原町	86	955
8	伊達町	45	1,439
9	霊山町	49	738
10	月舘町	26	785
12	安達町	65	382
13	本宮町	118	1,124
14	岩代町	98	1,645
15	東和町	29	1,506
20	鏡石町	53	638
21	長沼町	35	1,039
24	石川町	110	505
25	浅川町	38	1,520
26	古殿町	18	491
29	三春町	86	986
30	船引町	109	1,467
31	常葉町	43	1,654
32	大越町	50	501
33	滝根町	49	648
34	小野町	147	853
37	矢吹町	91	2,080
44	棚倉町	21	1,161
45	塙町	98	1,899
46	矢祭町	48	1,338
48	田島町	97	915
49	下郷町	38	1,581
50	只見町	13	940
56	猪苗代町	80	650
57	磐梯町	31	1,530
59	河東町	54	446
61	塩川町	44	853
62	山都町	40	520
63	西会津町	10	970

	市町村名	加盟状況	
		加盟団体数	加入者数
67	会津坂下町	90	1,333
68	柳津町	49	752
70	会津高田町	41	872
71	会津本郷町	13	283
72	三島町	10	423
73	金山町	7	727
77	富岡町	18	555
78	浪江町	115	1,643
79	広野町	13	179
80	檜葉町	27	553
81	双葉町	58	675
82	大熊町	50	1,025
87	小高町	13	366
88	鹿島町	78	1,396
89	新地町	43	758
16	白沢村	72	1,380
17	大玉村	52	987
22	岩瀬村	48	904
23	天栄村	5	405
27	玉川村	65	978
28	平田村	83	1,177
35	都路村	22	255
38	西郷村	65	1,205
39	表郷村	50	791
40	東村	37	1,042
41	泉崎村	16	254
42	大信村	43	506
43	中島村	30	522
47	鮫川村	12	138
51	南郷村	11	742
52	伊南村	25	391
53	舘岩村	19	419
54	檜枝岐村	3	109
58	北会津村	18	311
64	熱塩加納村	17	278
65	北塩原村	19	454
66	高郷村	32	482
69	湯川村	17	272
74	新鶴村	8	202
75	昭和村	7	370
83	川内村	12	297
84	葛尾村	9	193
90	飯舘村	55	658
県合計		6,145	139,266
県平均		68.3	1,564.8
合計	市	3,884	99,785
	町	2,261	39,481
	村	855	15,864

福島県スポーツ少年団登録状況

(平成15年2月28日現在)

市町村名	団数	指導者数	団員数	市町村名	団数	指導者数	団員数	市町村名	団数	指導者数	団員数					
県北支部				県南支部				南会津支部								
1	福島市	151	589	3,888	36	棚倉町	16	75	483	69	田島町	16	151	618		
2	飯野町	8	36	169	37	塙町	8	45	249	70	下郷町	10	83	334		
3	川俣町	16	65	309	38	矢祭町	3	9	72	71	舘岩村	3	29	147		
4	桑折町	11	59	276	39	鮫川村	4	40	124	72	伊南村	1	7	75		
5	伊達町	7	31	219	40	白河市	25	129	714	73	檜枝岐村	1	1	37		
6	国見町	8	34	166	41	西郷村	14	58	316	74	南郷村	5	80	328		
7	梁川町	16	75	342	42	表郷村	6	37	183	75	只見町	5	60	228		
8	保原町	19	66	420	43	東村	4	23	241	計		41	411	1,767		
9	霊山町	7	66	222	44	中島村	6	18	109	相双支部						
10	月舘町	2	32	97	45	矢吹町	8	38	167							
11	二本松市	24	145	833	46	大信村	4	10	78	76	広野町	1	52	166		
12	安達町	7	57	265	47	泉崎村	4	33	192	77	檜葉町	9	55	153		
13	大玉村	8	39	204	計		102	515	2,928	78	富岡町	16	70	425		
14	本宮町	14	56	333	会津支部				79	川内村	6	19	112			
15	白沢村	9	47	254					80	大熊町	9	58	266			
16	岩代町	5	28	131	48	会津若松市	41	235	1,251	81	双葉町	9	60	216		
17	東和町	7	106	281	49	北会津村	3	47	147	82	浪江町	25	79	480		
計				319	1,531	8,411	50	河東町	7	32	182	83	葛尾村	1	15	70
県中支部				51	磐梯町	4	20	102	84	新地町	12	44	245			
				52	猪苗代町	13	156	859	85	相馬市	44	144	908			
18	郡山市	115	742	3,572	53	会津坂下町	28	75	537	86	鹿島町	6	17	145		
19	三春町	13	82	267	54	湯川村	3	19	81	87	原町市	43	161	924		
20	小野町	13	58	279	55	柳津町	2	12	149	88	小高町	22	89	430		
21	滝根町	6	29	160	56	会津高田町	13	57	342	89	飯舘村	9	36	224		
22	大越町	6	30	61	57	会津本郷町	4	14	80	計		212	899	4,764		
23	都路村	2	27	97	58	新鶴村	1	15	109	いわき支部						
24	常葉町	10	46	214	59	三島町	5	14	77							
25	船引町	16	127	467	60	金山町	1	28	59	90	いわき市	149	505	3,574		
26	須賀川市	25	204	903	61	昭和村	1	1	10	合 計						
27	長沼町	3	8	68	62	喜多方市	30	99	848							
28	鏡石町	6	25	176	63	熱塩加納村	1	22	148	1,258	6,458	34,595				
29	岩瀬村	2	6	54	64	北塩原村	4	42	125	平成13年度比較		1,239	6,023	33,653		
30	天栄村	3	19	89	65	塩川町	10	46	277	19	435	942				
31	石川町	14	93	394	66	山都町	3	20	105	市町村役職員						
32	玉川村	5	20	113	67	高郷村	1	10	37							
33	平田村	5	38	161	68	西会津町	10	53	319	525	321	204				
34	浅川町	2	16	138	計		185	1,017	5,844	都道府県役員						
35	古殿町	4	10	94	都道府県役員		26	14	7					5		
計				250	1,580	7,307					26	14	7	5		

(3) スポーツ安全協会傷害保険加入状況

この傷害保険は、スポーツ及び社会教育活動の普及・振興に寄与することを目的として、昭和46年に事業を開始して以来、現在（2003年3月）では33万団体、994万人の人々が加入する世界に類のない大型保険である。

本県の加入者は、6,924団体、203,657人で全人口の9.6%となっている。

誰もが安心して体育・スポーツ活動や教育活動に専念できるように、なお一層普及に力を注いでいく必要がある。

(1) 国体・東北総体選手選考会等

3 第55回福島県総合体育大会

国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等、スポーツ少年団体育大会、県民スポーツ大会の三本柱で行われる本県最大のスポーツイベントで、県内9市21町7村において開催された。

国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等は52競技、スポーツ少年団体育大会は20競技、県民スポーツ大会は7地域7競技を実施した。

	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
1	陸上競技	福島市	7 / 12(金) ~ 15(月)	県営あづま陸上競技場	869
2	軟式野球	白河市	6 / 29(土) ~ 30(日)	しらかかの森スポーツ公園ツインスタジアム (一般A)	450
		泉西 崎郷 村村	6 / 29(土) ~ 30(日)	泉崎さつき野球場 (一般B) 西郷村民球場	
		表郷村	6 / 29(土) ~ 30(日)	天狗山球場、表郷村民球場 (成年)	
3	ソフトテニス	会津若松市	6 / 9(日)	会津総合運動公園テニスコート	632
			7 / 12(金) ~ 13(土)	会津総合運動公園テニスコート	
4	テニス	天栄村	7 / 12(金) ~ 14(日)	羽鳥湖高原レジーナの森TC (少年男女)	897
		天栄村	7 / 6(土) ~ 7(日)・14(日)	羽鳥湖高原レジーナの森TC (成年男女：一般)	
		白河・須賀川市	7 / 6(土) ~ 7(日)	白河勤労者野外活動施設テニスコート、牡丹台庭球場 (成年男女：35歳以上の部)	
5	サッカー	いわき市	4 / 19(金) ~ 21(日)	檜葉町運動公園 (少年男子)	420
		富岡町	7 / 27(土) ~ 28(日)	富岡町多目的広場 (成年男子)	
		相馬市	7 / 27(土) ~ 28(日)	相馬港緑地公園 (成年女子)	
			7 / 28(日)	相馬市黒木多目的グラウンド (壮年)	
6	ハンドボール	本宮町	7 / 12(金) ~ 14(日)	本宮町総合体育館・本宮体育館	607
			7 / 14(日)	原町市スポーツセンター (成年男女・壮年男女・教職員男女)	
7	卓球	原町市	7 / 12(金) ~ 13(土)	" (少年男女)	671
			7 / 14(日)	西部第二体育館 (成年男女・高齢者)	
8	剣道	郡山市	6 / 16(日)	西部第二体育館 (成年男女・高齢者)	146
		いわき市	7 / 6(土) ~ 7(日)	磐城高校 (少年男女)	497
9	ボート	高郷村	7 / 6(土) ~ 7(日)	県営荻野漕艇場	159
10	水泳	会津若松市	8 / 3(土) ~ 4(日)	会津水泳場 (競泳)	423
		郡山市	7 / 31(木) ~ 8 / 1(木)	郡山カルチャーパークプール (飛込)	12
11	自転車競技	泉崎村	7 / 4(木) ~ 6(土)	泉崎国際サイクルスタジアム (トラック)	117
		西郷村	7 / 7(日)	東京女子医大セミナーハウス (ロード)	
12	ホッケー	棚倉町	7 / 13(土)	ルネサンス棚倉多目的広場	74
13	相撲	会津若松市	7 / 14(日)	鶴ヶ城相撲場	50
14	ライフル射撃	福島市	7 / 13(土)	県警察学校拳銃射撃場 (CP)	67
		二本松市	7 / 14(日)	二本松市総合射撃場	
15	バスケットボール	いわき市	7 / 12(金) ~ 15(月)	いわき市立総合体育館・磐城高校・磐城桜が丘高校・平工業高校	1,721
16	バドミントン	二本松市	7 / 11(木) ~ 14(日)	城山総合体育館・城山第二総合体育館 (少年男女)	467
			7 / 13(土) ~ 14(日)	" (一般男女・成年男女・壮年男女・高年男子・混合)	

	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
17	ボクシング	保原町	7 / 12(金)~14(日)	保原町町民センター	56
18	柔 道	いわき市	7 / 20(土)~21(日)	いわき市立総合体育館 (少年男女)	379
			7 / 20(土)	" (成年男女)	
19	弓 道	郡山市	4 / 19(金)~20(土)	郡山総合運動場開成山弓道場 (少年男女)	267
		いわき市	7 / 14(日)	いわき弓道場 (成年男女)	254
20	ラグビーフットボール	福島・いわき市	5 / 30(木)~31(金)・6 / 2(日)	県営あづま陸上競技場・いわきグリーンフィールド (少年)	454
		福島市	6 / 9(日)・16(日)・23(日)・30(日)	あづま総合運動公園スポーツイベント広場 (成年)	
21	体 操	福島市	7 / 12(金)~13(土)	福島市国体記念体育館 (体操少年男女)	201
			7 / 13(土)	" (体操成年男女)	
			7 / 12(金)~13(土)	" (新体操少年男女・成年女子)	
			7 / 13(土)~14(日)	" (新体操成年男子)	
22	スキー	猪苗代町	1 / 18(土)~21(火)	猪苗代スキー場	221
23	スケート	郡山市	12 / 8(日)	磐梯熱海アイスアリーナ (フィギュア)	10
			12 / 14(土)~15(日)	福島県郡山アイススケート場 (スピード)	23
24	馬 術	原町市	7 / 13(土)~14(日)	原町市馬事公苑	50
25	ソフトボール	相馬市	6 / 15(土)~16(日)・22(土)	二の丸球場、東グラウンド、松川浦荘グラウンド (成年男子)	1,093
			6 / 15(土)~16(日)	長友グラウンド (成年女子)	
		いわき市	7 / 13(土)~14(日)	新舞子ハイツグラウンド (少年男子) 小名浜市民運動場 (少年女子)	
26	バレーボール	会津若松市	7 / 12(金)~14(日)	あいづ総合体育館、葵高校、会津学鳳高校、若松商業高校	1,294
27	ウエイトリフティング	いわき市	7 / 13(土)~14(日)	いわき市立総合体育館	76
28	レスリング	田島町	7 / 13(土)~14(日)	田島高校	57
29	フェンシング	川俣町	7 / 13(土)~14(日)	川俣町体育館	46
30	山 岳	西郷村	7 / 12(金)~14(日)	赤面山系 (縦走・踏査競技)	104
		福島市	7 / 12(日)	あづま総合運動公園クライミングウォール (クライミング競技)	
31	銃 剣 道	郡山市	7 / 14(日)	郡山自衛隊第6特科連隊体育館	95
32	クレー射撃	二本松市	7 / 6(土)	二本松市総合射撃場 (トラップ・スキート)	49
33	セーリング	いわき	7 / 13(土)~14(日)	いわきサンマリーナ	29
34	空 手 道	下郷町	7 / 14(日)	下郷町大川ふるさとコミュニティセンター	116
35	アーチェリー	三春町	7 / 13(土)~14(日)	三春町営運動場	95
36	なぎなた	会津若松市	6 / 29(土)	あいづ総合体育館	23
37	アイスホッケー	郡山市	11 / 9(土)~10(日)	磐梯熱海アイスアリーナ	56
38	ボウリング	郡山市	5 / 12(日)	郡山ダイヤモンドボウル	107
39	ゴルフ	矢吹町	5 / 16(木)	矢吹ゴルフ倶楽部	77
40	カヌー	東和町	5 / 25(土)	阿武隈島山コース (スラローム・ワイルドウォーター)	48
			6 / 2(日)	阿武隈漕艇場 (レーシング)	
41	ゲートボール	いわき市	8 / 11(日)	新舞子ハイツグラウンド	141

	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
42	少林寺拳法	須賀川市	6 / 30(日)	須賀川アリーナ	280
43	トランポリン	いわき市	7 / 6(土)~7(日)	いわき市立総合体育館	57
44	オリエンテーリング	葛尾村	7 / 14(日)	もりもりランドかつらお	36
45	パワーリフティング	いわき市	10 / 27(日)	いわき市立総合体育館	12
46	ダンススポーツ	福島市	7 / 7(日)	十六沼運動公園体育館	180
47	武術太極拳	福島市	9 / 1(日)	県営あづま総合体育館サブアリーナ	145
48	綱 引			(中 止)	0
49	トライアスロン	福島市	9 / 8(日)	福島中央市民プール・阿武隈川サイクリングロード	58
50	グラウンドゴルフ	郡山市	7 / 31(水)	西部スポーツ広場	452
51	バウンドテニス	須賀川市	7 / 20(土)	須賀川アリーナ	144
52	ハンググライダー	滝根町	5 / 12(日)・19(日)	仙台平エリア 副会場 (片會根山)	45

(2) スポーツ少年団体育大会

	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
1	陸上競技	郡山市	10 / 27(日)	郡山総合運動公園開成山陸上競技場	19
2	軟式野球	西郷村	6 / 22(土)~23(日)	西郷村村民球場	130
3	ソフトテニス	会津若松市	6 / 9(日)	会津庭球場 (小・中男女)	212
4	テニス	富岡町	8 / 3(土)~4(日)	富岡町総合スポーツセンターテニスコート・とみおかドーム	171
5	サッカー	浪江町	7 / 27(土)~28(日)	マリパークなみえ (11・12歳小学生)	506
		相馬市	7 / 27(土)	黒木多目的グラウンド (10・11・12歳小学生女子)	
		原町市	7 / 27(土)~28(日)	原町市サッカー場 (13~15歳中学生)	
6	卓球	原町市	7 / 14(日)	原町市スポーツセンター	329
7	剣道	郡山市	8 / 4(日)	西部第二体育館	279
8	自転車競技	泉崎村	7 / 6(土)	泉崎国際サイクルスタジアム (トラック)	23
		西郷村	7 / 7(日)	東京女子医大セミナーハウス (ロード)	
9	バスケットボール	いわき市	7 / 26(金)~28(日)	いわき市立総合体育館・関船体育館・平工業高等学校	379
10	柔道	いわき市	7 / 20(土)	いわき市立総合体育館	75
11	ラグビーフットボール	郡山市	8 / 25(日)	熱海サッカー場	135
12	体操	福島市	7 / 14(日)	福島市国体記念体育館 (体操)	47
			7 / 13(土)~14(日)	福島市国体記念体育館 (新体操)	86
13	スキー	金山町	2 / 8(土)	フェアリーランドかねやま (アルペン)	429
		猪苗代町	1 / 19(日)	木地小屋コース(クロスカントリー・ジャンプ)	
14	スケート	郡山市	12 / 8(日)	磐梯熱海アイスアリーナ (フィギュア)	7
			12 / 14(土)~15(日)	福島県郡山アイススケート場 (スピード)	39
15	馬術	原町市	7 / 14(日)	原町市馬事公苑	11
16	ソフトボール	いわき市	7 / 13(土)~14(日)	勿来市民運動場 (男子)	461
			7 / 13(土)~14(日)	好間多目的広場 (女子)	
17	バレーボール	会津若松市	7 / 27(土)~28(日)	あいづ総合体育館他	960
18	フェンシング	川俣町	7 / 13(土)~14(日)	川俣町体育館	14
19	なぎなた	会津若松市	6 / 29(土)	あいづ総合体育館	76
20	レスリング	田島町	7 / 13(土)	田島高校	46

(3) 県民スポーツ大会

地区	開催市町村	競技名	開催期日	会場	参加人数
北 北	月 館 町	壮年ソフトボール	7月21日(日)	月館町農村広場	920
	梁 川 町	家庭バレーボール		梁川町体育館	
	川 俣 町	バドミントン		川俣町体育館	
	国 見 町	ソフトテニス		グリーンアリーナ923	
	伊 達 町	卓 球		伊達町町民体育館	
	桑 折 町	テ ニ ス		桑折テニスコート、睦合テニスコート	
中 中	郡 山 市	壮年ソフトボール	8月25日(日)	ふるさとの森スポーツパーク	682
		家庭バレーボール		郡山総合体育館	
		ソフトテニス		郡山庭球場	
		卓 球		西部第二体育館	
		バドミントン		郡山西部体育館	
南 南	棚 倉 町	壮年ソフトボール	8月18日(日)	棚倉運動広場、棚倉中学校グラウンド	558
		家庭バレーボール		棚倉町総合体育館	
		ソフトテニス		ルネッサンス棚倉テニスコート	
		卓 球		棚倉小学校体育館	
		バドミントン		棚倉町総合体育館	
会 津	会 津 高 田 町	家庭バレーボール	8月4日(日)	会津高田町立町民体育館	483
		壮年ソフトボール		二本柳運動場	
		バドミントン		会津高田町立高田小学校体育館	
		ソフトテニス		宮川庭球場、河畔公園庭球場	
		卓 球		会津高田町立第一中学校体育館	
	新 鶴 町	テ ニ ス		ふれあいの森スポーツ公園	
南 会 津	只 見 町	壮年ソフトボール	8月25日(日)	只見町民広場	333
		卓 球		朝日中学校体育館	
		バドミントン		朝日小学校体育館	
		家庭バレーボール		只見中学校体育館	
		グラウンドゴルフ		朝日中学校グラウンド	
相 双	原 町 市	壮年ソフトボール	7月28日(日)	原町市北新田野球場、北新田運動場	528
		家庭バレーボール		原町市スポーツセンター、小川町体育館	
		ソフトテニス		原町運動公園テニスコート	
		卓 球		原町市立高平小学校	
		バドミントン		原町市立原町第二中学校	
い わ き	い わ き 市	壮年ソフトボール	8月25日(日)	好間多目的広場	497
		家庭バレーボール		いわき市立総合体育館	
		ソフトテニス		いわき市平庭球場	
計					4,001

4 第29回東北総合体育大会

東北総合体育大会は、山形県内11市11町、宮城県1町で開催された。本県は、本部役員19名、監督・選手1,202名が参加し、カヌー、テニス、ボクシング、軟式野球、弓道、銃剣道の6競技で総合優勝を果たした。

[正式競技]

主会期：平成14年8月23日(金)～25日(日)

会場地	競技名	種別	競技日程				国体地区予選	競技会場	参加人員
			22日(木)	23日(金)	24日(土)	25日(日)			
山形市	水泳(水球)	少年男子			8/3	8/4		山形市総合スポーツセンター屋外プール	10
	ボウリング	全			7/13	7/14		山形ファミリーボウル	16
	弓道	全			7/20	7/21		山形市総合スポーツセンター弓道場	16
	ボクシング	成男・少男						山形県体育館小競技場	15
	バスケットボール	全						山形県体育館・山形市総合スポーツセンター第一体育館	52
	レスリング	成男・少男						山形商業高校体育館	26
	ソフトテニス	全						山形市総合スポーツセンターテニスコート	28
	アイスホッケー	少年男子				11/30	12/1	ウエルサンピア山形厚生年金スケート場	18
		成年男子				12/7	12/8	ウエルサンピア山形厚生年金スケート場	20
	一般B						山形市野球場		
中山町	軟式野球	一般A					山形県野球場	45	
		成年					上山市民球場		
上山市	馬術	成男女・少年					上山市営競馬場馬術馬場	18	
	なぎなた	成女・少女					上山市体育文化センター	10	
天童市	水泳(シンクロ)	少年女子				7/14	山形県総合運動公園屋外プール	4	
	サッカー	成男女・少男	8/15	8/16	8/17	8/18	山形県総合運動公園サッカー場・ラグビー場・サブグラウンド	48	
	テニス	全					山形県総合運動公園テニスコート	20	
	陸上競技	全					山形県総合運動公園陸上競技場	120	
	体操競技・新体操	全					山形県総合運動公園メインアリーナ	42	
	山岳(クライミング)	全					山形県総合運動公園クライミングウォール	(16)	
	空手道	全					天童市スポーツセンターアリーナ	27	
大石田町	ゴルフ	成女・少女			7/4	7/5	OISHIDA GOLF CLUB	8	
山辺町	柔道	全					山辺町武道館	20	
西川町	カヌー(FWR)	全		7/12	7/13	7/14	月山湖レーシング競技場	5	
	カヌー(SL、WW)	成男・成女			7/20	7/21	寒河江川スラローム・ワイルドウォーター競技場	18	
寒河江市	剣道	全					寒河江市市民体育館	30	
東根市	ハンドボール	全					東根市民体育館・東根工業高校体育館	52	
	クレー射撃	トラップ・スキート					東根クレー射撃場	12	
新庄市	自転車(トラック)	全		8/30	8/31		新庄サイクルスポーツセンター		
最上町	自転車(ロード)	全				9/	前森高原	23	

会場地	競技名	種別	競技日程				国体地区予選	競技会場	参加人員
			22日(木)	23日(金)	24日(土)	25日(日)			
真室川町	銃剣道	全					真室川町民総合体育館	17	
米沢市	フェンシング	全					米沢市営体育館	16	
長井市	ゲートボール	男子・女子			7/27	7/28	長井市置賜生涯学習プラザゲラウンド	13	
南陽市	ライフル射撃	全		7/26	7/27	7/28	南陽市ライフル射撃場	31	
	卓球	全					南陽市民体育館	20	
白鷹町	ソフトボール	成男・少男					南陽市向山公園ソフトボール場	54	
		成女・少女					白鷹町ソフトボール場		
川西町	ホッケー	全					川西町総合運動公園ホッケー競技場	69	
鶴岡市	相撲	成男・少男					鶴岡市小真木原相撲場	18	
	バドミントン	全					鶴岡市小真木原総合体育館・朝陽武道館	45	
	山岳(縦走)	全					母狩山縦走競技場	16	
	アーチェリー	全					鶴岡市小真木原公園南多目的広場	16	
羽黒町	ウエイトリフティング	成男・少男					羽黒町民体育館	22	
藤島町	バレーボール	成男女9人制					藤島町民体育館	74	
遊佐町		成女6人制					遊佐町民体育館		
酒田市		少男女・成男6人制					酒田市営国体記念体育館		
		ラグビーフットボール	成男・少男				酒田市営光ヶ丘球技場		46

会場地	競技名	種別	競技日程				国体地区予選	競技会場	参加人員
			7/26(金)	7/27(土)	7/28(日)				
宮城県迫町	ボート	全					宮城県長沼ボート場	42	

印：競技種目別開始式、 印：競技種目別開始式後競技実施、 印：競技日、 印：国体地区予選

5 国民体育大会

(1) 第57回国民体育大会

第57回国民体育大会において、本県は、冬季・夏季・秋季大会に628名の選手が出場し、男女総合成績第33位、810.5点、女子総合437.5点、第35位の成績であった。

特に、個人競技のカヌー、陸上、ボクシング、レスリング競技において優勝するなど活躍が見られた。

なお、参加状況、競技成績等については、下記のとおりである。

参加状況

大会	区分	会期	開催地	団長	参加競技数	派遣人数			
						役員	監督等	選手	合計
冬季	スケート・アイスホッケー競技会	平成14年1月26日(土)～1月30日(水)	北海道帯広市・清水町・浦幌町	山口 勇	2	14	5	33	52
	スキー競技会	平成14年2月20日(水)～2月23日(土)	新潟県妙高高原町妙高村 他	大内 進	1(1)	13	6(20)	652(14)	71(34)
夏季	大会	平成14年9月21日(土)～9月24日(火)	高知県高知市他	猪俣昭洲	10	19	27(24)	118	164(24)
秋季	大会	平成14年10月26日(土)～10月31日(木)	高知県春野町他	古市孝雄	25	23	52(61)	335(21)	410(82)

- 1 参加競技数の()はバイアスロンで外数
- 2 ()は競技団体派遣者数で外数
- 3 陸上競技会は10月21日(月)～24日(木)

競技成績

大会	区分	天皇杯				皇后杯			
		競技得点	参加点	得点合計	順位	競技得点	参加点	得点合計	順位
冬季大会		10.0点	30点	40.0点	26位	3.0点	20点	23.0点	23位
	スケート競技会	7.0点	10点	17.0点	23位	2.0点	10点	12.0点	20位
	アイスホッケー競技会	0.0点	10点	10.0点	11位	-	-	-	-
	スキー競技会	3.0点	10点	13.0点	18位	1.0点	10点	11.0点	14位
夏季大会		119.5点	100点	219.5点	29位	61.5点	100点	161.5点	23位
秋季大会		281.0点	270点	551.0点	33位	73.0点	180点	253.0点	37位
合計		410.5点	400点	810.5点	33位	137.5点	300点	437.5点	35位

入賞状況

*冬季大会

スケート競技	競技得点7.0点	23位	順位	得点	選手名	所属
少年男子	500m		8	1	野内俊吾	郡山北工業高校2年
	1,000m		7	2	野内俊吾	郡山北工業高校2年
	2,000mリレー		7	2	野内俊吾	郡山北工業高校2年
					香月祐吾	猪苗代高校1年
					小林哲	郡山東高校2年
					小松雄大	白河実業高校1年
少年女子	2,000mリレー	7	2	野内聖子	郡山北工業高校1年	
				遠藤千種	郡山商業高校2年	
				後藤綾香	郡山東高校2年	
				松尾弘美	帝京安積高校1年	

スキー競技	競技得点3.0点	18位	順位	得点	選手名	所属
成年男子B	コンパインド		7	2	渡部巧	日本体育大学OB会
成年女子B	クロスカントリー		8	1	磯谷圭	新鶴中学校教員

*夏季大会

水泳競技	競技得点18.0点	23位	順位	得点	選手名	所属
成年男子	30歳以上 50m背泳ぎ		8	1	末永敏則	福島県信用保証協会
	飛板飛込		3	6	西川友章	清陵情報高校教員
少年男子	A200m 背泳ぎ		7	2	山口雅文	会津工業高校3年
	高飛込		7	2	佐藤由彬	昌平高校2年
	B100m 自由形		7	2	蛭田尚宏	湯本第一中学校3年
成少男子	混合リレー	8	1	福島県		
				菊地隆一郎	東海大学2年	
				中澤謙	福島県立会津大学教員	
				斎藤昭	日大東北高校3年	
	蛭田尚宏	湯本第一中学校3年				
少年女子	A100m 背泳ぎ		6	3	安斎明美	尚志高校通信制3年
	A100m 自由形		8	1	原田文子	日大東北高校2年

ボート競技		競技得点10.0点	16位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	ダブルスカル			8	-	会津選抜 真部宏伊 杉本剛志	東北電力(株)福島支店 西会津高校教員 種別の総合で得点が出るため、得点なし。
少年男子	ダブルスカル			6	-	田村高校 渡辺勝裕 木村聡	田村高校3年 田村高校3年 種別の総合で得点が出るため、得点なし。
少年女子	シングルスカル			2		福地愛	喜多方商業高校3年
	種別総合			7	10		種別の総合で得点が出るため、得点なし。
セーリング競技		競技得点0.0点	22位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	国体ウインドサーフィン級			5	-	飯原崇仁	緑川総合保険 種別の総合で得点が出るため、得点なし。
カヌー競技		競技得点44.0点	7位	順位	得点	選手名	所 属
成年女子	ワイルドウォーター1,500m			6	3	和田藍加	大教イトマンスイミング二本松
	レーシング・カヤックシングル500m			7	2	嶋原恵子	筑波大学3年
	レーシング・カヤックシングル200m			6	3	嶋原恵子	筑波大学3年
	スラローム15ゲート			8	1	及川智美	船引中学校教員
少年男子	レーシング・カヤックシングル500m			1	8	佐藤滋	二本松工業高校3年
	レーシング・カヤックシングル200m			1	8	佐藤滋	二本松工業高校3年
	レーシング・カナディアンペア500m			7	2	菅野俊	安達高校3年
						阿部公貴	安達高校3年
少年女子	レーシング・カヤックシングル500m			5	4	大内百合子	安達高校3年
	レーシング・カヤックシングル200m			5	4	大内百合子	安達高校3年
	レーシング・カヤックペア500m			4	5	梅原愛里	安達高校3年
						和田貴代	安達高校3年
	レーシング・カヤックペア200m			5	4	梅原愛里	安達高校3年
						和田貴代	安達高校2年
ボウリング競技		競技得点16.5点	14位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	年齢別個人戦	ハイミドルの部		6	3	中田明	福浜工業(株)
		マスターズの部		7	2	浅野敏栄	(株)アサヒボウリングサービス
成年女子	年齢別個人戦	ミドルの部	2タイ		6.5	鈴木英子	トキコ福島(株)
少年男子	個人戦			7	2	遠藤純	郡山高校1年
	団体戦			6	3	福島県 遠藤純	郡山高校1年
						大塚正	会津工業高校3年

テニス競技		競技得点30.0点	7位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子				6	15	竹下和史	須賀川セントラル眼科
						本村浩二	須賀川セントラル眼科
						高橋 徹	福島県商工信用組合
成年女子				6	15	田口景子	大 東 銀 行
						加藤沙絵	大 東 銀 行
						西内香名	大 東 銀 行
ライフル射撃競技		競技得点1.0点	40位	順位	得点	選手名	所 属
少年男子	10m S 60MJ			8	1	川名正紀	日大東北高校3年

* 秋季大会

陸上競技競技		競技得点57.0点	15位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	400m			8	1	佐藤光浩	仙台大学大学院1年
	砲丸投			5	4	大橋忠司	国士舘大学1年
成年女子	100m			5	4	松本真理子	石川中学校教員
	400m			1	8	吉田真希子	(助) 福島県体育協会
	円盤投			6	3	池田理恵	小野高校教員
成少女子	4 × 100m R			4	5	福島県	
						松本真理子	石川中学校教員
						吉田真希子	(助) 福島県体育協会
						内島真由美	喜多方高校3年
						丹野麻美	郡山東高校2年
						紺野可奈子	野田中学校3年
少年男子	A 100m			5	4	菅沢崇裕	聖光学院高校3年
	共1,500m			7	2	今井正人	原町高校3年
	B 200m			8	1	添川隆博	喜多方第一中学校3年
	B 3,000m			8	1	横木克宜	会津高校1年
	共円盤投			7	2	佐藤圭太	小高工業高校1年
少年女子	A 100m			8	1	内島真由美	喜多方高校3年
	A 400m			1	8	丹野麻美	郡山東高校2年
	B 100m H			3	6	押山由衣	日大東北高校1年
	B砲丸投			2	7	吉田いずみ	平第二中学校3年

ボクシング競技		競技得点20.5点	12位	順位	得点	選手名	所 属
少年男子	フライ級			3タイ	5.5	横山翔大	相馬農業高校3年
	ライトウェルター級			1	8	遠藤広大	会津工業高校3年
	ウェルター級			2	7	佐藤矩彰	福島明成高校3年

バレーボール競技		競技得点47.5点	10位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子6人制				5タイ	17.5	佐久間 祐 幸	常 葉 中 学 校 教 員
						菊 地 賢 二	喜 多 方 商 業 高 校 教 員
						小 川 宏	福 島 大 学 教 員
						土 屋 裕 史	城 西 小 学 校 教 員
						田 中 信 次	会 津 若 松 第 一 中 学 校 教 員
						相 原 隆 幸	田 村 高 校 教 員
						遠 藤 和 祝	(株) 東 北 サ ッ シ 工 業
						佐々木 英 博	(株) タ カ ム ラ
						上野城 将 志	福 島 大 学 4 年
						酒 井 大 祐	東 海 大 学 3 年
					鈴 木 晃 夫	喜 多 方 商 業 高 校 教 員	
成年女子9人制				3	30	植 野 和 代	福 島 銀 行 (株)
						中 川 朋 恵	福 島 銀 行 (株)
						畑 中 照 美	福 島 銀 行 (株)
						富 岡 尚 子	福 島 銀 行 (株)
						水 谷 千 代	福 島 銀 行 (株)
						佐 藤 千 恵	福 島 銀 行 (株)
						宮 脇 円	福 島 銀 行 (株)
						小 池 絵 美	福 島 銀 行 (株)
						畠 山 紫 乃	福 島 銀 行 (株)
						水 口 沙 織	福 島 銀 行 (株)
					三 瓶 美 紀	福 島 県 バ レ ー ボ ー ル 協 会	
レスリング競技		競技得点31.0点	17位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	フリースタイル69kg級			1	8	宮 田 和 幸	ク リ ナ ッ プ (株)
	フリースタイル85kg級			5タイ	2.5	五十嵐 大 介	男 山 酒 造
	フリースタイル130kg級			1	8	諏訪間 幸 平	ク リ ナ ッ プ (株)
	グレコローマン76kg級			5タイ	2.5	中 里 充	拓 殖 大 学 4 年
	グレコローマン97kg級			5タイ	2.5	星 秀 隆	星 光 園
少年男子	フリースタイル50kg級			5タイ	2.5	金 子 隼 一	田 島 高 校 3 年
	フリースタイル130kg級			5タイ	2.5	内 海 達 矢	喜 多 方 工 業 高 校 1 年
	グレコローマン97kg級			5タイ	2.5	長 嶺 征 尚	大 沼 高 校 3 年
ウエイトリフティング競技		競技得点20.0点	26位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	53kg級 ジャーク			6	3	佐久間 勝 彦	ゼ ビ オ (株)
	スナッチ			5	4	佐久間 勝 彦	ゼ ビ オ (株)
	69kg級 スナッチ			7	2	愛 澤 基 良	日 本 大 学 3 年
	105kg級 スナッチ			6	3	清 野 裕 司	福 島 明 成 高 校 教 員
少年男子	56kg級 ジャーク			5	4	黒 江 将 伸	川 俣 高 校 2 年
	69kg級 スナッチ			8	1	荒 井 完 明	川 俣 高 校 3 年
	77kg級 スナッチ			6	3	本 多 滋	勿 来 工 業 高 校 2 年

馬術競技		競技得点18.0点	16位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	標準障害飛越			3	6	菅野 仁	いわきホースパーク
	スピード&ハンディネス			3	6	菅野 仁	いわきホースパーク
成年女子	セントジョージ馬場			8	1	成島 美恵子	三株グリーンヒル乗馬クラブ
少年	標準障害飛越			4	5	高橋 かほる	郡山女子大附属高校3年

山岳競技		競技得点35.0点	9位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子				1タイ	35	菅野 富寿 芝田 洋市 真船 孝道	松川クリニック 昭和電工(株) 帝京安積高校教員

自転車競技		競技得点27.0点	3位	順位	得点	選手名	所 属
成年男子	スプリント			3	6	文山 良晃	福島県自転車競技連盟
	4km速度競走			5	4	糸賀 賢司	日本大学1年
	4km団体追抜			8	1	圓谷 崇	日本大学4年
						明珍 多久雄	日本大学2年
						糸賀 賢司	日本大学1年
						小倉 知幸	東北学院大学1年
				文山 良晃	福島県自転車連盟		
少年男子	個人ロードレース			8	1	熊谷 薫	岩瀬農業高校3年
	ポイントレース			3	6	熊谷 薫	岩瀬農業高校3年
	1kmタイムトライアル			8	1	金澤 竜二	学法石川高校2年
	エリミネーションレース			8	1	永山 大輔	白河実業高校3年
	4km速度競走			3	6	小野 大介	平工業高校3年
	4km団体追抜			8	1	新田 祐大	白河高校2年
						金澤 竜二	学法石川高校2年
						熊谷 薫	岩瀬農業高校3年
						小野 大介	平工業高校3年
				永山 大輔	白河実業高校3年		

銃剣道競技		競技得点25.0点	6位	順位	得点	選手名	所 属
少年男子				4	25	塩沼 稔久	須賀川高校3年
						有我 幸久	岩瀬農業高校3年
						渡辺 隆二	須賀川高校3年

(2) 第58回国民体育大会
 第58回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー
 競技会では、男女総合成績第24位、スキー競技会では、男

女総合第12位の成績を収め、冬季大会における男女総合成績は、第22位で夏・秋季大会に引き継いだ。

参加状況

大会	区分	会期	開催地	団長	参加競技数	派遣人数			
						役員	監督等	選手	合計
冬季	スケート・アイスホッケー競技会	平成15年1月25日(土) ～1月29日(水)	前橋市・高崎市・伊香保町	佐藤 憲保	2	14	5	35 (1)	54 (1)
	スキー競技会	平成15年2月22日(土) ～2月25日(火)	北海道名寄市	大内 進	1 (1)	15	6 (13)	48 (3)	69 (16)

- 1 参加競技数の () はバイアスロンで外数
 2 派遣人数の () は競技団体派遣者数で外数

競技成績

大会	区分	天皇杯				皇后杯			
		競技得点	参加得点	得点合計	順位	競技得点	参加得点	得点合計	順位
冬季	スケート競技会	12.0点	10点	22.0点	22位	7.0点	10点	17.0点	15位
	アイスホッケー競技会	0.0点	10点	10.0点	11位	-	-	-	-
	スキー競技会	18.0点	10点	28.0点	12位	9.0点	10点	19.0点	10位
合計		30.0点	30点	60.0点	22位	16.0点	20点	36.0点	17位

入賞状況

スケート競技		競技得点12.0点		22位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	500m	5	4	野内 俊吾	郡山北工業高校3年
	10,000m	8	1	鈴木 光翔	郡山北工業高校1年
少年女子	500m	8	1	野内 聖子	郡山北工業高校2年
	1,500m	7	2	松尾 弘美	帝京安積高校2年
	2,000mリレー	5	4	野内 聖子	郡山北工業高校2年
				遠藤 千種	郡山商業高校3年
				後藤 綾香	郡山東高校3年
松尾 弘美	帝京安積高校2年				
スキー競技		競技得点18.0点		12位	
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子B	コンパインド	6	3	渡部 巧	猪苗代高校教員
	スペシャルジャンプ	4	5	渡部 巧	猪苗代高校教員
成年女子A	ジャイアントスラローム	2	7	三星 佳代	中京大学4年
成年女子B	クロスカントリー	7	2	磯谷 圭	猪苗代中学校教員
少年男子	クロスカントリーリレー	8	1	菊地 智則	猪苗代高校3年
				一ノ瀬 正範	猪苗代高校2年
				本田 勝則	会津工業高校1年
				齋藤 康平	会津工業高校3年

6 第15回全国スポーツ・レクリエーション祭

第15回全国スポーツ・レクリエーション祭は、広島県内9市7町で開催された。本県は、18種目に本部役員5名、監督・

選手176名が参加し、スポーツ・レクリエーションを楽しみ、交流の輪を広げた。

参加状況

開催期日 平成14年10月5日(土)～8日(火)

	種 目	開 催 地	チ ャ ーム 編 成	派遣人数
1	グラウンド・ゴルフ	福 山 市	原町市・富岡町・いわき市・郡山市・須賀川市・会津若松市・本郷町・福島市	10
2	ゲートボール	竹 原 市	いわき市・富岡町	18
3	壮年サッカー	広島市・府中町・吉田町	いわき市・双葉町・相馬市・新地町	18
4	ソフトバレーボール	三 次 市	二本松市	9
5	女子ソフトボール	東広島市・大和市	郡山市・いわき市	18
6	ラージボール卓球	因 島 市	福島市・二本松市	7
7	ターゲット・バードゴルフ	尾 道 市	伊南村	4
8	男女混合綱引	呉 市	坂下町	10
9	年齢別テニス	尾 道 市	原町市	6
10	年齢別ソフトテニス	福 山 市	原町市・福島市	6
11	バウンドテニス	大 野 町	田島町	7
12	年齢別バドミントン	呉 市	富岡町・鹿島町・相馬市・原町市	7
13	壮年ボウリング	広 島 市	保原町・福島市	4
14	マスターズ陸上競技	広 島 市	いわき市・会津若松市・喜多方市・福島市・柳津町・檜葉町・郡山市・須賀川市・中島村	24
15	インディアカ	廿 日 市 市	白河市	8
16	エアロビック	豊 平 町	郡山市	3
17	フォークダンス	安 浦 町	福島市・喜多方市・いわき市	10
18	トランポリン	新 市 町	福島市・郡山市	7
	計			176

7 各種共催行事（スポーツグループ関係）

行 事 名	主 催 者 名	場 所
第48回福島県高等学校体育大会地区予選会（5地区）	福島県高等学校体育連盟	県内各地
第48回福島県高等学校体育大会 第39回福島県高等学校定時制・通信制体育大会	福島県高等学校体育連盟	県内各地
平成14年度福島県高等学校新人体育大会	福島県高等学校体育連盟	県内各地
第45回福島県中学校体育大会	福島県中学校体育連盟	県内各地
平成14年度福島県中学校体育大会	福島県中学校体育連盟	県内各地
第24回東北高等学校空手道選手権大会 他5種	東北高等学校体育連盟	須賀川市 他
平成14年度東北中学校体育大会（駅伝競走・陸上競技・バスケットボール競技）	東北中学校体育連盟	西郷村・福島市・郡山市
平成14年度福島県高等学校選抜大会 7種	福島県高等学校体育連盟	石川町 他
第17回東北高等学校選抜ボート大会 他4種	東北高等学校体育連盟	高郷村 他
第19回日本中学校体育連盟研究大会	(財)日本中学校体育連盟	いわき市 スパリゾート ハワイアンズ
平成14年度福島県スポーツ選手育成事業	福島県体育協会	県内各地
都道府県対抗第45回東日本縦断駅伝競走大会	東北陸上競技協会	青森県～東京都
第14回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会	福島民報社	白河市～福島市
第55回高松宮杯記念ジャンプ大会	福島県スキ―連盟	猪苗代町
平成14年度全日本あぶくまカップ大会2001ジャパンカップ第2戦	(社)日本カヌー連盟	東和町 阿武隈島山コース
第7回全日本阿武隈ウォーター大会	全日本カヌー大会東和町実行委員会	東和町 阿武隈漕艇場
第33回全日本教職員弓道選手権大会	(財)全日本弓道連盟 他	郡山総合運動公園開成山 弓道場
第12回福島県女性体育指導委員研修会	福島県体育指導委員連絡協議会	郡山市 サンフレッシュ 郡山
平成14年度福島県新任体育指導委員研修会	福島県体育指導委員連絡協議会	郡山市 サンフレッシュ 郡山
第48回全日本中学校通信陸上競技福島大会兼第57回国民体育大会予選会	福島陸上競技協会	郡山総合運動公園開成山 陸上競技場

8 本県選手の海外派遣

	競技名	参加大会名	派遣選手名 (所属)	開催場所	期間	成績
1	フェンシング	2002年世界ジュニア・カデフェンシング選手権大会	今野 勝 (専修大学)	トルコ・アンタリア	14. 4. 1~11	エペ109位
2	クレー射撃	2002年ISSFワールドカップ上海大会	大竹 淳 (大竹銃砲火薬店)	中国・上海	14. 4.20~29	トラップ49位
3	カヌー	第9回アジアカヌー選手権大会	佐藤 絵美 (筑波大学)	イラン・テヘラン	14. 5.13~23	FK - 2・200m 3位
4	カヌー	第3回アジアジュニアカヌー選手権大会	佐藤 滋 (二本松工業高校)	イラン・テヘラン	14. 5.13~23	K - 4 500m 2位 K - 1・1,000m 4位
5	ボウリング	第16回アジアボウリング選手権大会	伊藤 丈 (株東北装美)	中国・香港	14. 6.29 ~ 7. 6	トリオ1位、個人3位 チーム(5人)7位
6	クレー射撃	第48回世界クレー射撃選手権大会	大竹 淳 (大竹銃砲火薬店)	フィンランド・ラハティ	14. 7. 3~10	トラップ19位
7	自転車競技	第8回マウンテンバイクアジア大陸選手権大会	高橋 唯之 (東日本国際大附属平高)	チャイニーズタイペイ	14. 7.16~22	ダウンヒル3位
8	陸上競技	第14回アジア陸上競技選手権大会	松本 真理子 (石川中教員)	スリランカ・コロンボ	14. 8. 9~12	100m予選敗退 4×100mR 5位
9	陸上競技	第14回アジア陸上競技選手権大会	吉田 真希子 (福島県体協)	スリランカ・コロンボ	14. 8. 9~12	400m 4位、400mH 3位、 4×400mR 2位
10	バレーボール	第11回アジアジュニア男子選手権大会	我妻 剛 (相馬高校)	イラン・テヘラン	14. 9. 8~18	10位
11	陸上競技	第9回ワールドカップ	吉田 真希子 (福島県体協)	スペイン・マドリード	14. 9.17~24	女子4×400mリレー9位
12	陸上競技	第14回アジア競技大会	吉田 真希子 (福島県体協)	韓国・釜山	14. 9.29 ~10.14	女子400mハードル4位 女子4×400mリレー4位
13	ボウリング	第14回アジア競技大会	伊藤 丈 (株東北装美)	韓国・釜山	14. 9.29 ~10.14	個人22位、ダブルス12位 トリオ14位
14	クレー射撃	第14回アジア競技大会	大竹 淳 (大竹銃砲火薬店)	韓国・釜山	14. 9.29 ~10.14	トラップ7位
15	自転車競技	自転車ロード世界選手権	舟木 誠 (東白川農商高校)	ベルギー・ゾルダー	14.10. 8~13	個人120km120位
16	陸上競技	第10回アジアジュニア陸上競技選手権大会	丹野 麻美 (郡山東高校)	タイ・バンコク	14.10.28~31	女子400m 2位 女子4×400mリレー3位
17	陸上競技	第10回アジアジュニア陸上競技選手権大会	菅沢 崇裕 (聖光学院高校)	タイ・バンコク	14.10.28~31	男子100m 5位
18	陸上競技	第10回アジアジュニア陸上競技選手権大会	大橋 忠司 (国土館大学)	タイ・バンコク	14.10.28~31	男子砲丸投5位
19	陸上競技	第10回アジアジュニア陸上競技選手権大会	小林 史拓 (順天堂大学)	タイ・バンコク	14.10.28~31	男子10,000m競歩1位
20	フェンシング	第10回ケーニヒ国際フェンシング大会	草野 広美 (いわき市中央台北中)	ドイツ・ケーニヒ	14.11. 9~10	1989年生まれ女子の部 2位
21	自転車競技	オーストラリアユースオリンピックフェスティバル	金沢 竜二 (学法石川高校)	オーストラリア・シドニー	15. 1. 9~12	ポイントレース2位
22	自転車競技	オーストラリアユースオリンピックフェスティバル	新田 祐大 (白河高校)	オーストラリア・シドニー	15. 1. 9~12	チームスプリント1位 個人スプリント2位
23	カヌー	オーストラリアユースオリンピックフェスティバル	佐藤 滋 (二本松工業高校)	オーストラリア・シドニー	15. 1.10~12	K - 2 1,000m 7位 K - 2 500m 4位
24	カヌー	2003オーストラリアグランプリレガッタ	佐藤 滋 (二本松工業高校)	オーストラリア・シドニー	15. 1.17~19	K - 1 500m 7位 K - 2 500m 3位
25	陸上競技	世界クロスカントリー選手権大会	今井 正人 (原町高校)	スイス・ローザンヌ	15. 3.29~30	ジュニア男子の部

参 考

国際大会出場選手数（平成9年～14年度）

	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
出 場 選 手	21名	27名	22名	50名	44名	23名

(出場選手数は延べ人数)

第7節 体育・スポーツ施設

1 体育・スポーツ施設の管理及び利用状況

県営体育施設の効率的活用と施設管理の万全を期し、もって地域スポーツの振興を図るため、当該施設設置市町村等に管理を委託した。

(1) 施設管理一覧

施 設 名	所 在 地	管 理 方 法	受 託 者	摘 要
福 島 体 育 館	福 島 市	事 務 委 託	福 島 市	昭和49年4月1日より
福 島 体 育 館 附 属 合 宿 所	〃	〃	〃	〃
荻 野 漕 艇 場	高 郷 村	管 理 委 託	高 郷 村	昭和27年4月1日より
郡 山 ス ケ ー ト 場	郡 山 市	事 務 委 託	郡 山 市	平成3年12月18日より
磐 梯 熱 海 ア イ ス ア リ ー ナ	〃	〃	〃	平成6年11月1日より

事務委託（地自法第252条の14第1項）、管理委託（地自法第244条の2第3項）

(2) 施設の利用状況

施設の利用状況は、次のとおりである。

施 設 名	利用状況	摘 要
荻野漕艇場	漕 艇	3,158隻
	ト レ ー ニ ン グ 室	833時間

2 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）事業

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	構造	規模(面積) (m ²)	補助事業に 要した費用	補助金額
福島県	相馬高等学校	ステンレス	375	38,910,326	12,970,000
福島市	渡利小学校	F R P	275	75,671,192	24,823,000
郡山市	桃見台小学校	"	275	68,424,963	22,577,000
いわき市	磐崎中学校	ステンレス	275	68,732,286	22,449,000
"	御厩小学校	"	375	89,122,451	21,375,000
棚倉町	近津小学校	F R P	400	93,329,217	30,786,000
"	社川小学校	"	360	85,732,337	22,860,000
天栄村	牧本小学校	"	340	65,036,338	20,581,000
計	8件		2,675	584,959,110	178,421,000

(2) 中・高等学校武道場

設置者名	施設名	構造	規模(面積) (m ²)	補助事業に 要した費用	補助金額
福島県	福島女子高等学校	R C 造	398	91,506,989	29,266,000
"	相馬高等学校	"	394	48,842,402	16,114,000
岩瀬村	岩瀬中学校	"	227	62,592,711	16,684,000
計	3件		1,019	202,942,102	62,064,000

(3) 屋外運動場照明施設

設置者名	施設名	構造	規模(面積) (m ²)	補助事業に 要した費用	補助金額
いわき市	鹿島小学校	コンクリート柱	6,034	23,620,520	7,680,000

第12章 福 利 厚 生

[福利厚生事業]

第1節 概 要

教職員の福利厚生については、教職員の生活の安定と福祉の向上を目指し、県教育委員会、公立学校共済組合及び(財)福島県教職員互助会の三者が緊密な連携を保ち、各事業を実施した。

また、教職員自らが生涯設計を確立し実現することを支援するため、「第2期福島県教職員生涯生活設計推進計画」に基づき、各種事業の推進を図った。

保健・厚生事業については、教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや器官別検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成等の事業を実施した。

また、教職員生涯生活設計推進事業として、40歳・50歳代

を対象としたライフプラン講座を開催するなど、教職員の生涯生活設計づくりの普及・啓発や支援等を行った。

さらに、家庭における介護に対応できるよう、実技を中心とした在宅介護講座を開催した。

第2節 保健・厚生事業

1 保健事業

(1) 人間ドック (県・共済組合・互助会)

短期人間ドック

平成14年4月1日現在満40歳、45歳、50歳、55歳、58歳の教職員を対象に、短期(宿泊)人間ドックを実施した。

該当者数 A	申込者数 B	受診者数 C	受診率		検診結果			
			C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
人 2,793	人 2,014	人 1,977	% 70.8	% 98.2	人 118	人 690	人 609	人 560

日帰り人間ドック

平成14年4月1日現在、満30歳、34歳、37歳、48歳の

教職員及び短期人間ドック該当で日帰り人間ドックを希望する教職員を対象に、日帰り人間ドックを実施した。

該当者数 A	申込者数 B	受診者数 C	受診率		検診結果			
			C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
人 2,833	人 2,425	人 2,366	% 83.5	% 97.6	人 284	人 1,019	人 693	人 370

配偶者人間ドック

平成14年4月1日現在満40歳以上の被扶養配偶者を対象に、短期人間ドック又は日帰り人間ドックを実施した。

任意継続会員人間ドック

任意継続会員を対象に短期人間ドックを実施した。

短期人間ドック	日帰り人間ドック
40人	134人

委託病院	実施人員
東北中央病院	120人

(2) 器官別検診Ⅰ (共済組合・互助会)

平成14年4月1日現在35歳以上の教職員(人間ドック受

診者を除く。)を対象に、消化器A、消化器B、循環・呼吸器及び糖尿病の4コースの検診を実施した。

該当者数 A	申込者数 B	受診者数 C	受診率		検診結果			
			C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
人 11,952	人 4,073	人 3,863	% 32.3	% 94.8	人 7.7	人 1,242	人 1,421	人 463

(3) 器官別検診Ⅱ (県・共済組合)

子宮頸がん検診

平成14年4月1日現在満30歳以上の女子教職員(30歳

未満の既婚者を含み、人間ドック受診者を除く。)を対象に、子宮頸がん検診を実施した。検査項目は、視診、細胞診、内診である。

該当者数 A	申込者数 B	受診者数 C	受診率		検診結果		
			C / A	C / B	異常なし	要再検・要精検	要治療
人 7,067	人 4,381	人 4,027	% 57.0	% 91.9	人 3,871	人 156	人 0

乳がん検診

平成14年4月1日現在満30歳以上の女子教職員（30歳未満の既婚者を含み、人間ドック受診者を除く。）を対

象に、乳がん検診を行った。検査項目は、問診、視診、触診である。

該当者数 A	申込者数 B	受診者数 C	受診率		検診結果		
			C / A	C / B	異常なし	要再検・要精検	要治療
人 7,067	人 4,420	人 4,155	% 58.8	% 94.0	人 3,910	人 245	人 0

(4) 骨密度検診（共済組合）

平成14年4月1日現在満30歳、40歳、50歳の女子教職員

を対象に、骨密度検診を実施した。

該当者数 A	申込者数 B	受診者数 C	受診率		検診結果			
			C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	要治療
人 947	人 369	人 301	% 31.8	% 81.6	人 281	人 281	人 20	人 0

2 厚生事業

(1) 厚生事業

ライフプラン講座（共済組合・互助会）

本格的な人生80年時代を迎え、教職員が『充実したゆとりある健やかな人生』を実現するうえで重要な生涯生活の早期の設計・確立を支援するため、40・50歳代の教職員を対象に、講座を開催した。

在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の一日介護講座を実施した。

	生涯生活充実コース	退職準備コース
会場	郡山ビューホテルアネックス	
平成14年 8月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー 「生涯生活設計のポイント」 (有)S・S・I代表取締役 川上健二氏) ・特別講演 「自分の人生を充実させるための発想法」 (千葉大学名誉教授 多湖 輝氏) ・健康セミナー 「しなやかな体、タフな心」 (福島大学教授 白石豊氏) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講演 同 左 ・健康セミナー 同 左
平成14年 8月2日		<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー 「豊かで明るい人生を築くために」 (ライフプラン研究会 とうほく代表奥山重夫、事務局長佐藤正雄氏) ・個別相談 同 上
受講者数	186人	217人

日程	平成14年8月6日	平成14年8月7日
会場	ホテルラフィネ郡山	あづま荘
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義 「在宅介護の基礎知識」 (県立医科大学看護学部講師 小平廣子氏) (2) 実技 「環境整備と更衣の仕方」 (小平廣子・郡山女子大学講師茂木光代両氏) (3) 実技 「食事介助法と排泄援助」 (小平廣子・茂木光代両氏) (4) 実技 「清潔援助」 (小平廣子・茂木光代両氏) 	

保育補助（共済組合）

平成14年度内に出産した、又は出産を予定する女子組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品出産児1人につき1セットを交付した。

区 分	内 容	交付件数
Aセット	パジャマ (24か月用、綿100%) 肌着上下 (12か月用、綿100%) オーバーパンツ (6か月用、綿100%) オーバーパンツ (12か月用、綿100%) エプロン (食食用)	307件
Bセット	子守帯、ベビー食器セット、 エプロン (食食用)	147件
Cセット	ベビー毛布 (カバー付き、綿100%、85cm×120cm) ベビーバスタオル (綿100%、85cm×85cm) ベビー枕	126件
Dセット	月刊「赤ちゃん和妈妈」 (保存用ファイル付き) 12冊 お誕生号 1冊 (誕生月に合わせた増刊号) 単行本「赤ちゃんのつばやき」 1冊 単行本「すこやか離乳食」 1冊 冊子「お医者さんにかかるまでに」 1冊	66件
計		646件

銀婚祝賀（共済組合）

平成14年度内に銀婚を迎えた組合員に対し、記念品（会津木製漆器、ペア宿泊券）を贈呈した。

区 分	記 念 品	交付件数
会津木製漆器	花瓶(板花台付き)	31件
	夫婦椀(箸付き)	32
	宝石箱(オルゴール付き)	29
	三ッ引筆筒	47
ペア宿泊券	ホテルラフィエネ郡山	44
	あづま荘	134
計		317

保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用したとき、利用料金の一部を助成した。

ホテルラフィエネ郡山・あづま荘利用助成

区 分	助 成 対 象	助成内容	助成件数
宿泊利用助成	組合員・被扶養者・配偶者・子・父母が宿泊したとき	1人1泊1食まで2,000円 1人1泊2食3,000円	26,195件
会議室利用助成	組合員が開催する諸会議	会議室料金の2分1の額	374
結婚式利用助成	新郎・新婦が組合員のとき	1組 200,000円	0
	新郎・新婦の一方あるいは親が組合員のとき	1組 100,000円	5
会食利用助成	組合員が5名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき	1人 1,000円	15,945
年金受給者等利用助成	福島支部発行の「宿泊施設特別利用者証」の交付を受けた者が宿泊したとき	1人 1,000円	548

他支部保養所等利用助成

県内2、県外18の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計4,018件の助成を行った。

指定旅館利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（26施設）、県外（6施設）の宿泊施設を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

区 分	助 成 件 数	金 額
宿泊利用助成	47,002件	106,812千円
会食利用助成	15,932	15,932
会議室利用助成	7	139
計	62,941	122,883

甲慰供花（共済組合・互助会）

現職中に死亡した組合員（会員）の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

区 分	供 花 件 数
公立学校共済組合	15件
(財)福島県教職員互助会	13件

リフレッシュ休暇助成（互助会）

勤続20年の節目に会員がリフレッシュ休暇を活用し、心身のリフレッシュを図るための助成品（旅行券又は宿泊施設利用券）を交付した。

交付件数 666件

研修旅行（互助会）

海外の名勝史跡の探勝及び会員等の親睦を図ることを目的として、夏季及び冬季休業中に実施した。

海外研修旅行参加会員数 12名

永年勤続リフレッシュ休暇助成（互助会）

30年勤続会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は文箱）を交付した。

30年勤続（永年勤続表彰）の会員 310人

20年以上30年未満勤続し退職した会員 28人

退職会員記念品贈呈（互助会）

20年以上勤続して退職した会員に対し、永年にわたり互助会の発展に寄与した功績に感謝の意を表して、記念品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は置時計）を贈呈した。 513人

災害対策事業（共済組合）

災害救助法が適用された地域内で被災し、短期給付の災害見舞金の給付を受けた組合員に対して見舞金を支給する。

該当者 0人

災害対策見舞金（互助会）

災害救助法が発動された地域内もしくは同一の事由で非常災害を受け、短期給付の災害見舞金の給付を受けた者に対して支給する。

該当者 0人

(2) 公益事業

へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特殊教育諸学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

・対象校 217校

・児童生徒数 14,778人

教育塔合祀遺族助成（互助会）

教育塔に合祀された教職員等の遺族が教育祭（大阪市で開催）に出席した際の経費の一部を助成した。

・参加者 6名

互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

・一般・児童生徒用 1,991冊（累計 33,318冊）

災害義援金（互助会）

大規模災害等の被災県民のため、義援金を日本赤十字社福島県支部に寄託する。

該当 なし

第3節 貸付事業

1 共済組合

平成14年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付け（介護構造部分貸付けを含む。）をはじめ、住宅災害、一般、教育、災害、医療、結婚、葬祭及び高額医療貸付けの9種類の貸付けを行った。

(1) 貸付け状況

種類別貸付状況は次のとおりである。

(単位：千円)

種 類 別	件 数	金 額	金額割合
一 般 貸 付 け	673	1,102,780	19.1
住 宅 貸 付 け	446	4,387,697	75.9
教 育 貸 付 け	73	242,700	4.2
災 害 貸 付 け	0	0	-
医 療 貸 付 け	7	7,300	0.1
結 婚 貸 付 け	26	41,180	0.7
住 宅 災 害 貸 付 け	0	0	-
葬 祭 貸 付 け	2	3,000	0.1
高 額 医 療 貸 付 け	0	0	-
計	1,227	5,784,657	100.0

(2) 住宅貸付けの事由別内訳

(単位：千円)

事 由	件 数	金 額	金額割合
新 築	161	1,732,600	39.5
増改築・移築・修理	84	815,100	18.6
住 宅 購 入	0	0	-
敷 地 購 入	83	729,800	16.6
住宅及び敷地購入	91	1,007,300	23.0
在宅介護対応住宅	20	58,000	1.3
他共済への返済	7	44,897	1.0
計	446	4,387,697	100.0

2 互助会

平成14年度における互助会貸付事業の実施状況は、次のとおりである。

(1) 一般貸付け

貸付けの種類	貸付件数	貸付金額
生活資金貸付け	75件	37,000千円
物資購入貸付け	79	38,300
教育貸付け	11	10,600
結婚貸付け	6	5,500
海外研修貸付け	3	3,000
自動車購入貸付け	47	77,800
計	221	172,200

(2) 奨学資金貸付け

貸付けの種類	貸付件数	貸付金額
奨学資金貸付け	2件	480千円

第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として郡山宿泊所「ホテルラフィーネ郡山」及び飯坂保養所「あづま荘」を開設しているが、平成14年度における利用状況は次のとおりである。

種別		施設	ホテルラフィーネ郡山	あづま荘
利用者 種別	宿泊		15,982人	22,470人
	宴会	議	26,758	8,447
	結婚	会	26,519	593
	レストラン・休憩・その他	礼	(22組) 1,564	(1組) 100
	計		25,045	135
利用率	宿泊		79,886	31,745
	泊外		64.2%	64.7%
			30.2%	6.9%

第5節 児童手当・特例給付・就学前特例給付

家庭における生活の安定と児童の健全な育成及び資質の向上に資することを目的とする児童手当法に基づき、受給資格者の認定及び支給の状況は次のとおりである。

(1) 児童手当

所 属	13年度未受給対象者数	14年度		14年度未受給対象者数	支払額総額 (14年2月～15年1月) 千円
		新規認定件数	消滅件数		
本庁・教育機関等	14	3	9	8	845
市町村立学校	148	48	25	171	13,685
県立学校	96	11	22	85	6,525
計	258	62	56	264	21,055

(2) 特例給付

所 属	13年度未受給対象者数	14年度		14年度未受給対象者数	支払額総額 (14年2月～15年1月) 千円
		新規認定件数	消滅件数		
本庁・教育機関等	17	12	18	11	745
市町村立学校	610	231	171	670	52,020
県立学校	280	70	71	279	21,550
計	907	313	260	960	74,315

(3) 就学前特例給付

所 属	13 年 度 末 受 給 対 象 者 数	14 年 度		14 年 度 末 受 給 対 象 者 数	支 払 額 総 額 (14年2月～ 15年1月) 千円
		新 規 認 定 件 数	消 滅 件 数		
本庁・教育機関等	56	23	43	36	4,570
市 町 村 立 学 校	1,367	110	188	1,289	99,025
県 立 学 校	636	54	55	635	48,750
計	2,059	187	286	1,960	152,345

第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、平成14年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況

貯蓄種類別契約件数

(平成15年3月31日現在)

	期日指 定期 預 金	金 銭 信 託・貸 付 信 託	公 社 債 投 資 信 託	積 立 保 険	計
	件	件	件	件	件
一般貯蓄	8,614	182	295	891	9,982
年金貯蓄	2,410	133	120	491	3,154
住宅貯蓄	1,492	52	82	212	1,838
計	12,516	367	497	1,594	14,974

契約者数 11,249人

[福利給付事業]

第7節 概 要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、財団法人福島県教職員互助会において、組合員(会員)に対する各種の給付事業を実施した。

短期給付事業については、教職員及びその被扶養者の病気、負傷、出産、死亡もしくは災害等に関する給付を行なった。

短期給付事業の平成14年度における主な改正は、平成14年4月給付分(平成14年2月診療分)から、共済組合の医療費の一部負担限度額(4,000円 10,000円)の引き上げと互助会の医療費基礎控除額(1,200円 2,000円)の引き上げが実施され、さらに平成14年10月から健康保険法の改正により、老人医療制度適用年齢が75歳に引き上げられるとともに、高額医療費の自己負担額限度額の引き上げが実施された。

また、互助会の任意継続会員制度は平成14年4月以降の退職者から廃止された。

長期給付事業については、退職職員等への退職手当の支給及び恩給、共済年金の支給を行なった。

長期給付事業の主な改正点は、恩給は平成14年4月から低額恩給の改善、公務扶助料に係る遺族加算額の引き上げが実

施された。

また、共済組合が支給する共済年金については、物価スライドによる年金額の改定が凍結がされた。

第8節 短期給付

1 共 済 組 合

平成14年度末現在における組合員数は、現職組合員数20,778人(前年同期比236人減)、任意継続組合員510人(同38人減)の計21,288人(同274人減)である。

また、被扶養者数は、23,400人(同93人増)となっている。

平成14年度の共済組合短期給付の給付総額は5,477,254千円で、前年度対比92,697千円の減少となった。総額に占める割合は、法定給付96.07%、附加給付等3.93%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

給付額の減少は、医療費の一部負担限度額の引き上げと、健康保険法の改正による老人医療制度適用年齢、高額療養費の自己負担限度額の引き上げの実施が要因と考えられる。

共済組合短期給付内訳表

法定給付				付加給付			
種別		件数 (件)	給付額 (千円)	種別		件数 (件)	給付額 (千円)
医療給付	本人医療費	166,133	1,901,184	医療給付 その他 の 給 付	家族医療費	4,081	60,234
	家族医療費	176,335	1,645,095		出産費	449	9,356
	高額医療費	1,583	113,652		家族出産費	232	5,906
	薬剤	109,815	528,399		埋葬料	18	450
	看護料・移送料	1	202		家族埋葬料	62	1,550
	小計	453,867	4,188,532		傷病手当金	36	7,521
その他給付	出産費	451	176,838		災害見舞金	12	5,033
	家族出産費	232	73,118		結婚手当金	408	32,640
	埋葬料	18	9,333		入院附加金	1,652	10,559
	家族埋葬料	62	24,253				
	傷病手当金	322	86,843				
	出産手当金	0	0				
	休業手当金	0	0				
	育児休業手当金	5,314	685,445				
	介護休業手当金	75	9,989				
	弔慰金	0	0				
	家族弔慰金	0	0				
	災害見舞金	10	7,684				
小計	6,484	1,073,503					
法定給付計	460,351	5,262,035	附加給付計	6,950	133,249		

一部負担金払戻金	4,443	81,970
短期給付合計(+ +)	471,744	5,477,254

2 互助会

平成14年度末現在の互助会の会員数は19,893人（前年同期比206人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業内訳については次表のとおりで、医療費の基礎控除額の引き上げにより、前年度に比較し給付件数で医療補助金（被扶養者分）39.2%、医療給付金（本人）39.9%が減少した。

(1) 短期給付金

種別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療補助金 (被扶養者)	52,934	117,536
死亡弔慰金	(会員)	13
	(被扶養者)	52
災害見舞金	11	7,880
出産見舞金	(会員)	419
	(被扶養者)	220
計	53,649	162,862

(2) 厚生給付金

種別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療給付金	62,054	138,069
死亡給付金	391	23,764
出産給付金	289	8,670
結婚祝金	373	18,650
入学・卒業祝金	3,434	51,510
入院療養見舞金	3,862	50,230
障害見舞金	182	9,100
在宅療養見舞金	9	450
退職餞別金	691	30,170
介護休暇給付金	75	2,158
災害給付金	1	323
計	71,361	333,094

第9節 長期給付

平成14年度の教職員に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

1 恩 給

(1) 恩給の支給及び受給者数の状況

支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は次表のとおりで、平成14年度末現在の受給者数は602名（前年度同期比64人減）、支給額は1,024,374千円（同123,137千円減）となっている。

学校種別	普通恩給		扶 助 料		退 隠 料		遺 族 扶 助 料		計	
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額
小 学 校	153	320,466	262	389,171	11	14,984	2	1,002	428	725,623
中 学 校	35	80,010	112	189,789	7	8,087	1	1,246	155	279,132
盲・聾 養護学校	0	0	1	1,147	1	231	0	0	2	1,378
高等学校	0	0	0	0	1	773	2	2,810	3	3,583
教育庁 その他	1	1,185	11	11,581	0	0	2	1,892	14	14,658
計	189	401,661	386	591,688	20	24,075	7	6,950	602	1,024,374

裁定及び失権

裁定を受けたもの及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。

(単位：人)

恩給種別	裁 定	失 権	左のうち 完全失権
普通恩給	0	35	35
扶 助 料	9	37	28
退 隠 料	0	0	0
遺族扶助料	0	1	1
計	9	73	64

(2) 恩給年額等の改正

恩給法等の一部を改正する法律（平成14年法律第8号）が平成14年3月31日公布された。

恩給年額等の改定

平成14年度における恩給年額等の改正は、低額恩給の改善、公務扶助料等に係る遺族加算額が引き上げられたものの、それ以外については据え置くこととされた。

普通恩給等の最低保障額

普通恩給 1,132,700円（平成13年度と同額）

扶 助 料 792,000円（ ” ” ）

2 退職手当

(1) 退職手当の裁定及び支給額

退職手当の裁定及び支給額は、次のとおりである。

学 校 種 別	人 員 (人)	支 給 額 (千円)
教育庁・その他	5	160,067
小 学 校	1,040	6,184,741
中 学 校	825	3,748,887
高 等 学 校	793	5,696,047
盲・聾 養護学校	30	94,020
養 護 学 校	180	558,026
計	2,873	16,441,788

(2) 失業者の退職手当

退職手当のうち失業者の退職手当の支給額は、次のとおりである。

学 校 種 別	人 員 (人)	支 給 額 (千円)
教育庁・その他	0	0
小 学 校	7	2,853
中 学 校	8	2,107
高 等 学 校	4	1,539
盲・聾 養護学校	0	0
養 護 学 校	0	0
計	19	6,499

3 退職共済年金

(1) 年金の進達件数

退職共済年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

(単位：千円)

進達区分	旧法による年金		新共済法による年金					計
	退職年金	障害年金	退職共済年金	退職共済年金(特別)	退職共済年金(繰上)	障害共済年金	遺族共済年金	
決定請求	0	0	6	397	0	18	13	434
改定請求	0	0	2	321	0	4	0	327

(2) 支給人員及び支給額

退職共済年金等の支給人員及び支給額（平成14年度末現在）は、次のとおりである。

年金種別		受給者数(人)			平均年齢	平均支給額(円)	支給総額(千円)
		男	女	計			
新共済年金	退職共済年金	5,259	1,582	6,841	70.1	2,271,741	15,540,980
	退職共済年金(特別)	1,435	840	2,275	62.0	2,628,873	5,980,686
	退職共済年金(繰上)	46	258	304	62.8	2,139,076	650,279
	障害共済年金	68	51	119	56.5	1,351,321	160,807
	遺族共済年金	280	2,560	2,840	74.5	1,772,040	5,032,594
	小計	7,088	5,291	12,379	69.3		27,365,346
旧共済年金	退職年金	2,505	3,194	5,699	78.8	3,031,830	17,278,399
	減額退職年金	49	196	245	72.1	2,096,271	513,586
	通算退職年金	17	61	78	82.7	793,567	61,898
	障害年金	56	40	96	67.7	2,508,473	240,813
	遺族年金	46	964	1,010	77.7	1,431,304	1,445,617
	通算遺族年金	1	5	6	81.5	264,083	1,584
	小計	2,674	4,460	7,134	78.3		19,541,897
合計	9,762	9,751	19,513	72.6		46,907,243	

(3) 年金額の改定

「平成14年度における国民年金法による年金の額等の改定の特例に関する法律」の施行により、平成10年の年平均の全国消費者物価指数に対する平成13年の年平均の全国消費者物価指数の比率を基準とする額の改定の措置を講じないこととされたことから、年金の額については据え置くこととされた。

第13章 福島県教育センター

第1節 概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

本年度従来の五つの部を廃して2グループ9チームに組織を改編して推進してきた事業概要は、次のとおりである。

1 調査・研究事業

教育センターの使命、役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待に十分応えられるようにするとともに、本県の教育推進上の課題や今日的な学校教育の在り方に対応するために本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的・実証的な研究を進めてきた。

(1) 教育調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集・分析し、教育センターでの研修や研究の充実を図るとともに、各学校や教育機関等へ提供した。小中学校での新教育課程完全実施の初年度にあたる本年度は「完全学校週5日制実施及び新教育課程実施に関する調査」また、学校のニーズを研修・研究内容に生かすために「教育センター事業に対する意識調査」さらに、特色ある学校づくりに関して各学校が作成している「学校要覧に関する現状調査」を実施し、本県の実態や課題を明確にする試みを行った。

(2) 研究

「学校での様々な実践に生かせる」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実験的な研究を行った。

研究の推進にあたっては、組織を改編して「学校評価研究」「カリキュラム研究」「情報活用研究」の3つの研究チームを組織した。また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究参加者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。

これらの研究成果は、「教育センターWebページ」「研究紀要」「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、平成15年2月7日(金)の「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成14年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を実施した。

基本研修の初任者研修、経験者研修（教職5年経験者）、経験者研修（教職10年経験者）、並びに専門研修（教科指導、道徳教育、特別活動、学校カウンセラー〈基礎・実践〉、不登校研修、総合的な学習の時間、情報教育）と専門研修（学校経営関係、教育研究法）を実施した。平成14年

度の研修講座の実績は、次のとおりであった。

講座数	50講座
講座開設数	80回
講座研修者数	3,020人（延べ人数）
講座開設期間	平成14年5月22日～平成15年2月19日

3 情報教育事業

県内教職員の教育活動を支援するために、学習指導の中で活用できるソフトウェア（以後ソフトと記す）情報の提供を行ってきた。自作ソフトや平成8年度から行っているソフトウェアライブラリーセンター活用事業により、教育用ソフトが4,000本以上収集・展示してある。ソフトの二次情報はコンピュータで検索することができ、実際にソフト内容を見ることが出来る。さらに、ライブラリーセンター内ではソフトの試行も行っている。情報処理技術者（SE）をソフトウェアライブラリーセンターの運営補助で活用し、学校でのコンピュータ利用・活用の推進にも当たった。

また、県が行ううつくしま教育ネットワーク事業（FKS）や国が行っている学校インターネット事業にともなう教育用ネットワークの効果的な活用に関する研修・研究・支援のほか、教育用データベース構築や不適切情報の排除等の教育的支援も行った。更に、教育情報衛星通信ネットワーク整備事業（el-net：エルネット）で配信される教育・文化・スポーツ科学技術等に関する情報を蓄積し、学校・教育庁各課等へビデオ等で再配信を行った。

4 教育相談事業

幼児及び児童生徒の教育上の諸問題について相談を受け、問題の改善・解決を目指した来所相談、電話相談を行った。

例年不登校の相談が上位を占めているが最近LD・ADHD等に関する相談が増加している。また、様々な情報が広がってきている現状から、専門的な診断を願う相談も増えてきている。そのため、委嘱の専門医や心理判定員の助言を得ながら相談を進めている。いずれの相談でも、本人や保護者への支援ばかりでなく、必要に応じて当該校と連絡を取るとともに、関係専門機関との連携も図りながら相談に当たった。

5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・整理に努めるとともに、文献資料利用相談への対応並びに貸し出し等のサービスを行い、教職員の研修・研究活動を援助してきた。

また、教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第136号、137号、138号及び「研究紀要」第32集、「教育研究資料目録」第28集、「生きる力を育てる指導と評価の実践資料集」を発行し、教育実践活動並びに研修・研究への情報を提供してきた。

第2節 調査・研究事業

1 教育調査

- (1) 「完全学校週5日制実施及び新教育課程実施に関する調査」では、完全学校週5日制が実施に移されて間もない6月に全県の小・中・高等学校の校長または、教頭に対して学校としての対応状況を調査した。小学校3年・6年、中学校2年の児童生徒、及びその保護者対象には、完全学校週5日制実施に関する受け止め方等を調査した。

校長または教頭対象（県内全校対象）

- ・小学校 547校 回答者 校長(61.6%) 教頭(38.4%)
 - ・中学校 243校 回答者 校長(66.3%) 教頭(33.7%)
 - ・県立学校 99校 回答者 校長(30.3%) 教頭(69.7%)
- 児童生徒・保護者対象（県内7管内抽出校・回収率100%）
- ・小学校第3学年児童（抽出）486名 同保護者486名
 - ・小学校第6学年児童（抽出）503名 同保護者503名
 - ・中学校第2学年生徒（抽出）545名 同保護者545名
- （計3,068名）

- (2) 今後の教育センター事業の改善・充実を目的に実施した「福島県教育センター事業に関する調査」では、教育センター事業に関する研修のニーズ等を調査し、本県の教職員研修の現状と課題を明確にした。なお、独自に研修機関を持つ中核市は除いた。

校長または教頭対象（中核市を除く県内全校対象）

- ・小学校 412校 回答者 校長(64.8%) 教頭(35.2%)
 - ・中学校 172校 回答者 校長(62.2%) 教頭(37.8%)
 - ・県立学校 99校 回答者 校長(31.3%) 教頭(68.7%)
- 教諭対象
- ・小学校 412校 回答者 30歳代教諭 412名
 - ・中学校 172校 回答者 30歳代教諭 172名
 - ・県立学校 99校 回答者 30歳代教諭 99名

- (3) 「学校要覧に関する現状調査」では、県内公立小・中・高等学校が作成する学校要覧の内容調査を行った。この調査では、平成10年度の教育目標との比較、県内各学校での新教育課程への対応状況等についても合わせて調査し、本県の現状を把握した。

2 研究

- (1) 学校経営改善と学校評価に関する研究

（学校評価研究チーム）

学校評価システムを「学校評価の目的、内容、方法、手順及び結果の活用と学校経営改善までの一連の流れを具体的に組み合わせる」ことととらえ、「開かれた学校づくりの推進」～学校評価システムの構築を通して～を研究テーマとして研究チーム員11名、研究協力校10校、研究参加者24名で取り組んだ。

研究の重点的な内容は次の4点である。

- ア 本県の学校評価に関する現状調査
- イ 学校の情報収集や発信の在り方
- ウ 学校評価のための診断票の在り方
- エ 学校評価結果と学校経営の改善

アは、本県の公立小・中・高等学校全校の校長を対象に、学校評価に関する取り組みの状況について調査・分析を実施し、その結果を教育センターWebページに掲載した。

イ～エについては「学校評価の概要」「学校評価票1」「学校評価票2」を作成して研究協力校、研究参加者に提示し、15校で試行し、その結果をまとめた。

- (2) カリキュラムと評価に関する研究

（カリキュラム研究チーム）

各学校では、基礎・基本を確実に定着させるとともに、一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、確かな学力の向上を目指して、「少人数学習指導」や「習熟度別学習指導」等に取り組んでいる。このような学校の取り組みを支援するために、カリキュラム研究チームでは、A、B2つの班を組織して研究を行った。

研究A班においては、各学校のこのような取り組みの状況について調査・分析し、その成果や課題について明らかにした。

また、研究B班においては、「個に応じた学習指導」の充実のための学習到達度調査の方法やその分析の仕方について研究した。またそれを基に、確かな学力の向上を図るための基礎研究を行った。具体的には次の3つの項目に分けて、上記の研究を行った。

ア これまでの学力到達度調査結果の検証

学力到達度によって全体を5段階のグループに分け、それぞれのグループの学力の把握や学習姿勢を調査分析した。

イ 問題解決能力の育成のための基礎研究

PISA（OECD生徒の学習到達度調査）の調査問題を参考に、問題解決能力を測る試験問題を作成し、生徒の問題解決能力を測定した。

ウ 学習基礎調査結果の分析を基にした学習指導改善

生徒の様々な基礎的データを学力到達度別に分析し、生徒の実態を把握した。

- (3) ネットワークの教育的活用に関する研究

（情報活用研究チーム）

本県における教育の情報化の実態とネットワークの教育的活用に関する課題を把握するために、公立の学校を対象に「福島県の情報教育の実態等に関する調査」を実施した。調査結果を受け、研究テーマを「生きる力を育てる教育の情報化」～主体的に学び考え表現できる児童生徒を育む教育用コンテンツとその活用～と定め、3つの柱で研究に取り組んだ。

ア 地域コンテンツの開発

市町村および博物館等に協力を依頼し、数万点に及ぶ地域素材を収集するとともに、画像や映像等をデジタル化し、「ふくしま教育情報データベース」に蓄積し、地域コンテンツとして公開した。（<http://www.fks.ed.jp/DB/>）

イ 教材レシピの開発

ITを活用したわかりやすい授業のモデルとして、地域コンテンツやインターネット上の教育情報を活用する授業展開事例を教材レシピとして11の教科・領域で開発するとともに、7回の授業実践を行い改善を図った。

ウ 新教科「情報」に関する実態調査

高等学校における教科「情報」の目標を達成するため、教育センターとしての「学校への支援の在り方」「授業担当者への情報提供の在り方」「研修の在り方」を検討するための実態調査を行った。

第3節 研修事業

教育センターにおける教職員研修は、基本研修と専門研修に位置付けられ、それぞれ次のとおり実施した。

1 研修講座の概要

(1) 基本研修は、小学校・中学校・高等学校とも初任者、教職5年経験者・教職10年経験者を対象として実施した。

初任者研修の内容は、教科指導、情報リテラシー、生徒指導・教育相談及び教職一般に関するものなどで、小・中学校は2泊3日を1回、高等学校は「教職員のサービスと勤務」及び「教育経営と授業」を加え、前期・後期の2回、2泊3日の日程で実施した。

経験者研修及び経験者研修は、教科の特性を生かした指導法など経験年数を踏まえた内容で、1泊2日で実施した。また、高等学校経験者（後期）は、生徒指導・教育相談の研修を1泊2日で実施した。

(2) 専門研修は、個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校カウンセラー（基礎・実践）、不登校研修、総合的な学習の時間、道徳教育実践（小・中）、特別活動実践（小・中）、理科（小・中・高）、オーラル・コミュニケーション（中・高）、中学校技術・家庭、高等学校芸術（音楽、美術・工芸）、高等学校理科実習助手実技及び校長を対象とする学校教育相談運営の各講座を実施した。

(3) 専門研修は、教科等の指導力の深化や全校的・経営的視点に立って、学校教育全般の充実や学校経営に関する研究や指導力の向上を図るため、学校経営(A)・(B)、教育研究法講座を実施した。

2 研修講座

(1) 平成14年度研修講座数・受講者数

講座数	基本研修			専門研修		計
	初任者研修	経験者研修	経験者研修			
講座数(延べ数)	3 (4)	3 (10)	3 (11)	38 (46)	3 (9)	50 (80)
延べ受講者数	290	497	613	1,333	287	3,020

(2) 平成14年度研修講座実施状況

基本研修

講座名	班	期日	受講者数		
初任者研修	小学校	1月29日 ～1月31日	73		
	中学校	1月15日 ～1月17日	50		
	高等学校	(1次) 6月5日 ～6月7日 (2次) 2月12日 ～2月14日	167		
経験者研修	小学校	2	10月15日 ～10月16日 10月21日 ～10月22日	110	
		中学校	3	9月9日 ～9月10日 9月30日 ～10月1日 10月7日 ～10月8日	150
	高等学校		1(前期)	9月9日 ～9月10日	41
			2(前期)	9月30日 ～10月1日	45
		3(前期)	10月7日 ～10月8日	33	
		1(後期) 2(後期)	11月5日 11月7日	60 58	
	経験者研修	小学校	1	6月17日 ～6月18日	86
2			6月24日 ～6月25日	87	
3			7月1日 ～7月2日	87	
中学校		1	10月28日 ～10月29日	47	
		2	11月18日 ～11月19日	40	
		3	11月25日 ～11月26日	48	
		4	12月2日 ～12月3日	35	
高等学校		1	10月28日 ～10月29日	38	
	2	11月18日 ～11月19日	47		
	3	11月25日 ～11月26日	31		
	4	12月2日 ～12月3日	67		

専門研修

講 座 名		期 日	受講者数
校 種 共 通 (小・中・高・盲・聾・養)	中学校・高等学校国語講座	10月3日 ～10月4日	24
	中学校・高等学校数学講座	9月19日 ～9月20日	23
	中学校・高等学校英語講座	9月24日 ～9月25日	24
	小・中情報教育講座 (アプリケーション活用)	7月8日 ～7月9日	43
	小・中情報教育講座 (ホームページデザイン)	1月22日 ～7月24日	39
	小・中情報教育講座 (マルチメディア活用)	6月27日 ～6月28日	41
	小・中情報教育講座 (表計算・データベース)	12月5日 ～12月6日	40
	小・中情報教育講座 (Visual Basic)	9月25日 ～9月27日	30
	1 班 小・中情報教育講座 (インターネット技術) 2 班	11月13日 ～11月15日 11月20日 ～11月22日	29 32
	前期 情報教育研修講座 中期 後期	6月20日 ～6月21日 9月17日 ～9月18日 10月31日 ～11月1日	19 17 17
	1 班前期 2 班前期	5月30日 ～5月31日 6月13日 ～6月14日	52 51
	1 班中期 2 班中期	8月28日 ～8月30日 9月4日 ～9月6日	52 51
	1 班後期 2 班後期	1月20日 ～1月21日 1月27日 ～1月28日	52 51
	不登校等生徒指導講座	5月23日 ～5月24日	74
	学校教育相談運営講座	7月29日 ～7月30日	30
中学校・高等学校オーラル・コミュニケーション講座	6月20日 ～6月21日	24	
中学校・高等学校「総合的な学習の時間」講座	10月17日 ～10月18日	39	
小学校(小・盲・聾・養)	1 班 小学校道徳実践講座 2 班	10月2日 ～10月3日 10月10日 ～10月11日	29 29

講 座 名		期 日	受講者数	
小学校(小・盲・聾・養)	県北 小学校地区別理科現地講座 県南	5月15日 ～5月16日 5月22日 ～5月23日 5月29日 ～5月30日	22 16 22	
	会津 小学校特別活動実践講座	9月12日 ～9月13日	25	
	小学校「総合的な学習の時間」講座	7月8日 ～7月9日	32	
	中学校(中・盲・聾・養)	中学校道徳教育実践講座	10月24日 ～10月25日	29
	中学校理科講座	6月26日 ～6月27日	24	
高等学校(高・盲・聾・養)	中学校技術・家庭科講座	7月8日 ～7月9日	12	
	中学校特別活動実践講座	9月19日 ～9月20日	25	
	高等学校芸術科(音楽)講座	11月14日 ～11月15日	14	
	高等学校芸術科(美術・工芸)講座	9月24日 ～9月25日	7	
	高等学校理科講座(物理・化学・生物・地学)	10月16日 ～10月17日	21	
	高等学校家庭科実技講座	11月11日 ～11月12日	8	
	高等学校理科実習助手実技講座	9月17日 ～9月18日	8	
	高等学校情報教育講座 (ホームページデザイン)	2月17日 ～2月19日	18	
	高等学校情報教育講座 (プログラミング言語)	10月9日 ～10月11日	13	
	高等学校情報教育講座 (表計算・データベース)	9月11日 ～9月13日	26	
高等学校情報教育講座 (アプリケーション活用)	8月28日 ～8月30日	18		
高等学校情報教育講座 (マルチメディア活用)	10月21日 ～10月23日	21		
高等学校情報教育講座 (インターネット技術)	11月27日 ～11月29日	29		
学校教育相談基礎講座	7月25日 ～7月26日	35		

専門研修

講座名		期日	受講者数
校種共通 (小・中・高・盲・聾・養)	学校経営講座(A)	前期 6月13日 ～ 6月14日	32
		中期 8月28日 ～ 8月30日	32
		後期 1月20日 ～ 1月21日	32
	学校経営講座(B)	前期 6月20日 ～ 6月21日	32
		中期 9月25日 ～ 9月27日	32
		後期 1月23日 ～ 1月24日	32
	教育研究法講座	前期 6月27日 ～ 6月28日	32
		中期 9月2日 ～ 9月4日	32
		後期 1月27日 ～ 1月28日	31

第4節 情報教育事業

ネットワークシステム（クライアント・サーバー型）による公立小・中・高等学校・養護学校の情報教育教員研修の概要は以下のとおりである。すべての講座は、授業に役立つ教材作成や校務処理の効率化を目指したものである。

入門者を対象とした講座

- ・アプリケーション活用（小中高養護）
インターネットを活用するための講座
- ・ホームページデザイン（小中高養護）
- ・インターネット技術（小中高養護）
デジタル教材を製作する講座
- ・マルチメディア活用（小中高養護）
校務の効率化を目指す講座
- ・表計算データベース（小中高養護）
言語学習を通して教材作成を目指す講座
- ・Visual Basic（小中高養護）
- ・プログラミング言語（高養護）
多くの人が活用可能な教材作成を目指す講座
- ・情報教育研修（小中高養護）

更に、管理職教員を対象に「情報教育」の意義や重要性を、国・県の情報教育施策とともに講義した。

また、他課の依頼により、学校事務職員や学校栄養職員を対象に「コンピュータの活用方法」の講座や平成15年度から実施される新教科「情報」授業担当予定者に対する現職教員等講習会の開催に協力した。

利用区分	講座数	利用日数	実人数	延べ人数	
教育センター研修	33	79	1,073	3,646	
講座	専門研修	14	43	512	1,206
	基本研修	6	9	287	841
	上記以外	6	6	80	480
教育庁研修	7	21	194	1,119	
教育振興課	3	17	109	949	
教育指導課	2	2	50	100	
スポーツ健康課	2	2	35	70	
養護教育課	0	0	0	0	
合計	40	100	1,267	4,765	

第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による相談を受けている。

今年度の相談の概要は、以下のとおりである。

1 対象別

来所相談件数・人数、電話相談回数

対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談では、本人自身と直接相談するケースが多いが、電話相談では、主に保護者・教員との相談が多い。

種別	対象	幼	小	中	高	一般	計
		来所相談	件数	7	158	17	8
	人数	9	199	19	9	73	318人
電話相談	回数	9	159	21	34	120	411回

2 区分別

来所相談件数・人数、電話相談回数

種別	対象	知能学業	性格行動	身体神経	進路適性	教育一般	その他	計
		来所相談	件数	7	158	17	8	63
	人数	9	199	19	9	73	9	318人
電話相談	回数	9	159	21	34	120	68	411回

3 地区別来所相談件数

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	その他	計
86	43	18	29	6	33	47	0	262件

4 月別相談人数・回数

月 種別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所 相談	14	18	122	10	6	117	5	7	7	7	1	4	318人
電話 相談	68	51	45	36	27	49	26	25	31	25	22	6	411回

第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や所報「窓」、実践事例集を刊行した。

1 教育図書・教育資料の収集

教育図書購入冊数	128冊
寄贈教育図書等（VTRを含む、教科書は除く）	41冊
定期刊行図書購入冊数	40冊
研究紀要寄贈冊数	556冊
恵贈定期刊行物数	11冊

2 教育資料の刊行

研究紀要	第32集
所報ふくしま「窓」	第136号～第138号
教育研究資料目録	第28集
実践事例集	

第14章 福島県養護教育センター

第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・研究、図書・資料の収集・提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

本年度は、障害の重度・重複化、多様化への対応、早期からの教育的支援、通常学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援、情報教育の浸透等に伴う理解推進等、それぞれのニーズに応じた事業の充実に努めてきた。

1 教育相談事業

障害等の心配のある乳幼児・児童生徒についての養育・教育・就学及び進路等に関する教育相談を行った。保護者、幼稚園・保育所、学校、市町村教育委員会等からの相談依頼に対し、面接、行動観察、心理検査等を行い、必要に応じて嘱託医や専門機関との連携を図り、来談者の思いや願いに寄り添い、専門的・総合的観点から教育相談を進めた。

センター来所教育相談受理件数は280件（昨年度比83%）延べ相談件数は873件（昨年度比60%）であり、相談件数がやや減少した。障害種別による相談件数の内訳は、昨年度同様、情緒障害（特に不登校、学習障害、注意欠陥多動性障害）についての相談が多く、相談件数全体の約6割を占めた。また、不登校の相談の中には、学習障害や注意欠陥多動性障害等に起因していると思われるケースが少なくなかった。

障害のある乳幼児に対する早期からの相談の充実にめざし医療、保健、福祉、教育が一体となった相談支援システム作りを、昨年度に引き続き、重点事業として取り組んだ。「早期教育相談地域推進会議」を県内4会場で年2回実施し、県内9町村からの参加を得て、各機関の情報交換やケース会議、協議を行った。参加者は、町村保健センター保健師、幼稚園・保育所職員、小学校特殊学級担任・通級指導教室担任、盲・聾・養護学校教員、当センター所管の地域相談室相談員、町村教育委員会職員、教育事務所指導主事、養護教育課指導主事等であった。なお、3年間にわたる本事業については研究紀要第17号に実践報告としてまとめた。

2 教職員研修事業

養護教育担当教職員を主な対象として、障害児をとりまく社会の変化や多様なニーズを踏まえ、養護教育全般に関する基礎研修と障害の種別に関する専門研修の講座を設けた。また、通常学級において特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への教育的対応を図るための専門的知識・技能についての研修を実施した。

15の専門研修講座の総受講者は288名、基本研修講座の総受講者は127名（経験者研修93名、初任者研修34名）、職能研修講座（特殊教育新任担当教員79名、訪問教育担当教員10名、実習助手24名）の総受講者は113名であった。また、研修の機会を広く多くの教職員に提供するため実施した公開講座（4講座）の聴講者総数は136名であった。

3 教育調査・研究事業

本県が当面している養護教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の調査・研究等を行った。

プロジェクト研究「子どもの心と向き合う教育実践に関する研究」（三年次）は、昨年度に引き続き、「教室」における教師と子どもとの関係に着目し、教師が子どもたちの心の表れをどのように読みとり、どのようなかかわりを持つようとしていたのかについて、授業者の内省や学習会を通して確かめ整理を行い、三年間の研究成果をまとめた。

実践・研究支援は、個別の指導計画作成に関する各学校における研究支援と小学校における養護学校との交流教育の実践に関する支援を行った。

長期研究員等研究は、「教育相談」「盲教育」「カリキュラム」「通常学級担任支援」の領域で、今日的課題解決に向けた研究を行い、その成果をまとめた。

これらの調査研究の成果は、研修講座や教育相談に反映させるとともに、研究紀要第17号として刊行し、併せて第17回研究発表会において発表した。

4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県養護教育の中心的施設としての機能の充実にめざして広く養護教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備、充実に図った。

本年度は、特に養護教育に関する図書の充実と教育資料の収集、Webページによる紹介、コンピュータによる簡易検索機能の利用を推進した。また、養護教育に関するビデオコーナーの充実に図った。

なお、3月末日現在での養護教育関係図書の蔵書数は6,908冊、逐次刊行物28種、教育資料数181点である。

5 広報・啓発事業

養護教育に関する情報や資料及び当センターの事業内容の紹介を定期刊行の広報誌や各種発行物として、教職員や関係諸機関等に配付し、養護教育に対する啓蒙・啓発の推進を図った。主な事業として、「所報 養護教育55号」、「研究紀要第17号」等の発行を行った。また、「就学相談の日相談」におけるリーフレットの作成や「教育福島」・各教育事務所広報紙等への広報を通して理解・認識を深めるよう広報活動を行った。

6 情報教育事業

特別な配慮を必要とする児童生徒の情報機器活用について、一人一人に合わせた入力装置や周辺機器等の設定や、学習支援ソフトの開発等総合的な研究を行った。

情報通信ネットワークの活用を目指し、養護教育センターWebページを運営管理し、事業の概要を紹介するとともに、養護教育フリーソフトウェアライブラリの公開及びダウンロード

ドサービスを実施した。

第2節 障害児の教育相談事業

1 相談対象

対象は、障害のあるまたはその心配のある乳幼児・児童・生徒であり、相談の種類は次のとおりである。

- 視覚にかかわる相談
- 聴覚にかかわる相談
- 知的発達にかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談
- 重複した障害にかかわる相談
- 病弱虚弱にかかわる相談
- 言語にかかわる相談
- 情緒にかかわる相談

2 形態

(1) 来所相談

電話等での申し込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話による相談も行った。

(2) 地域相談室相談

県内3か所に地域相談室を設置し、各障害の相談に応じられるよう相談員を委嘱した。地域相談室では、来室による相談と電話による相談を行った。

(3) 「就学相談の日」相談

ア 事業内容

障害児の発達状況や教育措置に対する正しい認識が得られるように、地域相談室を会場にして地域相談室相談員や養護教育センター所員による就学相談を実施し、適正就学に関する啓発活動の充実を図った。

- イ 相談件数 25件
- 県北地域相談室 7件
- 会津地域相談室 7件
- 浜通り地域相談室 11件

<地域相談室>

設置場所	所在地並びに電話番号
県北地域相談室 (県立聾学校福島分校内)	〒960 - 8002 福島市森合町6 - 34 ☎024 (531) 5013
会津地域相談室 (県立聾学校会津分校内)	〒965 - 0006 会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原102 ☎0242 (22) 1286
浜通り地域相談室 (県立聾学校平分校内)	〒970 - 0116 いわき市平馬目字馬目崎61 ☎0246 (34) 2202

3 現状と課題

不登校や学習障害・注意欠陥多動性障害のある、またはその心配のある「情緒にかかわる相談」が増加した。その多くは小中学校通常学級に在籍している子どもの相談であり、特別な教育的支援の必要があった。そのため、学校(担任)に具体的な支援策を提供することができるよう相談の充実を図った。今後は、学校の要請に応じて出かける相談の充実が求められる。

また、早期からの教育相談を機能させるために、早期教育相談地域推進会議を開催し、学校、教育委員会、保健センター、幼稚園(保育所)等関係機関との情報交換と、より密接な連携を図った。今後は、県心身障害児総合療育センターとの連携を一層図りながら、各関係機関が相互に機能し合う相談ネットワークづくりに向けた取り組みが必要である。

各地域相談室は、各地域の特質を踏まえた相談業務にあたった。地域相談室の相談件数は増加しており、今後ますます、各盲聾養護学校が地域の養護教育のセンターとしての役割を期待される中、先導的な役割を担えるような体制を作る必要がある。

<年齢・学校別相談件数>

形態	年齢・学校	乳幼児(歳)		小学校(年)						中学校(年)			高等学校(年)			一般他	計
		0~4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
来所相談	実件数	30	35	33	23	24	18	27	31	13	12	9	11	5	5	4	280
	延件数	106	91	79	100	50	69	103	85	79	21	11	36	9	18	16	873
地域相談	実件数	103	120	28	12	15	25	23	44	21	19	41	1	1	3	17	473
	延件数	707	303	86	47	60	49	55	164	88	59	130	4	6	8	37	1,803
計	実件数	133	155	61	35	39	43	50	75	34	31	50	12	6	8	21	753
	延件数	813	394	165	147	110	118	158	249	167	80	141	40	15	26	53	2,676

〈障害種別相談件数〉

形態	障害	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱	言語障害	情緒障害	重複障害	その他	計
		来所相談	実件数	5	12	66	13	3	15	165	1
	延件数	14	40	153	29	3	85	548	1	0	873
地域相談	実件数	32	17	159	27	78	15	103	25	17	473
	延件数	158	230	392	52	171	7	470	227	66	1,803
計	実件数	37	29	225	40	81	30	268	26	17	753
	延件数	172	270	545	81	174	122	1,018	228	66	2,676

〈地区別相談件数〉

形態	地区	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	その他	計
		来所相談	217	472	100	34	3	29	9	9
地域相談		756	38	36	584	30	170	179	10	1,803
計		973	510	136	618	33	199	188	19	2,676

第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上をめざし、講座内容の一層の充実を図った

- (1) 専門研修講座を15講座行った。内、4講座は受講者のニーズに応じたコース制の導入を図った。
- (2) 講座を講義や演習、実技、協議などで構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。受講者自らが指導上の課題に気づき、その解決に主体的に取り組むことができるような研修内容

にした。

- (3) 養護教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的に実践している教員などを招へいして内容等の充実を図った。
- (4) 調査研究や教育相談等の成果を生かし、養護教育に関する専門的知識・技能の習得や視野の拡大を図られるようにした。
- (5) 専門講座を公開講座として4講座実施した。受講者は136人にのぼり、受講者のニーズの高さに応えることができた。

教職員の研修講座

(1) 専門研修

講座名	区分	期間	受講者数(人)
養護教育研究実践研修講座 実践力UPコース 教育相談力UPコース	前期 中期 後期	6月10日～6月11日 9月9日～9月10日 12月4日～12月5日	7 (実践力UP 5) (教育相談力UP 2)
視覚障害児の教育研修講座		6月13日～6月14日	7
自閉症児の教育研修講座	公開講座	6月18日～6月20日	30 24
学習障害児等の教育研修講座	公開講座	6月25日～6月27日	22 54
肢体不自由児の教育研修講座		7月2日～7月4日	11
障害幼児早期教育研修講座		7月24日～7月26日	25
障害児教育相談研修講座		8月28日～8月29日	19
心理アセスメント研修講座 WISC-コース K-ABCコース		9月18日～9月20日	26 (WISC- 17) (K-ABC 9)
重度・重複障害児の教育研修講座		9月25日～9月27日	13
知的障害児教科指導研修講座 国語コース 算数・数学コース		10月2日～10月3日	30 (国語 17) (算数・数学 13)

講 座 名	区 分	期 間	受講者数 (人)
障害児教材・教具実技研修講座		10月8日～10月10日	19
領域・教科を合わせた指導研修講座 「生活単元学習」	公開講座	10月23日～10月24日	21 28
子どもの心と体のケア教育研修講座	公開講座	10月30日～10月31日	18 30
養護教育基礎研修講座 通常学級コース 養護教育コース		11月7日～11月8日	31 (通常学級 5) (養護教育 26)
障害児情報教育指導者研修講座		11月19日～11月21日	9
計	公開講座		288 136

(2) 基本研修

講 座 名	区 分	期 間	受講者数 (人)
盲・聾・養護学校初任者研修 基本研修		4月17日～4月18日	34
盲・聾・養護学校初任者研修 カウンセリング研修		5月15日～5月16日	34
盲・聾・養護学校初任者研修 宿泊研修(一次研修)		7月29日～7月31日	33
盲・聾・養護学校初任者研修 情報教育研修	A 班 B 班	8月19日 8月20日	17 17
盲・聾・養護学校初任者研修 宿泊研修(二次研修)		1月28日～1月30日	33
盲・聾・養護学校経験者研修		5月29日～5月31日	42
盲・聾・養護学校経験者研修		9月3日～9月5日	38
盲・聾・養護学校経験者研修 「コンピュータに関する研修」	1 班 2 班	10月16日 10月17日	20 18
盲・聾・養護学校経験者研修		8月6日～8月8日	13
計			127

(3) 職能研修

講 座 名	区 分	期 間	受講者数 (人)
特殊教育新任担当教員研修会		6月5日～6月7日	79
訪問教育担当教員講習会		8月21日～8月22日	10
盲・聾・養護学校実習助手研修会		8月2日	24
計			113

第4節 教育調査・研究事業

教育相談・研修・研究機能の充実及び各学校における教育実践の発展を図ることを目的として調査・研究を推進した。

1 プロジェクト研究

「子どもの心と向き合う教育実践に関する研究」(三年次)

- 子どもの心と向き合う教育実践の創造 -

本研究では、第一年次に障害のある子どもの教育に携わっている教師が子どもの心とどのように向き合っているのか、その現状を明らかにするための意識調査を実施し、第二年次にはその調査を踏まえて、教師が普段の教育実践の中でどのように子どもの心を理解しているのか、その在り様の構図化を試みた。

本研究最終年次の今年度は、第二年次の子どもの心を理解する“三つの基本構図”を見据えながら、教師が子どもたちの心の現れをどのように読みとり、どのようなかかわりを持つとうとしていたのかについて教師の内省や学習会を通して確かめ整理した結果、教師の“子どもの心を理解する”営みが、子どもと教師の関係を構築する過程であるということが明らかになった。

本研究を通して、教師が子どもの心と向かい合う教育実践を創造していくためには、教師間における普段の教育実践の共有化が大切であることが確認された。

2 長期研究員・研修員研究

(1) 子どもや保護者の気持ちに寄り添うことを大切にされた教育相談の在り方

- 2組の親子とのかかわり合いを通して -

長期研究員 柳 沼 哲

当センターに継続的に来所する2組の親子の教育相談を同時に進め、子どもと相談担当者のかかわり合いを保護者にも実際に見てもらうことにより、保護者への具体的な支援を行った。また、保護者同士が話し合い、子育てを振り返る機会を設定した。そこから子どもや保護者の気持ちに寄り添う教育相談の在り方について検討した。

(2) 視覚障害児が主体的に活動できる援助の在り方(二年次)

- 子ども・保護者・教師～遊びを通じたかかわり合いの中から -

長期研究員 橋 本 淳 一

身近な屋外遊びの場において、子どもは意欲や不安をどのような場面でどう表しているのか。そして、かかわり手はそれをどう受け止め、どのようにかかわればよいのか。これらのことについて、兄弟、保護者、教師それぞれとの遊びを通して明らかにすることを試み、場面ごとに整理した。

(3) 教育的ニーズに関する一考察

- 「個別の指導計画」に関する課題の整理と考察を通して -

長期研究員 大 槻 孝 昭

「子どもにできるようになって欲しいこと」として記述された「保護者の願い」や「個別の指導計画」に教師が設定した「指導目標」を、「教育的ニーズ」の視点から集約・

整理した。また、先生方に対して「個別の指導計画」の作成と活用上の課題や改善点についてのアンケート調査を実施し、「教育的ニーズ」の把握とそれに対する教育的支援のあり方を考察した。

(4) 教育相談ニーズを持つ学級担任へのコンサルテーション機能を生かした支援の試みについて

- 特別な教育的支援を必要とする児童・生徒が在籍する通常学級及び特殊学級担任への支援をもとに -

研修員 佐 藤 由 弘

ADHD等特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍する通常学級の担任、及び特殊学級担任との教育相談を通して、コンサルテーションの具体的な流れ、問題をとらえる視点、コンサルテーションに必要な条件等を明らかにし、特別支援教育コーディネーターの役割と可能性について考察した。

第5節 教育図書・資料の収集・提供事業

1 教育図書・資料の収集・整理

教育図書については、養護教育に関する専門図書の充実に努め、本年度40冊の新規購入及び寄贈の結果、蔵書数は6,908冊になった。その種類は、障害児の教育関係図書が1,364冊その他の図書が5,544冊である。障害児関係図書については、利用しやすいように障害別(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害等)に配架している。また、利用者自身が簡単に検索できるデータベースを作成し、利用者の利便を図った。

2 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は28種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

3 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、収集した181冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

第6節 広報・啓発事業

1 所報「養護教育」(55号)

(1) 内 容

提 言「障害教育の実践が子どもを照らす光となるとき」

福島大学大学院 教授 中田洋二郎

特 集「早期からの教育の充実」

(2) 規格、ページ、部数

規 格 A4判

ページ数 16ページ

部 数 1,800部

2 研究紀要「第17号」

(1) 内 容

プロジェクト研究「子どもの心と向き合う教育実践に関する研究」(第三年次)

- 子どもの心と向き合う教育実践の創造 -
- 事業報告「早期教育相談地域推進会議を終えて」
- 平成12年度から3年間の実践報告 -

(2) 規格、ページ、部数

規 格 A4判
ページ数 47ページ
部 数 1,000部

3 「就学相談の日」相談実施案内(ポスター、リーフレット)

(1) 内 容

相談の期日・場所、相談の方法、相談の申し込み、地域相談室の案内等

(2) 規格、ページ、部数

規 格 ポスター A3判
リーフレット A4判

第7節 情報教育事業

1 養護教育における情報教育の研究

児童生徒の学習支援及びコミュニケーション支援を目的としたソフトウェアの開発研究を行い、知的障害児の初期的な学習支援ソフトを開発した。

2 情報機器活用推進

研修講座を中心に、障害種や児童生徒一人一人の状況に合わせた機器設定(代替キーボード、代替マウス等ハードウェアの設定、コミュニケーション支援、文字入力支援ソフトの設定、周辺機器等の設定)等を行った。

3 情報教育ネットワーク活用

養護教育における情報発信基地として本センターWebページの運営管理を行った。

- ・本センターWebページアクセス件数
.....10,890件(平成15年3月10日現在)
- ・養護教育フリーソフトウェアライブラリアクセス件数
.....10,942件(平成15年3月10日現在)

4 情報教育普及

養護教育フリーソフトウェアライブラリの内容の充実を図った。

- ・養護教育フリーソフトウェアライブラリ収集ソフト数
.....1,034件(平成15年3月10日現在)

第15章 福島県立図書館

第1節 概要

1 運営方針

県民の生涯にわたる多様な学習活動と調査研究に資するため、計画的に資料及び情報の収集整備を図るとともに、「図書館の図書館」として県立図書館情報ネットワークシステム等により県内公共図書館への協力支援機能の充実を図り、また、同図書館等との緊密な連携を促進し、県民に情報化時代に即応した図書館サービスの推進に努めた。

(1) 企画・管理機能の強化、充実

図書館をとりまく大きな環境変化、IT化の急速な進展に対応した企画機能及び管理機能を充実強化して図書館サービスの向上に努めた。

(2) 県立図書館情報ネットワークシステム整備

県民の価値観の多様化、少子・高齢化の進行に伴い、多様な学習活動の支援、図書館ニーズに応える情報ネットワークシステムの整備を行い、図書館運営の迅速化・効率化を図るとともに、県内公共図書館間の情報ネットワーク化の推進に努めた。

(3) 館内資料情報提供サービスの充実

ア 調査相談業務の強化

利用者の調査研究を効果的に援助するため、主題別閲覧体制の充実強化とともに、各種調査相談に迅速的確に対応するため、新たに電子メール利用による調査相談を受け付けた。また、二次資料の整備にも努めた。

イ 相互貸借の推進

図書館資料の利用機会を拡充するため、県内外図書館等との連携を密にし、積極的な相互貸借による必要資料の提供に努めた。

(4) 協力事業の効率的な運営

ア 職員研修の充実

県内の図書館関係職員について専門職員としての資質の向上を図るため、研修の充実に努めた。

イ 読書活動指導者の養成

県内各地にひろがりを見せている読書活動の輪を育て、地域における読書活動指導者の養成に努めた。

ウ 協力車事業の推進

県立図書館と他の公共図書館とのサービス業務等の連絡調整、並びにサービスの拡大を図り、図書館のネットワークの確立と機能強化に努めた。

(5) 図書館資料情報の収集・整備

各部門の基本図書・参考図書について、計画的に収集を行い整備充実に努めた。

特に地域（郷土）資料については悉皆収集に努めその利用促進に努めた。

(6) 子どもの読書活動の推進と支援

市町村図書館、公民館図書室に対し、その求めに応じて児童サービスのあり方、運営の相談に応じ、併せて研究資

料の収集を充実させ、これら職員の研究学習の場を提供した。

さらに市町村図書館との相互連携を一層強化し、学校図書館活動を側面より支援するとともに地域・親子読書文庫の育成を図り、子どもの読書習慣の形成を支援した。

2 図書館協議会

(1) 図書館協議会委員名

[任期：平成13年9月1日～平成15年8月31日]

氏名	所属団体等名(役職名等)
中田 スウラ	福島大学教育学部教授
二宮 和比古	郡山女子大学短期大学部教授
佐藤 典夫	福島県高等学校長協会(福島南高校長)
金澤 武男	福島県中学校長会(県北地区：渡利中学校長) (平成14年6月4日就任)
菅野 源太郎	福島県公民館連絡協議会(梁川町中央公民館長) (平成14年6月4日就任)
鈴木 慎一	白河市立図書館(館長)
井原 達夫	日本放送協会福島放送局(局長)
斎藤 直子	国際ソロプチミスト福島
木村 瑠子	公募
豊増 良子	公募

(会長) 中田スウラ (副会長) 佐藤典夫

(2) 会議

ア 第1回 平成14年6月18日 於：県立図書館(議題等)

- ・福島県立図書館運営方針及び事業概要について
- ・平成13年度利用状況について
- ・福島県立図書館協議会の会議運営に関する規程の改正について
- ・図書館の組織改正について

イ 第2回 平成14年11月29日 於：県立図書館(議題等)

- ・福島県立図書館協議会規程について
- ・平成14年度上半期利用状況について
- ・平成15年度当初予算について

第2節 資料の収集・整理

県民からの専門的資料要求に対応するために、多様な分野の基本資料の収集と迅速な整理に努めた。

1 一般資料の収集

今年は国連文化遺産年だったので、世界遺産関係図書の充実を図った。また、人文科学・社会科学・自然科学の各部門

ごとに、基本図書の収集に努めた。

2 地域資料の収集

県人著作も含め福島県に関する資料の網羅的収集を方針に、本年も電子メールを活用し、県発行行政資料の充実に努めた。

3 視聴覚資料の収集

飯野家文書や会津の民話、福島県研究者データベースのCD-ROMやCDなど、地域関連のものを中心として収集した。

4 児童資料・研究資料の収集

児童及び児童図書を研究する利用者のために、子ども達に読んで欲しいと願った図書・課題図書・各種受賞図書、郷土出身作家・画家の作品及び総合的な学習に対応した参考図書を中心に収集した。

研究資料については、児童図書研究のための参考図書、児童文学や絵本についての作家論・作品論を中心に収集した。また、子ども向けの新聞や雑誌、研究用の雑誌も昨年に引き続き収集した。

5 逐次刊行物の収集と整備

利用者の多様な要望に対応すべく、各分野の定評ある雑誌を収集し、資料の充実に努めた。

新聞については、地元紙、中央紙、専門紙の収集保存に努め、大正期の新聞と地元紙のマイクロフィルム化を進めることにより、保存性を高め、汚・破損防止に努めた。

[表1] 平成14年度逐次刊行物受入整理状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈	計
新聞	29	66	95
雑誌	242	818	1,060
官報等	3	0	3
計	274	884	1,158

[表2] 平成14年度資料の受入状況

(単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	7,007	1,661	8,668
地域・行政資料	1,196	9,850	11,046
児童図書	1,702	2,382	4,084
児童図書研究室資料	504	323	827
館外用図書	3,796	1,999	5,795
計	14,205	16,215	30,420

第3節 館内奉仕

インターネット閲覧用の端末を8台設置し、利用者が自由に情報収集できるようにした。館内で持参パソコンを使用できるように電源を提供したり、照明の改善や防犯用ミラーを設置するなど、快適な利用環境の整備を図った。

1 調査相談

従来の電話や文書による依頼に加えて、電子メールによる調査相談も徐々に増加しており、それらに的確に対応できるよう参考図書の充実と職員の研修に努めた。

その結果は総件数18,988件であった。

[表3] 記録された参考質問の分析

(単位：件)

区分	口頭	電話	文書	FAX	Eメール (含掲示板)	小計	
一般	人文	1,793	1,052	17	3,058	39	5,959
	社会	1,695	488	23	139	6	2,351
	自然	1,156	124	2	23	10	1,315
	小計	4,644	1,664	42	3,220	55	9,625
地域	3,319	664	74	149	56	4,262	
逐次刊行物	1,650	363	6	94	10	2,123	
小計	9,613	2,691	122	3,463	121	16,010	
児童	2,711	259	0	2	6	2,978	
合計	12,324	2,950	122	3,465	127	18,988	

2 館内奉仕

ノーベル賞関係やサッカーの世界カップ関係などの時事に合わせた図書のコーナーを設置し、資料の紹介と利用の振興を図った。また、利用者からの要望を把握し、館内サービスに反映するよう努力した。

3 館外個人貸出

今年度から、館外個人貸出冊数を一度に10冊まで(従来は5冊まで)に変更し、利用者の便宜を図った。また、予約制度やリクエスト制度の利用の推進にも努めた。

館外貸出利用者数は、56,182人であった。

[表4] 館外個人貸出利用冊数

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	3,823	2.1	語学	2,594	1.4
哲学宗教	5,706	3.1	文学	22,872	12.6
歴史地理	9,360	5.2	地域資料	5,707	3.2
社会科学	16,812	9.3	雑誌	8,133	4.5
自然科学	11,743	6.5	小計	114,979	63.5
工学工業	11,618	6.4	児童	66,218	36.5
産業	5,522	3.1	合計	181,197	100.0
芸術	11,089	6.1			

[表5] 入館者数・登録者数

開館日数	入館者数	1日平均	登録者数
288	273,259	949	7,138

4 特別貸出

現行の「館外個人貸出」のみでは対応できない事態に対応するための制度で、対象者、貸出資料、冊数、期間などの面で配慮を行うものである。

[表6] 特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	13	100
図書館その他	8	160
会社・事業所	4	5
報道関係	0	0
学校	2	24
計	27	289

5 地域資料

個人・団体・公的機関等から、人物や地域に密着した歴史関係の文献調査が多く、回答に多くの時間を要するものが増えつつある。

また、総合的な学習の時間に地域のことを調べる小学生・中学生の利用がたいへん多くなった。

6 逐次刊行物

雑誌論文、新聞記事の調査等、数多く寄せられ、内容も多様化してきている。当館で対応しきれないものについては、類縁機関との相互協力により対処した。

7 児童サービス

子ども達の豊かな読書生活を願い、様々な活動を行った。図書の貸出返却・調査相談業務のほかに、児童書案内の広報誌『LITTLE BIG』の発行、月毎に特集コーナーを設け、テーマに沿った作品を展示し紹介する等、読書のきっかけづくりに努めた。

事業としては、「おはなしかい」と三歳児までの「ちいさなおはなしかい」を毎月開催し、子ども達が楽しく本と出会う機会を作った。見学に訪れた幼稚園・小学校の子ども達には、施設見学のほかに読書への動機づけとして読み聞かせやストーリーテリング等を行った。また調べ学習・見学・体験学習等で来館した小・中学生には図書館の仕事や利用方法について説明した。本年度は54件、1,996人の見学者が訪れた。

また、ホームページの子ども用Webサイト「こどものへや」に児童図書検索・レファレンス受付のページを設け、学校での「総合的な学習」への支援を行った。

児童図書研究室では、児童図書研究者のために昔話絵本の比べ読みコーナーを設置し、読書会等に貸出しも行った。また、こどものへやと児童図書研究室の蔵書検索ができる「児童図書研究室」のwebサイトを設け、レファレンスの受付と事例紹介、県内外の児童サービス関連情報誌『児童図書研究室ニュース』の公開などを行った。また、県内の市町村立図書館児童サービス担当者間の情報交換として、県内児童サービス・メーリングリストを開設した。

8 複写サービス

申し込み件数、枚数共昨年度を上回った。

非所蔵資料については、国立国会図書館等関係機関へ照会して、利用者へ便宜を図った。

[表7] 複写利用状況

区分	自館処理	他機関依頼	計
件数	9,196	44	9,240
枚数	93,037	1,374	94,411

9 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに2台設置し、情報収集への便宜を図った。本年度の利用状況は次のとおりである。

[表8] 平成14年度来館者用インターネット端末利用状況

区分	件数
一般	11,141
児童	2,261
合計	13,402

10 展示

今年度は郷土出身の芸術家や文学者の業績をシリーズで紹介した。併せて関連する当館所蔵資料を展示し、マスコミでも大きく報道され好評を博した。

(1) 『ふくしまの児童文学者たち』展

(平成14年4月1日～7月3日)

石井研堂、高橋太華、山内秋生、若松賤子、原抱一庵、熊阪台州という6名の本県関係児童文学者の生涯と業績を紹介。研究ガイドとして役立つ詳しい展示資料も作成し、関係機関へ配布した。

- (2) 『風の中のシャッターチャンス - 丹野清志 写真と著作』展
 (平成14年7月5日～10月2日)
 福島市出身で白河市在住の写真家丹野清志の撮影した写真とその著作を、写真集、カメラ技術書、エッセー、野菜関係に分けて展示した。
- (3) 『長田弘 - 詩・評論・童話の本』展
 (平成14年10月4日～12月27日)
 福島県出身の詩人長田弘の多彩な執筆活動を詩集、評論、児童文学の分野に分けて展示。併せて彼が福島について書いた著作やサイン本を紹介した。
- (4) 『ふるさとを愛した画家 吉井忠の仕事』展
 (平成15年1月5日～3月30日)
 福島県生まれの洋画家吉井忠の自画像や水彩画と共に、当館所蔵の画集などを展示した。また、その業績を紹介したビデオを上映した。

第4節 館外奉仕

1 移動図書館の巡回

図書館未設置町村の、図書館活動の促進を図ることを目的として、資料の援助や公民館図書室の運営相談を行った。本年度の利用状況は次のとおりである。

[表9] 平成14年度移動図書館「あづま号」利用状況

コース名	巡回回数	延べ日数	巡回町村数	貸出冊数
県北	2	2	3	1,858
県北	2	4	4	1,992
県北	2	2	3	1,280
県中	2	4	3	792
県中	2	4	4	2,010
県南	2	6	4	1,939
会津	2	4	3	1,698
会津	2	4	4	1,742
会津	2	4	3	1,424
会津	2	6	5	2,256
南会津	2	6	5	2,191
相双	2	6	6	2,854
計	2	52	47	22,036

2 親子読書文庫

親子の読書をとおりて家庭の中に読書習慣を形成し、豊かな情操と心身の健全な成長を図ることを目的とし、親子読書文庫活動の推進に相当と思われる文庫を、町村を通じて指定し、協力援助を行った。

19町村20文庫を指定。内訳は保育所文庫4、幼稚園文庫10、児童館文庫3、地域文庫2、家庭文庫1、貸出冊数は5,800冊。

県北	東和町	わかば文庫
	本宮町	岩根幼稚園文庫
県中	古殿町	やまゆり文庫
	平田村	西山幼稚園文庫
	玉川村	すがまっこ文庫
県南	泉崎村	つばさ文庫
	矢祭町	やまばと文庫
	鮫川村	館山文庫
	表郷村	じねん文庫
	中島村	なかよし文庫
会津	熱塩加納村	わくわく文庫
	猪苗代町	月輪児童クラブ文庫
	湯川村	湯川いちょう文庫
	会津高田町	ひまわり文庫
	"	藤川児童クラブ文庫
	会津本郷町	あいづほんごう子ども文庫
	会津坂下町	なかよし文庫
南会津	只見町	只見すくすく文庫
相双	鹿島町	たけのこ文庫
	飯館村	やまゆり文庫

3 市町村援助のための団体貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に図書の出借を行い、図書館・公民館図書室の活性化を図った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

・矢祭町教育委員会	810冊
・しらさわ夢図書館	902冊
・鹿島町公民館	600冊
・本宮町中央公民館	1,000冊
・川俣町中央公民館	585冊
・伊南村公民館	635冊
・表郷村公民館	600冊
・東村図書館	100冊
合計	5,232冊

4 福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の強化、充実の援助を行った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

・山都町公民館	800冊
・新鶴村公民館	970冊
・熱塩加納村教育委員会	1,000冊

・南郷村教育委員会	400冊
・浪江町図書館	223冊
・鮫川村図書館	350冊
・鹿島町公民館	400冊
・川俣町公民館	240冊
・三島町公民館	1,000冊
・北塩原村公民館	700冊
合計	6,083冊

5 読書会用文庫

生涯学習時代を迎え、図書館・公民館及び学校活動の一環として各地に読書会が誕生している現状にある。

当館では、それら読書会用として幅広くテキストを備え援助を行った。本年度の利用状況は、利用団体4、貸出タイトル7、貸出は40冊であった。

6 普及事業

(1) 第50回福島県図書館大会（著者と読者の集い）

- ・テーマ “生涯学習時代の図書館サービスの向上をめざして”
- ・期 日 平成14年10月31日
- ・会 場 郡山市中央図書館視聴覚センター
- ・参加者 図書館・公民館職員、図書館協議会委員、公民館運営審議会委員、社会教育関係者、各種文庫関係者、読書グループの会員、図書館及び公民館図書室の利用者 190名
- ・講演 「郡山市の見えざる歴史を訪ねて」
郷土史家・街こおりやま編集長 伊藤 和氏

・事例発表

《図書館の部》

「地道に伝える本の楽しさ」

三春町民図書館 主事 内藤 タケ

《公民館図書室の部》

「親と子の心をつなぐ文庫活動」

石川町中谷地区公民館 文庫指導員 吉田 典子

《児童の部》

「心の種まきのためのネットワークづくり」

郡山市希望ヶ丘図書館 主査 糠沢 聡子

・分科会

《図書館部会》

司会者 鏡石町図書館 館長 西牧 英二

助言者 郡山市安積図書館 館長 鶴川 隆夫

《公民館図書室部会》

司会者 石川町母畑地区公民館

主任主査兼係長 竹貫 知孝

助言者 県中教育事務所

社会教育主事 酒井 祥二

《児童部会》

司会者 郡山市中央図書館 主査 仲田千鶴子

助言者 県立図書館 専門司書 遠藤ヒロ子

(2) 読書活動指導者養成講座

- ・テーマ “昔話からのメッセージ”
- ・期 日 平成14年12月20日

- ・会 場 福島県立美術館講堂
- ・参加者 図書館・公民館職員、地域の読書活動関係者 179名
- ・講師 筑波大学名誉教授 昔ばなし研究所主宰
小澤 俊夫氏

7 広報資料の発行

(1) 館報「あづま」

第53巻第1号～第2号（通巻第254号～255号）を発行し、市町村教育委員会、図書館、公民館等に配布した。

発行部数 各1,400部

(2) 平成14年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

県内公共図書館・公民館図書室の実態を把握し、図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から毎年実施し、報告書にまとめ、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等に配布した。

発行部数 450部

平成14年4月1日現在の主要な結果をあげると、市町村図書館と公民館図書室を合わせた蔵書冊数は、4,592,803冊で、県民1人当たり2.17冊（前年度2.04冊）、年間増加冊数は262,039冊である。

また、13年度中の貸出図書冊数は、5,679,508冊（県民1人当たり2.68冊）であり、前年度と比べると総冊数では、175,256冊の増である。

(3) 福島県郷土資料情報

当館が所蔵する福島県関係の地図目録などを掲載した第43号を発行し、県内の図書館や公民館等へ配布した。

発行部数 300部

第5節 図書館協力

1 相互協力

本年度から国立国会図書館総合目録に当館所蔵データの提供を開始した。これによって、全国的な資料情報検索ネットワークと相互貸借に係わる協力事業の促進を図った。

[表10] 相互貸借件数

区分		県内	県外	計
貸出	件数	1,449	350	1,799
	冊数	4,438	506	4,944
借用	件数	44	144	188
	冊数	65	213	278
計	件数	1,493	494	1,987
	冊数	4,503	719	5,222

2 県内図書館職員研修会

図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

- (1) 福島県図書館・公民館図書室職員（専門）研修会
 - ・テーマ 「レファレンスに活かすインターネット」
 - ・期 日 平成15年1月31日
 - ・会 場 福島県立図書館
 - ・参加者 福島県内公共図書館及び公民館図書室担当職員 38名
 - ・講 師 駿河台大学教授 岸田 和明氏
- (2) 児童図書館員のための連続講座

図書館における児童サービス向上のため、県立図書館の司書が講師となり、「児童サービス論」を3回に分けて講義した。

 - ・テーマ 「児童図書館概論」
「児童図書館における選書」
「児童へのレファレンスサービス」
 - ・期 日 平成14年6月14日
" 9月6日
" 11月8日
 - ・会 場 福島県立図書館
 - ・修了者 県内図書館の児童サービス担当職員 8名
- (3) 子どもの読書活動研修会

「子どもの読書の日」関連行事として、乳幼児期から本に親しむ機会を提供するブックスタート事業について研修の機会を設けた。

 - ・テーマ 「子どもの読書とブックスタート」
 - ・期 日 平成14年4月19日
 - ・会 場 福島県立図書館
 - ・参加者 福島県内公共図書館及び公民館図書室担当職員、その他関係職員76名
 - ・講 師 ブックスタート支援センター 佐藤いづみ氏

3 図書館協力事業連絡会議

全県的な図書館のサービス網の充実を図ることを目的として、各図書館の学校週5日制への取り組みや寄贈資料の扱いについて今後の図書館業務の方向を協議した。

- ・議 題 学校週5日制への取り組みについて
寄贈資料について
県立図書館HPによる情報交換について
- ・意見交換 インターネットの利用者開放について
図書館ボランティアの活用と支援について
- ・期 日 平成14年6月28日
- ・会 場 福島県立図書館
- ・参加者 県内公立図書館 26館

4 県内大学図書館間相互利用制度

県内の大学図書館と公共図書館との協力体制として「福島県内大学図書館間相互利用制度」があり、その制度の主な柱は、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」である。

この制度利用参加市町村立図書館は、県立図書館を含め福

島市立図書館、二本松市立図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、原町市立原町図書館、いわき市立中央図書館、船引町図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館の20館である。

第16章 福島県立美術館

第1節 概要

開館18年を迎えた福島県立美術館は、さまざまなテーマによる展覧会をはじめ、各種講座等の普及事業を開催し、さらに、美術の情報センターとしての機能の充実を図ってきた。また、美術品の収集・保存とともに広範な調査研究活動をすすめて、成果の蓄積に努力してきた。

当年度の美術館活動の概要は、次のとおりである。

1 美術館運営協議会

(1) 委員

- 久保 恵美子 福島県中学校教育研究会美術部専門部
安達支部長 (平成15. 1. 1~)
- 小原 節子 福島県高校教育委員会美術工芸部会
(平成15. 1. 1~)
- 杉原 陸夫 福島県文化センター館長
(平成13. 1. 1~)
- 栗津 則雄 いわき市立草野心平記念文学館館長
(平成15. 1. 1~)
- 西村 栄悟 福島県美術家連盟委員長
(平成11. 1. 1~)
- 井原 達夫 日本放送協会福島放送局長
(平成13. 1. 1~)
- 湯浅 孝子 (財)湯浅報恩会会長 (平成11. 1. 1~)
- 雪山 行二 横浜美術館館長 (平成15. 1. 1~)
- 斎藤 美幸 福島テレビ(株)報道制作局報道部主任
(平成15. 1. 1~)
- 阿部 泰宏 (株)福島フォーラム総支配人
(平成15. 1. 1~)

(2) 協議会の開催

- 期 日 平成15年2月27日
- 内 容 ・平成14年度事業実績の概要について
・平成15年度予算の概要について
・平成15年度事業計画の概要について
・福島県立美術館の運営について

2 他館等との連携

県内外の博物館施設および連絡協議会等との連携を図り、運営、企画展、教育普及、調査研究等に関する情報交換並びに研修をすすめた。

(1) 加盟団体

- ・全国美術館会議 (監事)
- ・美術館連絡協議会 (理事)
- ・日本博物館協会 (会員)
- ・日本博物館協会東北支部 (監事)
- ・東北地区博物館協会 (監事)
- ・福島県博物館連絡協議会 (理事)

(2) 研修の受け入れ

- ・博物館実習 平成14年6月29日～7月5日(実習生9名)

第2節 美術品の収集・保存

美術品等の情報収集をすすめ、購入および企画展出品作品の寄贈を受けるなど収蔵品を充実した。また、収蔵品や資料の保全を図り、他館への貸出についても協力した。

1 収蔵作品点数一覧

(平成15年3月31日現在)

種別	購入点数	受贈点数	移管点数	合計
海外(絵画・版画・彫刻)	点 371	点 10	点 0	点 381
日本画	63	69	115	247
洋画	92	100	98	290
版画	141	439	40	620
彫刻	3	4	48	55
工芸	30	9	33	72
書	0	1	36	37
下絵等	1	14	11	26
合計	685	646	381	1,728

2 収集評価委員会

委員を次の方々に委嘱した。

- 三木 多聞 東京都写真美術館長 (昭和55. 4. 1~)
- 原田 実 元福島県立美術館長 (平成 4. 4. 1~)
- 長谷部 満彦 茨城県陶芸美術館長 (平成13. 1.20~)
- 村田 哲朗 郡山女子大学教授 (平成 8.11.21~)
- 真室 佳武 東京都美術館長 (平成 8.11.21~)

3 平成14年度収蔵作品

(平成15年3月31日現在)

種 別	作 家 名	作 品 名	点 数	備 考	合 計
洋 画	古 賀 春 江	赤い風景	1	購入	
国内版画	加 納 光 於	星・反芻学	5	購入	5
国内版画	加 納 光 於	星・反芻学	1	購入	
国内版画	加 納 光 於	《しし座》 - 偶然と変容	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Blue and Orange by Gold and Silver	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Orange and Green by Gold and Silver	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Blue by Silver and Gold	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Pink by Silver and Gold	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Silver and Gold by Silver and Gold	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Reversible, Blues thru Pinks	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Reversible, Metallic Green thru Metallic Red	1	購入	
国内版画	百 瀬 寿	S-Reversible, Metallic Magenta thru Metallic Blue	1	購入	

合 計 16点

4 収蔵資料の保存

- (1) 収蔵庫内の環境測定および虫菌害の汚染状況調査 (収蔵 庫A、B、C、収蔵庫前室) (2) 美術品等の修復 (修復作品)

平成15年3月31日～4月7日

5 美術品の貸出 (*は寄託作品)

	作 家 名	作 品 名	展 覧 会 名	貸 出 先	会 期
1	福王寺 法 林	パドガオンの月	福王寺法林・一彦展	茨城県近代美術館	2002 / 1.26 ~ 3.24
2	福王寺 法 林	ヒマラヤの花		東京ステーションギャラリー	2002 / 4.6 ~ 5.12
3	クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	モネからセザンヌへ - 印象派・後期印象派	埼玉県立近代美術館 秋田県立近代美術館	2002 / 9.7 ~ 10.6 2002 / 10.12 ~ 11.24
4	吉 井 忠	麦の穂を持つ女	東北の作家と風土展	井原市立田中美術館	2002 / 9.20 ~ 11.4
5	吉 井 忠	犠牲者			
6	吉 井 忠	雪の安達太良山			
7	吉 井 忠	解氷期			
8	吉 井 忠	百姓祭文			
9	斎 藤 清	少女 (1936年)	巨匠が描く心の詩 - 斎藤清版画展	橿形町立春仙美術館	2002 / 9.21 ~ 11.4
10	斎 藤 清	憩い (1938年)			
11	斎 藤 清	少女 (1938年頃)			
12	斎 藤 清	ヌード (1940年)			
13	斎 藤 清	赤い花 (1948年)			
14	斎 藤 清	凝視 (猫) (1948年)			
15	斎 藤 清	孤独 (1948年)			
16	斎 藤 清	椿 (1948年)			

	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
17	斎藤 清	ミルク (1948年)	巨匠が描く心の詩 - 斎藤清版画展	櫛形町立春仙美術館	2002 / 9.21 ~ 11.4
18	斎藤 清	赤い実 (1950年)			
19	斎藤 清	五月 (1950年)			
20	斎藤 清	直子 (1950年)			
21	斎藤 清	ハニワ (1950年) (637)			
22	斎藤 清	ハニワ (1950年) (638)			
23	斎藤 清	瞳 (白椿) (1950年)			
24	斎藤 清	稔り (1950年)			
25	斎藤 清	黙禱 (仏頭) (1951年)			
26	斎藤 清	秋 (1952年)			
27	斎藤 清	凝視 (二匹の猫) (1952年)			
28	斎藤 清	ジェラシー (1952年)			
29	斎藤 清	土器(A) (1952年)			
30	斎藤 清	ハニワ(C) (1952年)			
31	斎藤 清	ハニワと土器 (1952年)			
32	斎藤 清	愛撫(A) (1953年)			
33	斎藤 清	土器とハニワ (1954年)			
34	斎藤 清	ハニワ (婦人) (1954年)			
35	斎藤 清	百姓、ハニワ (1954年)			
36	斎藤 清	雨のミシガン (1956年)			
37	斎藤 清	憩い、メキシコ (1956年)			
38	斎藤 清	野良犬、メキシコ (1956年)			
39	斎藤 清	凝視(B) (1957年)			
40	斎藤 清	仏陀、みるく(B) (1957年)			
41	斎藤 清	慈愛 (1959年)			
42	斎藤 清	唐招提寺、奈良(B) (1959年)			
43	斎藤 清	唐招提寺、奈良(C) (1959年)			
44	斎藤 清	唐招提寺、奈良(D) (1959年)			
45	斎藤 清	仏陀、阿修羅、奈良(D) (1959年)			
46	斎藤 清	ショップガール、パリ (1960年)			
47	斎藤 清	パリ(3) (1961年)			
48	斎藤 清	雨、パリ(B) (1962年)			
49	斎藤 清	グリニッチビレッジ (ニューヨーク) (1962年)			
50	斎藤 清	アネモネ (1963年) (木版)			
51	斎藤 清	アネモネ (1963年) (コラグラフ)			
52	斎藤 清	凝視 (1963年)			
53	斎藤 清	サボテン (メキシコ) (A) (1963年)			
54	斎藤 清	ヌード(4) (1963年)			
55	斎藤 清	猫(6) (1963年)			
56	斎藤 清	ハニワ(1) (1963年)			

	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
57	斎藤 清	舞妓、京都(A) (1963年)	巨匠が描く心の詩 - 斎藤清版画展	櫛形町立春仙美術館	2002 / 9.21 ~ 11.4
58	斎藤 清	キラウエア、ハワイ(C) (1964年)			
59	斎藤 清	パニアンツリー、ハワイ(A) (1964年)			
60	斎藤 清	パンジー (1964年)			
61	斎藤 清	ニューメキシコ (1965年)			
62	斎藤 清	編物 (1966年)			
63	斎藤 清	憩い (1966年)			
64	斎藤 清	ヌード(C) (1966年)			
65	斎藤 清	ヌード(G) (1966年)			
66	斎藤 清	冬のパリ(C) (1966年)			
67	斎藤 清	モンマルトル、パリ(B) (1966年)			
68	斎藤 清	秋 (1967年)			
69	斎藤 清	影(A) (1967年)			
70	斎藤 清	瞑想 (1967年)			
71	斎藤 清	おしゃべり (1968年)			
72	斎藤 清	影 (1968年)			
73	斎藤 清	ヌード(A) (1969年)			
74	斎藤 清	会津の冬(3) (1970年)			
75	斎藤 清	会津の冬(10) (1970年)			
76	斎藤 清	会津の冬(12) (1970年)			
77	斎藤 清	影 (1970年)			
78	斎藤 清	門、法隆寺、奈良(B) (1970年)			
79	斎藤 清	円覚寺、鎌倉(B) (1971年)			
80	斎藤 清	凝視 (1971年)			
81	斎藤 清	夕ヒチ(C)(1971年)			
82	斎藤 清	夢(C) (1971年)			
83	斎藤 清	社、鎌倉 (1972年)			
84	斎藤 清	六月、鎌倉(B) (1972年)			
85	斎藤 清	会津の家(G) (1973年)			
86	斎藤 清	柿の会津(2) (1973年)			
87	斎藤 清	柿の会津(4) (1973年)			
88	斎藤 清	競艶 (1973年)			
89	斎藤 清	猜疑 (1973年)			
90	斎藤 清	初秋、会津 (1973年)			
91	斎藤 清	高山寺、京都(B) (1974年)			
92	斎藤 清	月下美人(A) (1975年)			
93	斎藤 清	月下美人(B) (1975年)			
94	斎藤 清	慈愛 (1975年)			
95	斎藤 清	稔りの会津(2) (1975年)			
96	斎藤 清	六月 (1975年)			

	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
97	斎藤 清	会津の冬(24) (1976年)	巨匠が描く心の詩 - 斎藤清版画展	櫛形町立春仙美術館	2002 / 9.21 ~ 11.4
98	斎藤 清	会津の冬(26) (1977年)			
99	斎藤 清	会津の冬(34) (1978年)			
100	斎藤 清	慈愛(E) (1978年)			
101	斎藤 清	会津の冬(38) (1979年)			
102	斎藤 清	只見川、会津柳津(2) (1979年)			
103	斎藤 清	椿 (1980年)			
104	斎藤 清	霊峰(2) (1980年)			
105	斎藤 清	霊峰(5) (1980年)			
106	斎藤 清	霊峰(11) (1980年)			
107	斎藤 清	霊峰(17)秋(A) (1980年)			
108	斎藤 清	会津の冬(44) (1981年)			
109	斎藤 清	会津の冬(50) (1981年)			
110	斎藤 清	会津の冬(57) (1982年)			
111	斎藤 清	秋の会津(26) (1983年)			
112	斎藤 清	会津の冬(71) (1987年)			
113	斎藤 清	会津の冬(82) (1989年)			
114	斎藤 清	かすみ、慈愛 (1991年)			
115	斎藤 清	会津の冬(95) (1992年)			
116	斎藤 清	初夏(1) (1992年)			
117	斎藤 清	風 (1997年)			
118	脇田 和	窓	鳥と語る 詩魂の画家 脇田和展	石川県立美術館	2003 / 1.4 ~ 2.2
119	国吉 康雄	婦人と子供	福島県立美術館コレクション展	新潟県立近代美術館	2003 / 2.15 ~ 3.23
120	ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供			
121	レジナルド・マーシュ	回転ブランコ			
122	野田 英夫	牛乳ワゴン			
123	カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園			
124	ベン・シャーン	W.P.A.サンデー			
125	ベン・シャーン	農民にたずねよ			
126	ベン・シャーン	スイミングプール			
127	ベン・シャーン	ラッキードラゴン			
128	清水 登之	婦人と子供			
129	ジョン・スローン	ジェファーソンマーケット、ナイト			
130	ジョン・スローン	サンタフェからの二人の女			
131	ジョン・スローン	五番街の批評家たち			
132	アンドリュー・ワイズ	ガニングロック			
133	アンドリュー・ワイズ	ドイツ人の住むところ			
134	アンドリュー・ワイズ	松ぼっくり男爵			
135	アンドリュー・ワイズ	そよ風			

	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
136	アンドリュウ・ワイズ	冬の水車小屋	福島県立美術館コレクション展	新潟県立近代美術館	2003 / 2.15 ~ 3.23
137	アンドリュウ・ワイズ	農場にて			
138	フェルナン・レジェ	版画集『サーカス』より2, 4			
139	フェルナン・レジェ	版画集『サーカス』より7, 8			
140	フェルナン・レジェ	版画集『サーカス』より17, 18			
141	フェルナン・レジェ	版画集『サーカス』より22, 23			
142	フェルナン・レジェ	版画集『サーカス』より26			
143	フェルナン・レジェ	版画集『サーカス』より48			
144	ベン・シャーン	我々は平和を望んでいる			
145	ベン・シャーン	扉1 (「リルケ『マルテの手記』より: 一行の詩のためには...」より)			
146	ベン・シャーン	扉2 (")			
147	ベン・シャーン	小さな草花のたたずまい (")			
148	ベン・シャーン	愛にみちた多くの夜の回想 (")			
149	ベン・シャーン	死んでゆく人の枕もと (")			
150	ベン・シャーン	一篇の詩の最初の言葉 (")			
151	ジョルジュ・ルオー	神よ、我を憐れたまえ、御身のたいなる慈悲によりて (「ミゼレーレ」より)			
152	ジョルジュ・ルオー	絶えまなく笞打たれ... (")			
153	ジョルジュ・ルオー	我ら自らを王と思ひ (")			
154	ジョルジュ・ルオー	長き苦悩の古き場末にて (")			
155	ジョルジュ・ルオー	弁護士は空ぞらしい言葉で彼に悪意なしと主張する... (")			
156	ジョルジュ・ルオー	世は様々なれど、荒地に種蒔くは美しき仕事 (")			
157	ジョルジュ・ルオー	<我ら...彼の死において、洗礼を受けたり> (")			
158	ジョルジュ・ルオー	<汝ら、互いに愛し合うべし> (")			
159	ジョルジュ・ルオー	母たちに忌み嫌われる戦争 (")			
160	ジョルジュ・ルオー	深き淵より... (")			
161	ジョルジュ・ルオー	<死に至るまで、そして十字架上の死に至るまで従順なる> (")			
162	ジョルジュ・ルオー	<我らが癒されたるは、彼の打傷によりてなり> (")			
163	池田 遙 村	大漁			
164	伊 東 深 水	春光			
165	猪 巻 清 明	はさみ将棋			
166	今 村 紫 紅	漁村			
167	今 村 紫 紅	瀬田風景			
168	大 山 忠 作	○先生			
169	岡 村 宇 太 郎	舞妓図			
170	小 川 芋 銭	於那羅合戦			
171	小 茂 田 青 樹	薫房			
172	蠣 崎 波 響	雉子			
173	蠣 崎 波 響	鐘馗			
174	蠣 崎 波 響	鴛鴦			
175	勝 田 蕉 琴	煙る小雨			

	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
176	小杉放庵	水荘訪客	福島県立美術館コレクション展	新潟県立近代美術館	2003 / 2.15 ~ 3.23
177	酒井三良	雪に埋もれつつ正月はゆく			
178	酒井三良	村芝居			
179	酒井三良	田園秋色図			
180	下村観山	寒空			
181	長野草風	麦踏			
182	速水御舟	女二題 其一			
183	速水御舟	女二題 其二			
184	平福百穂	ふき			
185	福田豊四郎	ふるさとへ帰る			
186	安田靉彦	茶室			
187	山口華楊	畑			
188	山本丘人	月夜の噴煙			
189	石井柏亭	果樹園の午後			
190	上野山清貢	ムッシュ〇の肖像			
191	川口軌外	柘榴			
192	北川民次	二十年目の悲しみの夜			
193	岸田劉生	自画像			
194	岸田劉生	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)			
195	木村莊八	樹の下に遊んでいる子供			
196	斎藤与里	裏磐梯			
197	関根正二	*死を思う日			
198	関根正二	自画像 (1916年頃)			
199	関根正二	姉弟			
200	関根正二	真田吉之助夫妻像			
201	関根正二	自画像 (1918年)			
202	関根正二	神の祈り			
203	高橋由一	鐸木西美像			
204	高橋由一	栗子山昔時の景			
205	寺田政明	対話			
206	長谷川利行	浅草の女			
207	前田寛治	裸婦			
208	松本竣介	赤い建物			
209	松本竣介	駅			
210	村山槐多	庭園の少女			
211	村山槐多	樹木 (けやき)			
212	安井曾太郎	テーブルの上			
213	吉井忠	麦の穂を持つ女			
214	万鉄五郎	庫			
215	渡部菊二	勤労の娘たち			

	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
216	亜欧堂 田 善	新訂万国全図	福島県立美術館コレクション展	新潟県立近代美術館	2003 / 2.15 ~ 3.23
217	亜欧堂 田 善	大日本金亀山之図			
218	岸 田 劉 生	天地創造			
219	岸 田 劉 生	天地創造			
220	岸 田 劉 生	天地創造			
221	斎 藤 清	凝視 (花)			
222	斎 藤 清	慈愛(E)			
223	斎 藤 清	只見川、会津柳津(1)			
224	斎 藤 清	会津の冬(5)			
225	関 根 正 二	大樹 (東京会場のみ)	青木繁と近代日本のロマンティズム	東京国立近代美術館 石橋財団石橋美術館	2003 / 3.25 ~ 5.11 2003 / 5.20 ~ 7.6
226	関 根 正 二	* 風景 (東京会場・福岡会場両方)			
	【村山槐多 庭園の少女 (福岡会場のみ)】 【村山槐多 樹木 (けやき) (福岡会場のみ)】				

第3節 展示事業

1 常設展

美術館の収蔵美術品等を系統的に通年展示するとともに、3ヶ月毎(版画は1ヶ月毎)に展示替えを行い、コレクションの観覧と保全にあたった。ただし、本年度は改修工事のため展示は以下のとおりに行った。

第1期(4月27日~6月30日)、第2期(7月2日~10月6日)、第3期(10月8日~1月5日)、第4期(1月7日~3月30日)

無料観覧日: 子供の日、県民の日、敬老の日、文化の日
(全観覧者対象)
毎月第2、第4土曜日(小中学生対象)

2 移動美術館

臨時休館に先立ち、コレクションの一部を県内の美術館・博物館などで紹介する移動美術館を開催した。

「ヨーロッパとアメリカの美術」

会場: 矢吹町ふるさとの森芸術村

会期: 10月12日(土)~10月27日(日)

3 企画展

美術館の自主および他美術館との共同企画等により、国内外のさまざまな美術を紹介した。

企画展・期日	概 要
(1) 熊田千佳慕の世界展 - はな・むし・とり・ゆめ - 4月27日(土)~6月2日(日)	熊田千佳慕(1911~)は二本松ゆかりの童画家であり、戦後日本を代表する絵本作家である。本展では『ふしぎの国のアリス』『みつばちマーヤ』など花や虫の微細な世界を緻密に描いた熊田の絵本美術の世界を約200点の原画等で回顧した。
(2) 北澤美術館所蔵 アール・ヌーヴォーガラス名品展 6月14日(土)~8月4日(日)	世紀末から20世紀初頭のヨーロッパで展開したアール・ヌーヴォーガラスは、エミール・ガレ、ドーム兄弟らの幻想的な作品で知られる。本展では、質量ともに世界的な北澤美術館コレクションの名品約140点によりアール・ヌーヴォーガラスの魅力を紹介した。
(3) 東北の美 - 縄文から現代まで 8月31日(土)~10月14日(日)	本展では、「信仰」「暮らし」「美」という三つの観点から、東北地方に古来から伝わる造形物(土偶、仏像、絵図、染色、絵画)を取り上げ、東北固有の完成や風土の原像を探った。
(4) ドイツ表現主義の芸術展 10月26日(土)~12月1日(日)	本展では、20世紀初頭のヨーロッパ前衛芸術運動のひとつであるドイツ表現主義美術を、「ブリュッケ」「青騎士」という二つの美術グループの代表作家18名による油彩画、木版画約100点により回顧した。
(5) 日本近代美術の名作展 2月15日(土)~3月23日(日)	本展では、新潟県立近代美術館所蔵品約2,500点の中から、近代日本洋画、近代日本画を代表する作家の作品約80点を紹介した。なお、この事業は、同時期に、本館の所蔵名品展を新潟県立近代美術館において開催する所蔵作品相互交換展である。

4 平成14年度観覧者数一覧

展 覧 会 名	開催期間	有 料								無 料 無料・招待等	観覧者 総 計	
		個 人				団 体						
		一般・ 大学生	高校生	小中学生	小 計	一般・ 大学生	高校生	小中学生	小 計			
第 期～第 期	4.1～3.31 (282日間)	7,952	26	40	8,018	938			938	8,956	5,723	14,679
夜間開館 内数	7.27～8.4 (8日間)	(2)			(2)				(0)	(2)	1 (271)	1 (273)
特集展示 「屏風絵の 世界」 内数	8.10～8.18 (8日間)	(1,055)			(1,055)				(0)	(1,055)	(44)	(1,099)
特集展示 「斎藤清墨 の世界」 内数	12.14～2.2 (37日間)	(2,560)	(3)	(4)	(2,567)	(110)			(110)	(2,677)	(292)	(2,969)
移動美術館(矢吹町ふる さとの森芸術村) 合計に含めず	10.12～27 (14日間)										(1,122)	(1,122)
企画観覧券で常設展を 観覧 合計に含めず	通 年										(20,948)	(20,948)
免除者(100/100) 学校教育活動	通 年										小中 1,126	1,126
"	"										高校 97	97
"	"										大学 34	34
免除者(50/100) 県又は市町村主催	通 年	42			42	213			213	255		255
無料入館(こどもの日)	5月5日										624	624
" (県民の日)	8月21日										180	180
" (敬老の日)	9月15日										302	302
" (文化の日)	11月3日										319	319
学校休業日、小中高校 生無料入館	学校休業日										小 1,352	1,352
"	"										中 527	527
"	"										高 407	407
"	"										準ず 2	2
うつくしまねりんピック 関係者	10.18～23 (6日間)										19	19
小 計		7,994	26	40	8,060	1,151	0	0	1,151	9,211	10,712	19,923
1 熊田千佳慕の世界 -はな・むし・とり・ ゆめ-	4.27～6.2 32日間	5,235	122	867	6,224	553	76	506	1,135	7,359	2,717	10,076
2 北澤美術館所蔵アール・ ヌーヴォーガラス名品展	6.14～8.4 45日間	(171) 8,602	(7) 216	(17) 533	(195) 9,351	(16) 1,009		28	9	(16) 1,046	2 (220) 3,714	2 (431) 14,111
3 東北の美 -縄文から現代まで	8.31～10.14 39日間	6,405	53	213	6,671	2,229			189	2,418	2,673	0 11,762
4 ドイツ表現主義の 芸術展	10.26～12.1 32日間	2,583	77	142	2,802	643	712	307	0 1,662	0 4,464	1,927	0 6,391
5 新潟県立近代美術 館所蔵 日本近代美術の名作展	2.15～3.23 32日間	5,868	82	165	6,115	668	70	141	879	6,994	1,851	8,845
小 計		28,693	550	1,920	31,163	5,102	886	1,152	7,140	38,303	12,882	51,185
合 計		36,687	576	1,960	39,223	6,235	886	1,152	8,291	47,514	23,594	71,108

1 夜間開館に、企画観覧券での常設展観覧者を含む(内数)

2 夜間観覧者(内数)

第4節 調査研究事業

美術館活動の充実を図るとともに、美術情報センターとしての機能充実のため、作家や作品をはじめ、保存、展示、教育普及等の調査研究および情報の収集を行った。

1 調査研究事項

作家 作品 技法 美術史 保存 教育普及 展覧会
運営 県内外の展示施設 美術館利用者の動向他

2 重点調査研究事項

(1) 三木宗策調査、県出身ゆかりの若手作家調査

第5節 普及事業

美術の表現と鑑賞のよろこびを深めるためにさまざまな事業を行った。

1 講演会の開催

日	演 題 / 講 師	聴講者数
5月26日(土)	「花と虫のいのちをみつめて」 熊田千佳慕 (童画家)	約250名
6月10日(日)	「東北の美 その心とかたち」 酒井哲朗 (当館館長)	約50名
7月28日(火)	「表現主義の音楽 A.シェーンベルクとA.ベルクの場合」 船山隆 (東京芸術大学音楽学部教授文芸評論家・いわき市立草野心平記念文学館館長)	約100名

合計 約330名

2 映画会の開催

講堂において、午前、午後の2回上映

日	上 映 映 画	入場者数
5月4日(土)	ふしぎの国のアリス	約80名
5月6日(月)	ピノキオ	約60名
11月17日(日)	イヨマンテ - 熊送り	約40名

合計 約180名

3 実技講座の開催

	講 座 名	日	講 師	受講者
実 技 講 座	光ファイバーを使った光の造形	5 / 18 ~ 6 / 2	児 玉 由美子 (環境造形作家)	10名
	油彩とテンペラの混合技法	9 / 14 ~ 29	三 浦 明 範 (画家・女子美術大学短期大学部助教授)	12名
	モノタイプ版画の制作	11 / 16 ~ 12 / 1	加 納 光 於 (美 術 家)	15名
技 法 講 座	日常風景を木で創る	2 / 9 ~ 3 / 9	林 範 親 (東北生活文化大学教授)	7名
	アートフラワー体験 - アール・ヌーヴォーの花をつくる -	7 / 13,14	加 藤 恒 子 (深雪スタジオ本部講師)	60名
	作品の保存と修復の技	11 / 10,11	半 田 達 二 (文化財修理表具半田九清堂)	15名
親 子 美 術 教 室	自然の絵の具を使って描く	3 / 15,16	関 根 秀 樹	16名
	木のおもちゃを作ろう!	5 / 5	古 川 英 樹 (日本おもちゃ会 議会 会 員)	10組 27名
	楽しい絵文字動物園	8 / 4	平 林 薫 (造形作家・名古屋造形芸術大学助教授)	10組 23名
わ ん ぱ く ミ ュ ー ジ ア ム	樹脂粘土でアクセサリーを作ろう!	12 / 15	ケリー 真美 (アートジュエリー作家)	8組 20名
	グラスに絵を描こう!	6 / 23	真 柴 毅 (当館学芸員)	10名
	青いニンジン、赤いねこ?砂でえがくいろ色アート	8 / 5	久 慈 伸 一 (当館学芸員)	6名
一 日 創 作 教 室	楽しい分身アート!	3 / 30	真 柴 毅 (当館学芸員)	16名
	からだ・コラージュ	8 / 25	真 柴 毅 (当館学芸員)	8名
	デッサンのエッセンス	1 / 19	久 慈 伸 一 (当館学芸員)	13名

合計 約258名

4 美術鑑賞講座の開催

講座名	日	担当学芸員	聴講者数
なぜ・なに・ドイツ表現主義	11 / 13,16	荒木 康子	15名
なぜ・なに・ドイツ表現主義	11 / 20,23	荒木 康子	25名
人物表現を読む - レンブラントから奈良美智まで	2 / 26, 3 / 1	久慈 伸一	25名
佐藤朝山(玄々)と近代の木彫	3 / 5, 8	増 淵 鏡子	11名

合計 約76名

5 ギャラリートーク

展覧会名	日	担当学芸員	聴講者数
熊田千佳慕展	5 / 3,18	堀・荒木	55名
アール・ヌーヴォーガラス名品展	6 / 28, 7 / 20	吉 村	50名
ドイツ表現主義の芸術展	11 / 8,23	荒木・早川	40名
日本近代美術の名作展	2 / 28, 3 / 15	佐治・早川	65名

合計 約210名

6 サンデートーク

毎週日曜日全48回

合計 368名

7 その他の企画展関連事業

(1) アール・ヌーヴォーガラス名品展関連

講座名	日	講師	受講者
特別ギャラリートーク	6 / 14, 8 / 4	鈴木 潔 (北澤美術館学芸部長)	約80名

(2) 東北の美展関連

講座名	日	講師	受講者
特別ギャラリートーク	9 / 7	若林 繁 (福島県立博物館学芸課長)	約50名
特別ギャラリートーク	9 / 14	藤原 妃 敏 (福島県立博物館専門学芸員)	約40名
特別ギャラリートーク	9 / 21	濱田 淑子 (東北福祉大学助教授)	約25名
特別ギャラリートーク	10 / 5	久慈 伸一 (当館学芸員)	約30名

(3) 第4回移動美術館展関連

講座名	日	担当学芸員	受講者
特別ギャラリートーク	10 / 12,20	早川 博明、 吉村 有子	約100名

(4) ドイツ表現主義の芸術展関連

講座名	日	場所
ビデオ映画上映会 「カリガリ博士」 「吸血鬼ノスフェラトゥ」	展覧会会期中	展覧会会場

(5) 日本近代美術の名作展関連

講座名	日	講師	受講者
特別鑑賞講座 「中村彝『洲崎義郎氏の肖像』をめぐる」	2 / 22	小見 秀夫 (新潟県立近代美術館学芸課長)	30名

8 館内解説

(1) 団体解説

学校教育や公民館等の社会教育活動の活発化に伴って、団体で美術館を訪れる機会も増えてきている。そのほとんどが館内の案内等を要望するため、学芸員が交代で対応している。内容は、当館の概要及び代表的な収蔵品の解説、常設展ならびに企画展の解説案内が中心である。

(2) 質問電話への対応

当館では、展示室の各所に質問電話を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に答えている。質問電話の使用は簡単に学芸室と直結しているため、観覧者の利用は多く、素早い対応が可能である。

9 映像資料

(平成15年3月31日現在)

自主制作ビデオテープ	41本
購入・受贈ビデオテープ	64本
購入・受贈スライド、フィルム	11セット
購入・受像CD-ROM、DVD	19点
16mm映画フィルム	4本

10 図書資料

(平成15年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書・事典・年鑑・図書目録	921冊	92冊
画集・美術全集・所蔵品目録	3,799	359
展覧会図録	12,242	284
研究書・技法書	4,769	264
年報・紀要・報告書	2,982	32
美術雑誌	9,770	985
その他(美術教科書等)	987	19
小計	35,470	2,035
総計	37,505	

なお、平成15年3月7日、サーバー移行に伴い、ホームページ・アドレスを変更した。平成15年3月31日現在のアクセス総数は65,417件である。

ホームページ・アドレス

<http://www.art-museum.fks.ed.jp>

11 出版・発行

平成14年度出版・発行物一覧

印刷物名	印刷物の概要	版型サイズ	備考
館案内リーフレット (日本語版・英語版)	館の概要紹介	A4版・3ツ折	無償
要覧	館紹介の冊子	B5版	無償
収蔵作品図録 (1990年現在)	館収蔵全作品の紹介	A4版	有償
ポケット・ミュージアム (作品選)	館収蔵名品の紹介	A5版	有償
企画展図録	館主催展覧会概要紹介	4企画展ごと各種	有償
美術館のしおり	年間事業の概要紹介	B5版・8ツ折	無償
アートインフォメーション (美術館ニュース)	館の事業案内 (年4回)	A4版・2ツ折	無償
館収蔵品絵葉書	館収蔵品紹介	葉書大	有償

12 ホームページの設置について

近年の急速なインターネットの普及にともない、美術館の広報および情報公開手段のひとつとしてのホームページの設置は、わが国においても浸透しつつある。

当館においても、平成11年10月21日よりホームページを設置、公開している。

現在のページ構成は、総ページ数50ページから成っている。利用案内、企画展の紹介といった一般的な情報をはじめとして、開館以来の企画展の一覧リストや、カタログ残部の販売状況なども掲載している。

「コレクション(Collection)」の項では、各分野の代表的な収蔵作品計24点を図版入りで紹介している。なお、掲載図版は原則として著作権の消滅した作家の作品に限定し、解像度72dpi、200×200pixel以下のデータを使用している。

第17章 福島県立博物館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立博物館は資料収集・保存管理・常設展・企画展・調査研究・教育普及事業を中心に内容の充実を図っている。今年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

2 運営協議会

(1) 委員

学校教育	渡部 毅	県小学校長会代表
	横山大太郎	県中学校長会代表
	柳橋 幸正	県高等学校長協会代表
社会教育	杉原 陸夫	県文化センター館長
	小澤 一男	県公民館連絡協議会代表
学識経験者	大塚 實	会津若松市史研究会長
	高瀬かづ子	県文化財保護審議会委員
	中川 迪子	市町村教育委員会連絡協議会代表
	大木 明子	公募による選任
	浜津 桃子	公募による選任

(2) 会議

平成14年7月5日(金)

平成14年度事業計画について

新研究テーマについて

その他

平成15年2月21日(金)

平成14年度事業実施概要について

平成15年度事業計画について

その他

第2節 調査研究事業 (テーマ研究)

1 東北地方南部における初期農耕社会形成過程の研究

- (1) 竹島コレクションの資料化
- (2) 会津坂下町長井前ノ山古墳の出土遺物・図面・写真の整理
- (3) 報告書の刊行

2 福島県の漆工品を中心とした工芸に関する調査

- (1) 収集したデータの整理・分析と県内外の関連資料の補足調査

第3節 収集整理事業

1 収集展示委員会

(1) 収集展示委員会委員

氏名	役職名	備考
岡田 茂弘	東北歴史博物館長	委員長
小林 清治	元東北学院大学教授	副委員長
有賀 祥隆	東北大学文学部教授	委員
入間田 宣夫	東北大学東北アジア研究センター教授	〃
上原 昭一	元実践女子大学教授	〃
大迫 徳行	福島県民俗学会会長	〃
斎藤 常正	元東北大学理学部教授	〃
平川 南	国立歴史民俗博物館教授	〃
誉田 宏	元福島県文化センター歴史資料課長	〃
丸井 佳寿子	元福島県立医科大学教授	〃
目黒 吉明	福島県考古学会顧問	〃
渡邊 一雄	福島県考古学会会長	〃

(2) 審議経過

平成15年2月6日 第2会議室

平成14年度事業の実施概要について

平成15年度事業計画について

平成15年度企画展・収蔵資料品展について

調査研究事業について

その他

2 資料調査員会議

博物館資料の収集等に関する県内の詳細な情報を得るため14名の調査員を委嘱している。

(1) 第1回資料調査員会議

平成14年6月6・7日

平成14年度事業実施概要について

企画展・収蔵資料品展・移動博物館について

テーマ研究について

(2) 第2回資料調査員会議

平成14年11月22日

平成14年度上半期事業実施概要について

企画展・収蔵資料品展・移動博物館について

テーマ研究について

3 資料収集

(1) 受贈・受託資料

歴史・美術資料

- * 受贈 鴨図 (佐竹永海筆) ほか 上野テツ子
 会津線坂下駅開通記念絵葉書ほか 牛米 努
 福島県之産業 中川 浩一
 刀剣美術 堤 章
 絵はがき 原田 春男
 近代生活用具ほか 相原 秀郎
 吉村二衆画像ほか 村田 精治
 大東亜戦記念銘入盃 島野 智之
 歴史読本ほか 角田 恒夫
 * 受託 山水図屏風 (佐竹永海筆) 藤城 毅
 佐治次郎関係資料 中村 五郎
 根本愚洲書画ほか 小林 等
 伝単ほか 押田 幸一
 家事記ほか 谷 玄信
 軍服ほか 高橋 恵子
 阿弥陀寺資料 藤原 英雄
 呂洞賓図ほか 四家 久夫
 朱塗金魚漆絵盃台 大宅 宗吉
 安永二年「覚」 林 壮次

民俗資料

- * 受贈 襷形と袖廻形 五十嵐健治
 生活用具ほか 穴沢 咏光
 マエツピキほか 河越 利吉
 生活用具・生産用具ほか 三星 清伊
 ハローほか 渡部 忠次
 ハオリほか 芳賀 玲子
 羊毛刈りはさみほか 上野テツ子
 長火鉢 栗村 道彦
 衣生活資料ほか 若林 伸亮
 衣生活資料ほか 渡辺 シノ
 除草器ほか 渡辺 和哉
 足踏脱穀機 丸山 信弘
 衣生活資料ほか 菊池 利雄
 膳ほか 森川 容佑
 押絵雛人形ほか 五十嵐繁子
 襦袢ほか 高原 啓
 カーバイトカンテラほか 月井 勲
 唐箕 鈴木 茂
 アシダカほか 東条チヨノ
 * 受託 箕作村地方文書ほか 馬場 章
 生活用具ほか 会津若松市立会津図書館

考古資料

- * 受贈 考古関係図書ほか 穴沢 咏光
 * 受託 瓦ほか 会津若松市立会津図書館

自然資料

- * 受贈 学術雑誌 矢島 道子
 中国産岩石標本ほか 山内 徳雄
 塩坪層産フナクイムシ化石 星 総一郎
 鉱石・鉱物標本 鈴木 舜一

- 日本鉱業会誌 阿部 照衛
 * 受託 植物化石 小林 昭二
 化石・鉱物標本ほか 会津若松市立会津図書館

(2) 購入資料

一次資料

- * 歴史資料 本山家文書、丹羽家文書、ミシン 1台
 * 民俗資料 津軽こぎん 1点
 * 自然資料 鉱物・鉱石 120点
 * 美術資料 集古十種75冊、重盛諫言図 (高久隆古筆) 1幅

二次資料

- 図書 考古分野195冊、歴史分野113冊、美術分野127冊、民俗分野75冊、自然分野178冊、保存分野44冊、その他291冊 計1,023冊

第4節 保存管理事業

1 収集資料数

(平成15年3月31日現在)

分野	数量	備考
考古	17,997	土器・石器・骨角器・木器・金属器ほか
民族	9,320	生活・生業・交通・信仰・芸用具ほか
歴史	19,020	書跡・文書資料ほか
美術	4,683	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	43,748	化石・岩石・鉱物・動植物遺体ほか
合計	94,768	

2 資料整理

(平成15年3月31日現在)

分野	所在調査力	資料データ入力	計
考古	4,804	1,515	6,319
民族	3,622	5,626	9,248
歴史	8,487 (美術を含む)	17,006	30,028
美術		4,535	
自然	7,051	9,351	16,402
合計	23,964	38,033	61,997

3 防虫作業等

(1) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫 (一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、事務室、会議室、研究室、空調機械室など主要なスペースについて、昆虫、浮遊カビ、浮遊塵および気相等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の変化を確認するため6月13日～7月4日、11月7日～11月29日の2回にわたり実施

した。

(2) 薫蒸庫による薫蒸

第1回(4月17日)～第8回(2月14日)まで新収蔵資料及び企画展出品資料を中心に約1,200点を薫蒸した。

4 保存処理作業

- (1) 木製遺物 根岸遺跡出土遺物
- (2) 金属製遺物 流麩寺跡出土鉄剣

5 資料撮影

マイクロフィルム撮影 13,516コマ

6 資料の貸与

資料名	貸出先	期間	展覧会名
ワラ人形・オオスケ人形・人形様	青森県立郷土館	7月15日～9月5日	人形にたくした祈りのすがた - 東日本の神送り行事 -
原山1号墳出土埴輪	福島県立美術館	8月20日～10月24日	東北の美 - 縄文から現代まで -
天明飢饉之図・天明飢饉いろは歌	一関市博物館	9月10日～11月20日	民間備荒録 - 江戸時代の飢饉と救荒書 -
常世原田遺跡出土土器・石器等	福島県文化財センター白河館	9月12日～11月30日	ふくしまの重要文化財(考古資料 - 縄文・弥生編) -
七里ヶ浜遠望図	須賀川市立博物館	10月2日～12月20日	須賀川の指定文化財 - わたしのまちのたからもの -
オオアシ・木摺臼	野馬追の里原町市立博物館	10月5日～12月1日	米づくり - むかしの暮らしの中で -
ワラ人形	船引町文化センター	10月30日～11月12日	わら人形展
穴田遺跡出土イノシシ形土製品	ふくしま海洋科学館	12月20日～平成15年6月10日	あぶくま発見 - おもしろフィールドレポート -
荒屋敷遺跡出土資料	茨城県立歴史館	平成15年1月10日～3月31日	器が語る装いの美 - 漆に彩られた縄文の美 -
金山町宮崎遺跡出土長頸壺	栃木県立博物館	平成15年1月28日～4月25日	とちぎの弥生土器

第5節 展示企画事業

1 常設展示

(1) 展示資料数及び借用資料数

区分	大テーマ	標本資料	情報資料	合計	借用資料(内数)
総合展示	原始	667	80	747	193
	古代	651	47	698	356
	中世	106	18	124	10
	近世	327	31	358	144
	近・現代	261	105	366	120
	自然と人間	122	48	170	62
部門展示	民俗	263	41	304	20
	自然	426	53	478	83
	考古	365	1	366	160
	歴史・美術	61	0	61	0
	ロビー・他	3	33	36	0
総計		3,251	457	3,708	1,148

(2) 展示資料の修復と製作

湯浅松石筆 「会藩年中行事図」 10点

(3) 解説シートの作成

区分	大テーマ	種類	テーマ数	1回の枚数	合計枚数
総合展示	原始	1	2	40,000	40,000
	古代	1	2	40,000	40,000
	中世	1	2	40,000	40,000
	近世	1	2	40,000	40,000
	近・現代	1	2	40,000	40,000
	自然と人間	1	2	40,000	40,000
部門展示	民俗	1	2	40,000	40,000
	自然	1	2	40,000	40,000
	考古	1	2	40,000	40,000
	歴史・美術	1	2	40,000	40,000
体験学習室		4	8	32,000	32,000
総計					432,000

(4) 常設展示資料の返還と借用

- 考古 土器など
- 民俗 獅子頭など
- 自然 鉱物資料など

- (5) 収蔵資料品展
「ふるさとの玩具たち」
会 期：平成14年10月26日(土)～12月1日(日) 聴講者数 250名
「長井前ノ山古墳と周辺の遺跡」
会 期：平成15年2月1日(土)～3月23日(日) 企画展講座
8月25日(日)・9月21日(土) 「探検しよう雪村展」
考古学講座「長井前ノ山古墳の発掘調査」
講師 学芸員 菊地芳朗 聴講者数 131名 講師 学芸員 川延安直
参加者数 39名
- (6) 「歴史・美術」テーマ展示
商家の婚礼 - 明治時代の婚礼の宴
会 期：平成14年4月9日(火)～5月26日(日) 展示解説会
8月10日(土) 当館学芸員
9月1日(日) 講師 山下裕二氏
会津藩の編纂物
解説員によるポイント解説会
日 時 会期中の土・日
戦国の南奥州と雪村
(3) 移動博物館
「武家のこころ・かたち」
会 場：白河集古苑(白河市字郭内1-73)
会 期：平成14年10月12日(土)～11月17日(日)
入館者数 2,345人
展示解説会
10月14日・11月3日・11月17日
当館学芸員 川延安直 小林めぐみ
- 歌舞伎衣裳展
会 期：10月8日(火)～12月1日(日)
画題で見る美術 - 唐人物
会 期：12月10日(火)～平成15年1月26日(日)
酒のうつわ
会 期：平成15年2月4日(火)～3月30日(日)

2 企画展示

- (1) 「化石芸術 - 太古の生物が描く美の世界 -」
会 期：平成14年4月27日(土)～6月30日(日)
入館者数 12,023人
記念講演会
5月12日(日) 「地層に記録された生命と地球の歴史」
講師：京都大学総合博物館教授
大野 照文 氏 聴講者数 70名
シリーズ自然史
・実技講座「三葉虫をよみがえらせよう」 5月11日(土)
参加者数 44名
・野外講座「化石をさがそう」 5月25日(土)
参加者数 47名
・実技講座「化石標本をつくろう」 5月26日(日)
参加者数 32名
・映画会「化石の形と機能」 6月9日(日)
聴講者数 55名
展示解説会 4月28日(日)、5月12日(日)、6月9日(日)
- (2) 「雪村展 - 戦国時代のスーパー・エキセントリック」
会 期：平成14年8月10日(土)～9月23日(月)
入館者数 13,980人
県立博物館友の会主催講演会
8月11日(日) 「戦国の画僧雪村と会津・常陸」
講師 小川知二氏(東京学芸大学教授)
聴講者数 110名
福島民報社主催講演会
8月31日(土) 「禅僧としての雪村」
講師 玄侑宗久氏(福聚寺副住職・作家)
山下裕二氏(明治学院大学教授)
聴講者数 417名
講演会
9月7日(土) 「雪村の夢 仙人の夢」

第6節 教育普及事業

1 講座等

(1) 実技講座

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
古文書入門1 古代	佐藤 洋一	学芸員	4月27日	53
古文書入門2 古代	佐藤 洋一	学芸員	5月25日	51
子どものための草木 染め教室	山根 正平 山根 好子	染 織 工芸家	6月15日	18
古文書入門3 近世	酒井 耕造	学芸員	6月22日	58
虫かごをつくろう	阿部 吉致	技 術 伝承者	7月7日	30
縄文土器をつくろう	渡部 昌二 伊藤 知雄	学芸員	7月20日	16
縄文土器をつくろう	渡部 昌二 伊藤 知雄	学芸員	7月21日	19
古文書入門4 近世	酒井 耕造	学芸員	7月27日	54
縄文土器をつくろう	渡部 昌二 伊藤 知雄	学芸員	7月28日	8
草木染め1	山根 正平 山根 好子	染 織 工芸家	8月17日	12
草木染め2	山根 正平 山根 好子	染 織 工芸家	8月18日	12
古文書入門5 近世	酒井 耕造	学芸員	8月24日	54
縄文土器をつくろう 野焼き	渡部 昌二 伊藤 知雄	学芸員	8月25日	28

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
うるしの技に挑戦 1	小林めぐみ	学芸員	9月22日	12
古文書入門6 近世	酒井 耕造	学芸員	9月28日	54
うるしの技に挑戦 2	大沢 周一	伝 統 工芸士	9月29日	9
うるしの技に挑戦 3	大沢 周一	伝 統 工芸士	10月 6日	10
麻糸作り	榎 陽介	学芸員	10月19日	12
うるしの技に挑戦 4	大沢 周一	伝 統 工芸士	10月20日	11
古文書入門7 近世	酒井 耕造	学芸員	10月26日	54
うるしの技に挑戦 5	須藤 紀雄	会津短 大教授	11月 5日	10
わらぞうりをつくろう	鈴木 幸雄	技 術 伝承者	11月 9日	19
博物館を探検しよう	田中 敏	学芸員	11月23日	19
うるしの技に挑戦 6	大沢 周一	伝 統 工芸士	11月24日	12
古文書入門8 近世	酒井 耕造	学芸員	12月 7日	52
うるしの技に挑戦 7	大沢 周一	伝 統 工芸士	12月 8日	10
古文書入門9 中世	高橋 充	学芸員	12月14日	45
うるしの技に挑戦 8	大沢 周一	伝 統 工芸士	12月22日	10
古文書入門10 中世	高橋 充	学芸員	1月25日	49
わらぞうりをつくろう	鈴木 幸雄	技 術 伝承者	2月 8日	21
古文書入門11 中世	高橋 充	学芸員	2月22日	52
古文書入門12 中世	高橋 充	学芸員	3月22日	44

(2) 金曜講座「郷土学習学而篇 - 地方の時代の地方学習 -」

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
第 1 回東日本要の県 土学	高橋 富雄	館 長	4月12日	80
第 2 回三道ふくしま 地の理人の理	高橋 富雄	館 長	4月26日	62
第 3 回ムラのおこり - 縄文を考える -	高橋 富雄	館 長	5月10日	70
第 4 回元始ふくしま 統計史学	高橋 富雄	館 長	5月24日	60
第 5 回ヤマト初国 東国初国	高橋 富雄	館 長	6月14日	71
第 6 回天平ふくしま 地下証録	高橋 富雄	館 長	6月21日	54

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
第 7 回安太多良真弓 安積采女	高橋 富雄	館 長	7月12日	63
第 8 回徳一の国 - 文 化ふくしまのほまれ	高橋 富雄	館 長	7月19日	59
第 9 回仏教文化一 千年史	高橋 富雄	館 長	8月9日	56
第 10 回 古代誰は誰 (フーズ・フー) 物語	高橋 富雄	館 長	8月23日	61
第 11 回もう一つの武 士道歴史	高橋 富雄	館 長	9月13日	68
第 12 回地方文化の成立	高橋 富雄	館 長	9月27日	55
第 13 回塔寺八幡長帳 不思議学習	高橋 富雄	館 長	10月11日	55
第 14 回蒲生氏郷 - 一つのふくしま -	高橋 富雄	館 長	10月25日	61
第 15 回藩の数だけの 県ということ	高橋 富雄	館 長	11月 8日	60
第 16 回ならぬことは ならぬ - 会津藩 -	高橋 富雄	館 長	11月22日	70
第 17 回下民易虐 上 天難欺 - 戒石銘	高橋 富雄	館 長	12月13日	58
第 18 回この主この臣 - 白河藩 -	高橋 富雄	館 長	12月27日	43
第 19 回証言相馬藩	高橋 富雄	館 長	1月10日	59
第 20 回寺西八箇条 - 塙代官 -	高橋 富雄	館 長	1月24日	58
第 21 回会津農書の重み	高橋 富雄	館 長	2月14日	78
第 22 回近代を先がけて	高橋 富雄	館 長	2月28日	102
第 23 回白河以北一 山百文	高橋 富雄	館 長	3月14日	106
第 24 回近代ふくしま 文化の人びと	高橋 富雄	館 長	3月28日	110

(3) 実 演

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
昔語り	横山 幸子	語り部	4月21日	16
機織り	山根 正平	染 織 工芸家	4月29日	58
昔語り	横山 幸子	語り部	5月 3日	45
会津の唐人凧づくり	鈴木 英夫	技 術 伝承者	5月19日	18
昔語り	山田登志美	語り部	6月16日	42
機織り	山根 正平	染 織 工芸家	7月14日	36
昔語り	横山 幸子	語り部	7月27日	25

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
昔語り	山田登志美	語り部	8月11日	45
会津の唐人凧づくり	鈴木 英夫	技 術 伝 承 者	9月16日	90
昔語り	横山 幸子	語り部	9月22日	83
紙芝居	五十嵐邦子	紙芝居 作 家	10月13日	63
昔語り	山田登志美	語り部	11月17日	29
昔語り	横山 幸子	語り部	12月 8日	25
注連飾りづくり	榊原 源隆	技 術 伝 承 者	12月15日	10
昔語り	山田登志美	語り部	12月22日	21
昔語り	横山 幸子	語り部	3月23日	26
昔語り	山田登志美	語り部	3月30日	25

(4) 総合講座「シリーズ 磐梯山を語る」

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
磐梯山の火山活動	竹谷陽二郎	学芸員	1月12日	58
磐梯山麓の遺跡	藤原 妃敏	学芸員	1月26日	72
磐梯山麓の仏教文化 - 恵日寺を中心として -	若林 繁	学 芸 課 長	2月 2日	129
磐梯山麓の民具	佐々木長生	学芸員	2月16日	53
磐梯山麓の古代	佐藤 洋一	学芸員	3月 2日	64
噴火後の報道・復興 の努力と観光名所会 津磐梯山	南雲 修	学芸員	3月16日	61

(5) 美術講座

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
福島のお像25	若林 繁	学 芸 課 長	5月18日	31
福島のお像26	若林 繁	学 芸 課 長	7月13日	33
福島のお像27	若林 繁	学 芸 課 長	9月14日	30
福島のお像28	若林 繁	学 芸 課 長	11月16日	28
福島のお像29	若林 繁	学 芸 課 長	1月18日	35
福島のお像30	若林 繁	学 芸 課 長	3月15日	39

(6) 展示解説員講座

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
パラシュートをつくろう	吉田真紀他	展 示 解 説 員	9月 7日	25
昔のお菓子をつくってみよう	増子恵美他	展 示 解 説 員	11月 2日	5
竹スケートをつくろう	武藤晶子他	展 示 解 説 員	12月 7日	32
手すき和紙で遊ぼう	佐藤亜希子他	展 示 解 説 員	1月25日	22
小鳥のやじろべえをつくろう	柏木由佳野他	展 示 解 説 員	3月 8日	45

(7) 自然史講座

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
三葉虫をよみがえらせよう	大野 照文	京都大 学総合 博物館 教 授	5月11日	44
化石をさがそう	相田 優	学芸員	5月25日	47
化石標本をつくろう	竹谷陽二郎	学芸員	5月26日	32
バードウォッチング	古川 裕司	学芸員	12月 1日	21

(8) 夏休み集中講座

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
博物館サマースクール1	渡部 昌二	学芸員	7月23日	11
博物館サマースクール2	佐々木長生 高橋 充	学芸員	7月24日	11
博物館サマースクール3	相田 優 南雲 修	学芸員	7月25日	10

(9) 伝統技術実演

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
須賀川の絵のぼり製作	大野 修司	技 術 伝 承 者	5月 5日	50
白河のだるまつくり	渡辺 恭助	技 術 伝 承 者	11月 3日	60

(10) 映画会

テ - マ	講 師	所 属	期 日	参加者数
只見の手仕事	佐々木長生	学芸員	5月 4日	18
化石の形と機能	竹谷陽二郎	学芸員	6月 9日	55

(11) 民俗講座

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
青年会の民俗誌	猪巻 恵	学芸員	12月23日	10
雪国の民俗 - 奥会津の雪と生活 -	佐々木長生	学芸員	2月23日	35

(12) 考古学講座

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
福島の上石器時代	藤原 妃敏	学芸員	10月27日	22
長井前ノ山古墳の発掘調査	菊地 芳朗	学芸員	2月9日	131

(13) 企画展講座

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
探検しよう 雪村展	川延 安直	学芸員	8月25日	30
探検しよう 雪村展	川延 安直	学芸員	9月21日	27

(14) 歴史講座

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
ニュース映画で見る福島の歴史	南雲 修	学芸員	3月9日	30

(15) 保存科学講座

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
保存科学の世界	松田 隆嗣	学芸員	10月12日	8

(16) 伝統芸能公演

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
会津萬歳	会津萬歳 田島保存会		9月15日	168

(17) 体験的学習研修講座

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
体験的学習研修講座	南雲 修	学芸員	2月6日	2

(18) 展示解説会

テ - マ	講 師	所属	期 日	参加者数
企画展化石芸術 - 太古の生物が描く美の世界 -	竹谷陽二郎	学芸員	4月28日	44
企画展化石芸術 - 太古の生物が描く美の世界 -	竹谷陽二郎	学芸員	5月12日	50
企画展化石芸術 - 太古の生物が描く美の世界 -	竹谷陽二郎	学芸員	6月9日	43
企画展雪村 戦国時代のスーパー・エキセントリック	川延 安直	学芸員	8月10日	35
雪村展の見どころ		展示解説員	8月17日	50
雪村展の見どころ		展示解説員	8月18日	45
雪村展の見どころ		展示解説員	8月24日	57
雪村展の見どころ		展示解説員	8月25日	47
雪村展の見どころ		展示解説員	8月31日	54
企画展雪村 戦国時代のスーパー・エキセントリック	山下 裕二	明治学院大学教授	9月1日	81
雪村展の見どころ		展示解説員	9月8日	60
雪村展の見どころ		展示解説員	9月14日	48
雪村展の見どころ		展示解説員	9月21日	40
雪村展の見どころ		展示解説員	9月22日	40
長井前ノ山古墳と周辺の遺跡	菊地 芳朗	学芸員	3月1日	30

2 出版物

- (1) 企画展図録 「化石芸術 - 太古の生物が描く美の世界」
「雪村 - 戦国のスーパーエキセントリック」
- (2) 報告書 「福島県相双地域の弥生時代遺跡」
「福島県立博物館研究紀要第16号」
- (3) その他 「博物館だより」「博物館ニュース」

(2) 講演会

演題 「戦国の画僧雪村と常陸・会津」
期日 平成14年8月11日
演者 東京学芸大学 小川 知二
参加者 100名

- (3) 会報の発刊 (季刊)
(4) サークル活動 (月1回活動)
化石鉱物探検隊、古文書愛好会

3 福島県立博物館友の会

平成元年3月10日発足

平成14年3月8日に総会を開催した。

事業

- (1) 視察研修旅行
研修先 長野県立歴史館・森將軍塚古墳他
期日 平成14年5月22日・23日
参加者 60名

4 入館者

展覧会名	開催期間	有 料								有 料 合 計	無 料 合 計	入 館 者 合 計	
		個 人				団 体							
		一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小 計	一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小 計				
常 設 展	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	22,103	590	8,507	31,200	5,298	2,029	29,562	36,889	68,089	15,416	83,505	
企 画 展	化石芸術	14. 4. 27 ~ 14. 6. 30	3,463	113	1,494	5,070	458	439	5,434	6,331	11,401		11,401
	雪村展	14. 8. 10 ~ 14. 9. 23	9,964	152	742	10,858	1,398	17	407	1,822	12,680		12,680
合 計		35,530	855	10,743	47,128	7,154	2,485	35,403	45,042	92,170	15,416	107,586	

第18章 福島県自然の家

第1節 沿革及び所在地

1 沿革

昭和50年3月発足した財団法人「福島県海浜青年の家」は、同年7月の開所以来、海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」を管理運営してきた。

平成8年4月財団法人の名称を「福島県海浜自然の家」に変更し、同時に施設の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改め当施設を財団の主たる事務所とした。平成8年7月「福島県いわき海浜自然の家」を従たる事務所として開所し管理運営を開始した。平成10年4月財団法人の名称を「福島県自然の家」に変更するとともに、同月、これまで福島県教育庁の出先機関であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の管理運営を財団が引き継ぎ、それぞれ名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改め、財団の従たる事務所とし従来のもので併せて県内4事務所の管理運営を行うこととなった。

今年度末の財団内4事務所の延べ利用者の合計は、昨年度同様約16万人であり、全体として堅実に推移している。

2 所在地

(1) 財団法人福島県自然の家の主たる事務所

ア 福島県相馬海浜自然の家（財団本部）

福島県相馬市磯部字大洲38の3

〒979 - 2501 TEL 0244 - 33 - 5224

FAX 0244 - 33 - 5225

URL <http://www.souma-nc.fks.ed.jp/>

(2) 財団法人福島県自然の家の従たる事務所

ア 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979 - 0335 TEL 0246 - 32 - 7700

FAX 0246 - 32 - 7730

URL <http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>

イ 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963 - 0213 TEL 024 - 957 - 2111

FAX 024 - 957 - 2112

URL <http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>

ウ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495の1

〒969 - 6504 TEL 0242 - 83 - 2480

FAX 0242 - 83 - 2481

URL <http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

第2節 教育目標及び基本的視点

1 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- (1) 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- (2) 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- (3) 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

2 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- (1) 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- (2) 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- (3) 立地条件を生かした特色ある主催事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- (4) 民間の指導者の協力や高校生・大学生等のボランティアの受け入れを得るように努める。
- (5) 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第3節 財団法人福島県自然の家役員及び理事会の開催

1 財団法人福島県自然の家役員

財団法人福島県自然の家寄附行為に基づき理事15名、監事2名から構成されている。

役職名	氏名	所属
理事長	高城 俊春	福島県教育委員会教育長
副理事長	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
専務理事	坂本 昭	福島県相馬海浜自然の家所長
常務理事	松本 貞男	福島県いわき海浜自然の家所長
常務理事	栗林 正樹	福島県郡山自然の家所長
常務理事	湯田 一秋	福島県会津自然の家所長
理事	立谷 秀清	相馬市長
理事	四家 啓助	いわき市長
理事	藤森 英二	郡山市長
理事	竹内 昶俊	会津坂下町長
理事	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
理事	佐々木恵寿	福島県青少年団体連絡協議会代表
理事	玉木リサ子	福島県ボランティア連絡協議会代表
理事	林 由美子	利用者代表
理事	渋谷 均	福島県教育庁生涯学習課長
監事	針生 宗延	相馬市収入役
監事	茂里 毅	福島県教育庁総務課長

(平成14年4月1日現在)

2 理事会の開催

(1) 第1回

- ア 期日 平成14年6月12日(水)
- イ 場所 福島県相馬海浜自然の家
- ウ 内容
 - a 平成13年度事業報告について
 - b 平成13年度収支決算の承認について
 - c 平成13年度施設利用状況について
 - d 自然の家施設使用料について

(2) 第2回

- ア 期日 平成15年3月24日(月)
- イ 場所 福島市杉妻会館
- ウ 内容
 - a 平成14年度補正予算(案)について
 - b 平成15年度事業計画(案)について
 - c 平成15年度収支予算(案)について
 - d 役員選任について
 - e 個人情報の開示規程の制定について
 - f 施設利用状況等について
 - g 施設設備整備計画について

福島県相馬海浜自然の家

第1節 概要

福島県相馬海浜自然の家は、昭和50年7月に開所し、今年度末で28年となる。開所以来の延利用者は平成12年5月10日をもって100万人に達し、その後も堅実に推移している。

なお、運営にあたっては、財団法人福島県自然の家が定める教育目標及び基本的視点に基づいて、下記のような重点目標を設けその遂行に努めている。

1 重点目標

(1) 利用団体の研修活動の充実

諸団体の研修活動が効果的にできるよう、その目的をよく把握し、適切な指導援助に努める。特に、在学青少年の研修に対しては、当該学校との連携を密にし、活動内容の充実を図るための支援に努め、その他の団体については、生涯学習の視点から、利用者の年齢層に応じた魅力ある活

動内容の開発・提供に努める。

(2) 主催事業の効果的運営

主催事業の効果をもとに、関係諸機関・団体との連携を深め、事業の内容や方法の工夫改善に努める。

(3) 広報の充実と利用促進

施設利用及び主催事業の広報活動を充実し、各種団体の利用促進に努める。

(4) 現職教育の計画的推進

多様化した研修団体の学習要求に対応するため、職員研修の充実を図り資質の向上に努める。

(5) 安全管理と保健安全指導の徹底

事故防止に万全を期すため、施設設備の安全点検に努めるとともに、研修活動中の保健及び安全指導の徹底に努める。

(6) 施設設備の整備

研修効果を高めるため、施設設備の整備充実を図るとと

もに、環境の美化に努める。

2 運営委員会及び職員組織

(1) 運営委員会の組織

運営委員会は9名で構成し、委員は次のとおりである。

氏名	所属
佐藤 利郎	相馬市教育委員会教育長
松本 光信	小高町浮舟文化会館生涯学習課長
佐々木孝司	福島県教育庁生涯学習課主幹
佐藤 忠夫	福島県立相馬高等学校長
高橋 清	原町市立原町第一小学校長
佐藤 周一	福島県青少年団体連絡協議会参与
菅野 和秀	社団法人相馬青年会議所代表
加藤 佳子	利用者代表：主婦
先崎 貞臣	利用者代表：自営業

注 印：委員長 印：副委員長

(2) 運営委員会の開催

ア 第1回

- (ア) 期日 平成14年9月25日(水)
 (イ) 場所 福島県相馬海浜自然の家・第3研修室
 (ウ) 内容 a 平成14年度相馬海浜自然の家運営方針について
 b 平成14年度主催事業について
 c 平成14年度財団事業について
 d 平成13・14年度利用状況について
 e 平成15年度主催事業について
 f 平成15年度利用案内について

イ 第2回

- (ア) 期日 平成15年2月25日(火)
 (イ) 場所 福島県相馬海浜自然の家・第3研修室
 (ウ) 内容 a 平成14年度主催事業実施状況報告
 b 平成14年度利用状況報告
 c 平成14年度の運営に関する反省と課題
 d 平成14年度施設整備状況報告
 e 平成15年度運営方針について
 f 平成15年度主催事業について
 g 平成15年度利用申込状況について

(3) 職員組織

財団法人福島県自然の家本部並びに福島県相馬海浜自然の家の職員は次のとおりである。

職員	専務理事兼所長	主幹兼次長	主任指導主事	指導主事	主査	主任保健技師	主任運転手兼事務員	計
人員	1	1	1	4	1	1	1	11

3 平成14年度重点目標と成果

(1) 利用団体の研修活動の充実

- ア 団体の研修活動プログラム作成にあたっては、指導者事前研修会や事前打合会を通して、団体サイドに立っての援助・支援に努めた。
 イ 団体独自の研修活動に対しては、場の確保とその整備や必要物品の準備などに最大限の努力を払った。
 ウ 実際の研修活動に際しては、団体の指導者との連携を密にし、一人ひとりの研修生が、思い出に残るような素晴らしい体験活動を味わえるよう援助・支援に努めた。
 エ 利用団体から提出された統計カードの中の「感想・要望」欄を注視し、改善に向けての出来得限りの努力を払ってきた。

(2) 主催事業の効果的運営

- ア これまでの実績の上に、さらに創意工夫を凝らした企画・運営ができた。
 イ 関係機関や外部講師と綿密な事前打ち合わせを行ったことにより、戸惑うこともなく効果的に実施できた。
 ウ 天候に左右されがちであるが、どの事業も比較的恵まれたため、所期の目的を十分に達成することができ、参加者も大いに満足していた。
 エ 昨年度に引き続き、若いボランティアの力は大変大きく、とても助かった。参加者からの感謝の声も多く聞かれた。

(3) 広報の充実と利用促進

- ア 「要覧」、「利用案内」、「主催事業のご案内」、「自然の家リーフレット」等の作成について、工夫改善を図った。また、広く配布し利用の促進に努めた。
 イ 小・中学校に対しては「総合的な学習の時間の一環としての利用」を、高等学校に対しては「新入生のオリエンテーションの一環としての利用」を、また、閑散期の利用拡大を図るためとして、長寿会や公民館の各種教室に対して「グラウンドゴルフやゲートボール、その他サークル活動としての利用」を呼びかけるためのそれぞれの案内書を作成し、PRに努めた。
 ウ ホームページの内容充実を図り、分かりやすい情報提供に努めた。

(4) 現職教育の計画的推進

- ア 常に職員間においてOA機器等に関する情報交換を行い、それらの操作能力を高め合い事務の効率化を図った。
 イ 完全学校週5日制や総合的な学習の時間の実施に伴う学校教育現場の実情に関して、情報収集に努めながら職員間での学習会を実施してきた。
 ウ 各種研究会に計画的かつ積極的に参加し、職員の資質の向上に努めた。また、他の教育施設を視察研修し、本施設機能の充実に生かした。

(5) 安全管理と保健安全指導の徹底

- ア 施設の日常・定期点検を徹底するとともに、計画的に避難訓練を実施し、施設の保全と安全対策に努力した。
 イ 野外活動の施設およびコースの安全点検を日常的に行い、研修活動の安全を図った。
 ウ 危険が伴う海や浦での研修活動に対する事前指導を徹

底し、事故防止に努めた。

エ 全職員が常に危機管理意識を持ち、特に気象状況における野外活動への影響を予測して早めの判断をしながら先手を打った指導に努力した。

オ 食堂衛生管理を徹底し、食中毒の絶無に万全を期した。

(6) 施設・設備の整備

ア 昨年度末に宿泊棟の廊下、そして今年度2月には管理棟の廊下の内装工事が行われたため、施設内がとても明るくなった。

イ 新設されたキャンプ場のテント台により快適なキャンプが行え、利用者から大変喜ばれた。

ウ 体育館の屋根工事により、雨漏りが防げた。

エ 宿泊棟の屋上に、定点観測用のカメラが設置された。

オ 施設周辺の除草や樹木の剪定、そして花壇の手入れをこまめに行い、環境の美化に努力した。

そ の 他 (サイクリング用自転車100台、投げ釣り用竿100本、視聴覚機器、天体望遠鏡、双眼鏡、日時計他)

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

相馬市磯部字大洲38番地の3

2 宿泊定員

本館定員 200名 (ベット室22室、和室2室)

キャンプ場定員 100名 (4人用テント25張)

3 敷地面積

200,000㎡

4 建物面積

4,333.63㎡

管理研修棟、宿泊棟、体育館、総合研修館、乾燥室、温水シャワー室、身障者用トイレ・シャワー室、屋外用トイレ (キャンプ場) 他

5 運動広場面積

18,000㎡

6 設備・備品

キャンプ場 (キャンプ用品一式、炊事場、トイレ、冷蔵庫他)

運動広場 (野球場1面、ソフトボール場1面、ゲートボール場2面、グラウンドゴルフ場2面設置可他)

野外活動コース (各種オリエンテーリングコースウォークラリーコース、ナイトハイキングコース他)

体育館 (バレーボールコート1面、バスケットボールコート1面、バドミントンコート2面他)

総合研修館 (ステージ、ピアノ、ビデオプロジェクター、放送関係一式、卓球台他)

研修室3室 (40~90人用、テレビ、ビデオデッキ)

第3節 利用状況

1 月別利用状況

月	種別 区分	学 校 教 育 団 体					社 会 教 育 団 体			ファミリー	主催事業	合 計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
4	団体数	0	0	2	0	1	4	0	0	0	1	8
	利用人員	0	0	413	0	45	251	0	0	0	112	821
	延人数	0	0	1,032	0	45	485	0	0	0	112	1,674
5	団体数	3	2	2	0	2	2	1	2	0	1	15
	利用人員	91	352	211	0	204	54	75	128	0	34	1,149
	延人数	145	912	422	0	204	108	225	128	0	68	2,212
6	団体数	12	1	1	1	2	6	0	3	1	1	28
	利用人員	872	142	39	46	10	289	0	61	4	38	1,501
	延人数	2,435	142	39	92	17	374	0	61	8	76	3,244
7	団体数	10	4	1	1	2	24	0	0	0	3	45
	利用人員	638	470	20	31	21	1,065	0	0	0	239	2,484
	延人数	1,723	1,454	40	93	57	2,262	0	0	0	319	5,948
8	団体数	1	0	1	0	6	37	5	0	1	0	51
	利用人員	27	0	56	0	170	1,443	243	0	6	0	1,945
	延人数	81	0	224	0	762	3,076	613	0	18	0	4,774
9	団体数	10	3	0	2	1	7	0	1	0	2	26
	利用人員	698	414	0	124	7	283	0	23	0	92	1,641
	延人数	1,602	678	0	372	35	343	0	23	0	132	3,185
10	団体数	3	0	0	2	3	11	0	6	0	1	26
	利用人員	157	0	0	20	49	613	0	193	0	68	1,100
	延人数	347	0	0	24	73	776	0	275	0	68	1,563
11	団体数	1	0	0	0	3	5	0	4	0	1	14
	利用人員	24	0	0	0	57	174	0	218	0	592	1,065
	延人数	24	0	0	0	133	204	0	248	0	592	1,201
12	団体数	0	0	0	0	0	3	2	7	0	1	12
	利用人員	0	0	0	0	0	243	25	133	0	41	442
	延人数	0	0	0	0	0	392	50	133	0	82	657
1	団体数	0	0	0	0	0	1	0	5	0	5	11
	利用人員	0	0	0	0	0	32	0	182	0	66	280
	延人数	0	0	0	0	0	32	0	182	0	92	306
2	団体数	1	0	0	0	2	0	0	7	0	0	10
	利用人員	50	0	0	0	41	0	0	170	0	0	261
	延人数	50	0	0	0	41	0	0	170	0	0	261
3	団体数	0	0	1	0	1	13	3	13	0	0	31
	利用人員	0	0	32	0	11	506	104	301	0	0	954
	延人数	0	0	64	0	11	1,169	407	353	0	0	2,004
実績計	団体数	41	10	8	6	23	113	10	48	2	16	277
	利用人員	2,557	1,378	771	221	615	4,953	447	1,409	10	1,282	13,643
	延人数	6,407	3,186	1,821	581	1,378	9,221	1,295	1,573	26	1,541	27,029
合計	団体数	41	10	8	6	23	113	10	48	2	16	277
	利用人員	2,557	1,378	771	221	615	4,953	447	1,409	10	1,282	13,643
	延人数	6,407	3,186	1,821	581	1,378	9,221	1,295	1,573	26	1,541	27,029

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

() はキャンプ内数

項目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	277	13,643	13,386	27,029
(キャンプ)	(32)	(1,595)	(1,595)	(3,317)

(2) 利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	291	212	221	122
(キャンプ)	(131)	(50)	(111)	(30)

(3) 利用者区分

泊数	種別 区分	学校教育団体					社会教育団体			ファミリー	主催事業	合計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
1日	団体数	5	2	1	1	12	36	0	42	0	10	109
	実利用者数	160	292	39	16	363	1,703	0	1,245	0	1,063	4,881
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	160	292	39	16	363	1,703	0	1,245	0	1,063	4,881
1泊2日	団体数	15	5	5	2	2	53	3	6	1	5	97
	実利用者数	944	621	470	50	12	2,232	189	164	4	179	4,865
	延宿泊者数	944	621	470	50	12	2,232	189	164	4	179	4,865
	延利用者数	1,888	1,242	940	1200	24	4,464	378	328	8	358	9,730
2泊3日	団体数	21	1	1	3	3	24	3	0	1	1	58
	実利用者数	1,453	208	206	155	68	1,018	176	0	6	40	3,330
	延宿泊者数	2,906	416	412	310	136	2,036	352	0	12	80	6,660
	延利用者数	4,359	624	618	465	204	3,054	528	0	18	120	9,990
3泊4日	団体数	0	2	1	0	3	0	2	0	0	0	8
	実利用者数	0	257	56	0	108	0	48	0	0	0	469
	延宿泊者数	0	771	168	0	324	0	144	0	0	0	1,407
	延利用者数	0	1,028	224	0	432	0	192	0	0	0	1,876
4泊5日	団体数	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
	実利用者数	0	0	0	0	29	0	7	0	0	0	36
	延宿泊者数	0	0	0	0	116	0	28	0	0	0	144
	延利用者数	0	0	0	0	145	0	35	0	0	0	180
5泊6日	団体数	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	実利用者数	0	0	0	0	35	0	27	0	0	0	62
	延宿泊者数	0	0	0	0	175	0	135	0	0	0	310
	延利用者数	0	0	0	0	210	0	162	0	0	0	372
合計	団体数	41	10	8	6	23	113	10	48	2	16	277
	実利用者数	2,557	1,378	771	221	615	4,953	447	1,409	10	1,282	13,643
	延宿泊者数	3,850	1,808	1,050	360	763	4,268	848	164	16	259	13,386
	延利用者数	6,407	3,186	1,821	581	1,378	9,221	1,295	1,573	26	1,541	27,029

3 研修活動の分類と実施団体数

分類	種別 プログラム	学校教育団体					社会教育団体			ファミリー	主催事業	合計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
野外活動	(1) フィールド・ワーク	4	0	0	1	0	5	0	0	0	1	11
	(2) ウォークラリー	2	0	0	0	0	6	0	0	0	1	9
	(3) スコア・オリエンテーリング	16	5	2	0	1	25	0	1	0	1	51
	(4) ハイキング	3	1	0	1	0	2	0	0	0	0	7
	(5) 登山	2	2	1	0	0	3	0	1	1	1	10
	(6) サイクリング	32	7	1	4	0	12	1	0	0	2	60
自然観察	(1) 自然観察	3	0	0	0	7	6	0	15	0	0	31
	(2) グリーン・アドベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海浜活動	(1) 砂の芸術	20	3	0	0	0	13	0	0	0	0	36
	(2) 海水浴	7	6	0	0	2	25	4	0	2	0	46
	(3) 塩づくり	10	1	0	0	0	5	0	0	0	0	16
	(4) 潮干狩り	6	2	0	0	0	3	0	0	1	1	13
	(5) 魚釣り	19	10	2	3	0	26	0	1	2	8	71
	(6) 海浜散策・その他	9	7	0	3	1	12	0	0	0	12	44
野営活動	(1) テント設営	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	5
	(2) テント撤収	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4
	(3) 野外炊飯	30	16	6	5	4	55	1	2	0	4	123
夜間活動	(1) キャンプ・ファイヤー	24	7	2	3	2	24	0	1	0	1	64
	(2) キャンドル・ファイヤー	0	1	0	0	0	6	1	1	0	0	9
	(3) ナイトハイキング	24	2	0	2	0	20	0	0	1	1	50
	(4) 天体観測	3	0	0	1	0	3	0	0	0	0	7
講義・討議等	(1) 講演・講義	0	2	11	0	1	29	4	1	0	1	49
	(2) 討議	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	4
	(3) 事例・研究発表	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	(4) 学習	7	12	15	0	11	2	2	5	0	0	54
	(5) ミーティング・反省	0	0	1	0	10	24	3	5	0	3	46
運動・ゲーム等	(1) 体育・スポーツ	0	7	2	3	13	92	31	27	1	4	180
	(2) ダンス・踊り	1	0	0	0	9	1	1	0	0	0	12
	(3) 各種ゲーム	1	0	1	0	5	15	2	2	0	2	28
	(4) 映画・ビデオ視聴	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	(5) 音楽活動	0	0	0	0	36	5	20	0	0	0	61
その他の活動	(1) 見学学習・旅行	6	0	0	2	1	1	0	0	0	0	10
	(2) 七宝焼き	1	2	0	0	0	6	0	0	0	1	10
	(3) ちぢみっこ	1	3	0	0	0	12	0	0	0	3	19
	(4) 海浜クラフト	4	4	0	1	0	8	0	1	0	4	22
	(5) 奉仕活動	8	3	0	1	0	6	0	0	0	0	18
	(6) その他	0	2	0	1	1	16	1	3	1	19	44
合計		244	107	47	32	104	476	71	66	9	72	1,228

第4節 主催事業

1 指導者事前研修会

- (1) 趣 旨
当自然の家での研修をより効果的に実施するための事前研修。研修活動の企画・立案から諸手続き、実技までを研修する。
- (2) 期日・参加者数
5月22日(水)～23日(木) 1泊2日 34名
- (3) 対 象
平成14年6月23日から平成15年3月31日までの間に当所を利用し、研修活動を予定している団体の指導者。ただし、6月23日以前の利用団体にあっても、希望があれば参加を認める。
- (4) 内 容
ア 所内および周辺の活動エリア視察
イ 実技研修および研修活動の企画・立案と検討
ウ 利用に関する諸手続き

2 第1回潮風に乗ってカヌーを楽しもう

- (1) 趣 旨
「海の日」に親子でカヌーにチャレンジし、海に親しむ。
- (2) 期日・参加者
7月20日(土) 47名
- (3) 対 象
小学生・中学生とその保護者
- (4) 内 容
ア 海洋スポーツ：カヌー、ローボート、カッター
イ 釣り
ウ プールでの水泳

3 第2回潮風に乗ってカヌーを楽しもう

- (1) 趣 旨
親子でカヌーにチャレンジし、海に親しむ。
- (2) 期日・参加者
9月7日(土) 52名
- (3) 対 象
小学生・中学生とその保護者
- (4) 内 容
ア 海洋スポーツ：カヌー、ローボート、カッター
イ 釣り
ウ プールでの水泳

4 磯部公民館学習発表会

～自然の家ふれあい広場～

- (1) 趣 旨
地域感謝デー。公民館を中心とした地元の協力を得て、体験・展示コーナーやふれあい広場を開催し、地域と共に歩む「生涯学習拠点」としての自然の家に対する理解を深めてもらう。
- (2) 期日・参加者数
11月17日(日) 592名

- (3) 対 象
子どもから高齢者まで、地域住民を中心とした一般
- (4) 内 容
ア 生花、手芸、書道、絵画等の作品展示
イ 各種体験コーナー（海浜クラフト、キーホルダー製作）
ウ 歌謡、舞踊、コーラス、3B体操、カラオケ等の発表
エ 食べるコーナー、遊ぶコーナー、即売コーナー

5 ウィークエンドわくわく体験事業

- (1) 趣 旨
平成14年度からの完全学校週5日制実施に伴い、自然体験活動等の事業を休日に実施することにより、子どもたちの自主性と創造性を育てる。
- (2) 対 象
小・中学生とその保護者
- (3) 実施日・事業名・参加人数
ア 4月27日(土)
「潮干狩りと磯の生物観察」 112名
イ 7月6日(土)
「地引き網に挑戦」 152名
ウ 10月26日(土)
「親子でフィッシング」 68名
エ 12月21日(土)～22日(日)
「年末年始を手作りで飾ろう」 41名
オ 1月25日(土)～26日(日)
「伝承遊びを引き継ごう」 26名

6 ハートウォームプラン

「潮風に乗って、はつらつ海の体験」

- (1) 趣 旨
学校になじめずにいる不登校等の児童・生徒を対象に、自然体験活動等を通して社会性や自立心、忍耐等の涵養を図るとともに、その保護者に対し、課題解決へ向けた養育相談や交流会等を提供する。
- (2) 対 象
学校になじめない子や不登校の児童生徒とその保護者
20名程度
- (3) 実施日・事業名・参加人数
ア 6月1日(土)～2日(日) 「仲間との出会い」 19名
イ 7月12日(金)～14日(日) 「海を楽しむ」 21名
ウ 9月28日(土)～29日(日) 「海に輝く」 22名
- (土) 主な内容
ア 児童・生徒対象
＜第1回＞
ふれあいの集い、潮干狩り、グラウンドゴルフ、登山、サイクリング、釣り、みんなでの遊び（体育館）等
＜第2回＞
乗船体験、磯遊び、野外炊飯、グラウンドゴルフ、海浜散策、カヌー、海水浴、ナイトハイク、釣り等
＜第3回＞
ピザ作り、海浜クラフト、みんなでの遊び、乗馬体験
イ 保護者対象
教育相談、情報交換等

- ウ 学校や地域社会との連携
学生サポーター事前研修会の開催
はつらつ海の体験事業連絡協議会の開催

7 相馬海浜自然の家IT講習会

- (1) 趣 旨
情報通信技術（IT）及びIT社会が急激に変化することに鑑み、できるだけ多くの地域住民に対してIT基礎技能のできる限り早期の普及を図る。
- (2) 対 象
一般成人（満20歳以上）
- (3) 実施日・参加人数
ア 第1回 平成15年1月18日(土)～19日(日) 10名
イ 第2回 平成15年1月22日(水)～23日(木) 10名
- (4) 主な内容
パソコンの基本操作、文書の作成、インターネットの利

用及び電子メールの送受信にかかる技能等

8 財団事業

「潮風に乗ってクルージング・福島の家体験事業」

- (1) 趣 旨
自然の家での集団宿泊等の体験活動、福島丸での航海体験、ふくしま海洋科学館での学習活動を通して、海や地球への関心を深め、生きる力を育む。
- (2) 対象・参加者数
小学校5、6年生および中学生 4施設全体で46名
- (3) 期 日
7月23日(火)～24日(水) 1泊2日
- (4) 主な内容
アクアマリンふくしま見学、福島丸で航海体験、いわき海浜自然の家での宿泊学習

福島県いわき海浜自然の家

第1節 概 要

福島県いわき海浜自然の家は、生涯学習時代に対応し、開かれた社会教育施設として、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動を通して、自然・感動体験を得、自然に対する認識を深め、心身共に健全な青少年を育成することを目的として平成8年7月に開所された。

開所以来、学校の利用は勿論、公民館、子ども会、家族の利用等、あらゆる年齢層の人達に利用されている。

本年度は、カヌーの数を増やすなど、利用者のニーズに応える活動プログラムの開発と提供、さらには利用しやすい施設づくりと円滑な活動支援に努めた。また、施設ボランティアの養成にも努め、年間を通して延べ110名が、主催事業を中心に活動の支援に取り組んだ。

本年度の年間利用団体数は約600団体、延べ利用者数は約73,000人で、多くの成果をあげることができた。

1 役員及び職員組織

- (1) 福島県いわき海浜自然の家運営委員

氏 名	所 属
砂子田敦博	いわき市教育委員会教育長
齋藤 和夫	いわき市子ども会育成会連絡協議会会長
渡辺 勝記	いわき市公民館連絡協議会会長
佐藤 友宏	いわき市PTA連絡協議会会長
松本 清幸	日本国際生活体験協会いわき地区委員会委員長
村山 正之	福島県高等学校長協会いわき支部長
鈴木 雅之	いわき市中学校長会会長
大森 俊輔	いわき市小学校長会会長
宇津木惟義	福島県生活環境部県民環境室青少年グループリーダー
佐々木孝司	福島県教育庁生涯学習課主幹

注 印：委員長 印：副委員長

運営委員会は、次のとおり2回実施した。

第1回

- 期 日 平成14年7月5日(金)
- 場 所 福島県いわき海浜自然の家研修室
- 内 容
 - ・平成13年度運営状況について
 - ・平成13年度主催事業実施状況について
 - ・平成13年度施設利用実績について
 - ・平成14年度運営方針・重点目標について
 - ・平成14年度主催事業計画について
 - ・平成14年度施設利用実績及び予約状況について

第2回

- 期 日 平成15年2月4日(火)

- 場 所 福島県いわき海浜自然の家研修室
 内 容 ・平成14年度運営実績について
 ・平成14年度主催事業実績と反省について
 ・平成14年度施設利用実績について
 ・平成15年度運営方針・重点目標について
 ・平成15年度主催事業計画について
 ・平成15年度施設利用予約状況について

(2) 職員組織

職名	常務理事兼所長	次長	主査	主任	主任指導主事	指導主事	計
人員	1	1	1	1	1	6	11

2 平成14年度重点目標と成果

利用者一人ひとりが、「楽しかった」「満足した」「また行ってみたい」と実感できる自然感動体験の場となるために、次の項目に重点的に取り組んだ。

利用者の多様な学習や体験活動のニーズに対応できる施設運営のあり方とプログラムの開発研究に努めた。

完全学校週5日制・新学習指導要領、特に「総合的な学習の時間」を自然の家として対応できる活動プログラムの体系化と研究開発に努めた。

楽しく遊ぶだけでなく地球・自然環境に配慮した（見る・知る・学ぶ・感じる）体験活動の事業と活動プログラムの研究開発と実践に努めた。

情報化通信社会に対応した情報発信の研究と実践に努めるとともに、IT学習機会・体験を提供するための活動プログラムの開発と環境整備に努めた。

利用者の高度化・多様化する学習・活動ニーズに対応するため、関係機関・施設とのネットワーク強化に努めた。

施設ボランティアの活用と育成の研究に努めた。

自然体験プログラムを有効に生かすために地域人材ボランティアとの連携した活用について研究を進めてきた。

所員個々の能力の向上を目指し、研修の充実を図り、効果的な活動支援のあり方を充実させた。

人災による事故を避けるため、あらゆる状況にも臨機応変に対処できるよう日頃からの危機管理体制を充実させた。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山53

2 宿泊定員

本館定員 300名（和室28室）

ロッジ定員 160名（10棟）

テント定員 100名（25張）

3 敷地面積

336,236㎡

4 建物面積

6,949.94㎡

中心施設

本館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）

体育館

野外施設

管理棟、ロッジ、炊飯棟、便所等

5 野外活動施設面積

つどいの広場 7,000㎡

多目的広場 8,890㎡

自然観察園 4,050㎡

6 設備・備品等

体育館（バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面、バトミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台他）

野営場（野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫他）

野外活動設備（フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムコース、営火場7カ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース他）

多目的広場（サッカー、ソフトボール等に関する運動用具一式他）

その他（視聴覚機器、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼きがま、釣り用具一式、海浜活動用具一式、パソコン（インターネット常時接続可）10台）

第3節 利用状況

1 月別利用状況

月	種別 区分	学 校 教 育 団 体					社 会 教 育 団 体			ファミリー	主催事業	合 計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
4	団体数	3	0	1	0	3	6	1	0	2	1	17
	利用人員	100	0	142	0	407	151	20	0	19	63	902
	延人数	335	0	426	0	1,044	302	40	0	38	126	2,311
5	団体数	32	6	0	1	0	6	0	2	1	3	51
	利用人員	2,176	493	0	31	0	232	0	25	19	150	3,126
	延人数	5,291	1,178	0	93	0	464	0	50	38	255	7,369
6	団体数	66	1	0	2	0	9	0	0	3	2	83
	利用人員	3,933	78	0	68	0	350	0	0	23	109	4,561
	延人数	10,323	156	0	136	0	700	0	0	46	218	11,579
7	団体数	49	0	0	1	0	52	0	0	11	1	114
	利用人員	3,031	0	0	17	0	2,428	0	0	63	49	5,588
	延人数	7,841	0	0	34	0	5,199	0	0	150	98	13,322
8	団体数	18	1	0	0	0	65	2	0	35	1	122
	利用人員	952	14	0	0	0	2,548	11	0	238	102	3,865
	延人数	2,424	28	0	0	0	5,636	28	0	539	306	8,961
9	団体数	50	0	0	2	0	10	0	1	3	1	67
	利用人員	3,221	0	0	98	0	475	0	6	36	54	3,890
	延人数	8,869	0	0	267	0	950	0	12	72	108	10,278
10	団体数	50	1	0	4	0	21	0	0	2	1	79
	利用人員	3,101	40	0	114	0	924	0	0	12	32	4,223
	延人数	8,631	80	0	228	0	1,861	0	0	24	32	10,856
11	団体数	13	0	0	0	0	11	1	1	3	1	30
	利用人員	1,121	0	0	0	0	461	8	40	22	62	1,714
	延人数	3,363	0	0	0	0	1,050	16	80	44	124	4,677
12	団体数	0	0	0	0	0	10	0	1	2	0	13
	利用人員	0	0	0	0	0	372	0	6	7	0	385
	延人数	0	0	0	0	0	858	0	12	14	0	884
1	団体数	0	0	0	0	0	8	0	0	0	1	9
	利用人員	0	0	0	0	0	236	0	0	0	90	326
	延人数	0	0	0	0	0	530	0	0	0	180	710
2	団体数	0	0	0	0	0	15	2	2	0	1	20
	利用人員	0	0	0	0	0	486	44	24	0	52	606
	延人数	0	0	0	0	0	972	110	48	0	104	1,234
3	団体数	0	0	0	0	0	17	3	1	3	0	24
	利用人員	0	0	0	0	0	692	45	11	15	0	763
	延人数	0	0	0	0	0	1,445	90	22	36	0	1,593
実績計	団体数	281	9	1	10	3	230	9	8	65	13	629
	利用人員	17,635	625	142	328	407	9,355	128	112	454	763	29,949
	延人数	47,077	1,442	426	758	1,044	19,967	284	224	1,001	1,551	73,774
合計	団体数	281	9	1	10	3	230	9	8	65	13	629
	利用人員	17,635	625	142	328	407	9,355	128	112	454	763	29,949
	延人数	47,077	1,442	426	758	1,044	19,967	284	224	1,001	1,551	73,774

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

項目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	629	29,949	43,825	73,774
(キャンプ)	(12)	(436)	(436)	(872)
(ロッジ)	(231)	(11,346)	(12,172)	(23,180)

(2) 利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	275	230	213	170
(キャンプ)	(168)	(23)	(131)	(12)
(ロッジ)	(168)	(137)	(131)	(107)

() はキャンプ、ロッジの内数

(3) 利用者区分

泊数	種別 区分	学校教育団体					社会教育団体			ファミリー	主催事業	合計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
1日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	77
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	77
1泊2日	団体数	91	6	0	8	2	201	7	8	52	10	385
	実利用者数	5,863	433	0	226	292	8,098	00	112	379	584	16,087
	延宿泊者数	5,863	433	0	226	292	8,098	00	112	379	584	16,087
	延利用者数	11,726	866	0	452	584	16,196	200	224	758	1,168	32,174
2泊3日	団体数	189	3	1	2	0	29	2	0	11	1	238
	実利用者数	11,737	192	142	102	0	1,257	28	0	57	102	13,617
	延宿泊者数	23,474	384	284	204	0	2,514	56	0	114	204	27,234
	延利用者数	35,211	576	426	306	0	3,771	84	0	171	306	40,851
3泊4日	団体数	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	4
	実利用者数	35	0	0	0	115	0	0	0	18	0	168
	延宿泊者数	105	0	0	0	345	0	0	0	54	0	504
	延利用者数	140	0	0	0	460	0	0	0	72	0	672
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5泊6日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	団体数	281	9	1	10	3	230	9	8	65	13	629
	実利用者数	17,635	625	142	328	407	9,355	128	112	454	763	29,949
	延宿泊者数	29,442	817	284	430	637	10,612	156	112	547	788	43,825
	延利用者数	47,077	1,442	426	758	1,044	19,967	284	224	1,001	1,551	73,774

3 研修活動の分類と実施団体数

分類	番号	種別 プログラム名	学 校 教 育 団 体					社 会 教 育 団 体			ファミリー	主催事業	合 計	
			小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他				
環境プログラム	1	自然(海浜)散策・観察	8	0	0	0	0	6	1	5	1	1	22	
	2	標 本 作 り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	ネイチャーゲーム	29	1	0	0	0	2	0	0	0	1	33	
	4	ネイチャーラリー	3	0	0	0	0	5	0	0	0	0	8	
	5	ボン・ファイア	17	0	0	1	0	6	0	0	6	0	30	
	6	ナイト・ハイク	211	4	0	1	0	58	2	1	26	1	304	
	7	グリーン・アドベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8	スター・ウォッチング	22	0	0	1	0	17	0	0	12	0	52	
	9	ス タ ー ・ ビ ン ゴ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
野外活動プログラム	10	磯 遊 び	186	7	0	3	0	47	0	0	35	1	279	
	11	魚 釣 り	103	4	0	0	0	15	0	0	17	2	141	
	12	いかだ作り・乗り	99	0	0	1	0	33	0	0	5	0	138	
	13	カ ヌ ー	6	0	0	0	0	2	0	0	3	0	11	
	14	海 水 浴	0	0	0	0	0	14	0	0	17	0	31	
	15	ボ デ ィ ・ ボ ー ド	21	0	0	0	0	8	0	0	8	0	37	
	16	砂 の 芸 術	80	2	0	1	0	8	0	0	1	0	92	
	17	ビ ー チ ・ バ レ ー	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	9	
	18	冒 険 の 森 散 策	46	0	0	1	0	42	0	2	22	2	115	
	19	冒険の森アドベンチャー	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	8	
	20	ハ イ キ ン グ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	21	スコア・オリエンテーリング	60	1	1	1	1	22	1	0	0	0	87	
	22	ポイント・オリエンテーリング	7	0	0	0	0	3	0	0	0	0	10	
	23	ビンゴ・オリエンテーリング	32	1	0	1	0	8	0	0	1	0	43	
	24	ウ ォ ー ク ラ リ ー	32	1	0	2	1	7	1	0	0	0	44	
	25	フィールド・アスレチック	80	2	0	2	0	82	0	1	18	0	185	
	26	野 外 炊 飯	158	5	0	4	1	67	0	0	4	1	240	
	27	キャンプ・ファイア	151	4	0	5	1	61	0	0	0	0	222	
	28	マウンテン・バイク	49	2	0	0	1	35	0	1	11	0	99	
	29	ペ タ ン ク	11	1	0	0	0	20	2	0	18	0	52	
	30	ニ ツ 箭 山 登 山	2	0	0	0	0	0	0	0	11	0	13	
	31	グ ラ ン ド ゴ ル フ	1	0	0	0	0	3	1	0	1	0	6	
	32	悪 漢 ・ 探 偵	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	9	
	33	ア パ ッ チ 砦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	34	陣取りゲーム・旗取りゲーム	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	35	野外ゲーム/ロープコース	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	10	
	室内活動プログラム	36	貝 飾 り	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6
		37	貝 壁 飾 り	14	0	0	1	0	5	0	0	1	0	21
		38	ス ト ー ン ・ ア ー ト	11	0	0	3	0	8	1	0	3	0	26
		39	ブ ー メ ラ ン	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
		40	紙 飛 行 機	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
		41	キ ー ホ ル ダ ー	1	0	0	0	0	6	0	0	0	1	8
		42	七 宝 焼 き	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		43	し お り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		44	草 木 染 め	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
45		木 製 コ ー ス タ ー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
46		飛 ぶ 輪 っ か	5	1	0	1	0	2	0	0	0	0	9	
47		キャンドル・ファイア	57	1	0	4	1	20	1	0	0	6	90	
室内ゲーム	48	室 内 ゲ ー ム	3	0	0	0	0	26	0	0	9	0	38	
	49	室内オリンピック	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	50	室内スポーツ(卓球・バスケ)	0	0	1	0	0	16	2	0	3	0	22	
	51	室内ビンゴ・オリエンテーリング	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	6	
	52	室内ウォークラリー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	53	室 内 ペ タ ン ク	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	11	
	54	フリー・ブロー(吹矢)	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0	12	
	55	輪投げ/インディアカ	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	10	
	56	伝 承 遊 び	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	
	57	地 引 き 網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	58	サ イ ク リ ン グ	6	0	0	0	0	5	0	0	4	0	15	
	59	移動体験学習・活動	9	0	0	0	0	6	0	0	5	0	20	
	60	学 習 (研 修)	2	0	1	0	1	7	4	2	0	0	17	
	61	ス ポ ー ツ (練習等)	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	11	
	62	合唱・合奏等練習	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	9	
合 計			1,555	37	3	33	7	744	18	12	254	16	2,679	

第4節 主催事業

1 リーダーのための研修

(1) 学校利用団体

ア. 目的

当自然の家での研修をより効果的に実施するための事前研修。研修活動の企画・立案から諸手続き、実技までを研修する。

イ. 期日・対象・参加者数

第1回

期日 平成14年4月25日(木)～26日(金)
対象 平成14年6月18日(火)～7月18日(木)に利用する学校の教職員

参加者数 78名

第2回

期日 平成14年5月1日(木)～2日(木)
対象 平成14年8月27日(火)～9月21日(土)に利用する学校の教職員

参加者数 60名

第3回

期日 平成14年5月30日(木)～31日(金)
対象 平成14年9月21日(土)～11月30日(土)に利用する学校の教職員

参加者数 68名

第4回

期日 平成15年2月13日(木)～14日(金)
対象 平成15年4月15日(土)～6月19日(土)に利用する学校の教職員

参加者数 87名 合計 293名

ウ. 研修内容

施設見学 (本館、野営場、ロッジ等)
実技研修 (磯遊び、釣り体験、冒険の森踏査、キャンプファイア、野外炊飯等)
活動計画作成 (活動プログラムの立案、同時利用と活動場所調整)

(2) 社会教育関係団体

ア. 目的

当自然の家での研修をより効果的に実施するための事前研修。研修活動の企画・立案から諸手続き、実技までを研修する。

イ. 期日・対象・参加者数

期日 平成14年6月8日(土)～9日(日)
対象 平成14年度に利用する20名以上の社会教育関係団体の引率責任者

参加者数 93名

ウ. 研修内容

施設見学 (本館、野営場、ロッジ等)
実技研修 (磯遊び、釣り体験、冒険の森踏査)
活動計画作成 (活動プログラムの立案、同時利用団体との活動場所調整)

2 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業

- ハートウォームプラン「心に翼・ふれあいキャンプ」 -

(1) 目的

自然体験活動を通して交流を深め、自然や人とふれあう喜びを体得するとともにお互いの理解を深める。

(2) 期日 平成14年8月2日(金)～4日(日)

(3) 対象 県内の小・中学校、聾・養護学校に在籍する児童・生徒

(4) 参加者数 75名

(5) 内容 おもしろウォークラリー、野外炊飯、キャンプファイア、砂の芸術、海水浴、いかだ乗り、ボディボード、夏祭り、うちわ作り

3 豊かな自然体験活動推進事業

- ウィークエンドわくわく体験 -

(1) 目的

学校週5日制の実施に伴う休業土曜日に、自然体験学習を実施することにより、友との交流や親子のふれあいを深め自主性・創造性・社会性を育てるとともにボランティア活動の場とする。

(2) 内容

遊ぼう！春の海～釣り・磯遊び～

期日 平成14年5月11日(土)

対象 県内の小・中学生とその保護者

参加者数 47名

活動内容 四倉漁港内での海釣り体験

学ぼう！森と水のエコスクール

期日 平成14年6月29日(土)～30日(日)

対象 県内の小・中学生とその保護者

参加者数 53名

活動内容 背戸岬廊での水中生物・自然観察
講演：星空ロマン紀行
自然の家エリア内の森の自然観察

とことん海釣り～夜釣りにも挑戦～

期日 平成14年9月7日(土)～8日(日)

対象 県内の小・中学生とその保護者

参加者数 46名

活動内容 波立海岸・四倉漁港での海釣り体験
四倉漁港での夜釣り体験

紅葉のトレッキング～いざ、二ツ箭山へ～

期日 平成14年10月26日(土)

対象 県内の小・中学生とその保護者

参加者数 32名

活動内容 二ツ箭山トレッキング

親子のつどい (ファミリーウインターランド)

期日 平成15年1月25日(土)～26日(日)

対象 県内の小・中学生とその保護者

参加者数 105名

活動内容 ウッド&バンブークラフト製作
キャンプファイア
ネイチャー&トライアルハイキング

福島県郡山自然の家

第1節 概要

自然環境を有する都市近郊型であり、その特徴を生かし、野外活動や集団宿泊生活を通じ、心身ともに健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした社会教育施設である。

『財団法人福島県自然の家』として生まれ変わって5年目を迎え「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、それまでの利用主体であった小中学生のみならず、高校生、一般社会人・企業・家族など多種多様である。本所は、生涯学習の拠点として、市街地に近く、多層にわたって広く県民の皆様にご利用いただけるような施設を目指している。

昭和47年に開所して以来30年の節目を迎え、延べ利用者は125万人を超えている。本年度は、創立30周年の記念式典を催したり、訪日ドイツ青少年指導者代表団の受入れ事業を担当するなど、決意を新たに取り組んでいる。

特に、利用者の主体性を生かすため、目的に応じて活動プログラムの弾力化を図ってきた。また、野営場テーブルの修繕や、体育館から野営場までの照明設備を設置するなど、「魅力ある施設づくり」を目指し所員一丸となって努力してきた。年間の利用状況は利用団体数250団体、延べ利用者数31,320人という、利用実績と多くの成果を上げることができた。

1 運営委員会及び職員組織

(1) 運営委員会の組織

運営委員会の組織は、次のとおりである。

氏名	所属
国馬 善郎	郡山女子大学短期大学部講師
早川 敬介	福島県PTA連合会会長
遠藤 久夫	郡山市教育委員会教育長
太田 緑子	福島県青少年教育振興会会長
佐々木孝司	福島県教育庁生涯学習課主幹
館 美文	須賀川市教育委員会教育長
半澤 纈喜	福島県小学校長会副会長
本田 裕	福島県高等学校長協会普通部会県南支部長
箭内 政勝	福島県中学校長会理事

氏名は委員長、副委員長以外五十音順

印：委員長 印：副委員長

運営委員会は、次のとおり2回開催した。

第1回運営委員会

平成14年7月12日(水)

第2回運営委員会

平成15年2月14日(金)

(2) 職員組織

職名	所長	次長	主査	副主査	主任指導主事	指導主事	計
人員	1	1	1	1	1	4	9

2 平成14年度重点目標と成果

(1) 利用団体への支援

利用団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用指導者研修会や社会教育団体指導者研修会を開催するなど、利用団体の指導者との連携を密にした。

その中で、施設の概要を説明し研修のねらい・活動種目・実施方法など活動プログラムの編集について、指導・援助を行うとともに、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように利用団体に応じ、積極的に支援した。

プログラムの作成にあたっては、利用団体のより主体的な活動プログラムができるように、利用団体の目的やニーズに応じて、弾力的に支援した。

さらに、利用者が自然や友達との触れ合いをより深めたり、新たな発見や気づきを重視した活動が出来るよう、ゆとりある日程の推進を働きかけた。

(2) 利用者の声を生かす

運営委員会等関係諸機関の提言を十分生かし、利用団体間の交流を取り入れるなど、運営改善に努めた。

利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約し、分析して、運営に生かしてきた。

今年度は、老朽化が進んでいた野営場テーブルの天板修繕や体育館から野営場までの照明設備を設置することができた。

(3) 環境保護の視点に立った環境整備

よく手入れされた施設設備を目指して、日常点検や活動開始前の点検を常に心掛けた。

自然保護に配慮して、自然と共生するコース案内板等の補修及び更新を行ってきた。特に、木にやさしくという考えに立って、針金等による補修を行わないようにした。また、エリア内美化活動への参画を利用団体にも啓発した。

室内の環境については、季節ごとの掲示に心がけるなど変化のある計画的な掲示を行い、環境を整えた。

(4) 多様なニーズに対応できるプログラムの開発

利用団体の研修のねらいも年々多様になってきており、団体のニーズに応じて弾力的に対応した。また、「総合的な学習の時間」を活用しての利用など、利用団体の趣旨を生かしたプログラムの推進を図った。

また、当所外でのプログラムとして、ふれあい科学館

や猪苗代スキー場など、近隣施設との連携を図り、プログラムに幅と広がりを持たせた。

既存の活動種目を見直し、改善を加えた。特に、プログラムの内容が実態に合っているかという観点から再吟味して、より多くの利用者が楽しむことが可能な内容に改めた。

雨天時の活動を中心とする活動プログラムとして、クラフト活動の充実を図るとともに、野外説明テントの有効活用や、雨天時の野外活動を実施する場合の対応にも心がけた。

(5) 広報活動の展開

多くの利用者に利用してもらえよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。小中学校はもちろん報道機関を通じた周知活動や、社会教育団体への広報を行った。

利用拡大に向けて、直接利用団体等を訪問し、生の声を聞き今後の運営改善に生かした。また、新たな団体を訪問し、利用拡大を図った。

所報や主催事業案内、利用ガイド等の改善・充実を図るとともに、利用団体や関係機関との連携を深めた。

(6) 特色ある主催事業の開発

豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業では、ボランティア支援対応事業としてウィークエンドわくわく体験を行った。

7月に行った『ピバ！ファミリーキャンプ』では、本所の野営場等のフィールドをフルに活用し実施した。キャンプを通して親子の絆を深めるとともに、家族相互の交流や親睦を深めることができた。

10月に実施した『親子でふれあいディー！』は、今年度からの新企画であり、当所の自然体験プログラムを開放して、親子で活動してもらおうことを意図して、開催した。

2月の『北風小僧と“氷”で滑ろう！』も今年度からの企画であり、北風の吹く中、親子でスケートを体験し、厳冬の猪苗代湖で白鳥を観察した。

『夢冒険キャンプ』は、大滝溪谷の沢登りをメインに2泊3日で行った。竹細工の食器作製や鱒つかみなど、より自立性の高い活動を取り入れた。

沢登りでは、滝の深みや岩登りなどを全員がやりとげることが出来た。沢登りやキャンプ生活を通して、自然との関わりや様々な困難に打ち勝とうとする姿が随所にみられ、参加した子どもたちも充実感や達成感を味わうことができた。

『たくましく生きる少年のつどい』は、年3回に分け4泊7日の期間で実施した。活動のテーマを第1回「新しい友や自然との出会い」、第2回「友との交流とキャンプ体験・登山」、そして第3回「新たな自分の発見」としてプログラムを設定した。出会い体験では、新しい友やメンタルフレンドとしての学生サポーター達とのふれあいゲーム等を設定した。

農業体験では、直接土に触れ3回に渡る栽培活動を実施した。キャンプ、登山体験では、自分たちで苦労して起こした火で野外炊飯を行い、雨中の登山体験を行った。

これらの体験は一人一人の自立や、人間関係の拡大、生活経験の拡大に効果的であった。

(7) 安全対策の充実

「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。今後とも、引率指導者への安全意識の向上に努めていきたい。

食中毒防止については、「手洗いの徹底」を働きかけてきた。食事を提供する食堂業者や利用者の意識も高く、大きな問題は無かった。今後も、油断すること無く万全の努力をしていくことが必要である。

スズメバチ対策については、捕虫装置を設置してハチを捕獲するというように、昨年の被害を分析し先手先手の措置を講じてきた。特に、今年度は設置個所を増やしたり、コース点検を強化するなどして対応した。また、不審者の侵入防止を図るため、本館下の通路に新たに車止めを設置するなど、一層の安全管理に努めている。

今後とも、安全対策に万全を期すため、的確な情報を収集し対処していきたい。

(8) 施設設備等の充実

利用者に快適に利用してもらえようように、与えられた条件の中で、できることは何かを常に考えながらハード面の改善を行ってきた。

野外環境では、利用者からのニーズに対応して、老朽化が進んでいた野営場のテーブルの天板修繕や、体育館から野営場まで安全確保のために夜間照明を設置した。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

〒963 - 0213
郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

2 宿泊定員

本館 166名 (14部屋)
ロッジ 126名 (9棟)

3 敷地面積

237,587.59㎡

4 建物面積

延床面積 3,806.08㎡
本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)、体育館、食堂、総合活動館、野外活動センター、ロッジ等

5 設備備品等

野外活動設備 (フィールドアドベンチャー設備、アーチェリー場、スコアオリエンテーリングコース、マウンテンバイクコース、フィールドワークコース、営火場等)、天体望遠鏡、運動及び野外活動用具、視聴覚機器、パーソナルコンピューター等

第3節 利用状況

郡山自然の家の利用者は、次のように大別される。

保育所、幼稚園、小学校、中学校、養護学校、高等学校
の園児や児童生徒及び引率者

スポーツ少年団、子供会育成会、学校・学級PTAなど

の社会教育団体に所属する児童生徒及び引率者
企業やグループ等

本年度の利用団体数は250団体、利用者数は、実利用者が、16,066人、延31,320人である。

なお、利用状況の詳細は、次のとおりである。

1 月別利用状況

月	種別 区分	学 校 教 育 団 体					社 会 教 育 団 体			ファミリー	主催事業	合 計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
4	団体数	0	1	0	0	0	4	3	1	1	1	11
	利用人員	0	209	0	0	0	182	109	18	5	40	563
	延人数	0	418	0	0	0	364	139	18	10	40	989
5	団体数	7	1	0	0	0	5	3	1	1	1	19
	利用人員	376	223	0	0	0	219	73	49	6	67	1,013
	延人数	752	446	0	0	0	355	159	49	6	67	1,834
6	団体数	25	0	0	0	2	6	0	0	1	2	36
	利用人員	1,670	0	0	0	315	492	0	0	15	97	2,589
	延人数	3,300	0	0	0	630	936	0	0	15	194	5,075
7	団体数	4	1	0	2	6	16	0	0	0	2	31
	利用人員	356	70	0	60	563	1,205	0	0	0	141	2,395
	延人数	712	210	0	120	1,066	2,763	0	0	0	241	5,112
8	団体数	3	0	1	0	1	22	3	0	2	1	33
	利用人員	155	0	38	0	138	1,318	160	0	12	26	1,847
	延人数	355	0	114	0	276	2,875	320	0	12	78	4,030
9	団体数	14	0	1	3	0	5	3	0	0	1	27
	利用人員	1,282	0	240	94	0	427	62	0	0	40	2,145
	延人数	2,674	0	480	168	0	643	62	0	0	120	4,147
10	団体数	21	0	0	0	1	11	4	0	0	0	37
	利用人員	1,557	0	0	0	131	792	122	0	0	0	2,602
	延人数	3,051	0	0	0	131	1,357	144	0	0	0	4,683
11	団体数	2	0	0	0	0	3	8	0	1	2	16
	利用人員	162	0	0	0	0	317	341	0	10	244	1,074
	延人数	324	0	0	0	0	407	412	0	10	284	1,437
12	団体数	1	0	0	0	1	5	0	0	1	0	8
	利用人員	35	0	0	0	182	201	0	0	15	0	433
	延人数	35	0	0	0	364	517	0	0	30	0	946
1	団体数	1	0	0	0	0	5	0	2	0	0	8
	利用人員	64	0	0	0	0	155	0	54	0	0	273
	延人数	64	0	0	0	0	335	0	54	0	0	453
2	団体数	1	0	0	0	1	5	2	0	0	1	10
	利用人員	39	0	0	0	101	206	35	0	0	34	415
	延人数	117	0	0	0	303	372	55	0	0	34	881
3	団体数	0	0	0	0	0	8	4	2	0	0	14
	利用人員	0	0	0	0	0	572	104	41	0	0	717
	延人数	0	0	0	0	0	1,233	448	52	0	0	1,733
合 計	団体数	79	3	2	5	12	95	30	6	7	11	250
	利用人員	5,696	502	278	154	1,430	6,086	1,006	162	63	689	16,066
	延人数	11,384	1,074	594	288	2,770	12,157	1,739	173	83	1,058	31,320

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

項目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	250	16,066	15,254	31,320
(キャンプ)	(11)	(561)	(909)	(1,470)
(ロ ッ ジ)	(44)	(2,719)	(2,926)	(5,645)

(2) 利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	293	217	237	136
(キャンプ)	(165)	(19)	(134)	(11)
(ロ ッ ジ)	(167)	(78)	(135)	(36)

() はキャンプ・ロ ッ ジの内数

(3) 利用者区分

泊 数	種 別 区 分	学 校 教 育 団 体					社 会 教 育 団 体			ファミリー	主催事業	合 計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少 年	青 年	その他			
1 泊	団 体 数	5	0	0	1	2	18	16	5	5	5	57
	実利用者数	417	0	0	20	191	1,046	546	151	43	386	2,800
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	417	0	0	20	191	1,046	546	151	43	386	2,800
1泊2日	団 体 数	67	2	1	4	9	60	11	1	2	4	161
	実利用者数	4,901	432	240	134	1,138	4,252	349	11	20	237	11,714
	延宿泊者数	4,901	432	240	134	1,138	4,252	349	11	20	237	11,714
	延利用者数	9,802	864	480	268	2,276	8,504	698	22	40	474	23,428
2泊3日	団 体 数	6	1	1	0	1	13	2	0	0	2	26
	実利用者数	347	70	38	0	101	545	57	0	0	66	1,224
	延宿泊者数	694	140	76	0	202	1,090	114	0	0	132	2,448
	延利用者数	1,041	210	114	0	303	1,635	171	0	0	198	3,672
3泊4日	団 体 数	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	5
	実利用者数	31	0	0	0	0	243	0	0	0	0	274
	延宿泊者数	93	0	0	0	0	729	0	0	0	0	822
	延利用者数	124	0	0	0	0	972	0	0	0	0	1,096
4泊5日	団 体 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5泊6日	団 体 数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	54	0	0	0	54
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	270	0	0	0	270
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	324	0	0	0	324
合 計	団 体 数	79	3	2	5	12	95	30	6	7	11	250
	実利用者数	5,696	502	278	154	1,430	6,086	1,006	162	63	689	16,066
	延宿泊者数	5,688	572	316	134	1,340	6,071	733	11	20	369	15,254
	延利用者数	11,384	1,074	594	288	2,770	12,157	1,739	173	83	1,058	31,320

3 研修活動の分類と実施団体数

分類	番号	種 別 プログラム名	学 校 教 育 団 体					社会教育 団 体	合 計		
			小学校	中学校	高等学校	養護学校	幼稚園				
野	キャン プ	1 ロ ッ ジ 泊	17	3	0	0	2	26	48		
		2 テ ン ト 泊	0	0	0	0	0	13	13		
		3 テント設営・撤収	0	0	0	0	0	13	13		
		4 野 外 炊 飯	23	2	1	3	4	74	107		
		5 火 お こ し	1	0	0	0	0	1	2		
外 活	自然 触れ 合い 活動	6 フィールドワーク	56	1	0	1	2	21	81		
		7 フィールドアドベンチャー	28	0	0	0	2	9	39		
		8 オリエンテーリング	7	1	0	1	0	11	20		
		9 登 山	2	0	0	0	0	1	3		
		10 ナ イ ト ハ イ ク	32	1	0	0	0	13	46		
		11 ウォークラリー	7	0	0	1	0	4	12		
		12 雪遊び・そりすべり	1	0	0	0	0	5	6		
		動	自然 観 察 活動	13 自 然 観 察	5	0	0	0	1	26	32
				14 ネイチャーラリー	1	0	0	0	0	2	3
				15 コンパスラリー	0	0	0	0	0	0	0
				16 ハイキング	6	0	0	0	2	6	14
				17 星空ウォッチング	5	1	0	0	0	3	9
18 スターピニング	0			0	0	0	0	0	0		
19 ネイチャーゲーム	8			0	0	0	2	4	14		
ス ポ ー ツ	レク ・ ゲ ー ム	20 ゲ ー ム 遊 び	2	0	0	0	0	13	15		
		21 キャンプファイヤー	20	1	0	0	5	22	48		
		22 キャンドルファイヤー	8	0	0	2	2	1	13		
		23 ボンファイヤー	11	0	0	1	1	13	26		
		24 伝 承 遊 び	1	0	0	0	0	2	3		
		25 旗とりゲーム	13	0	0	0	0	1	14		
		26 ロ ー プ ワ ー ク	0	0	0	0	0	1	1		
		レ ク ス ポ ー ツ	ク ラ フ ト	27 張子の面作り	0	0	0	0	0	1	1
				28 草 木 染 め	0	0	0	0	0	2	2
				29 焼き板作り	5	0	0	0	0	7	12
				30 森の標本箱	4	1	0	0	0	3	8
31 森の落とし物	0			0	0	0	1	2	3		
32 革 細 工	1			0	0	1	0	2	4		
ク ス ポ ー ツ	ス ポ ー ツ			33 室内サーキット	11	0	0	1	0	13	25
				34 サイクリング	0	0	0	0	0	1	1
				35 アーチェリー	46	0	1	1	0	19	67
				36 マウンテンバイク	39	0	0	1	0	5	45
		37 インラインスケート	42	0	0	0	0	8	50		
		38 アイススケート	0	0	0	0	0	1	1		
		39 ターゲットバードゴルフ	0	0	0	0	0	1	1		
		40 フリスビーゴルフ	13	0	0	0	1	8	22		
		41 室内スポーツ	6	2	4	0	3	58	73		
文 化 活 動	文 化 活 動	42 文化財をたずねて	1	0	0	0	0	0	1		
		43 自 主 研 修	9	3	1	1	3	29	46		
		44 そ の 他 (会議等)	0	0	3	0	0	58	61		
		45									
合 計			431	16	10	14	31	503	1,005		

第4節 主催事業

1 指導者の研修

(1) 学校利用指導者研修会（第1回、第2回）

目的

当所を主体的に利用することができるようにするため、実技研修や活動プログラムの作成及び調整を通して、指導者としての資質を高める。

期日・対象校及び参加者数

第1回 平成14年4月24日(水)

対象校 4月～7月までの利用学校

該当校 40校 参加校数 38校

第2回 平成14年7月3日(水)

対象校 8月～3月までの利用学校

該当校 41校 参加校数 39校

研修内容

ア 実技研修 ・施設案内「アーチェリー・いかだ」

イ 昼食＜バイキング方式による実食＞

ウ 活動プログラムの作成（各学校の子どもの実態に応じて作成）

エ 活動プログラムの調整（同日利用校同士のプログラム調整・所バス利用調整）

オ 実技研修 「キャンプファイヤー・ボンファイヤー」

(2) 社会教育団体利用指導者研修会

目的

当所の主体的な利用ができるようにするため、実技研修を通して研修計画の立て方や研修の進め方等について研修するとともに、指導者間の情報交換を図り、指導者としての資質を高める。

期日・対象者及び参加者数

ア 期日 平成14年6月14日(土)～15日(日)

イ 対象 利用団体の指導者 参加者数 69名

研修内容

<1日目>開会式

ア 実技研修（自然体験プログラム、スポーツプログラム）

イ 夕食（野外炊飯の仕方）

ウ 実技研修（ナイトハイク&ボンファイヤー）

<2日目>

ア 朝食（食堂バイキング実食）

イ 活動プログラムの調整及び作成（同時利用団体との打ち合わせ・調整）

2 少年のつどい

(1) たくましく生きる少年のつどい

豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業「ハートウォームプラン」

目的

学校生活になじめずにいる不登校等の児童生徒を対象に、自然体験活動等を通して社会性や自立心、忍耐力等の涵養を図るとともに、その保護者に対し、課題解決へ向けた教育相談や交流等の機会を提供する。

期日・対象者及び参加者数

ア 第1回

期日 平成14年6月1日(土)～2日(日)

対象 学校生活になじめずにいる不登校等の児童生徒及び保護者、兄弟姉妹等

定員 30名 参加者数 19名
対象児童生徒 11名

活動場所 本所、橋本農場（多田野）

イ 第2回

期日 平成14年9月6日(金)～8日(日)

対象 学校生活になじめずにいる不登校等の児童生徒及び保護者、兄弟姉妹等

定員 30名 参加者数 24名
対象児童生徒 10名

活動場所 本所、橋本農場（多田野）、高篠山

ウ 第3回

期日 平成14年11月9日(土)～10日(日)

対象 学校生活になじめずにいる不登校等の児童生徒及び保護者、兄弟姉妹、友人等

定員 30名 参加者数 24名
対象児童生徒 9名

活動場所 本所

内容

ア 第1回

<1日目>

・出会いの集い ・ナイトハイク
・ふれあいゲーム 保護者懇談会

<2日目>

・農業手伝い体験 農業体験

イ 第2回

<1日目>

・農業収穫体験 カウンセリング講習会

<2日目>

・高篠山登山 教育相談会
（高篠山森林公園、マスカみ、マスの調理）
・語らいタイム（お楽しみプログラムについて）

<3日目>

・火起こし体験
・野外クッキング
・別れのつどい

ウ 第3回

<1日目>

・班別会議（班ごとスタンツ）
・先輩の話を聞こう ・班別自主活動
・キャンドルファイヤー（子どもによる企画・運営）
保護者懇談会

<2日目>

・活動ビデオ上映会（これまでの記録ビデオ上映）
・親子そば打ち体験
・別れのつどい

(2) 夢冒険キャンプ

目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら様々

な困難に打ち勝つことの出来る少年を育成する。

期 日
平成14年 8月20日(火)～22日(金)

対象及び参加者
県内在住の小学5年生以上中学3年までの20名
参加者 20名

内 容

<1日目> 本所
・結団式 ・オリエンテーション ・レクリエーション
・竹細工 ・野外炊飯

<2日目> 大滝溪谷沢登り
本所 沢登り 大滝溪谷 テント設営 野外炊飯 ナイトハイク テント泊

<3日目> 大滝溪谷、本所
・野外炊飯 ・テント撤去 本所 ・解団式

3 豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業

- ウィークエンドわくわく体験 (ボランティア支援対応事業) -

(1) 目 的

学校5日制の完全実施に伴い、これまでの実践に工夫改善を加え自然体験活動、交流活動の拡充を図る。そのための方策として地域の人材・高校生等、ボランティアの活動の場を提供するモデル事業として推進し、体験活動の一層の充実を図る。

(2) 内 容

[第1回]

事業名 「ピバ・ファミリーキャンプ」

目 的 豊かな自然の中で、正しいキャンプの方法を学びながら親子での交流を深める。

期 日 平成14年7月13日(土)～14日(日)

定員及び参加者 定員100名 参加者88名

主な活動 開村式、テント設営、家族対抗野外ゲーム(自然の家ポイントラリー)、アウトドアクッキング、ナイトハイク、テント撤収、選択スポーツ(アーチェリー、インラインスケート、フリスビーゴルフ)、閉村式

[第2回]

事業名 「親子でふれあいデー」

目 的 親子で自然の家のフェスティバルに参加し、体験活動を通して、対話と絆を深める。

期 日 平成14年11月2日(土)

定員及び参加者 定員200名 参加者204名

主な活動 開会式

<午前の部>
アーチェリー・スコアオリエンタリング・エアサッカー・クラフト活動・フィールドアドベンチャー・施設めぐり等

<午後の部>
フィールドワーク・大声大会・インラインスケート・クラフト活動・エアサッカー・施設めぐり

閉会式

[第3回]

事業名 北風小僧と“氷”で滑ろう!

目 的 北風の吹く中、スケート活動や白鳥観察を通して、親子の絆を深める。

期 日 平成14年2月1日(土)

定員及び参加者 定員10家族 参加者10家族

主な活動 結団式

ア スケート教室(郡山スケート場)
靴の履き方、転び方、滑走法、自由滑走、ゲーム大会(みかん拾い)

イ 白鳥観察(猪苗代湖)
白鳥ヶ浜、長浜

解団式

福島県会津自然の家

第1節 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした社会教育施設である。

昭和56年4月に開所し、今年度末で22年になり、開所以来の延利用者は98万人を越えた。

今年度は、次の5つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した社会教育施設の役割に積極的に取り組んできた。

重点目標

- (1) 施設・設備の充実及び安全管理と安全指導の徹底
- (2) 施設利用の促進
- (3) 利用者の研修活動の充実
- (4) 人材の発掘・活用・拡大
- (5) 職員研修の充実

1 運営委員会及び職員組織

(1) 運営委員会

運営委員会は9名で構成し、委員は次のとおりである。

氏名	所属
竹内 暎俊	河沼郡会津坂下町町長
古川 保夫	福島県市町村教育委員会連絡協議会常任委員
小澤 隆	地域住民代表（福島県会議員）
遠藤 英機	福島県小学校長会副会長
横山大太郎	福島県中学校長会副会長
堀 幸一郎	福島県高等学校長会会津支部長
林 憲一	福島県P・T・A連合会副会長
山口 金子	会津坂下町婦人団体連絡協議会長
小澤 一男	全会津公民館連絡会会長

：委員長 ：副委員長

運営委員会は、次のとおり2回実施した。

第1回運営委員会

- ア 期日 平成14年7月18日(木)
- イ 場所 福島県会津自然の家 第一研修室
- ウ 内容 (ア) 平成13年度利用状況について
(イ) 平成14年度利用見込みについて
(ウ) 平成14年度運営について
(エ) 平成14年度主催事業について

第2回運営委員会

- ア 期日 平成15年2月21日(金)
- イ 場所 福島県会津自然の家 会議室
- ウ 内容 (ア) 平成14年度事業報告について
a 主要事業等

b 主催事業実績

c 利用状況

d 利用促進活動

(イ) 平成15年度運営について

a 教育目標・重点目標

b 主催事業計画

c 利用予定

d 利用促進活動

(2) 職員組織

職名	常務理事兼所長	次長	主任指導主事	指導主事	主査	主事	嘱託運転手	計
人員	1	1	1	6	1	1	1	12

2 平成14年度重点目標と成果

(1) 施設・設備の充実及び安全管理と安全指導の徹底

- ア 日常の点検・保守活動を重視するとともに優先順位を見極めた予算執行・修繕等で、老朽化に対応した。
- イ 施設設備の問題にはその都度すばやい対応に心掛けて明るく開放的で、安全で、使いやすい施設充実に努めた。
- ウ 野外コース等管理員の雇用により、野外コースの整備が進んでコース幅が広くなり、より安全になった。
- エ 「生物を育てる広場」を設置し、在来動植物の保護に資するとともに、自然と触れ合う活動の素材の充実に努め、より豊かな自然体験活動ができるようにした。
- オ 自然の家らしい、季節感のある環境づくりに心掛けて、自然体験への関心を高めるように努めた。
- カ ボイラー・清掃の契約業者への指導や連携を重視して効率よい設備運営や美化に努めた。
- キ 非常時における火災報知機等の操作及び防火施設の点検を定期的に行い、実際に所員が緊急時に適切な対応ができるように努めた。
- ク 利用者への携帯用灰皿の貸出しや定期的な活動コースのパトロールを実施するとともに、看板等の表示により山火事の防止に努めた。
- ケ 利用団体事前研修会や到着時のオリエンテーションで蜂や蛇・ウルシの対策を周知し注意を促したり、蜂退治を実施したりして野外活動の事故防止に努めた。
- コ 野外炊飯時の食材の衛生管理、調理器具の殺菌、保存検食の確保、食料持ち込み・持ち帰りの禁止、利用者個人への意識高揚を通して食中毒の防止に努めた。

(2) 施設利用の促進

- ア ホームページを開設、充実させ、所の施設案内や活動プログラムの紹介、主催事業の案内等を広く県内外に紹介できるようにした。

- イ 利用団体の目的を十分理解し、目的が達成できるよう柔軟に対応するとともに、可能な限り支援し利用団体の主体性を促すことに努めた。
- ウ 利用団体の引率者が中心となり活動できるように、引率者と所員との連携を密にし、それぞれの役割分担を明確にして進めた結果、各利用団体の主体性が活動の各場面で見られるようになってきた。
- エ 当所の隣接町村校の通学合宿を奨励した。特に夜の活動場面においては所員がサポートをし、充実した活動を実施することができた。
- オ 所報、主催事業案内の内容を大幅に改善し、利用者に訴える内容にするとともに、学校、団体、社会教育関係機関への訪問PRに積極的に出向いて広報活動の充実を図り、利用促進に努めた。
- カ 会津自然の家でできる学校の各教科における体験活動や「総合的な学習の時間」に資する体験活動の新プログラム化を積極的に進めるとともに、それらの一覧表を作成・配付し、新たな利用開拓を図った。
- (3) 利用者の研修活動の充実
- ア 会津全体を所の活動エリアと捉え、地域の自然、歴史、生活文化等の体験を活動プログラム化するとともに、里山型の活動並びに冬季間のスキーなど立地条件の特性を生かした会津自然の家ならではの活動プログラムの充実に努めた。
- イ 現代の青少年の自然体験活動不足を補い、親子のふれあい、世代間のふれあいを助長する等の、社会のニーズに対応した内容の主催事業の実施に努めた。
- ウ 送迎用の所バスの有効活用に努め、可能な限り団体のニーズに応えるよう便宜を図った。
- エ 主催事業実施後の反省と評価を適切に行い、内容・方法等の検討をし、立地条件を鑑みた事業内容の工夫と改善に努めた。
- オ 学校団体指導者事前研修会、社会教育団体指導者事前研修会、事前踏査等の充実を図り、利用団体が主体的に研修できるように努めた。
- カ 社会教育団体の利用や日帰り利用が増加し、それぞれの目的に応じた研修活動が充実するようそのサポートに努めた。
- キ 所近隣の公共施設や関係機関との連携に努め、活動の場と指導スタッフの多様化を図って、より豊かな自然体験活動や社会体験活動をコーディネートできるように努めた。
- (4) 人材の発掘・活用・拡大
- ア 人材バンク登録を一層整備して各分野ごとの協力者陣の充実を図り、活用の実践化を通し、所の事業運営に生かすとともに社会のボランティア意識の高揚の一助に努めた。
- イ 学生ボランティアを地域の大学、高等学校に依頼し、協力を得た。これにより主催事業等で、利用者のきめ細かなサポート、スムーズな運営ができ、事業の充実を図ることができた。
- ウ 地元の公民館や団体との連携により、地域人材を活用する場とネットワークが一層広がり、地域に根ざした開

- かれた施設としての運営ができるようになってきた。
- エ 地域人材を生かした主催事業が展開できたことにより、そうしたノウハウが一般化され、利用団体の活動プログラムの充実にもつながってきた。
- (5) 職員研修の充実
- ア 計画的に職員研修を行うとともに、他施設の視察研修を実施し、職員の資質と指導力の向上に努めた。
- イ 平成14年度委託事業「ハートウォームプラン・青少年自然体験活動推進事業～チャレンジ生き生き親子のつどい～」の充実に向けた研修を進めた。
- ウ 県内外の施設との連携を密にし、情報交換や資料収集を行い、専門性の向上に努めた。
- エ 学校の各教科や総合的な学習の時間での「体験」へのニーズを掘り下げる研修を進め、従来の「旅行的・集団宿泊の行事」としての利用にとどまらない、利用ニーズの拡大に努めた。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495 - 1

2 宿泊定員

本館	25室	300名
ロッジ	10棟	150名
テント	20張	120名

3 敷地面積

251,432㎡

4 建物面積

延床面積 5,462.7365㎡

・管理研修棟	(鉄筋造2階建)
・宿泊棟	(鉄筋造2階建)
・プレイホール	(鉄筋造)
・アセンブリホール	(鉄筋造)
・機械棟	(鉄筋造3階建)
・ロッジ	(木造平屋建)
・野外活動管理センター	(鉄筋造)
・炊飯場(鉄筋造)	・薪置場(鉄筋造)
・車庫(鉄筋造)	・野外便所(鉄筋造)

5 運動広場面積

8,500㎡

6 設備備品等

- ・フィールドアスレチック
- ・スキー
- ・そり
- ・かんじき
- ・野外活動用具
- ・野外炊飯用具
- ・運動用具
- ・双眼鏡
- ・天体望遠鏡
- ・テレビ
- ・VTR
- ・16mm映写機
- ・ピアノ
- ・オルガン
- ・CDカセットプレーヤー
- ・伝承遊びセット
- ・クラフト用具
- ・OL用具
- ・営火場

少年団体、家族、老人会、勤労青少年団体等) の構成員及びその指導者

第3節 利用状況

当施設を利用できる対象者は、次のとおりである。

- (1) 学校団体 (小学校、中学校、養護学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等在学青少年団体) の構成員及びその指導者
- (2) 社会教育団体 (公民館、子ども会、保育所、スポーツ

(3) その他、教育長が適当と認めたる者

本年度の利用団体数は376団体、実利用者数は16,288人、延利用者数は33,661人である。

月別利用状況、利用団体別・宿泊日数別利用状況、研修活動の分類と実施団体数についての詳細は、次の表のとおりである。

1 月別利用状況

月	種別 区分	学 校 教 育 団 体					社 会 教 育 団 体			ファミリー	主催事業	合 計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少 年	青 年	その他			
4	団体数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	利用人員	87	152	0	0	0	0	0	0	0	40	279
	延人数	174	304	0	0	0	0	0	0	0	80	558
5	団体数	11	5	0	0	1	3	1	2	0	1	24
	利用人員	584	544	0	0	13	58	7	21	0	25	1,252
	延人数	1,205	1,351	0	0	13	133	7	33	0	25	2,767
6	団体数	19	2	0	0	2	3	0	8	3	4	41
	利用人員	1,362	240	0	0	44	208	0	476	11	109	2,450
	延人数	2,716	663	0	0	44	416	0	566	11	147	4,563
7	団体数	6	0	0	0	0	16	2	15	5	2	46
	利用人員	269	0	0	0	0	671	114	910	16	64	2,044
	延人数	521	0	0	0	0	1,241	366	1,768	32	117	4,045
8	団体数	0	0	0	0	0	31	9	8	4	2	54
	利用人員	0	0	0	0	0	1,306	320	309	19	79	2,033
	延人数	0	0	0	0	0	2,842	929	807	43	237	4,858
9	団体数	16	0	1	0	0	5	1	6	1	1	31
	利用人員	1,083	0	56	0	0	156	7	243	4	71	1,620
	延人数	2,316	0	168	0	0	279	14	321	8	142	3,248
10	団体数	11	0	0	0	3	6	2	7	6	1	36
	利用人員	722	0	0	0	128	273	19	261	27	77	1,507
	延人数	1,637	0	0	0	300	790	32	374	44	77	3,254
11	団体数	6	0	2	0	0	2	5	2	1	3	21
	利用人員	182	0	176	0	0	45	67	13	2	135	620
	延人数	182	0	176	0	0	90	127	13	2	165	755
12	団体数	2	0	0	0	3	4	4	3	2	2	20
	利用人員	75	0	0	0	67	176	35	57	7	72	489
	延人数	75	0	0	0	67	410	93	68	14	72	799
1	団体数	15	0	0	0	4	2	3	5	5	1	35
	利用人員	610	0	0	0	287	69	17	92	25	76	1,176
	延人数	1,242	0	0	0	371	112	53	176	46	152	2,152
2	団体数	23	0	0	0	11	7	3	3	4	1	52
	利用人員	1,155	0	0	0	689	242	12	105	14	75	2,292
	延人数	4,132	0	0	0	689	442	12	152	25	150	5,602
3	団体数	0	0	2	0	4	1	0	6	0	0	13
	利用人員	0	0	165	0	115	30	0	216	0	0	526
	延人数	0	0	461	0	115	60	0	424	0	0	1,060
合 計	団体数	110	8	5	0	28	80	30	65	31	19	376
	利用人員	6,129	936	397	0	1,343	3,234	598	2,703	125	823	16,288
	延人数	14,200	2,318	805	0	1,599	6,815	1,633	4,702	225	1,364	33,661

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

項目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	376	16,288	17,373	33,661
(キャンプ)	(9)	(257)	(399)	(656)
(ロッジ)	(19)	(846)	(865)	(1,711)

(2) 利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	291	221	236	140
(キャンプ)	(149)	(13)	(123)	(10)
(ロッジ)	(149)	(35)	(123)	(20)

() はキャンプ、ロッジの内数

(3) 利用者区分

泊数	種別 区分	学校教育団体					社会教育団体			ファミリー	主催事業	合計
		小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	少年	青年	その他			
1日	団体数	34	0	3	0	26	12	11	30	8	9	133
	実利用者数	1,318	0	193	0	1,215	524	58	1,169	35	361	4,873
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	1,318	0	193	0	1,215	524	58	1,169	35	361	4,873
1泊2日	団体数	42	5	0	0	0	50	8	31	21	8	165
	実利用者数	2,706	490	0	0	0	1,969	171	1,279	80	383	7,078
	延宿泊者数	2,706	490	0	0	0	1,969	171	1,279	80	383	7,078
	延利用者数	5,412	980	0	0	0	3,938	342	2,558	160	766	14,156
2泊3日	団体数	25	3	2	0	2	16	7	3	2	2	62
	実利用者数	1,478	446	204	0	128	611	288	185	10	79	3,429
	延宿泊者数	2,956	892	408	0	256	1,222	576	370	20	158	6,858
	延利用者数	4,434	1,338	612	0	384	1,833	864	555	30	237	10,287
3泊4日	団体数	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	6
	実利用者数	99	0	0	0	0	130	36	0	0	0	265
	延宿泊者数	297	0	0	0	0	390	108	0	0	0	795
	延利用者数	396	0	0	0	0	520	144	0	0	0	1,060
4泊5日	団体数	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9
	実利用者数	528	0	0	0	0	0	45	0	0	0	573
	延宿泊者数	2,112	0	0	0	0	0	180	0	0	0	2,292
	延利用者数	2,640	0	0	0	0	0	225	0	0	0	2,865
5泊6日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	70
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	350	0	0	350
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	420	0	0	420
合計	団体数	110	8	5	0	28	80	30	65	31	31	376
	実利用者数	6,129	936	397	0	1,343	3,234	598	2,703	125	125	16,288
	延宿泊者数	8,071	1,382	408	0	256	3,581	1,035	1,999	100	100	17,373
	延利用者数	14,200	2,318	805	0	1,599	6,815	1,633	4,702	225	225	33,661

3 研修活動の分類と実施団体数

分類	種別 プログラム	学 校 教 育 団 体				社 会 教 育 団 体				ファミリー	主催事業	合 計
		小学校	中学校	養護学校	その他	少年	青年	その他				
野	1 ス キ	28	0	0	2	18	0	2	3	2	55	
	2 ナイトハイキング	28	2	0	1	9	0	2	0	1	43	
	3 フィールドアスレチック	26	1	0	3	18	3	7	2	2	62	
	4 キャンプファイア	17	2	0	0	12	2	7	0	4	44	
	5 野外炊飯	16	2	0	2	16	3	5	0	5	49	
	6 ハイキング	8	0	0	0	4	0	1	0	0	16	
	7 宇宙大作戦	19	0	0	0	3	0	0	0	0	22	
	8 スコアオリエンテーリング	6	1	0	1	1	1	0	0	1	11	
	9 U F O ゴルフ	10	0	0	1	8	0	4	0	0	23	
	10 自然観察	5	0	0	0	0	0	1	0	0	6	
	11 ビンゴOL	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	
	12 文化財巡り	13	2	0	0	0	1	0	0	1	17	
	13 ウォークラリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
外	14 雪遊び・そり遊び	7	0	0	20	2	0	2	1	1	33	
	15 散策	4	1	0	1	6	2	2	1	1	18	
	16 テント設営	0	0	0	0	5	1	0	0	2	8	
	17 外部施設見学	1	0	0	0	00	0	0	0	0	11	
	18 奉仕活動	1	0	0	0	2	0	1	0	0	4	
	19 白鳥観察	0	0	0	10	0	0	2	0	0	12	
	20 フィールドワーク	1	0	0	0	00	0	0	0	0	1	
	21 登山(高寺山)	2	1	0	0	2	0	0	0	0	5	
	22 アニマルランドの冒険	0	0	0	1	2	0	2	1	1	7	
	23 コンパスラリー	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3	
	24 天体観察	9	2	0	0	7	2	1	0	2	23	
	25 野草OL・樹木OL	5	0	0	0	3	0	2	0	0	10	
	活	26 花火	0	0	0	0	5	2	0	0	0	7
27 地層観察		8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
28 かんじき体験		5	0	0	0	1	0	0	0	0	6	
29 葉っぱ・虫とり		2	0	0	3	0	0	1	0	0	6	
30 かんじきOL		1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
31 カヌー		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
32 ネイチャーOL		0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	
33 古墳めぐり		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
34 おっかけハイキング		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
35 そば打ち		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
36 農業体験		0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
37 総合的学習		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
38 山鳥の放鳥		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
39 ツリークライミング	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
40 すごろくOL	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2		
室	1 自由交歓	20	2	0	2	6	2	3	5	3	43	
	2 講習会・講演会・勉強会	2	1	0	2	12	3	6	0	0	26	
	3 キャンドルファイア	11	0	0	1	5	0	0	0	1	18	
	4 ゲーム・ダンス	4	0	0	1	7	1	3	0	1	17	
	5 バスケットボール・バレー	0	0	0	0	9	0	0	0	0	9	
	6 クラフト(切り絵・革細工)	15	2	0	3	15	2	1	2	2	42	
	7 朗読会	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	内	8 県道・なぎなた・空手	0	0	0	0	7	2	2	0	0	11
		9 所内施設見学	0	0	0	0	5	1	2	0	0	8
		10 室内レク(オリンピック)	5	1	0	0	5	0	2	0	0	13
	活	11 合唱・器楽練習	0	0	0	0	4	5	2	0	0	11
		12 ベータンク	3	0	0	2	7	3	3	0	0	18
		13 ビデオ鑑賞	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
動	14 ミーティング	0	0	0	0	5	2	2	0	0	9	
	15 訓練(含養護訓練)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	16 民話	8	0	0	0	0	0	0	0	2	10	
	17 学習のまとめ	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
	18 新体操	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
	19 劇練習	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
合計		305	23	0	58	220	39	71	16	33	765	

第4節 主催事業

1 指導者のための研修

(1) 学校団体指導者事前研修会

ア 目的

小・中・養護学校等が当施設で行う集団宿泊生活や諸活動の充実のため、実技研修を通して指導者の資質の向上を図るとともに情報を交換し、団体間の調整を行う。

イ 期日・対象・参加者数

- 第1回；平成14年4月16日(火)～17日(水) 1泊2日
5～7月に利用する学校の教職員42名参加
第2回；平成14年6月27日(木)～28日(金) 1泊2日
8～12月に利用する学校の教職員24名参加
第3回；平成14年11月28日(木)～29日(金) 1泊2日
1～3月に利用する学校の教職員30名参加

ウ 研修内容

- (ア) 野外活動や集団宿泊に関する実技研修
(イ) 利用校の児童・生徒の実態に応じた活動計画の作成と調整
(ウ) 引率指導者と所員の役割分担とその内容の明確化
(エ) 施設設備の実態と活動エリアの状況把握
(オ) 1泊2日による実際の宿泊体験を通じた参加者同士の情報交換

(2) 社会教育団体指導者研修会（リーダーセミナー）

ア 目的

社会教育団体が行う集団宿泊生活の充実のために、諸活動の実技研修を通して、指導者の資質の向上を図るとともに、活動プログラムの作成や調整を行い、各団体の指導者の交流を図る。

イ 期日・対象・参加者数

- 第1回；平成14年6月29日(土) 日帰り
7月21日～7月28日に利用する団体の引率者24名参加
第2回；平成14年6月30日(日) 日帰り
7月30日～8月25日に利用する団体の引率者39名参加

ウ 研修内容

- (ア) 施設設備の利用の方法
(イ) 野外活動に関する指導法と実技研修
(ウ) プログラムの作成と調整
(エ) 施設設備の実態と活動エリアの状況把握

2 自然に親しむ親子のつどい

(1) 親子キャンプ in 会津

ア 目的

親子によるキャンプ生活を通して、親子のふれあいを深めるとともに、他家族との交流を図り、相互の親睦を深める。

イ 期日・対象・参加者数

- (ア) 平成14年7月13日(土)～14日(日) 1泊2日
(イ) 小・中学生の親子49名参加

ウ 活動内容

- (ア) 親子で仲良くテント泊
(イ) 親子で楽しむ野外炊飯
(ウ) 親子で楽しむナイトハイキング
(エ) 親子でゆったりネイチャー・ゲーム

(2) 親子白銀のつどい

ア 目的

親子でスキーやそりを楽しんだり、会津の冬の生活文化に触れたりすることにより、冬の自然のすばらしさを感じるとともに参加者どうしの親睦を深めることができる。

イ 期日・対象・参加者数

- (ア) 平成15年1月25日(土)～26日(日) 1泊2日
(イ) 小・中学生の親子76名参加

ウ 活動内容

- (ア) スキーレッスン
(イ) 会津の民話
(ウ) 選択活動（スキー・雪遊び）
(エ) もちつき
(オ) 温泉入浴

3 自然に親しむ少年・少女のつどい

(1) 自然にアクセス～冒険キャンプ～

ア 目的

自然の中での生活体験を通して心身を鍛え、自主性・創造性を発揮させ、自分を律し、自然と調和して生活していこうとする心情を育てる。

イ 期日・対象・参加者数

- (ア) 平成14年8月9日(金)～8月11日(日) 2泊3日
(イ) 小学5年生以上中学生まで40名参加

ウ 活動内容

- (ア) テント設営・泊
(イ) 野外炊飯
(ウ) カヌー体験
(エ) 沢登り
(オ) キャンプファイアー
(カ) 記念クラフト作り

(2) 少年スキ-教室

ア 目的

雪国会津の白銀の中で、スキーの基礎技術やマナーを高めるとともに、その楽しさや喜びを味わい、参加者どうしの親睦と友情を深める。

イ 期日・対象・参加者数

- (ア) 平成15年2月8日(土)～9日(日) 1泊2日
(イ) 小学3年生以上中学生まで76名参加

ウ 活動内容

- (ア) スキーの基礎知識とマナーの学習
(イ) スキー実技（技能別スキー講習・含ナイター）
(ウ) 温泉入浴

4 学校週5日制対応主催事業

(1) 目的

学校週5日制実施に伴う第2・第4土曜日の休業日に、自然体験活動等の事業を実施することにより、子供たちの自主性と創造性を育てる。

(2) 内容

ア 会津の豊かな秋を楽しもう！「野外クッキング～パームクーヘンづくり～」

(ア) 趣 旨

野外でのパームクーヘン作りや天体観察、秋の散策を通して、親子や新しい友達とのふれあいを深め、充実した休業日を送ることができるようにする。

(イ) 期日・対象・参加者数

- a 平成14年9月21日(土)～22日(日) 1泊2日
- b 小・中学生及びその親71名参加

(ウ) 活動内容

- a パームクーヘン作り
- b 野外炊飯（バーベキュー）
- c 天体観察
- d 秋の野山散策（自然観察）

イ そば打ちに挑戦！「新そば手打ち教室」

(ア) 趣 旨

そば打ち体験や試食会を通して、新しい友と交わり充実した休業日を送ることができるようにする。

(イ) 期日・対象・参加者数

- a 平成14年11月24日(日) 日帰り
- b 平成14年11月30日(土) 日帰り
- c 小・中学生及びその親101名参加

(ウ) 活動内容

- a 講師によるそば打ち演示
- b そば打ち体験
- c そば試食会

ウ 手作りケーキでメリー・クリスマス

(ア) 趣 旨

ケーキ作りを通して、親子や友達とふれあい、充実した休業日を送ることができるようにする。

(イ) 期日・対象・参加人数

- a 第1回 平成14年12月7日(土) 日帰り
- 第2回 平成14年12月8日(日) 日帰り
- b 小・中学生及びその親75名参加

(ウ) 活動内容

- a ケーキ（ブッシュ・ド・ノエル）づくり
- b 会食（クリスマスメニュー）

5 青少年自然体験活動推進事業（ハートウォーム・プラン）

『チャレンジ生き生き親子のつどい』

(1) 目的

不登校（いじめ・怠学・遊び型を含む）で屋内に引きこもりがちな青少年を対象に、自然体験活動等を通して社会性や自立心、忍耐心等の涵養を図るとともに、その保護者に対して課題解決へ向けた教育相談や交流等の機会を提供

する。

(2) 内 容

本年度は、2泊3日1回、1泊2日1回、日帰り1回の計3泊6日の事業を実施した。

その内容については、次のとおりである。

ア 出会いと新しい仲間

(ア) 趣 旨

- a 初めて出会った友達とふれあいゲームやネイチャーゲーム等を通して、仲間作りをし、これからの活動に関心を持つことができる。
- b 野外活動の経験を通し、協力してやり遂げることの大切さ、楽しさを味わい、人間関係を広げ、深めることができる。
- c 農園活動を通して、作物を大切に育てようとする心情を育てるとともに友達とやり遂げる達成感、成就感を感得し、自分自身に自信を持つことができる。

(イ) 期日・参加者数

- a 平成14年5月26日(日) 日帰り
- b 児童生徒及び保護者・兄弟姉妹 19名参加

(ウ) 活動内容

- a ふれあいゲーム
- b バイキング昼食
- c 農園活動（苗植え）
- d 子育て講話（親）
- e 教育相談（親）

イ キャンプ生活に学ぼう

(ア) 趣 旨

- a 再会した友だちとキャンプの方法・技術を学び、ともにキャンプ生活をする体験を通して、生きるための生活技術と人間関係を深めることができる。
- b 野外活動の種目を自分自身で選択し、友だちと協力してやり遂げることによって、人間関係を深めるとともに成就感を味わい、自信を持つ。

(イ) 期日・参加者数

- a 平成14年6月22日(土)～23日(日) 1泊2日
- b 児童生徒及び保護者・兄弟姉妹 19名参加

(ウ) 活動内容

- a テント設営・泊
- b 野外炊飯
- c ナイトハイク（コース選択）
- d 農園活動（作物への追肥・除草）
- e 選択活動（ピンゴOL・スコアOL・樹木観察）
- f 教育相談（親；個別面談）

ウ 新しい体験でたくましく！

(ア) 趣 旨

- a 仲間と協力し自分たちの力で野外活動や農園活動をすることにより、野外活動の喜びを味わうとともに仲間との人間関係を深めることができる。
- b 自分自身で選択した活動に進んで取り組み、やり遂げた達成感を感じ取ることを通して、自分に自信を持つことができる。
- c 思い出カードや記念品づくりを通じた活動の振り返りによって、過去から現在の自分に向き合い、自

分自身の変化を前向きに受け止めることができる。

- (イ) 期日・参加者数
平成14年 8月23日(金)～25日(日) 2泊3日
児童生徒及び保護者・兄弟姉妹 19名参加
- (ウ) 活動内容
 - a 農園作業（作物の収穫）
 - b 野外炊飯
 - (a) 火起こし体験
 - (b) 大地の恵みパーベキュー
 - c 選択活動
 - (a) カヌー体験活動
 - (b) 柳津町探検ウォーク
 - d 農作物販売活動（会津坂下町内）
 - e キャンプファイアー
 - f 記念クラフトづくり
 - g 思い出づくり（絵・作文等による）
 - h 教育相談（親；個別懇談）

6 その他の主催事業

- (1) 世代間交流事業「名月鑑賞会」
（会津坂下町中央公民館との共催事業）

ア 目的

芋名月（十三夜）にあたる当夜、望遠鏡による月面鑑賞や月に関する民話聞き等の活動を通し、科学や地域の生活文化、民俗習慣等に関する共通の体験をもち、子供からお年寄りまでが世代を越えて、文化的・情緒的交流を図る。

イ 期日・対象・参加者数

- (ア) 平成14年10月18日(金) 日帰り（午後6時～8時）
- (イ) 一般 76名参加

ウ 活動内容

- (ア) 抹茶のサービス（裏千家会津支部のボランティア）
- (イ) 月見行事の解説
- (ウ) 天体望遠鏡による月面鑑賞
- (エ) 月見団子の賞味
- (オ) 月に関する民話聞き

第19章 ふくしま海洋科学館

第1節 施設の概要

1 本館施設

- (1) 場所：いわき市小名浜字辰巳町50番地
 - (2) 施設：鉄骨・鉄筋コンクリート造
 - ア 階数：地上4階建て
 - イ 高さ：34m（展望室）
 - ウ 敷地面積：51,517.61m²（駐車場含む）
 - エ 建築面積：8,815.31m²
 - オ 延床面積：13,714.89m²
 - カ 総水量：3,990 t
- （メイン水槽 / 潮目の大水槽：2,050 t）

2 水生生物保全センター

- (1) 場所：いわき市小名浜字辰巳町47 - 1
- (2) 施設：鉄筋コンクリート、鉄骨造
 - ア 階数：地上2階建て
 - イ 建築面積：779.85m²
 - ウ 延床面積：966,37m²

3 海水取水・送水施設

- (1) 場所：いわき市小名浜下神白字松下
- (2) 施設：
 - ア ろ過送水棟：1棟180.52m²
 - イ 取水ポンプ棟：1棟90.05m²
 - ウ 取水管（管径350mm）：126.265m × 2条
 - エ 揚水管（管径250mm）：2,875.9m
 - オ 送水管（管径300mm）：146.0m

4 展示生物の収集、蓄養施設

南方系生物の現地蓄養施設

当施設の「黒潮水槽」等において展示をしている大型魚類の採集・蓄養を行うため、海上生け簀を借り上げた。

- (1) 場所：鹿児島県大島郡（奄美大島）瀬戸内町
- (2) 施設：生け簀

第2節 各種事業

1 展示事業

- (1) 常設展示
展示のメインテーマを「潮目の海～黒潮と親潮のあい～」としている。
「福島県の海」において、最も特徴的な事象である黒潮と親潮の境界「潮目」をテーマとして取り上げ、豊かな生物相を中心とした潮目の海其自然、潮目の科学、人と海とのかわり合い、そして地球環境問題まで幅広い分野を紹介した。

- (2) 企画展示
研究成果や話題性のあるテーマを設定し、総合的な展示解説を実施した。
 - (ア) 鯨あらかわ～よみがえる鯨文化～
期間：平成14年1月9日～同年5月27日
概要：人とクジラの歴史やクジラの科学など、鯨を生物学や民族学などの多角的な視点でわかりやすく展示・解説し、鯨を通して持続的な海洋資源の利用のあり方を示した。
 - (イ) 初夏の盆栽と山野草展
期間：平成14年5月22日～同月27日
概要：盆栽や山野草合わせて44点の作品を展示した。
 - (ウ) 大金魚展～金魚伝来500年記念～
期間：平成14年6月19日～同年9月30日
概要：中国から金魚が伝来して500年という節目の年を記念し、日本人にとって最も身近な観賞魚である金魚を中国金魚を含め、和風の絵画展風水槽や大堀相馬焼の容器等で展示した。
 - (エ) シーボーンアート展
期間：平成14年9月14日～同月30日
概要：海からの漂着物（海から生まれた贈り物）を利用した美術工芸物を展示することにより、自然環境の大切さを伝えた。
 - (オ) Eggs of Artist
期間：平成14年10月9日～同年12月16日
概要：「卵から育てる水族館」のコンセプトに芸術面からアプローチし、「水・風・光」をテーマとした若手芸術家15名による絵画やオブジェなどの多彩な作品を展示することにより、芸術分野の情報発信を行った。
 - (カ) 海の男達の盆栽・第参番
期間：平成14年10月30日～同年11月4日
概要：黒松、杜松（としょう）、榎柏（しんぱく）などの迫力に満ちた古木等、約40点を展示した。
 - (キ) あぶくま発見～おもしろフィールドレポート～
期間：平成15年1月11日～同年5月26日
概要：海から見た阿武隈高地に「光」をあて、あぶくまの地域から産出する化石、動植物、その中で形作られた人々の暮らしを紹介することにより、「あぶくま」の素晴らしさを紹介した。
 - (ク) 第3回キッズ絵画展
期間：平成15年3月19日～同年4月7日
概要：県内の小学1・2年生と4～6歳の未就学児を対象に、「えがこうわたしたちのすいぞくかん」をテーマとしたクラス単位での団体制作による絵画の募集を行い、205点の作品を展示した。
- (3) 飼育展示活動
 - ア 飼育困難生物の調査研究
本施設では、21世紀に相応しい特色ある施設づくりを

目指す一環として、これまでは、飼育が困難とされていた水生生物の飼育実験を行い、その研究成果を展示している。そのため、以下の調査・研究を行った。

(ア) 飼育困難生物（水族館では飼育展示が困難とされている生物）の展示を可能にするための飼育研究

(イ) 福島県下に生息している生物の調査

イ 南方系生物畜養事業

南方系魚類（黒潮水槽及びサンゴ礁水槽展示生物）を収集し、現地の海上生け簀にて畜養して定期的に搬入した。

(ア) 奄美大島：キハダ、カツオ、他

ウ 水生生物保全センター運営事業

平成14年度における当センターの主な事業内容は以下のとおりである。

(ア) サンマの繁殖

(イ) 県内希少生物の飼育繁殖研究：タナゴ類、イトヨ、メダカ、タガメ、他

(ウ) 深海性生物の飼育研究：アオメエソ（メヒカリ）、深海サメ（ツノザメ類）他

(エ) 外洋性生物の飼育研究：ツクシトビウオ、他

(オ) マングローブ植物他熱帯植物の蓄養栽培：オヒルギ、メヒルギ、ハスノハギリ他

(カ) その他：サンゴ礁生物、マングローブ生物の繁殖研究（ハスジマハゼ、ナミハゼ、カワヨウジ、スネナガエビ）、

エ 飼育生物管理事業

本館収容生物（植物を含む。）の展示・飼育管理を行った。

(ア) クラゲ類予備飼育室を設置した。

(イ) オニシャチウオ、クマガイウオ、アカオビシマハゼ、スジハゼ、エゾイソアイナメ（ドンコ）の繁殖に成功した。

(ウ) クマガイウオ、オニシャチウオ、フサギンボ、ヌマチチブ、ツクシトビウオの国内初の繁殖に成功した。

(エ) 黒潮水槽では、ギンカガミの展示を開始した。

(オ) 「熱帯アジアの水辺」では、哺乳類（デマレルーセットオオコウモリ）、鳥類（ベニスズメ）の展示を開始した。

(カ) アオメエソ（メヒカリ）の世界初の飼育に成功し、展示を行った。

(キ) 「オホーツクの海」では、ギンダラの展示を開始した。

(ク) のとじま臨海公園水族館よりラッコ雄1頭を搬入し、ペアでの飼育展示を開始した。

オ 研究交流事業

(ア) 学会及び各種研究会へ参加して先進技術情報の収集を行い、当施設の展示及び教育普及活動に反映させた。

(イ) 友好館であるアメリカ合衆国モントレール湾水族館への職員派遣事業を行った。

(ウ) 香港オーシャンパーク水族館及びパラオ国際珊瑚礁センターと友好館締結を行い、生物交換等を行った。

2 学習支援事業

ふくしま海洋科学館では、『学習支援の基本的な考え方（指針）』（平成11年3月教育委員会策定）に基づき、下記のとおり実施した。

(1) 館内解説活動事業

ア 潮目の海プリズムトーク

黒潮の大水槽に展示している生物について、100インチモニターの映像を交えて紹介した。

1日4～5回開催、15分程度

イ ガレリアワークショップ

海洋の科学・文化・資源の利用をテーマに、実験・実演を交えて解説を行った。

(ア) 「なぜ？ナニ!?鯨」

平成14年1月12日～同年6月30日

1日4回開催、15分

(イ) 「海だ、魚だ、大漁だ！」

平成14年7月1日～平成15年1月10日

1日4回開催、15分

(ウ) 「タコの秘密」

平成15年1月11日～同年3月31日

1日4回開催、15分

ウ タッチングスクール

タッチングプール内の生き物たちの分類、形態、習性等について解説し、タッチングプールでの観察や体験を通して海の生き物や環境への関心の昂揚を図った。

「ヒトデの仲間はナニ？」

1日4回、15分

「きれいなものには毒がある」

1日4回、15分

エ バックヤードツアー

水族館の裏側に来館者を案内し、水族館の仕組みや職員の飼育業務などについて紹介した。

1日3～4回開催、50分程度、定員30名

オ スポットガイド

館内各所で展示水槽内の生物の生態や形態等についての紹介を行った。

カ 給餌解説

飼育職員が生物に給餌する際に、その生物の紹介や食性、生息環境等についての解説を行った。

「北の海の海獣」：1日3回

「黒潮大水槽」：1日2回

キ 磯の工作教室

アンモナイトや三葉虫などの本物の化石から自分で型を取り、この型を使用して化石のレプリカやキーホルダーなどのオリジナルグッズ作りを行った。

参加料100円、定員30名。

(2) スクール開催事業

ア AMFスクール

参加者を公募し、海の生き物や自然の大切さなどをテーマにした各種スクールを開催した。

期 日	ス ク ー ル 名	対 象	参加人数
5 / 11	親子で磯の生き物ウォッチング	親子 小1～3	13組26名
5 / 25, 26	魚とみる夢、どんな夢?	小5～6	29名
6 / 8	密着! 飼育体験	小5～中	19名
6 / 16	自然観察会	一般 (小4以上)	28名(大人14名、こども14名)
7 / 7	海からの贈り物	一般 (小4以上)	24名(大人11名、こども13名)
7 / 24 ～26	磯の生き物ウォッチング	小4～6	88名
9 / 7, 21	親子でつり体験	親子 小4～6	24組48名
10 / 26	密着! 飼育体験	小5～中	16名
11 / 16, 23	いわきの水産業 ～旬の魚を味わおう～	小4～6	59名
12 / 26, 27, 1 / 11	水族館を楽しもう	親子 小1～3	44組88名
2 / 8	アクアマリンの生き物 たち ～水族館の舞台裏～	小4～6	27名

イ 夏休み自由研究教室

夏休みの宿題となる自由研究の進め方について5つのテーマを題材とした1時間半の教室を開催した。

参加費：200円

15回開催、延べ参加者数379名

(3) 生涯学習・学校教育との連携事業

ア 教職員セミナー

県教育事務所及び市町村教育委員会職員並びに県内の全小中学校の教員を対象に参加募集を行い、館の利用方法の説明、総合的な学習の時間を想定したデモンストラクション、バックヤード及び館内の見学を実施した。

3回開催、参加者数50名

イ 館外授業(ゲストティーチャー)の実施

学校や教育委員会からの要望に基づき、職員を派遣して講義を行った。

8回実施、対象者数321名

ウ 館内学習支援事業

県内の7つの教育事務所から各2校ずつ(相双教育事務所管内は1校)推薦を受け、当館のバスで水族館まで送迎を行うとともに館内において講義を実施した。

エ ガイダンス

学校利用団体を対象に、施設の展示概要の紹介(ビデオ)と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施

した。

39回実施、対象者数2,543名

オ 館内学習

学校利用団体を対象として、平成14年3月に発行した「ふくしま海洋科学館学習指導の手引き」に基づく、館内での講義を実施した。

71回実施、対象者数2,998名

カ 教材等の貸し出し

当館の所有するビデオ、DVD、化石、その他標本類の貸し出しを行った。

キ 移動水族館の実施

平成14年3月に福島県が制定した「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例」のPRを兼ね、猪苗代町のいなわしろ淡水魚館で移動水族館を開催した。この他南会津教育事務所管内の田島町中央公民館、県南教育事務所管内の表郷村多目的研修センターを会場に移動水族館を開催し、約30種300点の生物と剥製、化石等標本を展示するとともに、来場した学校団体に学年に応じた30分の講義を実施した。また、一般の来場者を対象に「海藻押し葉を使用したカード作り」と「カツオの解剖、料理教室」(田島町中央公民館のみ)を開催した。

実 施 箇 所	実 施 期 間	参加人数
いなわしろ淡水魚館	平成14年7月20日 ～同年9月2日	23,261名
田島町中央公民館	平成14年10月3日 ・4日	1,470名
表郷村多目的研修センター	平成14年10月24日 ～26日	1,481名

ク 環境教育事業の実施

環境教育事業「サケの戻る川をいつまでも」を実施した。

(ア) 実施目的：人工孵化・放流を経験することにより、自然環境を大切にし、環境に対して責任ある行動がとれるこどもたちを育てること。

(イ) 実施内容：サケの捕獲、採卵・受精の見学、学校に水槽を設置しての卵から稚魚までの飼育、稚魚の放流を体験させると共に講義を実施した。

(ウ) 実 施 校：サケの孵化場を持つ県内10河川に隣接する小学校

相馬市立山上小学校(宇多川流域)

鹿島町立真野小学校(真野川流域)

いわき市立川前小学校(夏井川流域)

(4) 情報提供事業

ア 情報コーナー

施設内の情報コーナー(2F)に自由に利用・閲覧できる情報検索装置、図書などを整備し、利用者の学習を支援した。

イ インターネットによる情報提供

ホームページを活用し、施設やさまざまな生物の紹介等を行った。

アクセス件数 [03 / 1 / 31現在] 746,260件

ホームページアドレス URL
<http://www.marine.fks.ed.jp>

ウ 機関誌の発行

水族館活動をはじめ、生物や海に関するさまざまな情報を掲載した機関誌を定期的に発行した。

AMF - NEWS : 年 4 回発行

3 利活用促進事業

(1) マスメディアによる広報活動

ア 新聞関係

(ア) 記者クラブ等への情報提供

企画展を始めとする各種イベント、新規生物の搬入等トピックスを資料提供した。

(イ) 広告

誘客の促進と企画展のPRを図るため県内、隣接県及び首都圏の新聞に広告を掲載した。

イ テレビ関係

県政広報番組において館内紹介をするとともに、新たに制作したCMの放送による広報宣伝を行った。

ウ 情報誌等への掲載

旅行誌、タウン情報誌等に広告を掲載し、誘客の促進を図った。

エ インターネットによる情報提供

財団ホームページを週 1 回程度更新し、新しい情報をタイムリーに提供した。

(アクセス件数 [03 / 1 / 31現在] 746,260件)

オ 情報誌の発行

館内外での活動やボランティア活動、各種の調査・研究活動等を広く紹介した。

カ 首都圏レジャー記者への情報提供

首都圏レジャー記者会及び首都圏テレビ・ラジオ記者会において企画展の開催日程等の情報を提供した。

4 海洋文化学習振興基金会計による自主事業

(1) 海洋文化推進事業の実施

平成13年度に実施したアクアマリンシンポジウムの研究成果をとりまとめ、シーラカンスプロシーディングを発行した。また、アメリカ合衆国のフロリダにおいて開催された「シーラカンスシンポジウム」に参加し、最新の研究成果などについて、情報を交換した。

(2) 「アクアマリンふくしまボランティアの会」活動の支援、促進

自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流の促進を図った。また、ボランティア活動者に対しても、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供するとともに、研修の機会を提供した。

登録者数 (平成14年 4 月 1 日現在)

全登録者240名

常時活動ボランティア : 208名 (86.7%)

随時活動ボランティア : 32名 (13.3%)

第3節 月別入館者数

平成14年度における当館の入館者状況は次のとおりである。

月	開館 日数	入館者数	個人	団体	無料
4月	27日	64,622	42,854	11,616	10,152
5月	27日	107,943	77,218	12,209	18,516
6月	26日	58,043	34,445	16,141	7,457
7月	28日	78,510	49,214	16,270	13,026
8月	31日	187,879	143,768	7,404	36,707
9月	26日	73,467	46,593	15,716	11,158
10月	26日	62,498	32,964	20,280	9,254
11月	26日	64,706	39,452	14,438	10,816
12月	25日	31,172	21,575	3,565	6,032
1月	27日	39,749	30,071	1,540	8,138
2月	24日	32,517	21,418	4,974	6,125
3月	28日	58,011	41,090	5,820	11,101
合計	321日	859,117	580,662	129,973	148,482

第4節 財団法人ふくしま海洋科学館の概要

1 財団法人の名称

財団法人ふくしま海洋科学館 (設立当初の名称「財団法人ふくしま海洋学習館」。平成12年 4 月 1 日名称変更)

2 基本財産等

(1) 基本財産の出捐及び額

本財団法人は、県の社会教育施設を管理する組織となる性格に鑑み、設立の基礎となる基本財産については、県100%出捐の法人である。

出捐額 150,000千円

(2) 海洋文化・学習事業振興基金の設置

ア 基金設置の目的

当基金は、財団法人が行う自主事業 (公益事業) の遂行を補完することを目的として設置した。

イ 基金設置の方法

基金の設置にあたっては、県からの寄附金のほか、地域に根ざした施設づくりを目指す観点から、広く住民・各種団体等から寄附を募ることとしている。

基金額 103,200千円 [03 / 03 / 31現在]

福島県 50,000千円 (平成10年度)

いわき市 50,000千円 (平成11年度)

いわき小名浜ロータリークラブ

3,000千円 (平成12年10月24日寄付)

個人の寄付 200千円 (平成14年度)

3 組 織 (平成15年3月現在)

(1) 役員、評議員

ア 役員、評議員の人数

理事10名、監事1名、評議員11名

イ 役員及び評議員の任期

任期は2年とする。(現役員任期：16年3月31日)

(2) 事務局

ア 部・課の設置

事務局に総務部、事業部を置く。総務部に総務課、施設管理課、企画経営課、運営計画担当を置き、事業部に学習交流課、環境展示課、繁殖育成課を置く。

イ 職員の人数

平成14年度の事務局体制は、館長(専務理事兼務)、副館長(常務理事兼務)を含め、正規職員数(定数)42名。

この他、臨時的な職員を別に置く。

ウ 職員の身分

	館長	副館長	総務部	事業部	計
財団職員	1		3	21	25
県派遣者		1	9	5	15
市・JTB派遣			2		2
計	1	1	14	26	42

エ 役員、評議員名簿(敬称略)

【理事長】

福島県知事	佐藤 栄佐久
-------	--------

【副理事長】

福島県教育委員会教育長	高城 俊春
-------------	-------

【理事】

いわき市長	四家 啓助
いわき商工会議所会頭	野崎 満
元日本魚類学会会長	上野 輝彌
いわき明星大学主任教授	川合 英俊
武蔵野美術大学教授	森 豪男
(株)生活構造研究所代表取締役所長	松川 淳子
(専務理事)	安部 義孝
(常務理事)	津田 直樹

【監事】

福島県出納局長	大内 忠夫
いわき経営者協会会長	鷲 佳弘

【評議員】

いわき地域学会代表顧問	里見 庫男
いわき女性の会顧問	蛭田 斗美代
FMいわきまちづくり倶楽部会長	安濃 廣美
東海大学海洋研究所教授	西 源二郎
(財)日本交通公社地域計画室長	梅川 智也
(社)磐城青年会議所前理事長	佐藤 毅
経 営 者	呑田 理美子
主 婦	永田 リセ
いわき市企画調整部長	会川 博重
福島県教育庁教育次長	富田 孝志
福島県教育庁生涯学習課長	渋谷 均

4 財団法人の事業

- 本財団法人では、設立目的を踏まえ、以下の事業を行う。
- (1) 海洋生物(その他の水族を含む)の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業
 - (2) 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究事業
 - (3) 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及に関する事業
 - (4) 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業
 - (5) 福島県が設置するふくしま海洋科学館の維持管理に関する事業
 - (6) ふくしま海洋科学館及び水族に関する広報宣伝等、利活用に関する事業
 - (7) 物品の販売等に関する事業
 - (8) その他目的を達成するために必要な事業

第20章 福島県文化センター

第1節 概要

福島県文化センターは、県民の文化振興を図るために設置されたもので、福島県文化会館及び福島県歴史資料館の2つの施設から構成されている。

この文化センターの管理運営は、県が財団法人福島県文化振興事業団に委託し、同法人はこの施設の設置目的に沿って県民の文化活動の場としてその利用に供し、利用者の便宜を図るとともに、各種の文化事業を展開し、あるいは歴史、文化関係資料の収集、整理、保管、調査研究を行うほか、埋蔵文化財の発掘調査事業を実施している。

1 業務内容

福島県文化センターを構成する施設の業務内容は、概ね次のとおりである。

(1) 文化会館

文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術の振興に関すること。
社会科学、自然科学等の学術の振興に関すること。
文化会館の施設及びその附属設備の利用に関すること。

(2) 歴史資料館

県に関する文書資料、考古資料、民俗資料、その他の歴史資料に関する調査研究及びその利用に関すること。
歴史資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助に関すること。

2 専門委員会

専門委員会委員 (平成15年3月31日現在)

氏名	現職	備考
穴沢 咏光	福島県考古学会理事	
石河 清元	元いわき短期大学教授	
大迫 徳行	福島県民俗学会会長	
菊田 宗平	福島民友新聞社編集局文化部長	
後藤 順一	NHK福島放送局放送部長	
小林 清治	福島県文化財保護審議会委員	
鈴木 完一	福島県市町村社会教育委員連絡協議会会長	
西村 榮悟	福島県美術家連盟委員長	副会長
浜津三千雄	福島民報社編集局次長	
丸井佳寿子	元福島県立医科大学教授	
湯浅 孝子	元郡山市教育委員会委員長	会長
横山 慶子	福島県洋舞連盟会長	

第2節 施設の概要

所在地	福島市春日町5番54号
敷地面積	20,654㎡
建築面積	4,959㎡
建築延面積	12,408㎡
構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造り地下1階、地上3階、塔屋1階
竣工	昭和45年7月31日

1 文化会館

地階	中央監視室、空調、電気機械室、奈落
1階	大ホール (1,943席)、小ホール (444席)、リハーサル室 (107㎡)、和室 (20畳2室)、楽屋 (4室)、浴室 (2室)、視聴覚室 (108席)、会議室 (49㎡)、事務室、収蔵庫など
2階	会議室兼展示室 (466㎡)、収納室など
3階	展示室 (505㎡×2室)、ギャラリー (366㎡)、事務室、倉庫など

2 歴史資料館

1階	展示室 (180㎡)、事務室
2階	事務室、研究室、閲覧室、文書庫 (252㎡) など
3階	文化財収蔵庫 (455㎡)、書庫 (252㎡)

第3節 事業の実施状況

平成14年度中に財団法人福島県文化振興事業団が実施した事業の概要は、次のとおりである。

1 自主事業

区分	事業名	期日及び開催場所	事業内容	入場者
舞 台 芸 術 鑑 賞	古典劇場・歌舞伎 公演	7月3日(水) 1日2回公演 県文化センター	古来より民衆の生活に溶け込み育まれた伝統芸能の中で、最も人気のある歌舞伎の絢爛豪華な舞台の醍醐味を堪能するため市川左團次一座の松竹大歌舞伎公演を実施した。	1,584名
	交響楽の夕べ	11月27日(水) 1日1回公演 県文化センター	クラシック音楽の鑑賞を通じ、より深く身近な音楽として親しんでもらうため松尾葉子指揮、津田真理のピアノによる新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会を実施した。	1,264名
	少年劇場	6月6日(木)～6月28日(金) 17日間23回公演 喜多方プラザ外15会場	児童生徒の情操涵養をねらいとして、教育課程に組み込み、学校単位の参加による生の舞台芸術鑑賞教室を、劇団仲間の児童劇「カモメに飛ぶことを教えた猫」により県内巡回公演を実施した。	14,829名
	親子劇場	7月7日(日) 1日2回公演 県文化センター大ホール	幼児童の親と子に演劇を観る楽しさと共通の話題を提供することにより、親子のふれあいを深めて家庭教育の充実をはかるために、劇団飛行船のマスクプレイ・ミュージカル「アラジンと魔法のランプ」公演を実施した。	2,558名
講 座 ・ 学 習	文化講座	文 学 毎月第3日曜日 法 学 毎月第4土曜日 東洋史 毎月第3土曜日	情報化社会といわれる今日、高度な学習意欲に応える学習講座事業として、近代文学、法学、東洋史の三講座を継続的に実施した。	(文 学) 192名 (法 学) 337名 (東洋史) 254名
	文学講演会	10月19日(土) 三春町公民館大林ホール 10月20日(日) 鹿島町公民館	文学愛好者に広く学習の場を提供するために日本古典文学会所属の東京大学大学院多田一臣教授を講師に古典文学講演会を実施した。	(三春) 140名 (鹿島) 70名
	地域史研究講座	10月19日(土)～10月20日(日) 県文化センター2階会議室	地方史研究の基礎となる資料の取り扱い方、資料の整理保存の公開について、今回は戊辰戦後の福島県の成立過程に関して究発表と講義を行った。	130名
	歴史資料研究巡回 講演	6月15日(土)～6月16日(日) 新地町農村環境改善センター	地域に根ざした一般向けの郷土史の講習会と古文書の研究方法等、専門的講習を併せ持った研究講習会を実施した。	121名
展 示 公 開	歴史資料展 「明治の古地図」 ～福島県の成立～	10月2日(水)～11月17日(日) 41日間 県歴史資料館展示室	歴史の認識と歴史資料に対する意識の啓発をねらい、戊辰戦争後から廃藩置県を経て一県に統一された福島県の成立過程を古地図により検証し、分かりやすく開設展示した。	1,342名
	発掘調査研究発表 会 ～もっと知ろう福 島の遺跡～	8月16日(木)～8月23日(木) 7日間(まほろん巡回展 含) 県文化センター小ホール 県歴史資料館展示室	埋蔵文化財に対する県民の理解を促すため、県内各所で実施した分布・発掘調査の研究成果を最新の資料をもとに公開し、発表報告会を実施した。	596名
普 及 奨 励	映画教室	夏休み期間中毎土曜日 4日4回上映 県文化センター小ホール	夏休み期間中の幼児童の健全で有意義な与暇活動を助長するため夏休み映画教室として実施した。	1,100名

区分	事業名	期日及び開催場所	事業内容	入場者
普及 奨励	古文書緊急調査事業	(調査実施町村) 会津高田町 北会津村	市町村史編纂事業や地方史研究成果として、多くの歴史資料(主に古文書)が発見されているが、これら県内に残る資料の調査、所在確認を行った。	
	地域文化振興協力事業		県内外の文化情報、資料の収集、これらの蓄積を通じ文化事業に対する情報提供の協力体制の拡充と市町村等が行う文化活動の助言指導を行った。	

2 委託事業

事業名	期日及び開催場所	事業内容	入場者
家庭劇場	(古典等公演) 9月9日(月)・10日(火)・11日(水) (3日間4回) 大信村農村環境改善センター 東村文化センター 滝根町勤労者体育センター 鮫川中学校体育館	本格的な舞台設備を有しない地域の児童・生徒に生の舞台芸術に接する機会を提供するため、県内の町村を対象にして音楽会与児童劇を巡回公演した。	(古典等公演) 1,295名
	(音楽公演) 9月24日(火)・26日(木)・27日(金) (3日間5回) 岩代町役場大ホール 大越町民体育館 矢祭中学校体育館 磐梯町民体育館 金山町民体育館	(古典等公演) 日本伝統演劇の笑い「狂言」 1. 狂言についての話 2. 「柿山伏」 3. 「附子」 4. ワークショップ「狂言の笑い」と歩き [出演] 大蔵流・山本会	(音楽公演) 2,432名 (児童劇公演) 4,253名
	(児童劇公演) 9月13日(火)～9月30日(月) (10日間10回) 広野小学校体育館 柳津中学校体育館 西郷村文化センター 熱塩加納村体育館 桑折町勤労者体育センター 霊山町民体育館 飯野小学校体育館 葛尾中学校体育館 山都第一小学校体育館 玉川村公民館	(児童劇公演) ミュージカル「とべないホテル」 [出演] 劇団ポブラ	合計 7,980名

3 文化情報の提供

県民それぞれが、それぞれの価値観に基づいて主体的に文化活動に参加し豊かな人生を楽しむことができるよう、文化情報誌の発行と、インターネット・ホームページによる文化情報の提供事業を実施している。

(1) 情報誌「文化福島」の発行

昭和45年5月に『文化センター月報』として創刊された。体裁はB5判、横組み6ページ。隔月刊でスタートし、47年5月号から月刊となった。52年4月号から誌名を『文化福島』と改称、現行の体裁(B5判・20ページ)となったのは59年4月号(通巻148号)からだった。平成9年4月

号より部数を500部増の3,500部発行とし、創刊30周年を迎えた平成12年9月に通巻345号、同15年3月には373号に達した。

一貫して掲げる編集方針は、「組織の広報をするだけでなく、本県の歴史と文化を総合的に考えるための誌面づくり」である。そのため、寄稿者を各界各層に幅広く求める一方、職員自らが活動の現場に足を運び取材・執筆した記事を掲載している。

平成13年度の機構改革により、事業団は事務局と文化センター・歴史資料館・文化財センター白河館(愛称・まほろん)に遺跡調査部を加えた1局3館1部で構成することとなった。本誌は、これら構成施設の活動を広く県民に広

報するとともに、地域に根ざしたさまざまな文化活動に目を向け紹介することを二本の柱として今後も編集することとしている。

編集方針：本県の歴史と文化に関する話題と情報を幅広く収集し、広く県民に提供する。

発行部数：3,500部

内 容：各地・各分野で活躍している本県ゆかりの文化人への依頼記事＝「随想」「地域文化を考える」「ふくしまの野鳥」「ふくしまの原像」「文化活動の現場から」など。

取材記事：地道な活動を展開している個人と団体に焦点を合わせた＝「今月の人」「トピック」など。

情報提供：県内の文化イベントの紹介＝「文化情報」「文化日誌」「情報アラカルト」など。

配 布 先：県内市町村・教育委員会・小中高校・大学・文化施設・文化団体・報道機関、文化庁・国会国立図書館など県外の主要な文化機関・団体など。

送料負担の個人の希望者にも対応している。

(2) インターネットによる情報提供

平成13年7月からインターネットによる情報発信サービスを開始した。このことにより、ホームページにアクセスすれば、いつでもどこからでも事業団の事業と活動情報が瞬時にして入手出来るようになった。

また、ホームページには『文化福島』で好評を得ている県内の文化イベント情報をさらに充実させて掲載した。従来、誌面の制約から入手した情報の一部しか紹介できなかったが、インターネットの利用により紹介件数が飛躍的に増大した。「音楽」「展示」「演劇・舞台」「講演・講座」「自主上映」「募集」「その他」のジャンルごとに常時300件前後を掲載している。また、これらの情報にはなによりも新鮮さを要求されていることから、各種文化団体や文化施設と連絡を密かにし、情報をいち早く入手して毎週2回の内容更新を実施している。

4 埋蔵文化財調査事業

(1) 分布調査事業

事業名	事業内容	事業場所	調査期間	調査面積	事業成果
福島県内 遺跡分布調査	常磐自動車道遺跡分布調査	富岡町	4/15～4/26	5,200㎡	試掘調査 2遺跡
		大熊町	5/7～9/19	70,200㎡	試掘調査 6遺跡
		双葉町	7/3～7/31	34,000㎡	試掘調査 6遺跡
		浪江町	11/11～11/29	72,600㎡	試掘調査 4遺跡
		相馬市	9/24～11/1	35,200㎡	試掘調査 4遺跡
	高規格道路(あぶくま南道路)遺跡分布調査	平田村	4/15～4/25	3,900㎡	試掘調査 3遺跡
	高規格道路(会津縦貫北道路)遺跡分布調査	塩川町	11/1～11/13	5,900㎡	試掘調査 1遺跡
		湯川村	11/11～11/22	14,600㎡	試掘調査 2遺跡
	阿武隈東道路遺跡分布調査	相馬市	2/27～2/28	60ha	表面調査 1箇所
	こまちダム遺跡分布調査	小野町	5/13～12/13	34,760㎡	試掘調査 11遺跡
	一般国道6号相馬バイパス遺跡分布調査	新地町	5/21～11/22	6,250㎡	試掘調査 1遺跡
	一般国道289号南倉沢バイパス遺跡分布調査	下郷町	9/19～10/18	28,300㎡	試掘調査 1遺跡
		下郷町	9/2	5ha	表面調査 1箇所
	県営かんがい排水事業相馬第二地区遺跡分布調査	相馬市	6/10～6/14	1,000㎡	試掘調査 1遺跡
新地町		11/25～12/6	2,100㎡	試掘調査 1遺跡	

(2) 発掘調査事業

事業名	遺跡名	所在地	主な検出遺構と出土遺物	調査期間	調査面積(m ²)
常磐自動車道 遺跡発掘調査	後作 A	富岡町	土坑6 遺物包含層1 縄文土器 石器	4 / 23 ~ 6 / 1	2,500
	上平 A	大熊町	竪穴住居跡17 土坑24 集石遺構2 焼 土遺構1 木炭窯跡1 竪穴状遺構3 縄文土器 石器	7 / 29 ~ 12 / 24	3,300
	道平	大熊町	土坑4 遺物包含層1 縄文土器 弥生土器 土師器 石器	9 / 2 ~ 12 / 4	2,400
会津縦貫北道路 遺跡発掘調査	荒屋敷	塩川町	竪穴状遺構2 掘立柱建物跡7 柱列2 土坑18 溝跡24 ビット群2 不明遺構2 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石器	7 / 1 ~ 10 / 31	2,100
こまちダム 遺跡発掘調査	沢目木	小野町	竪穴状遺構4 掘立柱建物跡2 土坑2 遺物包含層2 縄文土器 弥生土器 石器	5 / 26 ~ 7 / 12	1,600
	西田 H	小野町	竪穴住居跡17 掘立柱建物跡8 土坑27 屋外焼土遺構6 土器埋設遺構2 ビッ ト20 遺物包含層1 縄文土器 土師器 石器 石製品 土製品	6 / 26 ~ 12 / 20	2,700
あぶくま南道路 遺跡発掘調査	仁井殿	小野町	竪穴住居跡2 土坑11 縄文土器 土師器 石器	4 / 9 ~ 5 / 31	3,000
	中根館	平田村	土壘13 平場状遺構12 土坑26 屋外焼 土遺構12 集石遺構1 道跡1 縄文土器 土師器 須恵器 陶器 金属 製品 石器	5 / 7 ~ 11 / 8	21,100
県営かんがい排水 事業相馬第二地区・ 広域農道相馬2期 地区遺跡発掘調査	宿仙木 A	相馬市	竪穴住居跡1 土坑14 縄文土器 土師器 須恵器 陶器 石器	5 / 20 ~ 8 / 2	1,004
一般国道6号 相馬バイパス 遺跡発掘調査	山中 B	新地町	鹹水槽11 溝跡5 土坑4 柱列跡1 掘立柱建物跡1 建物跡1 木製品 陶器	7 / 22 ~ 12 / 20 1 / 14 ~ 3 / 7	2,000
一般国道289号 南倉沢バイパス 遺跡発掘調査	南倉沢	下郷町	竪穴住居跡2 土坑5 土器埋設遺構1 性格不明遺構1 遺物包含層1 縄文土器 土師器 須恵器 石器 金属製品	4 / 22 ~ 8 / 2	3,100
	稲干場	下郷町	土坑10 配石遺構1 遺物包含層1 縄文土器 石器	5 / 13 ~ 9 / 6	6,700
阿武隈川右岸築堤 遺跡発掘調査	高木 北ノ脇	本宮町	(資料整理)	4 / 1 ~ 3 / 31	

第4節 施設の利用状況

平成14年度における県文化センターの利用状況は、次のとおりである。

1 文化会館

施設名 区分	大ホール		小ホール		視聴覚室		1F会議室		2F会議室 兼展示室		3F展示室		3Fギャラリー		合計	
	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数	回数 日数	入場者数
年間合計	114		121		26		47		66		23		4		401	
	168	139,789	181	33,099	71	751	85	691	152	13,554	187	60,488	30	2,953	874	251,325
稼働日数	164		173		71		84		151		187		30			
稼働率(%)	64		59		23		28		50		61		10			

開館日数	305
------	-----

(備考)

- ・自主事業の分も含む。
- ・同一行事で1日数回公演しても1回とした。
- ・大会に伴う分科会などで、一つの催しに複数施設を使用した場合の人数は、主となる施設に計上した。
- ・美術展で2F、3F、ギャラリーを併用した場合の入場者数は3F展示室に計上した。
- ・日数は延日数で表す。たとえば、1日に別な催物が2件あった場合は2日にした。
- ・準備、リハーサルは公演日(本番)とは別の日に使用したもので、今年度より利用者とみなし、入場者数も計上した。
- ・開館日数は休館日及び工事などの使用不可能日を除いたものとした。
- ・稼働率は稼働日数÷開館日数×(100%)で表す。

2 歴史資料館

(1) 利用状況

種別	利用件数	同冊(点)数	内容
閲覧利用	959	6,268	会社員、公務員、研究者
特別貸出利用	39	2,940	博物館、資料館、市町村史関係
施設利用	12	-	市町村史関係、研究会

(2) 資料収蔵状況

種別	搬入	搬出	合(累計)計	内容
文書資料	1,139	598	186,528	県・市町村及び諸家寄託文書
文献	2,866	0	35,887	寄贈、購入等文献

第5節 財団法人福島県文化振興事業団

1 財団法人の名称

財団法人福島県文化振興事業団

2 事業団の目的

芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、保存、活用等を図り、もって県民の教育、学術及び文化の振興に寄与する。

3 事業団の事業

文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術文化事業

文書、考古、民俗等の歴史資料の収集、研究、整理保管及び研修に関する事業

埋蔵文化財の調査、研究、整理及び保存等の事業

文化財保護の教育普及並びに文化財の展示、保管及び研修に関する事業

委託を受けた文化センター及び文化財センター白河館の管理運営

物品販売等に関する事業

その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 組織 (平成15年3月31日現在)

(1) 役員、評議員

理事12名及び監事2名、評議員12名

(2) 専門委員会

文化振興事業団の運営に関し、理事長の諮問機関として設置されている。委員は12名で、事業の企画及び実施について理事長の諮問に応じ審議している

(3) 組織体制

- ・事務局 (総務課、文化情報室)
- ・文化センター (企画業務課)
- ・歴史資料館 (歴史資料課)
- ・文化財センター白河館 (総務管理課、研修課、教育普及課)
- ・遺跡調査部 (遺跡調査課)

の1局3館1部体制となっており、職員は県派遣者を含め85名となっている。

役員名簿 (平成15年3月31日現在)

職	氏名	現職	備考
理事長	佐藤栄佐久	福島県知事	
副理事長	杉原 陸夫	福島県文化センター館長	
〃	藤本 強	國學院大学教授 東京大学名誉教授 福島県文化財センター白河館長	
常務理事	遠藤 剛	福島県歴史資料館長	
理事	瀬戸 孝則	福島市長	
〃	成井 英夫	白河市長	
〃	宮森 泰弘	福島県教育委員会委員長	
〃	室井 勝	福島県総務部長	
〃	村川 久子	会津大学教授	
〃	平田 公子	福島大学教授	
〃	山口 哲子	宇都宮文星短期大学教授	
〃	井上 浩	福島県文化振興事業団事務局長	
監事	大内 忠夫	福島県出納局長	
〃	芳賀 裕	福島県司法書士会会長	

評議員名簿 (平成15年3月31日現在)

氏名	現職	備考
岩谷 敬恒	福島県町村教育長協議会長	
大川原公年	福島県文書学事課長	
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部助教授	
新城 基行	末広酒造代表取締役社長	
菅野 壽子	岩代町おはなしたんぼ代表	
宗田利八郎	倉美館 (棚倉町文化センター) 運営協会監事	
新妻 香織	文筆家	
板東 尚武	美術館「現代グラフィックアートセンター」副館長	
藤本 聖子	郡山テクノデザイン専門学校講師	
馬目 順一	いわき市教育委員会委員	
村瀬 久子	福島県教育次長	
森 絵留	劇団「かもめ」主宰	

第21章 福島県文化財センター白河館

第1節 白河館の運営状況

1 利用者数

(平成15年3月31日現在)

	入館者数(人)	ホームページ・データアクセス件数(件)
4月	2,856	4,200
5月	3,967	5,233
6月	3,773	4,370
7月	3,455	5,204
8月	5,045	5,605
9月	3,729	4,829
10月	3,661	4,829
11月	2,867	3,842
12月	1,630	3,623
1月	702	3,805
2月	1,050	3,433
3月	1,712	3,777
計	34,447	52,750

2 利用者の内訳と傾向

1日平均来館者数 4月：114人、5月：147人、6月：145人、7月：133人、8月：187人、9月：149人、10月：136人、11月：110人、12月：71人、1月：31人、2月：46人、3月：66人

地域別利用状況 県内者85%（うち白河市23%）
県外者15%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒（高校生以下）が42%、団体入館者が39%を占める。いずれも、前年度に比して10%以上の増である。

3 団体利用者の内訳と傾向

(単位：人) (平成15年3月31日現在)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園・保育園	団体数			1	2		1	1						5
	入館者数			71	96		78	50						295
小学校	団体数	7	13	12	5		10	12	7	11		1		78
	入館者数	424	555	729	230		527	706	332	617		19		4,139
中学校	団体数	2	1	1	3	3	1	4	1			1		17
	入館者数	160	66	10	196	214	55	194	41			87		1,023
高等学校	団体数							2						2
	入館者数							70						70
養護学校	団体数		1	1	1			1	1			2		7
	入館者数		89	10	38			30	9			34		210
大学	団体数				1		1		2					4
	入館者数				25		40		57					122
小中高PTA (保護者のみ)	団体数		1	2	2	2	3	7	3		1			21
	入館者数		27	44	68	54	69	140	67		17			486
小中高PTA (保護者と児童生徒)	団体数			2	2	2	4	3	2	1				16
	入館者数			242	63	113	231	186	120	64				1,019

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研 究 会	団体数	1		4		2	1	1						9
	入館者数	50		80		10	14	21						175
子 ども 会	団体数	1		2	9	1			1	1			1	16
	入館者数	37		94	290	36			26	14			37	534
公 民 館 等	団体数	2	6	8	5	9	10	9	5	2	1	1		58
	入館者数	48	234	422	170	293	446	294	102	63	16	45		2,133
福 祉 施 設 ・ デイケアサービス	団体数	1	5	1	1	1	2		5					16
	入館者数	18	91	23	16	15	47		79					289
資 料 館 等	団体数		2	4	1	1		2	1					11
	入館者数		26	108	12	8		54	3					211
歴 史 研 究 団 体	団体数		1	2	2		1		1				1	8
	入館者数		42	150	49		18		21				60	340
県・市町村・ 教委・審議会等	団体数	1	5	1	5	1	5	5	2	3	1	1	3	33
	入館者数	24	84	50	85	30	118	64	73	58	16	8	40	650
そ の 他	団体数	4	2	5	6	2	2	14	24	2	1	4	4	70
	入館者数	120	33	171	198	40	76	347	470	47	13	56	96	1,667
計	団体数	19	37	46	45	24	41	61	55	20	4	10	9	371
	入館者数	881	1,247	2,204	1,536	813	1,719	2,156	1,400	863	62	249	233	13,363
総入館者に占める 団体入館者の割合(%)		31	31	58	44	16	46	59	49	53	9	24	14	39

4 情報発信事業の利用者

・アクセス件数 52,806件 (平成15年3月31日現在)
(文化財データベース249,000件、文化財情報提供システム389件をインターネット上で公開し、白河館のイベント情報等もホームページで紹介している。)

5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品約3万9千箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理。

写真掲載・転載の申し込み44件、出土品借受の申し込み9件。収蔵庫保管品の館内閲覧23件。

6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

区 分	研 修 対 象 者	研 修 内 容
入 門 研 修	埋蔵文化財の調査・ 整理経験が少ない市 町村職員等	比較的簡易な遺構・ 遺物の調査と整理を 行うための技術と知 識を学ぶ
基 礎 研 修	入門研修を終了し たかこれに準じる者 で、埋蔵文化財調査 報告書を主体となっ て作成したことがな い市町村職員等	複雑な遺構・遺物 の調査と整理を行う ための技術と知識を 学ぶ
専 門 研 修	基礎研修を終了し たかこれに準じる者 で、埋蔵文化財調査 報告書作成の実績も 十分に有する市町村 職員等	調査の機会が少な い遺構・遺物の調査 と整理をとおり、種々 の文化財に対応出来 る応用力を養成する
特 別 研 修	教職員・市町村職員 等	上記以外の研修 (教職員を主な対象 とする発掘調査研修、 市町村職員等の要望 に応じて随時実施す る研修、無形の文化 財に関する研修など)

平成14年度研修実施状況 (平成15年3月31日現在)

研修種別	開催日時	参加者数
入門研修「資料整理研修」	4月23日～26日	参加者4名
入門研修「測量研修」	5月15日～16日	参加者1名
基礎研修「石器実測研修」	5月28日～31日	参加者2名
入門研修「土坑調査研修」	保原町 6月11日～14日	参加者6名
専門研修「縄文土器実測研修」	6月25日～28日	参加者1名
入門研修「入門考古学講座」	7月6日	参加者8名
基礎研修「掘立柱建物跡調査研修」	塩川町 7月9日～12日	参加者8名
特別研修「体験学習研修」	7月23日～26日	参加者9名
特別研修「教職員発掘調査研修」	会津高田町 8月7日～9日	参加者15名
専門研修「史跡整備のための研修」	白河市 8月27日～29日	参加者3名
入門研修「埋蔵文化財事務研修」	9月11日～12日	参加者2名
基礎研修「試掘調査研修」	白河市 10月8日～11日	参加者1名
専門研修「専門考古学講座」	10月12日	参加者13名
専門研修「特殊遺構調査研修」	船引町 10月22日～25日	参加者2名
専門研修「官衙遺跡研究研修」	11月12日～15日	参加者13名
基礎研修「古墳墳丘調査研修」	郡山市 11月26日～29日	参加者3名
入門研修「入門考古学講座」	12月7日	参加者9名
専門研修「時代別研修(中近世)」	12月11日～12日	参加者5名
入門研修「土器実測研修」	1月15日～17日	参加者4名
特別研修「無形の文化財研修」	1月29日～31日	参加者9名
基礎研修「保存処理研修」	2月4日～7日	参加者2名
専門研修「専門考古学講座」	2月15日	参加者22名
基礎研修「報告書作成研修」	2月19日～20日	参加者3名
入門研修「表面調査研修」	3月4日～7日	参加者1名
特別研修「臨時館内研修」	土器実測・写真撮影など 合計25回、34日	参加者27名
特別研修「職員派遣研修」	矢祭町ほか 合計20回、39日	参加者45名

7 体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代竪穴住居、前方後円墳、奈良時代竪穴住居、奈良時代高床式倉庫、平安時代製鉄炉、中世館を復元展示しているが、これを利用して古代の生活の体験活動ができるようにしている。

(1) 常時体験型メニュー

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体に体験学習を希望する場合を対象とするものを用意。火おこし、勾玉づくり、アン

ギン編みなど。

体験活動室の利用状況 (平成15年3月31日現在)

月	来館者数(人)	体験者数(人)	率(%)
4月	2,856	871	30.5
5月	3,967	1,201	30.3
6月	3,773	1,636	43.4
7月	3,455	1,551	44.9
8月	5,045	1,667	33.0
9月	3,729	1,780	47.7
10月	3,661	1,278	34.9
11月	2,867	960	33.5
12月	1,630	1,213	74.4
1月	702	391	55.7
2月	1,050	400	38.1
3月	1,712	538	31.4
計	34,447	13,486	39.1

(2) 募集型体験メニュー

事前に参加者を募集して土器づくり・縄文楽器づくり・古代機織りなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間6回(のべ9日)実施する「まほろん探検隊」など。

・まほろん探検隊

第1回「縄文土器づくり小」	5月11日～12日	参加者17名
第2回「縄文土器づくり大」	6月8日～9日	参加者17名
第3回「縄文土器の野焼き」	7月13日	参加者16名
第4回「石器づくり1」	8月10日	参加者17名
第5回「石器づくり2」	9月14日	参加者15名
第6回「縄文料理とお泊まり会」	10月5日～6日	参加者15名

・実技講座

「縄文土器づくり1」	4月20日	参加者23名
「縄文土器の野焼き」	5月25日	参加者30名
「投槍具づくり」	6月15日	参加者22名
「石器づくり」	7月20日	参加者17名
「ガラス玉づくり」	8月17日	参加者20名
「縄文土器づくり2」	9月21日	参加者30名
「土師器づくり」	10月19日	参加者7名
「縄文土器・土師器の野焼き」	11月9日	参加者40名
「原始機織り」	11月16日	参加者25名
「凧づくり」	12月21日	参加者32名
「土偶・土面づくり」	1月18日	参加者25名
「土偶・土面の野焼き」	2月15日	参加者35名
「竹笛づくり」	3月15日	参加者21名

(3) まほろんイベント

「昔話を聞こう」	5月5日	参加者100名
「発掘体験ツアー」	8月31日	参加者26名

- 「古代グルメ祭」 10月13日 参加者 20名
「餅つき大会」 11月23日 参加者 21名
- (4) 「おでかけまほろん」
文化財センター白河館の職員が、土器や体験学習器材を携えて、学校や公民館などの教育機関に伺い、体験学習の支援をしたり、先生方と連携して授業を進めたりするプログラム。平成14年度は7校で実施。
(平成14年度実績：喜多方市立慶徳小学校、福島市立佐原小学校、南郷村立南郷第一小学校、いわき市立大野第一小学校、郡山市立中野小学校、三春町立要田小学校、都路村立都路第二中学校)
- (5) 講座・講演会
館長の講演会、白河館の職員が講師となる「まほろん文化財講座」、特別展の開催にあわせたワークショップなどを開催した。
- ・館長講演会
 - 第1回「採る、狩る、漁る暮らし」 4月27日 参加者54名
 - 第2回「コメ作りからクニへ」 5月18日 参加者40名
 - 第3回「いろいろな社会の展開」 6月22日 参加者25名
 - 第4回「狩と採集の暮らし」 9月28日 参加者35名
 - 第5回「農耕と牧畜の生活」 10月26日 参加者30名
 - 第6回「都市の誕生、それから国へ」 11月23日 参加者30名
 - ・まほろん文化財講座
 - 第1回「旧石器時代のおはなし」 7月27日 参加者40名
 - 第2回「中・近世のおはなし」 1月25日 参加者25名
 - 第3回「木製品のおはなし」 2月22日 参加者20名
 - 第4回「弥生時代のおはなし」 3月15日 参加者18名
 - ・ワークショップ
 - 「象嵌ってなんだ？」 8月24日 参加者30名
- (6) その他
- ・横笛づくり体験講座と復元横笛による演奏会
 - 体験講座「江平の横笛をつくろう」 6月23日 参加者 20名
 - 古代の横笛演奏会 6月23日 参加者150名
 - ・開館1周年記念イベント（ボランティア自主事業）
 - まほろん1周年だよ！ボランティア2002 7月21日 参加者600名

8 常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。

常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「話題の遺跡」、「みんなの研究ひろば」、「しらかわ歴史名場面」については年間数回程度の展示替えを行う予定である。

- めぐみの森（導入部）
- 暮らしのうつりかわり
- 暮らしをささえた道具たち
- 遺跡を掘る

話題の遺跡（最新の話題になった遺跡の発掘調査成果等を紹介する）

みんなの研究ひろば（体験学習などを通して得られた成果や、児童、生徒、一般研究家の研究成果等の発表の場として活用する）

ふくしまの文化財
のぞいてみよう福島の遺産

しらかわ歴史名場面（古代白河軍団の復元兵士や関和久官衙遺跡関係資料などにより、白河地方の歴史のこまを展示する）

クイズふくしま歴史発見

9 企画展事業

特別展示室では、速報展・特別展・指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。また、前年度収蔵資料展を県内の博物館・資料館に移動展示する巡回展を開催した。

(1) 企画展

- ・速報展「いにしへの隈畔人のくらし」 4月27日～5月26日
- ・特別展「弘法山のよこあな」 7月27日～9月1日
- ・指定文化財展「ふくしまの重要文化財 - 考古資料：縄文・弥生時代編」 10月26日～11月24日
- ・収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之二 石背郡」 3月8日～5月18日
- ・巡回展「新編陸奥国風土記 巻之一 白河郡」
 - 野馬追の里原町市博物館 4月21日～6月30日
 - 福島県歴史資料館 8月3日～8月18日

(2) 特別展ワークショップ

- ・「象嵌ってなんだ？」(再掲) 8月24日 参加者30名

(3) 復元製作研究委託

「まほろん」では、出土した埋蔵文化財を分かりやすく展示するため、出土資料と復元資料とを並列して展示する手法を採用している（「復元資料並列展示」）。これは、「まほろん」独自の展示手法として、館の目玉となっている。この成果を企画展に活かしたのちに、常設展の内容の充実化を図っていく考えである。

- ・平成11年度 古墳時代の馬具等の復元製作
- ・平成12～13年度 古墳時代の銅鏡と奈良時代の「弩」の復元製作
- ・平成13年度 古墳時代象嵌資料の研究復元製作（矢吹町弘法山古墳群出土直刀等）

10 ボランティア運営事業

(1) 「まほろんボランティア」活動内容

- ・屋内・野外展示施設の案内・解説補助
- ・屋内・野外の体験学習活動の補助
- ・プロムナードギャラリー、閲覧・相談コーナー、体験学習館等の案内・解説補助
- ・講座・講演会等開催時の業務支援
- ・野外および施設内の植生管理など環境整備の支援

(2) ボランティアの登録から活動まで

- 登録前オリエンテーション 登録（ボランティア登録証明書発行）
- 研修（修了証発行）
- 活動

(3) ボランティア受け入れ態勢

白河館のボランティア活動については、交通費や昼食などを支給しない無償ボランティアを原則としている。

白河館では、体験学習館にボランティアルームを設置し、ボランティア活動実施中の事故等を補償するボランティア保険掛け金、ボランティア用ユニフォーム、休憩室用お茶代、ボランティア研修費用等を負担している。

(4) ボランティアコーディネーターの設置

白河館各課のボランティア担当者の代表1名をボランティアコーディネーターとし、ボランティアの方の窓口としている。ボランティアコーディネーターは、ボランティアの方のスケジュール・活動場所等の調整を行うほか、ボランティアの方の意見・ニーズの集約などを行っている。

(5) ボランティア研修

ボランティア活動の充実のために、ボランティアを対象とした研修を実施している。

研修名	期 日	氏 名 ・ 所 属
木 製 品 調 査 課 程	12月3日～ 12月11日	遠藤千映美 (財)福島県文化振興事業団
報 告 書 作 成 課 程	1月15日～ 1月24日	石井 洋光 白 河 市 教 育 委 員 会
陶 磁 器 調 査 課 程	2月20日～ 2月26日	笠井 崇吉 (財)福島県文化振興事業団
		富田 真衛 (財)福 島 市 振 興 公 社

教 育 年 報

発 行 平成15年10月31日
編集発行 福 島 県 教 育 委 員 会
福 島 市 杉 妻 町 2 - 16
TEL (024) 521 - 1111
印 刷 所 (有) 吾 妻 印 刷
福 島 市 西 中 央 四 丁 目 25
TEL (024) 534 - 0342
